熊本城調査研究センター報告書　第２集

熊本城跡発掘調査報告書２

－本丸御殿の調査－
第２分冊

２０１６

熊本市熊本城調査研究センター

熊本城調査研究センター報告書　第２集

熊本城跡発掘調査報告書２

－本丸御殿の調査－
第２分冊

２０１６

熊本市熊本城調査研究センター

目 次

本文

第１章　序説

１．調査にいたる経緯…… 1

２．調査組織…… 1

３．調査の経過…… 2

第２章　位置と環境

１．地理的環境…… 6

２．歴史的環境……10

３．文献資料にみる熊本城跡本丸御殿……17

４．本丸の曲輪と石垣……45

第３章　調査の方法

１．調査の方法……66

２．グリッドの設定……66

３．基本層序……70

第４章　調査の成果１　遺構……71

第１分冊

第５章　調査の成果２　遺物

１．瓦…… 1

２．陶磁器類……97

３．建築金物・調度金物・その他 ……181

４．近世武器 ……182

５．近代武器・軍用品 ……239

６．有機質製品 ……264

７．ガラス製品（容器） ……267

８．板（窓）ガラス ……274

９．石製品 ……279

10．中世石造物 ……294

11．動物遺存体 ……296

12．銭貨 ……297

第６章　まとめ

１．遺構 ……340

２．遺物 ……343

３．本丸御殿の建築史的評価 ……368

第２分冊（本書）

付編

１．熊本城跡（飯田丸・本丸御殿）出土動物依存体の分析…… 1

２．熊本城跡本丸御殿出土遺物の自然科学分析調査……19

３．熊本城跡本丸御殿出土布の材質調査……46

写真図版……61

報告書抄録 ……141

第３分冊

挿図目次

第191図　瓦部位名称模式図 …… 1
第192図　軒丸瓦実測図 1 ……13
第193図　軒丸瓦実測図 2 ……14
第194図　軒丸瓦実測図 3 ……15
第195図　軒丸瓦実測図 4 ……16
第196図　軒丸瓦実測図 5 ……17
第197図　軒丸瓦実測図 6 ……18
第198図　軒平瓦実測図 1 ……19
第199図　軒平瓦実測図 2 ……20
第200図　軒平瓦実測図 3 ……21
第201図　軒平瓦実測図 4 ……22
第202図　軒平瓦実測図 5 ……23
第203図　軒平瓦実測図 6 ……24
第204図　軒平瓦実測図 7 ……25
第205図　軒平瓦実測図 8 ……26
第206図　軒平瓦実測図 9 ……27
第207図　軒平瓦実測図10 ……28
第208図　滴水瓦実測図 1 ……28
第209図　滴水瓦実測図 2 ……29
第210図　滴水瓦実測図 3 ……30
第211図　滴水瓦実測図 4 ……31
第212図　滴水瓦実測図 5 ……32
第213図　鬼瓦実測図 1 ……32
第214図　鬼瓦実測図 2 ……33
第215図　鬼瓦実測図 3 ……34
第216図　鬼瓦実測図 4 ……35
第217図　鬼瓦実測図 5 ……36
第218図　鬼瓦実測図 6 ……37
第219図　鬼瓦実測図 7 ……38
第220図　鬼瓦実測図 8 ……39
第221図　隅木鬼瓦実測図 ……40
第222図　隅木蓋瓦実測図 ……41
第223図　留蓋瓦実測図 ……41
第224図　鯱瓦実測図 ……42
第225図　鳥衾瓦実測図 ……43
第226図　雁振瓦実測図 ……44
第227図　掛瓦実測図 ……45
第228図　水板瓦実測図 1 ……46
第229図　水板瓦実測図 2 ……47
第230図　板瓦実測図 1 ……48
第231図　板瓦実測図 2 ……49
第232図　谷平瓦実測図 1 ……50
第233図　谷平瓦実測図 2 ……51
第234図　谷平瓦・板塀瓦実測図 ……52
第235図　桔梗紋板瓦実測図 ……53
第236図　飾瓦実測図 1 ……53
第237図　飾瓦実測図 2 ……54
第238図　飾瓦実測図 3 ……55
第239図　出土瓦刻印拓本 1 ……80
第240図　出土瓦刻印拓本 2 ……81
第241図　出土瓦刻印拓本 3 ……82
第242図　出土瓦刻印拓本 4 ……83
第243図　出土瓦刻印拓本 5 ……84
第244図　出土瓦刻印拓本 6 ……85
第245図　出土瓦刻印拓本 7 ……86
第246図　出土瓦刻印拓本 8 ……87
第247図　出土瓦刻印拓本 9 ……88
第248図　出土瓦刻印拓本10 ……89
第249図　年号入刻印瓦出土分布図 ……90
第250図　建物別出土瓦刻印（人名） ……96
第251図　大広間出土陶磁器類実測図 1 ……104
第252図　大広間出土陶磁器類実測図 2 ……105
第253図　大広間出土陶磁器類実測図 3 ……106
第254図　大広間出土陶磁器類実測図 4 ……107
第255図　大広間出土陶磁器類実測図 5 ……108
第256図　大広間出土陶磁器類実測図 6 ……109
第257図　大広間出土陶磁器類実測図 7 ……110
第258図　大広間出土陶磁器類実測図 8 ……111
第259図　大広間出土陶磁器類実測図 9 ……112
第260図　大広間出土陶磁器類実測図10……113
第261図　大広間出土陶磁器類実測図11……114
第262図　大広間出土陶磁器類実測図12……115
第263図　大御台所出土陶磁器類実測図 1 ……116
第264図　大御台所出土陶磁器類実測図 2 ……117
第265図　大御台所出土陶磁器類実測図 3 ……118
第266図　大御台所出土陶磁器類実測図 4 ……119
第267図　大御台所出土陶磁器類実測図 5 ……120
第268図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 1 …120
第269図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 2 …121
第270図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 3 …122

第271図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 4 …123
第272図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 5 …124
第273図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図 6 …125
第274図　長之間出土陶磁器類実測図 1 ……126
第275図　長之間出土陶磁器類実測図 2 ……127
第276図　長之間出土陶磁器類実測図 3 ……128
第277図　長之間出土陶磁器類実測図 4 ……129
第278図　長之間出土陶磁器類実測図 5 ……130
第279図　長之間出土陶磁器類実測図 6 ……131
第280図　長之間出土陶磁器類実測図 7 ……132
第281図　長之間出土陶磁器類実測図 8 ……133
第282図　露地出土陶磁器類実測図 1 ……134
第283図　露地出土陶磁器類実測図 2 ……135
第284図　露地出土陶磁器類実測図 3 ……136
第285図　露地出土陶磁器類実測図 4 ……137
第286図　露地出土陶磁器類実測図 5 ……138
第287図　露地出土陶磁器類実測図 6 ……139
第288図　露地出土陶磁器類実測図 7 ……140
第289図　露地出土陶磁器類実測図 8 ……141
第290図　露地出土陶磁器類実測図 9 ……142
第291図　西廊下出土陶磁器類実測図 1 ……143
第292図　西廊下出土陶磁器類実測図 2 ……144
第293図　小広間出土陶磁器類実測図 1 ……144
第294図　小広間出土陶磁器類実測図 2 ……145
第295図　小広間出土陶磁器類実測図 3 ……146
第296図　小広間出土陶磁器類実測図 4 ……147
第297図　小広間出土陶磁器類実測図 5 ……148
第298図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 1 ……148
第299図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 2 ……149
第300図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 3 ……150
第301図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 4 ……151
第302図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 5 ……152
第303図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 6 ……153
第304図　長局御櫓出土陶磁器類実測図 7 ……154
第305図　その他のトレンチ出土陶磁器類実測図 1 …154
第306図　その他のトレンチ出土陶磁器類実測図 2 …155
第307図　陶磁器の二次焼成状況写真……155
第308図　建築金物･調度金物･その他実測図 1 …184
第309図　建築金物･調度金物･その他実測図 2 …185
第310図　建築金物･調度金物･その他実測図 3 …186
第311図　建築金物･調度金物･その他実測図 4 …187
第312図　建築金物･調度金物･その他実測図 5 …188
第313図　建築金物･調度金物･その他実測図 6 …189
第314図　建築金物･調度金物･その他実測図 7 …190
第315図　建築金物･調度金物･その他実測図 8 …191
第316図　建築金物･調度金物･その他実測図 9 …192
第317図　建築金物･調度金物･その他実測図10…193
第318図　建築金物･調度金物･その他実測図11…194
第319図　建築金物･調度金物･その他実測図12…195
第320図　建築金物･調度金物･その他実測図13…196
第321図　建築金物･調度金物･その他実測図14…197
第322図　建築金物･調度金物･その他実測図15…198
第323図　建築金物･調度金物･その他実測図16…199
第324図　建築金物･調度金物･その他実測図17…200
第325図　建築金物･調度金物･その他実測図18…201
第326図　建築金物･調度金物･その他実測図19…202
第327図　建築金物･調度金物･その他実測図20…203
第328図　建築金物･調度金物･その他実測図21…204
第329図　建築金物･調度金物･その他実測図22…205
第330図　建築金物･調度金物･その他実測図23…206
第331図　建築金物･調度金物･その他実測図24…207
第332図　建築金物･調度金物･その他実測図25…208
第333図　建築金物･調度金物･その他実測図26…209
第334図　建築金物･調度金物･その他実測図27…210
第335図　建築金物･調度金物･その他実測図28…211
第336図　建築金物･調度金物･その他実測図29…212
第337図　建築金物･調度金物･その他実測図30…213
第338図　近世武器実測図 1 ……214
第339図　近世武器実測図 2 ……215
第340図　近世武器実測図 3 ……216
第341図　近世武器実測図 4 ……217
第342図　近世武器実測図 5 ……218
第343図　近世武器実測図 6 ……219
第344図　近世武器実測図 7 ……220
第345図　近世武器実測図 8 ……221
第346図　近世武器実測図 9 ……222
第347図　近世武器実測図10……223
第348図　近世武器実測図11……224
第349図　近世武器実測図12……225
第350図　近世武器実測図13……226
第351図　近世武器実測図14……227
第352図　近世武器実測図15……228

第353図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 1 …242
第354図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 2 …243
第355図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 3 …244
第356図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 4 …245
第357図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 5 …246
第358図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 6 …247
第359図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 7 …248
第360図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 8 …249
第361図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図 9 …250
第362図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図10…251
第363図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図11…252
第364図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図12…253
第365図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図13…254
第366図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図14…255
第367図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図15…256
第368図　本丸御殿出土近代武器·軍用品実測図16…257
第369図　西南戦争関連武器類出土分布図……262
第370図　遺物実測図等　有機質製品 1 ……265
第371図　遺物実測図等　有機質製品 2 ……266
第372図　ガラス製品観察属性写真……268
第373図　ガラス製品実測図 1 ……269
第374図　ガラス製品実測図 2 ……270
第375図　ガラス製品実測図 3 ……271
第376図　各グリッド板ガラス出土分布図……275
第377図　板ガラス写真……276
第378図　石製品観察属性写真……281
第379図　石製品実測図 1 ……282
第380図　石製品実測図 2 ……283
第381図　石製品実測図 3 ……284
第382図　石製品実測図 4 ……285
第383図　石製品実測図 5 ……286
第384図　石製品実測図 6 ……287
第385図　石製品実測図 7 ……288
第386図　石製品実測図 8 ……289
第387図　石製品実測図 9 ……290
第388図　石製品実測図10……291
第389図　中世石造物実測図……295
第390図　大広間出土銭貨拓影図 1 ……298
第391図　大広間出土銭貨拓影図 2 ……299
第392図　大広間出土銭貨拓影図 3 ……300
第393図　大広間出土銭貨拓影図 4 ……301
第394図　大広間出土銭貨拓影図 5 ……302
第395図　大広間出土銭貨拓影図 6 ……303
第396図　大広間出土銭貨拓影図 7 ……304
第397図　大御台所出土銭貨拓影図……304
第398図　御小姓部屋出土銭貨拓影図 1 ……304
第399図　御小姓部屋出土銭貨拓影図 2 ……305
第400図　長之間出土銭貨拓影図 1 ……305
第401図　長之間出土銭貨拓影図 2 ……306
第402図　長之間出土銭貨拓影図 3 ……307
第403図　露地出土銭貨拓影図……307
第404図　西廊下出土銭貨拓影図……308
第405図　小広間出土銭貨拓影図 1 ……308
第406図　小広間出土銭貨拓影図 2 ……309
第407図　小広間出土銭貨拓影図 3 ……310
第408図　小広間出土銭貨拓影図 4 ……311
第409図　小広間出土銭貨拓影図 5 ……312
第410図　小広間出土銭貨拓影図 6 ……313
第411図　小広間出土銭貨拓影図 7 ……314
第412図　小広間出土銭貨拓影図 8 ……315
第413図　小広間出土銭貨拓影図 9 ……316
第414図　長局御櫓出土銭貨拓影図……316
第415図　その他出土の銭貨拓影図……316
第416図　銭貨計測定部位凡例……317
第417図　御殿使用期の陶磁器類……343
第418図　同形態品における顔料の差異例……343
第419図　網田焼における釉の爛れ……345
第420図　本調査区出土の熊本県内産陶磁器…347
第421図　「烏犀圓」薬盒分類図 ……349
第422図　「烏犀圓」薬盒の内面見込み形状における二者…
……350
第423図　磁器釉下彩写真……351
第424図　ヨーロッパ産陶磁器写真……352
第425図　同一形態陶磁器（一括購入資料）…356
第426図　陶磁器類の大区画別組成グラフ……361
第427図　ローゼット出土分布図……362
第428図　焼継銘「白川町とうふや」……362
第429図　寛永通宝（一文銭）の大区画別時期組成…
……365

表目次

第６表　瓦計測表……56
第７表　軒丸瓦・軒平瓦計測表……62
第８表　年号入瓦刻印一覧表……91
第９表　出土瓦刻印個数表（人名）……93
第10表　大広間出土陶磁器類観察表 ……156
第11表　大御台所出土陶磁器類観察表 ……161
第12表　御小姓部屋出土陶磁器類観察表 ……163
第13表　長之間出土陶磁器類観察表 ……165
第14表　露地出土陶磁器類観察表 ……169
第15表　西廊下出土陶磁器類観察表 ……174
第16表　小広間出土陶磁器類観察表 ……174
第17表　長局御櫓出土陶磁器類観察表 ……177
第18表　その他のトレンチ出土陶磁器類観察表…180
第19表　建築金物・調度金物一覧表 ……229
第20表　近世武器一覧表 ……236
第21表　近代武器・軍用品分類表 ……241
第22表　近代武器・軍用品遺物観察表 ……258
第23表　近代武器・軍用品出土位置一覧表 …261
第24表　西南戦争関連武器類出土位置一覧表 …263
第25表　ガラス製品観察表 ……272
第26表　板ガラス出土位置・量集計表 ……276
第27表　石製品観察表 ……292
第28表　中世石造物観察表 ……294
第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 ……317
第30表　天保通宝観察表 ……331
第31表　近代以降の貨幣観察表 ……337
第32表　釉下彩陶磁器の絵付け顔料・技法別集計表…
……344
第33表　本報告資料と網田焼窯跡資料との属性比較表…
……346
第34表　熊本県内産陶磁器類一覧表 ……346
第35表　烏犀圓薬盒蓋属性観察表 ……349
第36表　ヨーロッパ産陶磁器一覧表 ……351
第37表　陶磁器類　器種・産地相関集計表－報告分－
……353
第38表　同一形態陶磁器（一括購入資料）集計表…
……356
第39表　城下町における陶磁器類の器種組成 …357
第40表　陶磁器類出土位置別集計表 ……358
第41表　陶磁器建具一覧表 ……362
第42表　石製品集計表 ……363
第43表　比熱資料集計表 ……366

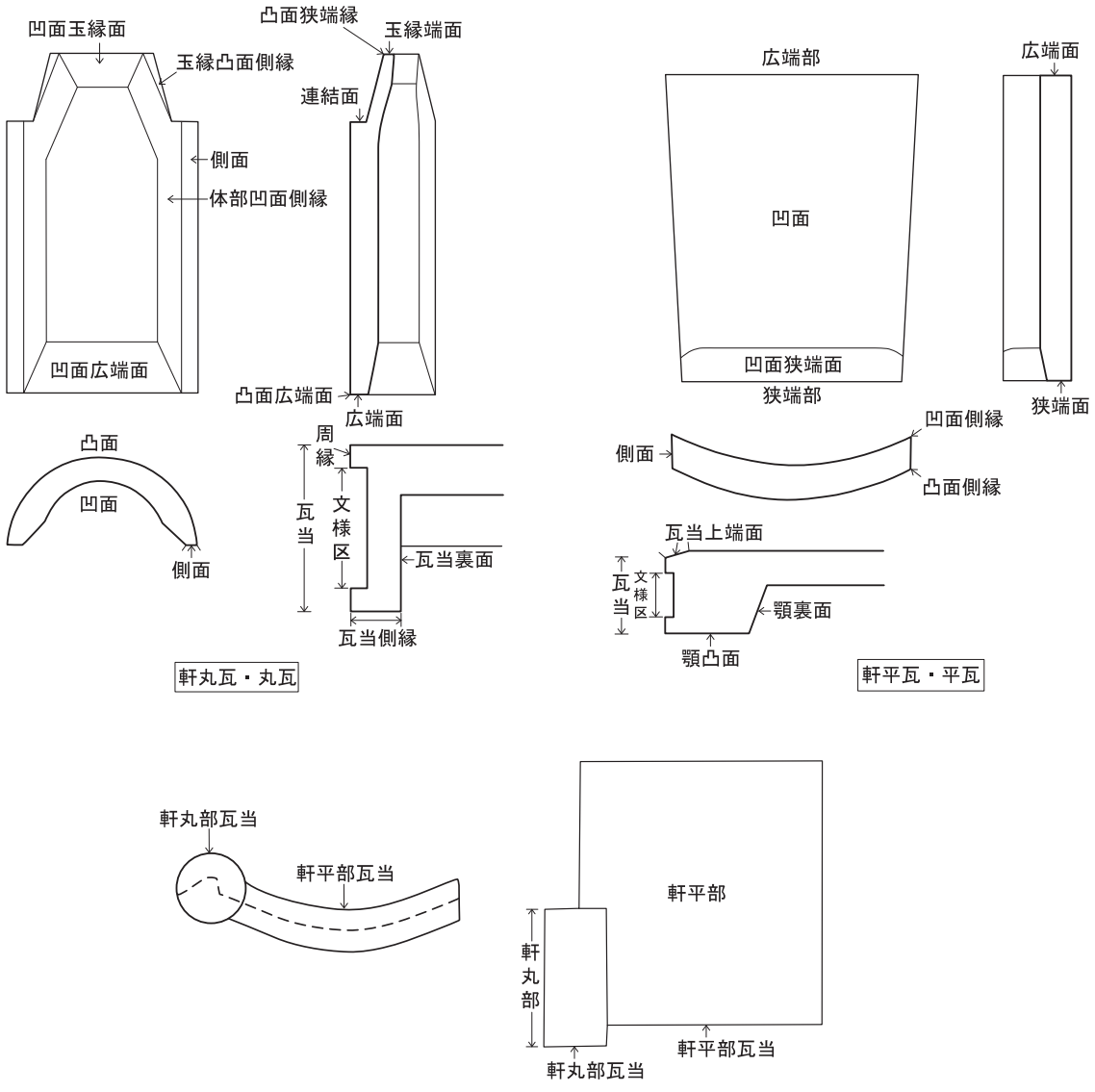
第５章　調査の成果２　遺物

１．瓦

今回の本丸御殿の発掘調査では、土嚢袋約10,000袋の瓦が出土した。出土瓦のうち、軒丸瓦・軒平瓦・滴水瓦や鬼瓦・板瓦・飾瓦等の道具瓦を抽出して報告し、その後に刻印について報告する。

今回の発掘調査対象の主体は明治10年に焼失した本丸御殿大広間・大御台所であり、焼土層（Ⅲ層）出土の瓦を中心に整理作業を行った。しかし、Ⅲ層出土瓦は焼損が激しく完形資料は少ない。よって、出土地点を重視した分析より、瓦の種類が多種であることの報告が優先と判断している。熊本城内での評価や、他城との対比、時間的位置付けについては飯田丸復元整備事業等で出土した瓦と合わせて、総括報告書で改めて分析する。

瓦の解説時に使用した部位については、第191図の模式図に示した名称で呼称する。文様については、三巴紋軒丸瓦などの固有名詞的に使用する場合は「紋」、文中で文様の記述を行う際は「文」を使用している。文様の記述は、文様（瓦当面）に向かった方向で上下左右を表現した。丸・平瓦の調整の記述で、縦とは瓦当面に直交方向、横とは瓦当面に平行方向である。ナデやケズリなどの調整についてはカタカナ表記している。



第191図　瓦部位名称模式図

⑴　軒丸瓦

瓦当文様によって分類する。発掘調査では、三巴文、日足文（李朝系）、桐文、桔梗文、釘抜文、九曜文が出土している。なお、コビキに関しては1984年の森田克行氏の「畿内における近世瓦の成立について」で示されたコビキＡ・Ｂを参考にしているが、糸切りと鉄線切りの区別が認識しにくかったため、緩弧線状のものをコビキＡ、横筋状のものをコビキＢとした。

ａ．三巴紋軒丸瓦（第192図、第193図12～18）

諸説あるが、水が渦巻く様を意匠化した文様。火災除けの意をこめて平安時代末の建物から使用されるようになる。いずれも３つの巴を円状に配した三巴文で、文様区は巴とその周りに珠文がめぐる。巴の回転方向、珠文の数、巴の頭の形状、巴の長さで分けた。計測できたものは28点で、内18点を掲載した。Ⅲ層中から一定量出土し、２次焼成を受けたものもあるため、本丸御殿で使用されていた可能性が高い。

分類は、同笵瓦の存在が指摘されている肥前名護屋城の分類案を参考にしている。分類記号については以下の通り。

Ｌ11Ａ：Ｌ・Ｒ（巴紋の尾の方向）、数字（珠文数）、Ａ・Ｂ…(巴紋の種類。飯田丸例に準じる)。

１・２は三巴紋軒丸瓦Ｌ８Ａ。いずれも瓦当の全形は残っていない。巴頭はいずれも円形に近く、巴首のくびれは明瞭で、尾は細い。１は巴頭から半回転し、隣の尾に接続し、圏線をつくる。珠文の配置はばらつきがある。２の巴は１に近似する。巴頭から約１／３回転して隣の尾に接続し、圏線をつくる。珠文の配置はほぼ均等の間隔のようである。１の丸瓦凹面にはコビキＢと思われる横筋がみられる。３は、三巴紋軒丸瓦Ｌ10Ａか。10個の珠文が巡る可能性が高い。瓦当の約２／３が残存する。文様区の内区径は約7.8㎝。巴頭は鉤状だが突出は滑らかで、巴首のくびれは不明瞭である。尾は巴頭から１／３回転を過ぎたところで隣の尾に接続し、圏線をつくる。珠文の間隔はほぼ均等である。丸瓦は欠損しており、調整等は不明。４・５は三巴紋軒丸瓦Ｌ11。11個の珠文が巡るもの、または可能性が高いもの。４は三巴紋軒丸瓦Ｌ11Ｂ。丸瓦が脱落し瓦当の一部が欠損している。巴頭は鉤状で、各巴の尾が半回転して隣の巴に接合し圏線を形成している。５は三巴紋軒丸瓦Ｌ11Ａ。丸瓦が脱落し、瓦当の一部が欠損しているため確実な殊文の数は不明だが11個の可能性が高い。内区はほぼ完形。巴頭は勾玉状で、巴首はわずかにくびれている。尾は、巴頭から１／４回転したところで隣の尾に接続し、圏線をつくる。珠文は残存部分で見る限り、ほぼ均等に配置されている。６は、三巴紋軒丸瓦Ｌ12Ａ。瓦当径は15㎝、文様区の内区径は7.5㎝。巴頭は鉤状で、巴首のくびれは不明瞭。尾は１／３回転をやや過ぎたところで隣の尾に接続し、圏線をつくる。珠文の間隔は、ほぼ均等である。丸瓦の凹面にはコビキＡと思われる緩弧線がみられる。７は、三巴紋軒丸瓦Ｌ16Ａ。飯田丸では出土していない。丸瓦を欠く。左巻きの巴文に16個の珠文が巡る可能性が高い。巴は勾玉状で、１／２回転するが接合せず、圏線にはならない。８は珠文が18または19個めぐる可能性が高い。菊丸瓦で、瓦当上端の反りが明瞭である。巴は鉤状で、巴の尾はそれぞれ分離している。９は瓦当面の１／６を欠く。珠文の数は17または18個と思われる。巴は勾玉状で、１／２回転するが接合せず、圏線にはならない。珠文は比較的大粒である。10・11は、三巴紋軒丸瓦Ｌ21。10は三巴紋軒丸瓦Ｌ21Ａで、瓦当面の直径は14.2㎝。瓦当上端の反りが明瞭で、瓦当面の厚さが薄めである。巴は勾玉状で、尾は３／４回転するが接合しない。11は飯田丸からは出土していない。三巴紋軒丸瓦Ｌ21Ｂとする。瓦当面の直径は15.3㎝。巴は先端が接続して手裏剣状をなす。尾は約１／３回転するが接合しない。圏線は巴と分離して巡る。丸瓦も完存しており、瓦当面から玉縁まで32.5㎝。凹面にコビキＡと思われる緩弧線がみられる。12は、三巴紋菊丸瓦。左巻きの巴に24または25個の珠文が巡る。瓦当面の直径は14.9㎝、全長は16.2㎝。瓦当面には細かな砂が付着し、瓦当上端の反りが明瞭である。巴は勾玉状で、１／２回転した部分で隣の尾と接続し、圏線をつくる。13・14は、三巴紋軒丸瓦Ｌ24。13は三巴紋軒丸瓦Ｌ24Ｂとした巴が勾玉状で、

約１／３回転した部分で隣の尾と接続し、圏線をつくる。瓦当面には細かな砂が付着している。14は三巴紋軒丸瓦Ｌ24Ａ。丸瓦が欠損しており、瓦当面の外区の一部を欠いている。巴は勾玉状で、巴頭のくびれは明瞭。巴の尾は３／４回転するが隣の尾とは接続せず、圏線にはならない。珠文は大きめで、間隔はまちまちである。

15～18は、巴の回転方向が右巻きのもの。15は、飯田丸では出土していない三巴紋軒丸瓦Ｒ16Ａ。巴は勾玉状で、１／３回転するが隣の尾とは接続せず、圏線にはならない。珠文の間隔はほぼ均等である。16は丸瓦が瓦当外区とともに欠損している。珠文の数は不明瞭。巴頭は鉤状で、１／３回転するが隣の尾とは接続せず、圏線にはならない。珠文は小ぶりで、間隔はややばらついている。17は瓦当面の２／５が欠損している。珠文は大ぶりで20個程度と思われる。巴は勾玉状で、１／３回転するが隣の尾とは接続せず、圏線にはならない。18は瓦当面の１／４程度が残存している。巴の形状に特徴がある。巴頭が鉤状と巴状のものがあり、巴頭のくびれは不明瞭で、尾は太めに伸び、先端が細くなる。隣の尾とは接続しない。珠文は小ぶりで数が多い。

ｂ．日足紋軒丸瓦（第193図19～21）

日足文は、太陽光線を図案化したものとされる。熊本城内で出土する日足文は、文様モチーフを朝鮮半島の李朝瓦の蓮華紋を祖形とし、佐敷城で出土した光芒線状文様を介して変化したもので、「李朝系瓦」である。熊本城出土のものは、佐敷城出土例からさらに意匠化され、重なった「弁」が中房から放射状に三角形や菱形で表される。本丸御殿の調査では３点出土した。うち１点がⅢ層から出土している。

19・20は小片である。20は丸瓦の一部が残存し、瓦当上端の反りが明瞭である。21は丸瓦を欠くが瓦当の全容がわかるもの。瓦当面に細かな砂がみられる。文様は、丸みを帯びた中房に２重の圏線がめぐる。外区は、内側から外側へ放射状に三角形―大菱形―小菱形が配されている。

ｃ．桐紋軒丸瓦（第193図22）

桐文は、キリの花や葉を図案化した文様。桐文は豊臣秀吉が朝廷から下賜された文様で、瓦への使用も秀吉によって制限され、秀吉からの拝領として使用が認められと考えられている。本丸御殿の調査では１点確認した。22は、飯田丸出土の桐紋軒丸瓦との対比から五三の桐のようである。下部の葉の一部が残存しており、名護屋城出土桐紋軒丸瓦Ⅱ-1ｂ類と同笵の可能性がある。

ｄ．桔梗紋軒丸瓦

加藤家の家紋である桔梗文は、キキョウの花・葉・茎を図案化したもの。一般に尾藤知宣の改易に伴い、豊臣秀吉から拝領した家紋とされるが、清正の４代先代の頼方の頃から土岐桔梗文を使い始めたとする説もある。文様の構成は、珠文で表現された雌蕊から放射状に先端が尖った５つの花弁を配し、花弁の中心線に雄蕊が重なる点で共通する。桔梗文だけのものと、桔梗文の周囲に珠文が入るものに大別され、前者は、花弁が接し輪郭が直線的なものと、花弁が接し輪郭が丸みを持つもの、花弁同士が離れ丸みを持つものに分かれる。後者は、珠文の数でさらに分かれる。18点出土し、そのうち９点を掲載している。

ア．桔梗紋軒丸瓦１（第193図23・24・25）

飯田丸では出土例が無かった花弁が直線的なもの。五角形に近い桔梗文である。平らな線で区切られた弁はミガキにより仕上げられている。雌蕊は小さな珠文で表現され、雄蕊も短く、弁の１／３程度の長さである。23・24・25は、いずれも丸瓦を欠いている。

イ．桔梗紋軒丸瓦２ｂ（第193図26）

花弁に丸みがあり、弁端が突出するもの。雌蕊を欠いており文様の全容は不明瞭。花弁は中央に向かっ

て丸みを帯びてくぼむ。

ウ．桔梗紋軒丸瓦２ｄ（第193図27、第194図28・29）

花弁が接し、輪郭が丸みを帯びるもの。笵傷の一致は無いが、文様の構成からは同笵の可能性がある。花弁はやや幅のある輪郭線から雄蕊に向かって緩やかに窪む。弁間は比較的明瞭な稜線で分けられている。雌蕊は小さく、多角形状になったものもある。雄蕊は、先端が剣先状だが、曖昧なものも多い。内区は、文様の表面と周縁側の端部をナデ調整している程度で、ほぼ未調整。丸瓦が残存しているものが無く、丸瓦の状況は不明瞭。接合面にはカキヤブリがみられる。

エ．桔梗紋軒丸瓦２ｅ（第194図30）

２ｄと近似するが、花弁が細めで星型を呈するもの。

オ．桔梗紋軒丸瓦３（第194図31）

桔梗文の周りに珠文が巡るもの。桔梗文は、陽刻された円内に配され、珠文帯とは段差がある。珠文が９個巡り、雌蕊と雄蕊の境界が明瞭で、雄蕊の中心に沈線があるもの。花弁の輪郭は丸みを持ち、各弁は雄蕊に向かって緩やかに窪む。弁の中心線は曖昧。雄蕊は中心に沈線があり、先端は剣先状に尖る。雌蕊と珠文の頂部は平坦である。珠文の形状から３ａ・３ｂに分けているが差は小さい。31は珠文が乱れているため３ｂである。

ｅ．釘抜紋軒丸瓦（第194図32・33）

細川家の家老である米田家の家紋。近世以前の釘抜きは◇形をした座金とテコのふたつからなり、座金の穴にテコを入れて釘を抜いた。家紋の釘抜きは、座金そのものを図案化したものが多いとされる。また、釘抜きは「九城を抜く」といわれ、九つの城を陥落させるという戦勝の縁起もかついでいると言う。

32・33は、いずれも丸瓦を欠く。文様は笵型による。笵傷の一致は観察できないが、両者は同笵の可能性が高い。文様の表面はミガキに近い丁寧なナデが施されている。33の瓦当面には細かな砂がみられる。

ｆ．九曜紋軒丸瓦（第194図34・35、第195図～第197図）

細川家の家紋である九曜文は、本来星を表したものとされる。中心の大きな珠文とそれを囲む８つの珠文で構成される文様区と、周縁で瓦当を形成する。報告の便宜上、珠文を「曜」と呼ぶ。中央の曜は中心曜、それを囲む曜を周曜とする。また、瓦当部と丸瓦の接合関係から、瓦当面に上下を示し、一番上に来る周曜から向かって右回りに第１～８曜と個別名称を設定する。

笵の差を見出しにくい文様であり、飯田丸では瓦当内区径－中心曜径－周曜径の差で26群に分けた。本丸御殿のⅢ層からも九曜紋軒丸瓦は大量に出土している。焼失時の本丸御殿の大半は九曜紋軒丸瓦であったと言える。しかし、焼損しているものが多く計測値が不安定である。製作技法の中で、瓦当側縁・瓦当裏面のナデ調整仕上げ、丸瓦接合面のカキヤブリはほとんどの九曜紋軒丸瓦に共通する。

34は、内区の直径が10㎝、中心曜径が3.2㎝、周曜径が1.9㎝のもので、飯田丸の分類には合わない。周縁の幅が3.4㎝で瓦当直径が16.8㎝に達する。瓦当面に細かな砂が多量に付着している。35は、内区の直径が10.5㎝、中心曜径が3.5㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸分類の10.5－3.3－1.8にあたる。２次焼成を受けて赤変している。36は、内区の直径が10.4㎝、中心曜径が3.3㎝、周曜径が1.6㎝のもので、飯田丸の分類には合わない。文様の表出が弱く、特に周曜は境が曖昧である。２次焼成を受けて赤変し、瓦当面にわずかにキラコがみられる。37は、内区の直径が10.8㎝、中心曜径が4.1㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸分類の10.5－3.9－２にあたる。曜の頂部に指頭痕がある。丸瓦凹面にはコビキＢの痕跡がみられる。38は、内区の直径が10.1㎝、中心曜径が3.9㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸の分類には合わない。瓦当面にキラコがみられ、丸瓦凹面にコビキＢの痕跡が認められる。39は、内区の直径が10.5㎝、中心曜径

が４㎝、周曜径が1.9㎝のもので、飯田丸分類の10.5－3.9－２に近い。40は、内区の直径が10.4㎝、中心曜径が４㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸分類の10.5－４－２に近い。周曜の径が大きく文様が詰まって見える。いずれの曜も頂部が丸みを帯びている。瓦当面にキラコがみられる。41は、内区の直径が11㎝、中心曜径が3.9㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸分類の11－3.5－２にあたる。瓦当面に細かな砂がみられ、丸瓦凹面にコビキＢの痕跡がみられる。凸面には「半左衛門」の刻印がある。42は、内区の直径が10.8㎝、中心曜径が4.1㎝、周曜径が2～2.3㎝のもので、飯田丸分類の11－４－２にあたる。瓦当面から丸瓦凸面にかけてキラコがみられる。凹面にはコビキＢの痕跡が残る。43は、内区の直径が11㎝、中心曜径が４㎝、周曜径が2.5㎝のもので、飯田丸分類の11－４－2.5にあたる。瓦当面にわずかにキラコがみられ、丸瓦凹面にコビキＢの痕跡が残る。44は、内区の直径が10.9㎝、中心曜径が4.3㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸分類の11－4.2－2.2にあたる。45は、内区の直径が11.3㎝、中心曜径が4.3㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸の分類の11－4.2－2.2に近い。瓦当面には多量の砂が付着している。46は、内区の直径が11㎝、中心曜径が4.2㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸分類の11－4.2－2.2にあたる。2次焼成を受けて赤変している。47は、内区の直径が12㎝、中心曜径が４㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸の分類にはあたらない。周曜に笵ずれが目立つ。瓦当面から丸瓦にかけてキラコがみられる。48は、内区の直径が11.1㎝、中心曜径が4.6㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸分類の11－4.6－2.5（2.3）にあたる。瓦当面から丸瓦にかけてキラコがみられる。49は、内区の直径が復元で11.1㎝、中心曜径が3.7㎝、周曜径が2.2㎝のもので、飯田丸の分類にはあたらない。瓦当面から丸瓦にかけてわずかにキラコがみられる。50は、内区の直径が復元で11㎝、中心曜径が４㎝、周曜径が2.4㎝のもので、飯田丸分類の11－４－2.2にあたる。瓦当面から丸瓦にかけてわずかにキラコがみられる。51は、内区の直径が11.3㎝、中心曜径が４㎝、周曜径が2.2㎝のもので、50と同じく飯田丸分類の11－４－2.2にあたる。長めの丸瓦であり、全長は54.4㎝。体部に２箇所の釘穴がある。52は、内区の直径が11.8㎝、中心曜径が3.8㎝、周曜径が2.1㎝のもので、飯田丸の分類にあたらない。瓦当面にキラコがみられる。

⑵　軒平瓦

本丸御殿では、宝珠文、桐文、三葉文、立木文、蓮華文、鳥文、笹文、半菊文、三巴文、釘抜文、卍文、桔梗文、九曜文などの軒平瓦が出土している。瓦当文様に分けて記述する。

瓦当の形成については、平瓦凸面に粘土を足し、平瓦端部と足した粘土が瓦当面になるものを顎貼り付け技法と呼んだ。今回報告する資料は全て顎貼り付け技法であった。平瓦にみられるコビキ痕については、糸と鉄線の差が不明瞭であり、斜め方向のものをコビキＡ、端部の辺に平行のものをコビキＢとする。

ａ．宝珠紋軒平瓦（第198図53）

中心飾に宝珠文を用い、左右に唐草文を配する。宝珠を線刻で表現している。宝珠の中心のやや下から３回反転する唐草が伸びる。瓦当は顎貼り付け技法で、接合面にカキヤブリがみられる。瓦当面はほぼ未調整で瓦当上端の面取りは施されている。

ｂ．桐紋軒平瓦（第198図54）

中心飾に桐文を用い、左右に唐草を配する。飯田丸出土瓦では文様の違いから３種類に分かれたが、本丸御殿からは１点のみが出土した。飯田丸の分類で桐紋軒平瓦Ａとしたものである。54は、上に伸びる３本の茎の先端に花が珠文で表現され、唐草が1回反転する。54は中心飾と唐草がほぼ残存している。文様の凹凸は明瞭で、桐文の葉は稜を持ち、唐草は２重に巻く。瓦当面には細かな砂がみられる。瓦当は顎貼り付け技法で、平瓦部凸面側のナデは強く顎部の厚さは薄い。平瓦凹面には凸型台の痕跡の可能性がある

模骨状の凹凸と、横方向のナデ調整がみられる。

ｃ．下三葉紋軒平瓦（第198図55～57）

中心飾に下方に向いた三葉文を用い、左右に唐草を配する。三葉文に分類しているが、桐文の葉の意匠と近似することから、桐文に近いものと想定しているため上三葉文に先行して記述する。本丸御殿では、２種類が出土している。

55・56は、飯田丸で下三葉軒平瓦Ｄとしたもの。瓦当が完全に残存するものが無く、文様構成は不明瞭だが、唐草は脇葉の上端から伸び、２回反転すると思われる。中心飾は脇葉が下に向けて開き気味の三葉が陽刻されている。瓦当は顎貼り付け技法で、接合面にカキヤブリがみられる。57は、飯田丸で下三葉紋軒平瓦Ｃとしたもの。飯田丸を含めて瓦当が完全に残存するものが無く、全体の文様構成は不明。中心飾の中心葉は陽刻に近い線刻、脇葉は線刻で表現される。唐草は中心飾の上を通り左右に展開する。飯田丸例では中心葉の上に下向きの三角形の突出部があるが、57は不明瞭。飯田丸例とは笵が異なっている。左の唐草は内側から上・下・上の３回反転する。下に比べて上の巻きが強い。瓦当面に細かな砂がみられる。

ｄ．上三葉紋軒平瓦（第198図58～68）

中心飾に上を向いた三葉文を用い、左右に唐草を配する。バリエーションは多く、飯田丸では５種類に大別し、さらに９種類に分けた。本丸御殿でも飯田丸の分類を用いる。

58は飯田丸で上三葉紋軒平瓦Ａｂとしたもの。中心飾は珠文から上方に放射状に三葉が開く。各葉に弱い稜がみられ、脇葉がやや外反する。破片資料で文様の全体構成がわかるものはないが、飯田丸例では珠文から伸びた唐草は下側に１回反転して終わるようである。瓦当上端の面取りは大きく斜めに切られている。瓦当は顎貼り付け技法である。平瓦の凹面には、コビキＡと思われる痕跡がみられる。59は、上三葉紋軒平瓦Ａｄとしたもの。中心飾の各葉が稜を持たない三角形で、脇葉も上を向いている。飯田丸例では唐草は下・上に２回反転し、反転毎に分離している。瓦当は顎貼り付け技法で、顎は強いナデにより稜を持って仕上げら、断面が長方形に近い。瓦当上端の面取りも大きく斜めに切っている。凹面には凸型台の痕跡と思われる模骨状の凹凸とコビキＡの痕跡がみられる。60・61・62・64は、上三葉紋軒平瓦Ｂ。上三葉紋軒平瓦Ｂは、文様構成で種類が分かれるが、62・64は上三葉紋軒平瓦Ｂｃか。右側の脇葉は稜を持って外側に大きく開く。唐草は、中心飾の下か上に伸び、波打ちながら下・上に反転する。唐草は反転ごとに分離している。瓦当は顎貼り付け技法である。顎部の厚さは比較的薄く、瓦当上端は大きく斜めに面取りされている。60・61は、中心飾は上三葉軒平瓦Ｂａに近いが、唐草の巻きが弱い。上三葉紋軒平瓦Ｂｄとする。63も、飯田丸では出土例の無いもの。上三葉紋軒平瓦Ｂｅとする。中心飾の上三葉は崩れ気味で、左右対称にはならない。右の脇葉は途中から横に開く。唐草も左右対称ではなく、右の唐草は下・上・下の三回反転するが、左の唐草は蔓が波打ちながら下・下の二回の反転である。65・66は、上三葉紋軒平瓦Ｅとしたもの。中心飾が三葉文で左右に文字が配されている。笵に正位のくずし字で彫りこんでいるため、瓦当面では反転した文字になっている。65は中心飾から右側の破片。上三葉文の下部から上向きに反転する唐草に被るように文字がみられる。判読は不明。平瓦凹面に模骨状の凹凸がみられ、凹凸面に細かな砂がみられる。66は瓦当の右端。『熊本城跡発掘調査報告１－飯田丸の調査－』（熊本市2014年）で、上三葉紋軒平瓦Ｅ・194で報告したものと同笵と思われる。文字は向かって右側が「□文禄四年」、左が「拾月一日」と読める。『熊本城跡発掘調査報告１－飯田丸の調査－』での判読をここで訂正する。67・68は、上三葉紋軒平瓦Ｄとしたもの。中心飾の文様は、直上に伸びる茎と湾曲して上に伸びる脇茎が線で表現され、その先端に菱形の葉が付く68と、十字型になる67がある。いずれも瓦当面に細かな砂が付着している。

ｅ．立木紋軒平瓦（第199図69）

中心飾に枝分かれする植物のような文様を用い、左右に唐草を配する。瓦当面が完形の資料は無く、全体の文様構成は不明。破片から復元すると、唐草は中心飾の下から蔓が波打ちながら伸び、先端で下向きに小さく巻き、子葉は上下に一つずつ直線的に出ているようである。飯田丸では唐草の太さから２分できたが、69は太い唐草である。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部のナデは強い。瓦当上端の面取りも大きく斜めに切られている。

ｆ．蓮華紋軒平瓦（第199図70～73）

中心飾にハスの花のような文様を用い、左右に唐草を配する。唐草の違いで２種類に分けた。

70・71は、蓮華紋軒平瓦Ａ。涙滴状の意匠から角状に花弁が突出し、下部からは短い唐草が上下に伸び反転する。この外側に緩やかに波打つ分離した３個の唐草が、全長の半分を隣の唐草の上下に重ねながら上・下・上に反転する。唐草の上下に、菱形や珠文状の小さな凹凸がみられるが、文様として意図したのかは判然としない。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部は丁寧なナデ調整で仕上げられている。71の顎部の厚さは薄い。瓦当上端は面取り後にナデを施している。両者ともに瓦当面に細かな砂がみられる。72・73は、蓮華紋軒平瓦Ｂ。両者ともに瓦当面はほぼ完形。蓮華紋軒平瓦Ａの中心飾から短い唐草を無くし、３個の花弁をほぼ同じ大きさにしたような中心飾である。唐草も３回反転でそれぞれが分離している。反転は内側から下・上・下で、隣の唐草との重なりはまちまちである。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部はナデで仕上げられている。瓦当上端の面取りは最大幅1.2㎝で大きく斜めに切られている。72の瓦当面と平瓦凹凸面には細かな砂がみられる。

ｇ．鳥紋軒平瓦（第199図74～76）

中心飾に鳥を抽象化したような文様を用い、さらに左右に唐草を配する。中心飾の違いで２種類に分けたが、飯田丸と異なる76を鳥紋軒平瓦Ｃとする。

74・75は、鳥紋軒平瓦Ａ。中心の鳥の胴体から羽状に開き下へ反転する唐草と、同じ展開の唐草が外側に配されている。唐草はそれぞれ分離している。瓦当面が完形の資料は無い。大半は同笵の可能性が高い。瓦当は顎貼り付け技法で、接合部にはカキヤブリがみられる。74の凹面の瓦当側に「○に一引両文」の刻印がみられる。76は、鳥紋軒平瓦Ａと文様構成が近似するが、中心飾がＳ字状である。唐草の巻きも２重になっている。平瓦の凹面に模骨状の凹凸がみられる。

ｈ．笹紋軒平瓦（第199図77）

中心飾に笹文を用い、左右に唐草を配する。飯田丸では文様の違いで３種類に分けた。77は笹紋軒平瓦Ｂとしたもの。１つの笹の葉が六葉のもので、77のみの出土である。文様区左側の破片で、笹文が二つと外区右端に花文の刻印がある。瓦当は顎貼り付け技法で、平瓦の端部との接合線が瓦当面に窪みとして残る。文様区にも接合線を消したと思われる痕跡がある。顎部の調整は強めで顎の断面形は逆台形である。平瓦凸面に凹型台痕、凸面にコビキＢの痕跡がみられる。

ｉ．半菊紋軒平瓦（第199図78）

中心飾に菊の花を半裁したような文様を用い、左右に唐草を配する。中心飾は上端に珠文を置き、５個の細長い花弁状のものが下方に放射状に広がる。唐草は中心飾の上端から下へ伸びて反転し、さらに伸びて上に反転する。子葉の巻きは軽い鈎状で、反転ごとに分離している。瓦当は顎貼り付け技法で、瓦当上端の面取りは明瞭である。瓦当面に細かな砂がみられる。

ｊ．その他（第199図79～82）

79は梅鉢紋軒平瓦。唐草は、九曜紋軒平瓦Ｂにあたる。瓦当面上端の面取りは細く、瓦当面に細かな砂がみられる。80は三巴文を中心飾りとする軒平瓦。瓦当上端の面取りは無く、瓦当面にキラコがみられる。81は釘抜文を中心飾とする軒平瓦。唐草は、九曜紋軒平瓦Ｂにあたる。瓦当面にわずかに砂の付着がみられ、平瓦凸面に凹型台の痕跡がみられる。82は卍文を中心飾とする軒平瓦。瓦当上端の面取りは無く、瓦当面にキラコがみられる。80・82は比較的扁平な瓦である。

ｋ．桔梗紋軒平瓦（第200図～第201図、第202図93）

加藤家の家紋である桔梗文を中心飾に用い、左右に唐草を配する。

83・86は、飯田丸で桔梗紋軒平瓦１としたもの。中心飾が突出し、桔梗が立体的に表現されている。唐草は、中心飾の中心付近からやや上向きに伸び、波打ちながら下・上・下に反転するようである。反転ごとに分離している。83・86ともに瓦当面の上弧に段差がみられる。中心から左右対称の位置にみられ、軒丸瓦の当り部分か。83は瓦当面に砂が付着し、86は残存した顎部に砂の付着がみられる。83は２次焼成を受けている。

桔梗紋軒平瓦1のように中心飾が突出しないものを桔梗紋軒平瓦２とする。雄蕊に沈線がみられないものを桔梗紋軒平瓦２Ａとし、沈線がみられるものを桔梗紋軒平瓦２Ｂとした。いずれも唐草は中心飾下半から伸びて下・上に２回反転し、反転付近で分離している。

84・85・87～91は桔梗紋軒平瓦２Ａ。花弁の輪郭線が細いものと太いものがあり、さらに雄蕊の長短・雌蕊の違いから笵は複数ある。84・88は、花弁の輪郭線が細いもの。85・87・89は、花弁の輪郭線が太いもの。技法はいずれも大差は無いが、87・88・90の平瓦はコビキＢの痕跡がみられ、89にはコビキＡの痕跡がみられる。89・90の瓦当面には細かな砂がみられる。84・85・88は２次焼成を受けている。92は雄蕊に沈線がみられるが、文様区の両端に笵傷のような文様があるため桔梗紋軒平瓦２Ｃとした。唐草が太く、文様区の両端に笵傷のような文様がある。瓦当面に細かな砂がみられ、平瓦にコビキＡと凹型台の痕跡がみられる。焼成は良好で、光沢のある黒みがかった仕上がりである。

93は飯田丸では出土例の無い瓦。桔梗紋軒平瓦３とする。桔梗文が２つあり、左右に展開する唐草が対称ではない。83・86と同様に瓦当面の上弧に段差がみられる。顎はナデにより明瞭な稜を持つ逆台形状である。平瓦の凹面には「小山村五右衛門」の刻印がある。227～228の棟瓦にみられる刻印と同笵の可能性がある。

ｌ．九曜紋軒平瓦

細川家の家紋である九曜文を中心飾に用い、左右に唐草を配する。飯田丸では、唐草の違いで、Ａ～Ｏの15種類に大別していた。本丸御殿ではＮを確認していないが、新たな文様構成のＰを加えている。これらの大別は系統を示すものもある。大別はさらに細かく分かれる。

ア．九曜紋軒平瓦Ａ

唐草の内側の子葉が下に巻き先端が三葉状になるものを祖形とすると思われる一群。

・九曜紋軒平瓦Ａａ（第202図94）

94は、中心飾りを欠いているため九曜文かは不明。子葉が下・下・上に反転し、蔓の先端は膨らんで菱形や珠文状になる。子葉は、球状である。

・九曜紋軒平瓦Ａｂ（第202図95～97、第203図98・99）

内側の子葉が珠文状で、唐草全体としては、子葉が文様区の端部に集約して花状である。文様はそれぞれ細部が異なり同笵ではない。99は、九曜軒平瓦Ａｃとの中間的な文様である。瓦当上端の面取りは不明

瞭。95～99の瓦当面には砂の付着がみられる。97の側縁には凹型台と思われる痕跡がみられる。

・九曜紋軒平瓦Ａｃ（第203図100）

唐草の子葉がすべて端部に集約し花状である。100は、瓦当面に細かな砂の付着がみられる。平瓦の凸面に凹型台痕がみられる。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部は丁寧なナデで仕上げられている。

イ．九曜紋軒平瓦Ｂ

唐草の子葉が内側から３本が下に反転し、先端は双葉状に開くもの。飯田丸では文様構成から２つに分けたが、両者と比較して、最も内側の子葉の反転の丸みが強く異なる。これを九曜紋軒平瓦Ｂｃとする。

・九曜紋軒平瓦Ｂｃ（第204図101～106）

それぞれ細部が異なり、同笵とは言い切れない。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部はナデにより丁寧に仕上げられている。瓦当面は、文様区以外ナデで仕上げられており、上端の面取りは不明瞭だがナデ調整が施され、丸みを帯びる。101の平瓦凹面には「少」、102には「丑　五郎」、105には「勘」の刻印がある。

107は、左右で唐草が異なり、右が九曜紋軒平瓦Ａｂ、左が九曜紋軒平瓦Ｂｃである。

ウ．九曜紋軒平瓦Ｃ

細めの唐草で、子葉が下・上・下に巻くもの。文様構成から３つに分かれる。

・九曜紋軒平瓦Ｃａ（第204図109）

唐草の波打ちが大きい。子葉はいずれも釣り針または三日月形である。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部はナデにより丁寧に仕上げられている。瓦当面には、細かな砂がみられる。

・九曜紋軒平瓦Ｃｂ（第204図110・111）

九曜紋軒平瓦Ｃａに比べ、唐草の波打が小さく右端の蔓が大きく反転する。110の瓦当面にはキラコがみられる。

・九曜紋軒平瓦Ｃｃ（第204図112、第205図113・114）

九曜紋軒平瓦Ｃａに比べ、唐草の波打が小さく子葉の反転も小さい。瓦当面は、文様区以外ナデで仕上げられており、上端の面取りは不明瞭だがナデ調整が施され、丸みを帯びる。113・114は同笵の可能性が高い。114の文様区にキラコがみられる。

エ．九曜紋軒平瓦Ｅ

唐草が上・下・上に反転し、各子葉が分離するもの。中心飾の周曜の配置が崩れ気味である。飯田丸では文様構成から２つに分かれたが、本丸御殿では九曜紋軒平瓦Ｅｂのみ確認した。

・九曜紋軒平瓦Ｅｂ（第206図115～121）

中心飾の周曜の配置が崩れ気味。中心飾の中位から鎌状の唐草が連続する。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部は丁寧なナデ調整で仕上げられている。

オ．九曜紋軒平瓦Ｆ（第206図123～125）

唐草は、両端が鋭く尖る蔓に、下・上に棘状の子葉が突出する。瓦当は顎貼り付け技法で、顎部は丁寧なナデ調整で仕上げられている。瓦当は、上端の面取りは無くナデ調整により丸みを帯びる。123・125の平瓦に凹型台の痕跡がそれぞれうっすらとみられる。122は唐草の構成は近似するが、異質である。分離できる可能性がある。

カ．九曜紋軒平瓦Ｇ

唐草が２個に分離するもので、内側の反転が強く外側はほぼ反転しないもの。飯田丸では、文様構成から５つに分かれた。飯田丸と異なるものを九曜紋軒平瓦Ｇｆ・Ｇｇとする。

・九曜紋軒平瓦Ｇａ（第206図126・127）

九曜文の周曜の位置が崩れ気味で、内側の唐草が大きな円を描いて下へ反転する。外側の唐草は緩やかな船底状に波打つ。瓦当面にキラコがみられる。

・九曜紋軒平瓦Ｇｆ（第206図128・129）

文様構成は他と同じだが、左側の唐草に「イ」状の意匠がみられる。瓦当面の弧が緩く扁平である。瓦当面にはいずれもキラコがみられる。

・九曜紋軒平瓦Ｇｇ（第206図130～131）

文様構成は他と同じだが、右側の内側の唐草に上向きの突起状の子葉がみられる。２点出土しているが、いずれも左側を欠いており、全体の文様構成は不明。

キ．九曜紋軒平瓦Ｈ（第206図132・133）

２点出土した。同笵関係は不明瞭。唐草は、子葉の表現は無く緩やかに上下に波打ち、波打ち毎に分離している。

ク．九曜紋軒平瓦Ｉ（第206図134・135）

唐草の子葉が下と上に反転し、それぞれ分離気味である。蔓の波打ちや子葉の巻きは強い。２点図化した。135は中心飾りの中心曜と周曜が放射状につながっている。両者ともに瓦当面にはキラコがみられる。上端の面取りは無くナデ調整が施され丸みを帯びる。

ケ．九曜紋軒平瓦Ｊ（第206図136～139）

内側の唐草は、中心飾の下位から上へ伸び子葉の先端が珠文化し音符状になっている。この唐草の途中から小花状の子葉が分離して中心飾を囲むように反転する。外側の唐草は、船底状に波打ち、間にオタマジャクシ状の珠文が配されている。４点図化した。136と139、137と138はそれぞれ同笵と思われる。瓦当面の弧が緩く扁平である。瓦当面は、文様区以外をナデで仕上げており、136の文様区にキラコがみられる。また、136の凹面には「仙台」の刻印がみられる。

コ．九曜紋軒平瓦Ｋ（第207図140）

唐草が子葉毎に分離気味のもので、下・上・下・上に反転する。最も内側の子葉の端部は珠文状で、最も外側の子葉の端部は左右の脇外区に接している。瓦当面には砂がみられる。

サ．九曜紋軒平瓦Ｍ

中心飾の九曜が丸みを帯びて突出し、中心飾の下から花卉文化した唐草が伸びる。文様構成から２つに分かれる。

・九曜紋軒平瓦Ｍａ（第207図141）

唐草は中心飾下から子葉と蔓に分かれ、子葉は中心飾を囲むように反転する。先端が珠文化し勾玉状である。蔓は波打ちながら伸び、子葉が下に反転し、先端が珠文化している。この子葉の先には反転しない子葉が下向きに伸び、蔓の先端はイチョウ葉状になる。扁平に近い軒平瓦で、文様区を中心にキラコが目立つ。

・九曜紋軒平瓦Ｍｂ（第207図142）

文様構成は九曜文Ｍａと同じだが、内側の子葉の端部が珠文にならない。扁平に近い軒平瓦で、文様区を中心にキラコが目立つ。

シ．九曜紋軒平瓦Ｏ（第207図143）

内側の唐草は巴文状に中心飾を囲み、その他は雲文化している。扁平な瓦で、瓦当面にキラコが目立つものがある。顎部は丁寧なナデで仕上げている。瓦当面は文様区以外をナデで仕上げている。

ス．九曜紋軒平瓦Ｐ（第207図144）

飯田丸では確認できなかったもの。唐草の蔓は中心飾りの下部から上向きに大きく反転し内側へ２重に巻く。外側へ続く蔓も下向きに大きく巻く。中心飾りの曜は中心曜と周曜の大きさがほぼ同じである。

⑶　滴水瓦（第208図～第212図）

「李朝系瓦」の一つ。過去の報告では朝鮮瓦と記述されたこともある。瓦当面の下半が雲形の輪郭で、先端である中央下部が逆三角状に尖る形状をしており、瓦当部と平瓦部の接合角度を鈍角にしている点が特徴である。城内での過去の出土例では、接合角度がほぼ直角のものもある。瓦当面の文様は、中央に年号などの文字が入る部分を 2 本の隆起線で区画し、その左右に梵字状の円形意匠や雲形が配されるものが特に知られている。今回の調査では、Ⅱ層や露地の土坑群からの出土が多く、Ⅲ層からの出土例は無い。よって本丸御殿には使用されていなかったと判断している。

145～152は中央に「慶長四年　八月吉日」の文字がみられるもの。145・146・151には年号の文字を挟むように「小山」の文字が陽刻されている。145・146は同笵の可能性が高い。151は、円形の意匠内の位置や雲文の表現に違いがあり笵は異なるようである。製作技法はほぼ同じで、瓦当面は顎貼り付け技法により顎部を平瓦に鈍角に接合し、瓦当裏から平瓦との接合部分まで丁寧なナデで仕上げる。接合部分にはカキヤブリがみられ、平瓦側端凸面を抉って接合し、側端凹面上部を面取りし整えている。146の瓦当面には細かな砂の付着がみられる。149・150は同笵の可能性が高いが、147・148・152はそれぞれ笵が異なるようである。以上のように、「慶長四年　八月吉日」の滴水瓦にも笵が少なくとも 6 種類以上ある。ただ、文様の崩れはほとんど無く、技法差も近似しており、時間差はあまり無いものと思われる。153は「延享四」の文字がみられるもの。平瓦は完全に欠損している。「四」以下の部分は消したような痕跡はみられず、隆起線が明確な点からは笵自体に彫られていなかった可能性が高い。文様は、円形の意匠が省略されており、左右に単層の雲形が大きく表現されている。 2 次焼成を受け赤変している。154は「明和三年　十月吉日」の文字がみられる。 2 次焼成を受け瓦当面が破損している。右側の円形意匠の意匠化が進んでいる。平瓦との接合はほぼ直角である。155・156は「天保十四年　三月吉日」の文字がある。同笵の可能性が高いが、155の雲形はつぶれている。平瓦との接合はほぼ直角である。157～160は「文政」の文字がある。160は年号部分が欠けているが「文政」の可能性が高い。157は「文政十三　庚寅　二月」である。円形の意匠は省略され、雲形が大きく表現されている。瓦当面にはキラコがみられる。158は「文政十三年　二月吉日」である。上の雲形がつぶれて表現されている。159は「文政十三□」の文字がみられるが、瓦当の下半から右側が欠損しており全容は不明瞭。158とは文字や雲形の表現が違い、笵が異なる。「文政」の一群のうち、157・159に平瓦が残存するが、いずれもほぼ直角に接合している。161は「□永三二月吉日」の文字がある。江戸期の年号のうち「永」が付くものは「寛永」・「宝永」・「安永」「嘉永」がある。どの年号か明確ではないが、文様に宝珠様の雲形がみられ、外形の雲形も崩れるなど、新しい要素が多い。162～167は中央の文字区が無文のもの。162～165は同笵の可能性が高い。文様構成も「慶長四年」の一群に近く、平瓦が鈍角に接合されており、比較的古い滴水瓦ではないか。167は文字区の幅が広く隆起線も太い。外形の雲形が多段化されている。瓦当面にキラコがみられ、 2 次焼成を受けている。平瓦との接合はほぼ直角である。168は瓦当がほぼ脱落したもの平瓦が良好に残存する。瓦当と対面になる側端側に釘穴があるが、漆喰に覆われており釘を刺した痕跡は無い。瓦当との接合は鈍角である。

⑷　鬼瓦・隅木鬼瓦等（第213図～第223図）

169・170は下部が緩やかな弧になる鬼瓦。唐破風に乗る鬼瓦と思われる。Ⅱ層出土であり元位置ではないが、いずれも 2 次焼成を受けている。171・172・173は九曜文の大型鬼瓦。171・172は接合する部分があり同一固体である。文様構成からは173も同一個体もしくはセットで作られたものである可能性が高い。大御台所のⅢ層から173が出土ことで、大御台所の鬼瓦復元の祖形となっている。174は長局出土の九曜紋鬼瓦。 2 次焼成を受けているが、Ⅱ層出土で元位置ではない。表面右下に「少」の刻印がある。175は桔梗紋鬼瓦である。 2 次焼成を受けている。176も紋鬼瓦。 2 重の弧線がみられる。177は鬼瓦の向かって左

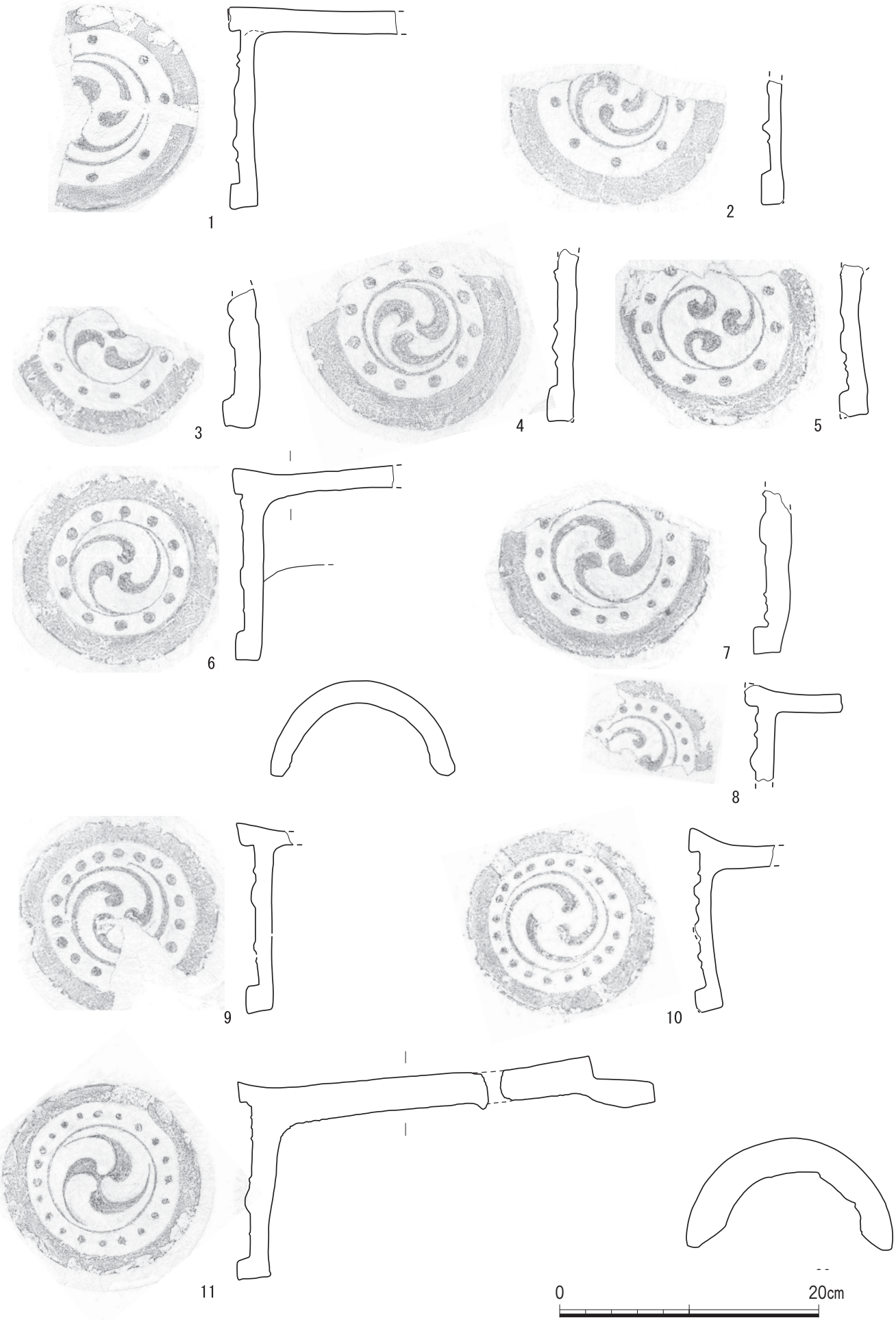
足。傾きは不明瞭。弧を２段に重ねる外枠の可能性がある。小倉城で出土した九曜紋鬼瓦に似た意匠である。178は鬼瓦の葉の部分。天地が不明だが、かなり大型の鬼瓦である。大きな葉脈を断面三角の隆起線で表現し、小さな葉脈は棒状工具による刺突で表現している。179は鬼瓦の向かって右足。180～182は九曜紋鬼瓦。183～185は鬼瓦の外区。文様は不明だが184・185は大型の鬼瓦である。186は鬼瓦背後の引き手。187～190は裏面にヘラ描き文字のある瓦。187は九曜紋鬼瓦裏面に引き手を挟んで「天明八□」「申三月　北村」と書かれている。188は九曜紋鬼瓦。「弘化四年」と書かれている。189は文様不明の鬼瓦。「文政」の文字が読める。190は焼成後にヘラ描きしたもの。「三月吉日」と読める。191～193は隅木鬼瓦。いずれも九曜紋鬼瓦。193は表面右下に「源」の刻印がある。194は九曜文の隅木蓋瓦。釘穴はない。裏面に「元文四年　戊未五月上旬　土山瓦師　四郎兵衛」のヘラ描きがある。195は桔梗文の隅木蓋瓦。２次焼成を受けている。196は九曜文の隅木蓋瓦。2次焼成を受けている。197は亀を模した留蓋。表面をナデ調整した後でヘラ描きにより施文している。

⑸　鯱（第224図）

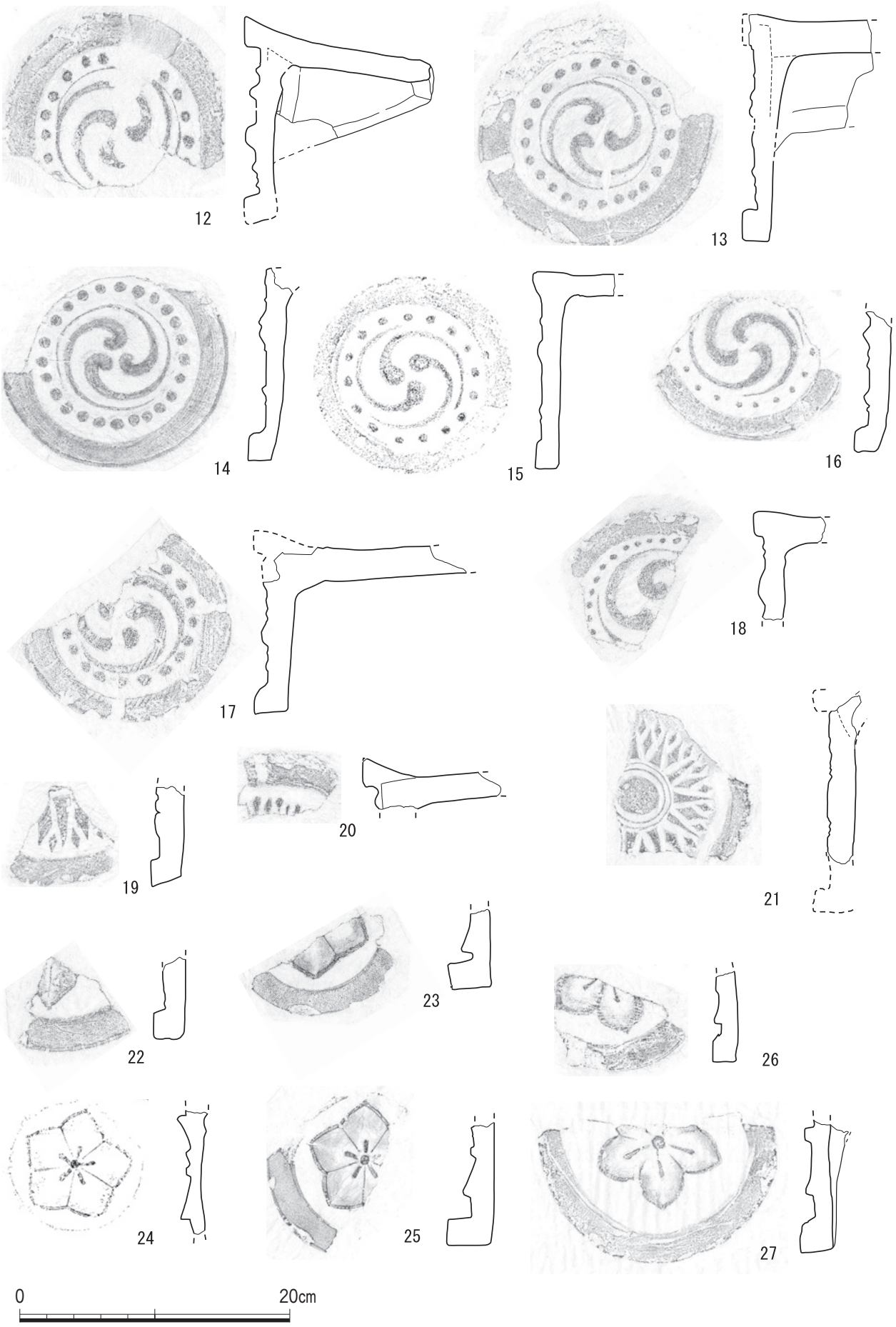
198は耳の部分の破片。ヘラ描きによるウロコの表現がみられる。199は鯱の尾鰭か。表面にキラコがみられる。120は鰭。表面にキラコがみられる。裏面に「ロ？　右下」とヘラ描きされており、接合部位を示したものであろう。199・200は闇り通路のⅢ層から出土しているが、２次焼成を受けていない。

⑹　その他の瓦（第225図～第238図）

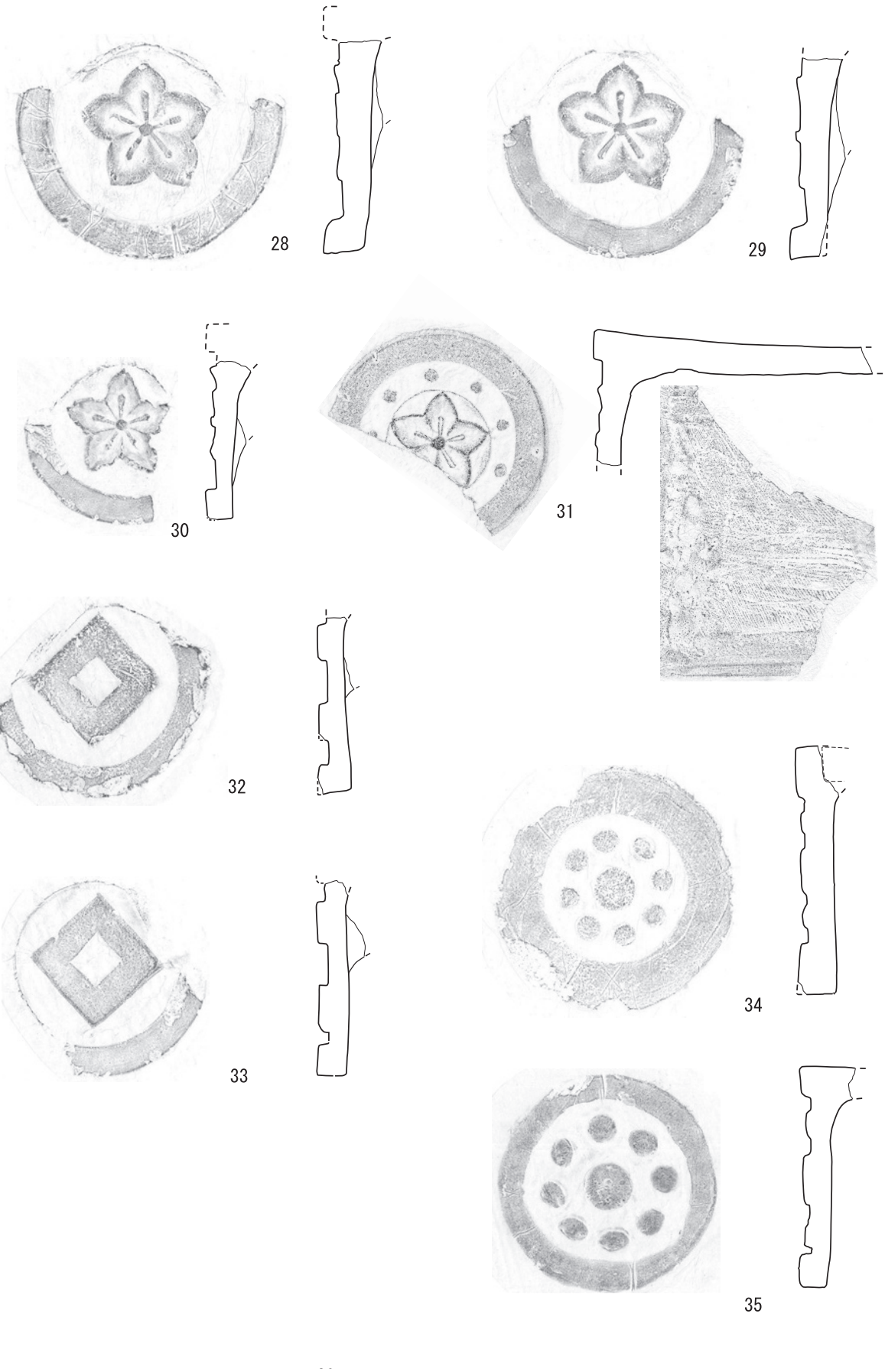
201～203は鳥衾。いずれも九曜文である。204～206は雁振瓦。204・205は一方の側端凸面に目板状の重ね目が接合されたいわゆる角桟伏間で、もう一方には水切りの細い溝が彫られている。204の凸面には「坂本□」の刻印がある。206は一方の側端に玉縁状の重ね目が付く。207は掛平瓦。側端凹面の一方に突出部がある。208は掛丸瓦。通常の丸瓦の側面に鋸歯状の段差を設けている。平瓦との親和性を高めるものであろう。凸面に「小山村五右衛門」の刻印がある。209～213は水板瓦。九曜文が施されたものと無文のものがある。長崎大学所有のマンスフェルトの古写真によれば、大広間大棟に使用されていたもので、５枚に１枚程度で九曜文入りの水板瓦を使用していたことがわかる。なお、本丸御殿復元時には鮮明な古写真がなかったために九曜紋水板瓦の使用は見送られている。210は下部に刳りこみがみられるため鬼瓦の可能性もある。214～217は板瓦。214は釘穴付近に漆喰が付着している。215は方形ではなく、水切り溝もある。216・217は大型の板瓦で釘穴が６箇所に設けられている。釘穴の観察では釘を通した痕跡がみられなかった。218～222は谷平瓦。218は谷軒平瓦。九曜紋軒平瓦Ａｂと同じ瓦当文である。219・220は平瓦凹面に弓状の水止めがみられる。221・222は大型の平瓦で谷瓦として使用されたと想定している。221は凹面に「丸に九曜」の刻印、222は凹面に「四角に九曜」の刻印がみられる。223・224は板塀瓦。側縁に目板状の重ね目が接合され、側端の一方に２つの釘穴がみられる。釘穴の観察では、貫通していない穴もあり、釘を通していない可能性が高い。225・226は桔梗文の飾瓦。笵型によるもので城内各地点から出土例がある。今回報告のものも表採資料であり使用位置等は不明である。227～230は棟に使用された瓦と思われる。平面箱型で断面はＬ字状をなす。短辺同士を組み合わせて円弧が連続した文様を構成していたものであろう。狭端部に漢数字の一や二を記したものがあり、構成の順序を示す合マークと思われる。230の上面にはヘラ描きが施されているが、先頭の「三」と、末の「次」、その間に「ひがし」は判読できる。「三～次」とした合マークの意味があった可能性もあろう。この一連の瓦には「小山村五右衛門」の刻印がみられる。



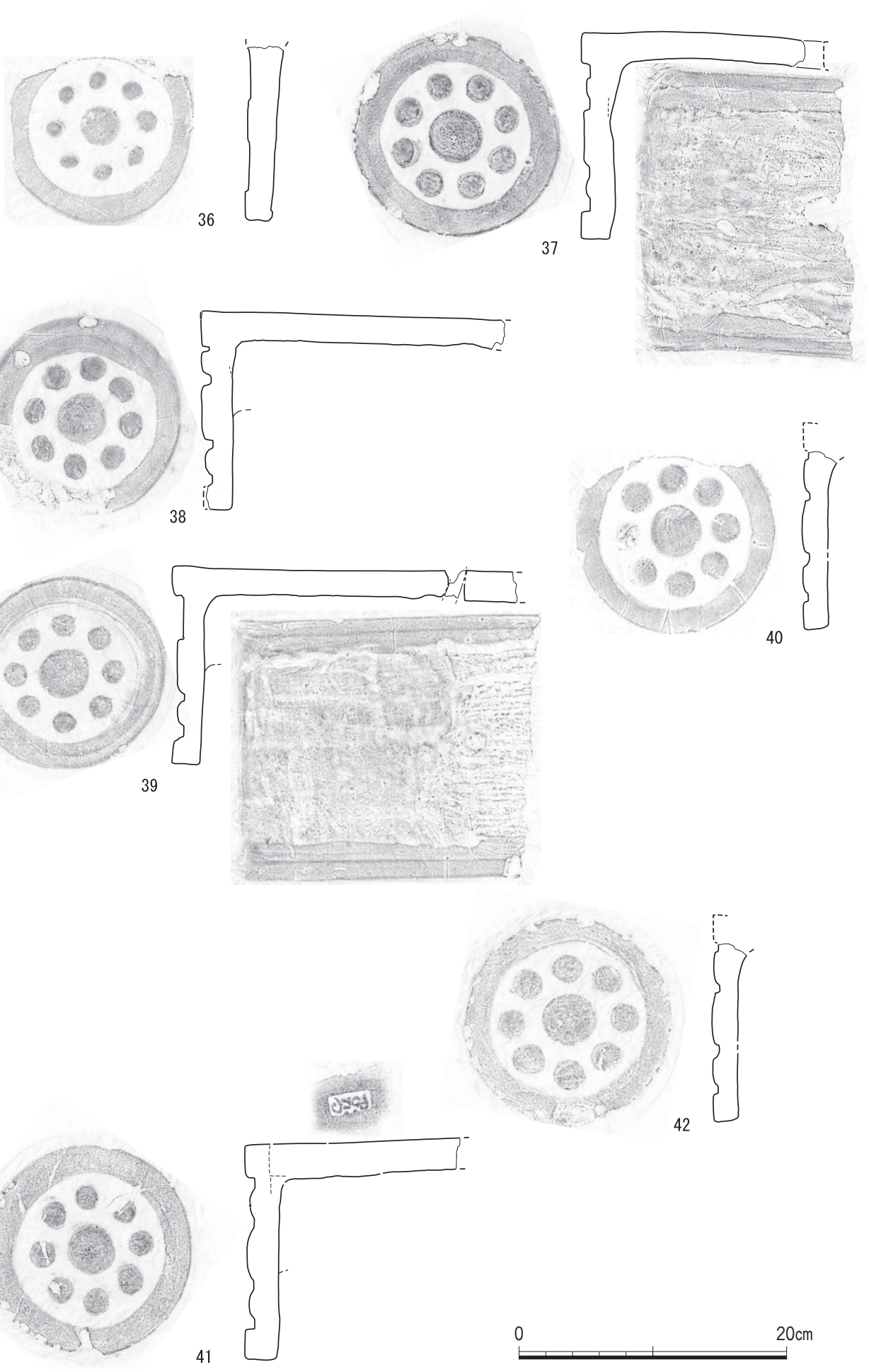
第192図　軒丸瓦実測図１（１／４）



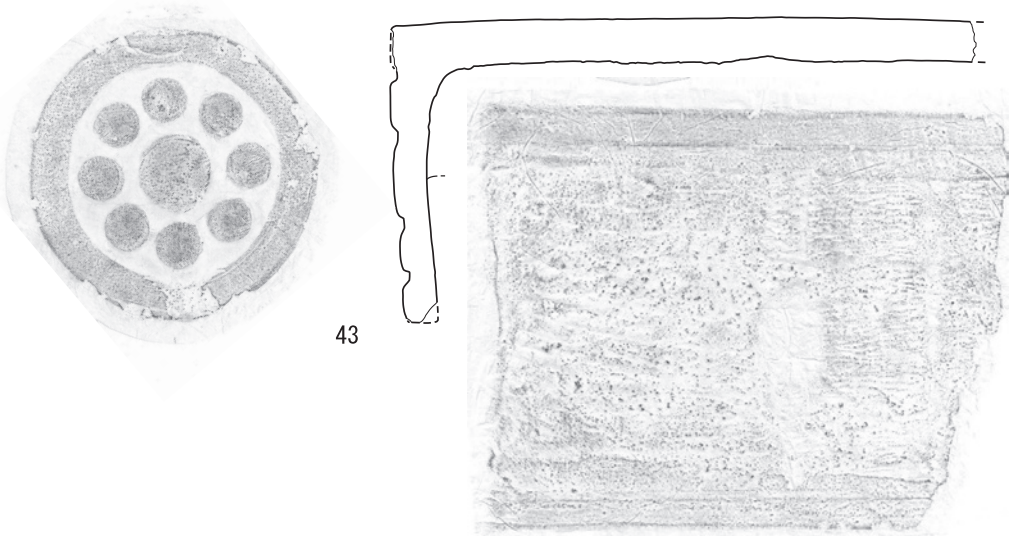
第193図　軒丸瓦実測図２（１／４）

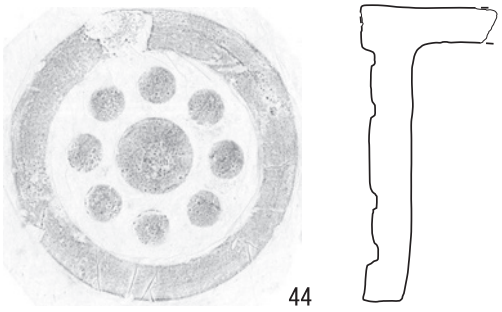


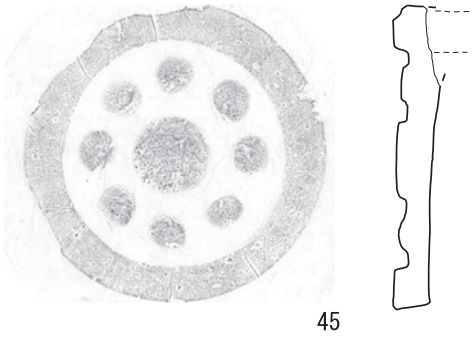
第194図　軒丸瓦実測図３（１／４）

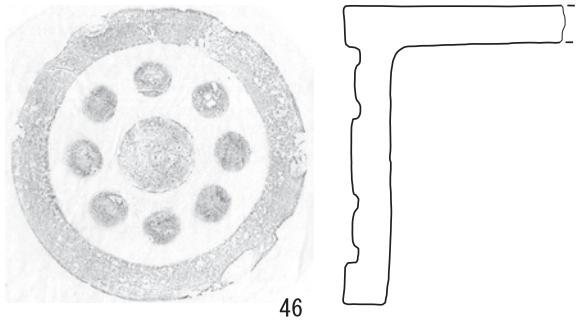


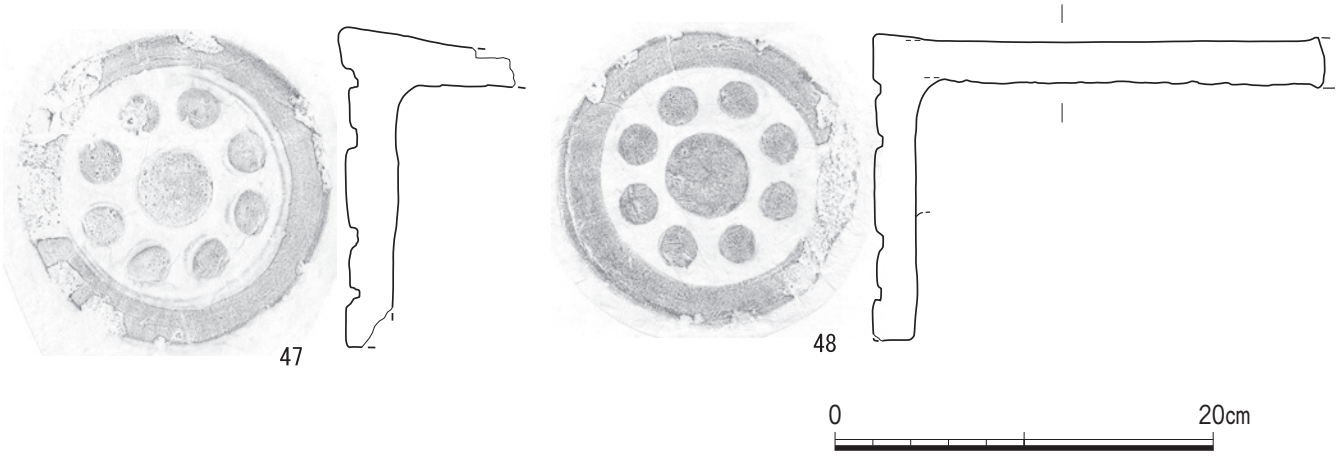
第195図　軒丸瓦実測図４（１／４）



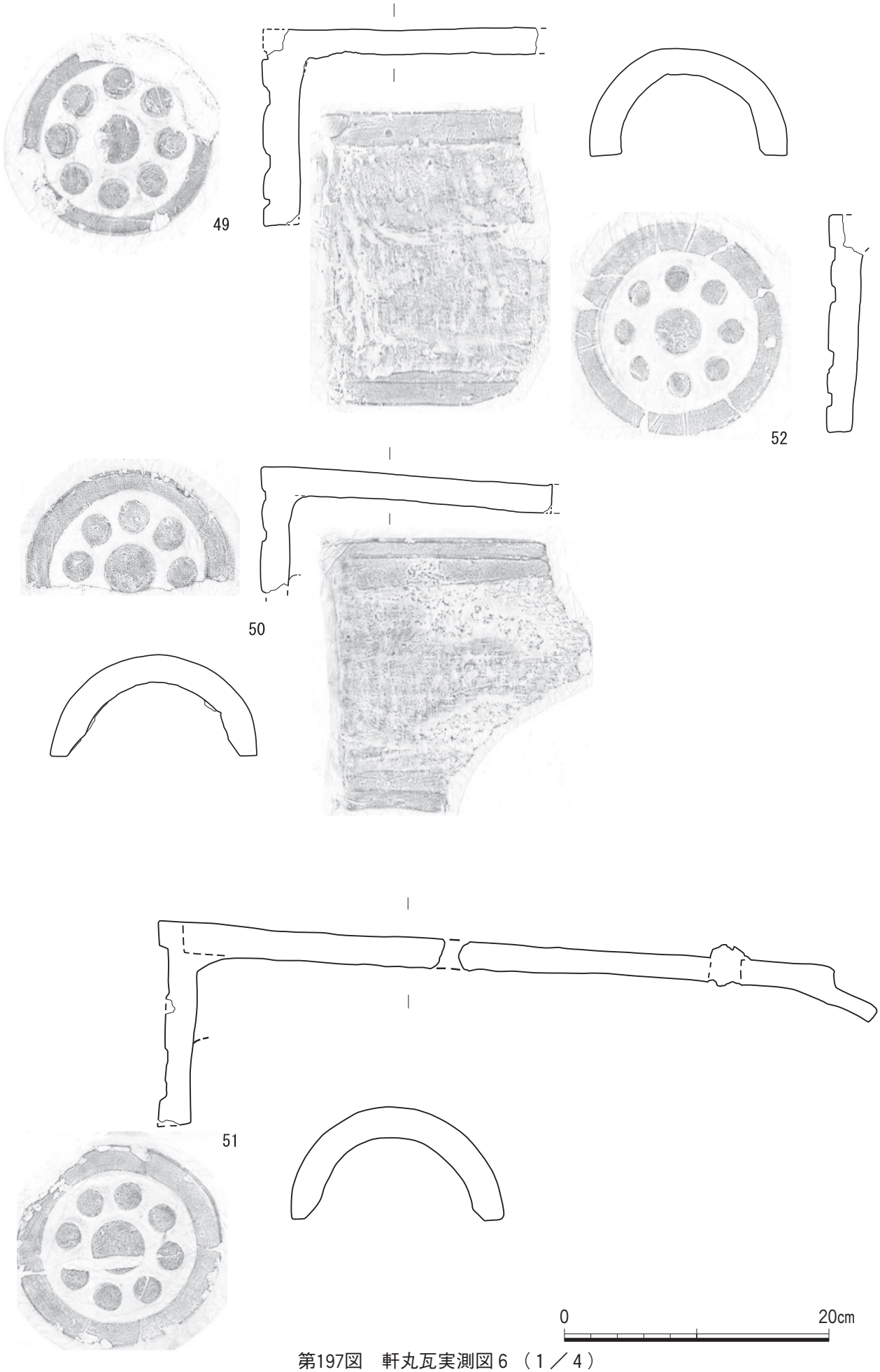




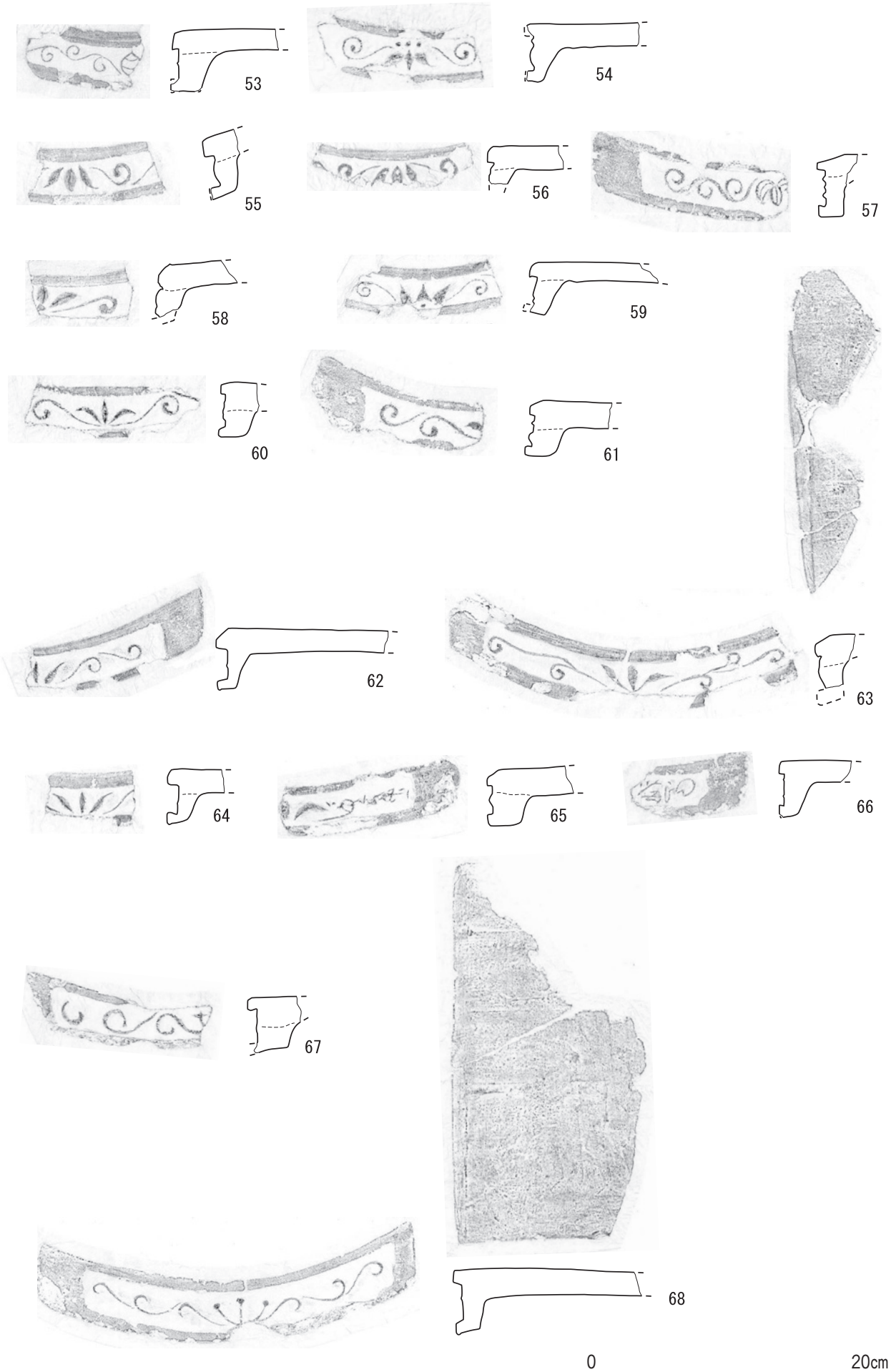




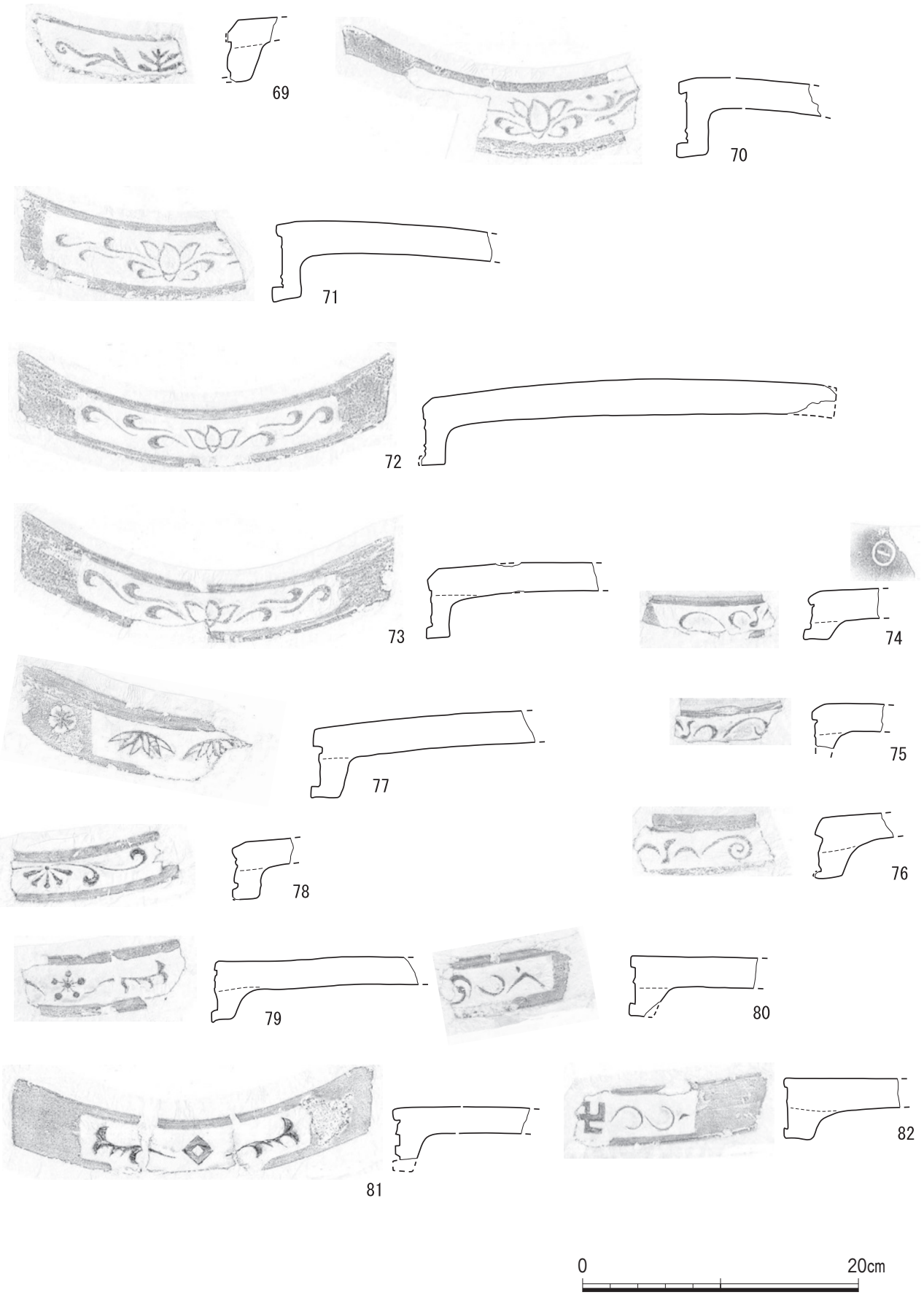
第196図　軒丸瓦実測図５（１／４）



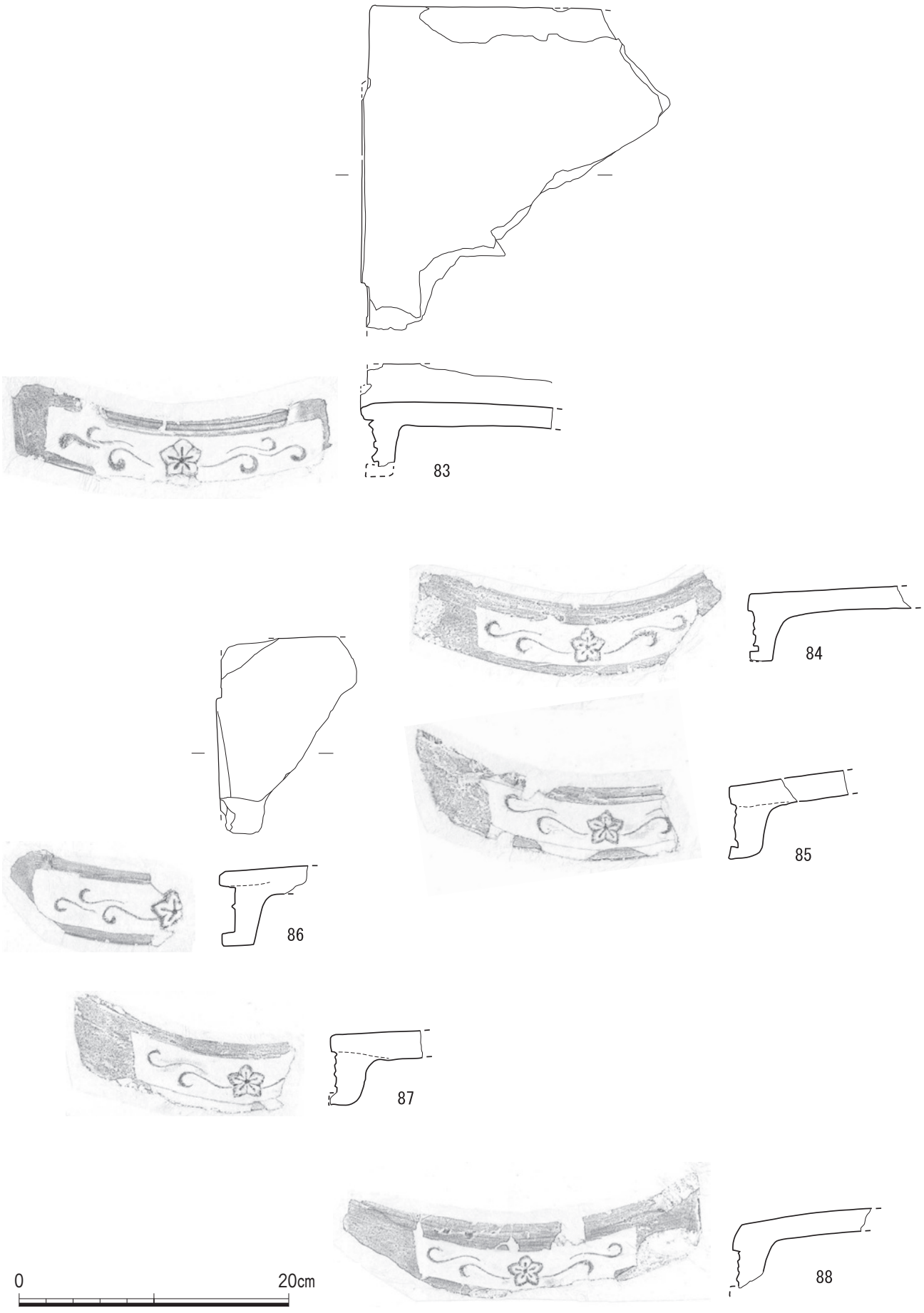
第197図　軒丸瓦実測図６（１／４）



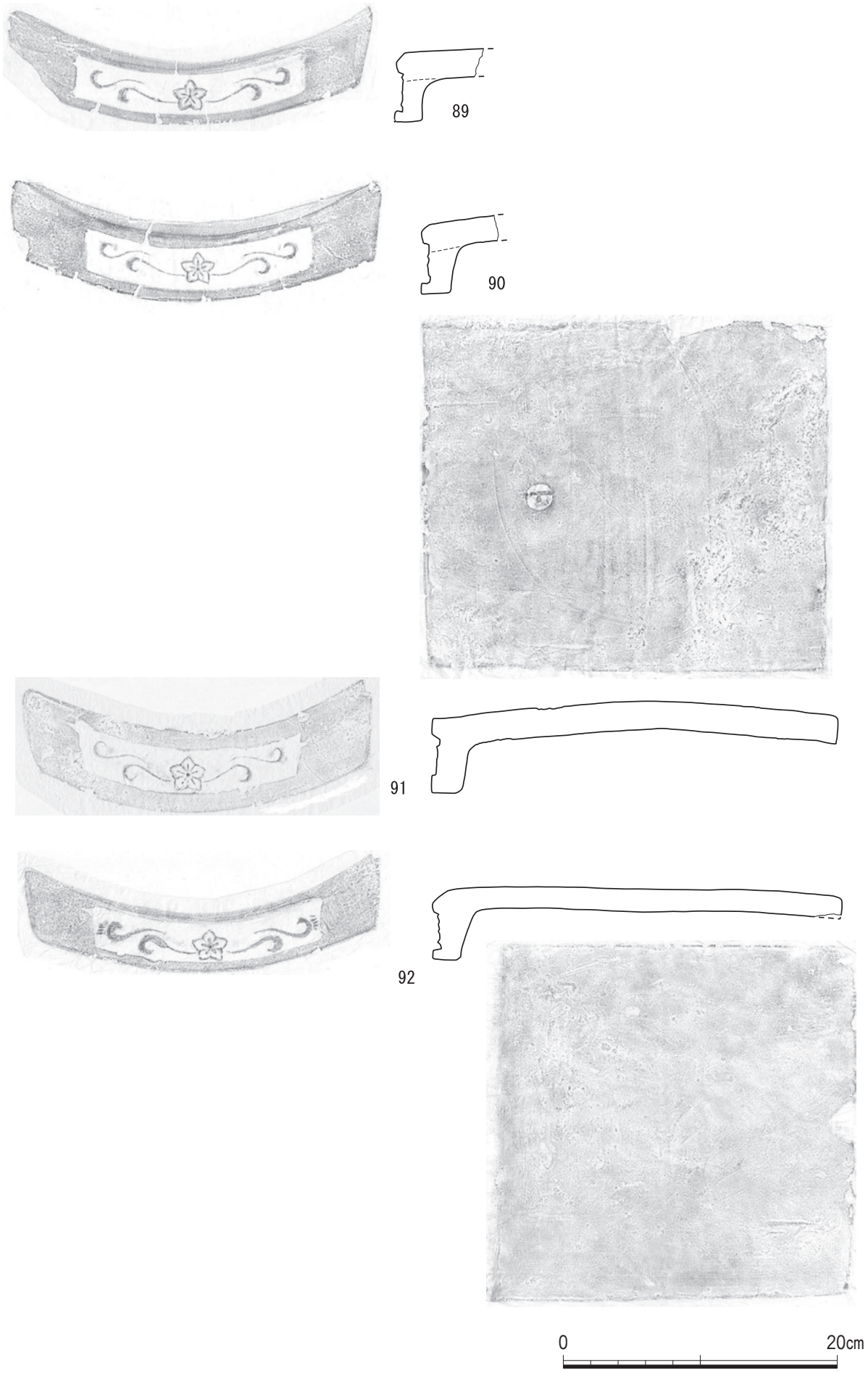
第198図　軒平瓦実測図１（１／４）



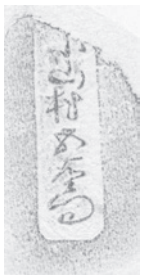
第199図　軒平瓦実測図２（１／４）



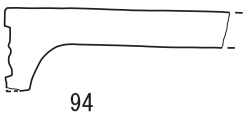
第200図　軒平瓦実測図３（１／４）



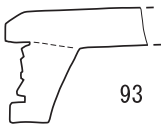
第201図　軒平瓦実測図４（１／４）



※刻印は１／２



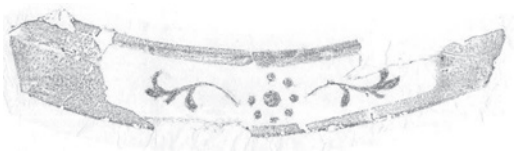
94



93

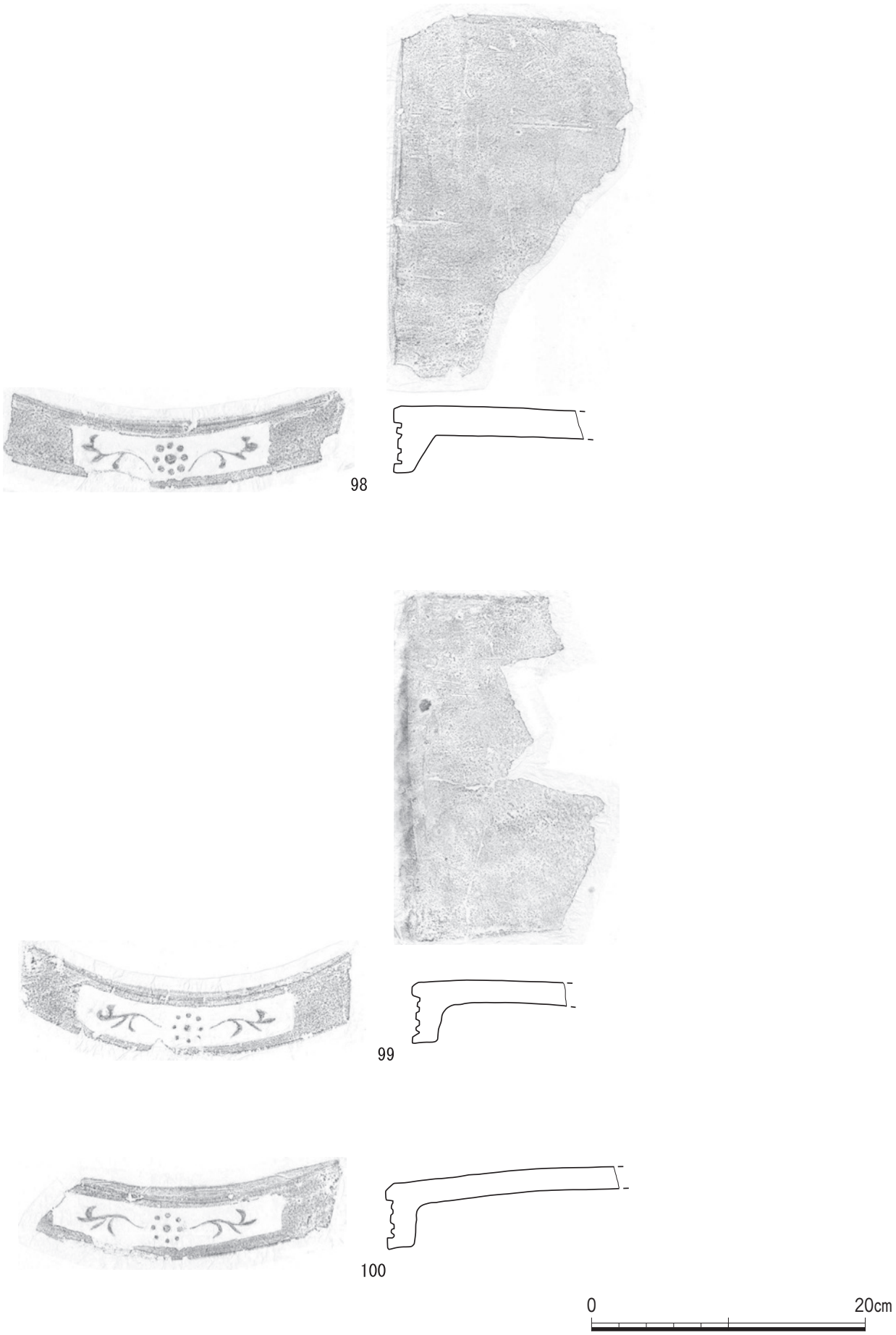
95

96

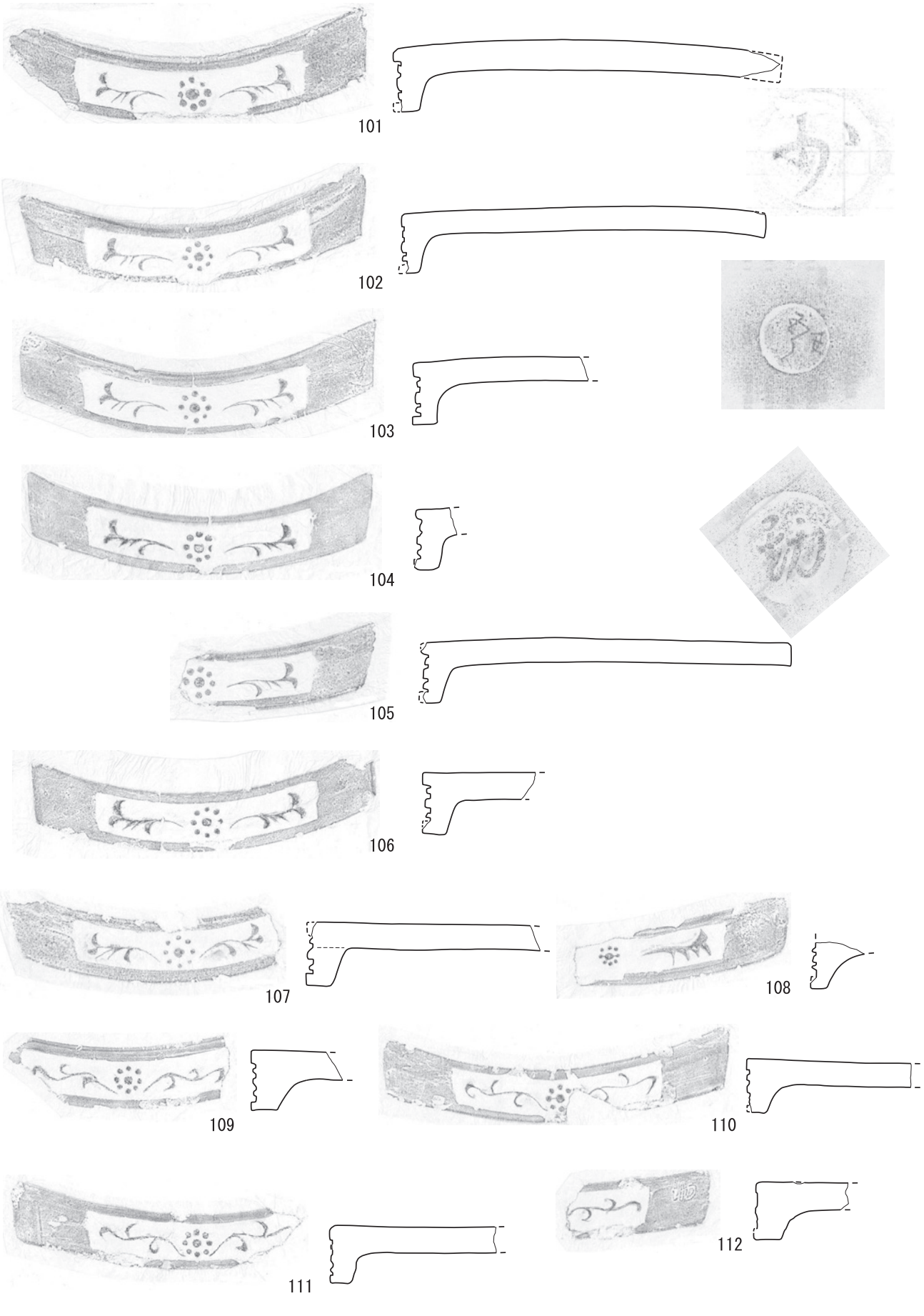


97

第202図　軒平瓦実測図５（１／４）

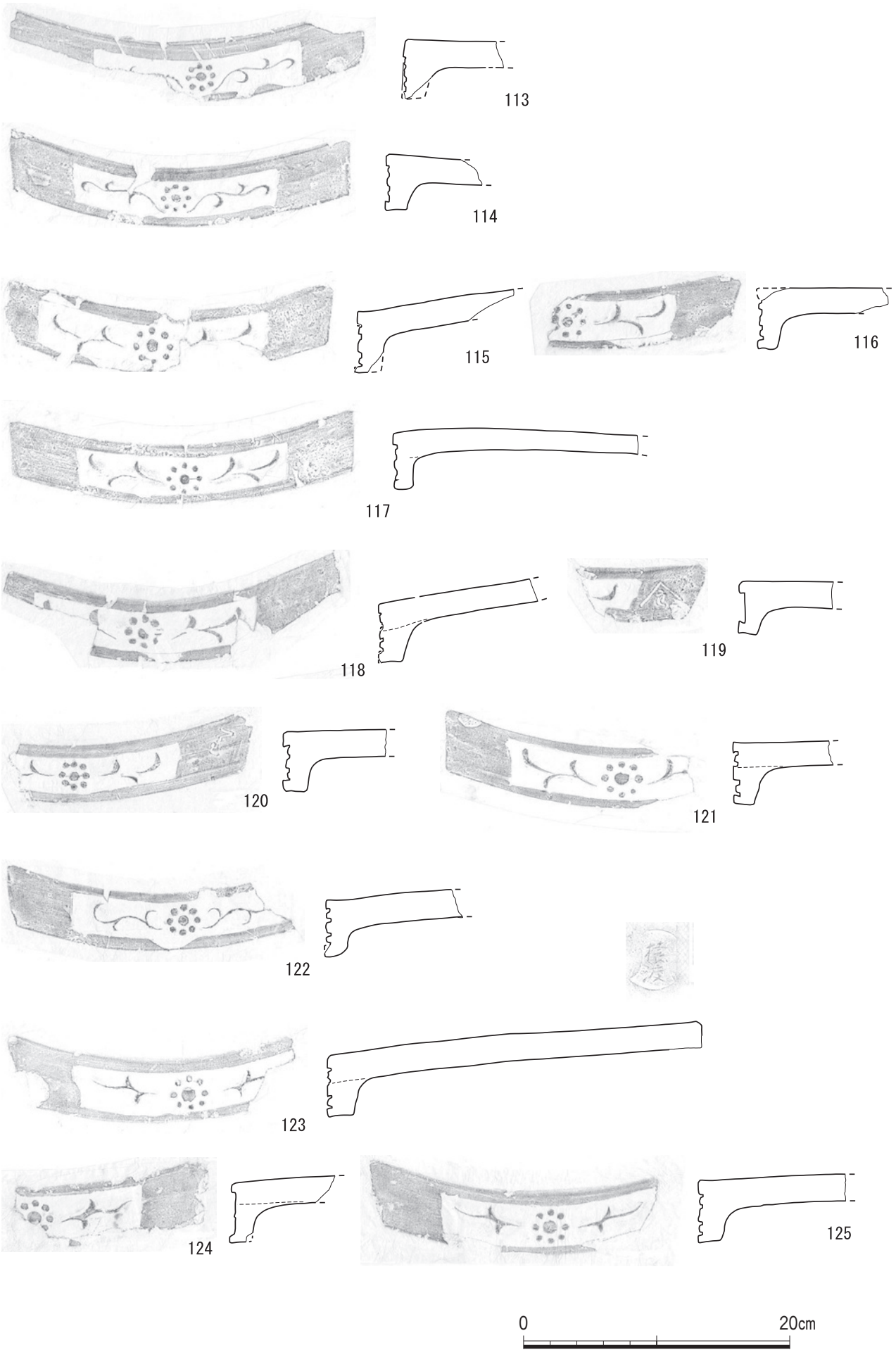


第203図　軒平瓦実測図６（１／４）

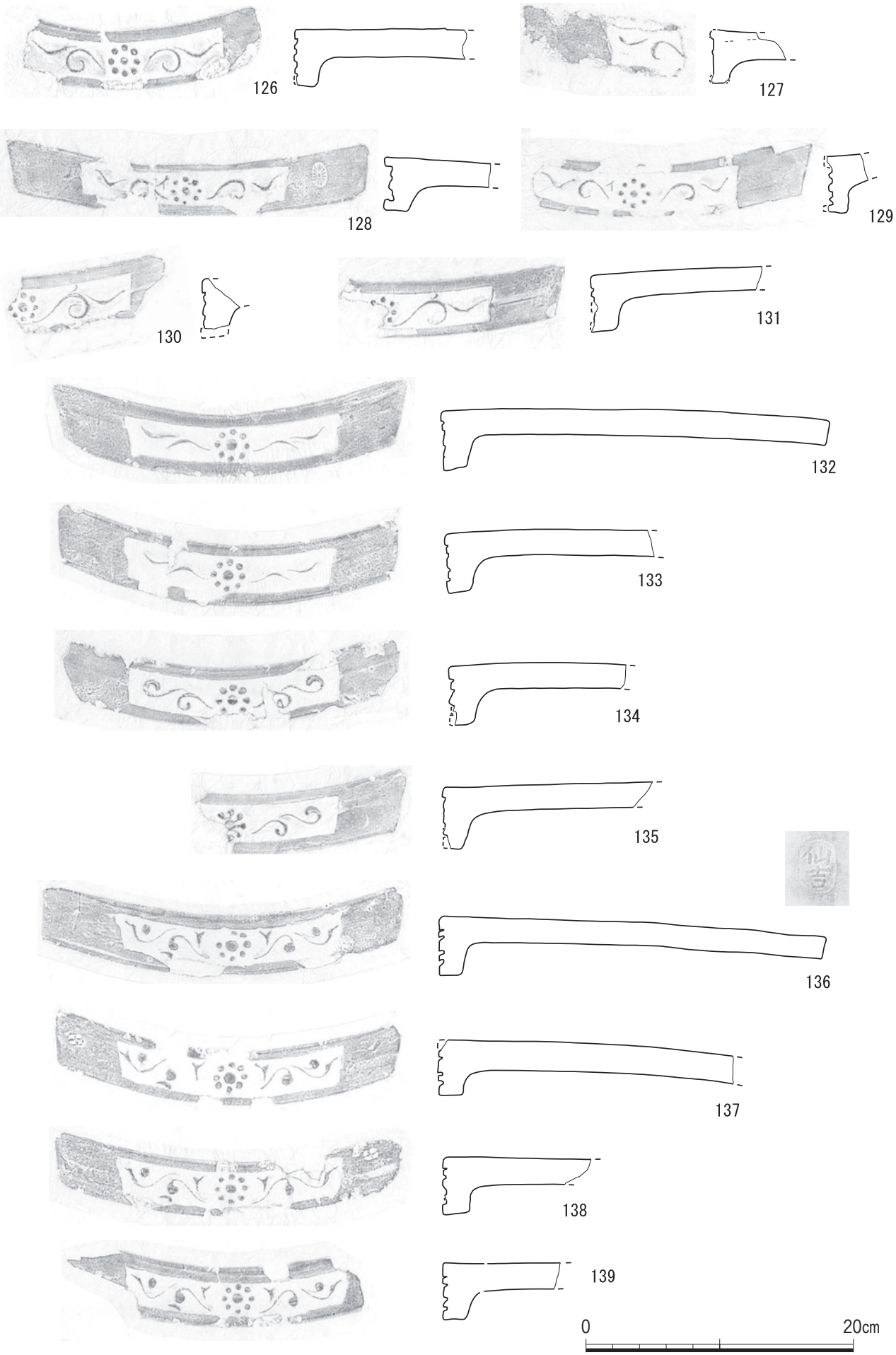


※刻印は１／２

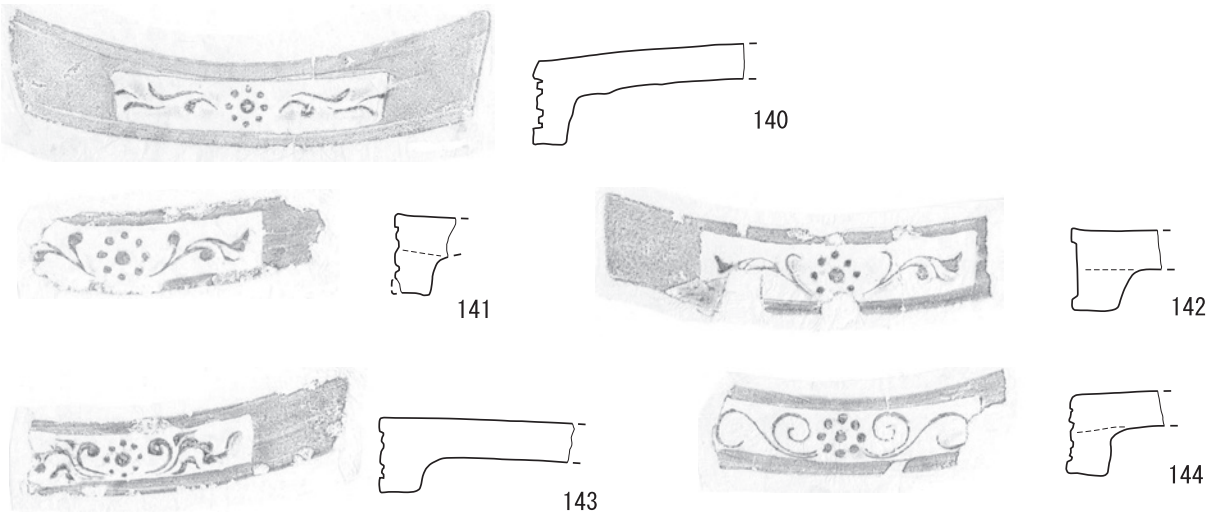
第204図　軒平瓦実測図７（１／４）



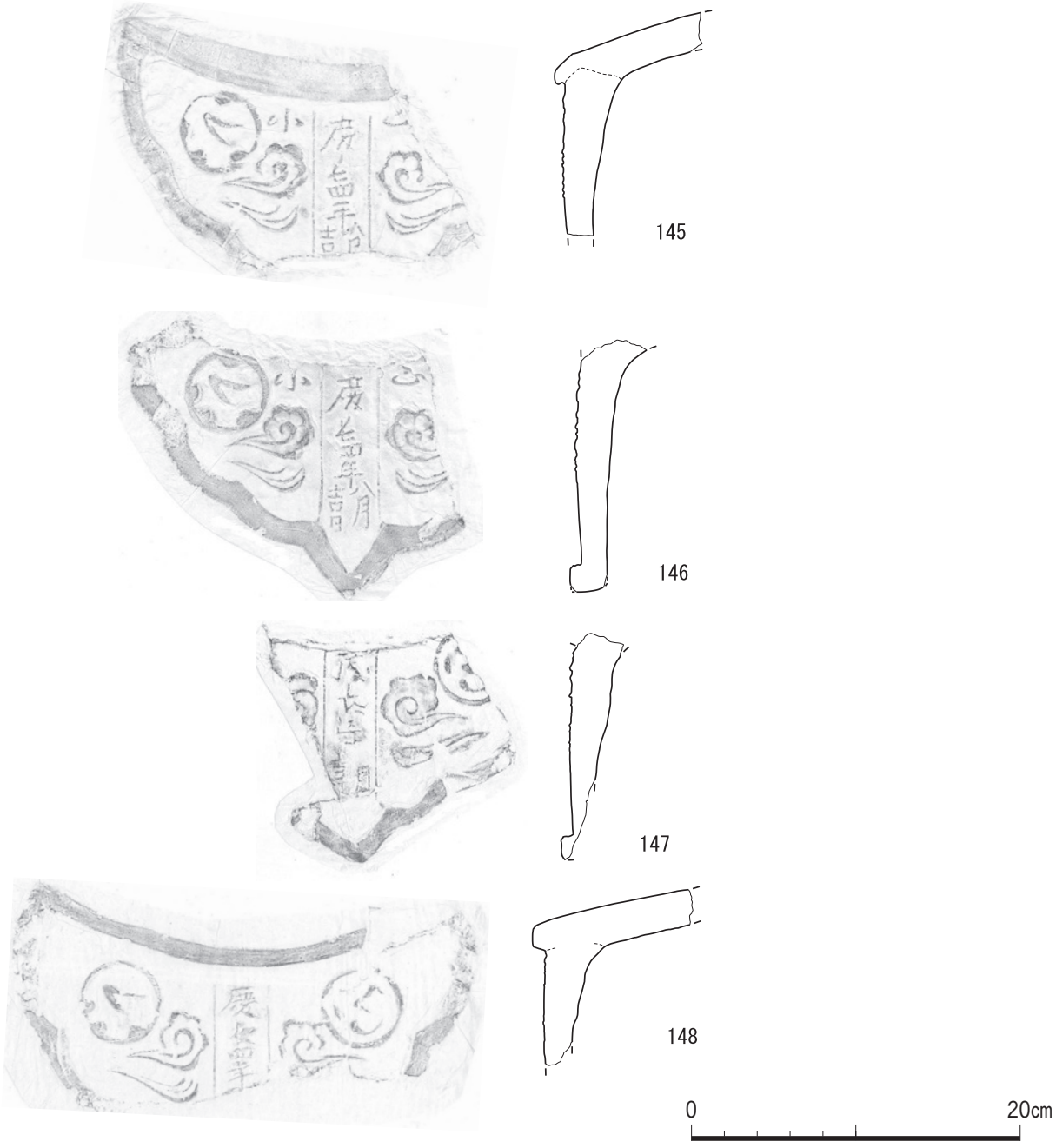
第205図　軒平瓦実測図８（１／４）



第206図　軒平瓦実測図９（１／４）



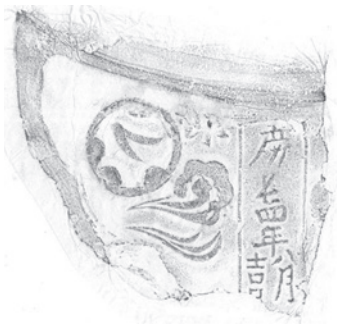
第207図　軒平瓦実測図10（１／４）



第208図　滴水瓦実測図１（１／４）

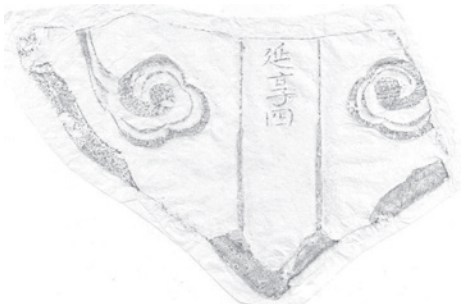
149

150



151

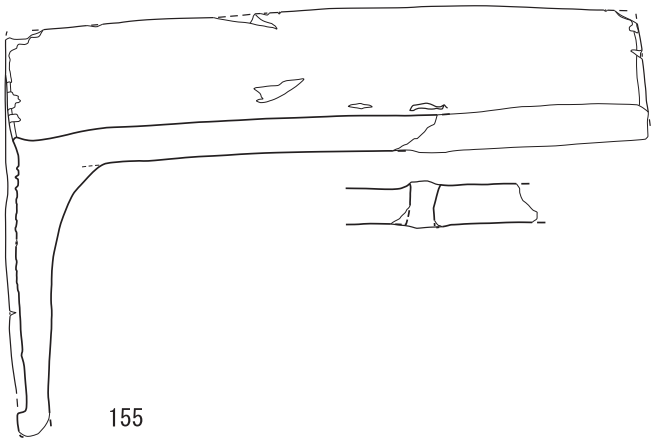
152



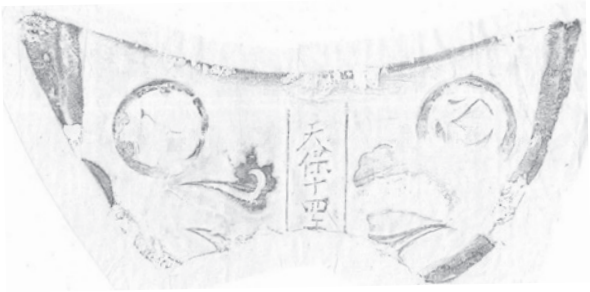
153

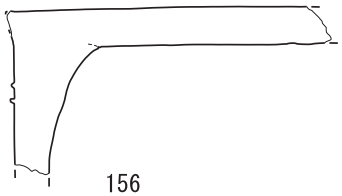
154

第209図　滴水瓦実測図２（１／４）

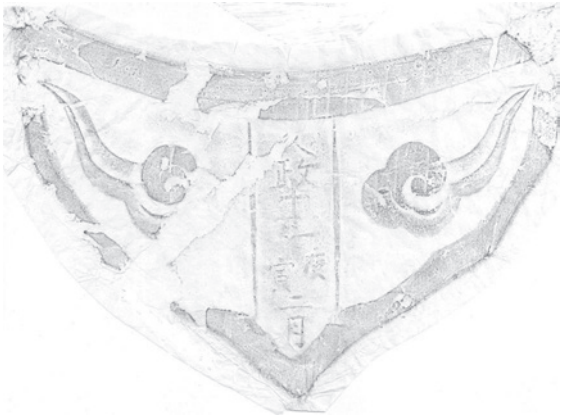


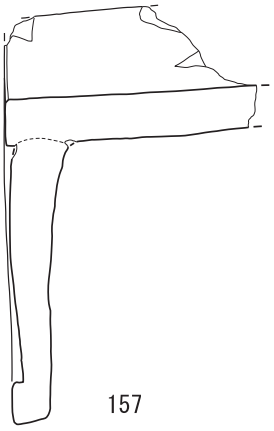
155



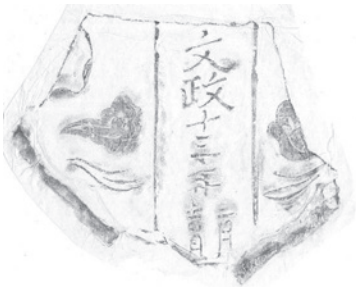


156

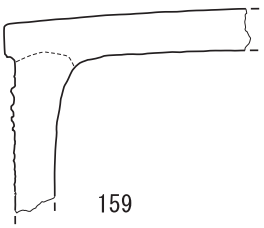




157



158



159

0 20cm

第210図　滴水瓦実測図３（１／４）

160

161

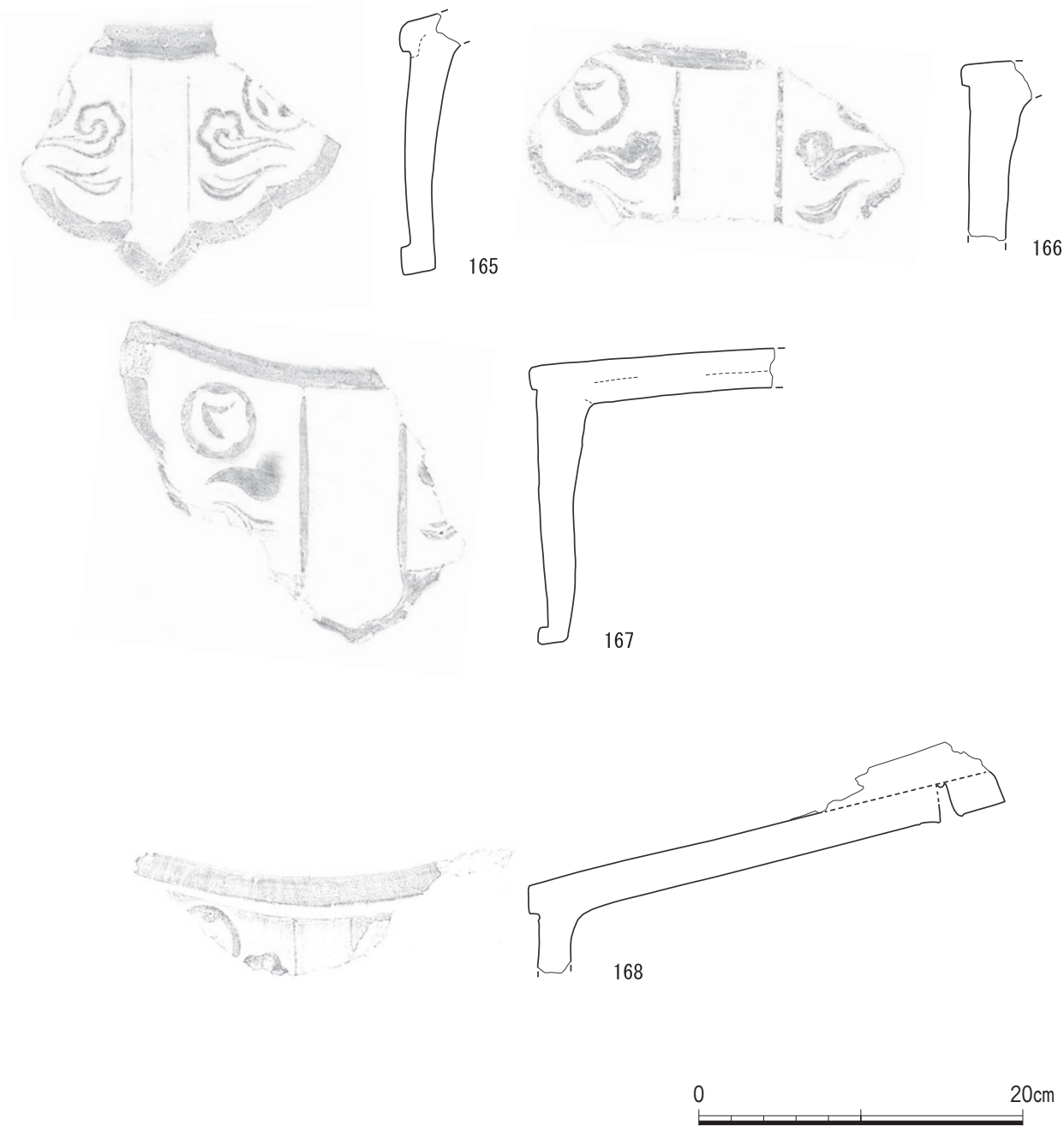
162

163

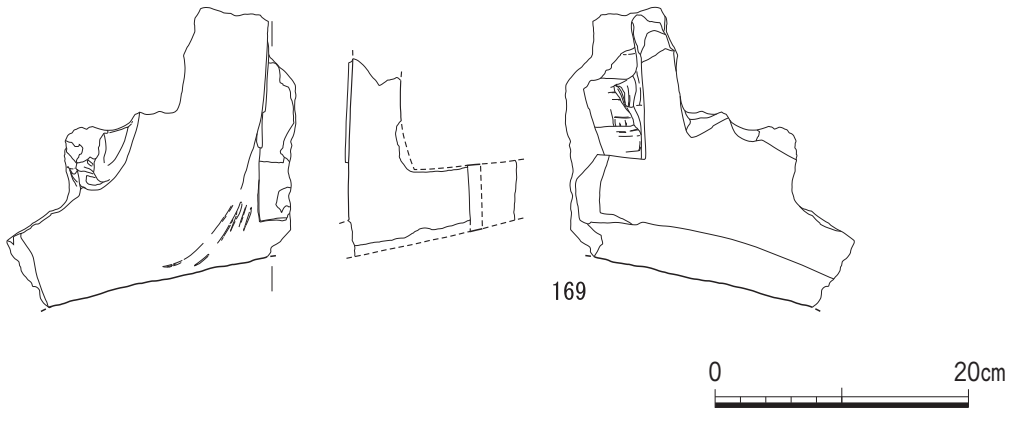
164

0 20cm

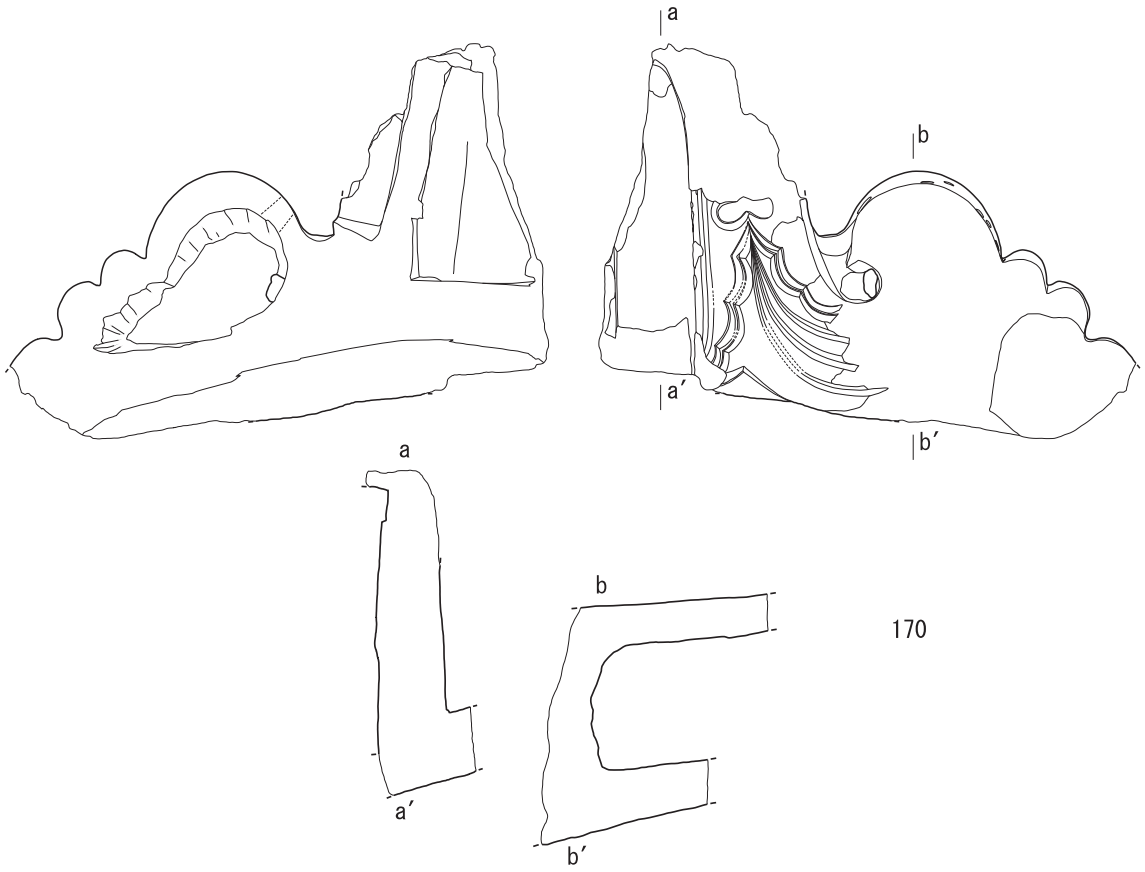
第211図　滴水瓦実測図４（１／４）

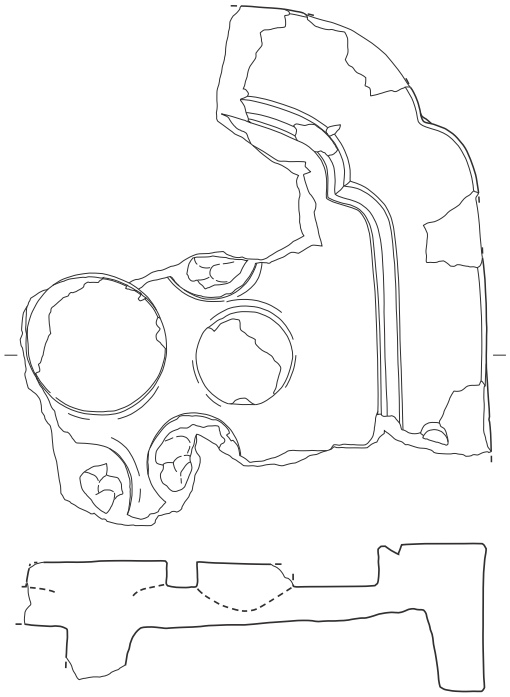


第212図　滴水瓦実測図５（１／４）



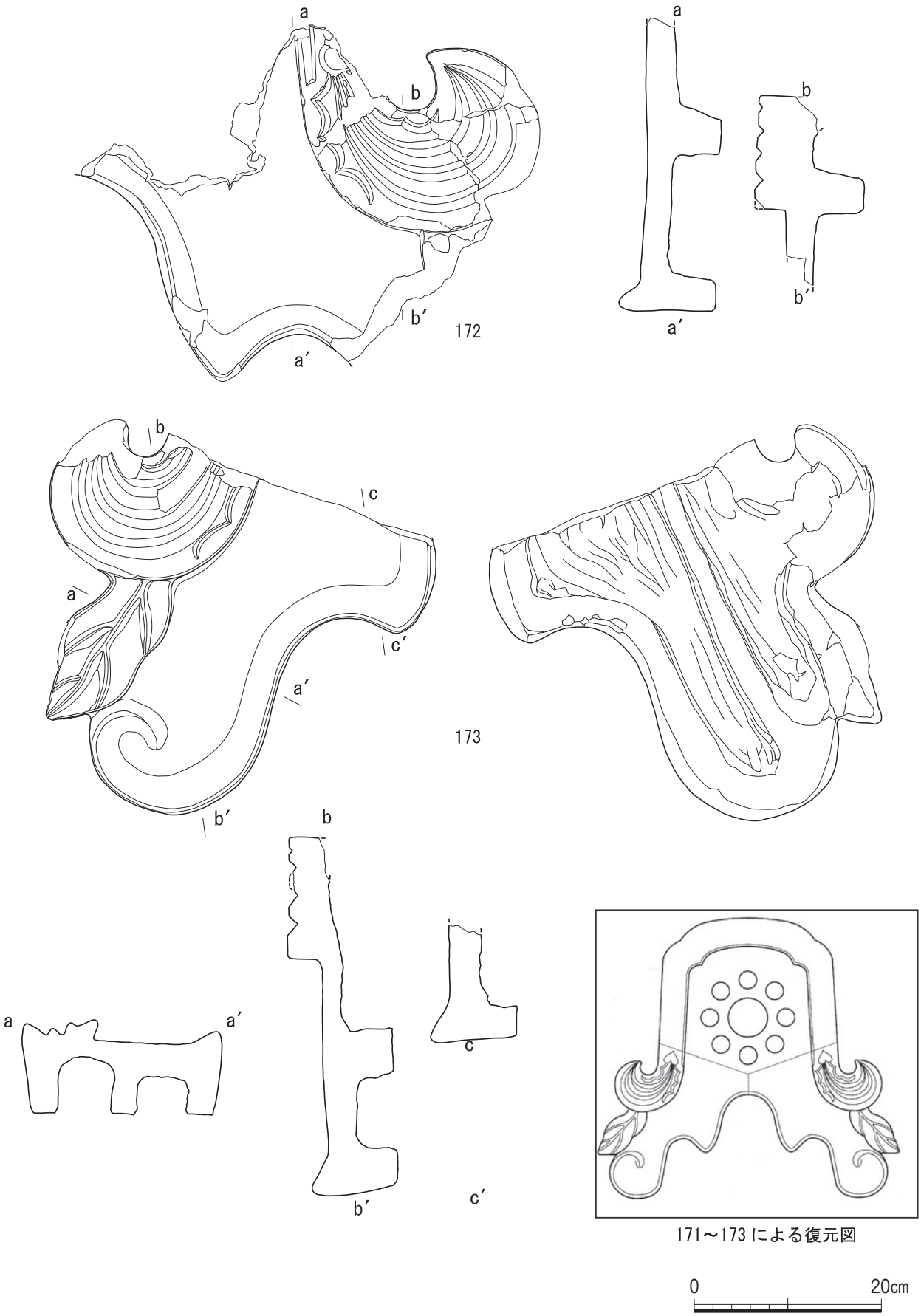
第213図　鬼瓦実測図１（１／６）



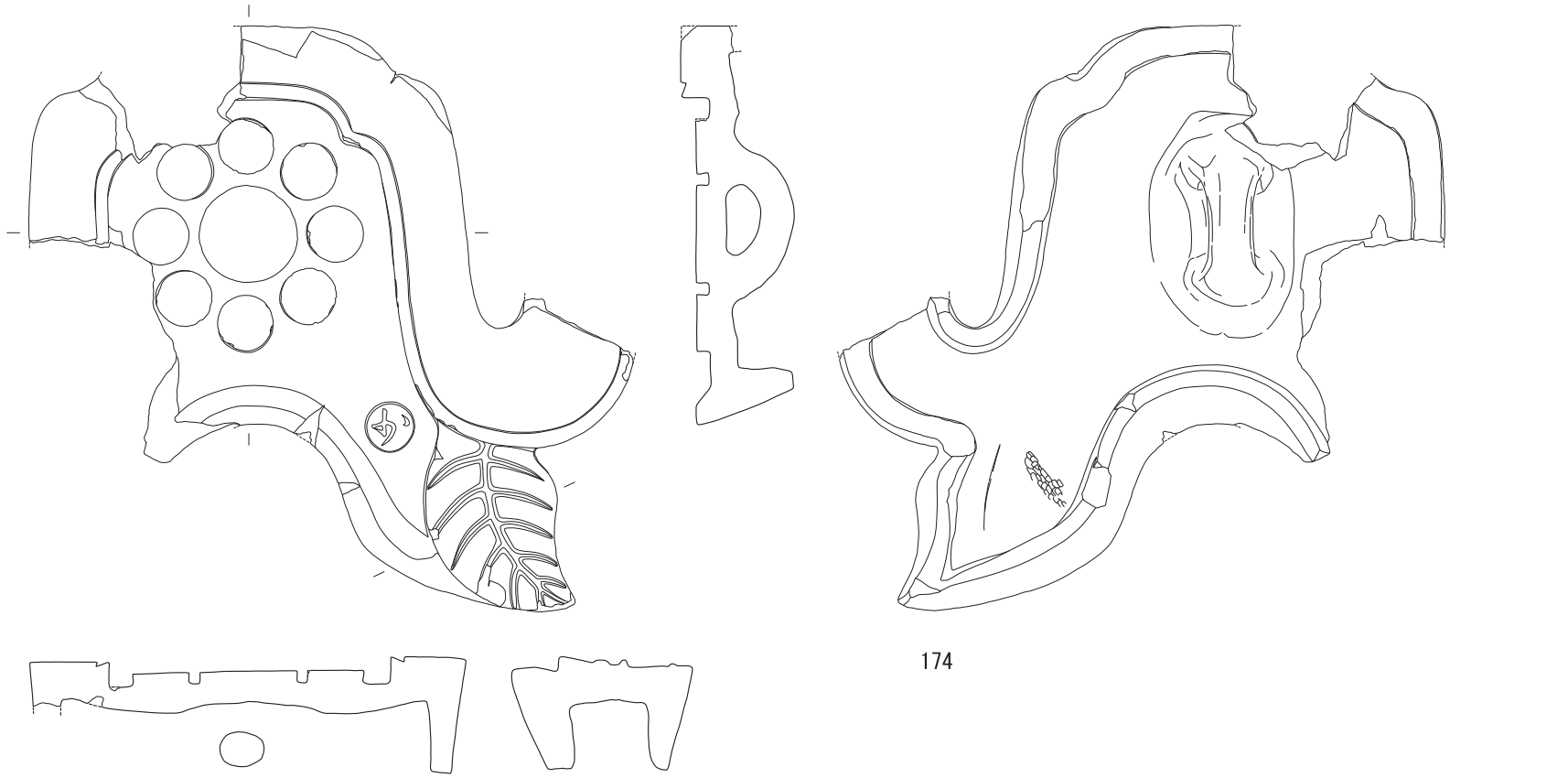


0 20cm

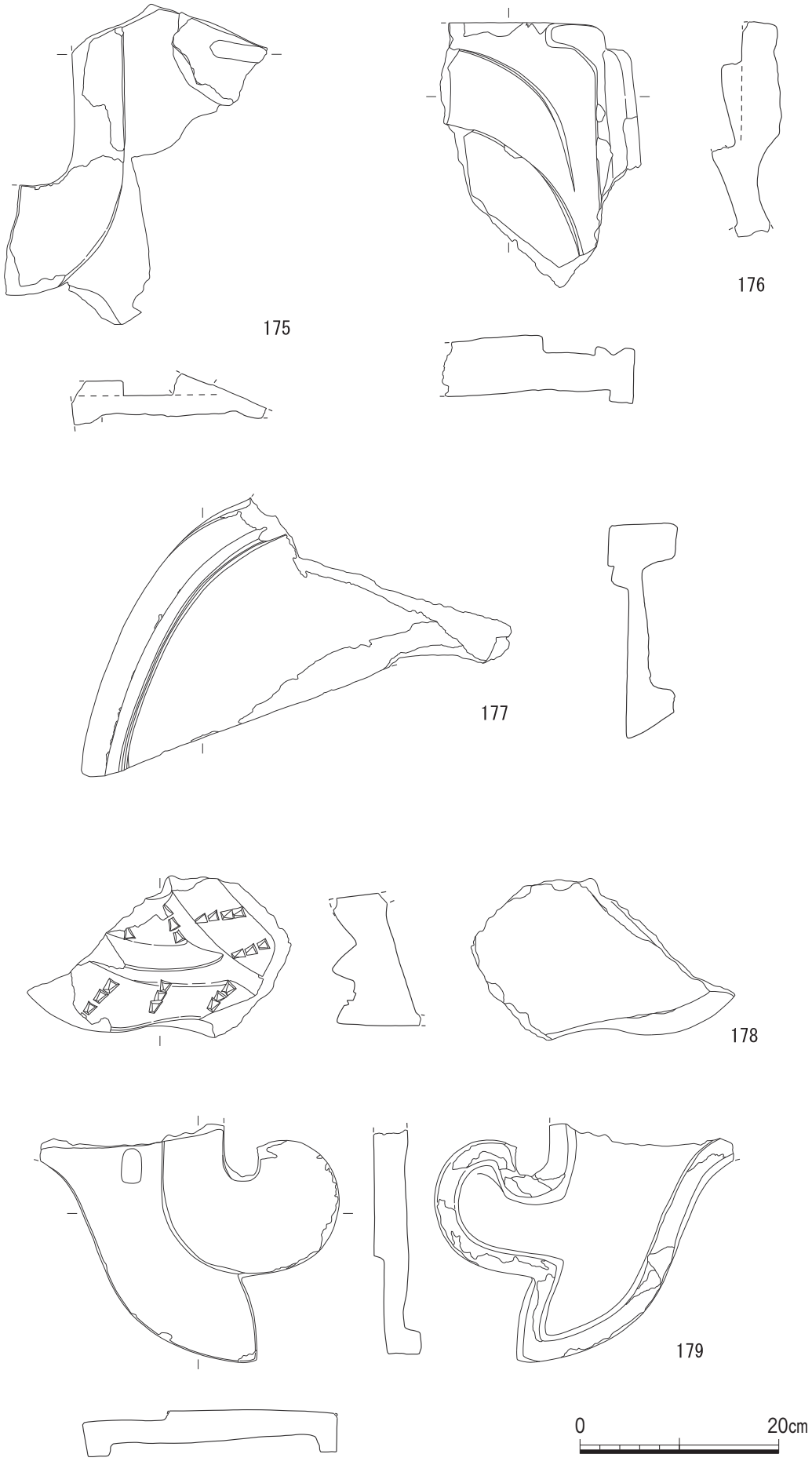
第214図　鬼瓦実測図２（１／６）



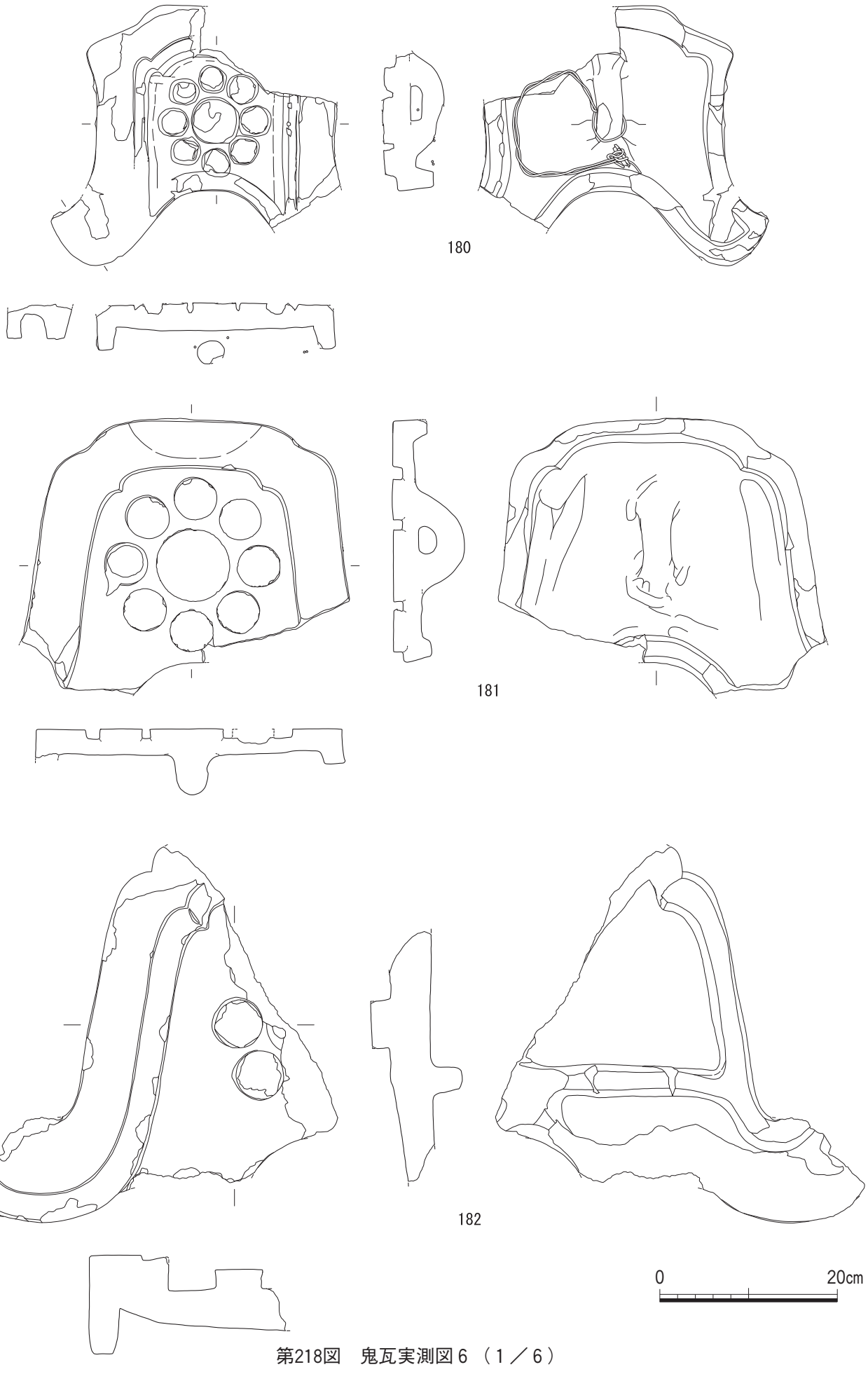
第215図　鬼瓦実測図３（１／６）



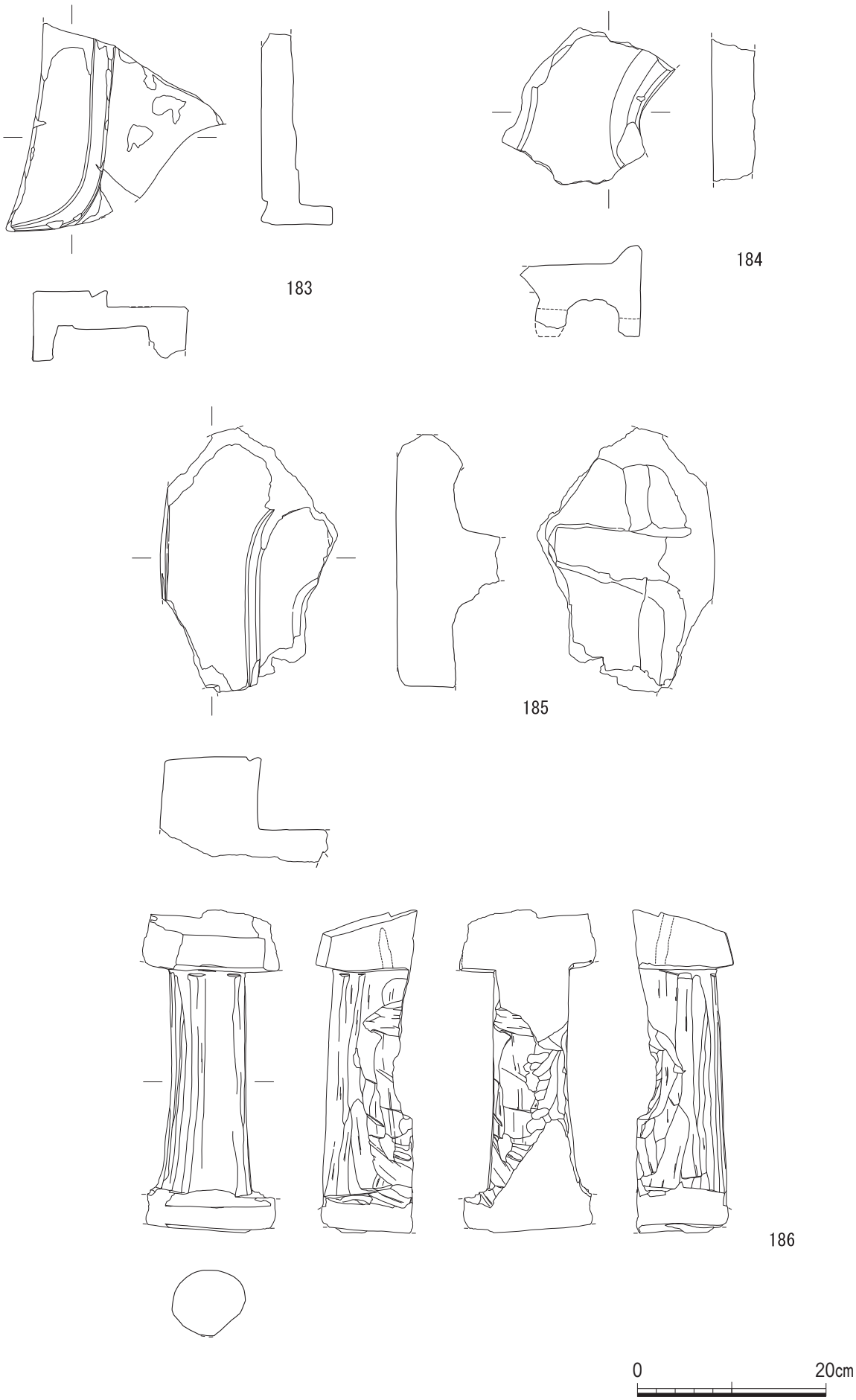
第216図　鬼瓦実測図４（１／６）



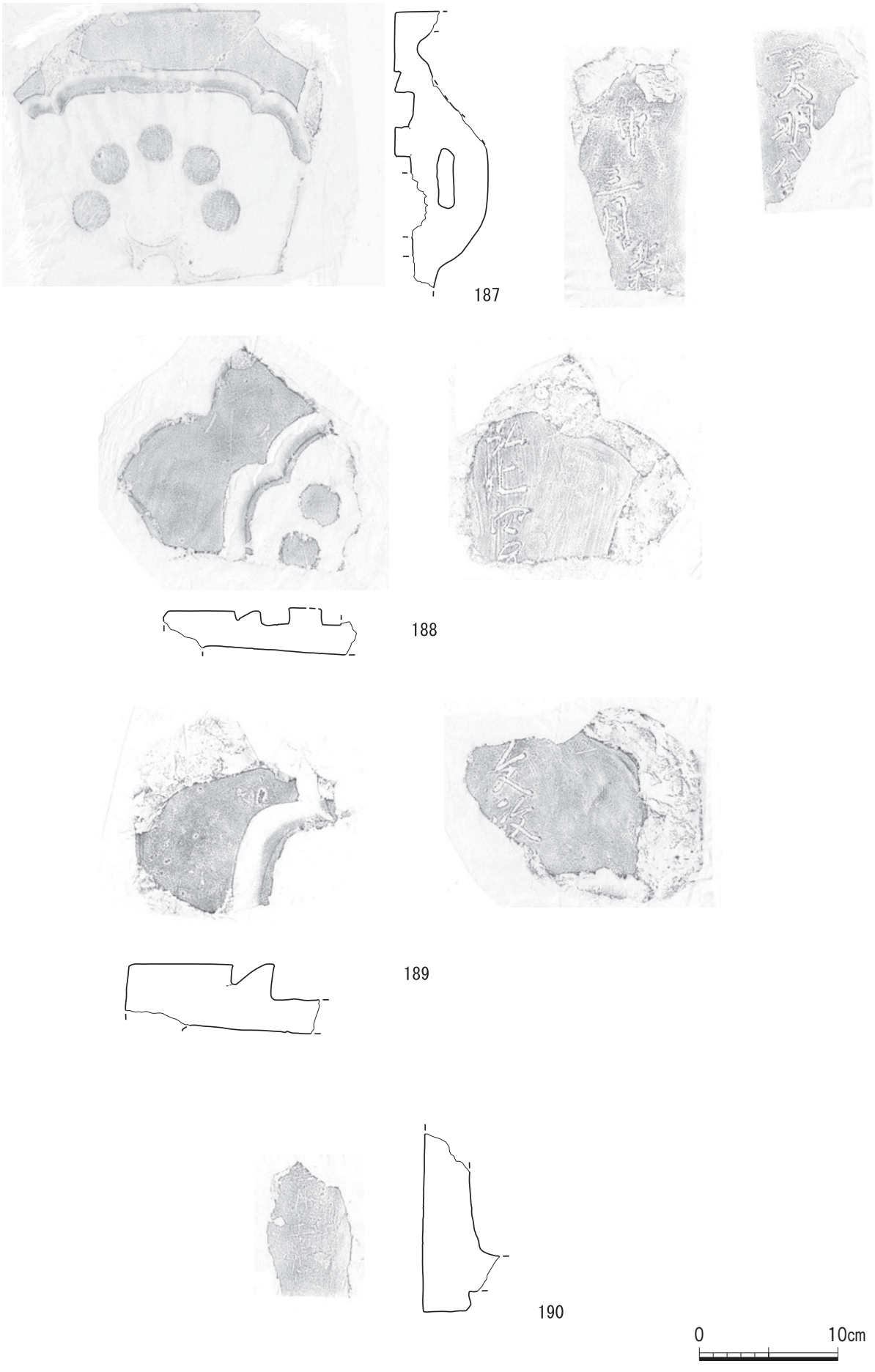
第217図　鬼瓦実測図５（１／６）



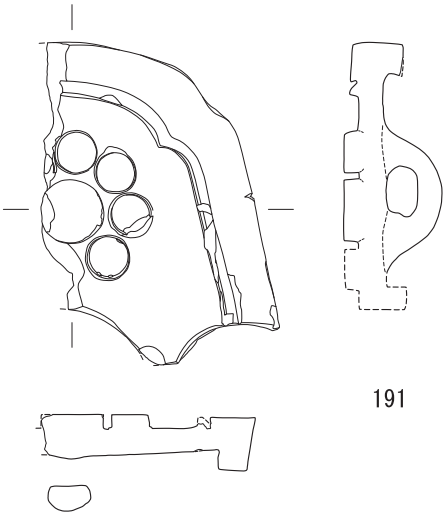
第218図　鬼瓦実測図６（１／６）



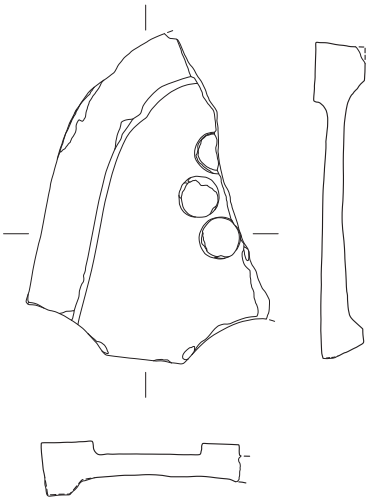
第219図　鬼瓦実測図７（１／６）



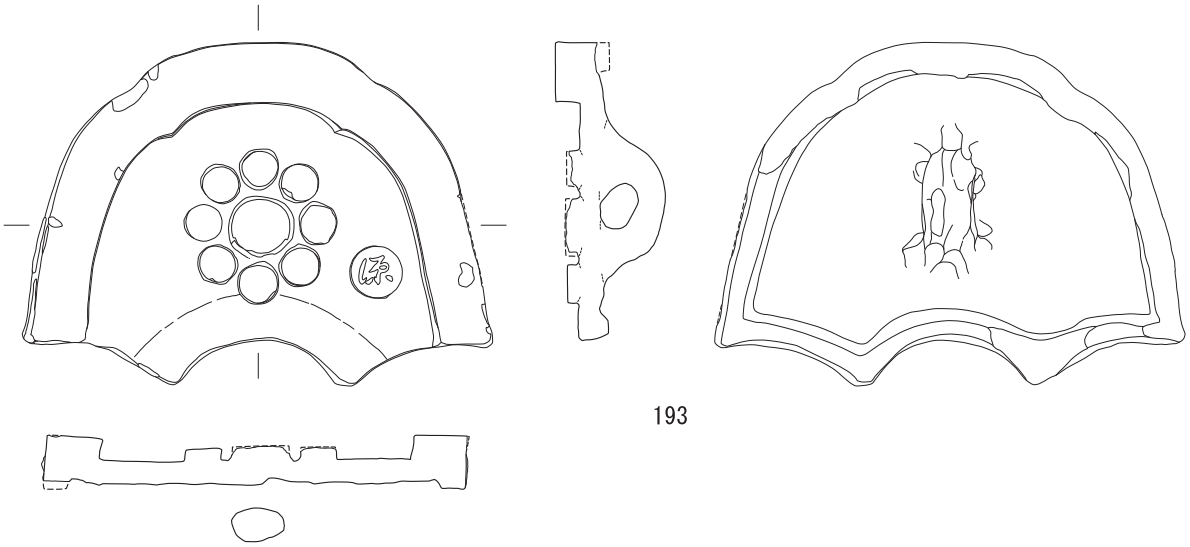
第220図　鬼瓦実測図８（１／４）



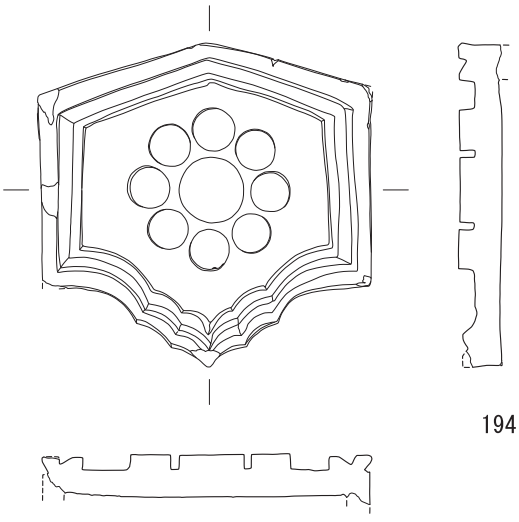
191



192



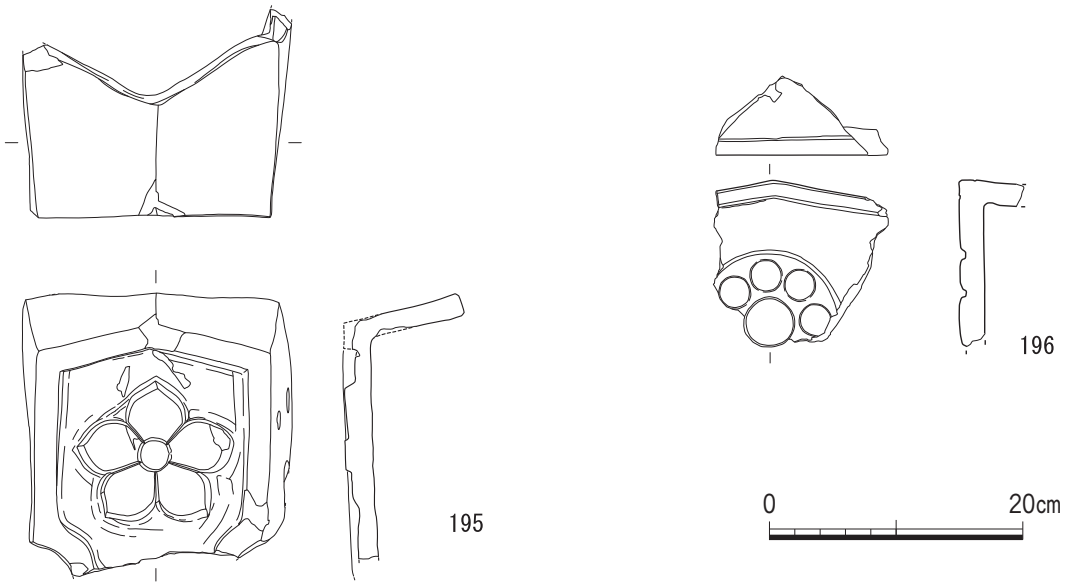
193



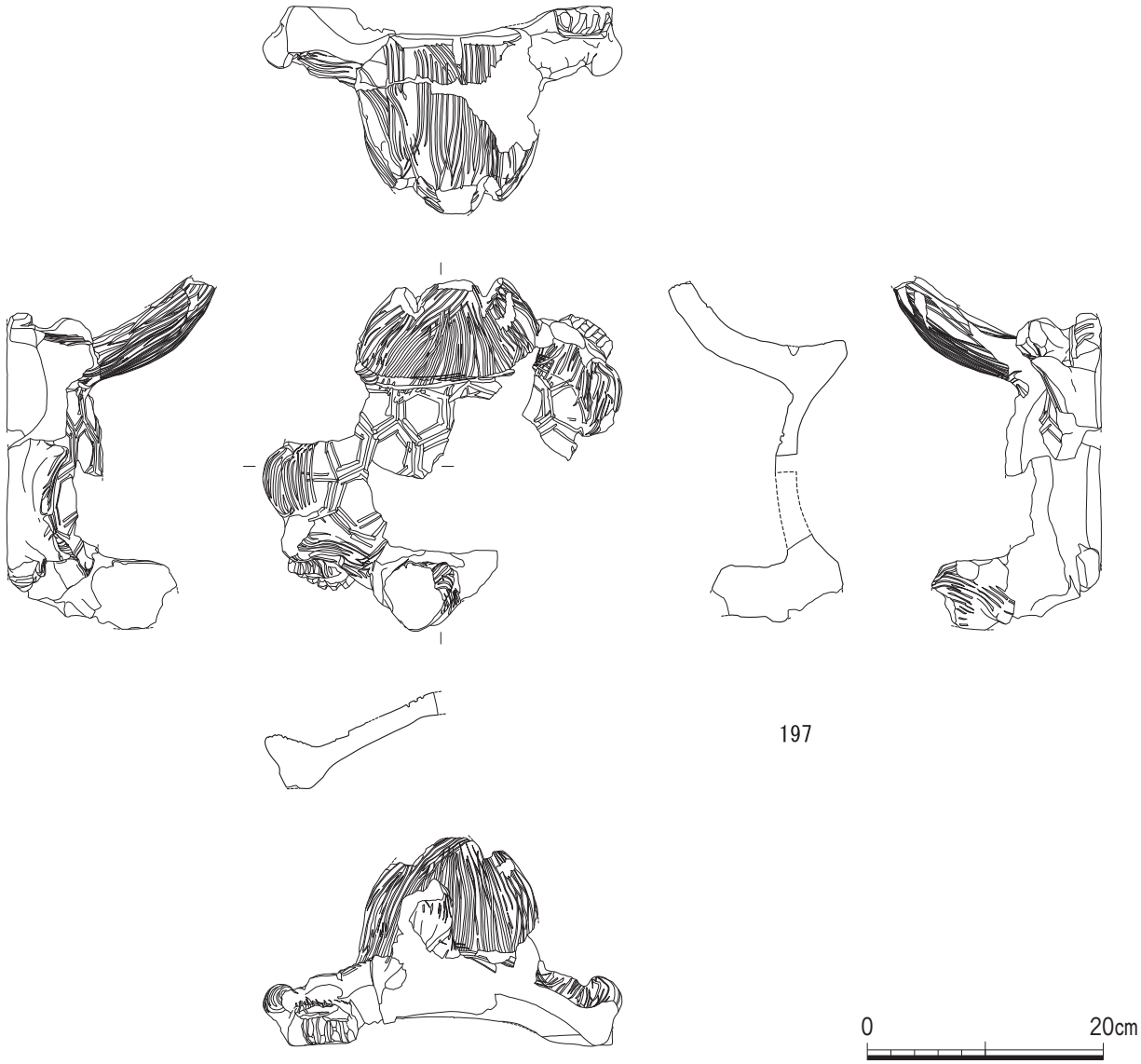
194

0 20cm

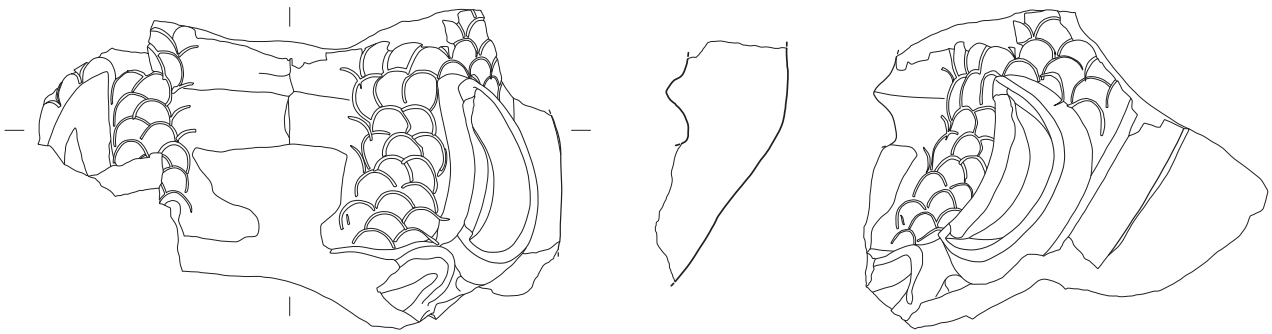
第221図　隅木鬼瓦実測図（１／６）



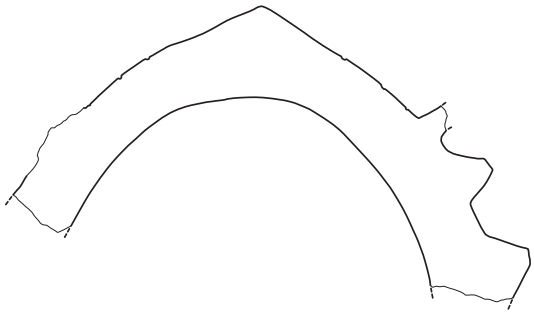
第222図　隅木蓋瓦実測図（１／４）

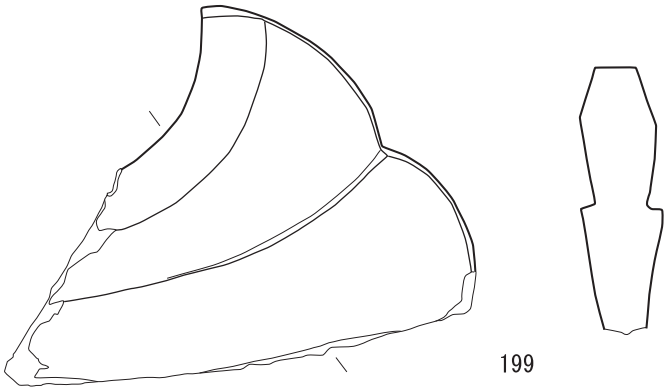


第223図　留蓋瓦実測図（１／６）

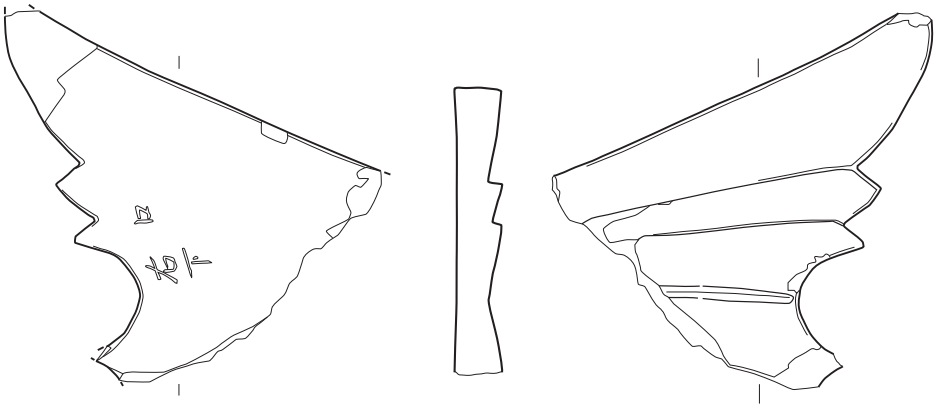


198





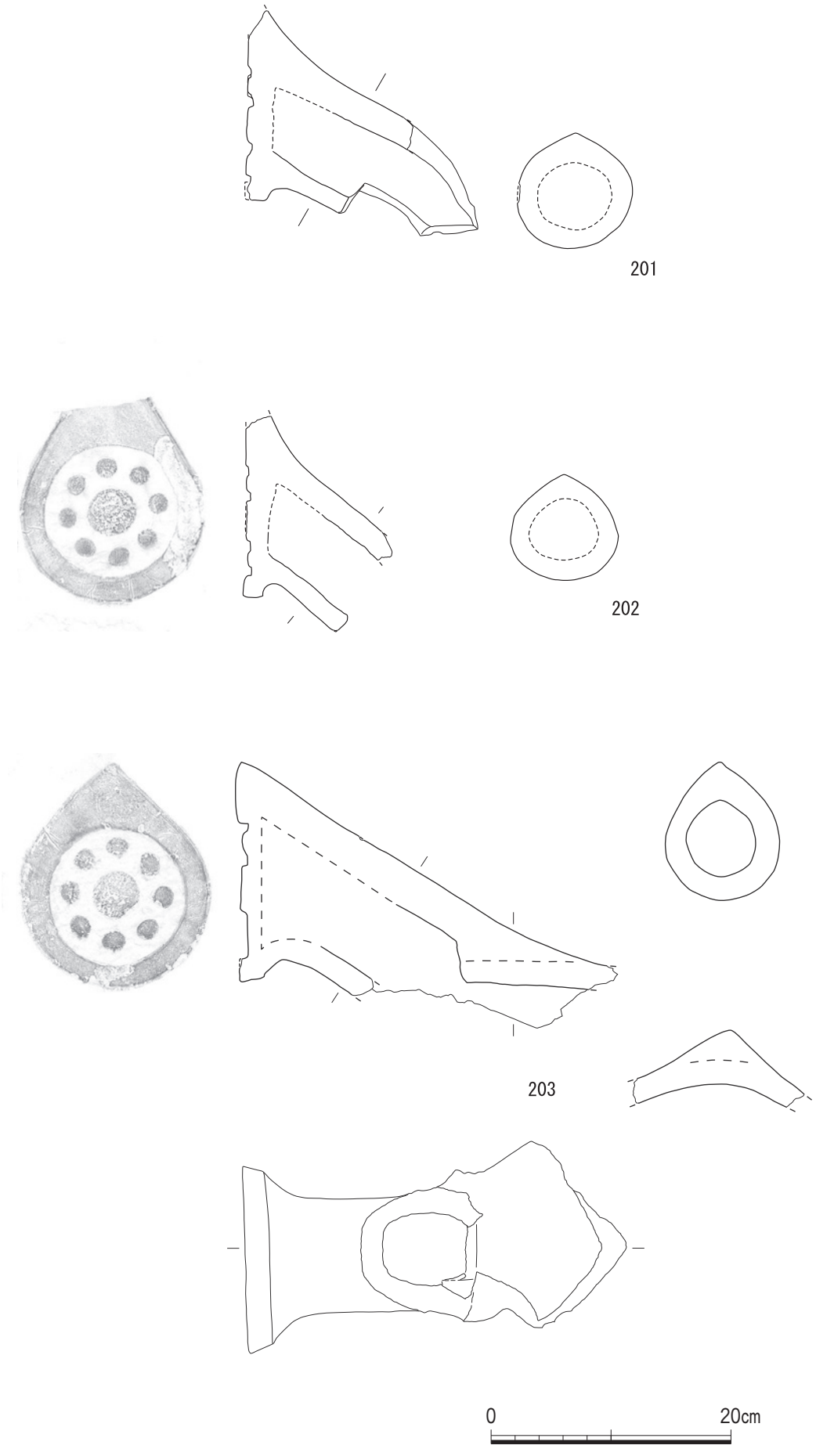
199



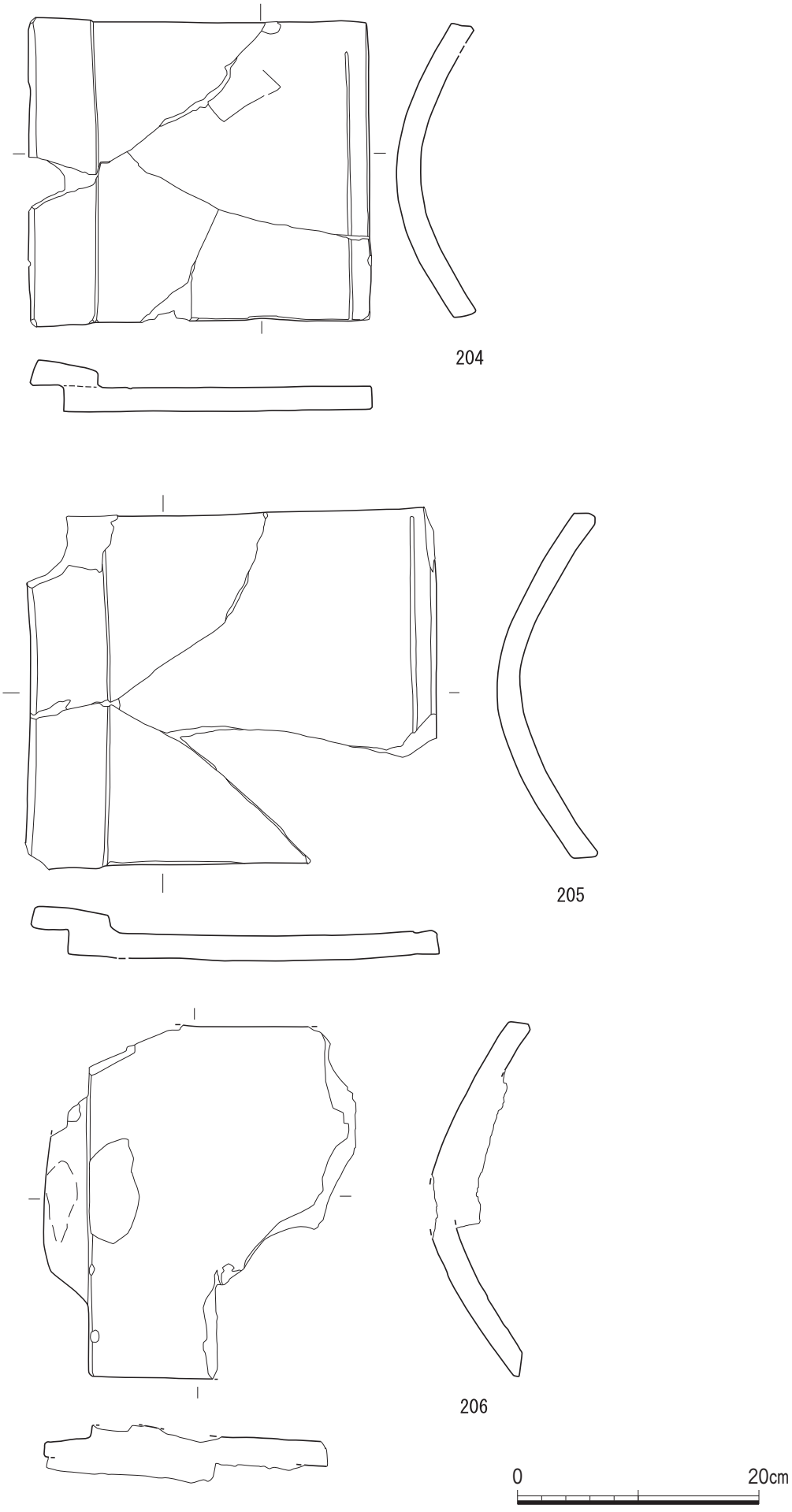
200

0 10cm

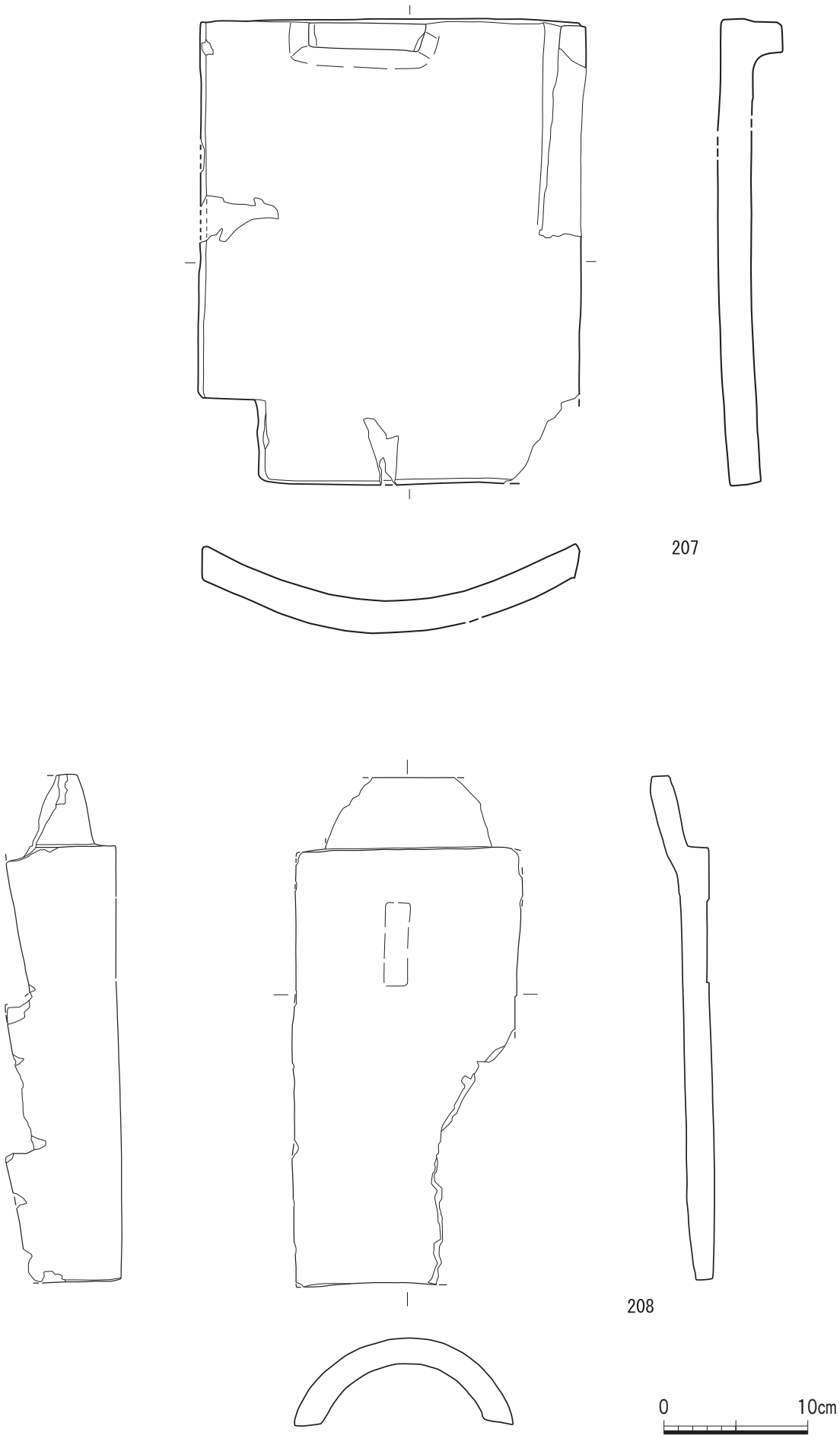
第224図　鯱瓦実測図（１／４）



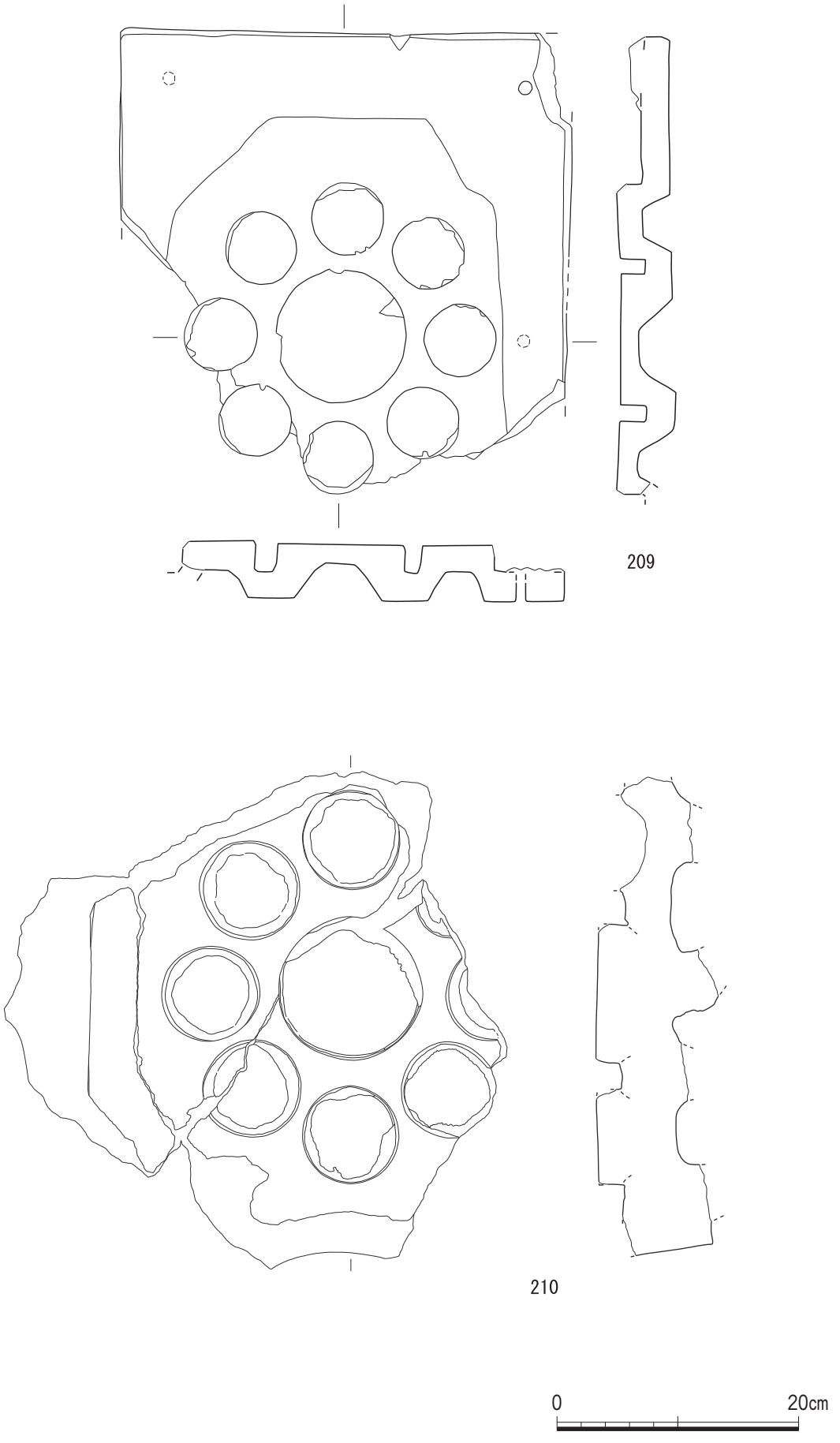
第225図　鳥衾瓦実測図（１／５）



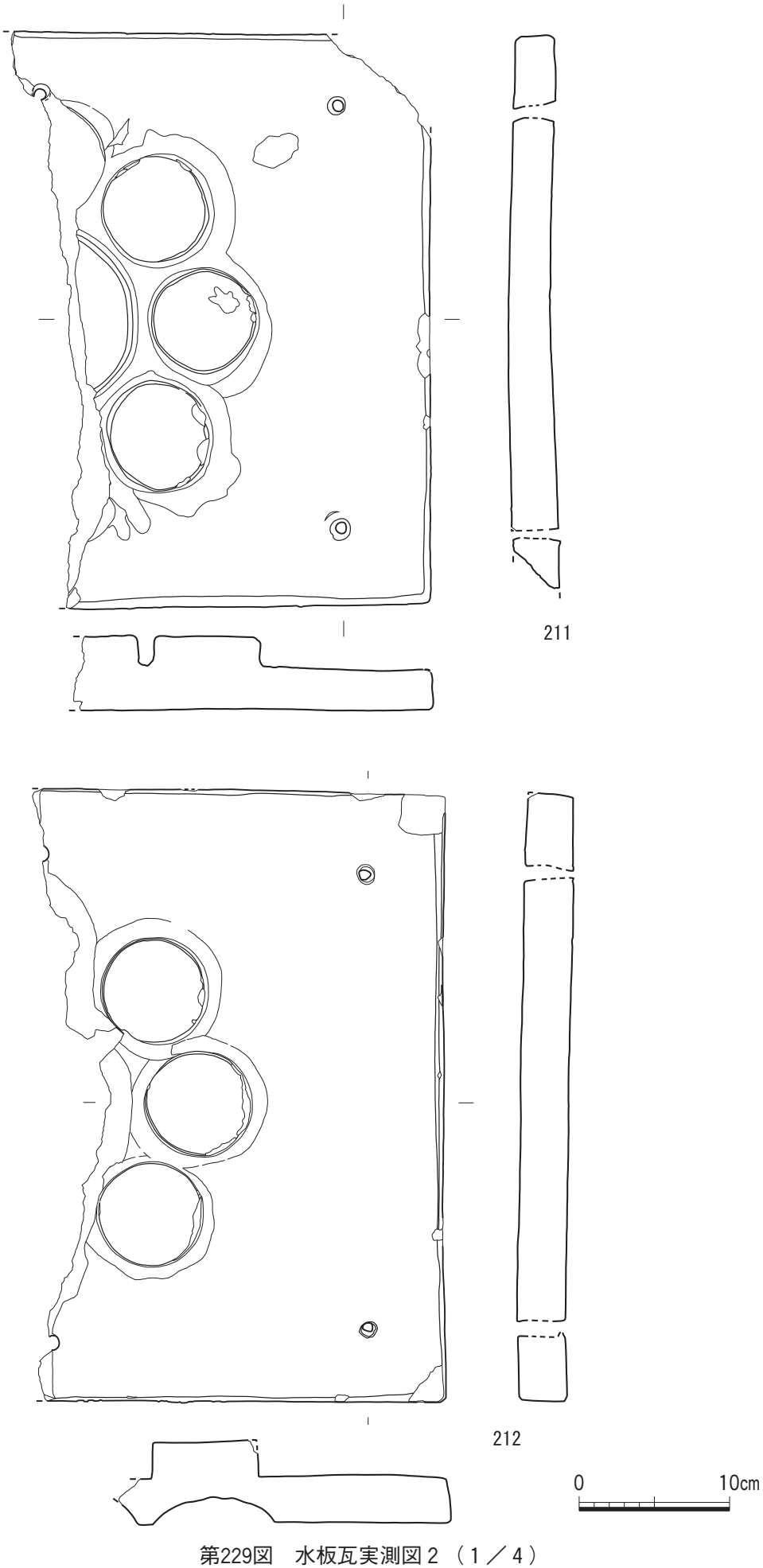
第226図　雁振瓦実測図（１／６）



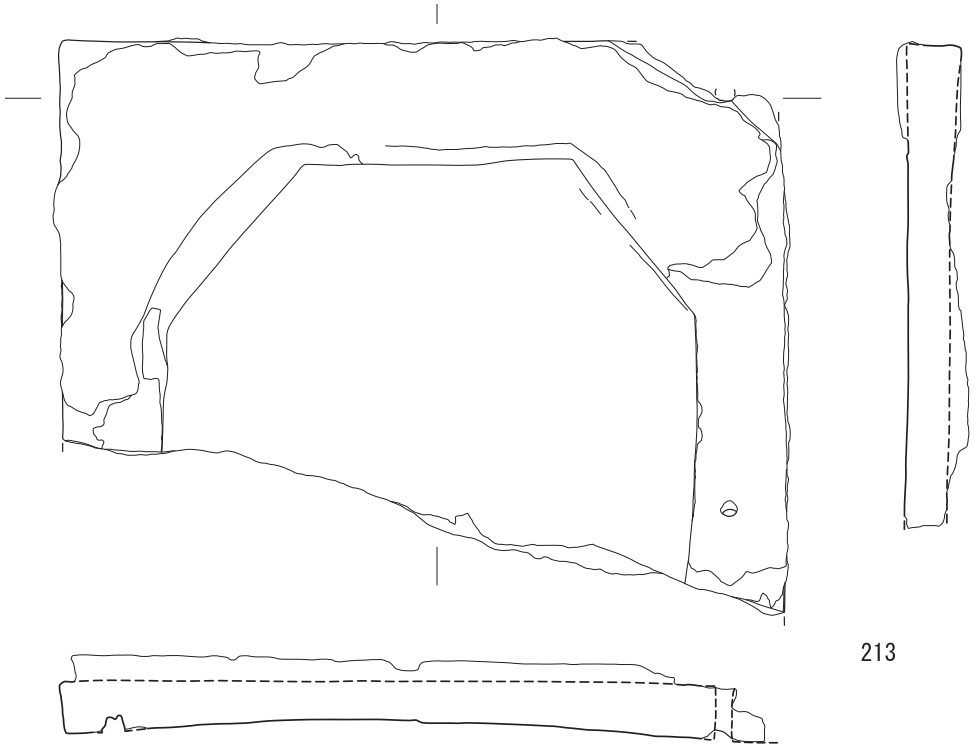
第227図　掛瓦実測図（１／４）

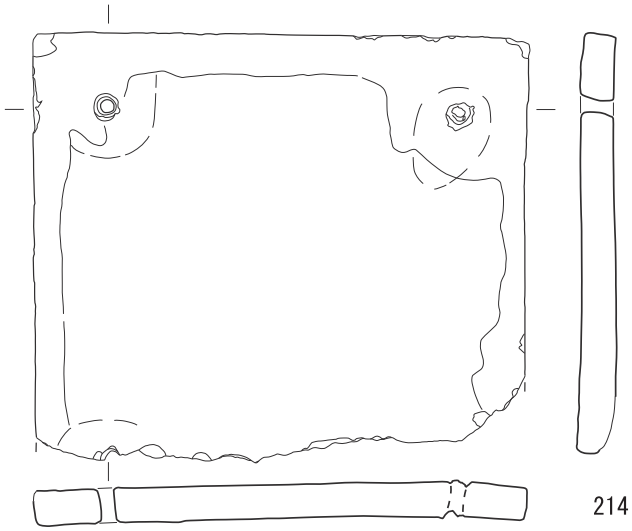


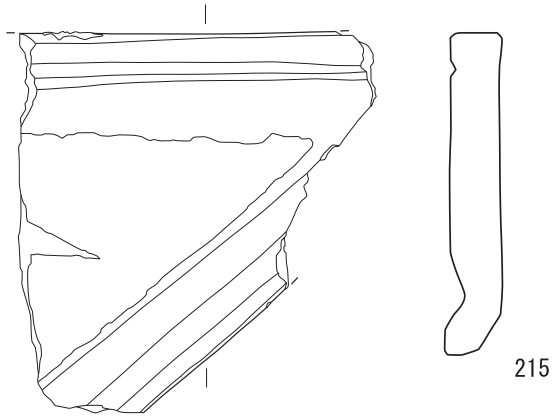
第228図　水板瓦実測図１（１／５）



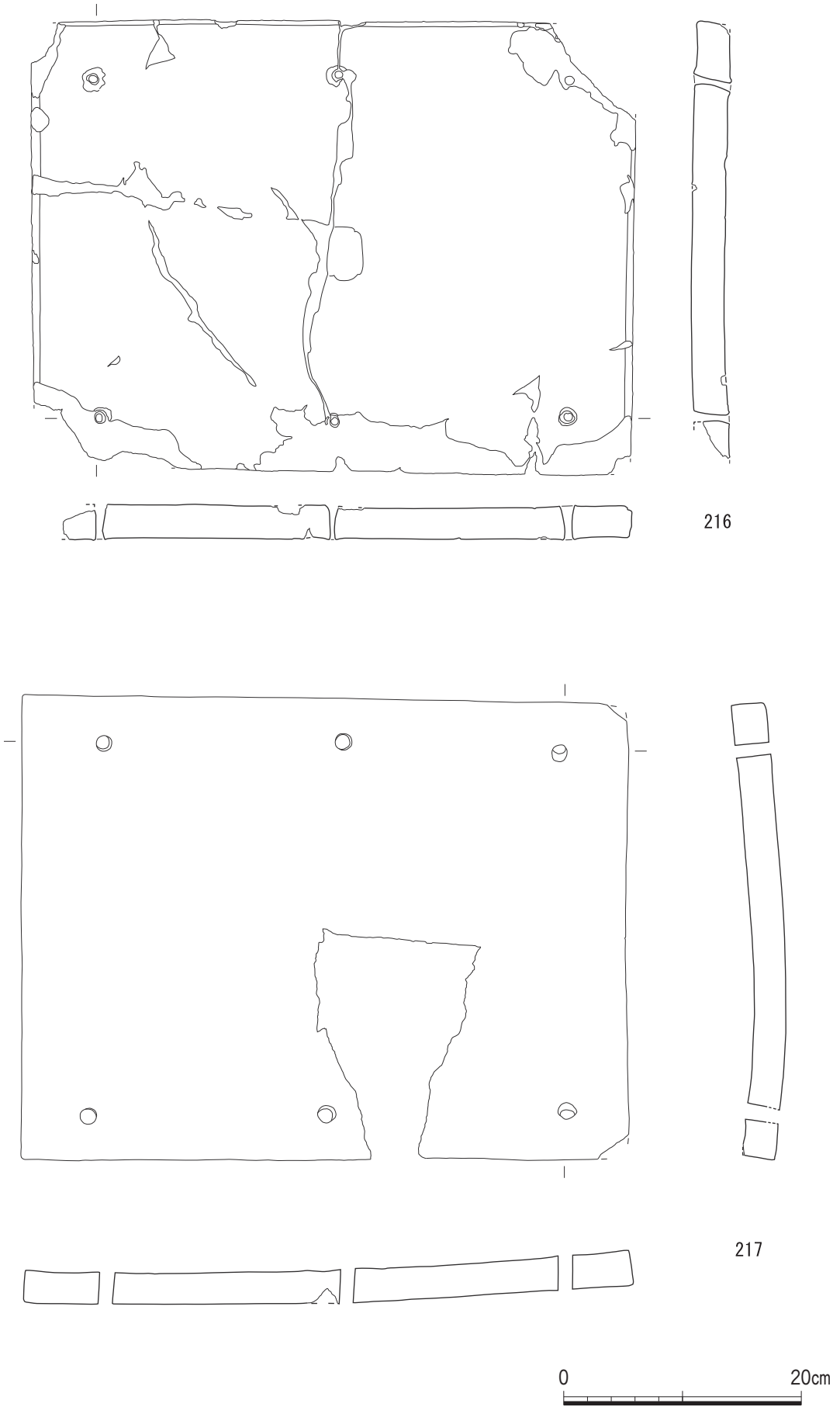
第229図　水板瓦実測図２（１／４）



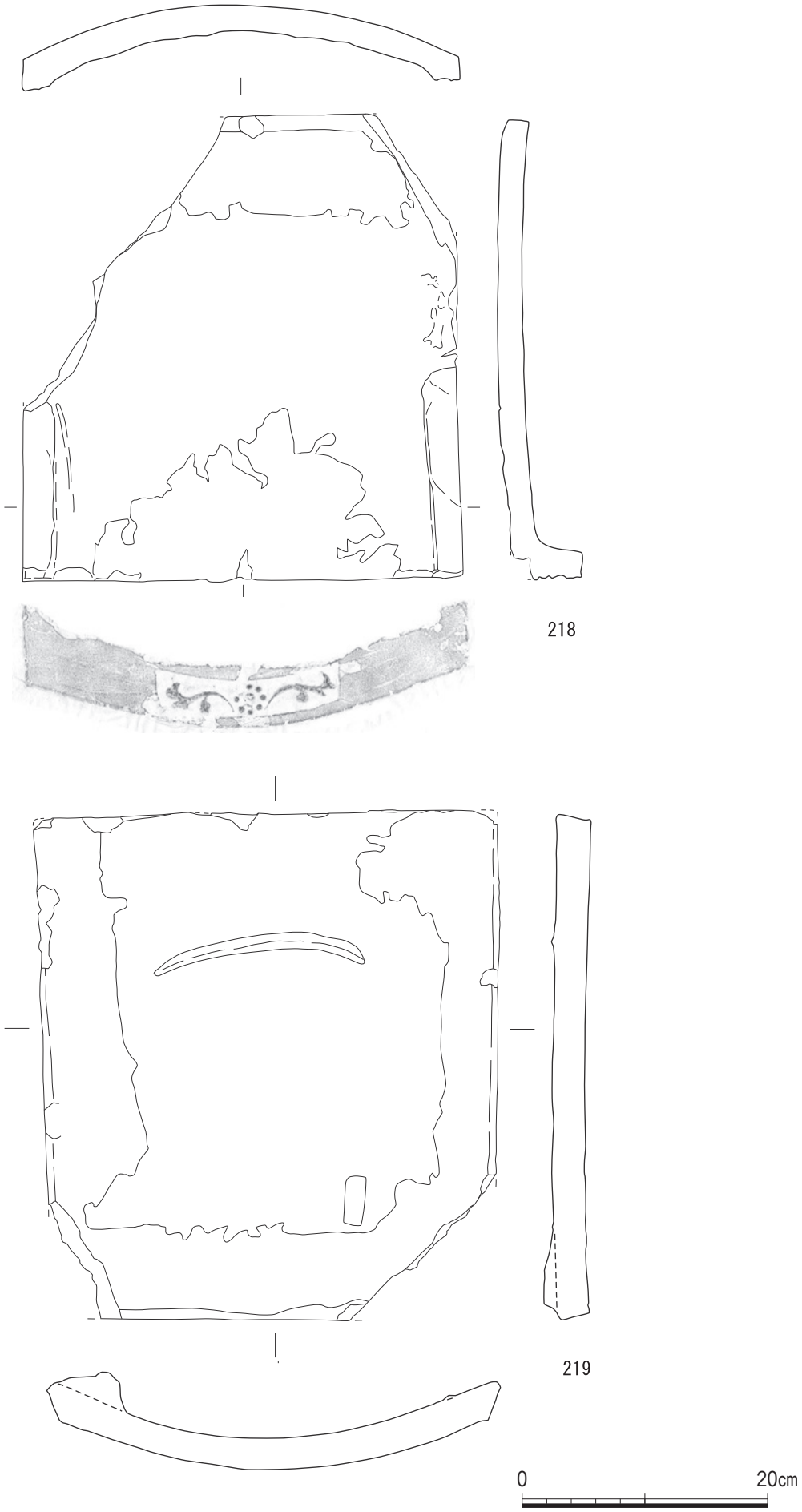




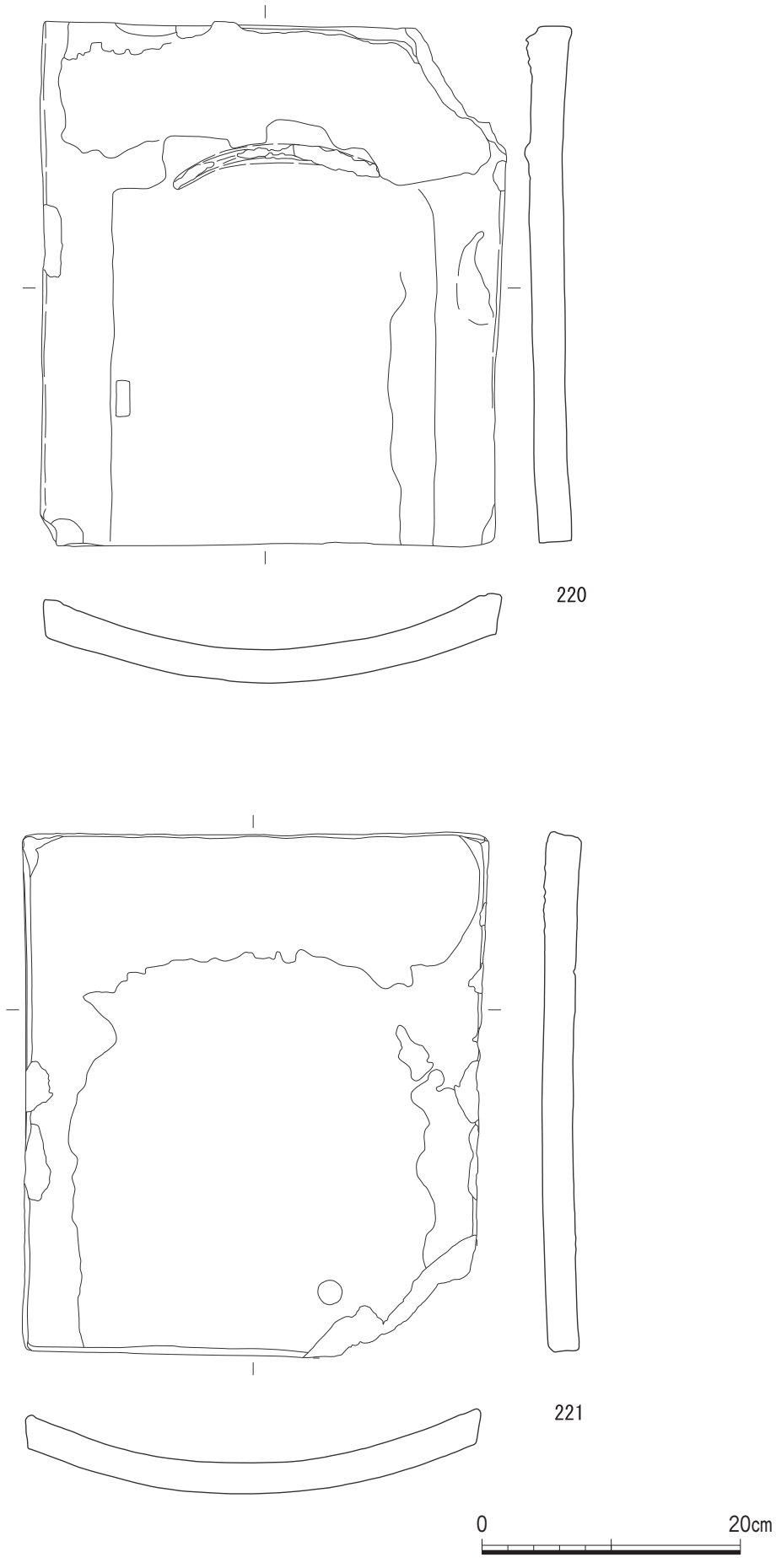
第230図　板瓦実測図１（１／４）



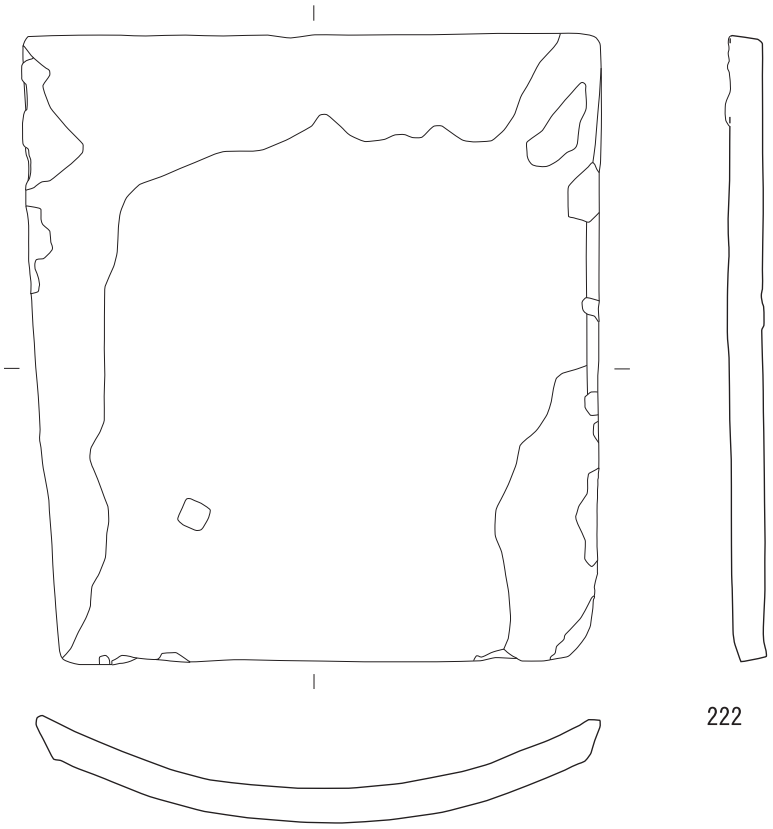
第231図　板瓦実測図２（１／４）

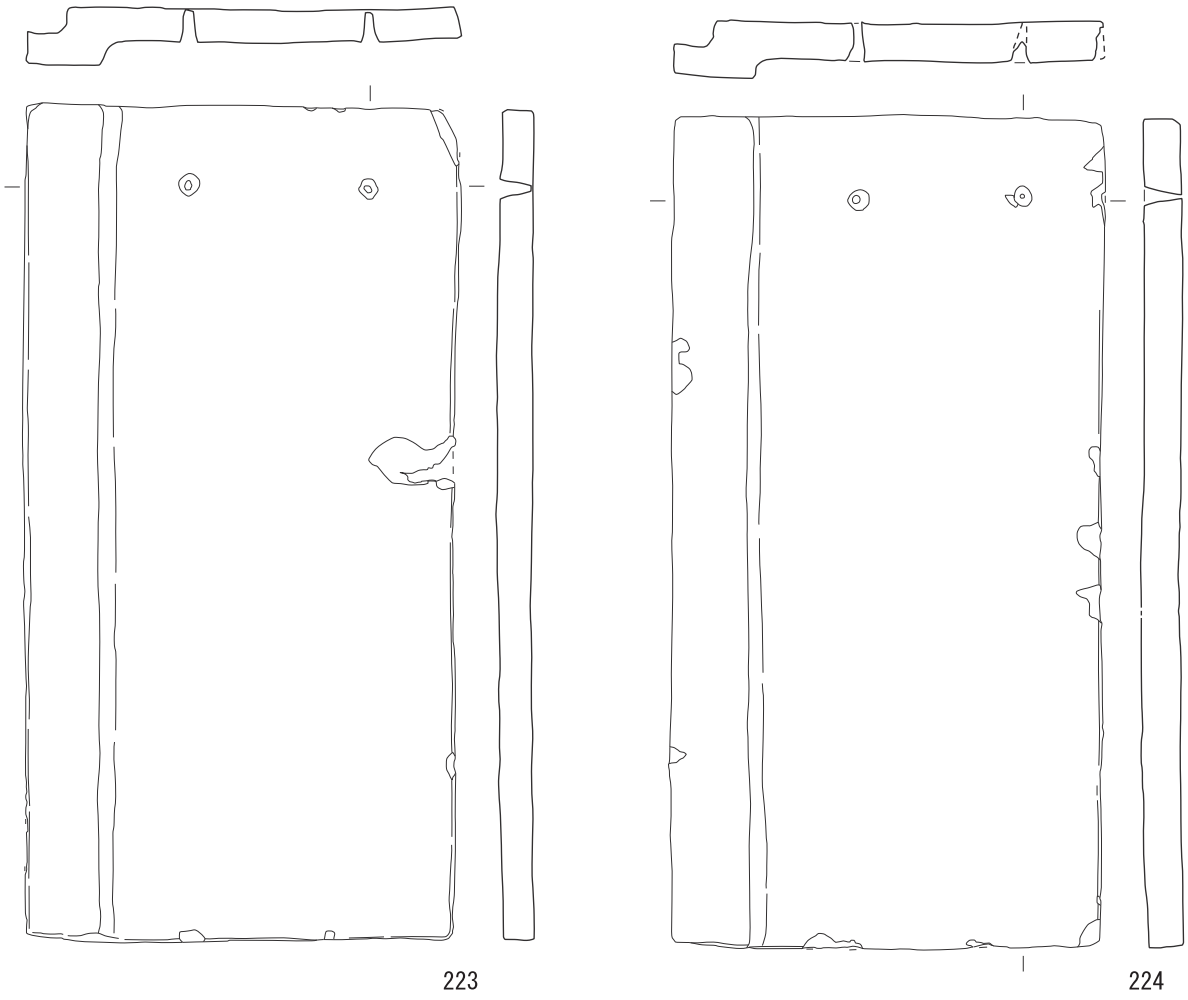


第232図　谷平瓦実測図１（１／５）



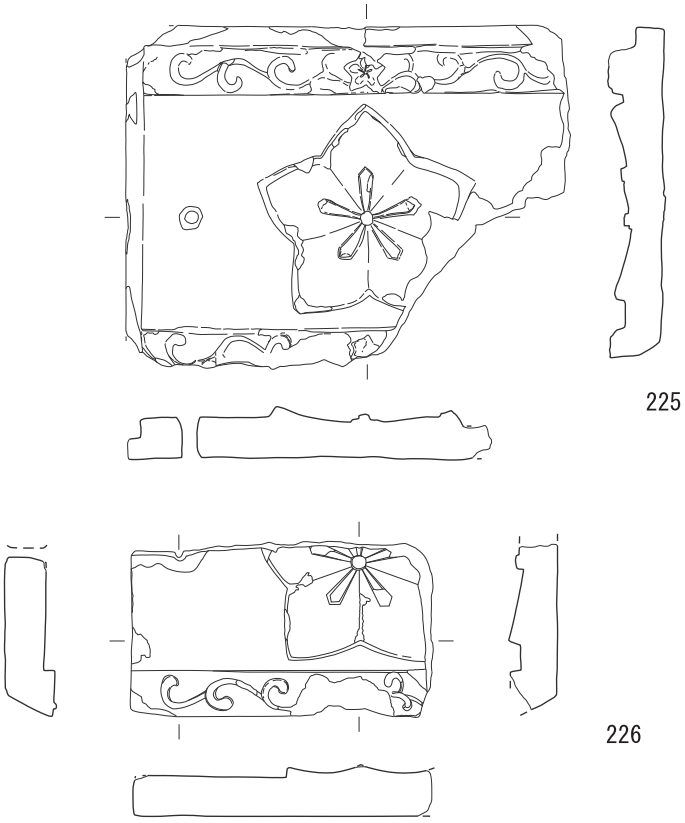
第233図　谷平瓦実測図２（１／５）



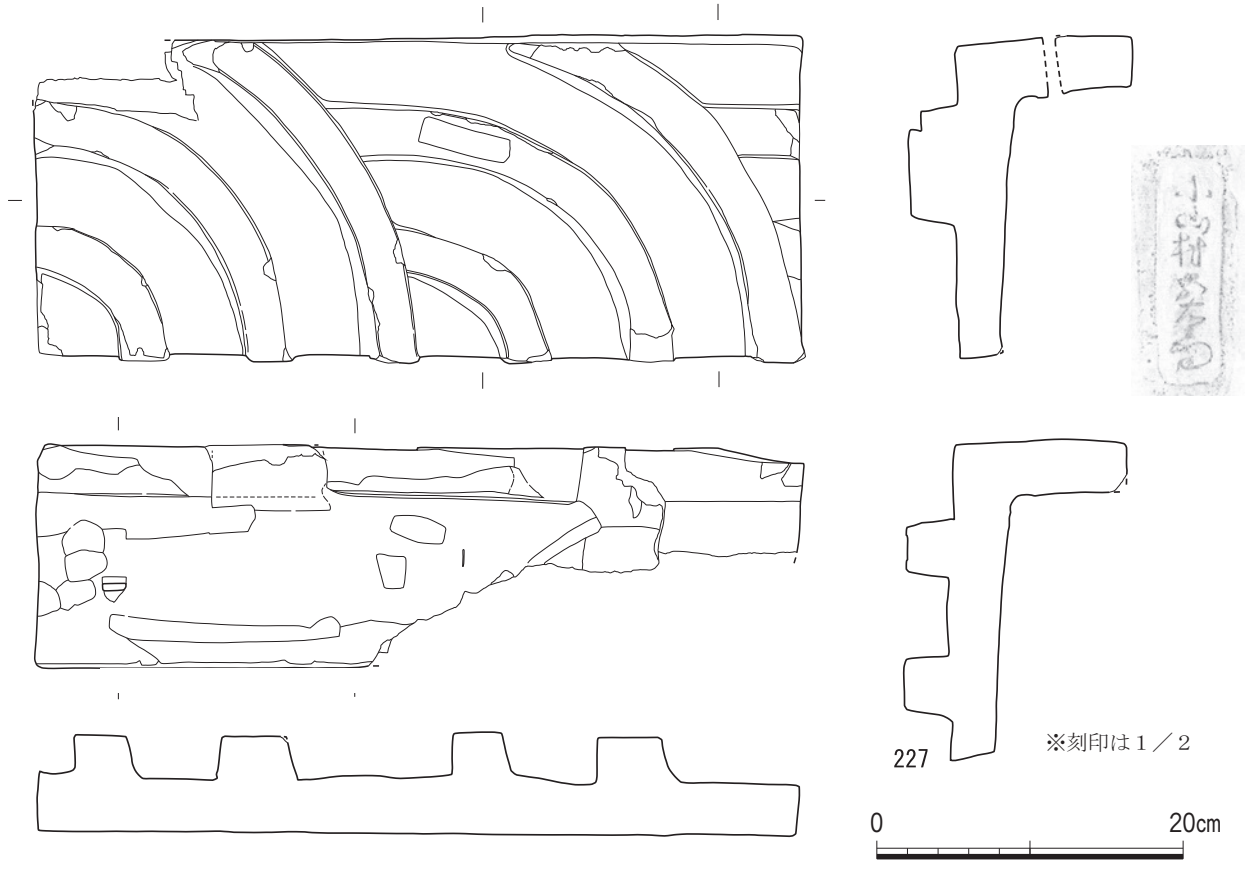


0 20cm

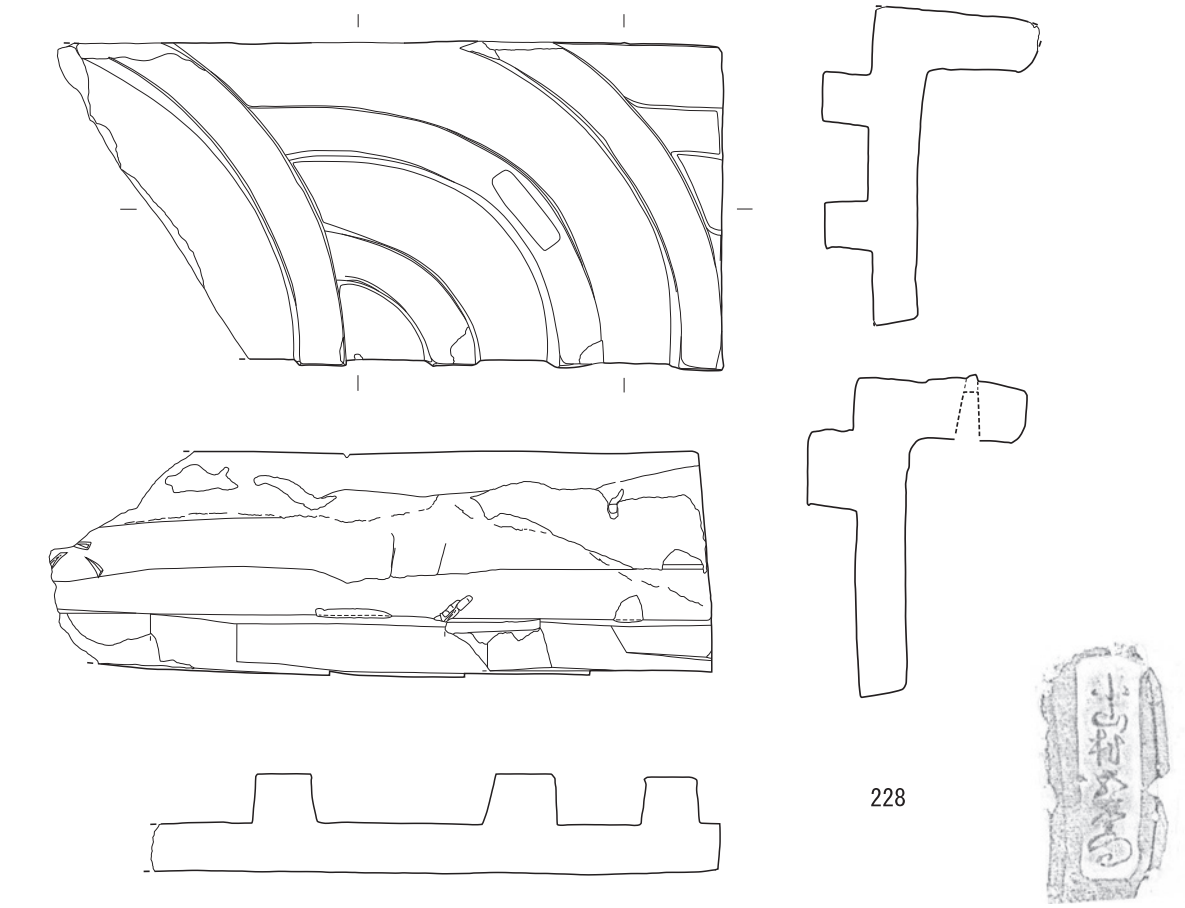
第234図　谷平瓦・板塀瓦実測図（１／５）



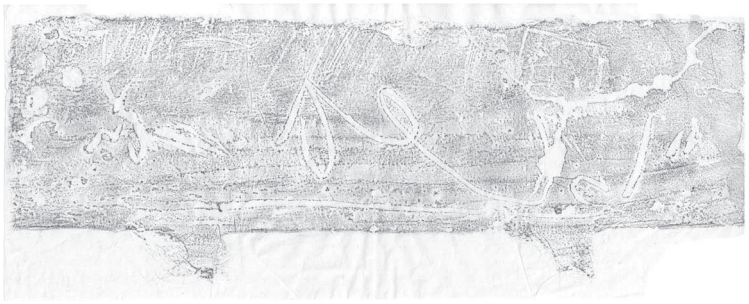
第235図　桔梗紋板瓦実測図（１／５）



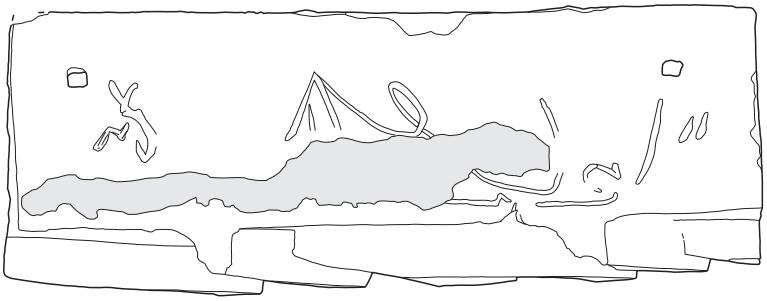
第236図　飾瓦実測図１（１／５）

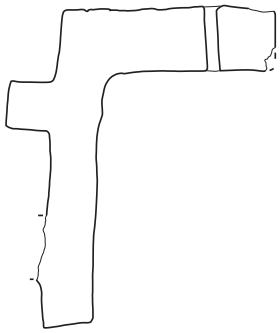


第237図　飾瓦実測図２（１／５）

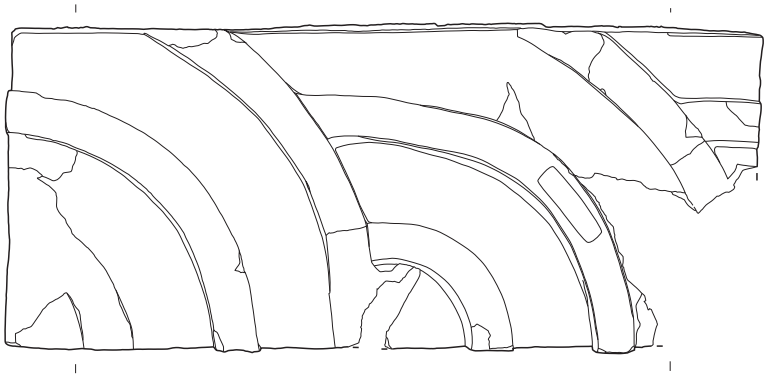


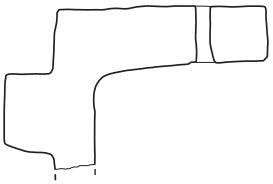
※拓本は漆喰除去後





※網かけは漆喰





230

0　20cm

※刻印は１／２

第238図　飾瓦実測図３（１／５）

第６表　瓦計測表

軒丸瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					瓦当裏面	丸瓦凹面				
1	2223	F82-47～52	Ⅰ	三巴 L11A	ナデ	コビキBか　ナデ	灰（N6/）	細かな白色・黒色粒	良	
2	2219	F80-61	Ⅰ	三巴 L11A	ナデ	欠損	灰（N4/0）	白色粒・角閃石	良	瓦当面いびつ
3	2212	F81-59	Ⅲ	三巴 L10A?	ナデ	欠損	灰（N4/0）	１～３㎜大の砂粒	不良	
4	2213	F85-52	Ⅳ	三巴 L11B	ナデ	欠損	灰黄褐（10YR6/2）	0.5～３mm大の砂粒	良	
5	2224	F85-50	Ⅰ	三巴 L11A	ナデ	欠損	灰（N5/）	細かな白色・黒色粒	良	
6	2217	F80-61	Ⅰ	三巴 L12A	ナデ	コビキA	灰（N4/）	黒色砂粒目立つ	良	
7	2216	F91-60	Ⅲ	三巴 L16A	ナデ	欠損	黒（10YR2/1）	砂粒少ない	良	
8	2210	F80-62	Ⅲ	三巴 L?	ナデ　細かな砂	コビキA	明黄褐（10YR6/8）	赤褐色粒目立つ	不良	菊丸 ２次焼成で脆い
9	2220	F80-62	Ⅰ	三巴 L18?	ナデ	コビキA	灰（N4/0）	黒・灰褐色粒多い	良	
10	2221	F80-62	Ⅰ	三巴 L11A	ナデ		灰白（5Y7/）	灰色粒多い	良	
11	2208	F74-46	Ⅲ	三巴 L11B	ナデ	コビキA　引き紐痕　布目	暗灰（N3/0）	黒色砂粒目立つ	良	
12	2218	F80-61	Ⅰ	三巴 L24?	ナデ	コビキBか	灰（N4/）	黒色・赤褐色粒目立つ	良	菊丸 瓦当面に砂
13	2222	F82-47～52	Ⅰ	三巴 L24B	ナデ	コビキAか	灰（N5/）	細かな白色・黒色粒	良	瓦当面に砂
14	2215	F89-59	Ⅲ	三巴 L24A	ナデ	欠損	暗灰（N3/0）	砂粒少ない	良	
15	2207	F71-46	Ⅲ	三巴 R16A	ナデ	コビキA	暗灰（N3/0）	細かい砂で緻密	不良	
16	2214	F84-52	Ⅲ	三巴 R?	ナデ	欠損	灰（7.5Y5/1）	黒色砂粒目立つ	良	瓦当いびつ
17	2209	F80-62	Ⅲ	三巴 R20?	ナデ	布目　粘土紐痕	灰（N4/0）	黒色砂粒目立つ	良	
18	2211	F80-62	Ⅲ	三巴 R?	ナデ	ナデ	明黄褐（10YR7/6）	赤褐色粒目立つ	不良	２次焼成
19	2231	F89-59	Ⅲ	日足	ナデ	欠損	オリーブ灰（2.5GY5/1）	赤褐色粒目立つ	良	瓦当面に木目
20	2232	F80-61	Ⅰ	日足	欠損	ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒目立たず緻密	良	
21	2059	F73-62	Ⅰ	日足	ナデ	欠損	灰（5Y5/1）	黒色砂粒目立つ	良	瓦当面に砂
22	2230	F80-62	Ⅲ	五三桐	ナデ	欠損	橙（7.5YR6/6）	赤褐色粒目立つ	良	２次焼成か
23	2226	F85-52	Ⅳ	桔梗１	ケズリ	欠損	灰（N4/0）	砂粒多い	良	文様ミガキ
24	2229	SKⅢ065	—	桔梗１	ケズリに近いナデ	欠損	灰（N3/）	細かな砂粒多い	良	文様ミガキ
25	2057	SDⅢ008	掘形	桔梗１	ナデ	欠損	灰（N4/0）	細かな砂粒多い	良	
26	2227	F87-54	Ⅰ	桔梗２ｂ	ナデ	欠損	灰（N4/0）	砂粒少なく緻密	良	
27	2058	F78-52他	Ⅱ	桔梗２ｄ	ナデ	欠損	橙（2.5YR6/6）	赤褐色粒目立つ	良	２次焼成
28	2053	SKⅢ061	—	桔梗２ｄ	ナデ	欠損	橙（7.5YR6/6）	赤褐・白色砂粒	良	２次焼成
29	2056	F87-56	Ⅱ	桔梗２ｄ	ナデ	欠損	灰（N6/0）	砂粒目立たない	良	
30	2060	F74-62T	Ⅰ	桔梗２ｅ	ナデ	欠損	灰黄（2.5Y7/2）	砂粒少なく緻密	良	
31	2228	F84-59	Ⅰ	桔梗３ｂ	ナデ	コビキA	灰（N4/0）	白色・黒色粒多い	良	瓦当面に砂
32	2051	SKⅢ101	—	釘抜	ナデ	欠損	灰（5Y5/1）	細かな砂粒多い	良	
33	2052	F86-52	Ⅱ	釘抜	ナデ	欠損	黄灰（2.5Y4/1）	細かな砂粒多い	良	瓦当面に砂
34	2004	F85-60	Ⅱ	九曜	ナデ	欠損	灰（10Y5/1）	砂粒多い	良	瓦当面に砂
35	2001	F79-52	Ⅲ	九曜	ナデ	欠損	にぶい黄橙（10YR7/4）	砂粒目立たず緻密	良	２次焼成
36	2003	F91-61	Ⅲ	九曜	ナデ	欠損	にぶい黄橙（10YR7/4）	砂粒目立たず脆い	良	瓦当面にキラコ　２次焼成
37	2014	F68-47	Ⅲ	九曜	ナデ	布目　コビキB	灰（7.5Y5/1）	褐色・白色砂粒	良	
38	2015	F68-47	Ⅲ	九曜	ナデ	布目　コビキB	灰（N3/0）	細かな白色・灰色砂粒	良	
39	2019	F68-47	Ⅲ	九曜	ナデ	布目・縄目？・籠目？	灰（N5/0）	白色・黒色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
40	2002	F85-52	Ⅲ	九曜	ナデ	欠損	灰（7.5Y6/1）	黒色砂粒目立つ	良	瓦当面にキラコ

41	2013	F72-47	Ⅲ	九曜	ナデ	布目　コビキB	灰（7.5Y5/1）	白色・黒色・灰色砂粒	良	瓦当面に砂
42	2012	F71-46	Ⅲ	九曜	ナデ	コビキB	灰（N4/0）	灰斑多い　脆い	良	瓦当面にキラコ
43	2020	F71-46	Ⅲ	九曜	ナデ	コビキB	灰（N4/0）	白色・黒色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
44	2009	F79-62	Ⅲ	九曜	ナデ	ナデ	黒（N2/0）	砂粒目立たず緻密	良	瓦当面に砂
45	2008	F79-50	Ⅲ	九曜	ナデ	欠損	明黄褐（10YR6/6）	赤褐色砂粒目立つ	良	瓦当面に砂 2次焼成
46	2010	F91-62	Ⅲ	九曜	ナデ	籠目・布目・ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	砂粒目立たず緻密	良	2次焼成
47	2006	F79-53	Ⅱ	九曜	ナデ	ナデ	灰（N4/0）	砂粒目立たず緻密	良	瓦当面にキラコ
48	2017	F80-52	Ⅲ	九曜	ナデ	布目・コビキB	灰（N4/0）	細かな白色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
49	2016	F85-50	Ⅲ	九曜	ナデ	布目・コビキB	灰（7.5Y4/1）	細かな白色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
50	2018	F84-61㊦	Ⅱ	九曜	ナデ	布目・コビキB	暗灰（N3/0）	砂粒少なく緻密	良	瓦当面にキラコ
51	2021	F71-46他	Ⅲ	九曜	ナデ	布目・コビキB	暗灰（N3/0）	砂粒少なく緻密	良	
52	2007	F84-55	Ⅱ	九曜	ナデ	欠損	灰オリーブ（5Y6/2）	砂粒目立たず緻密	良	瓦当面にキラコ　2次焼成

軒平瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					顎部	平瓦凹面				
53	2202	F84-58	Ⅱ	宝珠	ナデ	ナデ	灰（N5/）	5～10ミリ大の小礫	良	瓦当にキラコ？
54	2190	F81-55・56	Ⅰ	桐	ナデ	模骨状の凹凸あり	灰白（10Y6/1）	灰色粒多く粗い	良	瓦当に砂
55	2184	F79-50	Ⅱ	下三葉D	ナデ	模骨状の凹凸あり	灰黄（2.5Y7/2）	褐色粒目立つ　緻密	普	
56	2183	Bトレンチ	Ⅱ	下三葉D	ナデ	木目	灰（7.5Y7/1）	灰白　白色・黒色粒	良	
57	2203	SKⅢ019	Ⅳb	下三葉C	ナデ	欠損	灰（N6/）	白色・灰色粒、角閃石多い	普	瓦当に砂
58	2174	F88-54	Ⅰ	上三葉Ab	ナデ	コビキAか	にぶい橙（7.5YR6/4）	黒色・白色粒多い	良	
59	2173	F82-54	Ⅰ	上三葉Ad	ナデ	コビキA　模骨状の凹凸	灰（5Y6/1）	黒色・白色・橙色粒多い	良	
60	2177	F80-60	Ⅰ	上三葉B	ナデ	ナデ	灰（N5/）	灰・黒色粒目立つ	良	
61	2176	Dトレンチ	Ⅰ	上三葉B	ナデ	ナデ	灰（N3/1）	軟質　角閃石目立つ	普	
62	2178	F80-61	Ⅰ	上三葉Bc	ナデ	粗いナデ	灰（N3/）	褐色粒多い	良	
63	2175	F84-61	Ⅰ	上三葉Be	ナデ	模骨状の凹凸あり	灰（N3/）	黒色・白色・橙色粒多い	良	
64	2179	F80-61	Ⅰ	上三葉Bc	ナデ	ナデ	灰（4/）	白色粒目立つ	良	
65	2193	F74-46	Ⅲ	上三葉E	ナデ　細かな砂	模骨状の凹凸あり　細かな砂	灰（3/）	白・褐・黒色粒　角閃石	普	
66	2200	F82-57	Ⅰ	上三葉E	ナデ	ナデ	灰（N3/）	黒色粒多い	普	「□文禄四年」
67	2171	F89-59	Ⅰ	上三葉D	ナデ	木目痕	灰（10Y4/1）	褐色粒目立つ	普	瓦当に砂
68	2172	F80-61	Ⅰ	上三葉D	ナデ	模骨状の凹凸あり	灰（N4/1）	白色・灰色砂粒多い	良	瓦当に砂
69	2191	F85-52	Ⅳ	立木	ナデ	ナデ	灰（N5/）	平瓦と顎の胎土異なる	普	
70	2185	F85-53	Ⅲ	蓮華A	ナデ	ナデ	灰（N4/）	細かい白色・黒色粒	良	瓦当に砂
71	2186	F88-55	Ⅲ	蓮華A	ナデ	ナデ	灰（N6/）	細かい白色・黒色粒	良	瓦当に砂
72	2188	SDⅢ027	—	蓮華B	ナデ	コビキBか	灰（N5/）	細かい白色・黒色粒	良	瓦当に砂
73	2187	F89-59他	Ⅱ	蓮華B	ナデ	ナデ	橙（2.5YR6/6）	細かい白色・黒色粒	良	2次焼成
74	2180	F82-51	Ⅱ	鳥A	ナデ	ナデ	にぶい黄褐（10YR5/3）	白色・黒色粒多い	良	
75	2181	F82-48	Ⅳ	鳥A	ナデ	ナデ	灰（N6/）	砂粒少なく緻密	良	
76	2182	F75-50	Ⅰ	鳥C	ナデ	模骨状の凹凸あり	灰白（7.5Y7/1）	黒褐色粒多い	普	
77	2201	F83-57	Ⅰ	笹B	ナデ	コビキB　凸面に凹型台痕	灰黄（2.5Y7/2）	白色・黒色粒多い	良	
78	2189	SKⅢ001	下位	半菊	ナデ	磨耗して不明瞭	灰（N6/）	白色・黒色粒多い	普	瓦当に砂
79	2205	F86-53	Ⅲ	梅	ナデ	ナデ　細かな砂	灰（N6/）	白色・褐色・灰色粒多い	普	瓦当に砂
80	2204	F85-51	Ⅰ	巴	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・黒色・灰色粒多い	良	瓦当にキラコ

81	2192	F79-62	Ⅲ	釘抜	ナデ	ナデ　凸面側に凹型台痕	灰（N4/）	白色・黒色・灰色粒多い	良	瓦当に砂
82	2206	SPⅢ001	—	卍	ナデ	ナデ	灰（7.5Y6/1）	白色・黒色・灰色粒多い	良	瓦当にキラコ
83	2161	F78-49他	Ⅰ	桔梗1	ケズリ後ナデ砂付着	ナデ	橙（5YR6/6）	白色・黒色粒多い	良	
84	2165	SDⅢ027	—	桔梗2A	ナデ	ナデ　模骨状の痕跡	橙（2.5YR6/6）	白色粒多い	良	2次焼成
85	2166	F90-61	Ⅰ	桔梗2A	ナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	白色粒多い	良	2次焼成
86	2162	F84-48	Ⅲ	桔梗1	ナデ	ナデ	褐灰（10YR5/1）	白色・黒色粒多く粗い	良	瓦当に砂
87	2167	SBⅢ003	—	桔梗2A	ナデ	コビキBか	灰（N5/）	白色・黒色粒多い	良	
88	2164	F86-53	Ⅲ	桔梗2A	ナデ	コビキBか　模骨状の凹凸あり	浅黄（2.5Y7/3）	白色・黒色粒多い	良	2次焼成
89	2170	F85-50	Ⅲ	桔梗2A	ナデ	ナデ　コビキAか	灰（7.5Y5/1）	白色・黒色粒多い	良	瓦当に砂
90	2047	F70-47	Ⅱ	桔梗2A	ナデ	粗いナデ・細かな砂、凹面にコビキB	灰（5Y5/1）	白色・黒色粒多い	良	瓦当に砂
91	2046	SDⅢ027	—	桔梗2A	ナデ	粗いナデ・細かな砂、凹面にコビキB	灰（5Y5/1）	灰・黒色粒多い	良	2次焼成か
92	2169	F71-46	Ⅲ	桔梗2C	ナデ　砂付着	コビキAか　凸面に凹型台痕	灰（N4/）	白色・黒色粒多い	良	瓦当に砂
93	2163	F87-57	Ⅱ	桔梗3	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・黒色粒多い	良	
94	2113	F84-58	Ⅲ	九曜Aa	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色・灰色砂粒多い	良	
95	2106	F86-53他	Ⅲ	九曜Ab	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色砂粒	良	瓦当面に砂
96	2107	F72-64	Ⅲ	九曜Ab	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色・灰色砂粒多い	良	瓦当面に砂
97	2108	F72-47	Ⅲ	九曜Ab	ナデ	ナデ　凹型台痕	灰（N6/）	灰色・黒色砂粒	良	瓦当面に砂2次焼成
98	2110	F78-53	Ⅱ	九曜Ab	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・灰色砂粒多い	良	瓦当面に砂
99	2109	F84-56	Ⅲ	九曜Ab	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・灰色砂粒多い	良	瓦当面に砂
100	2111	F89-61	Ⅲ	九曜Ac	ナデ	ナデ　凹型台痕	橙（7.5YR6/6）	細かな砂粒	良	瓦当面に砂2次焼成
101	2136	F84-56	Ⅲ	九曜Bc	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色・黒色・灰色砂粒	良	瓦当面に砂
102	2137	F71-46	Ⅲ	九曜Bc	ナデ	ナデ　凹型台痕	灰（N4/）	白色・灰色砂粒多い	良	瓦当面に砂か
103	2141	F89-61	Ⅰ	九曜Bc	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	白色・褐色砂粒	良	2次焼成
104	2143	F90-61	Ⅲ	九曜Bc	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/5）	白色・褐色砂粒	良	
105	2138	F68-47	Ⅲ	九曜Bc	ナデ	ナデ　凹型台痕	灰（N4/）	白色・黒色・灰色砂粒	良	
106	2142	F90-60	Ⅲ	九曜Bc	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR7/4）	白色・褐色砂粒	良	
107	2140	F85-60	Ⅱ	九曜AB?	ナデ	ナデ　凹型台痕	灰（N4/）	白色・灰色砂粒	良	
108	2139	F77-49	Ⅰ	九曜B	ナデ	欠損	灰（N5/）	白色・黒色・灰色砂粒	普	
109	2126	F85-59	Ⅱ	九曜Ca	ナデ	ナデ	にぶい橙（7.5YR6/4）	白色・褐色・灰色砂粒	良	瓦当面に砂
110	2123	F71-46	Ⅲ	九曜Cb	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・褐色砂粒	良	瓦当面にキラコ
111	2128	F84-54	Ⅲ	九曜Cb	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	白色・褐色砂粒	良	
112	2127	F85-60	Ⅱ	九曜Cc	ナデ	ナデ	浅黄橙（10YR8/3）	白色・黒色砂粒	良	瓦当面にキラコ
113	2124	F85-50	Ⅲ	九曜Cc	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	白色・灰色砂粒	良	
114	2125	F84-61	Ⅲ	九曜Cc	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・褐色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
115	2115	F91-61	Ⅲ	九曜Eb	ナデ	ナデ	褐（7.5YR7/6）	白色砂粒	良	2次焼成
116	2121	F89-57	Ⅱ	九曜Eb	ナデ	ナデ	灰白（7.5Y7/1）	灰色斑多い	普	
117	2116	SDⅢ027	—	九曜Eb	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・黒色・灰色砂粒	良	
118	2117	F85-50	Ⅲ	九曜Eb	ナデ	ナデ	灰（N6/）	白色・黒色・灰色砂粒	良	2次焼成
119	2122	F81-48	Ⅰ	九曜Eb	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	白色・褐色砂粒	良	
120	2118	F81-48	Ⅲ	九曜Eb	ナデ	ナデ	灰（5Y6/1）	灰色斑多い	良	
121	2114	F71-46	Ⅲ	九曜Eb	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色・灰色砂粒	良	
122	2155	F67-47	Ⅲ	九曜E?	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	白色・褐色砂粒	良	2次焼成
123	2133	F84-56	Ⅲ	九曜F	ナデ	ナデ　凹型台痕？	灰黄（2.5Y7/2）	灰色斑多い	良	

124	2135	F88-59	Ⅰ	九曜F	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色・黒色・褐色砂粒	普	
125	2134	F84-56	Ⅰ	九曜F	ナデ	ナデ　凹型台痕？	にぶい黄橙（10YR7/3）	白色砂粒	良	
126	2154	F89-61	Ⅲ	九曜Ga	ナデ	ナデ	灰（N5/）	灰色斑多い	良	瓦当面にキラコ
127	2149	F85-59	Ⅱ	九曜Ga?	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
128	2153	SDⅢ027	—	九曜Gf	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
129	2150	F85-52	Ⅱ	九曜Gf	ナデ	欠損	浅黄（2.5Y7/3）	灰色斑多い	良	瓦当面にキラコ
130	2151	SDⅢ002	—	九曜Gg	ナデ	欠損	灰（N5/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
131	2152	SDⅢ027	—	九曜Gg	ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/3）	黒斑多い	良	瓦当面にキラコ
132	2148	F68-47	Ⅲ	九曜Gg	ナデ	ナデ	灰（N3/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
133	2147	SKⅢ001	—	九曜H	ナデ	ナデ	灰白（2.5Y6/1）	白色・黒色・灰色砂粒	良	
134	2145	Iトレンチ	Ⅲ	九曜I	ナデ	ナデ	暗灰（N3/）	やや粗い	良	瓦当面にキラコ
135	2144	F84-61㊦	Ⅱ	九曜I	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
136	2129	F71-46	Ⅲ	九曜J	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	白色・黒色・褐色砂粒	良	瓦当面にキラコ
137	2130	F68-47	Ⅲ	九曜J	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・黒色砂粒	良	
138	2131	F88-54他	Ⅲ	九曜J	ナデ	ナデ　凹型台痕？	にぶい黄橙（10YR7/4）	白色・褐色砂粒	良	
139	2132	F80-64	Ⅱ	九曜J	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/4）	白色・黒色・褐色砂粒	良	2次焼成
140	2146	F84-61㊦	Ⅱ	九曜K	ナデ	ナデ	灰（N6/）	白色砂粒	良	瓦当面に砂
141	2159	F84-60	Ⅱ	九曜Ma	ナデ	欠損	にぶい黄橙（10YR7/4）	白色・褐色砂粒	良	瓦当面にキラコ
142	2158	F88-55	Ⅲ	九曜Mb	ナデ	ナデ	灰（7.5Y6/1）	白色・灰色砂粒	良	瓦当面にキラコ
143	2156	F84-58	Ⅱ	九曜O	ナデ	ナデ	灰（N3/）	白色・黒色砂粒	良	瓦当面にキラコ
144	2160	SDⅢ028	Ⅲ	九曜P	ナデ	ナデ	灰（N6/）	白色・灰色砂粒	良	

滴水瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					顎部	平瓦凹面				
145	2275	F78-53	Ⅱ	慶長	ナデ	ナデ	赤褐（10R4/4）	白色・黒色砂粒	良	2次焼成 鈍角接合
146	2282	F87-59	Ⅱb	慶長	ナデ	欠損	灰（N4/）	白色砂粒・角閃石	良	瓦当面に砂
147	2281	F77-53他	Ⅱ	慶長	ナデ	欠損	明赤褐色（2.5YR5/6）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成
148	2285	F67-58・59	瓦溜	慶長	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色砂粒	良	鈍角接合
149	2287	F70-45	Ⅰ	慶長	ナデ	欠損	灰黄（2.5Y6/2）	黒色砂粒	良	
150	2288	F77-54	Ⅱ下位	慶長	ナデ	欠損	黒褐（5YR3/1）	白色砂粒	良	2次焼成
151	2286	F71-47	Ⅰ	慶長	ナデ	欠損	灰（5Y6/1）	白色砂粒	良	瓦当面・平瓦凹面に砂 鈍角接合
152	2274	SKⅢ054	—	慶長	ナデ	欠損	灰（N4/）	赤褐色砂粒	良	
153	2269	SKⅢ065	—	延享	ナデ	欠損	橙（5YR7/6）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成
154	2279	F78-53	Ⅱ	明和	ナデ	欠損	橙（5YR7/6）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成
155	2283	F85-56	Ⅱ	天保	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
156	2273	F86-56	Ⅱ	天保	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコ
157	2284	F85-56	Ⅱ	文政	ナデ	ナデ	灰（N4/）	白色・赤褐色砂粒	良	瓦当面にキラコ
158	2280	F79-53	Ⅱ	文政	ナデ	欠損	灰（N4/）	白色砂粒・角閃石	良	瓦当面にキラコ
159	2278	F78-53	Ⅱ	文政	ナデ	ナデ	橙（5YR7/6）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成　瓦当面にキラコ
160	2277	F78-53	Ⅱ	文政	ナデ	欠損	灰黄（2.5Y7/2）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成 瓦当面にキラコか
161	2276	F78-53	Ⅱ	□永	ナデ	欠損	灰色（2.5Y7/1）	白色砂粒	良	2次焼成
162	2271	SKⅢ073他	—	無文	ナデ	ナデ	灰（N5/）	白色砂粒・角閃石	良	鈍角接合
163	2272	SKⅢ067他	—	無文	ナデ	欠損	明赤褐色（2.5YR5/6）	白色砂粒	良	2次焼成 鈍角接合

164	2268	SKⅢ065	—	無文	ナデ	ナデ	橙（5/YR6/6）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成
165	2265	SKⅢ073	—	無文	ナデ	欠損	灰（N5/）	白色砂粒・角閃石	良	
166	2266	F86-56	土坑群	無文	ナデ	欠損	暗灰（N3/）	白色・赤褐色砂粒	良	
167	2267	SKⅢ061他	—	無文	ナデ	ナデ	にぶい黄橙（10YR7/4）	白色砂粒・角閃石	良	瓦当面にキラコ
168	2094	F78-54	Ⅱ下位	無文	ナデ	ナデ　漆喰付着	灰（7.5Y5/1）	細かな砂粒	良	未使用釘穴

鬼瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					表面	裏面				
169	2238	F71-46	Ⅱ	鬼瓦	ナデ	ナデ	灰（N5/0）	砂粒多い	良	2次焼成
170	2237	F73-46	Ⅱ	鬼瓦	漆喰付着　ナデ	ケズリ・ナデ	灰（N4/0）	砂粒多い	良	2次焼成
171	—	F79-52他	Ⅲ	鬼瓦	ナデ	ナデ	明赤褐色（2.5YR5/6）	白色砂粒目立つ	良	2次焼成
172	—	F86-57他	Ⅱ	鬼瓦	ナデ	ケズリ後ナデ	明赤褐色（7.5YR5/7）	白色砂粒目立つ	良	2次焼成
173	—	F86-52	Ⅲ	鬼瓦	ナデ	ケズリ後ナデ	褐灰（10YR6/1）	白色砂粒目立つ	良	2次焼成か
174	2259	F72-46	Ⅱ	鬼瓦	ナデ	ナデ	黄灰色（2.5Y4/1）	白色砂粒目立つ	良	2次焼成
175	2097	F78-53	Ⅱ	鬼瓦	粗いナデ　文様は丁寧なナデ	ケズリ後粗いナデ	暗赤褐色（5YR3/6）	砂粒目立たず緻密	良	桔梗文 2次焼成
176	2096	SKⅢ053	—	鬼瓦	ナデ（風化）	粗いナデ	暗灰（N3/0）	砂粒目立たず緻密	不良	風化が激しい
177	2104	F78-52	Ⅱ下位	鬼瓦	丁寧なナデ	棒状工具痕　粗いナデ	暗灰（N3/）	白色砂粒多い	良	2次焼成
178	2095	F81-47	Ⅰ	鬼瓦	ナデ　刺突による施文	粗いナデ	灰（7.5Y5/1）	砂粒を多量に含む	良	
179	2102	F87-57	Ⅱ	鬼瓦	ミガキ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	白色砂粒目立つ	良	
180	2261	F74-46	Ⅰ	鬼瓦	文様は丁寧なナデ・ナデ	ナデ	灰黄（2.5Y7/2）	砂粒多い	不良	裏面に針金
181	2264	F70-46	Ⅱ	鬼瓦	ナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒多い	良	
182	2248	F86-56	Ⅱ	鬼瓦	ケズリ後丁寧なナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	白色砂粒多い	良	
183	2239	SKⅢ065	—	鬼瓦	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	橙（5YR6/6）	砂粒多い	良	2次焼成
184	2240	SKⅢ059	下位	鬼瓦	ナデ	ケズリ	灰（N6/1）	砂粒多い	良	
185	2241	F82-60	Ⅱ	鬼瓦	ナデ	ケズリ・ナデ	にぶい黄（2.5Y6/3）	白色砂粒	良	
186	2233	SKⅢ001	—	鬼瓦	ケズリ	—	明黄褐（10YR6/6）	赤褐色粒多い	良	引き手 2次焼成
187	2289	F81-54	Ⅰ	鬼瓦	ナデ	ナデ	暗灰（N3/）	白色砂粒	良	瓦当面にキラコか
188	2290	F74-47	Ⅰ	鬼瓦	ナデ・ケズリ	ナデ	にぶい黄褐（10YR7/3）	白色・赤褐色砂粒	良	瓦当面にキラコか
189	2291	F85-57	Ⅰ	鬼瓦	ナデ・ケズリ	ナデ	橙（2.5YR6/6）	白色・赤褐色砂粒	良	瓦当面にキラコ
190	2292	F88-49	Ⅰ	鬼瓦	ナデ・ケズリ	ナデ	灰（5Y6/1）	白色・赤褐色砂粒	良	2次焼成
191	2252	F77-49他	Ⅱ	隅鬼	ナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒多い	良	
192	2253	F85-56	Ⅱ	隅鬼	ナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒多い	良	
193	2255	F71-46	Ⅱ	隅鬼	ナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒多い	良	
194	2237	F72-46	Ⅲ	隅木蓋	ナデ	丁寧なナデ後ヘラ描き	灰（N4/0）	砂粒多い	良	九曜文
195	2263	F72-46	Ⅲ	隅木蓋	ナデ	ナデ　布目痕あり	褐灰（10YR7/6）	黒色・赤褐色砂粒	良	桔梗文 2次焼成
196	2030	F89-61	Ⅲ	隅木蓋	ナデ	ナデ	明黄褐（10YR6/6）	細かな砂粒	良	九曜文　キラコ
197	2260	F74-46	Ⅰ	留蓋	ナデ後施文	ナデ	にぶい黄橙（10YR6/3）	2ミリ以下の砂粒	良	亀型

鯱瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					表面	裏面				
198	2262	SKⅢ043	—	鯱	ヘラ描きによるウロコ	ナデ	明褐（7.5YR5/6）	黒色砂粒やや目立つ	良	2次焼成
199	2032	F79-52	Ⅲ	鯱	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰（N4/0）	白・灰色砂粒多い	良	キラコ
200	2031	F79-52	Ⅲ	鯱	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰（N4/0）	白・灰色砂粒多い	良	キラコ

鳥衾瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					表面	内面				
201	2254	F86-58	Ⅱ	鳥衾	ミガキに近いナデ	ナデ	灰（N6/0）	0.5～3㎜大の砂粒	良	九曜文 キラコ
202	2092	F89-61	Ⅲ	鳥衾	ナデ	粗いナデ	灰（N4/0）	砂粒多い	良	九曜文
203	2098	F78-52	Ⅱ下位	鳥衾	丁寧なナデ・ナデ	ナデ・板圧痕？	黒（N2/0）	砂粒目立つ	良	九曜文

雁振瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					凸面	凹面				
204	2023	F79-52他	Ⅲ	雁振	ナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	緻密　黒色砂粒まばら	良	キラコ
205	2024	F86-54	Ⅲ	雁振	ナデ	軽いナデ	灰（7.5Y6/1）	黒色砂粒目立つ	良	
206	2036	F77-54	Ⅲ	雁振	ナデ	ケズリ後ナデ	灰（7.5Y5/1）	灰・黒色砂粒多い	良	

掛瓦・板瓦・谷瓦

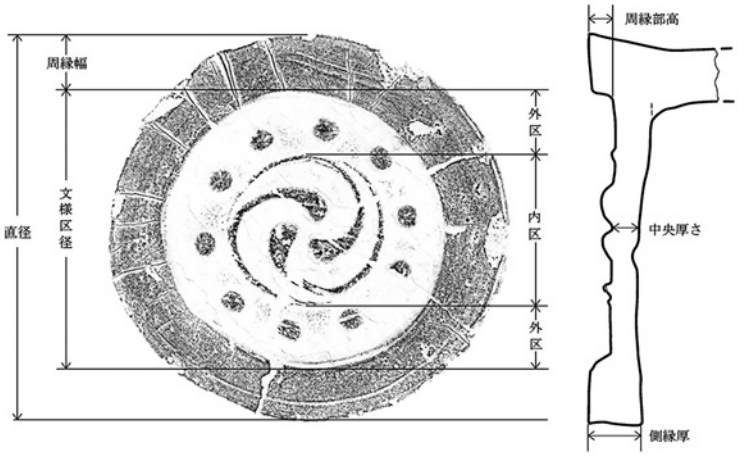
遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					表面	裏面				
207	2062	F86-56	Ⅱ	掛平瓦	凹面丁寧なナデ	凸面粗いナデ	黒（N2/0）	1～3㎜大の砂粒	良	
208	2028	F71-46	Ⅲ	掛丸瓦	凸面ナデ	コビキA	灰（7.5Y5/1）	砂粒多い	良	
209	2045	F81-57	Ⅲ	水板	ナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	灰・赤褐色砂粒	良	2次焼成
210	2091	SDⅢ022	—	水板	丁寧なナデ	ナデ	橙（7.5YR6/6）	白色砂粒多い	良	九曜文 2次焼成
211	2086	F86-56	Ⅱ	水板	丁寧なナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	灰・黒色砂粒多い	良	キラコ
212	2085	F86-56	Ⅱ	水板	丁寧なナデ	ナデ	暗灰（N3/0）	灰・黒色砂粒多い	良	キラコ
213	2256	F82-62㊦	Ⅱ	水板	丁寧なナデ	ナデ	灰（7.5Y5/1）	砂粒多い	良	
214	2089	SKⅢ061	—	板	ナデ	ナデ	明赤褐（5YR5/6）	白色・黒色砂粒	良	
215	2034	F78-53	Ⅲ	板	ナデ	ナデ	橙（5YR6/5）	砂粒多く間隙性あり	良	2次焼成
216	2100	F85-57	Ⅱ	板	丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰（N4/0）	緻密	良	
217	2103	F86-56	Ⅱ	板	丁寧なナデ	粗いナデ	灰（N4/0）	細かな砂	良	
218	2037	F68-47	Ⅲ	谷軒平瓦	ナデ	粗いナデ　砂付着	暗灰（N3/0）	黒色砂粒	良	瓦当面に砂
219	2040	F78-51	Ⅲ	谷平瓦	ナデ　弓状凸帯	粗いナデ	暗灰（N3/0）	白色・黒色砂粒	良	
220	2039	F78-51	Ⅲ	谷平瓦	ナデ　弓状凸帯	粗いナデ	暗灰（N3/0）	白色・黒色砂粒	良	
221	2088	SDⅢ027	—	谷平瓦	ナデ　漆喰付着	やや粗いナデ　半月型の溝	暗灰（N3/0）	細かな砂粒	良	
222	2038	F78-51	Ⅲ	谷平瓦	ナデ	ナデ　凹型台痕	黒（10Y2/1）	白色砂粒多い	良	
223	2042	F79-52	Ⅲ	板塀	ナデ	ナデ	黒（10Y2/2）	細かな砂粒　脆い	良	一部2次焼成
224	2043	F79-52	Ⅲ	板塀	ナデ	ナデ	黒（10Y2/3）	細かな砂粒　脆い	良	

飾瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	分類	調整		瓦当色調	胎土	焼成	備考
					表面	裏面				
225	2063	露地	表採	飾板瓦	文様は笵型。表面を磨いている。風化激しい。	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒まばら	良	桔梗文
226	2093	天守前広場	表際	飾板瓦	文様は笵型。表面を磨いている。	ナデ	暗灰（N3/0）	砂粒まばら	良	桔梗文
227	2084	F86-56	Ⅱ	飾瓦	ケズリ後ナデ　文様面は丁寧なナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/0）	白色砂粒目立つ	良	
228	2083	F86-56	Ⅱ	飾瓦	ケズリ後ナデ　文様面は丁寧なナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/1）	白色砂粒目立つ	良	
229	2082	F85-56	Ⅲ	飾瓦	ケズリ後ナデ　文様面は丁寧なナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/2）	白色砂粒目立つ	良	
230		F77-49	Ⅰ	飾瓦	ケズリ後ナデ　文様面は丁寧なナデ	ケズリ後ナデ	暗灰（N3/3）	白色砂粒目立つ	良	

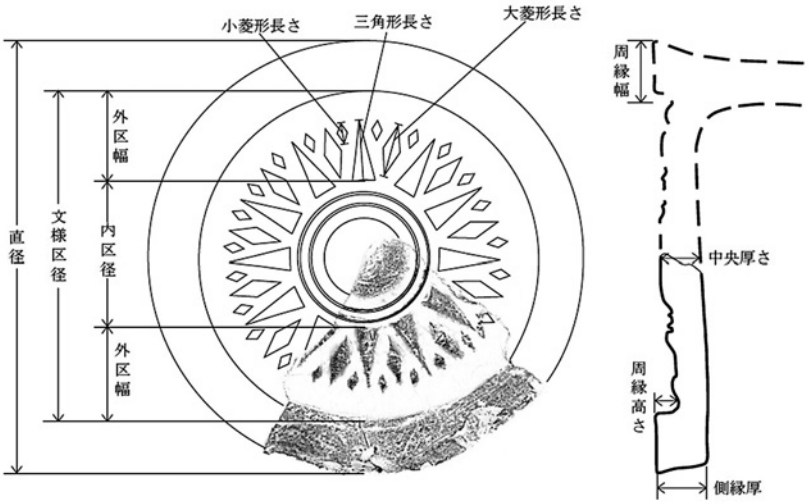
第７表　軒丸瓦・軒平瓦計測表

三巴紋軒丸瓦



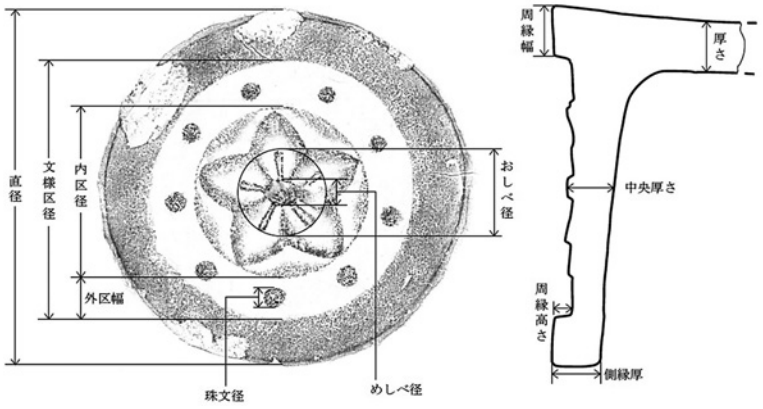
遺物番号	実測番号	出土位置	層位	直径	文様区径	内区					外区				周縁部			中央厚さ	備考
						直径	巻の方向		長さ	くびれ	連結	幅	珠文数	珠文径	幅	高さ	厚さ		
							右	左											
1	2223	F82-47～52	Ⅰ	15.3	11.4	8.1		○			○	1.5	(8)	0.7	2	0.7	2.1	1.2	
2	2219	F80-61	Ⅰ	16.5	11.7	7.2		○	15.5	○	○	2.1	(8)	0.7	2.3	0.9	1.7	1	
3	2212	F81-59	Ⅲ		(11.3)	(7.8)		○	(14)		○	1.8		0.9	2.1	0.8	2.4	2.2	
4	2213	F85-52	Ⅳ	16.5	11	7.4		○	14.3		○	1.6	11	1	2.7	0.6	2.1	1.4	
5	2224	F85-50	Ⅰ	15.2	10.8	7.6		○	15		○	1.6		0.7	2.2	0.5	2.1	1.2	
6	2217	F80-61	Ⅰ	15	10.6	7.5		○	15.5		○	1.3	12	0.8	2.1	0.3	2	1.6	
7	2216	F91-60	Ⅲ	16.6	12.4	9		○	15.4	○		1.6-1.7		0.7	2.1	1.2	2.1	1.9	
8	2210	F80-62	Ⅲ			(8)		○	12.4	○		1.5	21?	1	(1.8)	(0.9)		1.3	
9	2220	F80-62	Ⅰ	14.9	10.7	7.1		○	13	○		1.5		0.7	2	0.8	2	1.3	
10	2221	F80-62	Ⅰ	14.2	10.5	7.5		○	16.3	○		1.2	21	0.6	1.7	0.8	2	1.2	
11	2208	F74-46	Ⅲ	15.3	12	8.3		○	7.3			1.8	21	0.4	1.6	0.8	2.4	1.8	
12	2218	F80-61	Ⅰ	14.9	10.6	8		○	19		○	1.1		0.6	2	1	2.1	1.8	
13	2222	F82-47～52	Ⅰ	17	12	8.2		○	16.8	○	○	1.7	24	0.8	2.2	0.9	2	1.8	
14	2215	F89-59	Ⅲ	16.5	12	8.1		○	16.2	○		1.7	24	0.7	2- 2.5	1	1.6	1.5	
15	2207	F71-46	Ⅲ	14.5	10.7	7.9	○		12.4			1.8	16	0.7	1.6 - 2.1	0.3	1.6	1.4	
16	2214	F84-52	Ⅲ			(7.3)	○		13			1.1	R21A? (10)	0.5	1.9 - 2.2	0.9	1.8	1.5	
17	2209	F80-62	Ⅲ	14.3	11	7.6	○		12.2			1.4	13	0.7	2.1	0.8	2.6	2.1	
18	2211	F80-62	Ⅲ				○					(1.1)	R21A?	0.4	(1.8)	(0.6)		1.4	
		F80-61	Ⅰ	14.5	10.8	7.1		○		○		1.5		0.7	1.8	0.9	1.9	1.1	
		F80-62	Ⅰ	14.4	10.5	7.9		○	16.1			1.3		0.5	1.8	0.7	2.3	1.7	
		F84-59	Ⅰ	16.1	11.2	7.7		○	15.2		○	1.5		0.7	2.4	0.5	2.2	1.3	
		F80-61	Ⅰ	(13.8)	(10.3)	(7.6)		○	13.8			1.3	21?	0.8	(1.8)	(0.7)		1.5	
		F81-54	Ⅱ	15.2	11.2	7.4		○		○		2		0.9	2	1	2.2	1.7	
		F88-58	Ⅱ			(8.4)		○			○	1		0.8	(2.2)	(0.7)	(1.8)	1.5	
		F85-59	Ⅱ				○			○	○	2		1	2	0.3	2.1	(1.5)	
		SBⅡ002		(16)	11.5	9.9		○	16	○	○	1.6	24	0.7	2.4	0.7	2.4	1.6	
		SKⅢ065		(15)	(10.8)	8.2		○		○	○	1.4		1.1	2	(0.5)		1.5	コビキA・吊紐痕
		F86-56 土坑群		(16.5)	(12.2)	(8.6)		○	15.7	○		1.6	16	0.8	(1.8)	(0.8)		0.8	

日足紋軒丸瓦・桐紋軒丸瓦



遺物番号	実測番号	出土位置	層位	直径	文様区径	内区				外区				周縁部			中央厚さ	備考
						直径	中心径	圏線		幅	三角形長	大菱形長	小菱形長	幅	高さ	側縁厚さ		
								内	外									
19	2231	F89-59	Ⅲ				(4.5)				(3.8)	(3.6)	(2.1)	(2)	(0.6)	(2.2)		
20	2232	F80-61	Ⅰ										(1.3)	(2.1)	(1.1)			
21	2059	F73-62	Ⅰ				5			3.9	2.9	2.8	1.6	(1.5)	(0.8)	(2.8)	2	
22	2230	F80-62	Ⅲ															桐紋小片

桔梗紋軒丸瓦



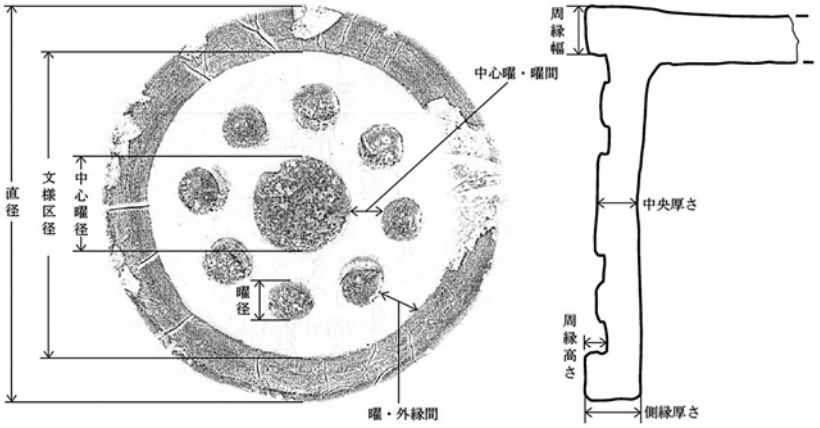
遺物番号	実測番号	出土位置	層位	直径	文様区径	内区			外区			周縁部			中央厚さ	接合角	備考
						直径	めしべ径	おしべ沈線	幅	珠文数	珠文径	幅	高さ	厚さ			
23	2226	F85-52	Ⅳ						0.2			2.1	1.9	3			
24	2229	SKⅢ065	—			9.4	0.8	3.2									
25	2057	SDⅢ008	掘形														
26	2227	F87-54	Ⅰ						(0.6)			(2.2)	(0.6)	(1.8)			
27	2058	F78-52他	Ⅱ	17	11.8		1.1	5.6	1.1				1	2.3	1.9		
28	2053	SKⅢ061	—	17	11.9	9.8	0.9	5.4	1.2			(2.2)	1.1	2.6	2.1		
29	2056	F87-56	Ⅱ	(16.8)	12		1	5.4	(1.2)				0.8	(2.8)	2.2		
30	2060	F74-62T	—				0.8	4.2					0.8	1.6	1.6		
31	2228	F84-59	Ⅰ	15	10.7	7.1	0.7	3.6	1.7		0.7	2.1	0.6	2.3	1.8	90°	
	2225	F80-52	Ⅱ						(1.2)			2.5	1.2				
		F88-57	Ⅱ						1.9		1	2.2	0.8	2.2			

		F85-59	Ⅱ				(1.3)		1.7		1	2.6	0.7	1.5	1.5		
		F84-57	Ⅱ						(1.8)		(1.1)	(2.1)	0.6				
		F80-53	Ⅱ				1.1				1.1				2		
		F84-59	Ⅰ	15.7	11.2	7.4	1.1	3.8	1.8		0.8	2.2	0.7		1.7	90°	
		F78-49	Ⅰ						1				(1)				
		SBⅢ009	—	15.7	11.2	7.1	1.1	3.6	1.8		0.8	2.2	0.7	2.1	1.8		
		SKⅢ054	—						(1)								

釘抜紋軒丸瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	直径	文様区径	文様（方孔）			周縁部			中央厚さ	接合角	備考
						外辺長	内辺長	幅	幅	高さ	厚さ			
32	2051	SKⅢ101	—		11.6	6.5～6.7	2.4～2.5	2	2	0.7	1.9	1.2		
33	2052	F86-52	Ⅱ	15.2	11.5	6.5～6.8	2.3～2.4	2	2	0.7	2.1	1.2		

九曜紋軒丸瓦



遺物番号	実測番号	出土位置	層位	直径	文様区径	中心曜径	曜径	中心曜と曜の間隔	曜と外縁の間隔	周縁部			中央厚さ	接合角	備　考
										幅	高さ	厚さ			
34	2004	F85-60	Ⅱ	16.8	10	3.2	1.9	0.8	0.7	3.4	0.4	2.8	2.3		
35	2001	F79-52	Ⅲ	15	10.5	3.5	2.1	0.8	0.6	2.2	0.6	2	2		
36	2003	F91-61	Ⅲ	(14.7)	10.4	3.3	1.6	1	1	2	0.2	2	2.1		
37	2014	F68-47	Ⅲ	15.4	10.8	4.1	2.2	0.6	0.5	2.2	0.7	2.2	1.7		
38	2015	F68-47	Ⅲ	14.8	10.1	3.9	2.1	0.4	0.5	(2)	(0.7)	2.2	2.2		
39	2019	F68-47	Ⅲ	14.3	10.5	4	1.9	0.7	0.7	2	0.7	1.9	2	90°	
40	2002	F85-52	Ⅲ	(15)	10.4	4	2.2	0.5	0.5	1.9	0.3	1.7	1.9		
41	2013	F72-47	Ⅲ	15.7	11	3.9	2.1	0.7	0.6	2.2	0.7	2.3	2.2		
42	2012	F71-46	Ⅲ	15.5	10.8	4.1	2-2.3	0.7	0.4-0.8	2	0.7	1.9	2		
43	2020	F71-46	Ⅲ	15.3	11	4	2.5	0.6	0.4	2	0.3	(1.7)	1.2		
44	2009	F79-62	Ⅲ	15.5	10.9	4.3	2.1	0.6	0.7	2.4	0.6	1.9	2.1		
45	2008	F79-50	Ⅲ	16	11.3	4.3	2.2	0.7	0.6	2.3	0.8	1.9	2		
46	2010	F91-62	Ⅲ	15.5	11	4.2	2.1	0.7	0.5	2.3	0.8	2.1	2		
47	2006	F79-53	Ⅱ	16.5	12	4	2.2	0.9	0.9	2	0.6	2.4	2.8	反り	
48	2017	F80-52	Ⅲ	16.1	11.1	4.6	2.2	0.4-0.6	0.5	2	0.3	2.1	2		
49	2016	F85-50	Ⅲ	(14.5)	(11.1)	3.7	2.2	0.8	0.4	1.4	0.4	2.6	2.7		
50	2018	F84-61㊦	Ⅱ	(15.5)	(11)	4	2.4	0.5	0.5	(2)	(0.4)		2.2		
51	2021	F72-46他	Ⅲ	(15.2)	11.3	4	2.2	0.7	0.5	2	0.5	2.3	1.8	90°	
52	2007	F84-55	Ⅲ	16	11.8	3.8	2.1	1	0.9	2	0.4	1.7	2.2		
	2005	F84-61㊦	Ⅱ	(15.6)	11.1	4.2	1.9	0.7	0.8	2	0.5	1.7	2		

	2011	F89-60	Ⅲ	15.6	11.1	4	2.3	0.6	0.5	2	0.6	2.2	1.8		
		F84-55	Ⅲ	(15)	(10.6)	3.7	2.1	0.5	0.6	2	0.4	1.4	1.7		
		F84-57	Ⅲ	14.8	10.5	3.8	2	0.5	0.6	2	0.5	1.6	1.7		
		F84-57	Ⅲ	(15)	(10.8)	3.7	2	0.5	0.7	2	0.4	1.8	1.7		
		F84-57	Ⅲ	(15.2)	10.5-11	4	2.4	0.5	0.6	2.3	0.2	2.2	2.2		
		F68-47	Ⅲ	15.1	11.1	3.9	2.5	0.6	0.6	2	0.3	1.7	1.9		
		F71-46	Ⅲ	15.4	11.5	4	2.6	0.5	0.5	2	0.4	1.8	2		
		F79-63	Ⅲ	(15.2)	(11.5)	4	2.5	0.5	0.5	2	0.4	1.7	1.9		
		F85-53	Ⅲ	16	12		2	1	0.9	2	0.4	2			
		F85-53	Ⅲ	15.9	12	(3.5)	2	1	0.8	2	0.3	2			
		F85-53	Ⅲ	15.9	11.5	(3.8)	1.9	1.1	0.9	1.5-2.2	0.3	2.2			
		F85-53	Ⅲ	16	12	(3.7)	2	1	1	1.9	0.4	2	2.4		
		F85-52	Ⅲ	(15.7)	(12)	3.7	2	0.9	0.8	2	0.4		2.4		
		F88-55	Ⅲ	15.6	11.2	3.5	2	1	0.9	2.1	0.4	2.1	2.6		
		F84-58	Ⅲ	(16)	12	3.5	2	1	0.9	2	0.3	2.2	2.4		
		F89-61	Ⅲ	(15.2)	11.4	3.5	2	0.9	0.8	2	0.4	(1.9)	2.2		
		F84-61	Ⅲ	(15.5)	11	3.3	2	1	0.8	2	0.6	2.7	2.7		
		F91-60	Ⅲ	15.2	11	3.9	2	0.8	0.6	2.1	0.7	2	1.6		
		F86-53	Ⅲ	(15.6)	(11.3)	3.9	2.1	0.8	0.6	(2.1)	0.6	1.9	2		
		F86-52	Ⅲ	(15.7)	(11.2)	(4.1)	2	0.7	0.6	2.2	0.7		(1.4)		
		F89-61	Ⅲ	(15.6)	(11)	4	2.1	0.7	0.6	2.1	0.7	(2.8)	2.2		
		F85-50	Ⅲ	(15.7)	(11.1)	4.1	2	0.6	0.6	(2.2)	0.6		2		
		F84-61	Ⅲ	(15.5)	11.1		2.1	0.6	0.6	2.2	0.7	2.2	(2.3)		
		F84-55	Ⅲ	(15.7)	11	4.3	2	0.7	0.6	2.2	0.5		2.5		
		F84-54	Ⅲ	15.2	11.5	(4.3)	2	0.8	0.7	1.9-2.2	0.4	2.4	(2.7)		
		F82-57	Ⅲ	15.4	11.1	4	2.1	0.8	0.5	1.9	0.7	2.5	1.9		
		F84-58	Ⅲ	(15.9)	11.2	4.1	2	0.6	0.6	2.4	0.6		2.4		
		F86-53	Ⅲ	(15.5)	11	3.9	1.9	0.6	0.6	(2)	0.7	(2.1)	1.8		
		F79-62	Ⅲ	(15.5)	11.7	4	2.2	0.7	0.9	1.7	0.5	2.1	1.9		
		F90-58	Ⅲ	15.5	11.4	4.3	2.2	0.6	0.7	1.9	0.8	2	2.6		
		F84-55	Ⅲ	15.7	11.3		1.8	(0.9)	0.9	2	0.7				
		F84-56	Ⅲ	(15.8)	(11.3)	4	2.3	0.7	0.7	2.1	0.6	2			
		F89-60	Ⅲ	(15.5)	(11.8)	4	2.1	0.7	0.7	2	0.6	2	2		
		F90-56	Ⅲ	(15.9)	(11.1)	3.9	2.2	0.7	0.7	2.2	0.5	2.3	2.1		
		F74-46	Ⅲ	(15.9)	(11.4)	4	2.1	0.7	0.6	2.2	0.4	1.9	1.9		
		F68-47	Ⅲ	(16.4)	(9.5-10.1)	3	1.9	0.8	0.7	3.3	0.5	2.5	2.1		
		F84-55	Ⅲ	(15.4)	11	(4.1)	2.1	0.7	0.6-0.8	2	0.6		1.9		
		F71-46	Ⅲ	15.2	10.6	4	2	0.7	0.5	2.1	0.6	2.5	2.5		
		F71-46	Ⅲ	15.7	11.5	3.9	2.2	0.8	0.6	2-2.4	0.8	2.1	2		
		F74-46	Ⅲ	16.1	11.3	4	2	0.7	0.5	2.3-2.5	0.8	2.4	2.3		
		F68-47	Ⅲ	(15.9)	11.1	4	1.9	0.7	0.7	2.3	0.7	(1.9)	1.8		
		F90-60	Ⅲ	(16.5)	(11.7)	4.3	2.5	0.7	0.4	2.4	0.5	2.7	2.5		
		F79-53	Ⅲ	(16.5)	(11.6)	4.1	2.2	0.6	0.5	2.3	0.9		2		
		F86-53	Ⅲ	(16.3)	11.7	3.9	2	0.7	0.7	2.2-2.5	0.5	2.3	2.2		
		F82-52	Ⅲ	16.6	12	4.4	2.6	0.4	0.4	2.5	0.5	2	1.9		
		F79-52	Ⅲ	(16.3)	(11.3)	4.7	2.3	0.6	0.2	2.1	0.8	2.4	2		
		F84-56	Ⅲ	(16.6)	(11.7)	4.1	2.2	0.7	0.6	2.1-2.5	0.7	2.1	2		
		F81-61㊦	Ⅲ	(16.4)	11.3	4	2.4	0.7	0.5	2.3	0.7		2.1		

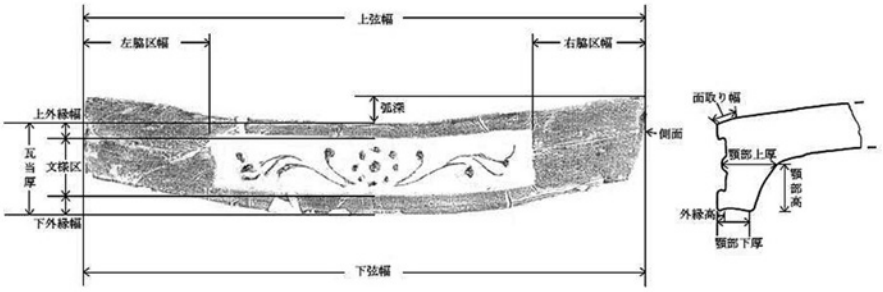
		F84-54	Ⅲ	16.6	11.9	3.8	2	0.8	0.6	2.4	0.6	2.4	2.1		
		F71-46	Ⅲ	(16.6)	(12.2)	4.6	2.2	0.8	0.6	2.2	(0.7)		2.3		
		F68-47	Ⅲ	14.9	10.8	4	1.9	0.7	0.8	1.8-2.2	0.6	1.5	2		
		F85-50	Ⅲ	(15.2)	(11.4)	(4)	1.9	0.9	0.9	(2)	(0.8)		2.3		
		F84-56	Ⅲ	(14.8)	(11)	4	1.9	0.7	0.7	2.1	(0.8)	(2)	2		
		F89-60	Ⅲ	15.5	11	4	2	0.9	0.8	2.5	0.4	2	1.9		
		F81-56	Ⅲ	15.3	11.2	(4.3)	1.9	0.7	0.8	2	0.7	2.4	2		
		F80-52	Ⅲ	(15.2)	(11)	3.9	2	0.6	0.7	(2.2)	0.7	(2)	1.6		
		F84-52	Ⅲ	(14.9)	(10.8)	(4)	1.9	0.7	0.8	(1.9)	(0.8)		1.5		
		F79-52	Ⅲ	15.1	11	4.5	2	0.6	0.4	2.1	0.3	1.6	2.3		
		F80-52	Ⅲ	15.7	11.1	4.7	2.3	0.4	0.4	2	0.5	(2)	1.9		
		F85-55	Ⅲ	(15.4)	(11.1)	4	2	0.6	0.6	1.9	0.6	2.2	2.1		
		F91-60	Ⅲ	(15.3)	(10.7)	4	2	0.6	0.5	2.2	0.6	2.2	2.4		
		F86-53	Ⅲ	(15.1)	(10.6)	4.1	2	0.5	0.6	2.2	(0.5)		2		
		F86-53	Ⅲ	(15)	10.5	3.8	2.2	0.5	0.5	2.1	0.3	1.9	2		
		F84-56	Ⅲ	15	10.5	3.8	2.2	0.4	0.5	2	0.4	1.6	1.8		
		F84-56	Ⅲ	(15.4)	(11.2)	4.1	2.2	0.6	0.7	2	0.7	2.3	1.9		
		F84-56	Ⅲ	(15)	(10.6)	3.8	2.2	0.5	0.5	2	0.4	1.7	1.9		
		F71-46	Ⅲ	15	11.1	4.1	2.2	0.7	0.6	1.9	0.7	2.2	1.7		
		F68-47	Ⅲ	(15.5)	(10.8)	(3.8)	2.2	0.5	0.6	(2.1)	(0.5)	(2)	2		
		F89-60	Ⅲ	15.7	10.8	4.1	2.1	0.7	0.5	2.2	0.7	2.6	2.3		
		F89-59	Ⅲ	(16)	(11.3)	4.2	2.3	0.7	0.4	2	0.7	2	1.9		
		F84-56	Ⅲ	(15.8)	(11.4)	4.1	2.2	0.7	0.6	1.9	0.8	2	1.8		
		F84-55	Ⅲ	(15.8)	(11.4)	4.1	2.1	0.6	0.7	1.9	0.7	2.2	1.9		
		F84-54	Ⅲ	(15.4)	(11)	4	2.1	0.7	0.4	2	0.7	2	1.8		
		F77-53	Ⅱ	16.7	12.4	4.2	2.2	1	0.9	2-2.3	0.7	2.2	2	直角	
		F77-53	Ⅱ	16.6	12	4	1.9	1.1	1	2.3	0.8		2.3	直角	
		F78-53	Ⅱ	16.1	11.5	4.1	1.9	0.9	0.9	2.3	0.6	2	2.1	直角	
		F79-52	Ⅱ	15.7	11.8	3.6	2	1.2	0.9	1.6-2.3	0.4	2	2.4		
		F79-52	Ⅱ	16.6	12	3.8	2	1	1.1	2.3	0.6	1.9	2.2	直角	
		F79-53	Ⅱ	16.6	12	4	2.1	1	0.9	2.3	0.8	2.3	2.2		
		F79-53	Ⅱ	15.6	11.4	4	2	0.8	0.9	2-2.2	0.7	2.1	1.9		
		F80-53	Ⅱ	15.6	11.4	4.2	2.1	0.7	0.8	2.1	0.8	2.1	1.9		
		F80-53	Ⅱ	14.9	10.7	4.5	2.2	0.5	0.4	2.1	0.2	1.9	2.1		
		F81-53	Ⅱ	16.2	11.6	4.2	2.2	0.8	0.7	2.3	0.7	2	2.3		
		F81-53	Ⅱ	16	11.6	3.8	2	0.9	1	2.2	0.4	1.8	2		
		F81-54	Ⅱ	15	11.2	4	1.9	0.8	0.9	1.9	0.6	1.9	2.1	反り	
		F81-54	Ⅱ	15	11	3.8	1.8	0.9	0.9	2	0.8		2.1		
		F81-54	Ⅱ	15.2	10.8	3.8	1.8	1.1	0.6	2.2	0.6		2		
		F84-57	Ⅱ	15.5	11.5	4.1	2.1	0.9	0.7	2	0.5	2	2.1		
		F84-58	Ⅱ	15.7	11.7	3.7	1.9	1	1.1	2	0.3	2.2	2.6		
		F84-58	Ⅱ	15.2	11	4.2	2.1	0.8	0.5	2.1	0.6	2.3	1.7		
		F84-59	Ⅱ	15.4	11	4	1.9	0.8	0.8	2.2	0.5	2.1	1.7		
		F85-49	Ⅱ	15.4	11	4.2	2	0.7	0.7	2.2	0.7	2.4			
		F86-55	Ⅱ	15.4	12	4.4	2	0.9	0.9	1.7	0.6	2.2			
		F88-58	Ⅱ	15.8	11.6	4	1.9	1	0.9	2.1	0.6	2.1	2.1		
		F88-58	Ⅱ	16.6	11.6	4.2	2.2	0.9	0.6	2.5	0.7	2.5	2		
		F88-59	Ⅱ	15.5	11.3	4.1	2.1	0.8	0.7	2.1	0.9	2.6	2.3		

		F89-58	Ⅱ	16.1	11.3	3.9	2.2	0.8	0.7	2.4	0.5	2.1	2.1		
		F89-59	Ⅱ	15.2	11	4	2	0.8	0.7	2.1	0.5	2.5	2.3		
		F90-58	Ⅱ	15.6	11.4	4	2.1	0.8	0.8	2.1	0.7		2.1		
		F79-53	Ⅱ	16.3	10	3.2	1.8	0.9	0.8	3.1	0.4	2.6	2.2		
		F84-54	Ⅱ	15	11.2	4.3	1.9	0.8	0.8	1.9	0.6	2.1	2	90°	
		F84-54	Ⅱ	15.2	11.7	4.1	1.8	0.9	0.8	2	0.8	2.3	2.5		
		F85-49	Ⅱ	15.5	11	4.1	2	0.7	0.8	2.1	0.8	2.7	2.1		
		F84-61㊦	Ⅱ	(15.3)	(11.5-12)	(4.4)	(2.2)	(0.9)	0.9	1.6	0.7	2.2	2.4		
		F75-49	Ⅰ	15.4	11.3	4.1	2.2	0.8	0.6	2	0.8	2	1.9		
		F75-50	Ⅰ	14.8	10.5	3.8	2.1	0.7	0.5	2.1	0.6	2.2	1.6	反り	
		F76-49	Ⅰ	15.7	11.4	4.2	1.7	0.8	1	2.1	0.6	2	2.2		
		F76-49	Ⅰ	15.7	11.4	4.3	1.7	0.9	0.9	2.1	0.6	1.9	2.3		
		F76-49	Ⅰ	15.2	10.8	4	1.8	0.7	0.9	2.2	0.5	1.9	2.4		
		F76-49	Ⅰ	15	11.2	4	1.7	0.9	0.1	1.9	0.8	1.9	2		
		F77-49	Ⅰ	14.6	10.7	3.4	1.9	1	0.8	2	0.6	2.3	2.6		
		F77-49	Ⅰ	14.9	10.6	4	1.9	0.9	0.6	2.1	0.6	2.1	2.2		
		F77-49	Ⅰ	14.7	10.6	3.6	2	0.6	0.9	2	0.6	2.3	2.1	反り	
		F77-49	Ⅰ	14.8	11	4	2.1	0.7	0.7.	1.9	0.3	1.8	2.3	直角	
		F77-49	Ⅰ	16.6	11.6	4.1	2	0.7	1	2.5	0.9	2.4	2.5		
		F77-49	Ⅰ	15.1	11.2	4.2	1.9	0.7	0.8	2	0.6	2.2	2.4		
		F77-50	Ⅰ	16	11.4	4	1.7	1	1	2.3	0.8	2.3	2		
		F77-50	Ⅰ	15.3	11.4	3.9	1.9	1.1	0.7	2	0.6	1.9	1.4		
		F78-49	Ⅰ	15.7	11.2	4	2	0.7	0.9	2.2	0.5	2.1	1.8		
		F78-50	Ⅰ	15.5	11	4	2	0.8	0.7	2.2	0.5	2.5	2.2		
		F79-49	Ⅰ	16	9.2	3.2	1.7	0.7	0.6	3.4	0.5	2.4	2.3	反り	
		F79-49	Ⅰ	16.4	11.4	4.2	2.3	0.7	0.6	2.5	0.6	2.4	(2.2)	直角	
		F79-49	Ⅰ	15.9	11.7	4.2	2.2	0.8	0.7	2.1	0.6	2.3	2.2	直角	
		F79-50	Ⅰ	15.6	11.4	4.2	2	0.8	0.8	2.1	0.5	2.2	2.3		
		F80-49	Ⅰ	16.4	11.8	4.2	2.1	0.8	0.9	2.3	0.7	2.4	2		
		F81-49	Ⅰ	16	11.4	4.1	1.9	0.9	0.8	2.3	0.7	2.4	2.1	反り	
		F81-49	Ⅰ	15.6	11.8	3.5	1.8	1.2	1.1	1.9	0.4	2	2.4		
		F81-50	Ⅰ	15.4	11.4	4	2.1	0.8	0.8	2	0.7	2.2	1.6		
		F81-51	Ⅰ	17	12	4	1.8	1.1	1.1	2.5	0.9	2.8	2.3		
		F82-61㊦	Ⅰ	15	11	4	1.9	0.9	0.7	2	0.7	2.1	2		
		F84-55	Ⅰ	16	12	3.8	2	1	1.1	2	0.3	1.9	2.4		
		F84-56	Ⅰ	15.3	11.2	4	1.9	0.8	0.9	2	0.5	2.3	2.6		
		F78-59・60	Ⅰ	14.7	10.6	3.6	2.2	0.6	0.7	1.9	0.5	1.6	1.8	90°	
		F81-54	Ⅰ	15.4	11.3	4	1.5	1	1.2	1.8	0.4	1.8	2		
		F81-55	Ⅰ	15.4	11.2	4	1.7	0.9	1	2	0.4	1.9	2.6		
		F82-47～52	Ⅰ	16.7	10	3	1.7	1.1	1.1	3.2	0.4	2.3	2		
		F82-47～52	Ⅰ	15.3	11.1	3.5	2	1.1	0,8	2	0.6	2.3	1.8		
		F82-53	Ⅰ	15.4	11.3	4.6	2.1	0.7	0.5	2	0.3	1.9	2.3		
		F84-49	Ⅰ	15.7	11.3	3.7	2	1.1	1	2.1	0.3	2.3	2.1		
		F84-49	Ⅰ	15.5	12	3.9	1.8	1	0.9	1.4	0.8	1.9	1.8		
		F84-56	Ⅰ	15.7	11.6	(4.3)	2.1	(0.7)	0.9	1.9	0.8	2.1			
		F84-56	Ⅰ	15	11	4	1.5	0.8	0.8	2	0.7	2.4	2.3		
		F84-57	Ⅰ	14.8	10	3.8	2	0.6	0.5	2.5	0.5	2.4	2.3		
		F84-60	Ⅰ	15	10.9	4	2.1	0.7	0.8	1.8	0.5	2	1.5		

		F85-49	I	(16)	11	4.1	2	0.7	0.8	2.2	0.7	3.1	(2.2)		
		F85-49	I	15.5	11	4.2	1.9	0.6	0.8	2.3	0.8	3	(2.5)		
		F85-49	I	15.5	11		2		0.8	2.3	0.7	2.2			
		F85-49	I	15.5	11.3	4	2	0.8	0.8	2.1	0.6	2.3	2.2		
		F86-54	I	15.6	11	4	1.9	0.9	1	2.1	0.4	2.3	1.9	反り	
		F86-54	I	15.4	11.1	3.9	2	0.9	0.8	2.2	0.7	2.4	2.1		
		F87-53	I	15.8	11.3	3.9	2.1	0.8	0.8	2.3	0.8	2.5	2.1		
		F88-53	I	16.2	11.6	3.9	1.9	1.1	0.8	2.3	0.5	1.9	1.9		
		F88-53	I	15.9	11.5	4	2.3	0.9	0.6	2	0.4	2.3	2.2		
		F88-58	I		10.8	4.5	2.2	0.7	0.5	2.1	0.3	2	1.9		
		F89-59	I	15.6	11.6	4	1.7	0.9	1	2.1	0.5	2.1	2.3		
		F88-60	I	14.6	10.4	(4)	2	0.7	0.6	2.1	0.4	1.8	1.8		
		F89-60	I	16	11.5	4.5	2.1	0.9	0.4	2.2	0.7	2.4	2.1		
		F89-61	I	14	10.5	3.2	1.6	1	1.1	1.7	0.3	2.4	2.5		
		F89-61	I	15.6	11.5	3.8	2.1	0.8	0.5	2.1	0.6	2.1	2.1	90°	
		F90-61	I	14.3	10.8	3.7	2.1	0.7	0.8	1.6	(0.3)		(2.2)		
		F91-61	I	16	11.5	4.1	2	0.7	0.8	2	0.7	2.7	1.9		
		F91-61	I	15.8	11.5	3.9	2	1	0.8	2	0.7	2.3	2.2		
		F85-60	I	15.8	10.8	3	2	1	0.8	2.2	0.4	2.4	3		
		F85-60	I	15.8	11.3	(4)	1.8	0.8	0.9	2.4	0.7	2.5			
		表採	I	14.6	11	4.1	1.9	0.8	0.8	1.8	0.5	2	2.5		
		表採	I	15.5	11.1	4	2.6	0.7	0.6	2.1	0.2	1.7	1.7	直角	
		Aトレンチ		15.2	11.2	4.2	2	0.7	0.8	2	0.4		(2.6)	直角	
		Aトレンチ		15.9	11.2	4.2	2.1	0.7	0.7	2.3	0.7		2.1	反り	
		Cトレンチ		15.6	10.8	4.2	1.8	0.9	0.6	2.4	0.5	2.1	2.2		
		Iトレンチ		16	11.4	4.2	1.9	0.8	0.9	2.3	0.7	2.5	2.3		
		SBⅡ002	—	15.6	11.2	4.2	1.9	0.8	0.8	2.2	0.6	2.7	2.4	反り	
		SKⅢ097	—	15.4	11.6	4	2.2	0.8	0.8	1.9	0.6	2.1	1.9		
		SKⅢ099	—	15.6	11	4	2	0.7	0.8	2.3	0.6	1.7	1.8	反り	
		SKⅢ034	—	16.1	11.4	4	1.7	1.1	0.9	2.3	0.5	1.9	2.3	反り	
		SDⅢ027	—	15.4	11.2	4	2	0.8	0.8	2.1	0.4	2			
		SDⅢ027	—	15	10.6	4.2	2.3	0.6	0.3	2.2	0.2	2	2.2	直角	
		SDⅢ027	—	15.8	11.4	4	2.1	0.9	0.7	2.2	0.7	2.2	2.2	直角	
		SDⅢ027	—	14.6	10.9	3.1	1.8	1	1.1	1.8	0.3	1.9	(1.8)	直角	
		SDⅢ027	—	15.4	11.2	4.2	1.7	0.9	0.9	2.1	0.5		2.2	直角	
		SDⅢ027	—	15.6	11.4	4	1.7	1	1	2.1	0.5	2	1.9	直角	
		SDⅢ027	—	14.8	10.4	3.6	2.1	0.8	0.5	2.2	0.3	1.6	1.9	直角	
		SDⅢ027	—	15.4	11.5	4.1	1.7	0.9	1	1.9	0.4	2.1	1.9	直角	
		SDⅢ027	—	15.5	11.2	4	1.8	0.9	0.9	2.1	0.8	2.2	2		
		SDⅢ027	—	15.2	11.2	4	1.7	1	0.9	2	0.5	1.7	2.1	直角	
		SDⅢ027	—	15.6	11.6	4.2	2.1	0.8	0.8	2	0.7	2.1			
		SDⅢ027	—	16.4	9.8	3.2	1.8	0.8	0.7	3.3	0.4	2.4	2.2		
		SDⅢ027	—	15.6	9.7	3	1.5	1	0.8	3	0.5	2.2	2.1	直角	
		SDⅢ027	—	14.4	10.8	3.8	2	0.8	0.8	1.8	0.6	1.9	2		
		SDⅢ027	—	15.4	11	4	1.9	0.8	0.8	2.2	0.5	2.1	2.3	直角	
		SDⅢ027	—	15.5	11.4	4.2	2.2	0.7	0.7	2	0.6	2.1	2.3	直角	
		SDⅢ027	—	14.6	11	3.4	1.7	1.6	0.5	1.8	0.3	1.8	2.3		
		SDⅢ002	—	15.4	11.2	4.3	1.8	0.8	0.8	2.1	0.8	2.3	2.4		

		SDⅢ002	—	16	11.6	4	2	1	0.8	2.2	0.9	2.2	2.2		
		SDⅢ008	—	15.4	11	4.2	1.9	0.7	0.8	2.2	0.8	2.6	2.5		
		1号土抗	—	15.1	11.1	4.1	2.2	0.7	0.6	2	0.7	2.6	1.9		
		1号撹乱	—	15.6	11.1	4.1	2	0.7	0.8	2.2	0.6	1.9	2.1	反り	
		4号撹乱	—	15.4	11.2	4.2	1.8	0.9	0.8	2.1	0.5	2.2	2.2		
		SXⅠ004	下位	16.6	11.8	4.3	2.3	0.9	0.5	2.4	0.6	2.1	2.1	反り	
		SDⅠ001		15.3	11.2	4	1.7	1	0.9	2	0.8	2.5	2.6	直角	
		F82-48	Ⅳ	-15.4	-11.5	4	2.1	0.7	0.6	1.8	0.8	1.8	1.9		
		F82-49	Ⅲ・Ⅳ	(15.3)	(11.2)	(4)	2	0.6	1	1.4	0.5	2.1	2.1		
		F84-61㊦	Ⅳ	(16.3)	(11.5)	4	2.2	0.8	0.7	2.3	0.8	2.4	1.7		

軒平瓦



三葉紋軒丸瓦他

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	上弧幅	弧深	下弧幅	面取り幅	文様区		外縁幅		脇区幅		外縁高	顎部			離れ砂	備　考
								上弧幅	高さ	上	下	左	右		高さ	上厚	下厚		
53	2202	F84-58	Ⅱ				0.7		2.3	1.2	(0.8)			(0.5)	2.3		(2.3)		宝珠文
54	2190	F81-55・56	Ⅰ				1		2.5	0.7	0.7			0.5	2.3		1.4	○	下三葉文
55	2184	F79-50	Ⅱ						2.3	1	0.8			0.5	1.5		2		下三葉文
56	2183	Bトレンチ	Ⅱ				0.6			0.9				0.5					下三葉文
57	2203	F85-49他	Ⅳb						2.4	(0.6)	(0.7)	3.7		(0.6)-(0.5)	3.1	(2)	(1.9)		下三葉文
58	2174	F88-54	Ⅰ				1		(2.3)	1.8				0.5	(2.6)				上三葉文
59	2173	F82-54	Ⅰ				0.8		2	0.7	0.7			(0.3)-(0.4)	2.2	1.9	1.8		上三葉文
60	2177	F80-60	Ⅰ				1		2.2	0.8	0.6			0.4					上三葉文
61	2176	Dトレンチ	Ⅰ				1		2.2	0.7	0.7			0.3	2.1		2.3		上三葉文
62	2178	F80-61	Ⅰ				1.1		2.3	0.8	0.6		3.2	0.6	2.6	2.1	1.1		上三葉文
63	2175	F84-61	Ⅰ				1.1	22.5	2.4	0.9	1.2	2.8		(0.3)-(0.5)	2.7	2	1.9		上三葉文
64	2179	F80-61	Ⅰ				0.4		2.1	1	(0.6)			0.7	(2.1)		(1.7)		上三葉文
65	2193	F74-46	Ⅲ				(0.9)		2	0.6	0.7			0.4	2	3	2.6		上三葉文
66	2200	F82-57	Ⅰ						(2.1)	(0.8)	(0.7)		(3.5)	(0.3)	2.1	2.5	(1.5)		上三葉文
67	2171	F89-59	Ⅰ				(0.6)		2.2	(0.8)				(0.6)		3.8			上三葉文
68	2172	F80-61	Ⅰ	27	3.8	27.7		22.5	2.8	1	0.7	3.3	1.8	0.5	2.2	2.5	2.1	○	上三葉文
69	2191	F85-52	Ⅳ				1.2		2.4	0.7				0.5	2.5				木文
70	2185	F85-53	Ⅲ				1.2		3.6	0.7	1	(5.5)		0.8	3.9		2.1	○	蓮華文
71	2186	F88-55	Ⅲ				1.4		3.8	0.8	0.8			0.7	4		2	○	蓮華文
72	2188	SDⅢ027		26.9	3.9	26.6	0.9	18.9	2.6	0.8	0.7	4.4	3.6	0.1-0.3	2	2.3	1.8	○	蓮華文
73	2187	F89-58	Ⅱ	27	3.9	27	1	18.5	2.4	1	0.7	4.5	4.2	0.3-0.4	2.4	2.4	1.7		蓮華文
74	2180	F82-51	Ⅱ				0.8		1.7	0.7	0.6			0.4	(1.3)		2.1		鳥文
75	2181	F82-48	Ⅳ				0.1			(0.8)				0.4					鳥文
76	2182	F75-50	Ⅰ				0.8		2.4	0.6	0.4			(0.4)-(0.5)	2.4	2.9	2.2		鳥文

77	2201	F83-57	Ⅰ				0.6		(2.7)	0.9	(0.8)	5.1		0.5	2.7	2.9	2.2		笹文
78	2189	SKⅢ001	下位																半菊文
79	2205	F86-53	Ⅲ				0.2		2.8	0.8	0.7			0.4	2.2				梅鉢文
80	2204	F85-51	Ⅰ						2.5	(0.8)	(0.7)			(0.3)	1.7	(2.4)	1.7		巴文
81	2192	F79-62	Ⅲ	(26.4)	3	26	0.3	16.4	3	0.6	0.8	5.3	(4.7)	0.5	2.3	2.6	1.8		釘抜文
82	2206	SPⅢ001	—						2.7	0.6	0.7		4.7	0.2	1.6	2.9	2.1		卍文
	2196	F80-61	Ⅰ				0.3		2.7	0.7	0.9	3.4		0.1-0.4	2.5		1.6		コビキA?
	2197	F80-62	Ⅰ				(1.9)		(5.5)	(0.7)	(0.6)			(0.5)-(0.3)	(6.4)	(1.9)	(1.5)		
	2198	F80-62	Ⅲ								(1.3)	(4)		(0.4)	(6)	(2.2)	(1.8)		
	2199	F82-49	Ⅰ						(5)		(0.9)			(0.5)	(5.9)		(1.8)		
		F85-49	Ⅰ				1		2.6	0.7	0.8	4.1		0.3	2.6	2.2	1.8	○	
		F89-60	Ⅰ						2.4	0.8	(0.8)			0.4	2.3		1.9		
		F90-61	Ⅰ				1.1		2.5	0.8	0.8			0.3	2.3		1.8		
		F81-54	Ⅱ				1.1		2.4	1	0.7		4.2	0.2-0.5	1.7	1.6	1.7	○	
		SDⅢ027	—				1		2.5	0.8	0.7		4.2	0.2-0.4	1.9	1.5	1.8		
		F89-58他	Ⅱ				2回 0.4 0.8		2.5	0.5	0.7		4.2	0.2-0.4	1.6	1.8	1.7	○	
		F71-47	Ⅱ	(25.7)	3.8	25.8	0.7	17.7	2.4	0.7	0.7	(4.5)	4.3		2.3	2.6	1.9		
		F79-53	Ⅱ下位				0.9		2.4	1	0.8			0.3	2.3		1.7		
		F82-52・53	Ⅱ				0.8		2.4	0.8	0.8			0.3-0.3	2.3		1.8		
		F89-60	Ⅲ				1		(2.2)	1	(0.7)	(4.7)		0.1-(0.4)	3	2.1	(1.9)	○	
		F86-60㊦	Ⅱb	26.8			1	18.5	2.4	0.9	1	4.7	(3.7)	0.2	3.1	2	1.4		
		SDⅢ022	—			(27)	0.4	19.1	2.4	1	0.7		4.8	0.3-0.4	2.8	2.4	1.9		
		表採	—				0.7		3.5	0.8	1	4		0.7	4	2.5	2		
		F85-52	Ⅲ						3.4	0.8	1		(5)	0.5-0.6	2.7	2.7	2.1		
		F72-47	Ⅱ下位			26	2回 0.3 0.9	18.6	3.5	0.8	1		4	0.4-0.6	3.7	2.3	1.8		
		F83-55	Ⅰ						3.1	1	1.1			0.4-0.7	3.1	2	2.5	○	
		F82-52	Ⅲ				0.8		3.4	0.7	1	3.7		0.8	4.2	2.3	2	○	
		F84-54	Ⅱ	(22.5)		22	0.2	13.3	2.1	1.4	0.8	5	4.5	0.5	2.5	2.4	1.4		「明治四」刻印
		F85-59	Ⅱ				0.2		3	0.8	0.8		4.3	0.3	2.7	2.1	2.2		明治11年三月造
		F73-47	Ⅱ				1.1		2	1	0.7			0.4-0.5	3		2		
		SKⅢ074	—				1.3		2.2	0.9				0.4	2.4				
		SXⅠ004	下位				1		2.2	0.8	0.8			0.1-0.3	2.2	2	2	○	
		F71-47	Ⅱ						2	0.7				0.3	1.2		2.5		

桔梗紋軒平瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	上弧幅	弧深	下弧幅	面取り幅	文様区		外縁幅		脇区幅		外縁高	顎部			離れ砂	備考
								上弧幅	高さ	上	下	左	右		高さ	上厚	下厚		
83	2161	F78-49	Ⅰ		2.4		1	19.6	3.3	0.8	0.8	3		0.9	3.8	2.3	1.9		
84	2165	SDⅢ027	—				0.3	16.2	2.9	1.2	0.8	4.2		0.6	3.4	2.3	1.3	?	凹面に木目
85	2166	F90-61	Ⅰ				0.3		3.1	1.2	0.9	(6)		0.3-0.5	3.2	3	2.3		
86	2162	F84-48	Ⅱ				0.6		3.3	0.9	0.8			0.9	3.2	2	2.3	○	
87	2167	SBⅢ003	—				0.2		3	1.2	0.8	4.5		0.4-0.6	3.1	2.8	2.1		
88	2164	F86-53	Ⅲ	26.2	3.2		1	16.2	2.6	2		5.8	5.2	0.6					
89	2170	F85-50	Ⅲ	25.9	3.7		0.9	16.2	2.8	0.9	0.8	5.1	4.9	0.3-0.5	2.5	2.6	2	○	
90	2047	F70-47	Ⅱ	26.5	4.2		0.8	15.8	2.6	1	0.8	5.5	5.5	0.3-0.6	3	3.2	2.1		
91	2046	SDⅢ027		24.8	4.3	24.2		16	2.7	(1.4)	1.2	4	4.7	0.5	3	3.5	2.3		
92	2169	F71-46	Ⅲ	25.6	3.8	25.2	1.5	16.5	2.5	0.7	0.6	4.8	4.1	0.5	2.7	2.8	2	○	
93	2163	F87-57	Ⅱ				0.4		(3.4)	0.7	0.9			1.2-1	3.9	1.8	2.5	○	

	2048	F80-54	Ⅱ						3.3		1			1-0.7	(4.2)				
	2168	F89-61	Ⅲ				1.8			1		6.3		0.5	2.7	2.9	1.8	布目？	
		F71-46	Ⅲ						3.2	1	0.9			1.3-0.9	3.5		2.3		
		F87-57	Ⅱ				0.4		3.3	0.8	0.8			0.9	2.9	1.8	2.3	○	
		F87-57	Ⅱ				0.8		3.3	1.1	(0.9)	3.1		1.1-0.8	3.1	2.3	2		
		F87-58	Ⅱ						3.4		(0.9)		3.8	0.8	2.8	3	2.3		
		F86-57	Ⅱ						3.2	0.9	1			1.4-0.9	2.9		2.1		
		F86-58	Ⅱ						(3.2)		(0.9)		3.5	0.9	(3.1)	2.6	(1.8)		
		F71-46	Ⅱ	24.7	3.9		0.4	18.8	3.1	0.7	1		4.1	1.4-0.9	2.6	2.9	2		
		F71-46	Ⅱ						3.1	1.1	0.9	3.2		1.4-0.9	3.3	2.6	2		
		F71-46	Ⅱ				(0.5)		(3.2)	0.7	0.9		(3.3)	1.3-0.8	3.2	2.6	2.2		
		F72-46	Ⅱ						3.2	0.9	0.9			1.4-0.9	2.4		2.1		
		2号カクラン	—						3.2		0.9	3		0.8	3	3.2	1.9	○	
		SKⅢ074	—				1.1		3.1	(0.7)	0.9			1.2-0.9	3		2.1		
		SKⅢ074	—				(0.3)		3.4	(0.9)	(0.9)			1.4-0.9	2.7		2.2		
		SXⅢ016	—						(3.2)	(1.1)	0.9			1.3-0.9	3		2.3		
		F85-53	Ⅱ下位				1.1		2.6	0.7	0.8		5.7	0.3-0.4	2.4	2.9	2.2		
		F79-53	Ⅱ下位				1		2.7	0.8	0.8			0.5-0.7	2.5		2.2		
		F89-58他	Ⅱ				0.9		2.7	0.9	0.8		5.8	0.5	2.5	1.8	1.6		
		F78-55	Ⅱ						2.7		0.7			0.3-0.6					
		F85-54	Ⅱ				0.7		2.7	1.1	0.9		(5.2)	0.3-0.6	2.7	2.6	2		
		F85-55	Ⅱ	25.7	3.7		1.1	15.9	2.6	0.6	0.7	5.7	5	0.3-0.4	2.4	2.7	2.1		
		F85-56	Ⅱ				1		2.7	(1.2)	(0.7)		5.4	0.3-0.4	2.6	2.7	1.8		
		F85-56	Ⅱ				1.5		2.7	1	0.7			0.5	3		2		
		F86-52	Ⅱ				1.1		2.5	0.9	0.9			0.5-0.6	2.9		2.2		
		F86-53	Ⅱ				1.4		2.7	0.7	(0.7)	5.7		0.4-0.5	2.6	2.7	1.8		
		F86-58	Ⅱ				1.1		2.6	0.9	(0.7)			0.4	3	2.4	(1.8)		
		F87-57	Ⅱ				1.1		2.9	0.9	(0.9)			0.4-0.6	2.5		2.1		
		F88-57	Ⅱ				1		2.7	1	(0.8)	(5.7)		0.4-0.5	2.9	2.7	(2)		
		F88-58	Ⅱ				1.5		2.8	0.9				0.5	2.6				
		F71-46	Ⅱ				1		2.7	0.5	0.9		(5)	0.4-0.5	2.8	2.7	2		
		F74-46	Ⅱ				1		2.7	0.7	0.7		5.3	0.4-0.5	2.8	2.9	2.1		
		F83-49	Ⅲ				1.4		3	0.9	(0.7)	5.5		0.4-0.6	3.4	2.2	(1.7)	?	
		F89-60	Ⅲ				1		2.7	(1)	(0.6)			0.4-0.5			2		
		F79-52他	Ⅲ	25.8	3	24.6	0.9	16.5	2.8	0.8	0.8	5.1	4.7	0.5	2.7	2.4	1.8	○	
		F86-53	Ⅲ				0.9		2.9	1	0.7	4.9		0.5		2.2	2		
		F88-57	Ⅲ				1.5		3	1.4	0.6	5.5		0.4	2.8		(1.8)		
		F74-46	Ⅲ	26	3.1		0.6	16.1		1		3.8	6.5	0.2					
		F87-59	Ⅱb				1		2.8	0.9	0.9			0.3-0.5	3		2		
		F84-61㊦	Ⅱ				0.3		2.6	1.4	0.8			0.1-0.5	2.8		1.4		
		F84-60	Ⅱ				3		2.8	0.8	0.7	6.1		0.3-0.5	2.3	2.3	2.5	?	
		F84-61㊦	Ⅱ	26	3	25.6	0.5	16.4	2.7	0.9	0.8	4.3	5.6	0.2-0.5	2.6	2.7	1.5		
		F84-59	Ⅰ				0.8		2.7	0.8	0.8	4.5		0.4-0.5	3.1	2.6	1.7	○	
		F80-50	Ⅰ				1.3		2.8	0.7	0.9		6.2	0.2-0.5	3.3	3.3	2.4	○	
		F80-49	Ⅰ				1.2		2.6	0.8	0.7			0.5-0.5	2.9		1.7		

		F82-47～52	Ⅰ						2.8	0.8	0.8			0.3-0.5				○	
		SBⅡ002	—						3	1.5	1.3			0.5	3.2	3	2.1		
		SKⅢ061	—				1.3		2.7	0.8	0.6			0.4	3.3		1.8		
		SKⅢ085	—				1.2		(2.6)	(1)				0.4	3				
		SXⅢ042	—				1.2		2.7	0.7	0.7			0.2-0.4	2.4		2.2		
		SDⅡ001	—				1	16.5	2.8	0.8	0.8		5.4	0.2-0.5	3.4	3.2	1.8		
		SDⅢ027	—				1.1	16.6	2.8	0.8	0.8		(5.2)	0.4			1.8	○	
		F89-60	Ⅲ				1.4		2.6	0.8	0.8		4.9	0.4-0.5	3.1	2.7	1.9		
		F86-53	Ⅲ	(25.5)		25	1.3	16.5	2.8	1	0.6	(4.5)	4.9	0.5	3.5	1.8	1.7	○	
		F84-60	Ⅱ				1.2		2.7	0.7	(0.8)		6.2	0.3-(0.6)	2.5	3	(2.2)		
		F76～78-63･64	Ⅰ				1.1		2.7	0.9	0.9		5.2	0.3	3.2	2.5	2.1	○	
		F84-59	Ⅰ				1.1		2.5	1.2	0.7	5.3		0.5	2.8	2.9	1.6		
		F84-59	Ⅰ				1		2.7	0.9	0.7	5.5		0.3-0.5	2.6	2.3	1.7	○	
		F85-51	Ⅰ				1.5		2.5	0.7		5.3		0.5	3.3	2.3	1.6	○	
		F88-58	Ⅰ				1.2		2.7	0.8	0.7			0.4-0.5	2.7		1.9		
		F82-51	Ⅰ				0.8		2.7	0.7				0.4	2.2				

九曜紋軒平瓦

遺物番号	実測番号	出土位置	層位	上弧幅	弧深	下弧幅	面取り幅	文様区		外縁幅		脇区幅		外縁高	顎部			離れ砂	備考
								上弧幅	高さ	上	下	左	右		高さ	上厚	下厚		
94	2113	F84-58	Ⅲ				(0.2)		(2.6)	(0.8)	(0.8)		4.2	0.3	2.5	2.3	1.2		
95	2106	F86-53他	Ⅲ	26.2	2.8	26	0.5	15.4	3.1	1	0.8	5.9	4.9	0.5	2.7	3	1.6		
96	2107	F72-46	Ⅲ	25	3.3	24.4	0.5	15.1	(3.1)	1	(0.8)	4.9	4.9	0.5	3.1	2.8	(1.4)		
97	2108	F72-47	Ⅲ			24.9	1.1		2.9	0.9	0.6	4.5	(3.6)	0.4	2.7	2.2	1.8	○	
98	2110	F78-53	Ⅱ		(3.1)		0.5	14.4	2.8	0.9	0.6		(5.5)	0.5	2.6	3	1.6		
99	2109	F84-56	Ⅲ	25.8	2.7	24.3	0.6	15.9	2.8	0.8	0.7	4.7	5	0.6	2.5	2.7	1.9		
100	2111	F89-61	Ⅲ				0.8		2.7	0.5	0.7		4	0.5	2.1	2.3	1.9		
101	2136	F84-56	Ⅲ	26.5	3.6		0.6	16.6	(3)	1.1	0.7	5.2	4.7	0.6	2.4	2.8	1.9		
102	2137	F71-46	Ⅲ	25.6	3.8	24.5	0.2	16.2	(2.6)	0.8	(0.6)	4.5	4.5	0.1-0.4	2.5	2.8	1.6		
103	2141	F89-61	Ⅲ	26	3.7	26	0.2	16.2	3	1	0.5	4.5	5.1	0.5	2.6	1.8	1.8		
104	2143	F90-61	Ⅲ	25.4	3.2	24.7	0.2	16.3	2.7	0.6	0.7	4.5	4.6	0.4	2.6	1.9	1.8		
105	2138	F68-47	Ⅲ				0.3		(4.4)	(0.6)	(0.7)		4.2	0.6	2.2	(2.3)	(1.6)		
106	2142	F90-60	Ⅲ	25.5	2.8	25.2	0.2	16.2	2.8	0.8	0.8	4.6	4.7	0.5	2.4	2.1	1.8		
107	2140	F85-60	Ⅱ						2.2	(0.9)	0.8	4.7		0.5	2.5	2.9	1.8		
108	2139	F77-49	Ⅰ						(2.5)		0.8		4.7	(0.3)		2.5	1.2		
109	2126	F85-59	Ⅱ				0.2		2.8	0.7	0.5			0.3	1.9		2		
110	2123	F71-46	Ⅲ	26	2.9	25.2	0.4	15.4	2.7	0.8	0.5	5.4	5.2	0.2	1.4	2.9	1.8		
111	2128	F84-54	Ⅲ						2.5	(1)	0.6	5.7		0.2	1.9	2.3	1.7		
112	2127	F85-60	Ⅱ						(2.6)	(0.6)			(4.7)		(1.5)	2.8	(2.1)		脇区右に線刻
113	2124	F85-50	Ⅲ	(26.3)			0.4	14.5	2.5	1.4	0.5	6.6	(5.2)	0.2	2.3	1.3	0.5		
114	2125	F84-61他	Ⅲ	25.5	2.9		0.3	15.3	2.7	0.9	0.7	4.8	5.4	0.3	2.2	2.1	1.6		キラコ
115	2115	F91-61	Ⅲ					17	3	0.8～(1)	0.6		5.1	0.4	2.5	2	2		
116	2121	F89-57	Ⅱ						(3)	(0.8)	0.6		4.7	0.4	1.9	2.1	1.3		
117	2116	SDⅢ027	—	25.5	2.9	25.4	0.2	15.5	2.6	0.7	0.5	5	5	0.3	2.3	1.5	1.5		
118	2117	F85-50	Ⅲ				0.3	16.6	2.9	0.5	0.8		6.5	(0.3)	2.3	2.8	1.9		
119	2122	F81-48	Ⅰ				(0.3)			(0.7)			5.1		(1.6)	2.4	(1.4)		脇区右に線刻

120	2118	F81-48	Ⅲ				0.4		2.5	0.9	0.7		5.7	0.3	2.6	2.2	1.8		脇区右に線刻
121	2114	F71-46	Ⅲ				0.1		3	0.8	0.6	5		0.4	1.9	2.3	1.3		
122	2155	F67-47	Ⅲ				0.2		2.7	0.7	0.8	5		0.4	2.1	2.2	1.5		キラコ
123	2133	F84-56	Ⅲ				0.4		3	0.8	0.6	4.6		0.4	2.1	2.4	2		刻印（猿渡）
124	2135	F88-59	Ⅰ						(3.1)	0.5	(0.4)		(4.9)	(0.3)	(2)	2.5			
125	2134	F84-56	Ⅰ				0.3	16.1	3	0.9	0.5	5.4		0.3	1.9	2.4	1.8		
126	2154	F89-61	Ⅲ				0.2		2.7	0.8	(0.6)			(0.2)	2.3	2.4	(2)		
127	2149	F85-59	Ⅱ						2.5	0.7	(0.6)	(6.4)		(0.2)	1.9	2.5	(1.6)		
128	2153	SDⅢ027	—	26.6	2.2	26	0.2	15.1	2.5	2.6	0.8	5	6.1	0.5	1.7	2.1	1.9		
129	2150	F85-52	Ⅱ				0.2		2.6	(0.8)	(0.6)			0.6	2.1	1.9	(1.6)		
130	2151	SDⅢ002	—				0.2		(2.5)	(0.9)	(0.6)			(0.3)	2.1	(2.3)	(2)		
131	2152	SDⅢ027	—				0.3		2.7	0.8	(0.5)		5.5	(0.2)	2.2	2.5	(2)		
132	2148	F68-47	Ⅲ	26.4	3	25	0.3	16	2.6	0.7	1	5.2	5	0.2	2.5	2.3	1.8		キラコ
133	2147	SKⅢ001	—	25.4	3	25	0.2	15.6	2.7	0.6	0.8	5.1	4.7	0.2	2.3	2.2	1.9		
134	2145	Iトレンチ	Ⅲ				0.2	15.8	2.7	1	0.8		4.5	0.3	2.5	2.3	2.1		瓦当面にキラコ
135	2144	F84-61㊦	Ⅱ						2.8	0.8	0.9		(5.2)	0.3	2.6	2.5	1.7		
136	2129	F71-46	Ⅲ	26.7	2.5	26.7	0.3	16.5	2.5	0.7	0.6	6	4.5	0.3	2.4	2	1.8		
137	2130	F68-47	Ⅲ	25.8	2.7	25.3	(0.2)	16.6	2.6	(0.7)	0.8	4.7	4.5	0.2	1.8	2.4	1.8		
138	2131	F88-54他	Ⅲ	(26)	2.3	25.5	0.3	16.6	2.7	0.8	0.5	4.8	4.7	0.2	1.9	2.1	1.9		
139	2132	F80-64	Ⅲ					(16.4)	2.5	1	0.7			0.2	1.8	2.5	1.7		
140	2146	F84-61㊦	Ⅱ	24.8	3.1	24	0.2	14.6	2.6	0.8	0.9	5.3	4.9	0.4	2.2	2.1	1.9		
141	2159	F84-60	Ⅱ						(2.9)	0.8	(0.7)			(0.2)	1.9	2.5	(1.8)		
142	2158	F88-55	Ⅲ				0.2	14.4	2.9	0.6	0.5	5.4		0.3	1.5	2.6	1.8		
143	2156	F84-58	Ⅱ						2.4	0.8	0.7		5.6	0.2	1.3	3	2.2		
144	2160	SDⅢ028	Ⅲ				0.2		2.6	0.8	0.5			0.2	2.2	(2.5)	2.1		
	2112	F88-60	Ⅲ						(3.1)	(1)	(0.5)	(4)		(0.5)	2.7	2.8	(1.9)		
	2119	F85-50	Ⅲ						2.5	1	(0.8)		(5.2)	0.3	2.4	2.2	1.6		
	2120	F82-50・51	Ⅰ						(2.4)	(0.9)	(0.8)			(0.5)	1.9	2.4	(1.6)		脇区右に線刻
	2195	F80-54	Ⅱ						2.7	0.7	(0.5)	5.7		0.3	1.7	2.3	1.7		
	2157	F89-58	Ⅱ						(2.3)		(1.9)			0.3	(2)		(1.4)		
		表採	Ⅰ				(0.6)		2.6	(1)	(0.6)	5		(0.5)	2.6	2.5	1.9		
		表採	Ⅰ	25	3.5	24.8	0.3	16.5	2.7	0.8	(0.6)	5	5	0.6	3	2.1	1.5		
		F87-59	Ⅱb						(3)	(1)	(0.7)	5.6		(0.4)	2.2	3	1.9		
		F84-56	Ⅲ	25.5	2.7	23.9	0.4	16	(2.9)	0.9		5.2	4.3	(0.5)	2.4	2.4	2		
		F88-55	Ⅲ	25.6	(3.1)		0.8	17	2.7	0.5	0.7	4.5	4.1	0.7	2.3	2.6	1.6	○	
		F89-57	Ⅲ				0.6		2.8	0.8	0.7	5.3		0.5	2	2.9	1.8		
		F72-47	Ⅲ				0.8	(16.8)	3	0.7	0.7		3.8	0.4	3	2.3	1.8	○	
		F78-51	Ⅲ	25.8	(3.3)		0.8	17	(2.7)	1		5	4.5	0.5	3	2.6	1.5	○	
		F86-60㊦	Ⅱa				0.6		2.6	1.2	0.7			0.5	2.5		2		
		SDⅢ027		26.1	2.8	25	0.4	15.6	3	1	0.7	5	5	0.5	2.7	2.4	1.8	○	
		F68-47	Ⅲ	25.9	2.5	24.8	0.2	15.6	2.5	0.9	0.8	5.1	5	0.3	2.2	2.3	1.5		キラコ
		F79-63	Ⅲ	26.6		25.5	0.2	15.5	2.7	0.9	1	5.8	5.3	0.3	2.2	2.3	2		
		F84-58	Ⅲ	26	3	25.9		16	2.6	0.9	1	5	5.5	0.4	2.5	2	1.8		
		F82-49	Ⅲ・Ⅳ			26.2	0.3	15.2	2.6	1.3	0.4	6.3	5	0.2	2.5	2.4	2		
		F84-57	Ⅲ	26.5			0.2	15.2		1.1		5.6	5.7			1.9	1.6		

		F84-57	Ⅲ				0.2	15.4	2.7	1.1	0.6		5.4	0.2	2.5	2.3	1.9		
		F71-45	Ⅲ				0.2		2.5	1	0.7	5.2		0.1	1.3	3	2		
		F88-55	Ⅲ	(25.6)	2.8		0.2	15.2		0.8		(4.7)	5.7	0.3					
		F84-57	Ⅲ	(26.5)	2.6		0.3	25.4	2.6	0.9	0.4	5.5	5.7	0.3	2	2.9	1.9		
		F83-49	Ⅲ	26.4	3		0.3	15.3		1.1		5.7	5.6	0.2					
		SXⅢ002					0.3		2.6	0.7	0.7		(5.8)	0.2	1.4	2.6	1.9		
		F86-54	Ⅲ				0.3		2.7	0.6	0.7	5.3		0.3	2.5	1.8	1.2		
		F89-56	Ⅲ	25.2	2.6		0.2	16.5		0.9		4.3	4.4						
		F87-59	Ⅱa	26.7	2.3	26		17	2.6	0.7	0.8	4.6	5.3	0.3	1.9	2	2		
		F84-55	Ⅲ	26.3	2.9	26.3	0.3	16.4	2.9	0.9	0.7	4.9	5.3	0.3	2.4	2.7	2.1		
		F84-56	Ⅲ				0.4		3	0.8	0.6	4.6		0.4	2.1	2.4	2		
		F84-56	Ⅰ	25.9	2.8		0.3		3	1	0.7	5		0.3	2.3	2.3	2		
		F89-60	Ⅲ	(25.2)	3.2	24.7	0.3	16.5	2.8	0.7	0.8	4.4	4.7	0.5	2.5	1.8	1.6		
		F91-60	Ⅲ	27	3.8	(27)	0.5	17	3.1	0.7	0.8	5	5	0.5	2.1	2.2	2.2		
		F84-54	Ⅲ	26.1	3.4	25.5		16.5	2.9	0.9	0.6	5.4	4.1	0.5	2.3	1.6	1.5		
		F84-54	Ⅲ	26.4	3.2		0.2	16.5	2.2	0.9	0.7	4.6	5	0.5	2.5	1.8	1.5		
		F68-47	Ⅲ	(26)	(3.6)		0.8	16.3	2.7	0.6	0.7	5.1		0.4	2.8	2.2	2.1		
		F68-47	Ⅲ				0.5		(2.7)	0.9	(0.7)		4.3	0.5	2.1	(2.6)	(1.8)		
		F68-47	Ⅲ				0.3		2.8	0.9	0.8	4.8		0.3	2.7	2.4	1.9		
		F71-46	Ⅲ				0.2	16.5	2.9	1.2	0.8	5	5	0.5	2.9	2.9	1.8		
		F72-46	Ⅲ	(25.9)		(25.3)	0.3	16.6	(2.8)	0.7	(0.7)	4.4	4.3	0.5	2.2	2.5	1.8		
		F79-52	Ⅲ						3	0.8	0.7	4.6		0.6	2.6	2.5	1.7		
		F79-52	Ⅲ				0.4		2.8	0.9	0.7	5.6		0.6	3.1	2.1	1.6		
		F79-52	Ⅲ				0.3		3	1	0.5		4.5	0.6	3.6	2.7	1.7		
		F86-53	Ⅲ				0.4	16.9	3	0.9	0.6	(4.7)		0.7	2.6		1.9		
		F87-59	Ⅱb				0.3		2.9	0.7	0.5	4.4		0.4	3.2	2.2	1.8		
		F87-60㊦	Ⅱb				0.4		2.7	0.6	0.6			0.4	2.5	(2.6)	2.1		
		F86-60㊦	Ⅱa	25.5	3.7	25.6	0.3	16.8	2.9	0.7	0.5	4.5	4.5	0.4	3.5	2.5	2.1		
		表採	Ⅰ						2.6	0.9	0.5	3.5		0.5	2.4	3.3	1.5		
		F87-59	Ⅱa						2.8	1	0.8			0.2	2.2		1.9		
		F71-46	Ⅰ				(0.3)		2.6	0.8	0.6		5.4	0.4	2.4	2.3	1.9		
		F88-55他	Ⅲ				0.7		2.6	0.6	0.9		4.9	0.5	2.5	2.5	1.5		
		F72-47	Ⅲ	26.9	3.1		0.6	14.8	2.7	0.6	1	6.1	(6)	0.4	2.4	2.3	1.5		

⑺　刻印（第239～248図、第８～９表）

本丸御殿跡の発掘調査で出土した瓦の刻印について述べる。今回の報告では特に断らない限り、本丸御殿が焼失する直前に屋根に使用されていたものと判断できる、Ⅲ層から出土した瓦の刻印を扱った。出土した位置から、葺かれていたと考えられる建物に分類した。同じ名前の刻印であっても、多数の笵が存在するため、今回の報告では、同一の名前のすべての笵の刻印を掲載することはせず、代表的なものを掲載した。また、刻印から瓦師の名前や年代等の特定は行わず、刻印の判読のみに留めた。刻印のうち、判読できなかった文字を□・［　　］で示した。また、判読できなかったものについても、同文と思われる刻印から文字が比定できるものについては（　　）で示した。

a. 刻印の種類

本丸御殿跡から出土した瓦の刻印は種類が多岐にわたっており、また同一の人名であっても笵が複数あることが確認できた。第９表には各建物別の刻印の人名（例：「五右衛門」と「作　五右衛門」、「土山　五右衛門」などは「五右衛門」として計上）と、その個数を示し、第239～248図に各人名の代表的な刻印の拓本を掲載した。また、第250図は比較的多かった人名の割合を、グラフに表したものである。いずれの表でも、刻印の笵ごとの個数を示すには至っていない。

刻印の種類としては、製作地を示すもの（「小山」、「土山」）、製作者の名前又は名前の一部を示すもの（「五右衛門」、「五」）、記号（九曜紋など）に大別される。「小山」は現在の熊本市東区小山（おやま）、「土山」は上益城郡益城町小池にあたる。記号的な刻印の種類としては、九曜・桔梗・丸に一つ引きのように家紋として使用されるもののほか、丸や菱、花形などが見られる（第248図）。製作者の名前または名前の一部を示す刻印には数パターンがあり、代表的なものについて以下に述べる。

①年号、製作地、製作者を記すもの

第245図の「元禄五申ノ　土山　伊兵」のように、年号・製作地・製作者を記す。判は角形と丸形のものが見られるが、角形のものが多い。本丸御殿跡出土の瓦刻印の中では、元禄・宝永・正徳年間のものが見られた。この時期の年号の刻印を持つ瓦は、城内の各所の発掘調査で出土している[1)]。

本丸御殿跡で出土した瓦では、元禄年間の年号をもつ刻印が最も多く、製作者としては「小山　勘」が最も多い。本書では、年代が特定できる刻印を、出土地点から本来葺かれていたと考えられる建物に分類し、年代順に第245～248図に示した。また、出土地点の詳細を第８表及び第249図に示した。

最も古い年号の入ったものは、長之間で出土した「元禄三　小山　勘」（第247図）であった。

②製作者の名前を記すもの

「土山　五右衛門」のように製作地を記すもの、「作　五右衛門」のように製作者であることを明示するもの、「五右衛門」と名前だけを記すもののほか、第239図の「巳　五右衛門」のように、十二支と名前を組み合わせたもの等のパターンがある。角形と丸形のものがある。

③製作者の名前の一部を記すもの

「源」や「五」のように、名前の一部と見られる漢字一字を記す。源右衛門や源左衛門、源四郎のように「源」の文字を持つ製作者は複数いるため、人物の特定には至っていない。「うし　五」のように、製作した年の十二支を記すものもある。判は丸形が最も多い。同じ「源」の文字でも複数の笵が見られる。また、第243図の「芦金」のように、苗字と名前の一字ずつを記すものもある。

④製作者の苗字を記すもの

「猿渡」や「北村」、「坂上」のように、瓦の製作者の苗字を記す。熊本藩では、百姓や町人らが献金等の「寸志」よって苗字・帯刀御免を受ける事例が近世中期以降増加する。寛政11年（1799）から明治３年（1870）までの熊本藩住民の様々な社会活動について、藩が評価、褒章を行った記録である「町在」（永青

文庫蔵）には、小山・土山の瓦師たちが寸志を行い、賞美されたことが記されている。刻印に苗字が記されるようになる意味は、寸志による苗字御免の獲得との関係を視野に入れ、検討する必要がある。

なお、小山・土山で製作された瓦のほかに、肥後国以外で製造されたことを示す刻印を持つ瓦が出土している。第243図の「大坂大塚七兵衛」や第248図の「筑後　平　柳川　忠平　散田」などである。「柳川散田」は現在の福岡県柳川市三橋町蒲船津地区にあたり、塩塚川沿岸には文久２年（1862）創業の江崎洋瓦本店が現在も操業している[2)]。

以上の刻印のほかに、「御用」と記されたものも見られ、目的によって判が使い分けられていたと考えられる。

b. 瓦師について

瓦師福田家の先祖附によれば、小山での瓦の製造は加藤清正の頃より行われていたとする。元和８年（1622）の加藤家分限帳[3)]には「一、参拾人扶持　瓦焼拾五人」と記されており、加藤家は瓦製造のための職人集団を召抱えていたことが知られる。

細川氏入国後の瓦師は、当初御作事頭の配下に置かれた。その後、安永７年（1778）に御郡代支配となり、瓦師の中から瓦師横目を置くこととなった。しかし、天明６年（1786）には再び御作事頭支配となり、さらに文化７年（1810）には御郡代支配となっている。

次に、小山・土山で瓦の製造を行った主な瓦師について述べる。瓦師棟梁の概要や系図は『土山の歴史』、『肥後讀史総覧』、『益城町史　史料・民俗編』、『益城町史　通史編』などに紹介されている。しかしながら、史料の制約上、数代の欠落等がみられる。史料調査による人名の捕捉については今後の課題である。

猿渡家

初代猿渡甚左衛門は加藤清正より家臣に取り立てられ、その後土山に居住し瓦師筆頭棟梁として重用されたと伝わる。城内御用瓦師として25人扶持を拝領し、御用瓦運方として引高120石が設定されていた。二代目甚左衛門も加藤家改易後に入国した細川忠利から扶持を与えられた。以降、庄右衛門、甚四郎、庄左衛門、龍蔵と代々瓦師棟梁を勤めた。

北村家

初代北村与兵衛は加藤清正の入国に伴って江戸浅草より土山に移住したと伝わる。扶持を拝領し、瓦師棟梁に任命された。二代目の太右衛門も瓦師棟梁に任命され、毎年米５俵が与えられ、120石の引高が設定されている。以降幕末まで、茂兵衛、甚次郎、角右衛門、新蔵、清蔵、嘉市らが瓦師棟梁等を勤めた。

福田家

初代福田五右衛門は慶長３年（1598）に「熊本御城御造営之節瓦師棟梁職」に任じられ、小山村に居住したと伝わる。その後、小山の瓦土が乏しくなったことから寛文12年（1672）に鯰手永土山村に移った。初代より安永年間までは代々五右衛門を名乗っているが、その後儀平太（林右衛門）、常右衛門と続く。代々、瓦師棟梁や瓦師横目などの職を勤めた。なお、福田家は土山へ転居しているが、一部は小山に残り瓦の製造を続けているようである。『肥後讀史総覧』には小山村瓦師棟梁福田勘次郎が文化７年（1810）に死亡し、息子の順太が瓦師棟梁を拝命したとある。

福田家について『熊本市史』では、「同家は、もと清正公が朝鮮から伴つて来られた、所謂『高麗人』の子孫」という伝承を紹介している。

芦原家

初代芦原伊兵衛は蒲生飛騨守氏郷に仕えていたが、天正18年（1590）の蒲生家の会津転封に伴い浪人と

なり、その後詫磨郡本庄手永小山村に居住したとされる。伊兵衛の死後、子の弥右衛門は渡世の手段として瓦職を覚え、小山村に扶持方・家屋敷を拝領した。その後、小山村の瓦土が少なくなったことから寛文12年（1672）に土山に移り、御用瓦の製造にあたった。その後、助七、金七、弥次右衛門、弥八郎と続き、代々瓦師横目等の職を勤めている。

坂上家

坂上家の記録によれば、初代の坂上安兵衛は江戸浅草に居住し、加藤清正の入国に伴って鯰手永小池村の内土山に居住し、４人扶持を拝領、帯刀御免を受けた。築城にあたっては瓦焼を勤めた。二代目安兵衛も細川忠利入国後に瓦師として取り立てられ、御用瓦の製造を行った。その後、坂上仁右衛門と弟仁平次は享保９年（1724）に御用瓦師持懸で、熊本藩家老である松井求馬の家臣となっている。

北村家や坂上家の記録によれば、加藤清正の入国に伴って江戸浅草から土山に居住したとある。しかしながら、「武江年表」によれば江戸で瓦が焼き始められたのは正保２年（1645）となっており、江戸城の造営や再建等に必要な瓦は江戸・大坂からの遠距離輸送によってまかなわれていたとの見解がある[4)]。清正が江戸より瓦師を連れて入国したという説は今後検討を要する。

ｃ．本丸御殿の刻印瓦の構成

以下に、瓦が葺かれていた建物別の刻印の特徴について述べる。

①大広間

Ⅲ層から出土した瓦のうち、刻印のあるものは1051点（うち平瓦859点、丸瓦170点、目板瓦１点、軒平瓦１点、谷丸瓦１点、板瓦１点、瓦の種類が特定できないもの18点）である。

このうち、「源」の刻印を持つ瓦が最も多い127点で、続いて「五」が75点、「二郎太」が62点であった。

②九曜之間・吉野之間

刻印のあるものは334点（うち平瓦229点、丸瓦18点、目板瓦86点、軒目板１点）である。他所より目板瓦が多く出土している。目板瓦には正徳年間の年号のある刻印もあり、この頃何らかの作事が行なわれたと考えられる。

本丸御殿の建物の立面を描いた「御城図」（永青文庫蔵、１分冊30頁第16図－５）によれば、九曜之間・吉野之間といった中奥の建物は桧皮葺で描かれるが、その後瓦葺となった可能性もある。他所より目板瓦が多い理由としては、塀などに使用されていたことや、上層の屋根の雨落ちに置かれる置き瓦として使用されていたことなどが考えられる。

大広間同様、最も多いのは「源」の22点であるが、続いて「四郎」17点、「五右衛門」15点が続く。また、他所に比べ「御用」と「平」、「土山　清四郎」の刻印のある瓦が多く出土している。

③猿牽之間・御数寄屋

刻印のあるものは130点（うち平瓦88点、丸瓦39点、軒丸瓦１点、棟瓦１点、瓦の種類が特定できないもの１点）である。

最も多いのは「二郎太」の14点で、次に「源」13点が続く。ここでは一点のみであるが「瀬高」（第244図）の刻印を持つ瓦が出土している。

④大御台所

刻印のあるものは409点（うち平瓦357点、丸瓦42点、目板瓦２点、水板瓦２点、板塀瓦１点、棟瓦１点、瓦の種類が特定できないもの４点）である。

「源」が最も多い57点、続いて「五」47点、「二郎太」27点、「五郎」23点が続く。

⑤御小姓部屋

刻印のあるものは396点（うち平瓦293点、丸瓦34点、目板瓦58点、棟瓦４点、谷平瓦３点、軒平瓦２点、軒目板瓦２点）である。九曜之間・吉野之間と同じく、目板瓦が多く出土している。

最も多いのは「源」の55点で、続いて「五」の34点が続く。また、他所と比較して「土山　三介」、「源左衛門」、「仁右衛門」の刻印のある瓦が多い。

⑥長之間

刻印のあるものは283点（うち平瓦231点、丸瓦49点、棟瓦３点）である。

最も多いのは「源」の29点で、続いて「五」26点、「少」23点、「二郎」20点が続く。

⑦西廊下

刻印のあるものは58点（うち平瓦44点、丸瓦14点）である。

瓦の総数は少ないが、他所と同様に「源」が多いようである。また、「大坂大塚七兵衛」の刻印が１点出土している。

⑧小広間

刻印のあるものは210点（うち平瓦185点、丸瓦25点）である。

最も多いのは「五右衛門」の24点、次いで「二郎太」・「少」が12点ずつ出土している。

⑨長局御櫓

刻印のあるものは1737点（うち平瓦1351点、丸瓦349点、目板瓦９点、軒平瓦７点、掛丸瓦７点、棟瓦４点、軒丸瓦２点、板塀瓦２点、道具瓦１点、瓦の種類が特定できないもの５点）である。

長局御櫓の場合、瓦の総数が多いことも関係するだろうが、他所と刻印の種類の構成が異なっている。最も多い「五右衛門」は442点と突出しており、続いて「左［　］」237点、「四郎兵衛」120点となる。これ以外に特に多く見られるものとしては、「茂兵衛」、「半左衛門」、「三郎右衛門」、「一右衛門」などがあった。「五右衛門」の刻印の笵は同一のものが使用されている。また、「左［　］」や「一右衛門」は他所でほぼ見られず、長局御櫓の葺き替えの際、特定の工人に短期間に発注された可能性が考えられる。

⑩御天守廊下

今回の調査で確認された瓦のうち、刻印のあったものは４点（平瓦３点、目板瓦１点）のみである。刻印の種類としては「五郎」２点、「二郎」１点、「土山　三介」１点であった。

小結

今回報告した資料は本丸御殿の調査で出土したうちの一部である。さらに整理・分析を進め熊本城の瓦の全容に迫る必要がある。ここでは飯田丸と本丸御殿の報告でみえた傾向を述べる。

基準資料となる軒先瓦については、家紋瓦である桔梗文・九曜文と、それ以前からの三巴文等で大きな時期の区別はできる。三巴紋軒丸瓦は、笵の数が非常に多い。熊本城出土例には名護屋城例と同笵と指摘されたものもあり、16世紀末の熊本城創建の際に大量に生産されたものであろう。技法としてはコビキＡが一部で確認できる。製作技法については、工房もしくは工人による差が出ているためか笵と同様に細かな差がある。瓦当面を含め、全体的な器面の粗さ、瓦当上端の反りが共通した傾向である。三巴紋軒丸瓦はⅢ層からも一定量出土しており、焼失時まで使用されていたと言える。なお、三巴紋軒丸瓦の一部は17世紀以降に生産されたものもあり、意匠としては伝統的に使用されたものと思われる。桔梗紋軒丸瓦は、出土量としては少ない。加藤期の中でも後半で生産されたもので、三巴紋軒丸瓦を葺き替えるほどのものではなかったと思われる。佐敷城や水俣城の出土状況からは、桔梗紋軒丸瓦３ａは後出する可能性がある。九曜紋軒丸瓦は前者に比べ生産時期が長く、工業製品的な仕上がりになっているものが多く、差が見出しにくい。傾向としては、古式のものは瓦当面に離れ砂と思われる細かな砂が付着し、仕上げのナデが粗い

ようである。離れ砂は三巴紋軒丸瓦・桔梗紋軒丸瓦から続いている。砂の付着がみられないものに、キラコの付着がみられるものがあり、キラコの付着は新しい要素と言える。

軒平瓦は、宝珠文、桐文、三葉文、立木文、蓮華文、鳥文、笹文などが三巴紋軒丸瓦とセットになるようである。名護屋城出土例との同笵関係や文様の近似性がある一群で、66の上三葉紋軒平瓦Ｅに「文禄四年」の年号があることからも名護屋城の盛期である16世紀末を中心とした時期であろう。瓦当面に砂の付着がみられるものが多い。三巴紋軒丸瓦と合わせて文様の種類が多い点は、工房もしくは工人の差を反映している可能性もある。桔梗紋軒平瓦は、桔梗紋軒丸瓦の文様の多様性に比べ差は小さい。瓦当面に砂が付着する傾向は続いている。九曜紋軒平瓦は文様が多様である。刻印に「元禄七　土山」がみられる九曜紋軒平瓦Ａａは、生産時期が17世紀末以降になるものである。砂の付着例が一定量あるものは、飯田丸出土例と合わせて九曜紋軒平瓦ＡＢＣであり、これらが九曜紋軒平瓦の中では古式になるものと思われる。キラコの付着開始時期はまだ明確にできないが、文様の複雑化や瓦当弧の扁平化は時期的な傾向の可能性がある。文様の系統を整理し技法を分析した上で時間軸への当て込みをしていく。

刻印については、どの段階から使用されたのかはまだ不明瞭である。桔梗紋軒先瓦以前は、小ぶりな家紋等が押されている。製作地や製作者名の刻印は現状では九曜文以降の瓦にみられる。今回、部分的ではあるが調査区内での出土傾向をみた。現状で最も古い年号である「元禄」は、全域から出土する傾向があり、17世紀末から18世紀初頭に全域で葺かれる契機があったことが想定できる。建物毎の内訳では、葺かれた瓦の刻印が多種に及ぶことが明らかになった。大半の建物で「源」「五」「二郎太」が多い傾向がみられた。小広間や長局では「五右衛門」の比率が高く、特に長局では25％に達する。これらが何を意味するものかは現状では不明瞭で、今後分析範囲を広げるとともに、技法との関連をみていく必要がある。

〔註〕

1）熊本城調査研究センター『熊本城跡発掘調査報告書１―飯田丸の調査―』2014

2）福岡県教育委員会『有明海沿岸道路大川バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第12集　矢加部町屋敷遺跡Ⅳ　蒲船津西ノ内遺跡・蒲船津水町遺跡』2012

3）山田康弘・高野和人編『青潮社歴史選書４　肥後加藤侯分限帳』青潮社　1987

4）上原真人『歴史発掘⑪　瓦を読む』講談社　1997

〔参考文献〕

坂上一雄『土山の歴史』1959
熊本市役所『熊本市史　復刻版』青潮社　1973
鶴屋百貨店『肥後讀史総覧　上巻』1983
森田克行「畿内における近世瓦の成立について」『摂津高槻城』高槻市教育委員会　1984
益城町史編さん委員会編『益城町史　史料・民俗編』益城町　1989
益城町史編さん委員会編『益城町史　通史編』益城町　1990
後藤宏爾「名護屋城跡出土の軒平瓦」『研究紀要第２集』佐賀県立名護屋城博物館　1996
宮崎博司「名護屋城跡出土の軒丸瓦」『研究紀要第３集』佐賀県立名護屋城博物館　1997
宮崎博司「肥前名護屋上跡出土の飾瓦」『研究紀要第５集』佐賀県立名護屋城博物館　1999
熊本市教育委員会『特別史跡　熊本城跡　石垣保存修理工事・発掘調査報告書』1999
芦北町教育委員会『佐敷城跡』2004
八代市教育委員会『麦島城跡』2006
山崎信二『近世瓦の研究』同成社　2008

第239図　出土瓦刻印拓本１（１／２）

0　5cm

第240図　出土瓦刻印拓本２（１／２）

御用

(御)
□用　イ

御用　ロ

御用　ヘ

御用　ト

御用　ヌ

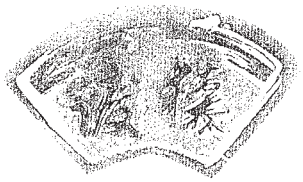
御用　ヨ

御用　マ

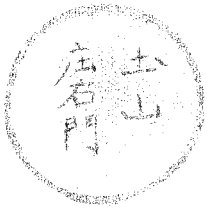
御用　オ

猿渡

猿渡


猿渡

庄右衛門


土山　庄右門

平

平

茂兵

茂兵衛

茂兵へ

大

小山　太

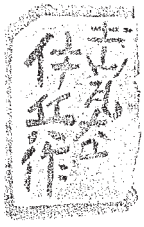
五郎左衛門

作　五郎左衛門

〔　〕伊兵

巳　伊兵衛

土山　伊兵衛


土山瓦大工　伊兵作

二郎兵へ

二郎兵へ

作　二郎兵へ

十兵衛

十兵

土山　十兵衛

重兵

土山　重兵衛

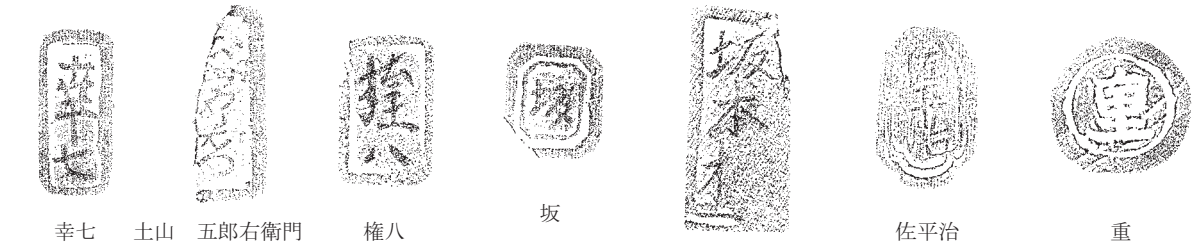
0　5cm

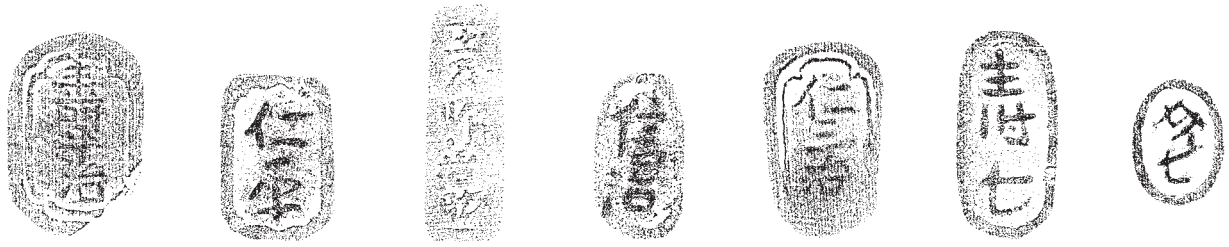
第241図　出土瓦刻印拓本３（１／２）

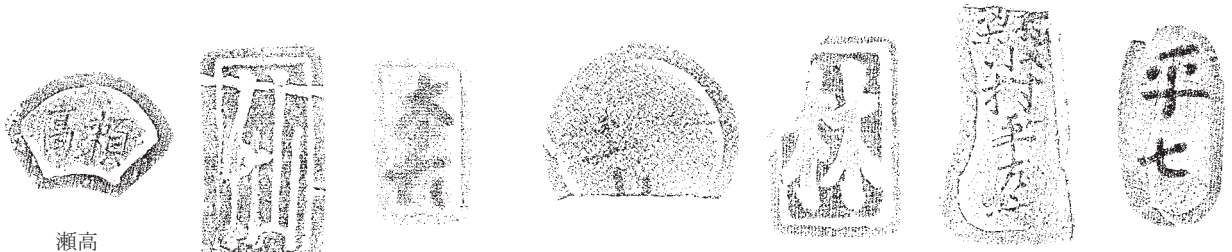
0 5cm

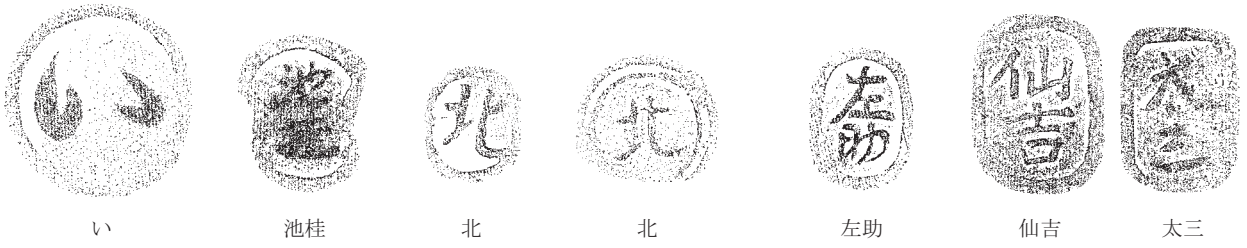
第242図 出土瓦刻印拓本４（１／２）

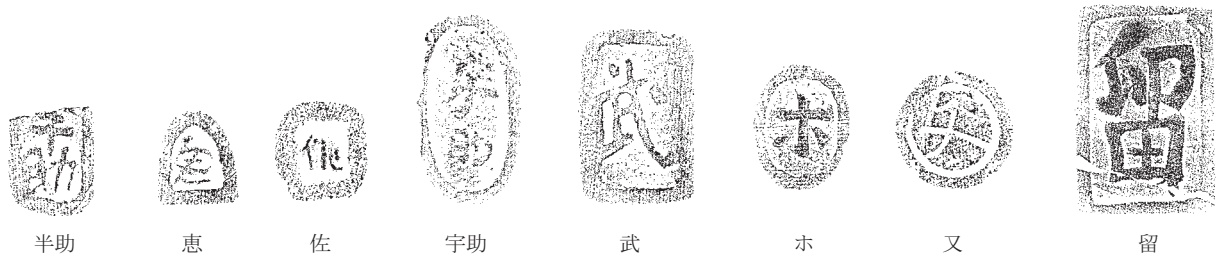
第243図　出土瓦刻印拓本５（１／２）











0　5cm

第244図　出土瓦刻印拓本６（１／２）

大広間

元禄五甲ノ
土山　伊兵

元禄五甲ノ
土山　伊兵

元禄九
小山　勘

宝永五
小山　勘

正徳二
小山　勘

正徳五
小山　勘

正徳五
小山　勘

正徳五
小山　勘

元禄八いノ
土山　甚左衛門

元禄十四
土山　三介

元禄四□
土山　庄太夫

元禄十三
土山　庄［　］

元禄十三
四郎

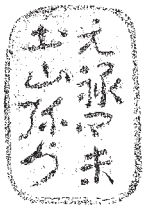
元禄十四
小山　次郎太

元禄十五
小山　次郎太

正徳五
小山　太

正徳五
小山　太

正徳［　］
小山　太


元禄四未
土山　弥右衛門

元禄十□
土山　弥右衛門

元禄十三年
土山　安兵衛

元禄十三年ヵ
土山　安兵衛

元禄十三年
(土山)
［　］安兵衛

元禄十三年
(土山)
［　］安兵衛

元禄九子ノ
土山　［　］夫

元禄十三年
土山　□右衛門

(元)
□禄十四
［　］右衛門

元禄十四
土山［　］

元禄［　］
土山［　］

元禄［　］
土山［　］

元禄［　］
土山［　］

元禄［　］
土山［　］

元禄［　］
未ノ［　］

元禄［　］

［　］四
土山　甚

［　］十四
［　　］

0　5cm

第245図　出土瓦刻印拓本７（１／２）

九曜之間

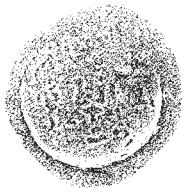
(正)
□徳三
(小)
□山　勘

正徳四
小山　勘

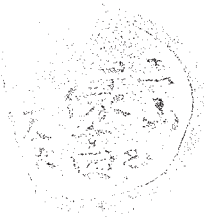
正徳六
小山　勘

正徳□
小山　勘

正徳□
小山　勘



元禄十二ウノ
土山　源四郎



元禄十四巳ノ
土山　庄太夫

元禄九
小山　次郎太

正徳四
小山　太

正徳四
小山　太

元禄十三□
土山　安兵

(徳)
正□□
(山)
小□□

(徳)
正□□
(山)
小□□

猿牽之間・御数寄屋

元禄十三ウ
土山　五右衛門

元禄［　］
土山　四［　］

元禄［　］
土山［　］

元禄拾
［　　］

大御台所

元禄十
小山　勘

元禄十二
小山　勘

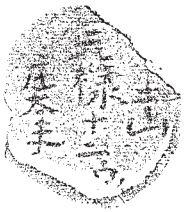
宝永五
小山　勘

元禄十二
土山　五右衛門

元禄十三
土山　五右衛門

元禄十三年
土山　作右衛門

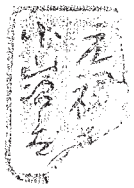
元禄九子ノ
土山　庄大夫



元禄十二ウノ
土山　庄太夫

元禄十二ウノ
(庄)
土山　□太夫

元禄十二ウノ
(庄太)
土山　［　］夫



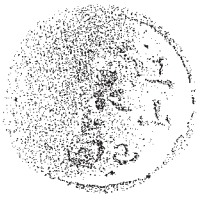
元禄［　］
小山　次郎太

元禄［　］
土山　弥右衛門

元禄七戊
［　　］

元禄 八［　］
土山［　　］

御小姓部屋



元禄十四巳ノ
土山［　　］

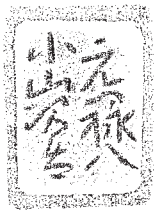
［　］子ノ
［　］甚左衛門

元禄十うし
土山　伊兵衛

正徳五
小山　勘

(正)
□徳五
(小)
□山　勘

正徳□
小山　勘



元禄八
小山　次郎太

0　　5cm

第246図　出土瓦刻印拓本８（１／２）

元禄九子ノ
土山　甚左衛門

正徳四
(小山)
[　　] 太

(元禄)
[　] 七戊
[　] 安兵衛

長之間

元禄三
小山　勘

宝永二
小山　勘

元禄五
土山　三介

元禄五甲
土山　甚四郎

元禄五申
土山　[　]

元禄 [　]
土山 [　]

正徳五
[　　]

西廊下

元禄十 [　]
(土山)
[　　] 伊兵衛

小広間

(元)
□禄九
[　　] 勘

元禄四
土山　次

元禄十三年
土山　勘右衛門

元禄四未
土山　伊兵衛

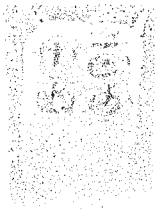
長局御櫓

元禄九
小山　勘

元禄九
小山　勘

元禄九
小山　勘

元禄九
小山　勘


正徳四
小山　勘

正徳五
小山　勘

元禄五申
土山　五右衛門

[　] 五申
土山　五右衛門

元禄五
土山　四右衛門

元禄八
小山　次

元禄八
小山　次郎太

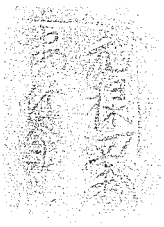
元禄八
小山　次郎太

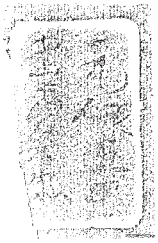
元禄九
小山　次郎太

元禄十三年
土山　仁右衛門

正徳四
小山　太

正徳五
小山　太


元禄四未
安兵衛


元禄五甲
土山　安兵衛

[　] 十二ウノ
[　] 太夫

闇御門

元六十
[　] 五右衛門

元禄六
小山　次

0　5cm

第247図　出土瓦刻印拓本９（１／２）

闇御門

元禄六
小山　次

(元)
□禄十
[　　]

元禄［　］
土山［　］

露地

元禄四
土山 四

元禄□
土山　甚

(禄)
元□五
土山〔　〕

Ⅲ層以外

子　四

辰　四

マ

ト

信

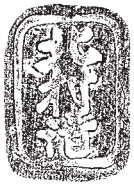
壽

林右衛門

茂右衛門

亦四郎

土山 芦原 半助



北村 □

北　亦

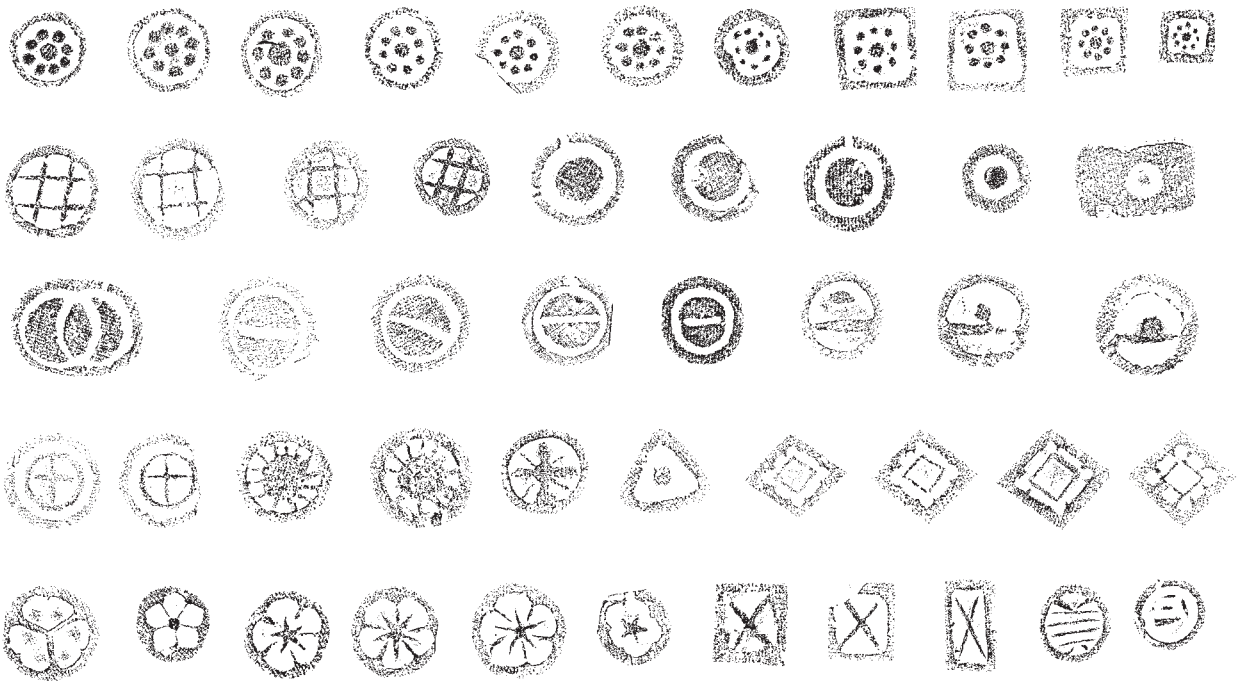
筑 善 後
[　]藤太□　散田

筑 平 後
柳川 忠平 散田

不明

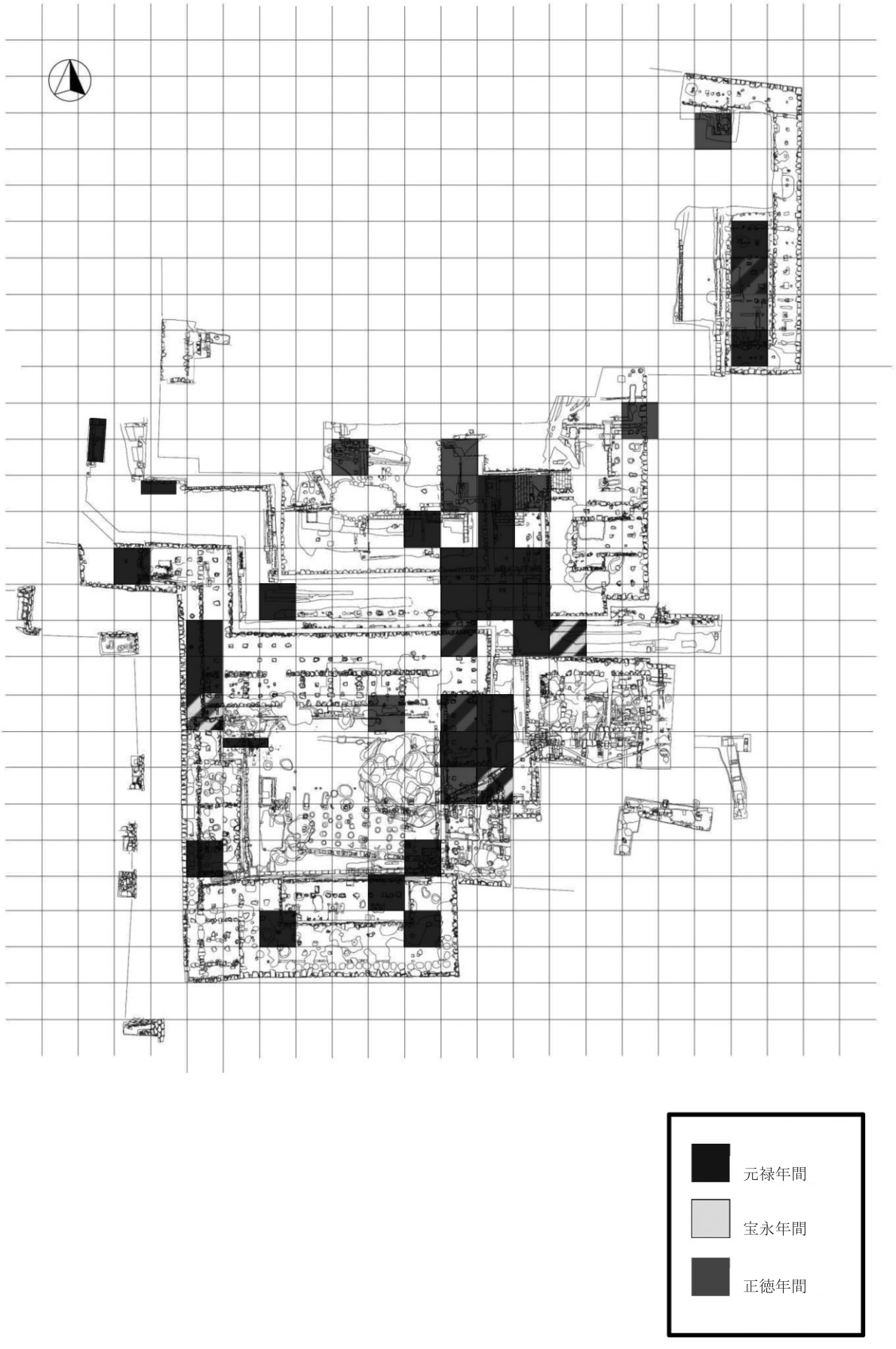
不明

不明



0　　5cm

第248図　出土瓦刻印拓本10（１／２）



※刻印の元号が複数にわたる箇所は斜線で示した。

第249図　年号入刻印瓦出土分布図（縮尺任意）

第8表　年号入瓦刻印一覧表

大広間

名　前	年　号	出土位置	種類
土山　伊兵	元禄五申ノ	F83-61	平瓦
土山　伊兵	元禄五申ノ	F81-54	平瓦
小山　勘	元禄九	F80-54	平瓦
小山　勘	宝永五	F84-61	丸瓦
小山　勘	正徳二	F84-54	平瓦
小山　勘	正徳五	F82-54	丸瓦
小山　勘	正徳五	F84-61	丸瓦
小山　勘	正徳五	F84-56	丸瓦
土山　甚左衛門	元禄八いノ	F81-59	平瓦
土山　三介	元禄十四	F80-53	平瓦
土山　庄太夫	元禄四□	F84-53	平瓦
土山　庄［　］	元禄十三	F81-53	平瓦
四郎	元禄十三	F80-53	平瓦
小山　次郎太	元禄十四	F80-54	平瓦
小山　次郎太	元禄十五	F80-54	平瓦
小山　太	正徳五	F82-54	丸瓦
小山　太	正徳五	F84-61	平瓦
小山　太	正徳［　］	F84-61	平瓦
土山　弥右衛門	元禄四未	F84-61	平瓦
土山　弥右衛門	元禄十□	F81-53	平瓦
土山　安兵衛	元禄十三年	F81-53	平瓦
土山　安兵衛	元禄十三年ヵ	F84-54	平瓦
［　］安兵衛	元禄十三年	F82-61	平瓦
［　］安兵衛	元禄十三年	F80-54	平瓦
土山　［　］夫	元禄九子ノ	F81-53	平瓦
土山　□右衛門	元禄十三年	F81-53	平瓦
［　　］右衛門	（元）禄十四	F82-54	平瓦
土山　［　］	元禄十四	F81-53	平瓦
土山　［　］	元禄［　］	F84-54	平瓦
土山　［　］	元禄［　］	F84-54	平瓦
土山　［　］	元禄［　］	F81-53	平瓦
土山　［　］	元禄［　］	F80-54	平瓦
不明	元禄［　］未ノ	F84-54	平瓦
不明	元禄［　］	F84-53	平瓦
土山　甚	［　］四	F84-54	平瓦
［　　］	［　］十四	F82-61	丸瓦

九曜之間・吉野之間

名　前	年　号	出土位置	種類
小山　勘	（正）徳三	SDⅢ029	平瓦
小山　勘	正徳四	SDⅢ029	平瓦
小山　勘	正徳六	F78-54	目板瓦
小山　勘	正徳□	F78-54	目板瓦
小山　勘	正徳□	SDⅢ029	平瓦
土山　源四郎	元禄十二ウノ	F79-55	平瓦
土山　庄太夫	元禄十四巳	F79-53	平瓦
小山　次郎太	元禄九	F78-53	平瓦
小山　太	正徳四	SDⅢ029	平瓦
小山　太	正徳四	SDⅢ029	平瓦
土山　安兵	元禄十三□	F79-55	平瓦
小山　［　］	正［　］	SDⅢ029	平瓦
小山　［　］	正［　］	F77-54	目板瓦

猿牽之間・御数寄屋

名　前	年　号	出土位置	種類
土山　五右衛門	元禄十二ウ	F80-63	平瓦
土山　四［　］	元禄［　］	F80-63	平瓦
土山　［　］	元禄［　］	F80-63	平瓦
不明	元禄拾	F80-63	丸瓦

大御台所

名　前	年　号	出土位置	種類
小山　勘	元禄十	F81-52	平瓦
小山　勘	元禄十二	F81-52	平瓦
小山　勘	宝永五	F82-51	丸瓦
土山　五右衛門	元禄十二	F82-52	平瓦
土山　五右衛門	元禄十三	F82-51	平瓦
土山　作右衛門	元禄十三	F82-51	平瓦
土山　庄大夫	元禄九子ノ	F82-52	平瓦
土山　庄太夫	元禄十二ウノ	F82-52	平瓦

土山　庄太夫ヵ	元禄十二ウノ	F82-52	平瓦
土山［　　］夫	元禄十二ウノ	F82-52	平瓦
小山　次郎太	元禄［　　］	F82-51	平瓦
土山　弥右衛門	元禄［　　］	F81-52	平瓦
不明	元禄七戌	F82-51	平瓦
土山　［　　］	元禄八［　　］	F81-52	平瓦
土山　［　　］	元禄十四巳ノ	F82-52	平瓦
［　　］甚左衛門	［　　］子ノ	F82-50	平瓦

御小姓部屋

名　前	年　号	出土位置	種類
土山　伊兵衛	元禄十うし	F80-52	平瓦
小山　勘	正徳五	F79-52	平瓦
小山　勘ヵ	（正）徳五	F76-49	平瓦
小山　勘	正徳□	F78-52	目板瓦
小山　次郎太	元禄八	F80-52	丸瓦
土山　甚左衛門	元禄九子ノ	F79-52	平瓦
小山　太ヵ	正徳四	F79-52	丸瓦
［　　］安兵衛	［　　］七戌	F79-52	平瓦

長之間

名　前	年　号	出土位置	種類
小山　勘	元禄三	F85-54	平瓦
小山　勘	宝永二	F86-53	平瓦
土山　三介	元禄五	F86-53	平瓦
土山　甚四郎	元禄五甲	F86-53	平瓦
土山　［　　］	元禄五申	F85-54	平瓦
土山　［　　］	元禄［　　］	F85-53	丸瓦
不明	正徳五	F86-54	平瓦

西廊下

名　前	年　号	出土位置	種類
土山　伊兵衛	元禄十□	F88-61	平瓦

小広間

名　前	年　号	出土位置	種類
小山　勘ヵ	□禄九	F90-59	平瓦
小山　次	元禄四	F90-55	平瓦
土山　勘右衛門	元禄十三年	F89-56	丸瓦
土山　伊兵衛	元禄四未	F72-46	平瓦

長局御櫓

名　前	年　号	出土位置	種類
小山　勘	元禄九	F71-46	平瓦
小山　勘	元禄九	F71-46	平瓦
小山　勘	元禄九	F71-46	丸瓦
小山　勘	元禄九	F71-46	丸瓦
小山　勘	正徳四	F68-47	平瓦
小山　勘	正徳五	F73-46	平瓦
土山　五右衛門	元禄五申	F71-46	平瓦
土山　五右衛門	（元禄）五申ノ	F72-46	平瓦
土山　四右衛門	元禄五	F71-46	平瓦
小山　次	元禄八	F72-46	丸瓦
小山　次郎太	元禄八	F74-46	平瓦
小山　次郎太	元禄八	F71-46	丸瓦
小山　次郎太	元禄九	F72-46	丸瓦
土山　仁右衛門	元禄十三年	F72-46	丸瓦
小山　太	正徳四	F68-47	平瓦
小山　太	正徳五	F72-46	平瓦
安兵衛	元禄四未	F71-46	丸瓦
土山　安兵衛	元禄五申	F71-46	平瓦
［　　］大夫	（元）禄十二ウノ	F72-46	平瓦

闇櫓御門～耕作櫓御門

名　前	年　号	出土位置	種類
五右衛門	元六十	Ｊトレンチ	丸瓦
小山　次	元禄六	Ｉトレンチ	丸瓦
小山　次	元禄六	Ｊトレンチ	平瓦
土山　［　　］	元禄［　　］	Ｊトレンチ	平瓦
不明	（元）禄十	Ｊトレンチ	平瓦

露地

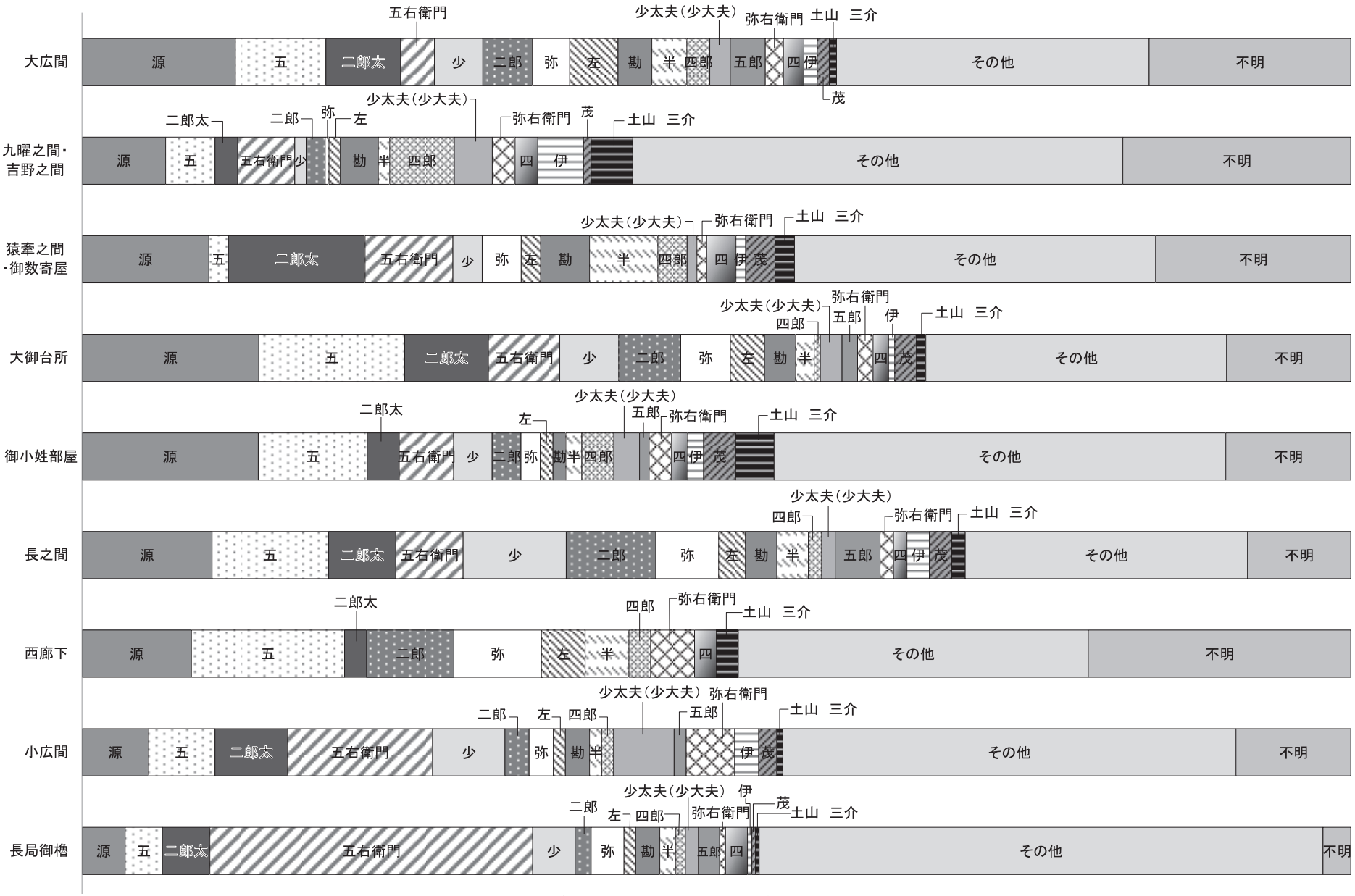
名　前	年　号	出土位置	種類
土山　四	元禄四	F88-55	平瓦
土山　甚	元禄四	F85-55	平瓦
土山　［　　］	元（禄）五	Ｂトレンチ	丸瓦

第９表　出土瓦刻印個数表（人名）

人　名	大広間	九曜之間・吉野之間	猿牽之間・御数寄屋	大御台所	御小姓部屋	長之間	西廊下	小広間	長局御櫓
源	127	22	13	57	55	29	5	11	59
五	75	13	2	47	34	26	7	11	51
二郎太	62	6	14	27	10	15	1	12	65
五右衛門	28	15	9	23	17	15	0	24	442
少	40	3	3	19	12	23		12	58
二郎	41	5	0	20	9	20	4	4	22
弥	31	1	4	16	6	14	4	4	45
左	40	3	2	11	4	6	2	2	16
勘	28	10	5	10	4	7	0	4	33
半	29	3	7	6	5	7	2	2	22
四郎	19	17	3	2	10	3	1	2	13
少太夫（少大夫）	17	10	1	7	8	3	0	10	18
五郎	29	0	0	5	3	10	0	2	29
弥右衛門	15	6	1	5	7	3	2	8	8
四	17	6	3	5	5	3	1	0	30
伊	11	12	1	2	5	5	0	4	6
茂	10	2	3	7	10	5	0	3	5
土山　三介	6	11	2	3	12	3	1	1	5
源左衛門	3	1	0	4	10	4	0	6	1
左□	8	1	0	2	3	5	1	7	237
半左衛門	10	1	1	3	5	1	1	4	60
土山　勘介	2	9	2	4	4	3	1	0	0
甚	13	0	0	3	1	3	0	4	9
安	8	1	0	3	2	5	1	2	6
安兵衛	6	9	1	0	2	0	1	3	7
御用	1	15	0	0	5	1	0	0	5
猿渡	10	0	3	2	2	2	1	1	6
庄右衛門	4	7	3	0	6	0	1	0	4
平	2	13	0	2	4	0	0	0	3
茂兵衛	8	2	0	2	0	4	0	3	97
太	8	3	1	1	2	1	0	2	7
五郎左衛門	5	2	1	5	2	1	0	2	2
伊兵衛	9	1	0	1	2	1	1	1	4
二郎兵衛	4	1	1	2	0	4	1	3	2
十兵衛	5	8	0	1	0	1	0	0	4
重兵衛	4	2	0	1	6	1	1	0	2
庄	2	4	0	1	6	2	0	0	3
長	6	1	0	1	2	1	0	3	6
孫七	3	1	0	2	7	0	0	1	2
仁右衛門	2	3	0	0	9	0	0	0	5
専右衛門	11	0	1	0	0	0	1	0	2
甚九郎	1	4	0	3	5	0	0	0	1
四郎兵衛	2	0	1	4	0	2	0	3	120
土山　清四郎	0	10	0	0	2	0	0	0	1
土山　貞	7	0	1	1	0	0	0	2	0
金七	6	3	0	0	1	0	0	1	1
助七	4	1	0	2	3	1	0	0	3
小山	3	1	0	0	7	0	0	0	2
庄太夫（庄大夫）	3	1	0	4	1	0	0	1	0
一太右衛門	2	4	0	0	3	0	0	1	0
仁	3	1	1	0	2	1	0	1	1
甚四郎	2	0	2	1	3	1	0	0	0

人　名	大広間	九曜之間・吉野之間	猿牽之間・御数寄屋	大御台所	御小姓部屋	長之間	西廊下	小広間	長局御櫓
ヒコ　土山	2	0	1	5	0	0	0	1	0
留右衛門	7	0	0	0	0	0	0	1	1
蔵	6	1	0	1	0	0	0	0	1
権平次	6	0	0	1	1	0	0	1	0
源四郎	3	1	0	1	2	1	0	0	2
卯	2	0	1	3	1	1	0	0	1
歹	2	0	0	4	2	0	0	0	0
清	1	1	0	1	0	2	0	3	2
甚左衛門	2	1	1	2	1	1	0	0	3
太右衛門	3	1	1	0	0	1	0	1	1
平吉	4	0	0	1	0	2	0	0	4
土山　長兵衛	3	1	0	0	1	1	0	1	2
三郎右衛門	2	0	0	1	1	0	1	2	71
坂仁	1	0	0	2	2	1	0	0	0
仁平次	0	4	0	0	2	0	0	0	2
佐平	5	0	0	0	0	0	0	0	0
小山　次郎太	2	1	0	1	1	0	0	0	3
惣四郎	1	0	0	0	4	0	0	0	0
正太夫	0	0	1	0	1	0	0	3	0
次	0	1	0	1	1	1	0	1	1
桂	3	0	0	0	1	0	0	0	0
新	3	1	0	0	0	0	0	0	0
利	3	1	0	0	0	0	0	0	0
土山　勘七	1	1	0	0	1	1	0	0	1
新三郎	1	1	1	0	1	0	0	0	7
土山　太衛門	0	1	0	1	2	0	0	0	0
太三次	3	0	0	0	0	0	0	0	0
イ	2	1	0	0	0	0	0	0	0
与	1	0	0	1	0	1	0	0	0
幸	1	0	0	0	1	0	0	1	3
仁衛門	1	1	0	0	0	0	0	1	0
貞右衛門	0	0	0	2	1	0	0	0	0
永七	0	0	1	1	0	0	0	1	0
坂上	1	0	1	0	0	0	0	1	1
仙七	2	0	0	0	0	0	0	0	0
左五右衛門	1	0	0	1	0	0	0	0	0
四右衛門	1	0	0	0	0	0	0	1	1
専	1	0	0	1	0	0	0	0	0
土山　勘右衛門	1	0	0	0	0	0	0	1	0
治	1	0	0	1	0	0	0	0	0
九	2	0	0	0	0	0	0	0	1
祐七	0	0	2	0	0	0	0	0	1
要七	0	0	1	1	0	0	0	0	0
ツ	0	0	0	2	0	0	0	0	0
ウ	0	0	1	0	0	0	0	0	2
カ	1	0	0	0	0	0	0	0	0
タ	0	0	1	0	0	0	0	0	0
チ	0	0	0	1	0	0	0	0	0
ハ	0	0	0	1	0	0	0	0	0
リ	0	0	0	0	0	0	0	1	0
ヲ	0	0	0	0	0	1	0	0	0
芦　金	0	0	0	0	0	1	0	0	1
伊三郎	0	0	0	0	1	0	0	0	0

人　名	大広間	九曜之間・吉野之間	猿牽之間・御数寄屋	大御台所	御小姓部屋	長之間	西廊下	小広間	長局御櫓
一右衛門	0	0	0	0	1	0	0	0	23
永	1	0	0	0	0	0	0	0	0
大坂大塚七兵衛	0	0	0	0	0	0	1	0	0
北村	1	0	0	0	0	0	0	0	0
北清	0	0	0	0	0	0	1	0	0
吉	1	0	0	0	0	0	0	0	0
慶七	0	0	0	1	0	0	0	0	0
桂八	0	0	0	0	1	0	0	0	0
幸七	1	0	0	0	0	0	0	0	0
土山　五郎右衛門	0	0	1	0	0	0	0	0	0
権八	0	0	0	1	0	0	0	0	0
坂	0	0	0	0	0	1	0	0	0
坂本□	0	0	0	0	1	0	0	0	0
土山　作右衛門	0	0	0	1	0	0	0	0	0
佐平治	0	0	0	0	0	0	0	1	1
重	0	0	0	1	0	0	0	0	0
壽平治	1	0	0	0	0	0	0	0	0
仁平	1	0	0	0	0	0	0	0	1
土瓦師治助	0	0	0	0	0	1	0	0	0
信治	0	0	0	0	0	0	0	1	1
仁三治	0	0	0	0	0	0	0	1	2
壽七	0	0	1	0	0	0	0	0	0
介七	0	0	1	0	0	0	0	0	0
瀬高	0	0	1	0	0	0	0	0	0
仙	1	0	0	0	0	0	0	0	1
太兵	0	0	0	0	0	0	1	0	0
土山	0	0	0	0	0	1	0	0	0
林	1	0	0	0	0	0	0	0	0
[　] 梁北村平左衛門	0	0	0	0	1	0	0	0	0
平七	0	0	1	0	0	0	0	0	0
又七	0	0	0	0	1	0	0	0	1
又三郎	0	0	0	0	0	0	1	0	0
明治十一年造之	0	0	0	0	1	0	0	0	0
弥八	1	0	0	0	0	0	0	0	0
山西	1	0	0	0	0	0	0	0	0
林右衛門	0	0	0	1	0	0	0	0	2
太三治	0	0	0	0	0	0	0	0	4
い	0	0	0	0	0	0	0	0	2
池桂	0	0	0	0	0	0	0	0	2
北	0	0	0	0	0	0	0	0	2
左助	0	0	0	0	0	0	0	0	2
仙吉	0	0	0	0	0	0	0	0	2
太三	0	0	0	0	0	0	0	0	2
半助	0	0	0	0	0	0	0	0	2
恵	0	0	0	0	0	0	0	0	1
佐	0	0	0	0	0	0	0	0	1
宇助	0	0	0	0	0	0	0	0	1
武	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ホ	0	0	0	0	0	0	0	0	1
又	0	0	0	0	0	0	0	0	1
留	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	167	60	20	40	39	23	12	19	38
合計	1051	334	130	409	396	283	58	210	1737



第250図　建物別出土瓦刻印

2．陶磁器類

個々の資料の報告は、原則、観察表（第10〜18表）をもって記し、本文中では補足を行なうこととする。

a．報告の方法

出土属性・被熱状況からみた年代比定（第307図）

報告は出土区画ごとに、以下①〜⑥の順序で行なう。

①18世紀中葉以前の資料（出土量が少ないこと、土層・遺構の埋没時期を示すものではないことから、これらをまとめている）。②遺構出土資料。③Ⅰ・Ⅱ層出土の資料で18世紀末〜19世紀後葉の型式。④Ⅲ層出土資料、明らかに二次焼成を受けた資料（①で扱った18世紀中葉以前の資料を除く）。⑤Ⅳ層出土資料。⑥明らかに19世紀末以降に埋没した遺構の出土資料、Ⅰ・Ⅱ層出土資料で19世紀末以降の型式。

上記のうち、報告の主体は②〜④である。18世紀末〜19世紀後葉の型式であるが、その殆どは19世紀第２・第３四半に位置付けられる。④で扱うⅢ層は、明治10年（1877）２月19日の本丸御殿（鎮台本営）焼失に伴う焼土等を多量に含んでおり、焼失時の埋没土、あるいは焼失から間も無い時期の整地土と判断され、絶対年代を判断するうえでの鍵層と捉えられる。加えて、Ⅰ・Ⅱ層出土資料のうち、明らかに二次焼成を受けたものについても④で扱う。それは、二次焼成の原因が本丸御殿焼失によるものである可能性が極めて高いため、後の土地利用の過程により原位置を保ってはいないものの、本来はⅢ層に帰属すべき、すなわち、時間属性においてⅢ層出土資料と同等に扱うべき資料と判断したためである。ちなみに、19世紀末以降の型式資料で二次焼成が認められるものは無い。

なお、②の遺構出土のうち、明らかに焼失時の埋没と判断される一括資料は御小姓部屋SKⅢ104・西廊下SDⅢ027資料であり、これらについても明治10年（1877）という絶対年代を評価し得る。

二次焼成による被熱の有無は、以下の条件により認定している。

①明らかに変形する。②釉が発泡する。③釉の変色が認められる（銅緑釉を施す資料において顕著であり釉色が赤化する）。④溶着物が認められる。④表面の剥落が著しい。

これら要素の確認により、土中に埋没していたための汚れ・劣化などと弁別ができるものと考える。個々の資料について、二次焼成を受けたと判断したものは観察表の「被熱」欄に○印を記している。

器種の呼称

器種の呼称は、なるべく汎用語を使用している[1)]。

ただし、筒形の碗については名称の弁別が難しいものがある。19世紀代以降にみられる形態で、小丸碗と近似して腰が丸く、小丸碗よりは明らかに器高が高いもの、近代以降に多くみられる形態で、腰部に稜をもち胴部が直立して、器高が明らかに高いものの二者である。これらの形態は、18世紀末〜19世紀初頭の肥前磁器において隆盛する「筒形碗」と弁別するという観点から、「湯呑碗」とした。

広東碗は、本調査区においては典型的な形態は出土していない。ただし、近似したもので体部がやや張り、底部器壁が厚い形態がみられ、これについては、形状が崩れてはいるものの、広東碗の系譜上にある型式と評価し、「広東碗」とした。

汽車土瓶と通称される小形の陶器土瓶の呼称についてである。３点を報告しているが、いずれもⅢ層出土で明らかな二次焼成を受けたものもある。したがって、これらが被熱し埋没したと考えられる明治10年（1877）時には、駅弁容器として用いられていないことが明らかである。しかし、その名称が資料の実態をイメージし易いという観点から、本報告ではあえて「汽車土瓶」の呼称を用いることとした。

酸化コバルトの弁別

本報告では、主に19世紀代の釉下彩資料に認められる酸化コバルトについて、主要資料の年代比定に不可欠な要素であることから、天然呉須（以下「呉須」）と化学コバルトのどちらであるかに注視している。化学コバルトの認定は、濃淡はあるものの呉須よりも鮮やかな藍色系の発色である、透明感の無いベッタ

リした色調である、文様以外の部分に小斑状に散った汚れ・染みが明瞭である、などの特徴から行なっている。なお、同一個体でも、線描きは呉須、塗りは化学コバルト、あるいは外面文様は化学コバルト、内面文様は呉須という使い分けをしたものもあり、これら個々の観察結果は、判る限り観察表の「備考」欄に記している。

銘款による産地等の同定

近代資料には、手書き・刻印・ゴム版・プリントなどにより銘款が記されている資料が認められる。銘款は産地・製作者・年代を示すことから、註文献[2)]を参照し、判る限り同定を行なっている。

ｂ．各区画の陶磁器類

大広間出土資料（第251～262図１～225，第10表）

１～９は18世紀前半以前の資料、10～26は遺構出土資料である。20はイギリス産ローゼットである。型成形で、胎土が浅黄色を呈する硬質陶器である。底部以外は透明度が高い灰釉を施し（貫通孔内も施釉）、底部は釉を拭き取っている。以上は、本報告の他のローゼットにおいても共通する。本資料は底部に２箇所の刻印（陰刻）が認められる。円形と菱形を組み合わせた刻印は登録商標（REGISTRATION MARK）で、この形状のものは1842～83年のイギリス製品において、特許登録済みを示し、最初の３年間の特許権侵害を防ぐために付されたものという。登録商標内の文字と配列は、生産年月日等を表しており、円形内の「Ⅳ」は陶磁器、菱形内右の「H」は1869年、同下の「B」は10月、同上の「27」は27日、同左の「４」は個口番号、同中央の「Rd」はRegisteredである[3)]。以上より、本資料はイギリスにおいて1869年10月27日に製造されたことが判る。もう１つの刻印は、小さい十字形を呈するものであるが、何を示すものか不明である。22の磁器染付鉢には焼継が認められる。焼継印は、顔料を添加していないためであろう、淡い発色のガラス質剤で、筆書きにて「白川町口ヵ」改行「とうふや□」（□は「一」ヵ）と記している。白川町は、現在は使用されていない町名で、明治13年（1880）の「熊本全圖」等によれば、熊本城からみて白川の対岸（南岸）沿いに位置し、現在の新屋敷１丁目、明午橋付近にあたる[4)]。

27～122はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。120は陶製ドアノブである。本資料および同類品（大広間出土207・208など）は、観察表で「絞胎様」と記したように、複数の発色がマーブル模様に見える胎土で、異なる発色の土を揉み込んだ所謂練り上げ手の製品である。イギリス産の可能性が高い[5)]。なお、本資料は金属性の軸が無く、これを装着した痕跡も認められない。未使用品と考えられる。121・122の土師質鞴羽口は、時期の評価が不確定ではあるが、以下の理由からここで扱っている。１つ目は、熊本市二本木遺跡群の調査事例において、本資料と同様の下位が裾広がりになる形態の鞴羽口は、現状において18世紀末以降から出現することが確認されている点である。この形態が出土した廃棄土坑の共伴資料をみると肥前産磁器染付の筒形碗が盛行している。2つ目は122に認められる「甚七」の刻印である。少なくとも20世紀以降に汎用される記銘ではないと思われる。

123～209はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。144・145の小坏は、瀬戸美濃産磁器に鮮やかな発色の呉須で上絵付けをしたもので、所謂江戸絵付けとされるものである。本報告では他に大御台所出土297がある。145の主文は転写によるもので、字銘「盛川流不息」から、留まることのない清流盛川（岩手県の盛川？）を表したものと推察される。156は六寸（口径18.2㎝）の中皿である。本報告の国産陶磁器で中・大の皿は本資料の他に西廊下出土712のみで、殆どは四・五寸の皿である。162・165は釉下彩の多彩磁器で、化学コバルトを主体とし、これに緑色（酸化クロム）・淡赤色（小円子）を加えて施文したものである。注目されるのはⅢ層出土という点で、同じく長之間470・471もⅢ層出土である。釉下彩磁器の生産初期における製品と評価される。169～176は、166～168などの蓋とセットになる白磁合子身である。うち、169・174・175は、意図的なものではない小斑状の化学コバルトの飛沫の付着が認められ、これは、同じ工房において染付などの他形態の製作をしていた状況を反映

するとともに、製作時期の上限（1870年以降）を示すものといえる。他の大区画出土の白磁合子身についても同様の付着が認められるものがある（長之間出土424～432など）。177は関西系陶器の小水注である。食卓調味料容器とみられるもので、本調査では他に小片数点が出土しているが、図掲できたものは本資料のみである。192～194の角形火鉢は、外側面のみに炭素の吸着が認められる。ただし、吸着が部分的であること、胎土が通常の瓦質製品のように明灰色系の色調ではなく、淡い橙色系の発色であることから、本報告では、焼成形態を土師質として扱っている。なお、本資料の同形態例は、熊本城下の古町遺跡1次調査242号遺構に認められる。この遺構の出土品は端反碗が主体で、他、肥前系の化学コバルト染付皿・瀬戸美濃産の木型打込み成形小皿などがあり、本報告資料の年代観と合致している[6]。

210・211はⅣ層出土資料である。212～225は19世紀末以降の所産品である。222はゴム版絵付の軍坏で「…事変記念」銘が認められる。この「事変」について想定されるのは、満州事変（1931年）・第一次上海事変（1932年）・日華事変（1937年）などであり、概ね1930年代の産品と考えられる。

大御台所出土資料（第263～267図226～300，第11表）

226～256は遺構出土資料である。223～242はSDⅢ008掘形出土品であり、このなかに化学コバルトによる染付碗233がみられることから、本遺構は近代以降の構築と判断される。248は平面C字形の陶器で、用途は不明であるが、本報告では、窯道具（テストピース？）の可能性を指摘しておく。窯道具とすれば、熊本城における陶磁器の購入形態について示唆を与える資料である。白磁合子身256は外底（露胎部）に墨書「幕僚」が認められ、これは本資料が近代以降の産品であることを示している。

257～283はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。261は、肥前系の磁器染付筒形碗である。線描・塗りとも丁寧な手描きによる葵紋（約120度ごとに3単位，2単位が残存する）が認められ、器壁が薄い上手品である。葵紋の碗が存在する理由としては以下の事柄が考えられる。熊本藩9代藩主細川斉樹は正室が一橋治済女の紀姫であり、享和2年（1802）に婚姻している[7]。この紀姫の婚礼調度品であったとみた場合、その時期と本資料の型式とは合致している。江戸住まいであった正室の調度品がどのような経緯で国元の本丸御殿にもたらされたのかは不明であるが、上記の理由が葵紋碗の存在理由として最も相応しいと考えたい。

284～295はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。295の青磁火入は、たがね書きにて「惣」が刻まれている。器種や文字内容からみて、徳利などに施される通常の釘書き・たがね書きとは異なる意図で刻まれたものと考えられる。

296～298はⅣ層出土資料、299・300は19世紀末以降の産品である。

御小姓部屋出土資料（第268～273図301～368，第12表）

301～307は、18世紀前半以前の資料である。土師器坏301・302については、当該期における土師器供膳具の編年は確立してはいないものの、熊本城下における土師器坏の出土事例から時期を想定している。すなわち、肥前Ⅰ並行期には外底が糸切り離し後ヘラケズリ調整のものが出現し、肥前Ⅳ並行期前半には糸切り離し後未調整のものは認められないようになり、さらに器壁が薄くなる。こうした状況を鑑み、18世紀代には降らない資料として、ここで扱うこととした。

308～320は遺構出土資料である。このなかでSKⅢ104資料308～316は、遺構の埋没状況から、明治10年の本丸御殿（鎮台本営）焼失時の一括廃絶資料と評価される。

321～332はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。331の水滴は、内面の観察から以下①～③の順序の製作工程が明らかである。①本体の型に粘土を詰め、内側から指で押しながら外形・器壁厚を整える。②整形過程で表裏両面に細かい布目が付いた粘土底板を嵌めて本体を塞ぐ。③閉塞状態になったところで外面から穿孔を施す。なお、水滴の製作技法は一律ではないようで、内面観察が可能な他の資料には、異なる技法が復元されるものもある（西廊下出土730にて後述）。

333～359はⅢ層出土、またはこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。

361～368は19世紀末以降の産品である。焼酎瓶365～368には、白化粧後透明釉を施すもの（365・366）、鉄釉を施し肩部に重ね焼きの際の泥漿が塗布されるもの（367・368）の２種がみられ、概ね大正・昭和期の所産と考えている。産地は不明であるが、368の刻印の○内「ト」について、これと同様のものが大正13年頃の常滑焼の問屋「丸登合資会社」を示すという事例を指摘しておく[8]。

長之間出土資料（第274～281図369～520，第13表）

369は中世前期、370は17世紀前半の資料である。370の建水？は、明赤褐色～褐灰色を呈し、黄白色粒を多く含む胎土の焼締陶器で、東南アジア製品に近似するが、胎土がパサつかない、鉄泥を刷毛塗りするなどの点を鑑み、備前焼の可能性が高いと考えられる[9]。

371～444はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。土師器坏384は、詳細な時期は不明ではあるが、前述（御小姓部屋出土301・302）した理由から18世紀以降の所産とみて、ここに置いている。硬質陶器の縁Ⅲ385は、銅版転写によるプリントウェアである。岡　泰正氏の成果[10]によれば、本資料の同形態品はオランダのマーストリヒト陶器、ペトゥルス・レグゥ－窯（1855～70年製）である。文様パターンはHoncで、楼閣を描いた東洋的な風景図であり、東洋人向けに案出されたデザインとみられる。また、箱書き「元治元年・阿蘭陀焼」の伝世品も紹介されており、これから主な輸入時期が想定される。444の茶入は八代焼？とした。「？」は、八代焼にしては象嵌文がやや粗く、彫り込んだ縁辺の線がギザギザした雑な施文であることから断定できなかったためである。同じ熊本県内の小代焼にも象嵌文品があって、本資料の雑な施文はむしろこれに近いが、水簸した胎土を重視し八代焼の可能性が高いとみている。Ⅲ層出土の同形態品445も同様である。

445～519はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。492～502は肥前産の銅緑釉土瓶で、同形態が同じグリッドから出土したものである。いずれも未使用品で、外面下位に煤等の付着は認められず、493については弦耳の孔が釉により塞がれた状態で、未だ弦を通していないことが明らかである。

520はゴム版絵付けによる施文であり、20世紀前葉以降の流通品とみられる。

露地出土資料（第282～290図521～704，第14表）

521～523は中世以前の資料である。522は中国南部産の陶器鉢である。胎土は赤褐色～灰色を呈し、黄白色粒を多く含む。明代であろうか。

524～645は遺構出土資料である。露地においては、西南戦争後に構築された廃棄土坑・建物などの遺構が多く、また重複して存在する。そのため点数は多いが、主体となる19世紀中頃～後葉の資料が遺構の埋没時期を反映するものか判断は難しい。出土点数が多いSKⅢ098資料548～604についてみると、19世紀末以降の型式も僅かながらみられ（603・604）、これらが遺構の埋没時期を示す可能性も高い。SBⅢ001の捏鉢630、SBⅡ002の湯呑碗635などの19世紀末以降の資料も同様である。また、SKⅢ098資料において顕著な傾向であるが、近接して検出された他の遺構出土の小片や周辺のグリッド（Ⅰ・Ⅱ層）出土の小片と接合したものが多く、これらを一括廃棄資料と捉えるには躊躇があることも付記しておく。

524・533の化学コバルト染付文は、捻花状の区画内に算木様の短直線を、見込みに圏線と十字を施すものであり、これは霊芝文を簡略化したものと捉えられる。ちなみに、本報告においては後者（圏線と十字）のみの文様資料（大広間出土67～69他）もあり、これは、前者（捻花状区画・短直線）を省略した文様形態とみられる。528・529・531・532・536・539は用途不明の壷である。不明壷とする。管見の限りでは熊本城跡以外の事例は無く、限定された状況・時期において製作された可能性が高いとみられる資料である。既報事例（熊本城跡飯田丸）に19世紀中頃～後半の陶器碗と共伴した一括廃棄資料があり、２形態に大別される。すなわち、硬い土師質あるいは陶器質で、肩部に約90度ごとに４箇の円孔が認められるもの（ａ

類)、やや焼きの甘い焼締め陶器で、外面胴部中位の括れを粘土帯で覆い、そこに約90度ごとに４箇の穿孔を施すもの（ｂ類）である[11]。本報告資料では528・529・531・536がa類、532・539がｂ類である。543は龍門司焼の火入である。本報告資料では、薩摩焼の製品は、広域・多量に流通する苗代川焼系の土瓶が主体で、龍門司焼は極少なく、器種は火入に限定される。龍門司焼製品については将来品の可能性も考えられる。558の肥前系染付碗は、体部に化学コバルトにて「ハマヒロヤキ」銘が認められるが、この名称の意味は不明である。天草に浜平焼があるが、近年創業の陶器窯であることから該当しない。強いていえば、寛政年間以降、肥前系磁器の主原料となった天草陶石の産出地に浜平があることから、浜平の陶石で焼いた「ハマヒロヤキ」という意味と考えられる。端反碗570・615・616は重ね焼き法が簡略化しており、内底の蛇の目釉剥ぎは行なわず、上に重ねる個体の高台部にアルミナを付着させただけのものである。同様の重ね焼き法を採るものは少ないが、他に西廊下出土720などが挙げられる。SKⅢ098から出土した578～592の小丸碗は同器形・同文様である（実測図では蝶2頭のうち1頭を省略したものが多い)。恐らくはセットで一括購入された一群であり、製作時の同時性も考慮される。ただし、絵付け顔料については二者が認められる。すなわち、化学コバルトのみで描かれているもの（580～592)、線描きは呉須の可能性が高く、塗りは化学コバルトを用いているもの（578・579）である。

646～699はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。白磁合子身687・688は、ともに外底（露胎部）に墨書が認められる。687の「熊本鎮台」は本資料が鎮台設置時期（1872～88年）に使用されたことを、688の「賣苓」は本資料が薬盒として使用された可能性を示すものである。695は上野焼の飴壷と捉えられる[12]。通常よりも底部器壁が薄い形態で、明灰色のやや粗い胎土で鉄釉を施し（外面下位露胎)、底部は糸切り離しである。本資料は県内における上野焼飴壷の初報告例であるが、他、未報告資料に熊本市二本木遺跡群15次調査区の出土例がある。これらは小倉城下で購入した土産品の容器が持ち込まれたと考えられるものである。699の戸車は、外径9.2㎝の大形品である。どの箇所で使用されたものかは不明だが、本丸御殿の建材として相応しい大形品といえる。

700～703はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料であるが、本区画における土層の残存状況から他の大区画に比べて点数が少ない。704は19世紀末以降の所産品である。

西廊下出土資料（第291・292図705～730，第15表）

705～720は遺構出土資料である。SDⅢ027出土705～719は、埋没状況から明治10年（1877）の本丸御殿（鎮台本営）焼失時における一括廃絶資料と判断される。721はⅠ層出土資料で19世紀後葉の型式である。

722～730はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。八代焼の茶器724（小坏）・726（急須蓋）・727（急須身）は、小坏と急須身の象嵌文様は一致しないものの、胎土・釉調の共通性、法量の一致、さらには同グリッド出土であることを踏まえ、セットで使用された可能性を評価できる。728の関西産の紫泥陶器急須蓋は、摘みが本体とは別づくりで可動（回転）する。ただし、焼成後に嵌め込んだものではなく、取り外すことはできない。どのような技法で製作されたものか不明である。730の水滴は、内面の観察から以下①～③の順序の製作工程が想定される。①本体の型に粘土を詰め、内側から指で押しながら形・器厚を整え、後、粗いナデ調整を施す。②型から外し、外面から穿孔する。③穿孔により内面側に突き出た粘土のはみ出しを粗く除去する。④外面細かい布目・内面ナデ調整の粘土底板を嵌めて本体を塞ぐ。以上、前述した水滴（御小姓部屋出土331）とは異なる技法である。

小広間出土資料（第293～297図731～836，第16表）

731は16世紀末～17世紀初頭、732は17世紀中葉の資料である。733～739は遺構出土資料である。

740～759はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。740の染付碗は、恐らくは湯呑碗とみられ、線描・塗りとも丁寧な手描きによる杏葉紋が認められる。杏葉紋の製品が存在する理由としては以下の事柄が考えられる。熊本藩12代藩主細川斉久は正室が鍋島直正女の宏子姫であり、慶応２年

（1866）に婚姻している[13]。杏葉紋を鍋島家家紋とし、宏子姫の婚礼調度品であったとみた場合、その時期と本資料の年代観とは合致する。ちなみに、同文様品について、佐賀藩鍋島家菩提寺の佐賀市高伝寺や同藩上級家臣多久鍋島家菩提寺の多久市円通寺において、染付碗・香炉などの伝世品を実見したところ、それらの文様の描き方・色調、やや肉厚なつくりが本資料に共通することを付記しておく[14]。759は白土掛け流し（白流れ釉）と灰釉とを施しており、当該期の小代焼の水指の特徴を良く示すものである。

760～833はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。763は、呉須描きの浜千鳥を主文とする端反碗である。本報告では、他に同文・同形態品が多数出土しているが（露地出土567～570など）、いずれも化学コバルトで描かれ、波の描き方などにおいて763よりも簡略化した表現となっている。時間経過による略化であろうか。ただし、これとは逆のことが772と773の比較において認められる。ともに竹林七賢図を主文とする湯呑碗で器形・法量ともほぼ共通するが、772は呉須で描かれ、簡略化した表現、773は化学コバルトで描かれ、772に比べて写実的な表現となっている。775は萩焼小坏である。本報告における萩焼の唯一例である。777の蓋付鉢は、破砕後に二次焼成を受け、破片ごとに歪んだためであろう、接合部に隙間が生じている。800はヨーロッパ製の塩釉炻器瓶で、ライン炻器の報告事例に近似する器形である。内外面とも挽き上げ痕が明瞭である。801は関西産の紫泥陶器小壷で、茶入とみられる。外底中央に「孟」の陰印刻が認められ、あるいはその下に「臣」が続く可能性もある。810～829は、汐留遺跡に類例が認められ、イギリス製のインク瓶とされるものである[15]。うち15点はF90-59グリッドからの出土であり、偏在性が認められる。また、全て二次焼成を受けており、溶融物の付着が顕著なものが多い。833のドアノブも二次焼成の痕跡が著しく、凹部には金属軸が溶けたものとみられる溶融塊が詰まっている。本来、軸が装着されていたことを示すものであり、あるいは使用品であった、すなわち、焼失直前時の本丸御殿（鎮台本営）の内装が洋式化されていた可能性を示している。

834～836は19世紀末以降の所産品である。

長局御櫓出土資料（第298～304図837～944，第17表）

837は漳州窯青花碗である。838はタイ産陶器壷（メナム・ノイ窯）で、接合はしなかったものの同一個体とみられる破片多数が同一グリッドから出土しており、うち大きめの破片ａ～ｄを図掲している。

839～864はⅠ・Ⅱ層出土資料で、18世紀末～19世紀後葉の型式である。841は、本報告資料の他の球磨郡産とみられる製品と比べて胎土がキメ細かく硬質で、釉表面の発色が灰色であることから一勝地焼の可能性が高いとみている。857は盛り絵によって花唐草を描く磁器釉下彩の角形合子蓋であるが、あるいは19世紀末以降の所産とすべきものかもしれない。861は、瓦質壷とはいえ精緻なつくりで、外面の炭素吸着は斑がなく、内面には黒漆を刷毛塗りしている。注目すべきは桐の貼付文で、これは、細川家家紋の五七桐（足利将軍家からの拝領紋）とみられる。この桐紋は、妙解寺跡細川家墓所の入口門の装飾や初代藩主忠利墓霊屋の屋根の露盤の装飾など、格式を強調すべき場所において限定的に使用されるものと捉えられる。本資料の用途は不明だが、本丸御殿における藩主家用の調度品であった可能性を指摘できる。

865～934はⅢ層出土、または時間属性においてこれと同等に扱われるべき二次焼成資料である。872～905の端反碗は、同器形・同文様で、いずれもF68-45グリッドから出土している。特に、872～898は完形品がまとまって出土したもので、一括性が評価される資料である。899～905は、同グリッド出土ではあるが、他の位置の出土破片と接合した資料、同グリッドⅠ層出土の二次焼成資料である。同グリッドⅠ層出土の同器形・同文様品842・843も加え、これらは、原位置から動いてはいるものの、埋没以前においては872～898とともに存在していた可能性が高いと考えられる。恐らくはセットで一括購入され、保管されていた一群であり、製作時の同時性も考慮される。ただし、絵付け顔料については二者が認められる。すなわち、呉須のみで描かれているもの（872～878など）、線描きは呉須で塗りは化学コバルトを用いているもの（879～893など）である。このことは、近代初期の化学コバルト普及期における過渡的な様相を示す

とともに、絵付け工程において、線描きと塗りが分化していたことを示すと考えられる。910の土師質耳皿は、本報告における唯一の事例である。時期認定が不安定であるが、器壁が薄いつくりからここに置いた。箸置きとして使用したものであろう。912の鉄釉擂鉢は肥前Ⅴ期に後出する型式とみられる。921～925は肥前産土瓶である。いずれも外面下位に煤付着等が認められないことから、未使用品の可能性が高い。930～934は土師質の不明土製品である。いずれも焼成は悪く軟質で、円板形の正面に陰刻印が認められる。刻印は、全て原体が異なるものの、角枠内に屋号・名前が記されている点は共通しており、930・932には「大坂」・「高田屋」の恐らくは商標が認められる。平面形状と刻印の位置・形状は焼塩壷蓋に共通するが、断面形状からその可能性を強調することは難しい。

935～944は19世紀末以降の所産品である。939～941は軍用食器の湯呑碗で、上絵付けにて旧陸軍の階級が手描きされている。940の「判任官食堂」銘によって、下級官吏である判任官専用の食堂があったことが明らかであるように、これらは、階級によって使用・保管場所が分けられていたと考えられる。

その他のトレンチ出土資料（第305・306図945～960，第18表）

945・946は、御天守廊下トレンチ出土資料である。ともに20世紀代の所産である。947～952は、二様の石垣下トレンチ出土資料である。947～950は、縄文時代後期後葉～晩期前半の深鉢である。951の青白磁合子身は、胎土・釉色ともが灰色味を帯び、やや粗質であることなどから福建省産の可能性が高いとみられる。953は月見櫓台所トレンチ、954・955は二階櫓トレンチ出土資料である。955の手焙りは、本報告における唯一の事例である。956～959は御天守片口之間トレンチ、960は天守前北築山トレンチ出土資料である。959の関西系陶器の布袋人形は、眉のみを鉄釉で描いている。

〔註〕

1）主に下記文献に従う。九州近世陶磁学会『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』2000

2）美濃古窯研究会「昭和16年３月　岐阜県陶磁器工業組合連合会所属生産者別標示記号（統制番号）」『美濃の古陶　美濃古窯研究会会報№８』1999
佐賀県立九州陶磁文化館『近現代肥前陶磁銘款集』2006
萩谷茂行「統制経済下における陶磁器製品製造、流通の一考察」『瑞浪市歴史資料集　第２集』瑞浪市陶磁資料館　2013
木村一彦・葵航太郎『1981－1945オールドノリタケコレクターズガイド』トンボ出版　1999

3）東京都埋蔵文化財センター『東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集　汐留遺跡Ⅲ－旧汐留貨物駅跡地内の調査－　第６分冊』2003

4）新熊本市史編纂委員会「熊本全圖」『新熊本市史　別編第一巻　絵図・地図下　近代現代』熊本市　1993

5）西洋アンティーク店「Country Cottage」のご教示による。

6）熊本市教育委員会『古町遺跡Ⅰ－古町遺跡第1次調査区発掘調査報告書－』2003

7）光永文熙『平成宇土　細川系譜』私家本　1983

8）渡辺芳郎氏のご教示による。愛知県教育委員会『窯業民俗資料調査報告２（常滑市）』1975

9）乗岡　実氏のご教示による。

10）岡　泰正「出島・食卓の情景－平成９・10年度の発掘におけるヨーロッパ陶器・ガラス器をめぐって－」『国指定史跡　出島和蘭商館跡』長崎市教育委員会　2002ほか

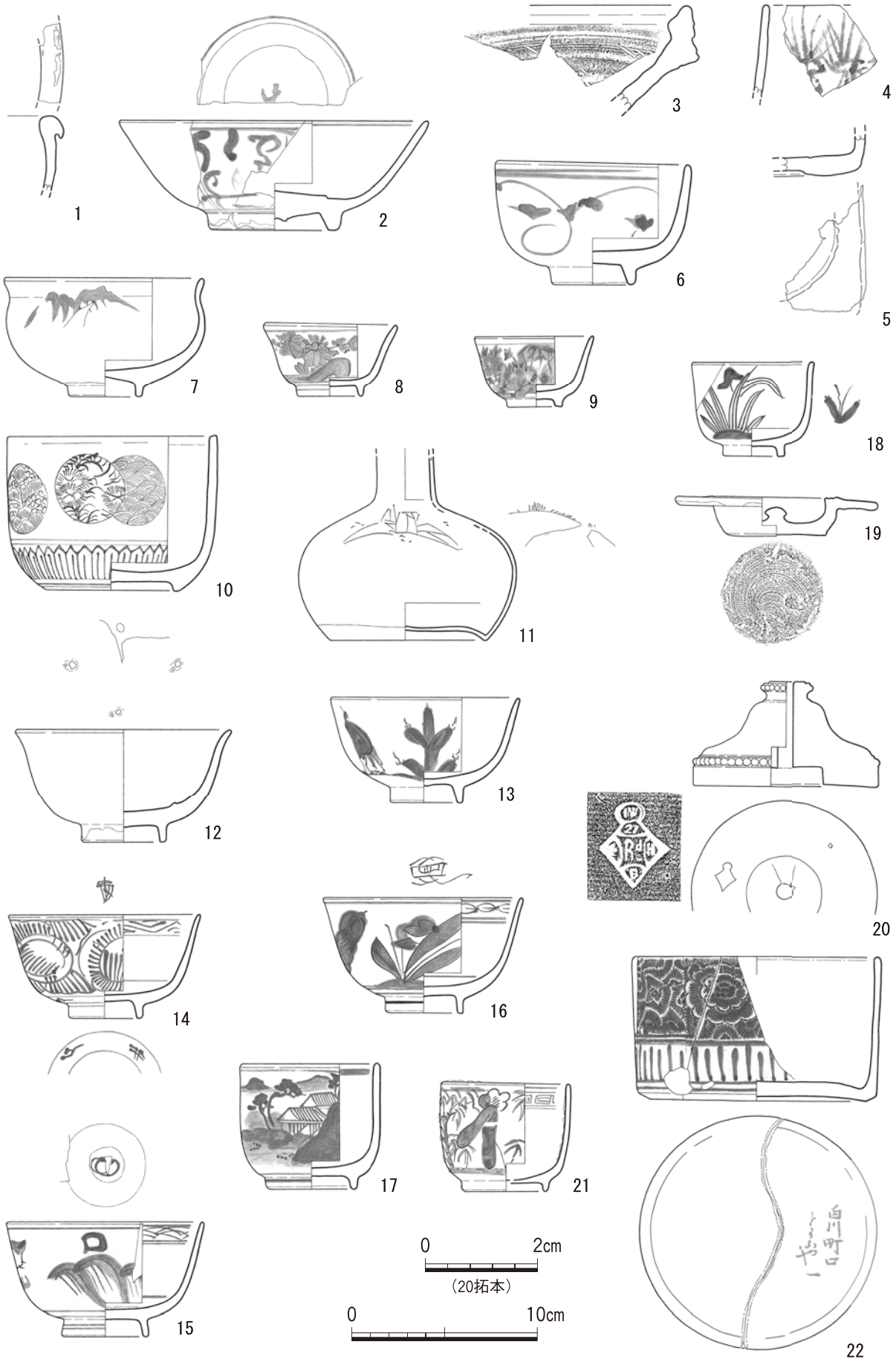
11）熊本市熊本城調査研究センター『熊本城跡発掘調査報告書１－飯田丸の調査－』2014

12）佐藤浩司氏のご教示による。

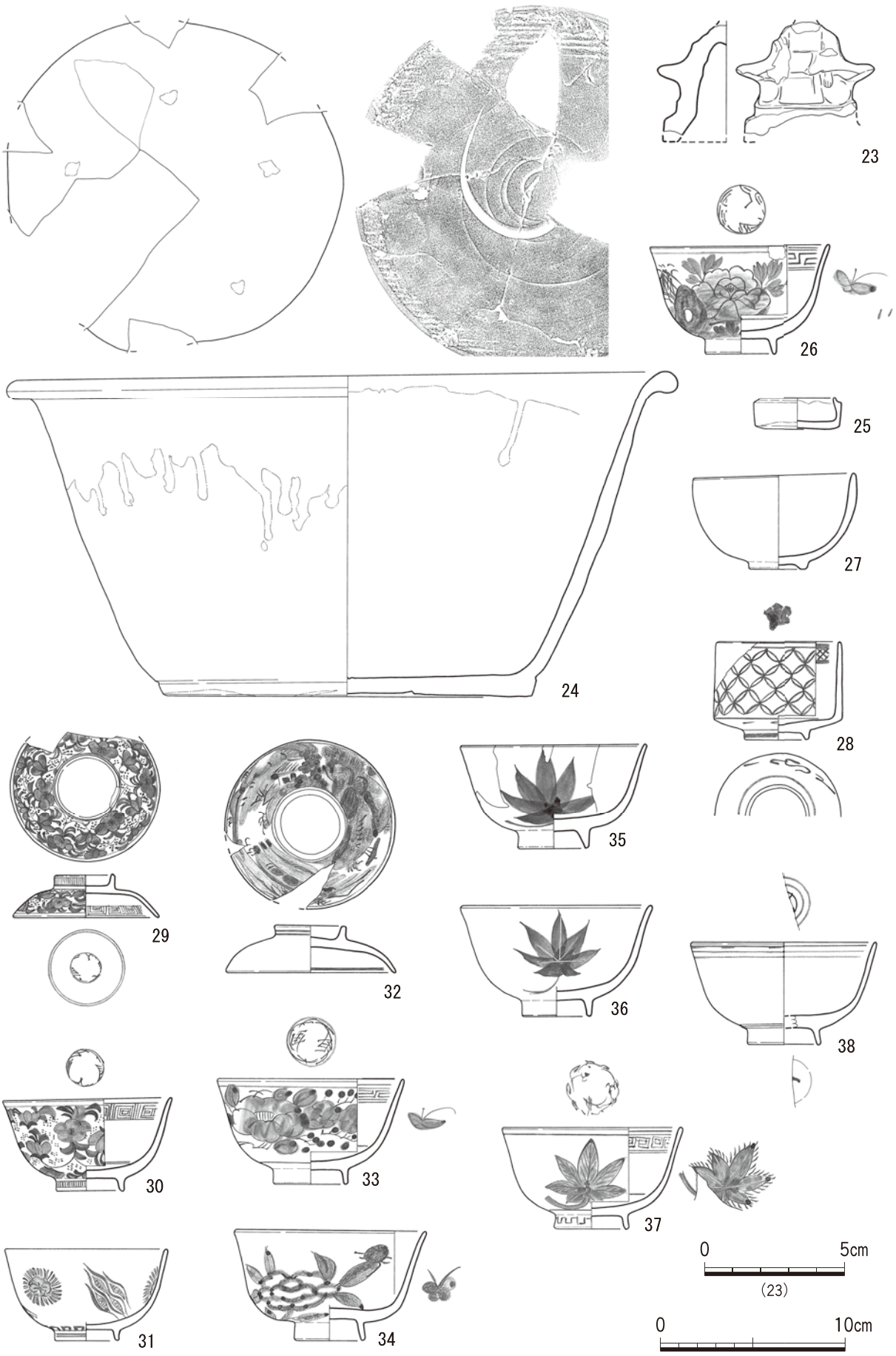
13）註文献７に同じ。

14）佐賀市高伝寺・多久市円通寺のご厚意により実見する機会を得た。

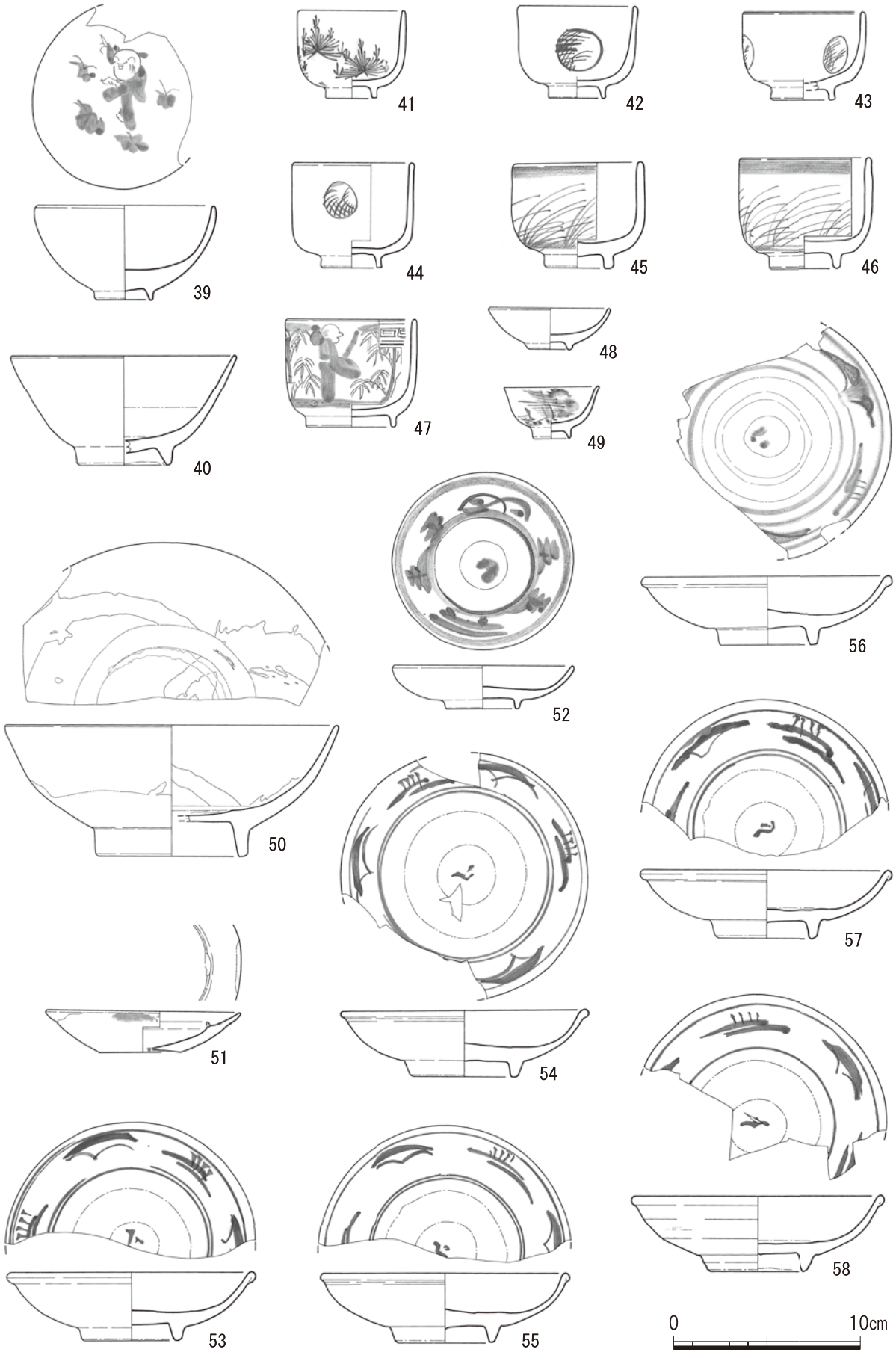
15）註文献３に同じ。



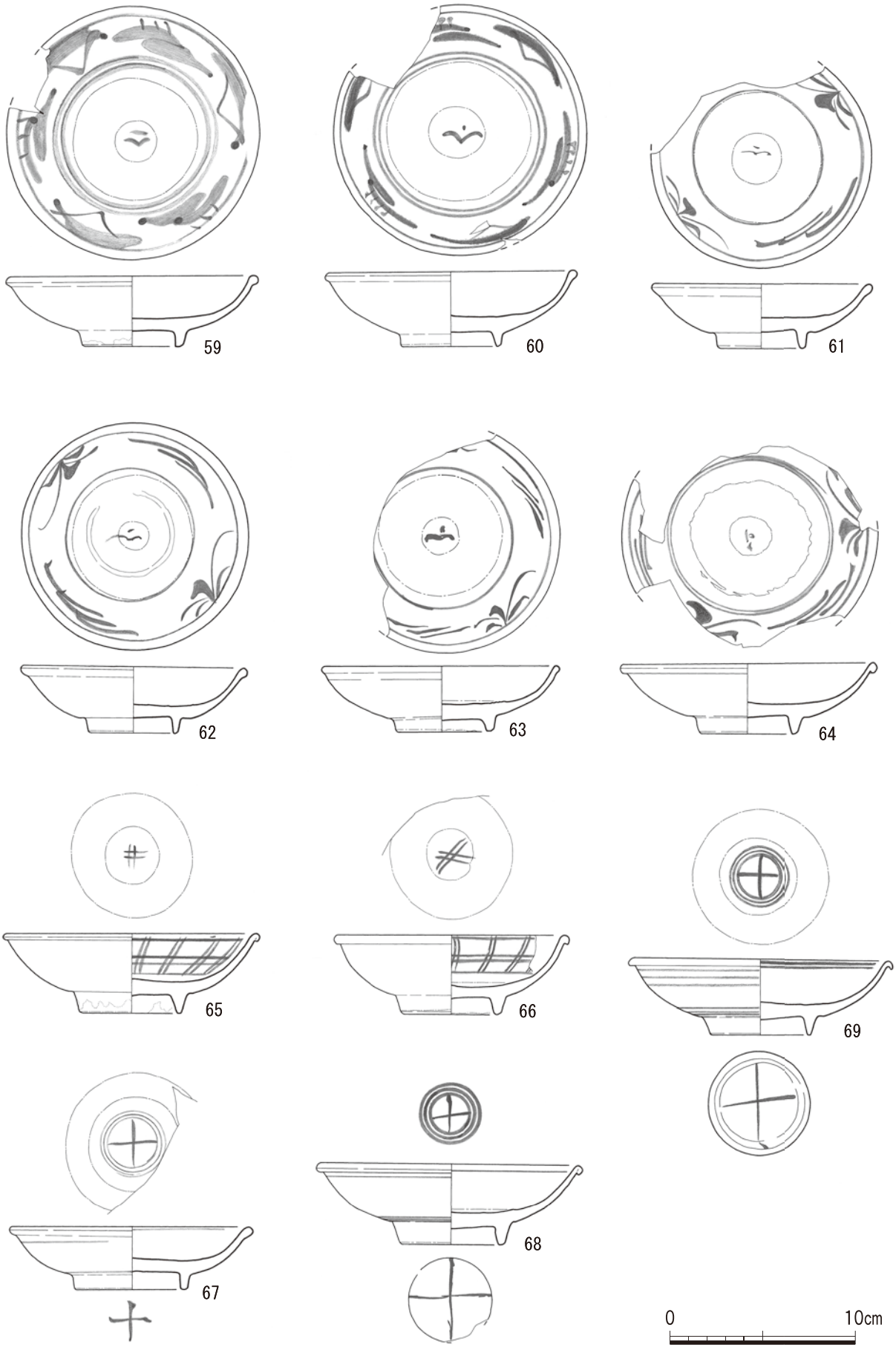
第251図　大広間出土陶磁器類実測図１（１／１・１／３）



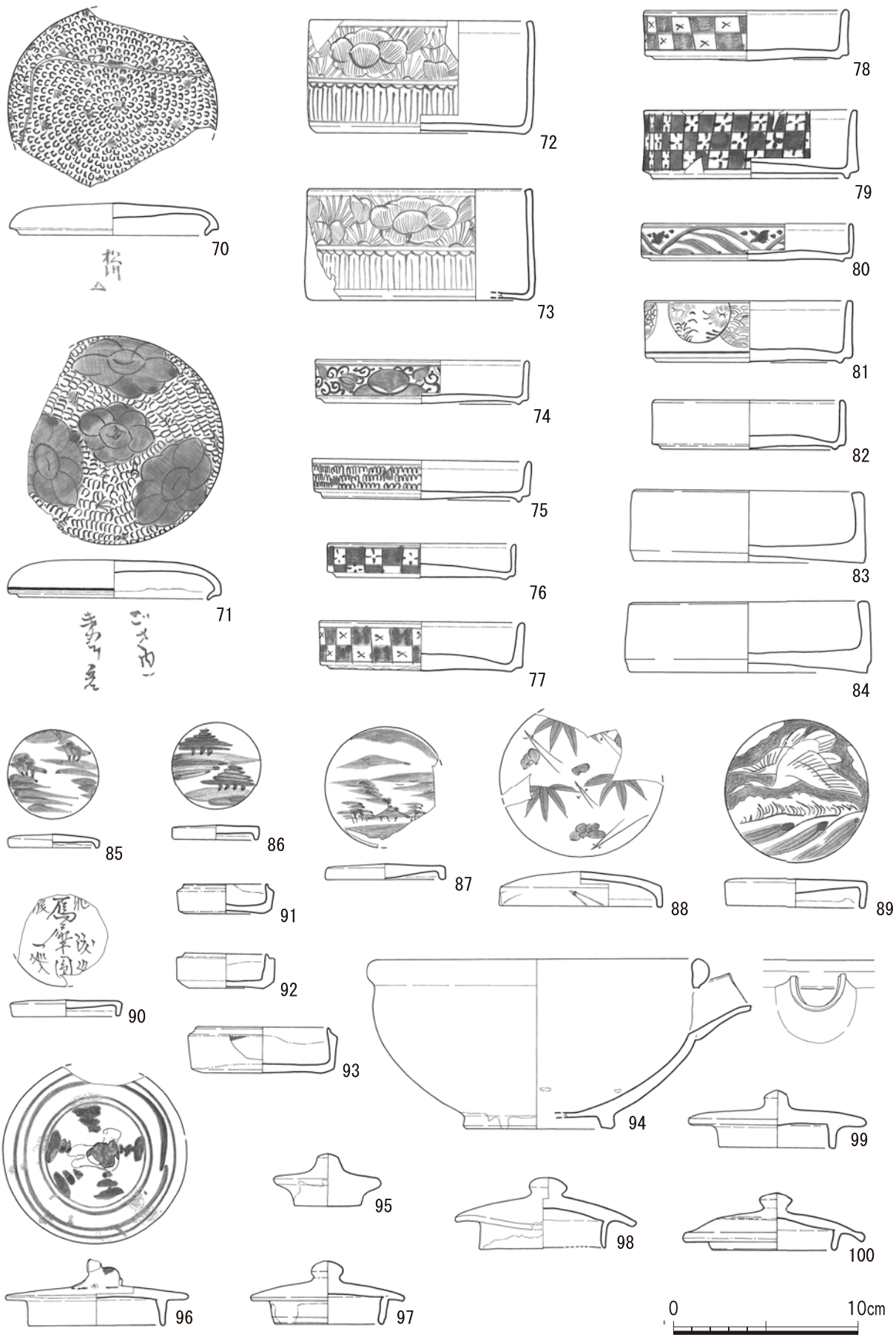
第252図　大広間出土陶磁器類実測図２（１／２・１／３）



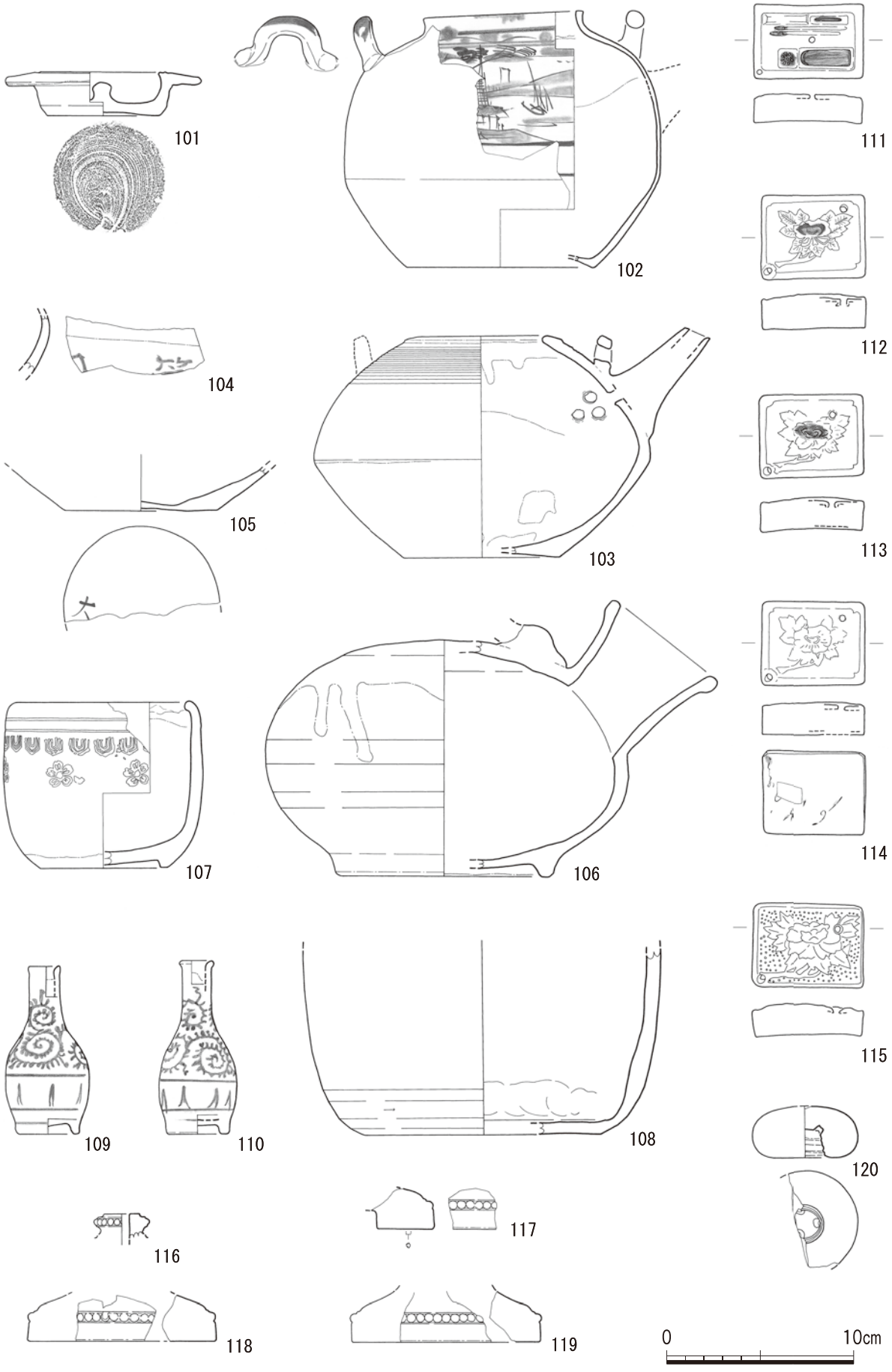
第253図　大広間出土陶磁器類実測図３（１／３）



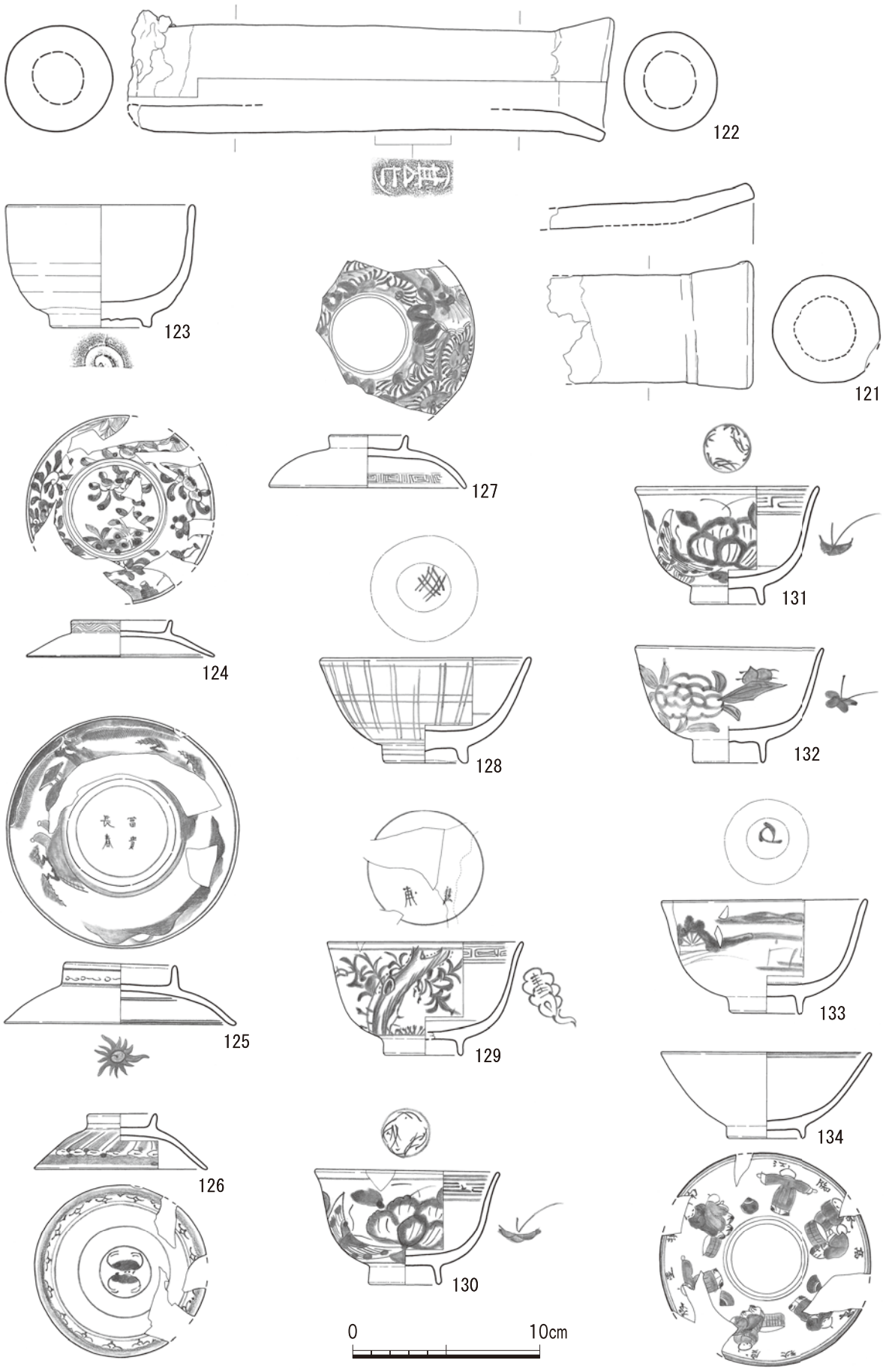
第254図　大広間出土陶磁器類実測図４（１／３）



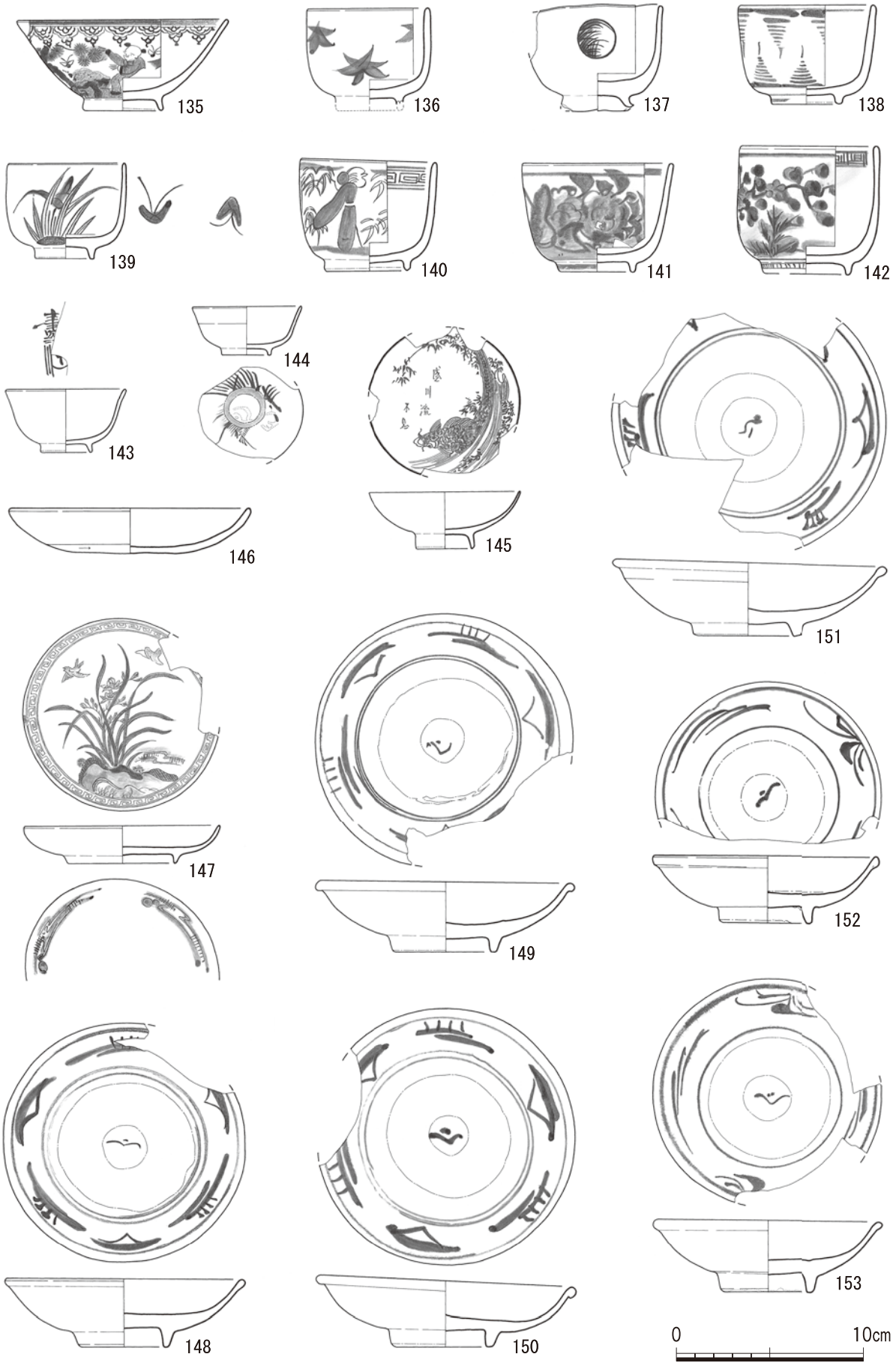
第255図　大広間出土陶磁器類実測図５（１／３）



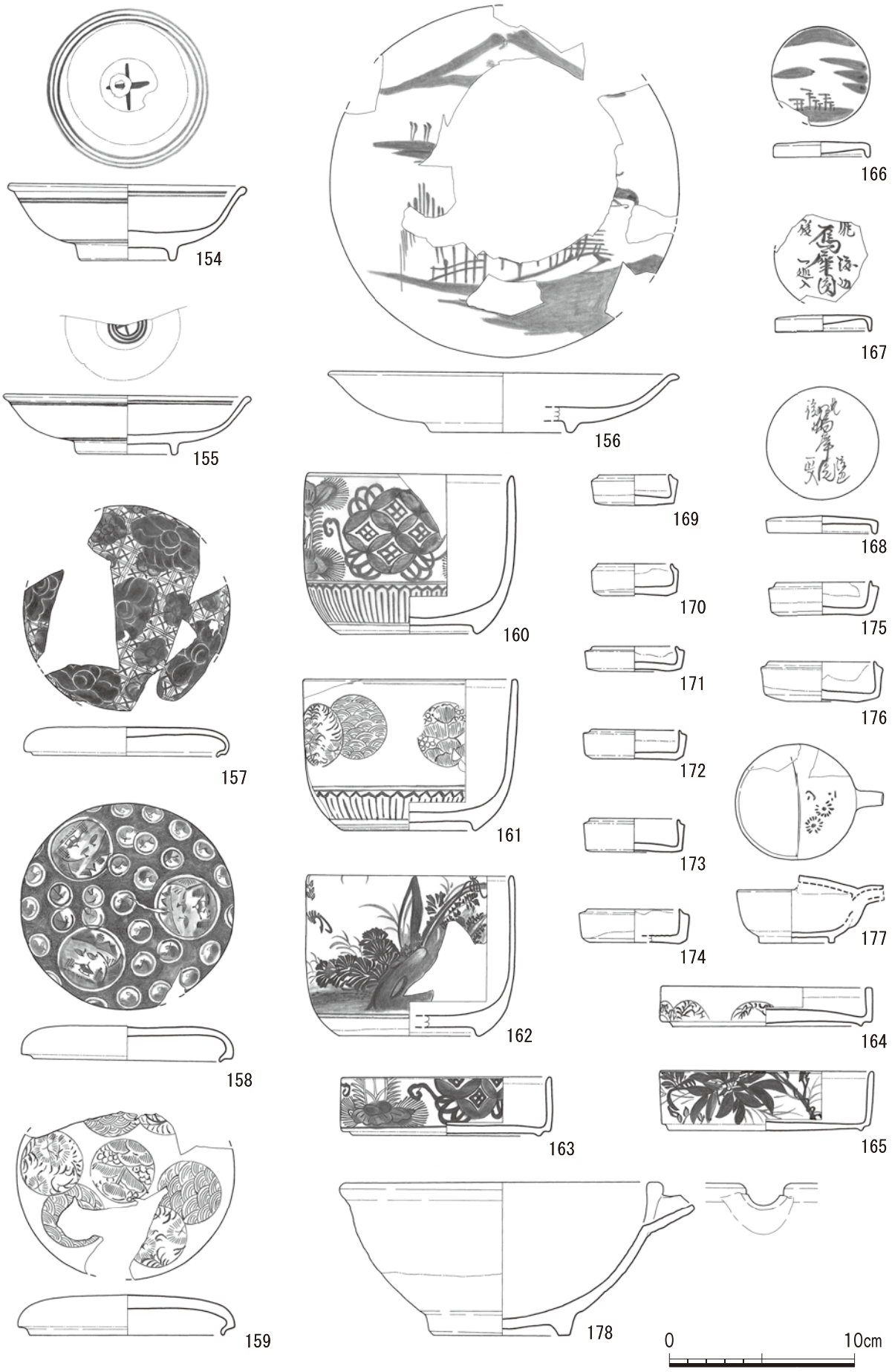
第256図　大広間出土陶磁器類実測図６（１／３）



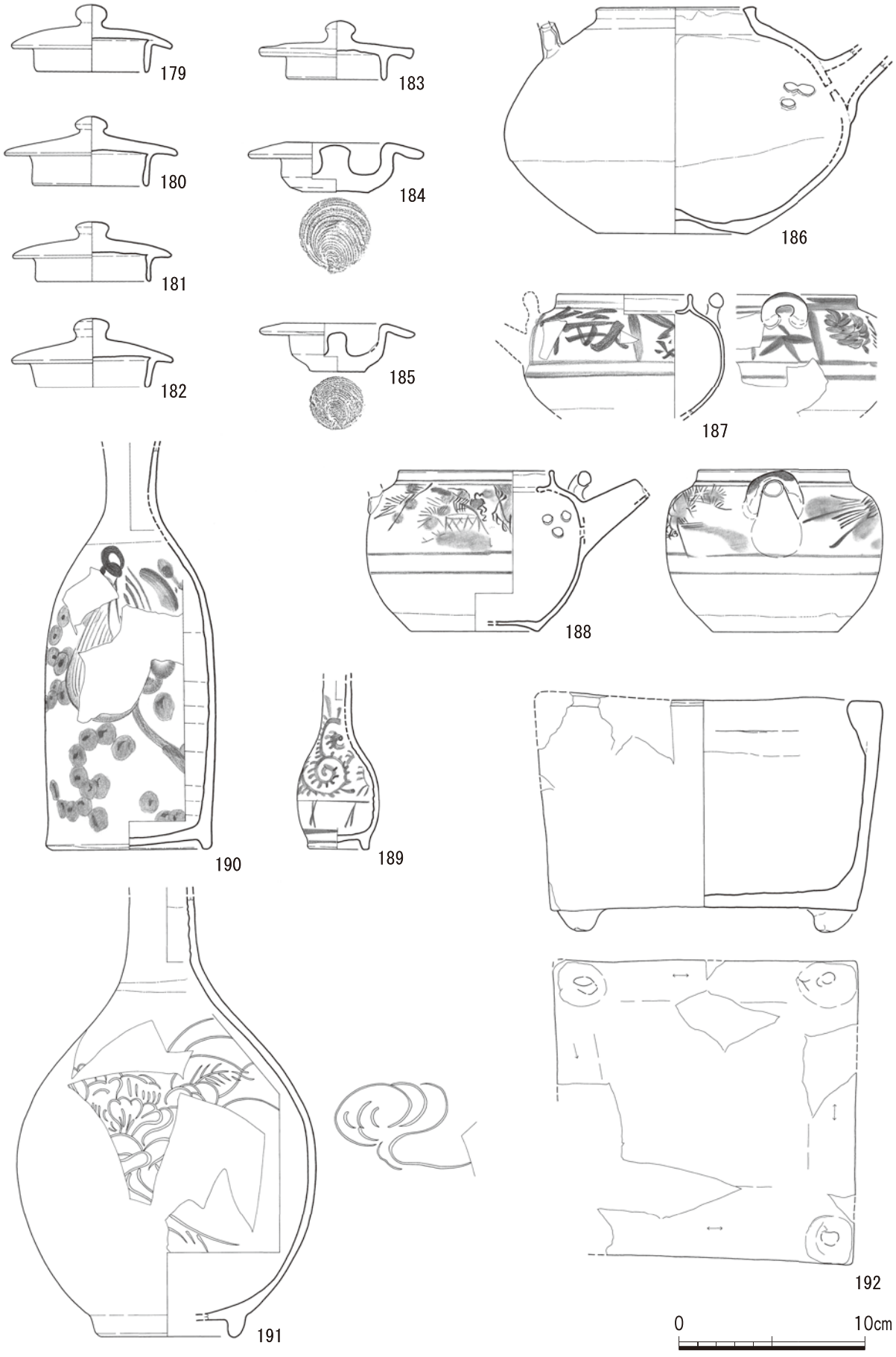
第257図　大広間出土陶磁器類実測図７（１／３）



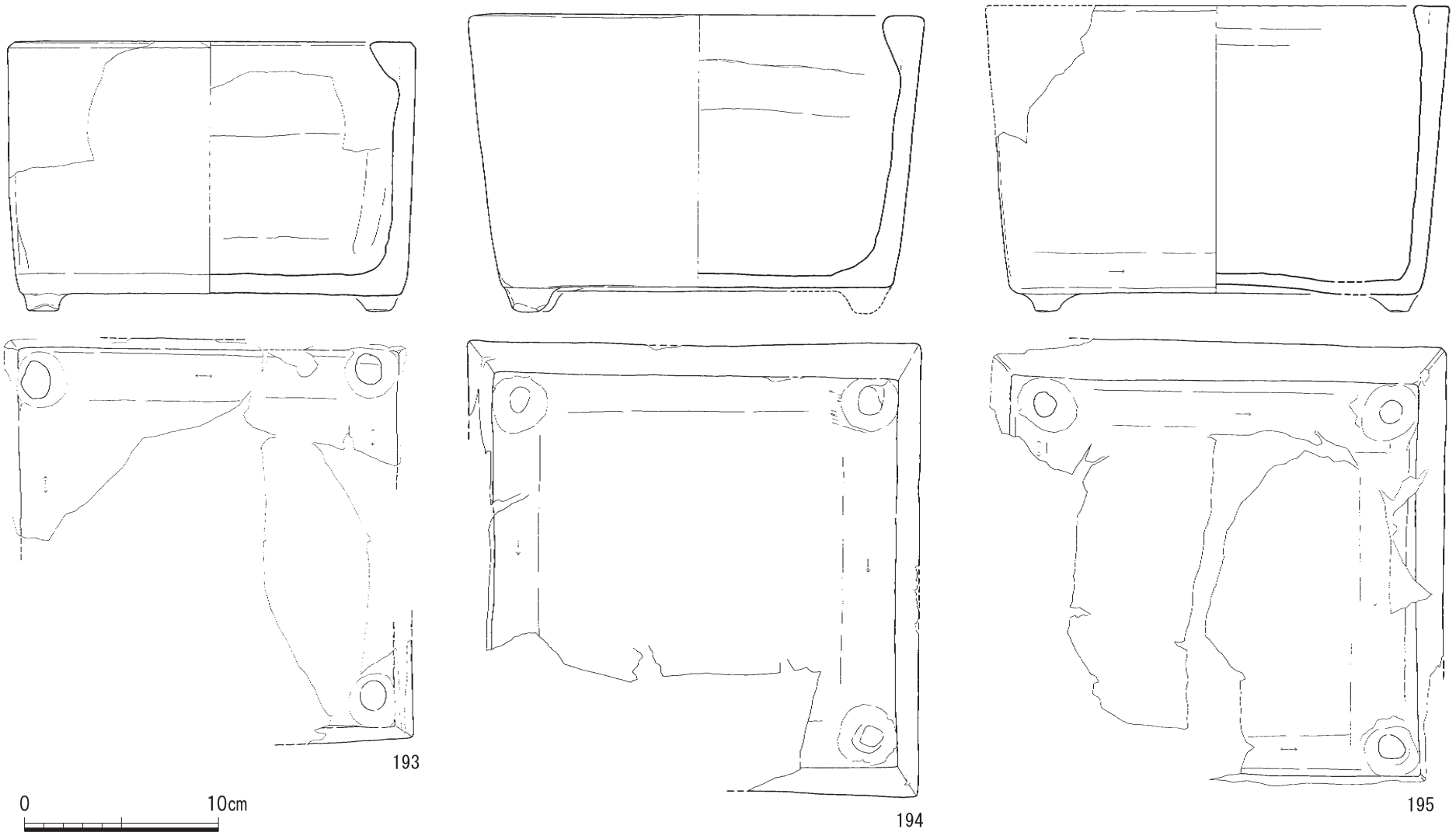
第258図　大広間出土陶磁器類実測図８（１／３）



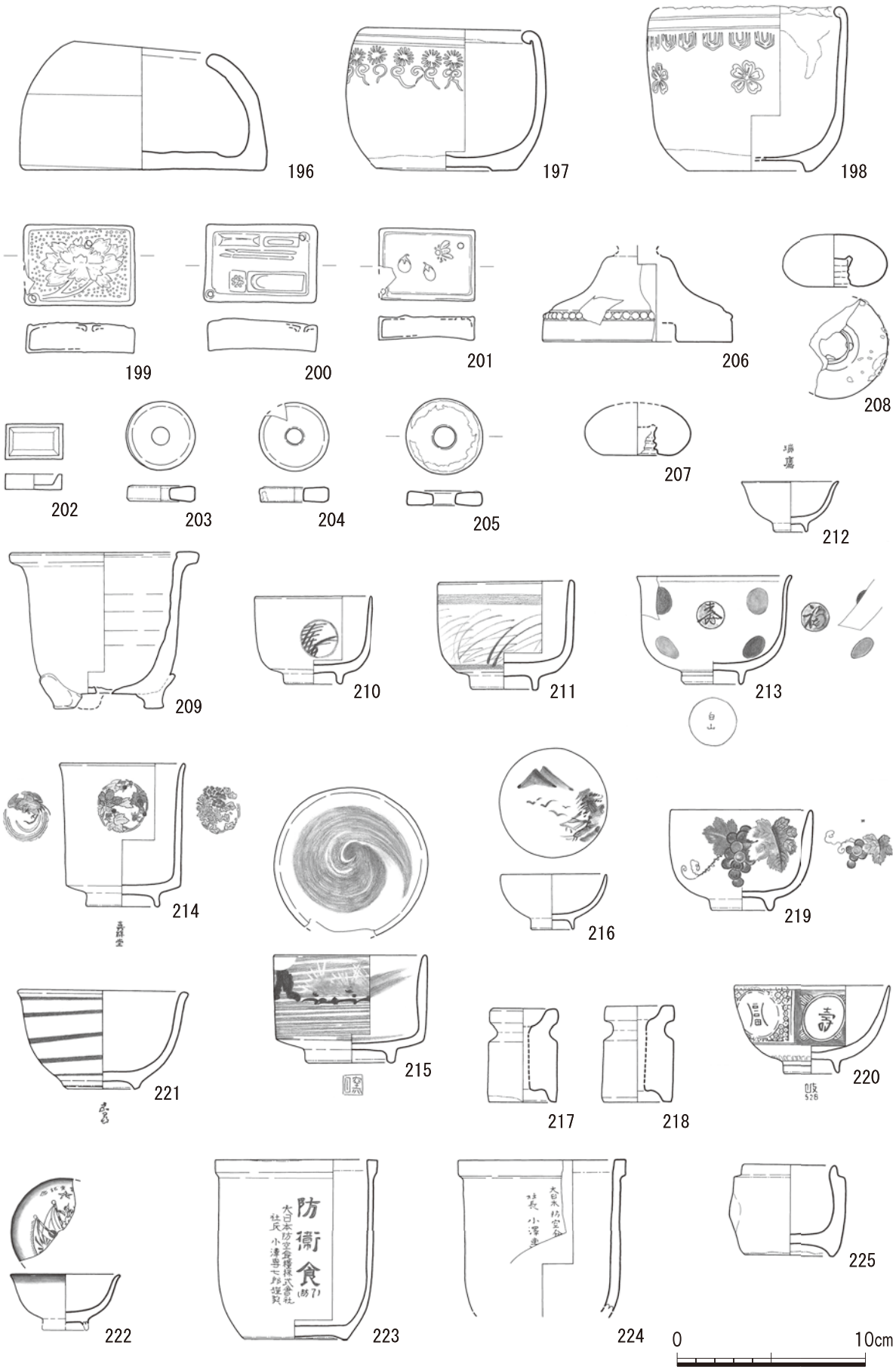
第259図　大広間出土陶磁器類実測図９（１／３）



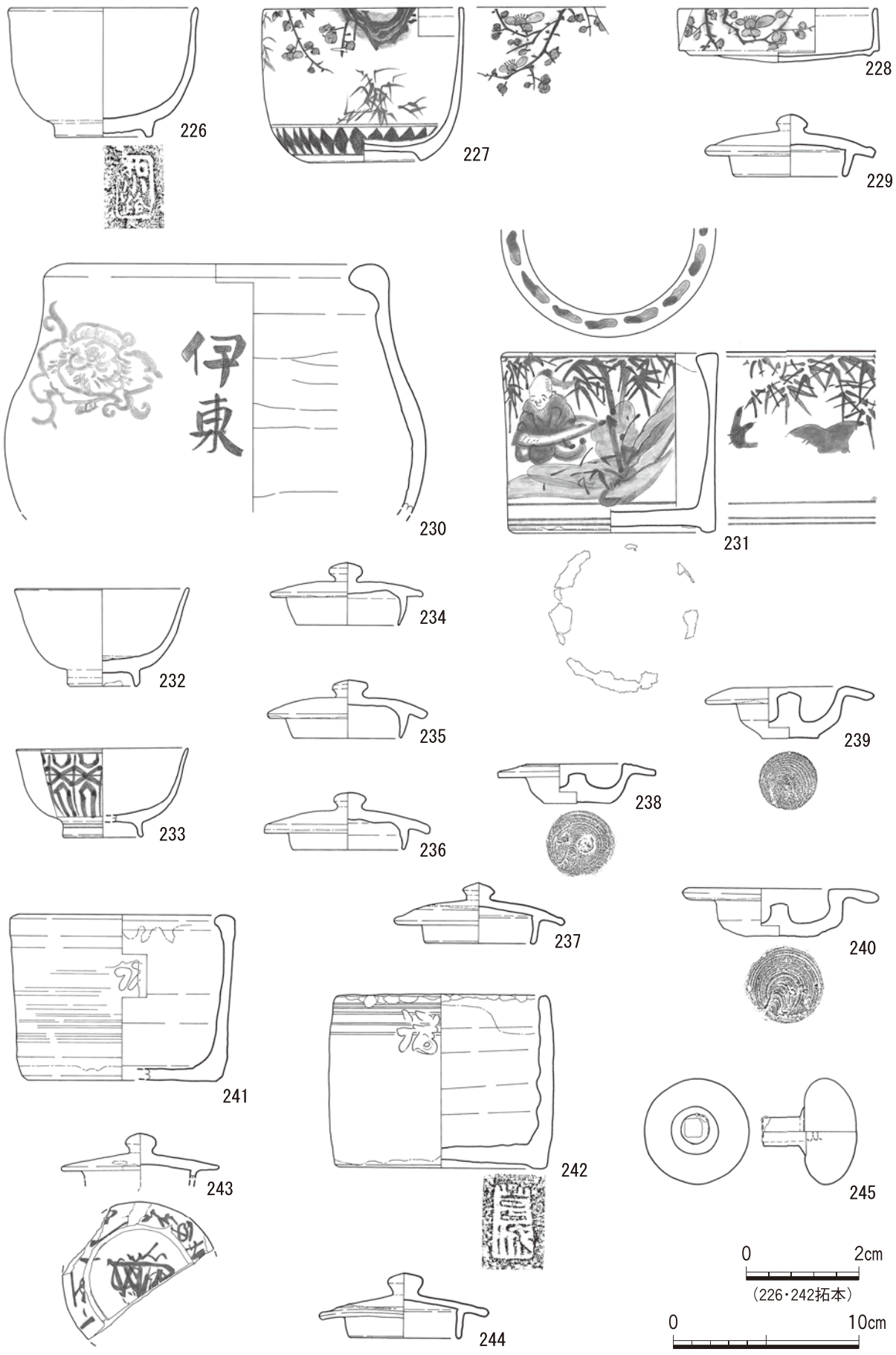
第260図　大広間出土陶磁器類実測図10（１／３）



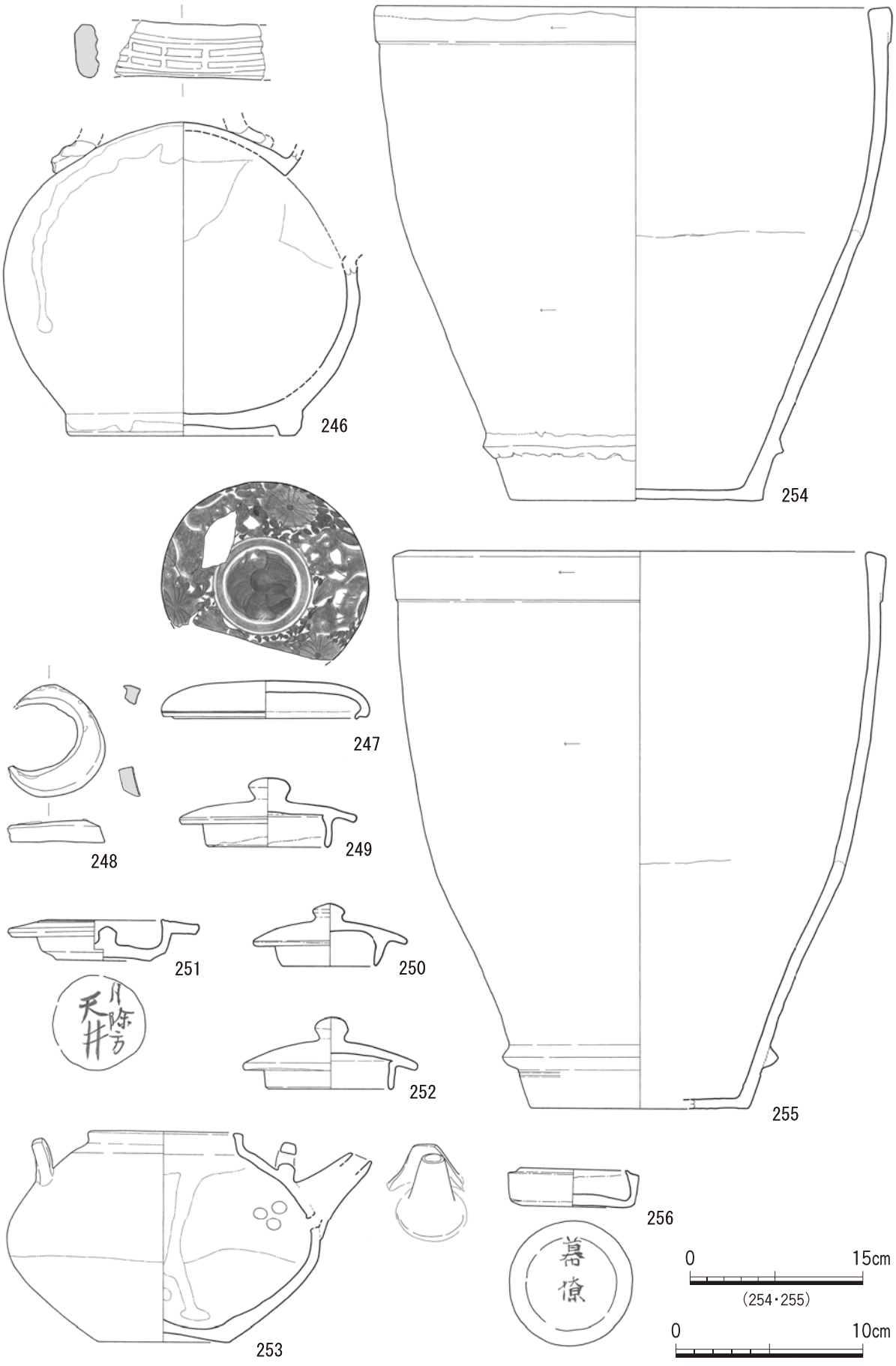
第261図　大広間出土陶磁器類実測図11（１／３）



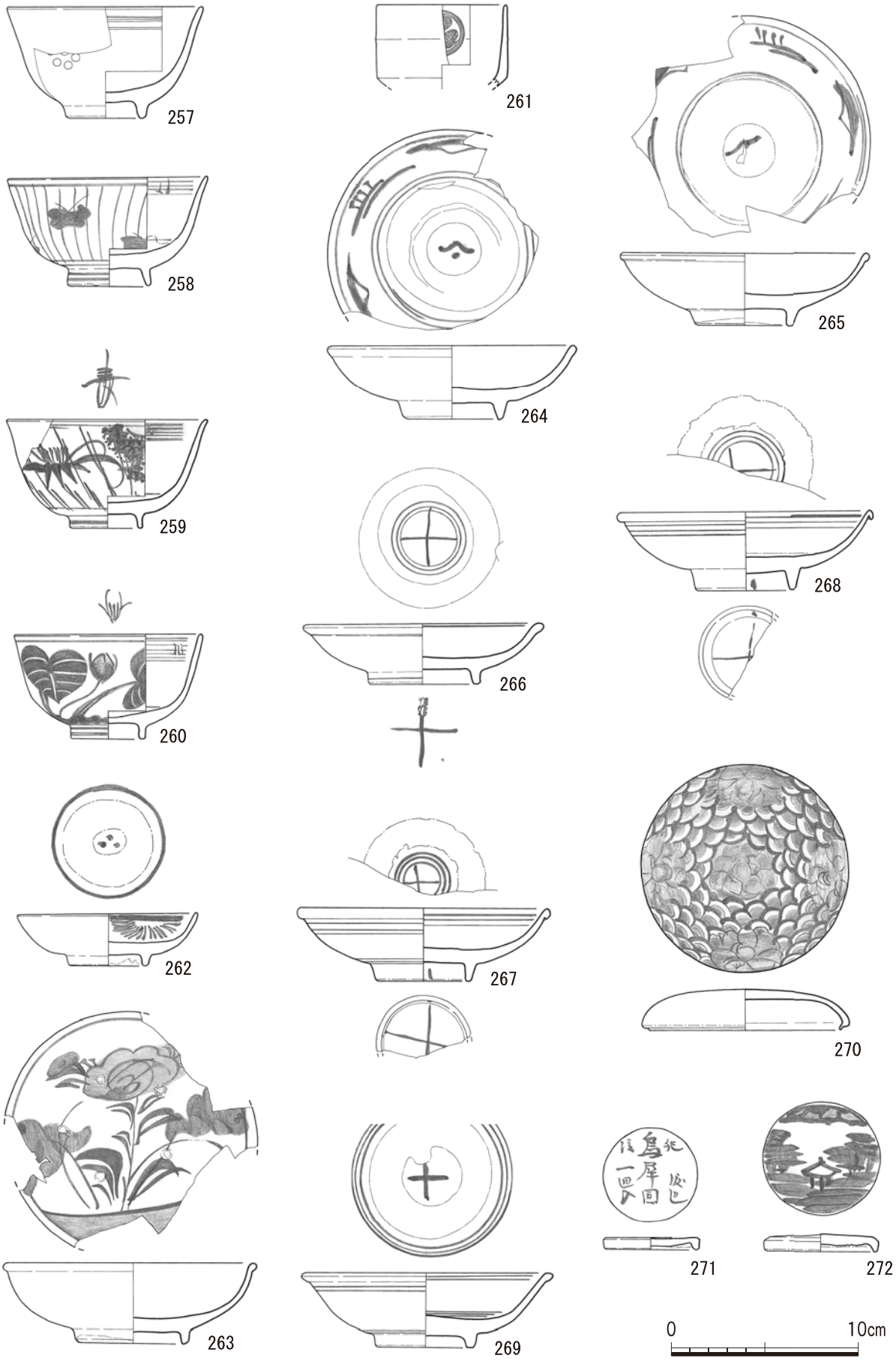
第262図　大広間出土陶磁器類実測図12（１／３）



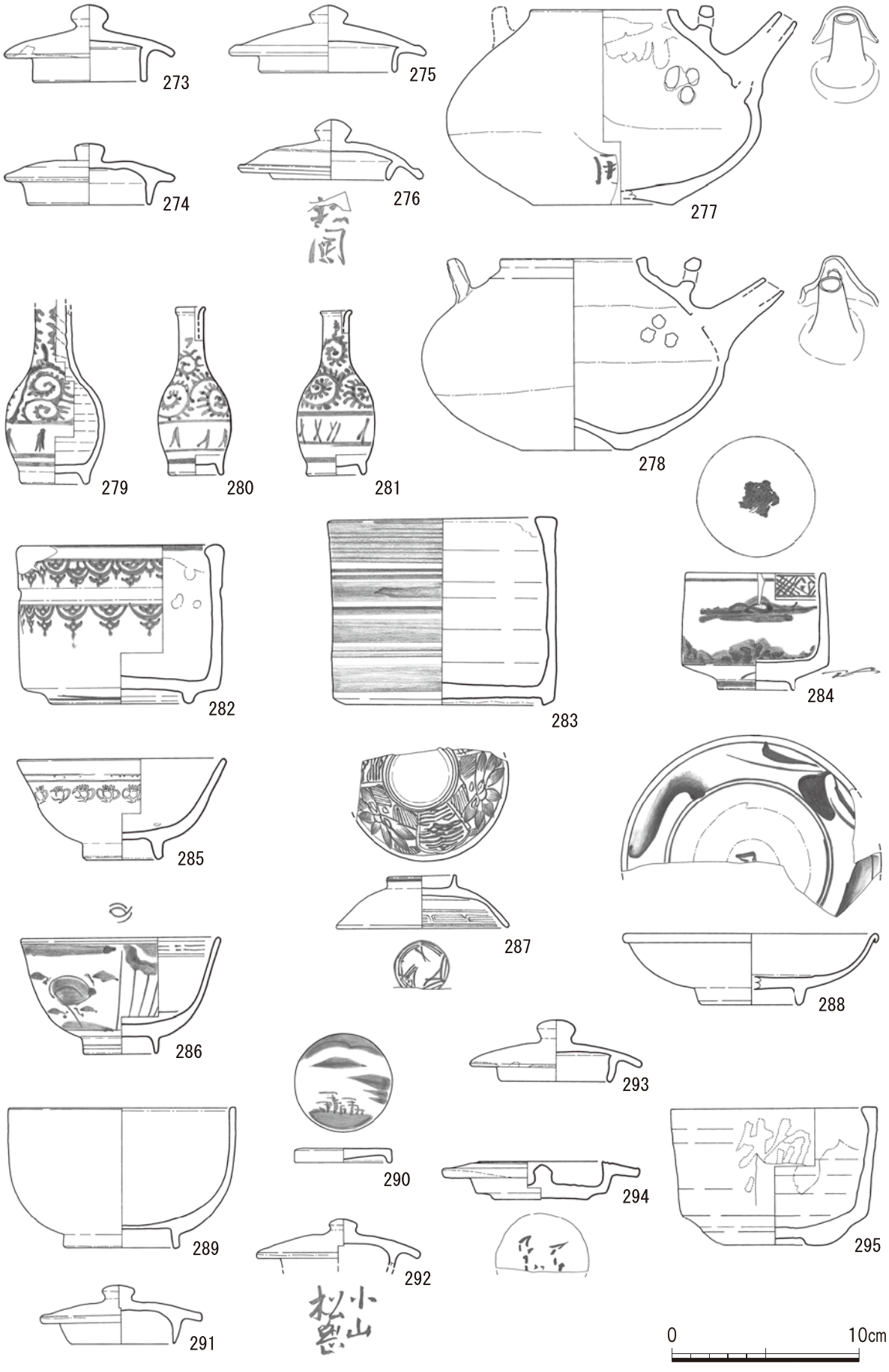
第263図　大御台所出土陶磁器類実測図１（１／１・１／３）



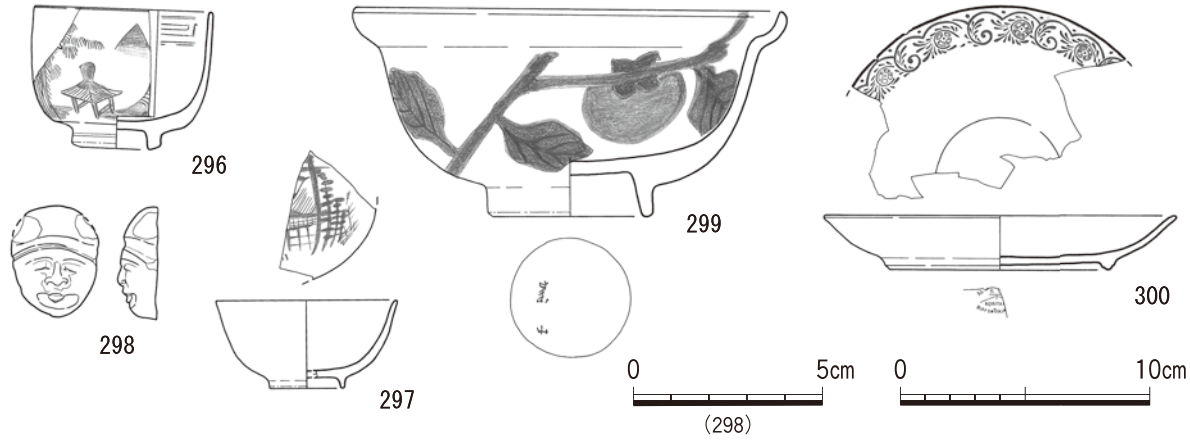
第264図　大御台所出土陶磁器類実測図２（１／３・１／５）



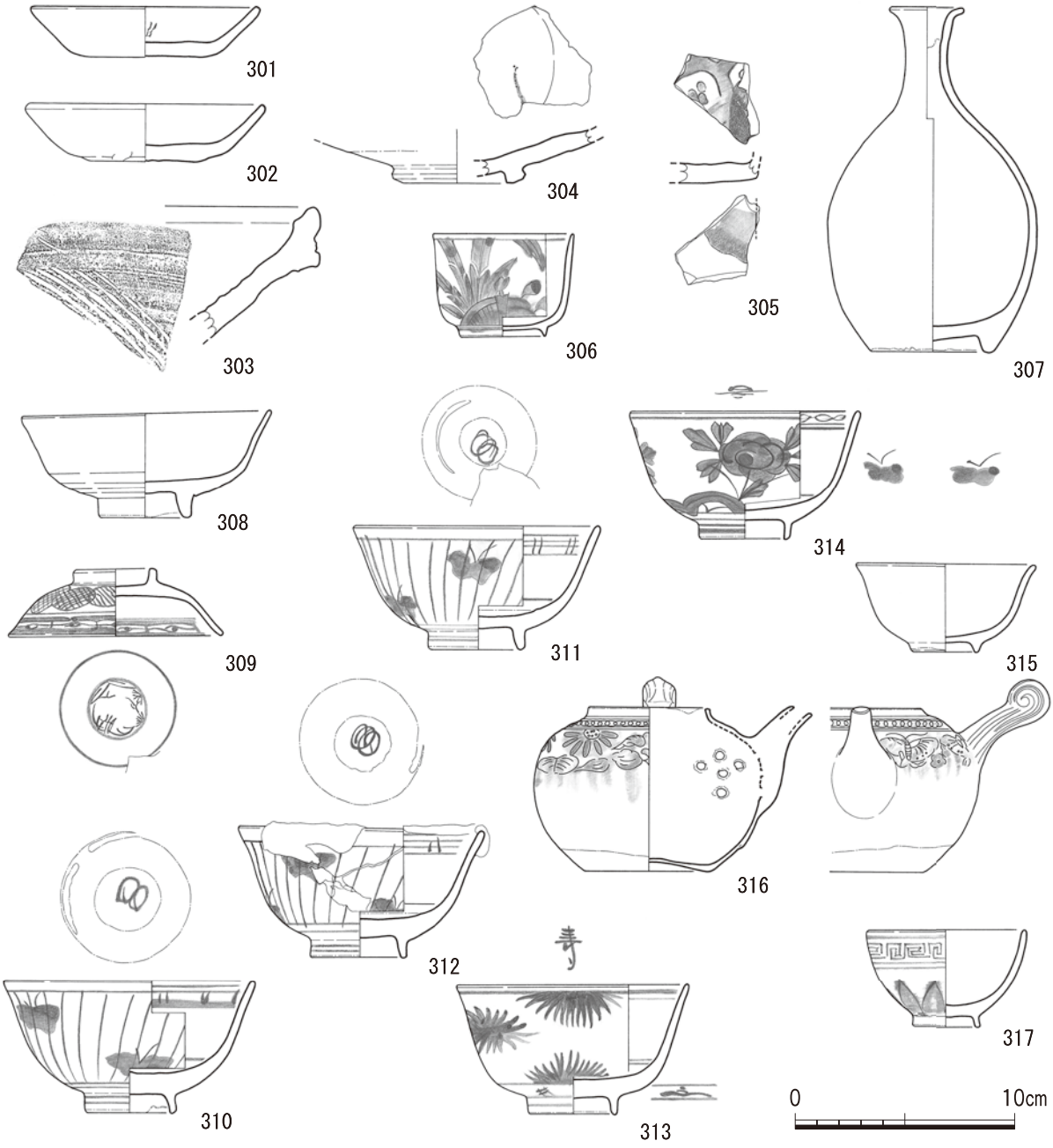
第265図　大御台所出土陶磁器類実測図３（１／３）



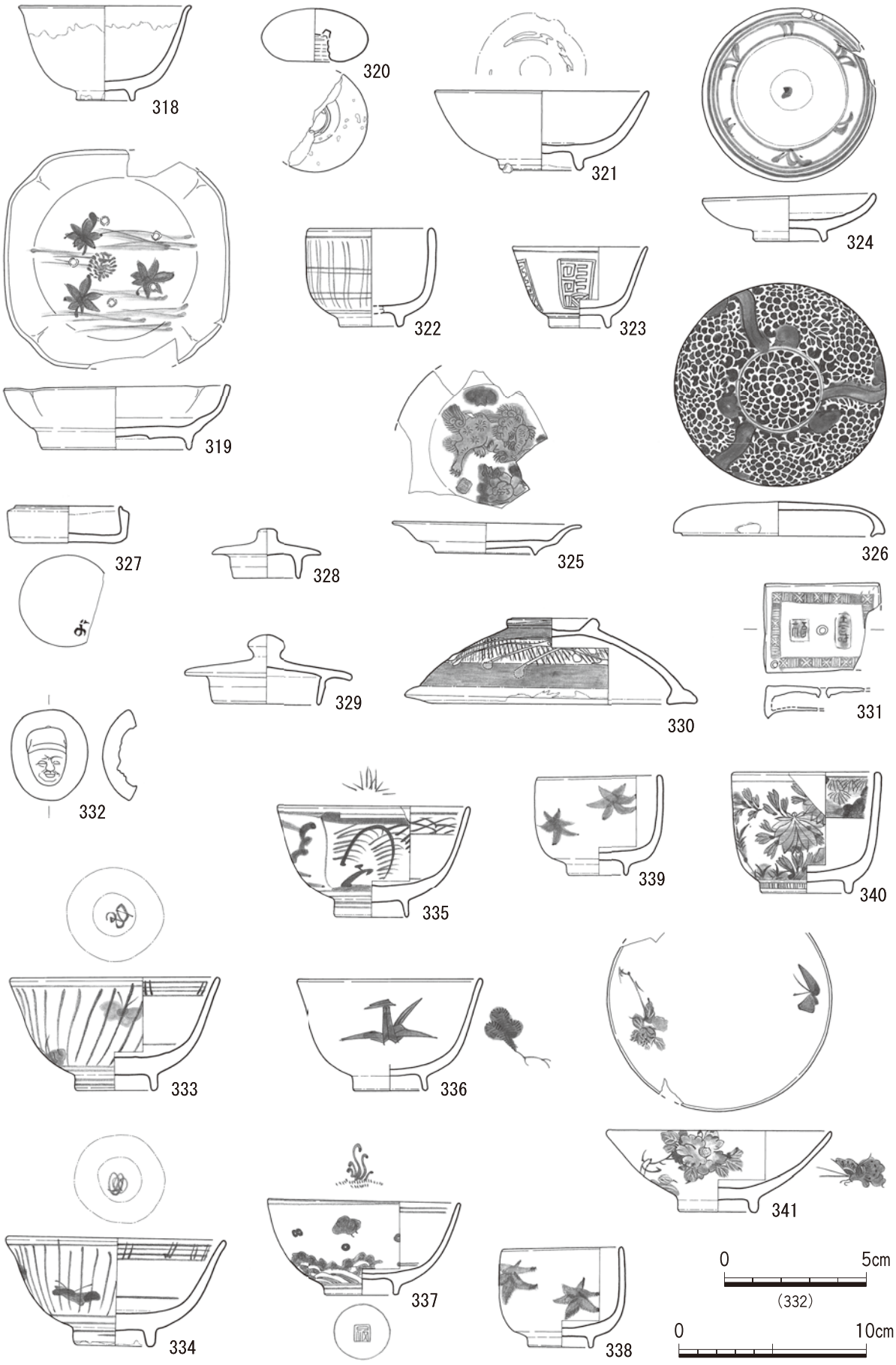
第266図　大御台所出土陶磁器類実測図４（１／３）



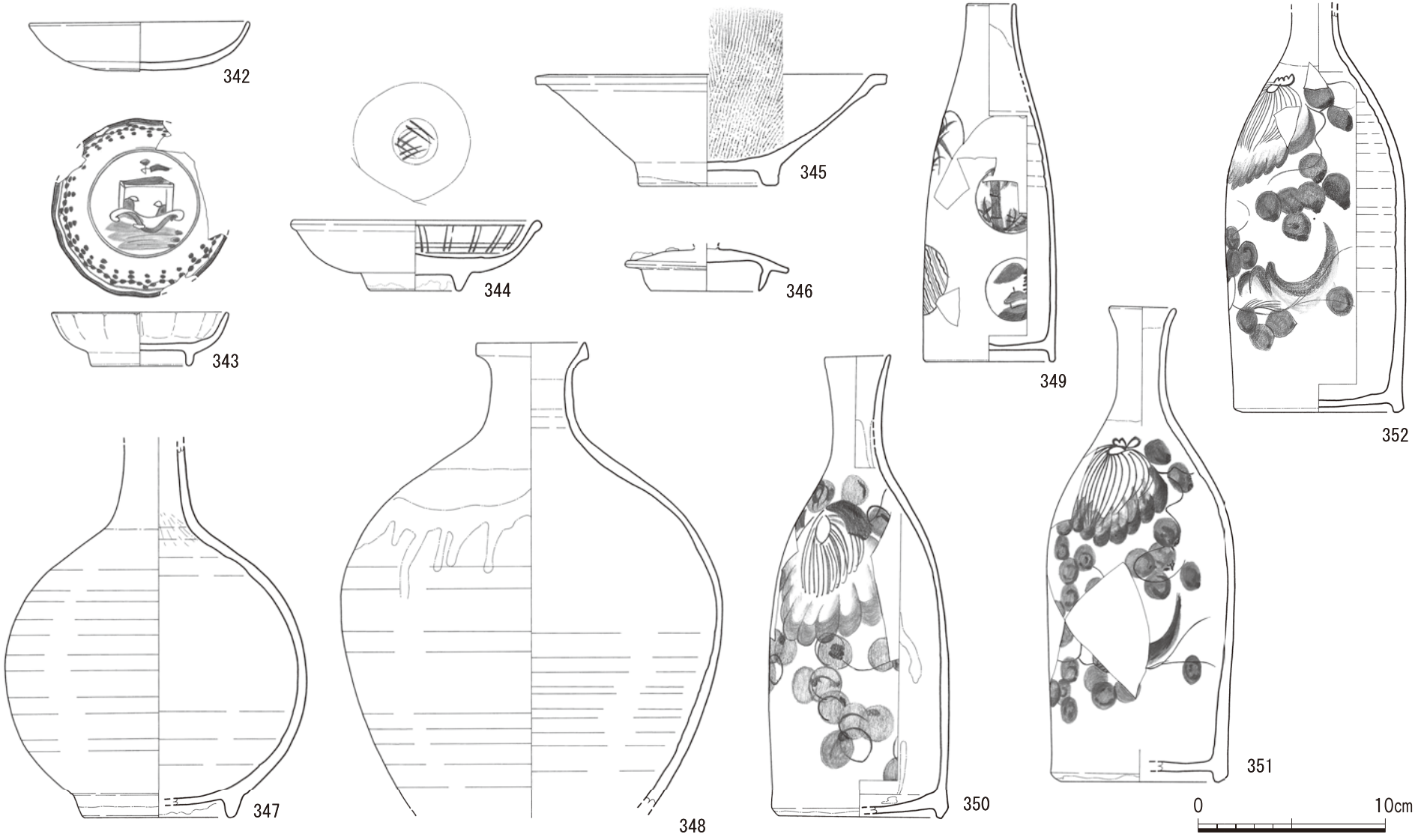
第267図　大御台所出土陶磁器類実測図５（１／３・１／２）



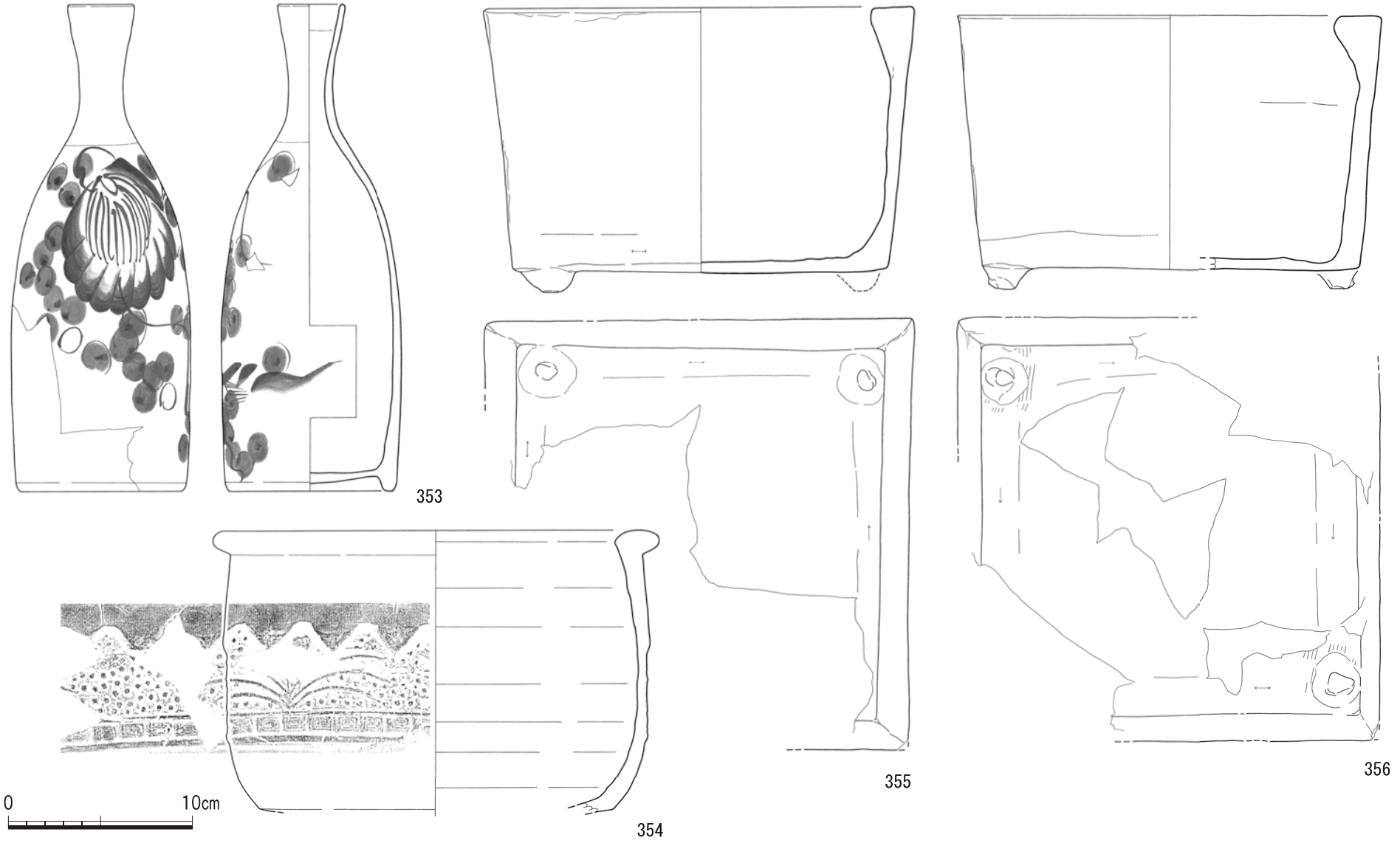
第268図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図１（１／３）



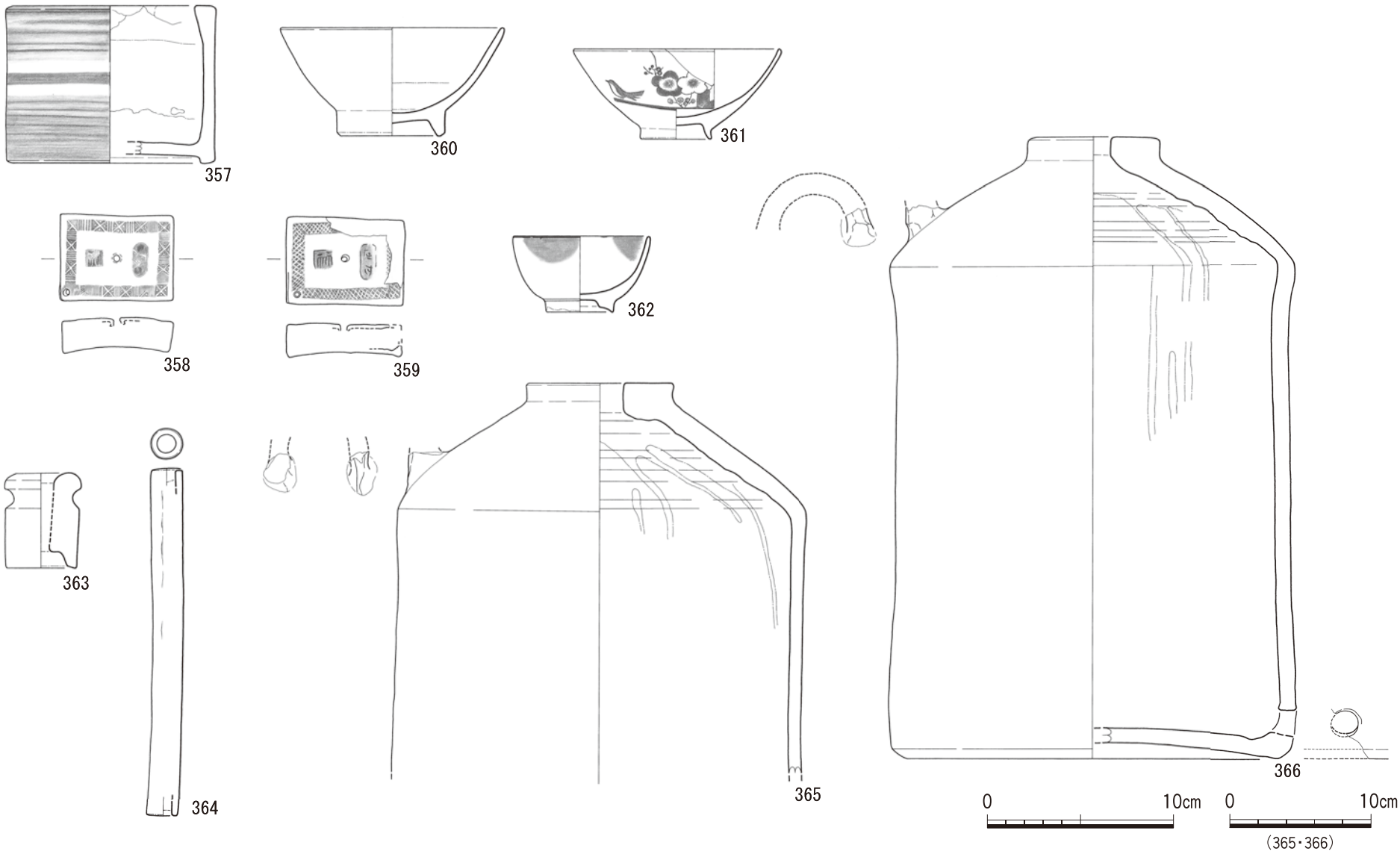
第269図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図２（１／２・１／３）



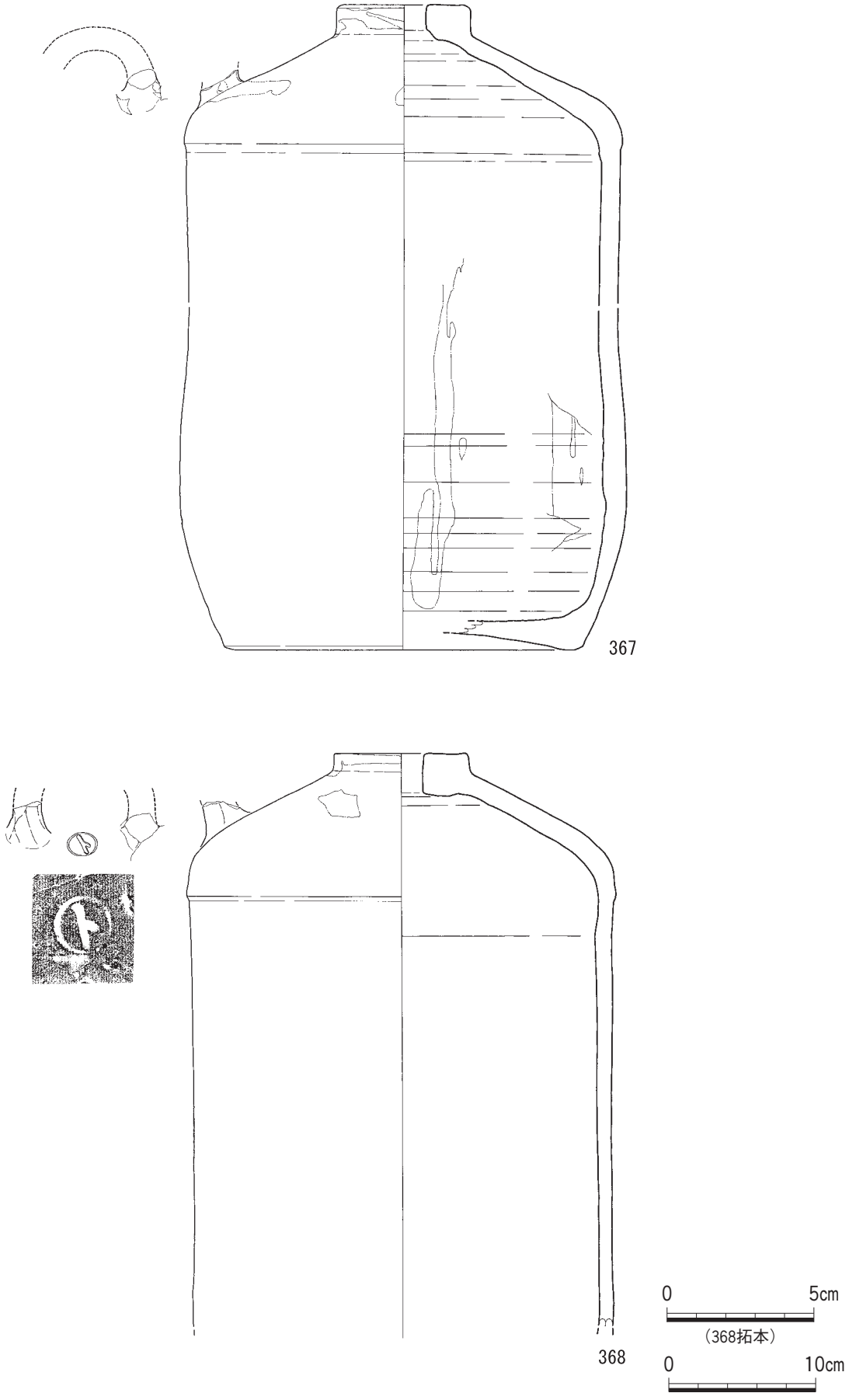
第270図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図３（１／３）



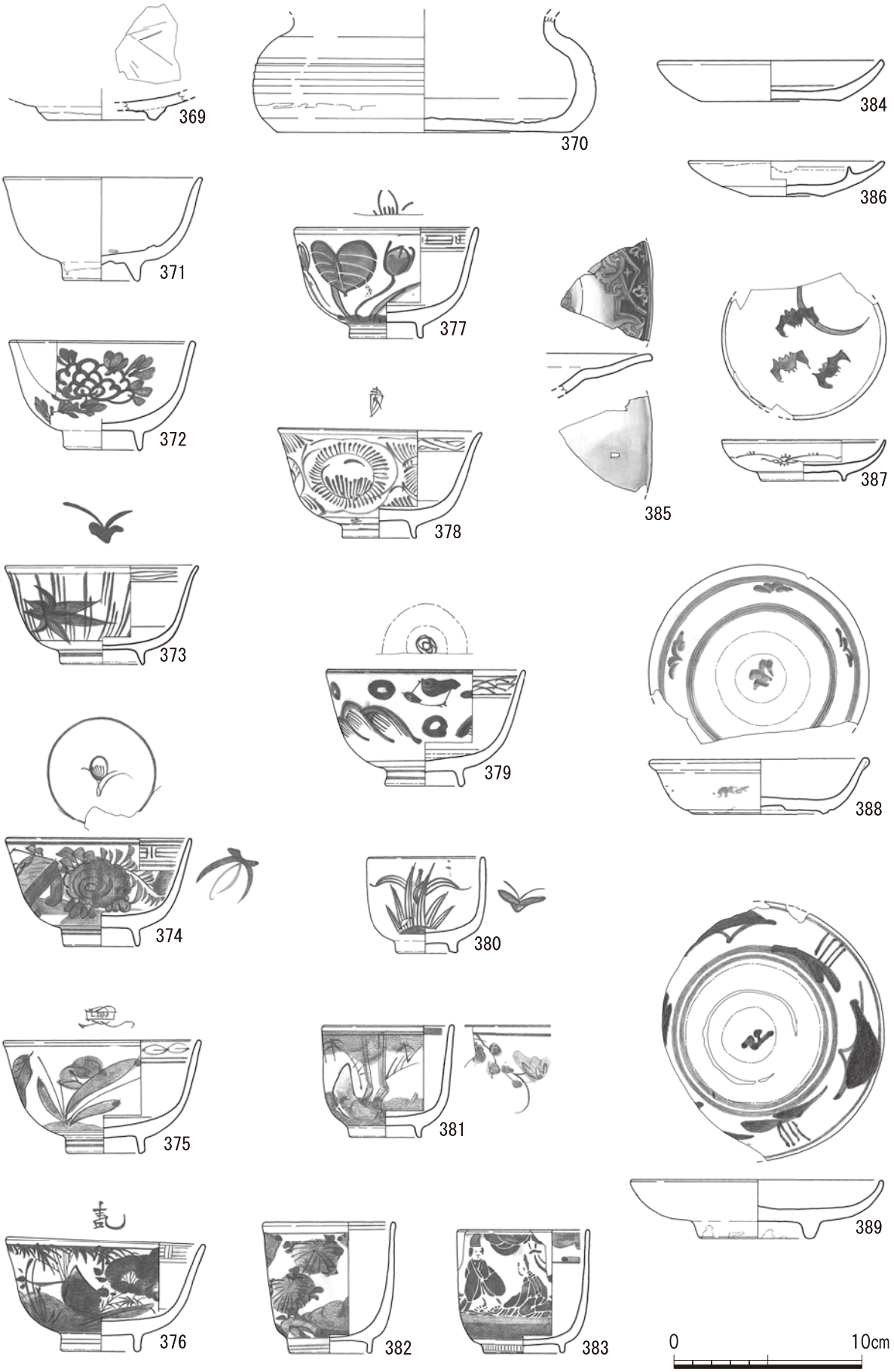
第271図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図４（１／３）



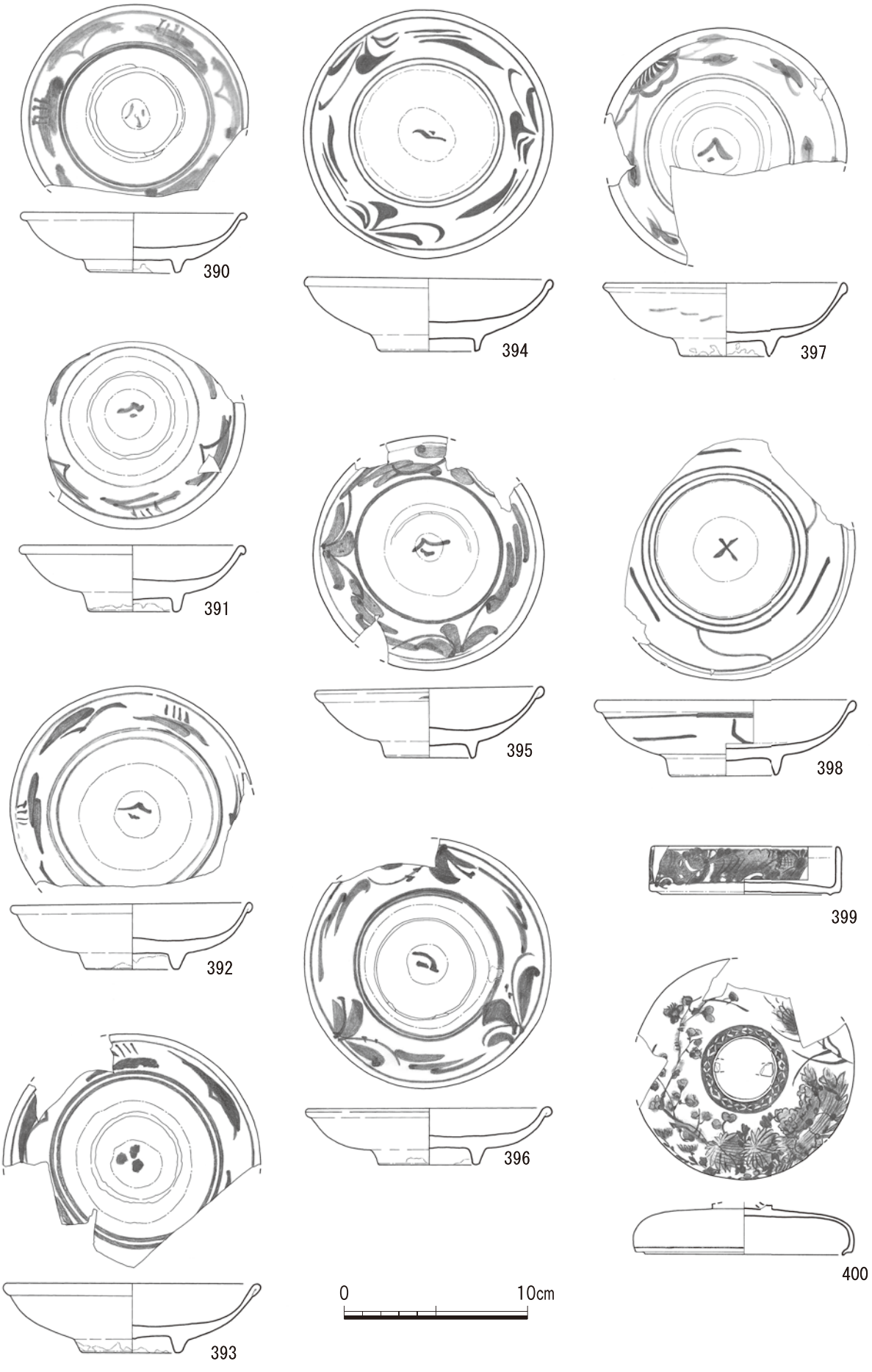
第272図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図５（１／３・１／４）



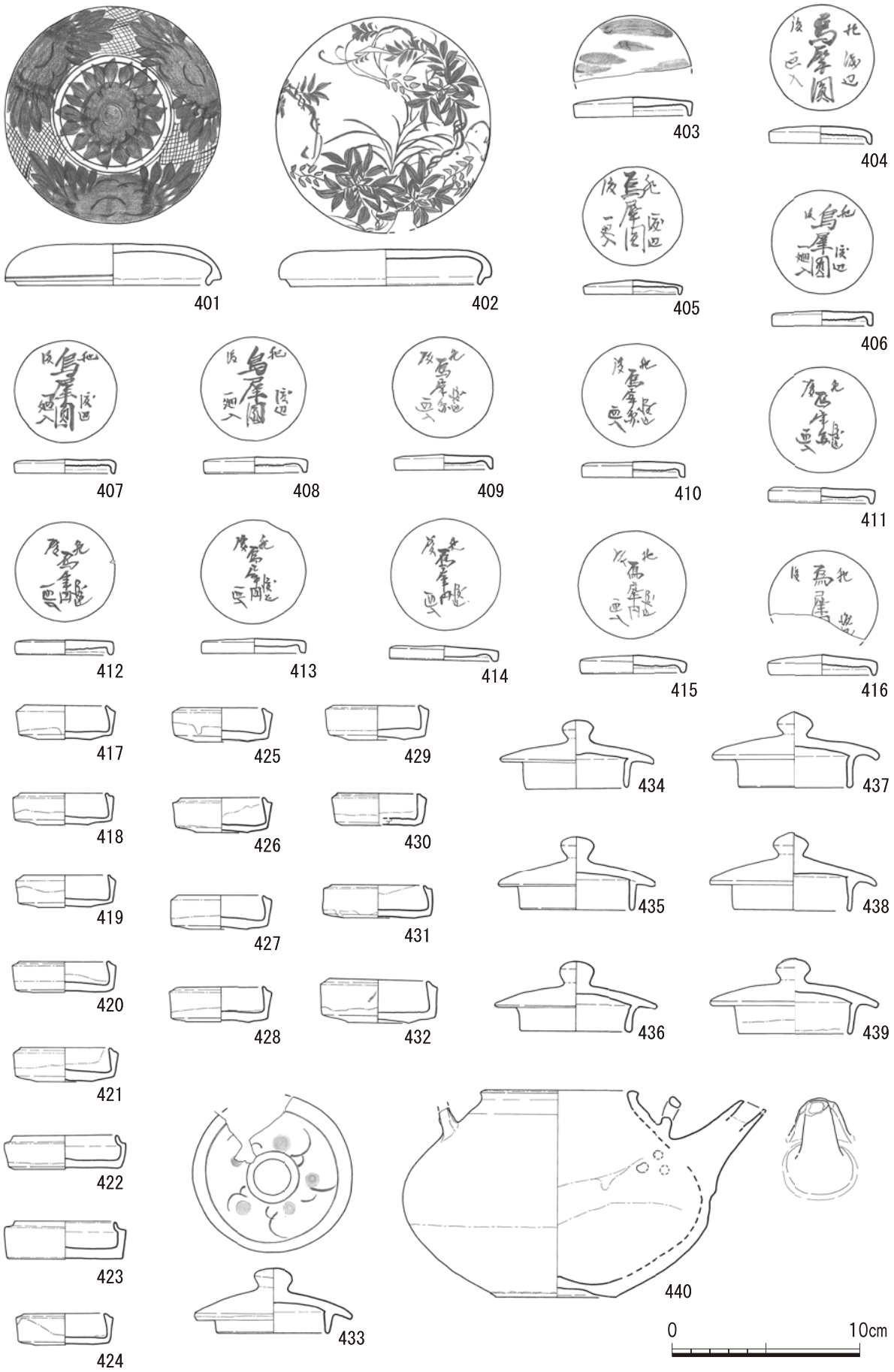
第273図　御小姓部屋出土陶磁器類実測図６（１／２・１／４）



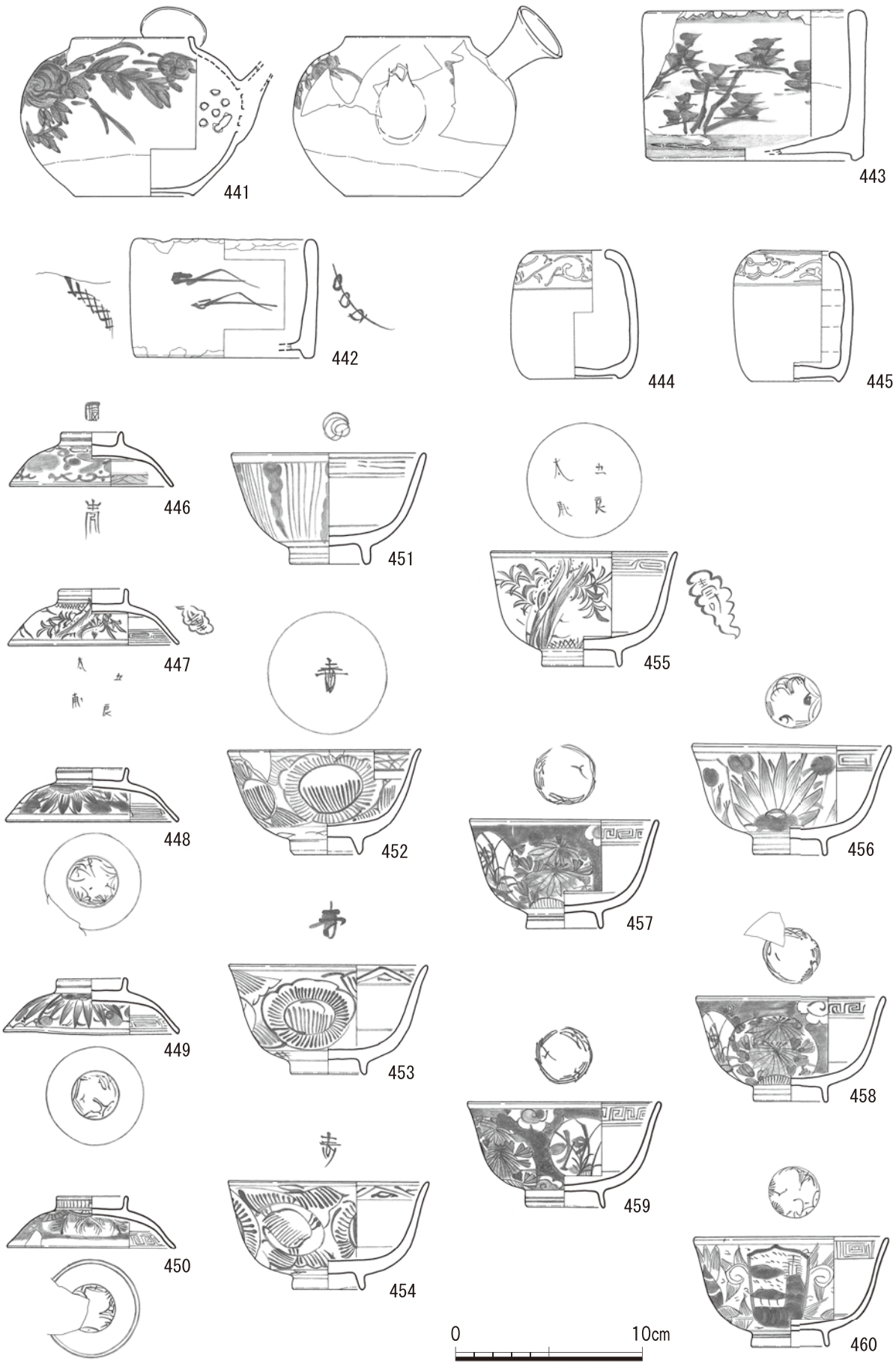
第274図　長之間出土陶磁器類実測図１（１／３）



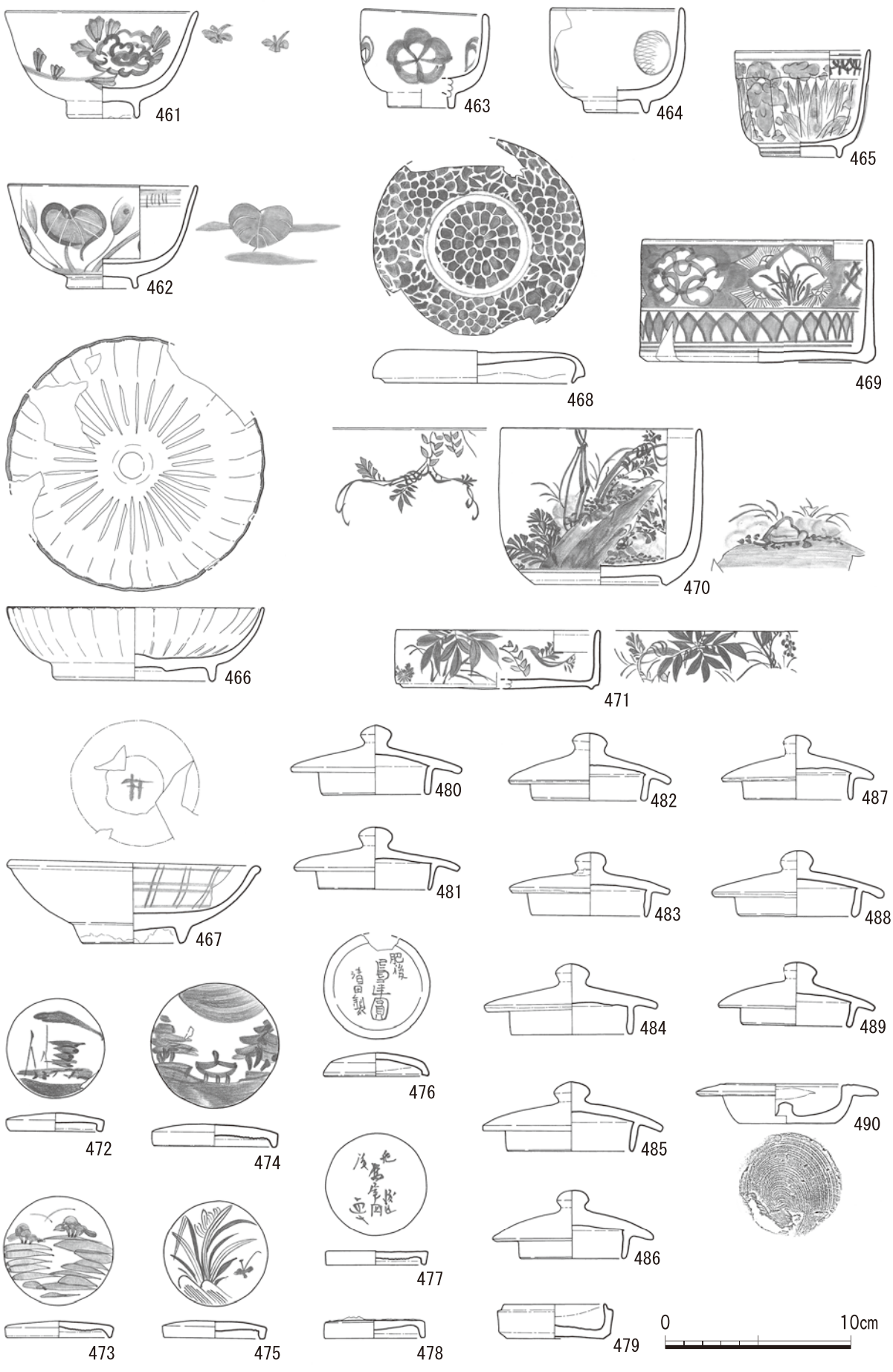
第275図　長之間出土陶磁器類実測図２（１／３）



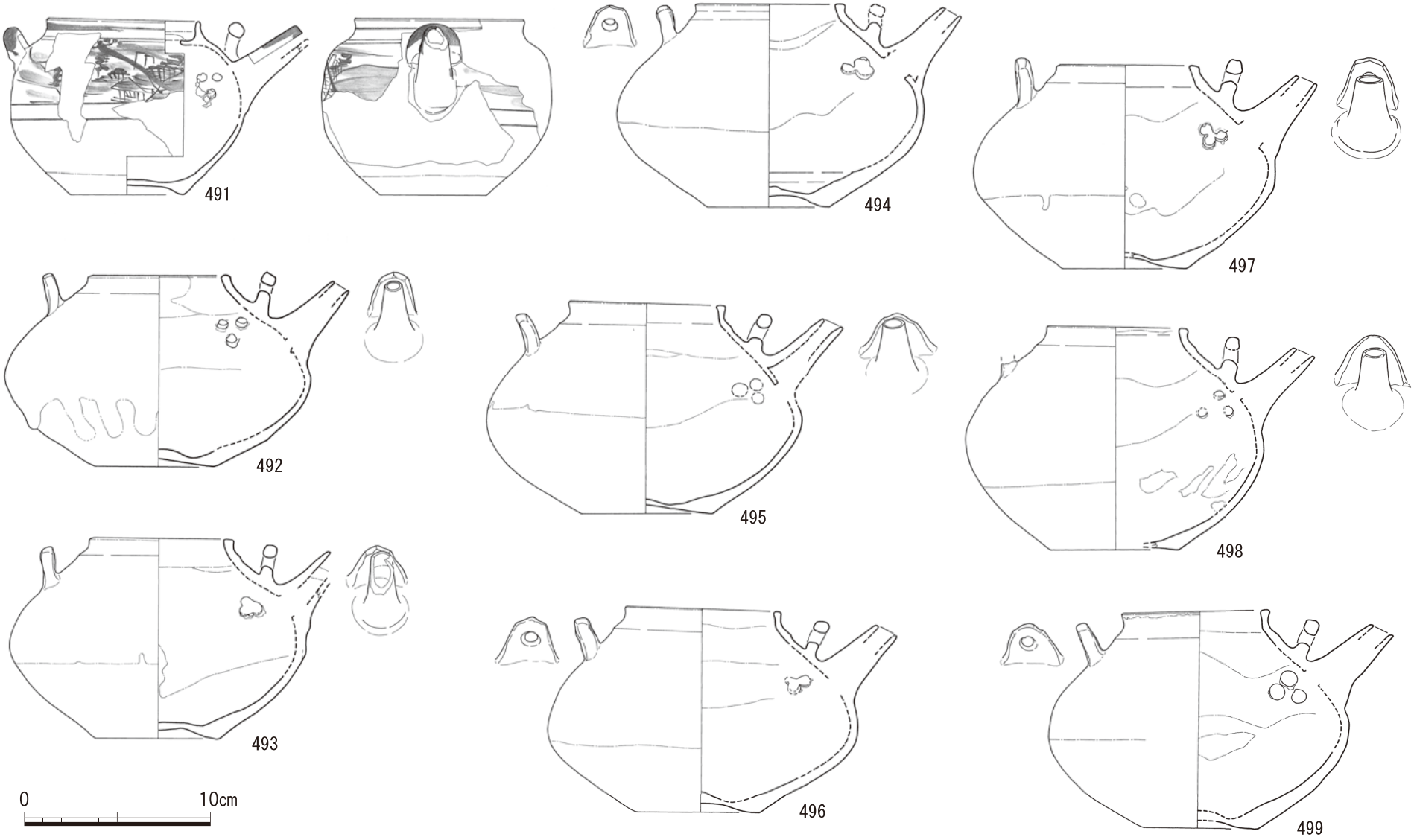
第276図　長之間出土陶磁器類実測図３（１／３）



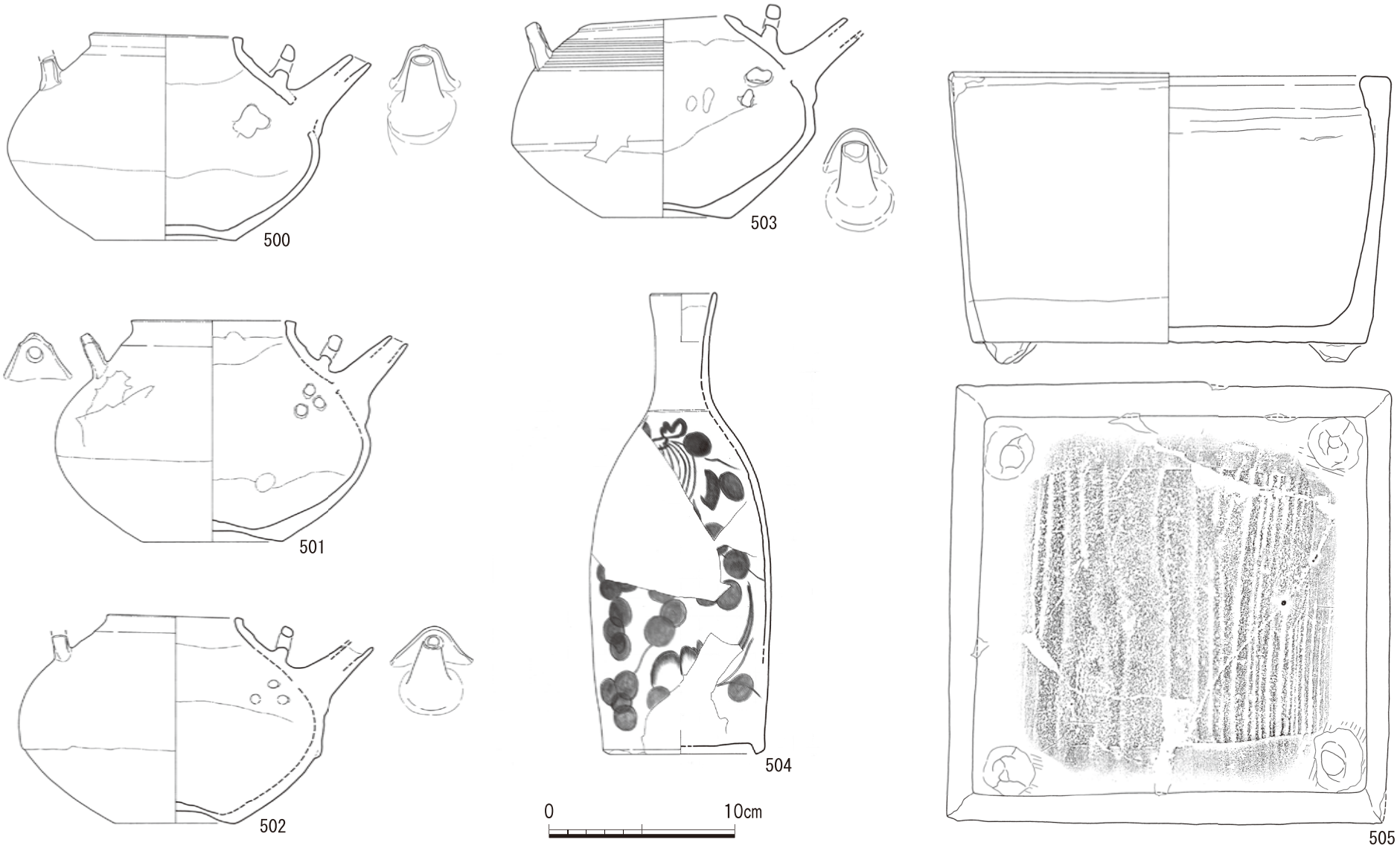
第277図　長之間出土陶磁器類実測図４（１／３）



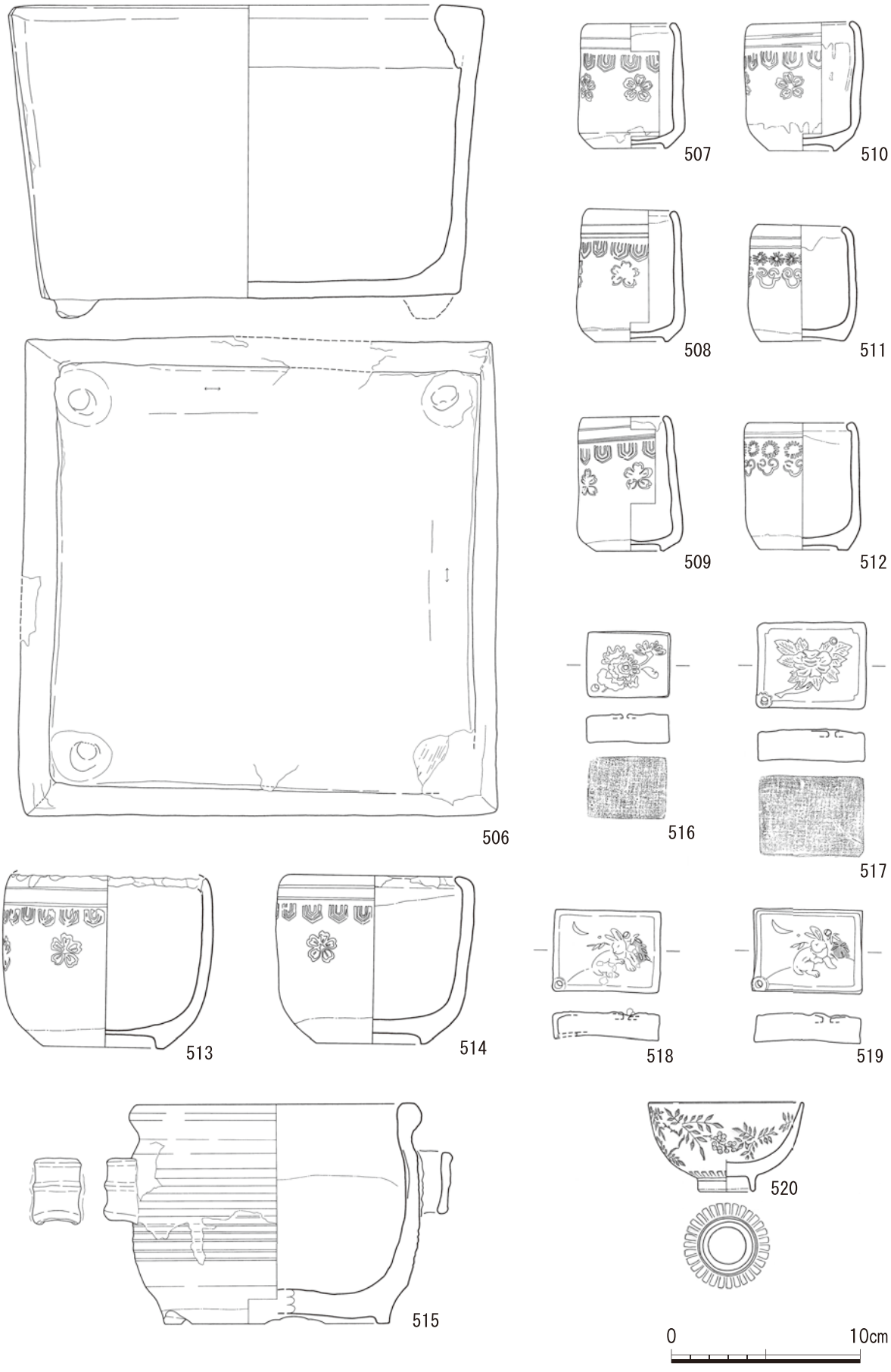
第278図　長之間出土陶磁器類実測図５（１／３）



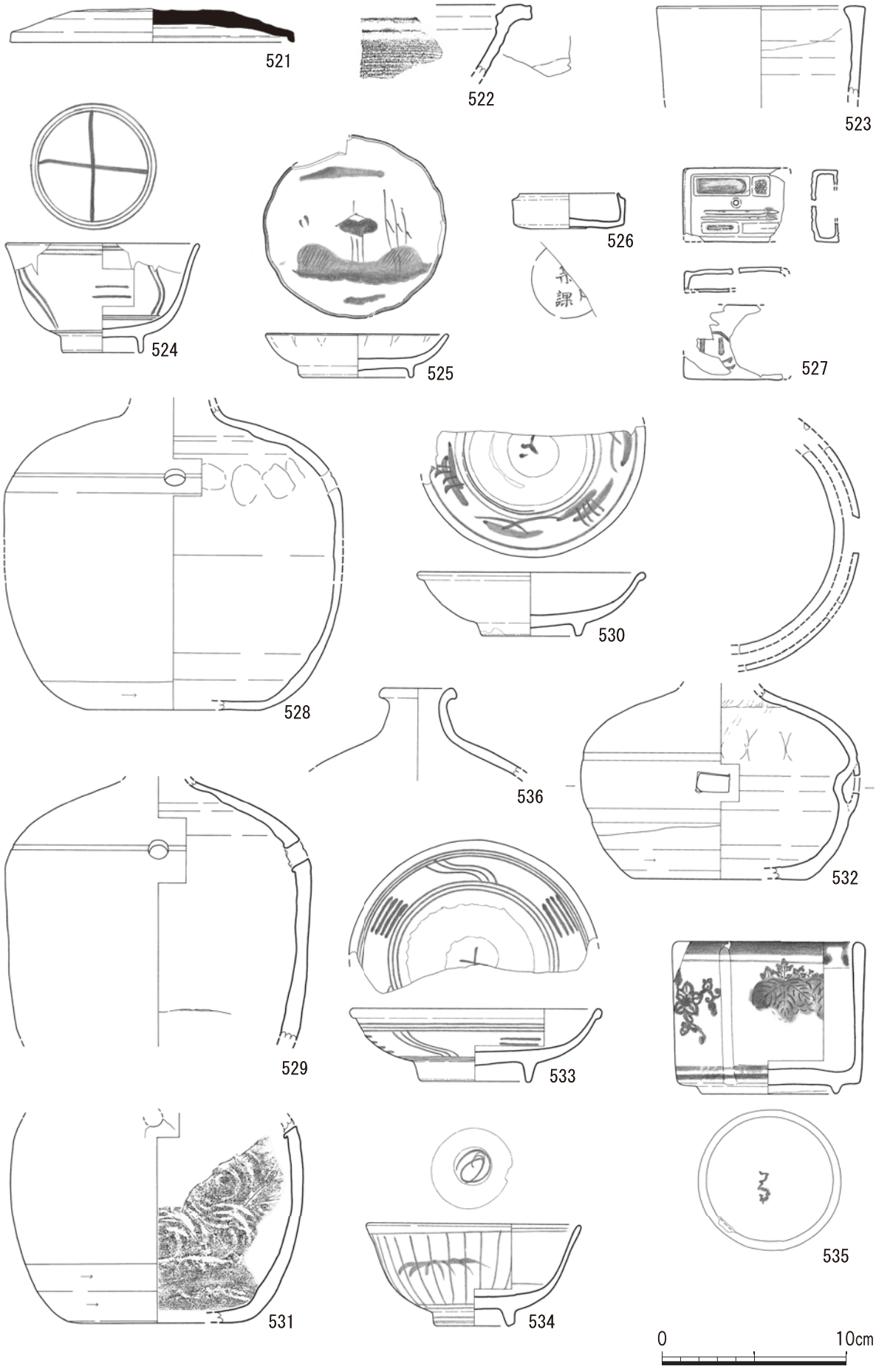
第279図　長之間出土陶磁器類実測図６（１／３）



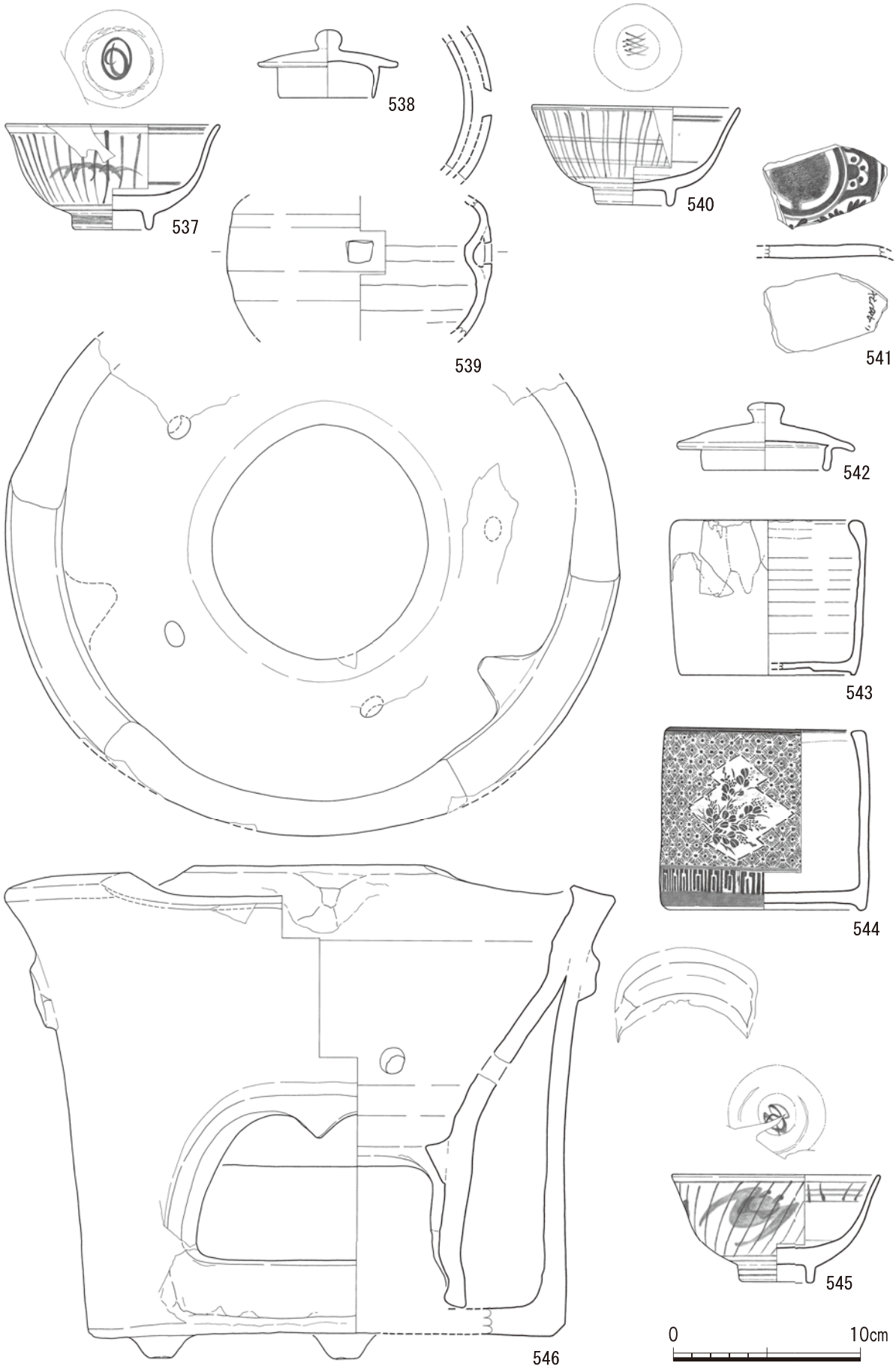
第280図　長之間出土陶磁器類実測図７（１／３）



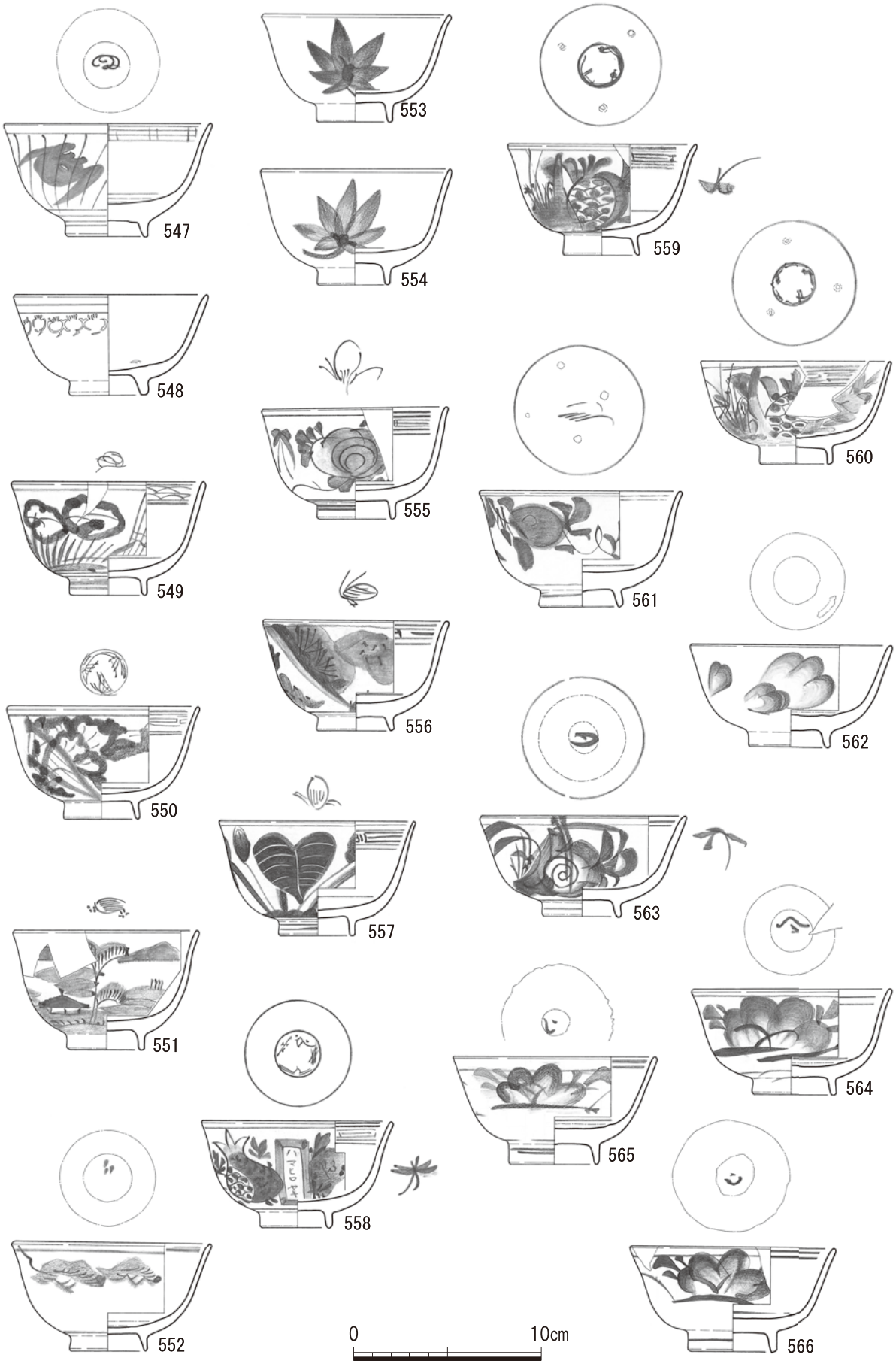
第281図　長之間出土陶磁器類実測図８（１／３）



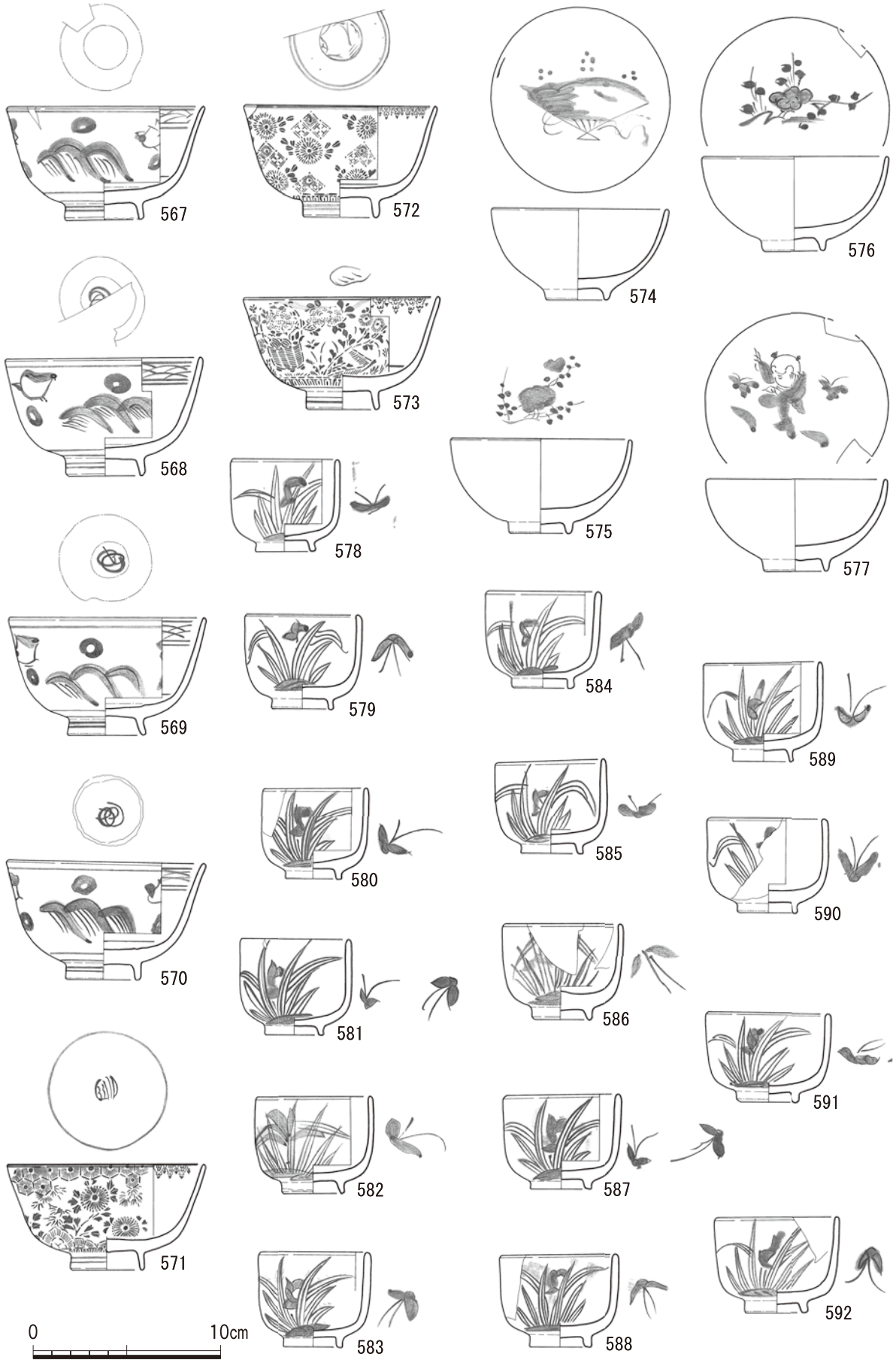
第282図　露地出土陶磁器類実測図１（１／３）



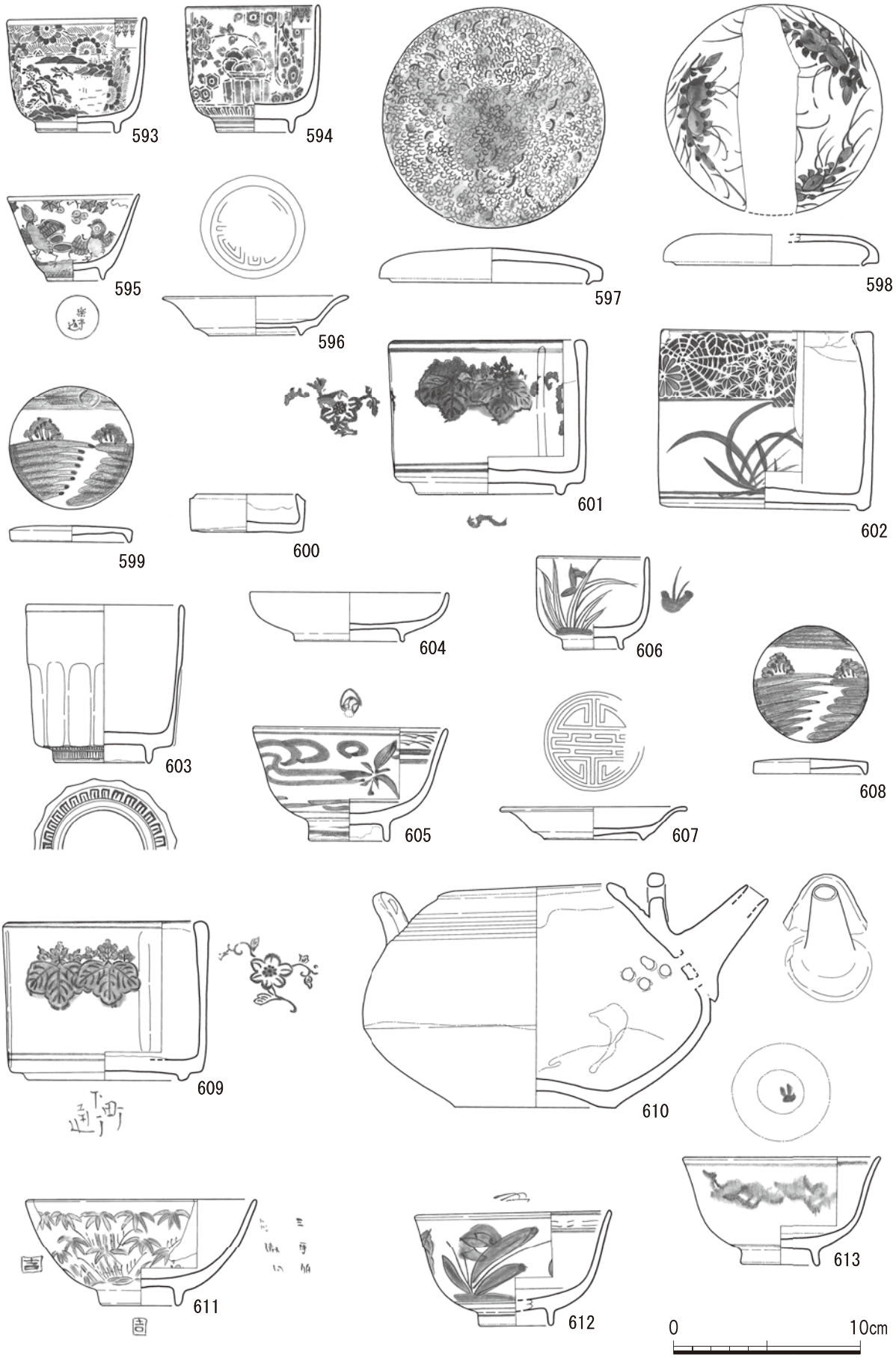
第283図　露地出土陶磁器類実測図２（１／３）



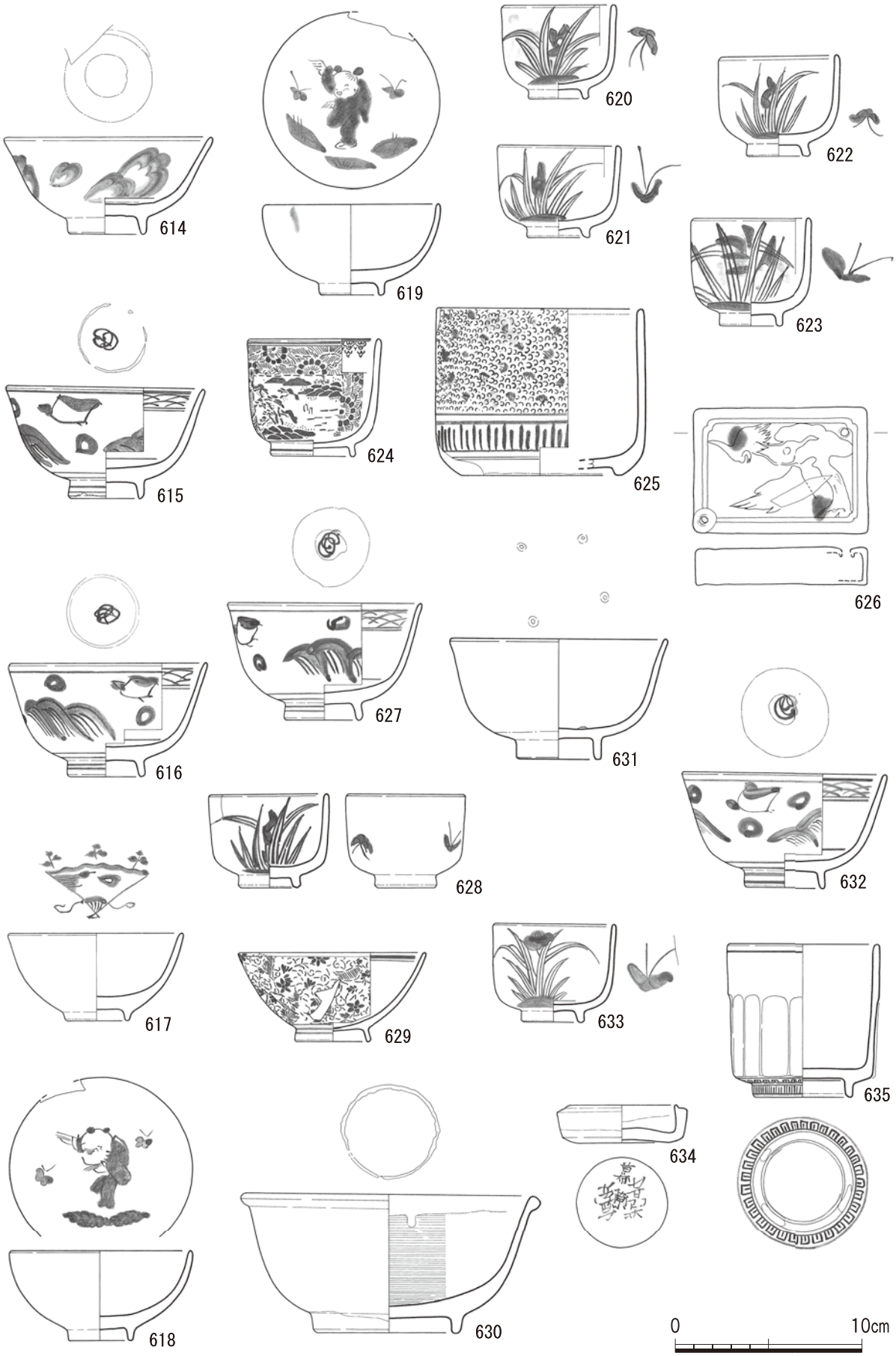
第284図　露地出土陶磁器類実測図３（１／３）



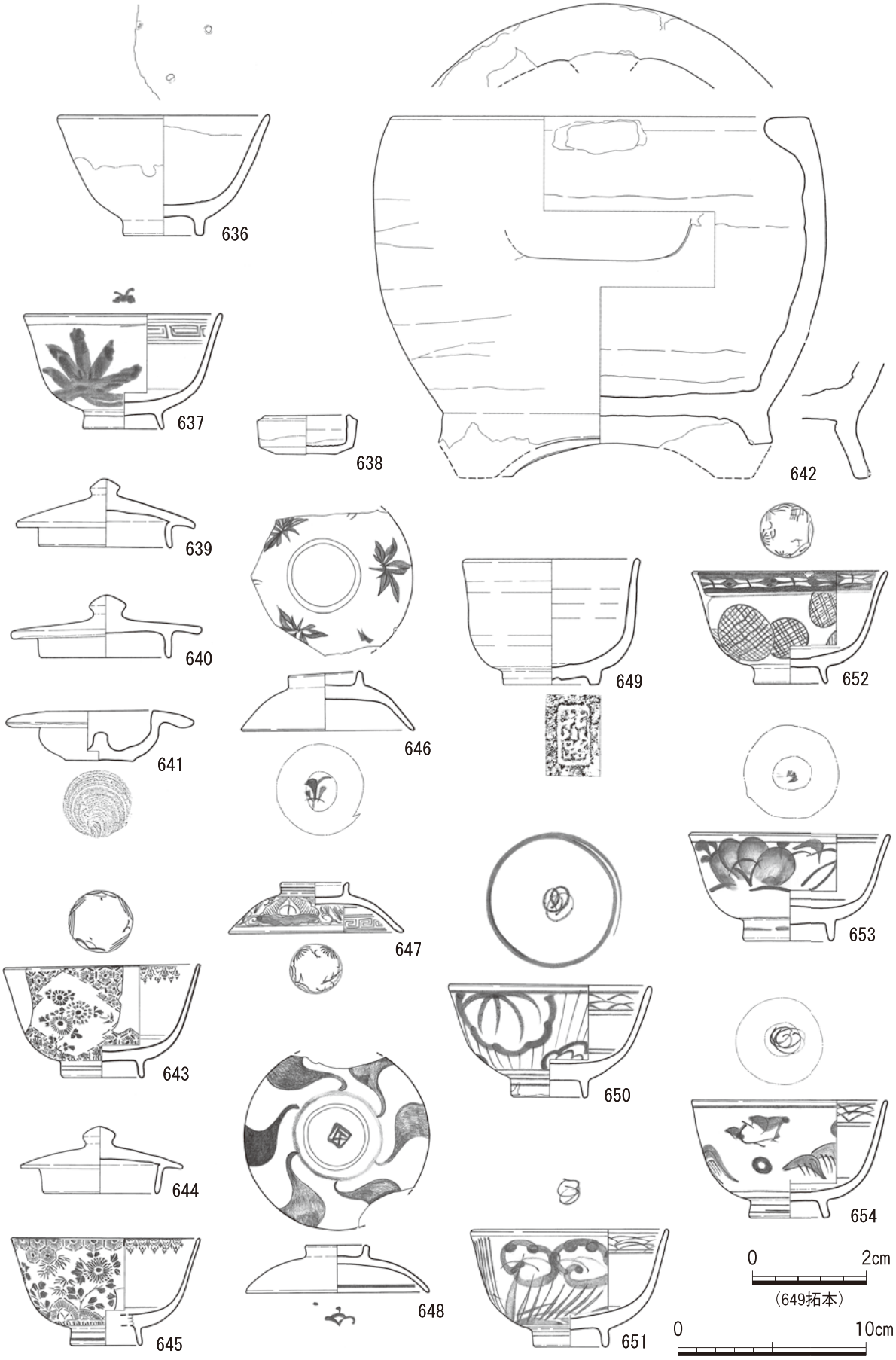
第285図　露地出土陶磁器類実測図４（１／３）



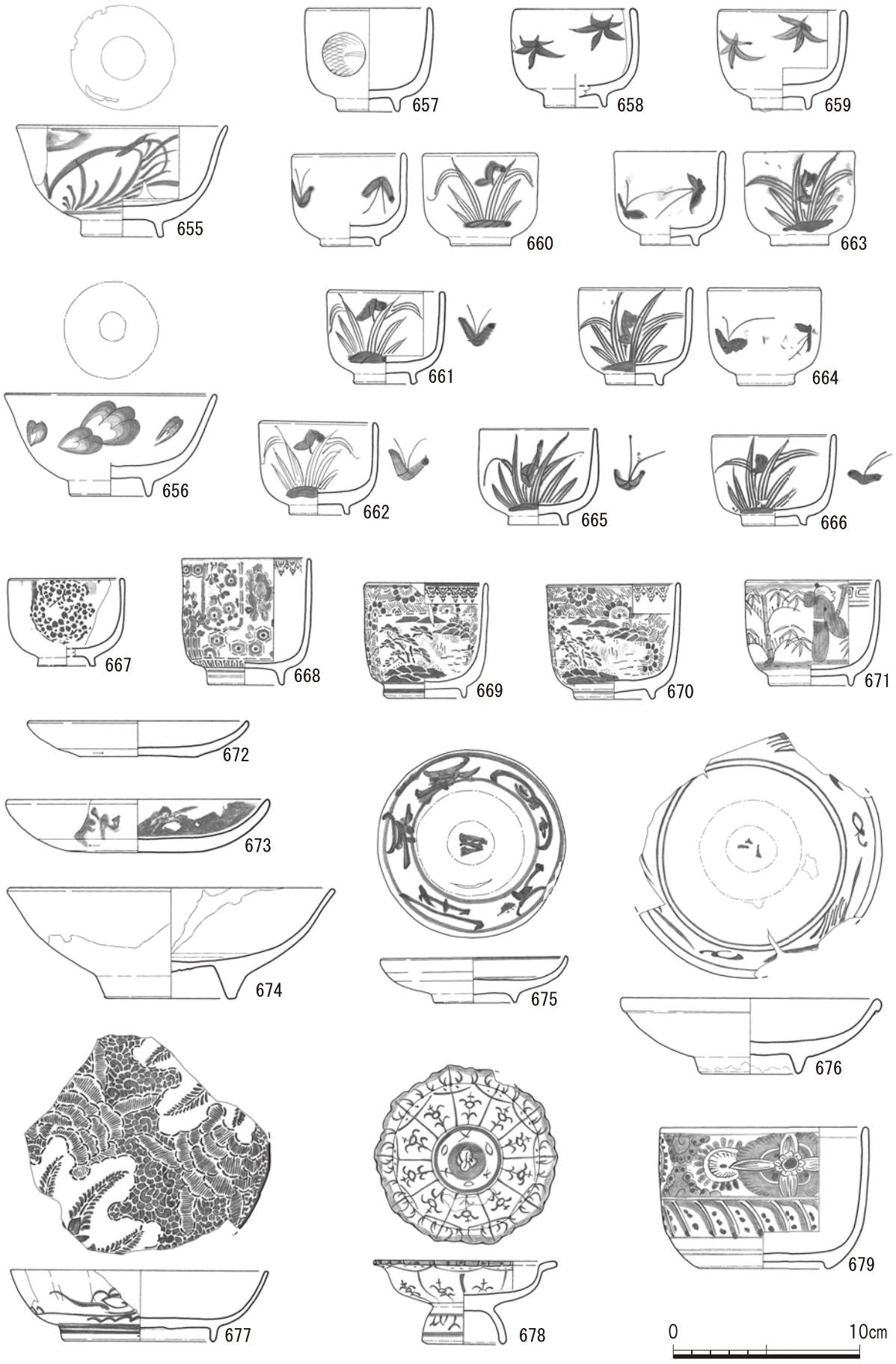
第286図　露地出土陶磁器類実測図５（１／３）



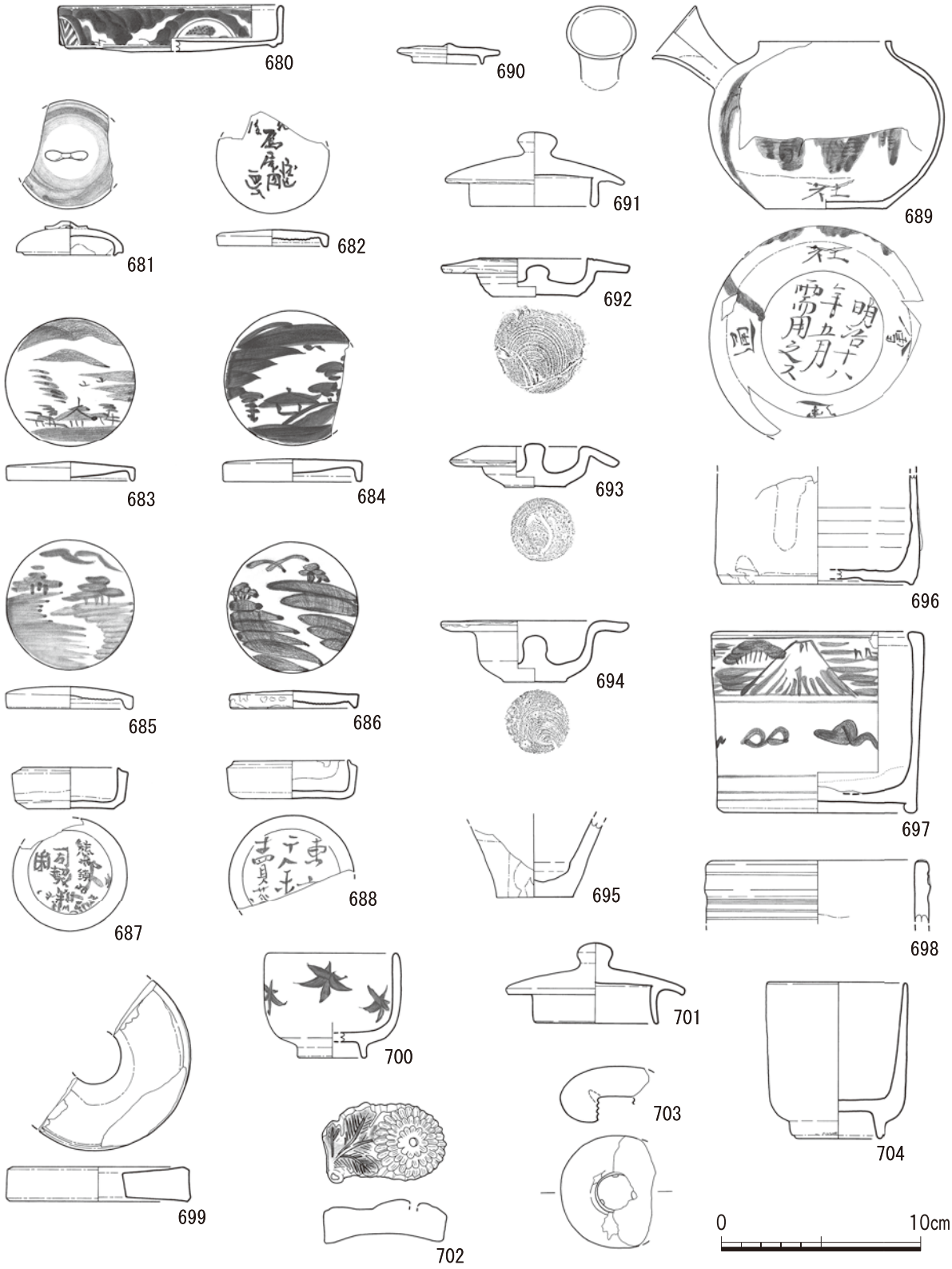
第287図　露地出土陶磁器類実測図６（１／３）



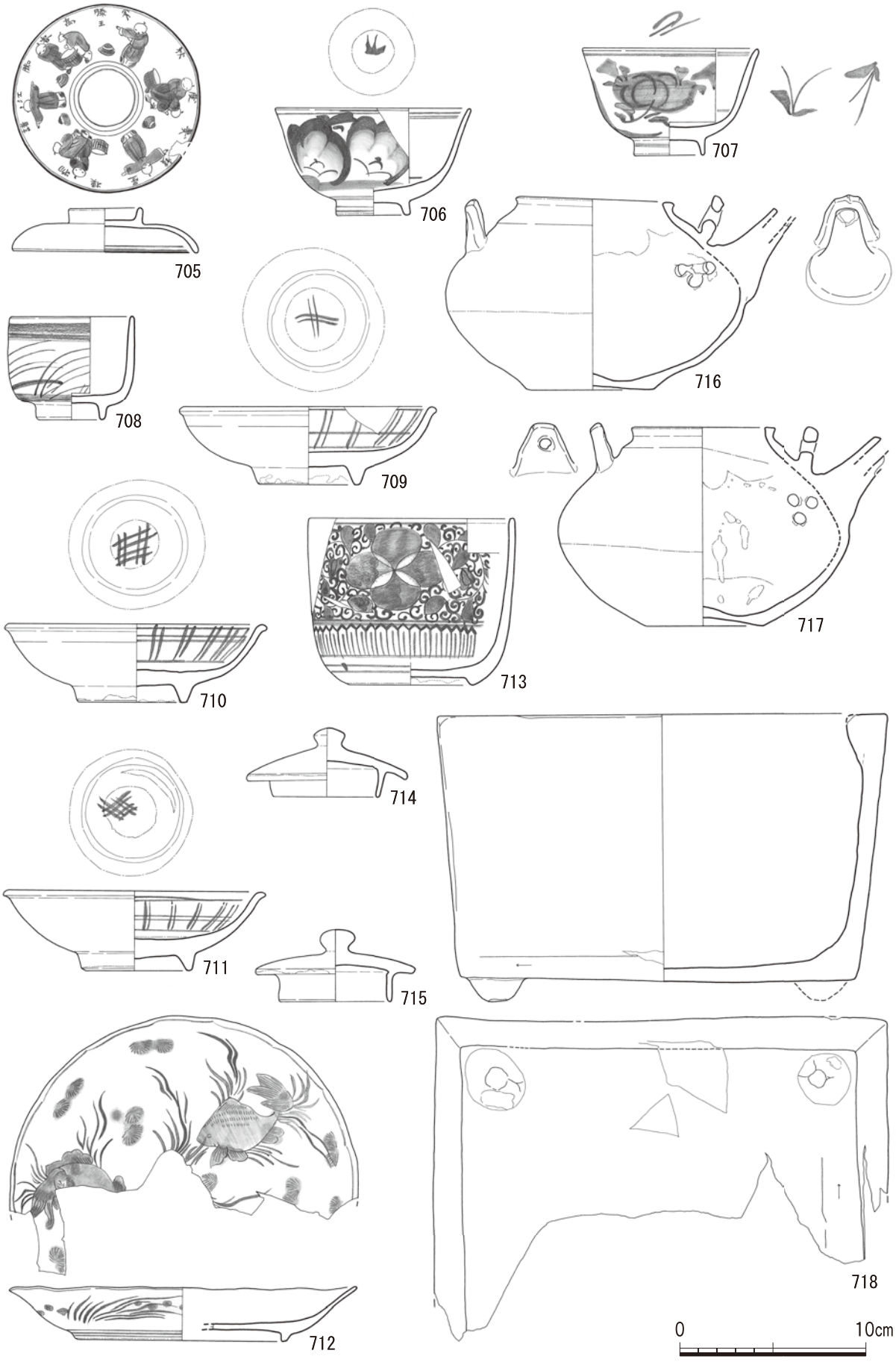
第288図　露地出土陶磁器類実測図７（１／１・１／３）



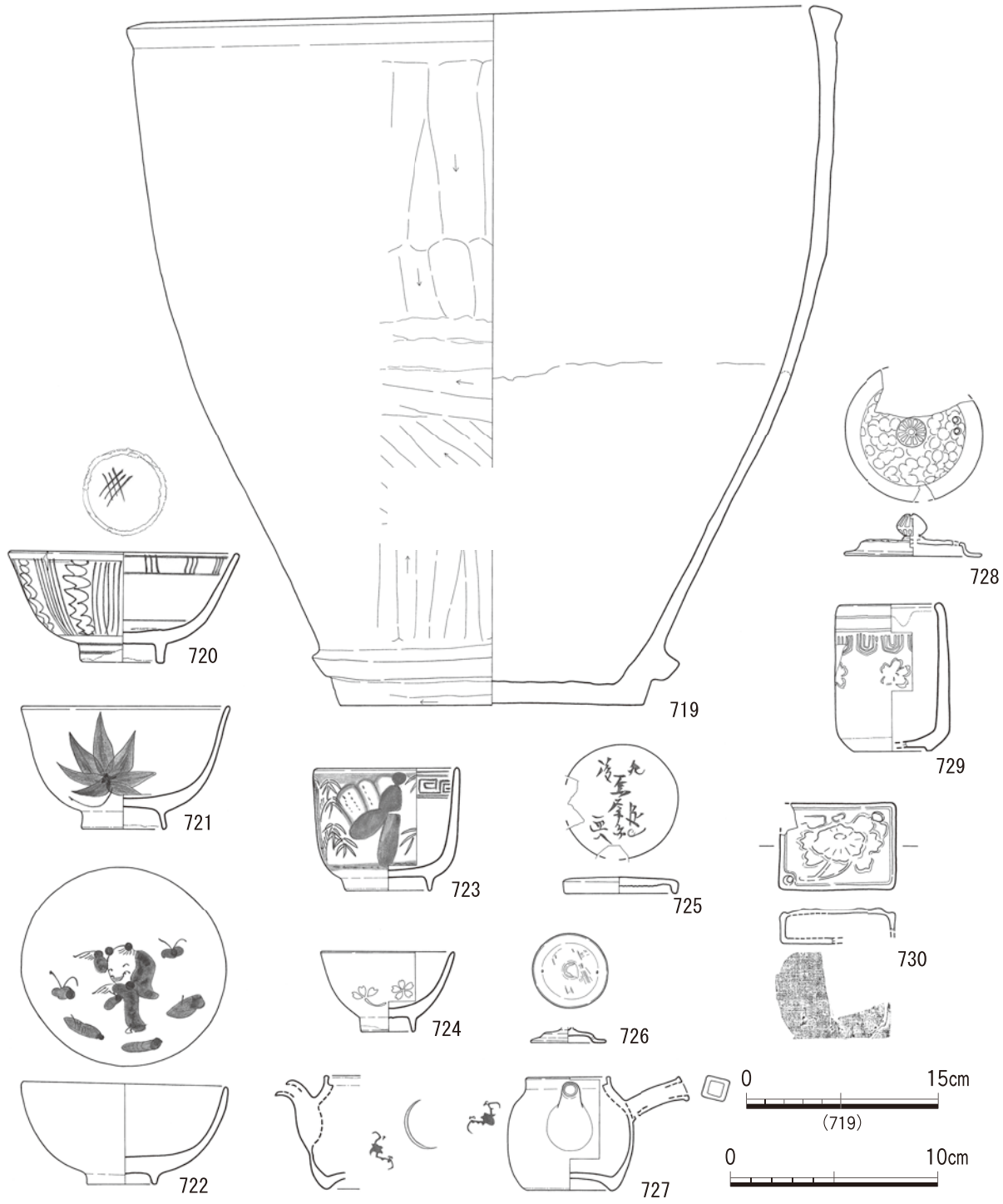
第289図　露地出土陶磁器類実測図８（１／３）



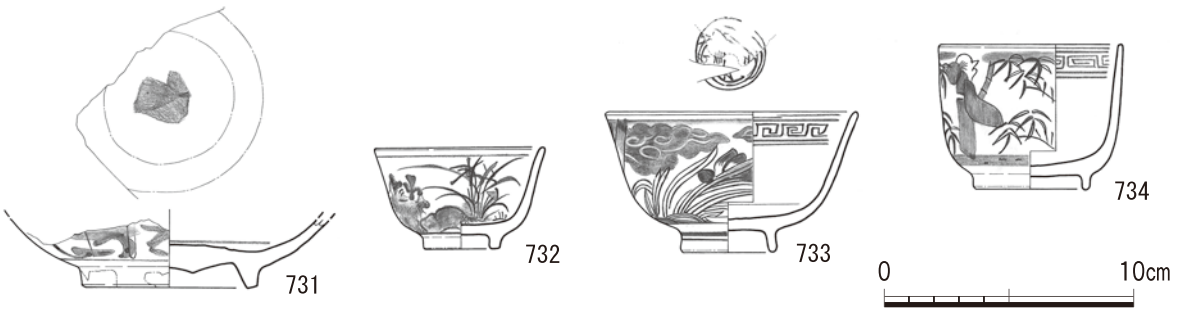
第290図　露地出土陶磁器類実測図９（１／３）



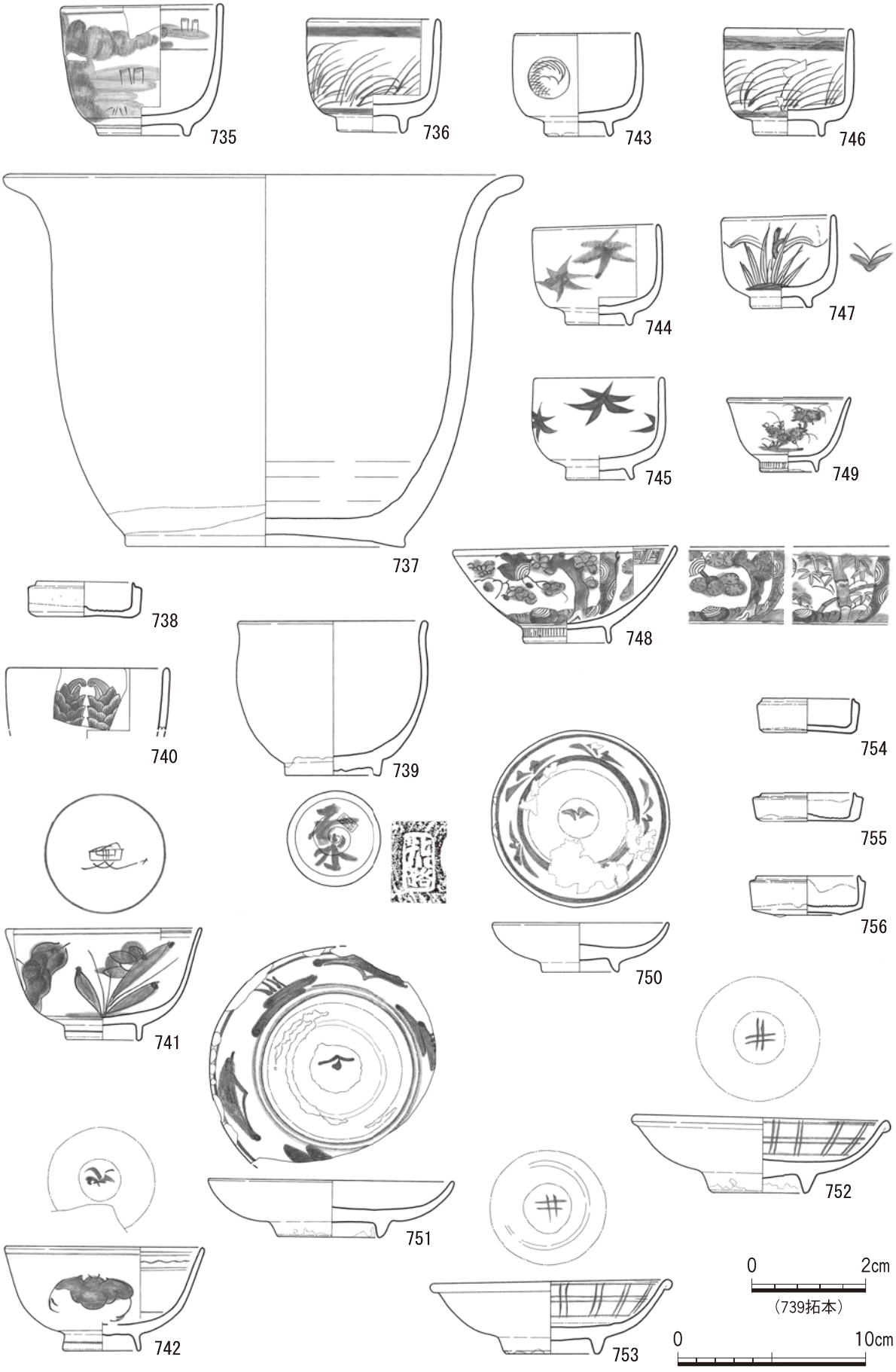
第291図　西廊下出土陶磁器類実測図１（１／３）



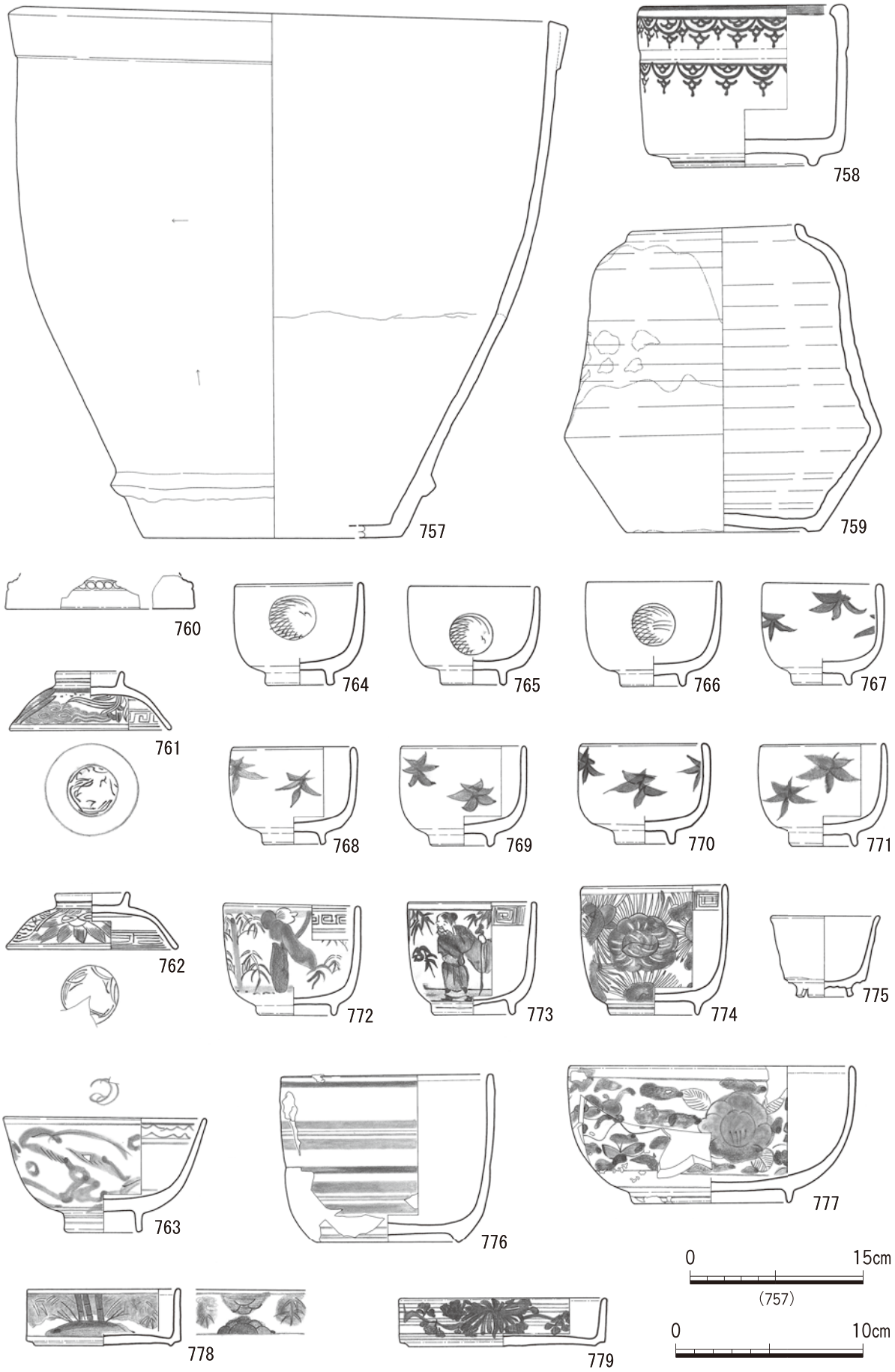
第292図　西廊下出土陶磁器類実測図２（１／３・１／５）



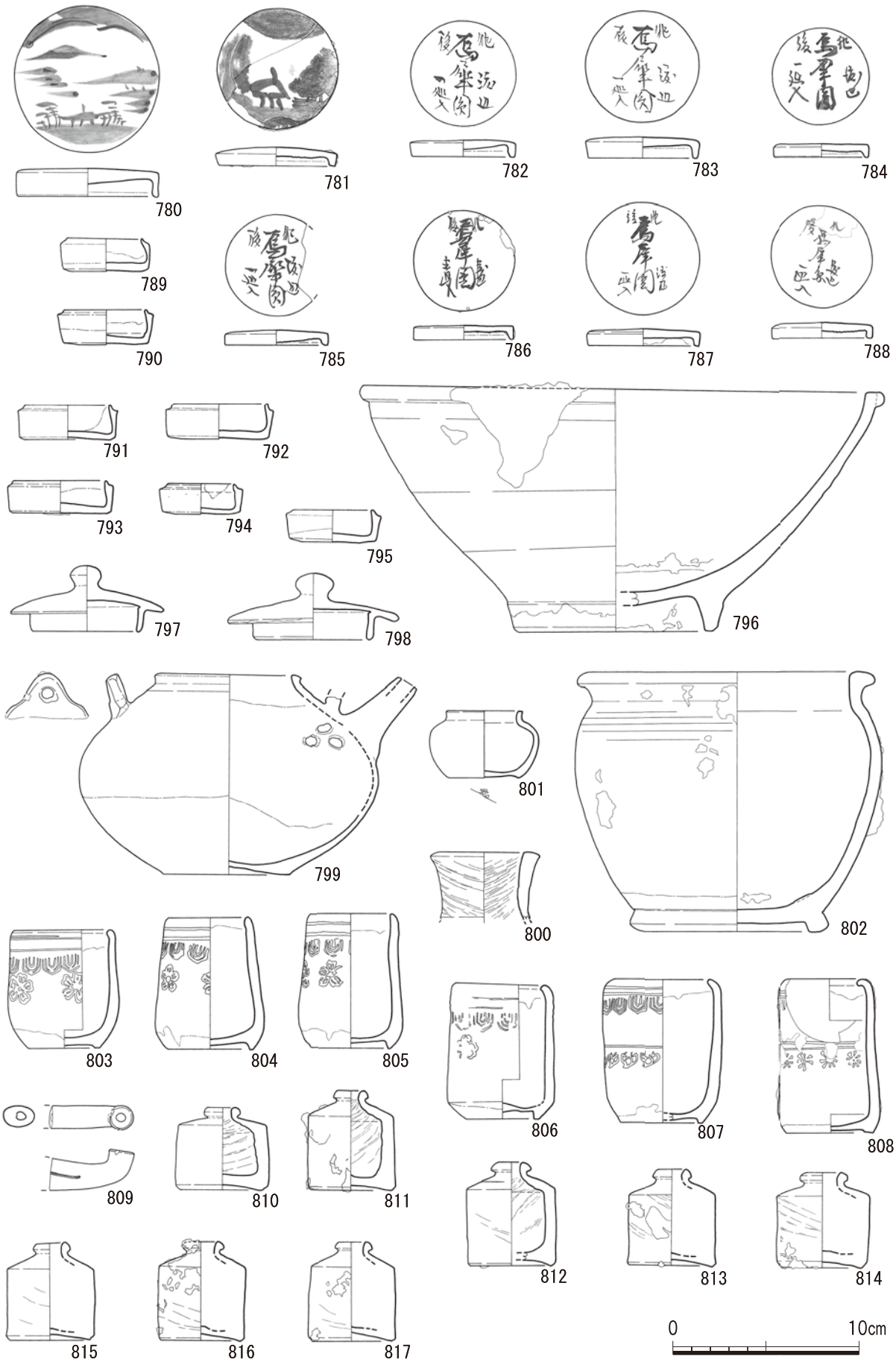
第293図　小広間出土陶磁器類実測図１（１／３）



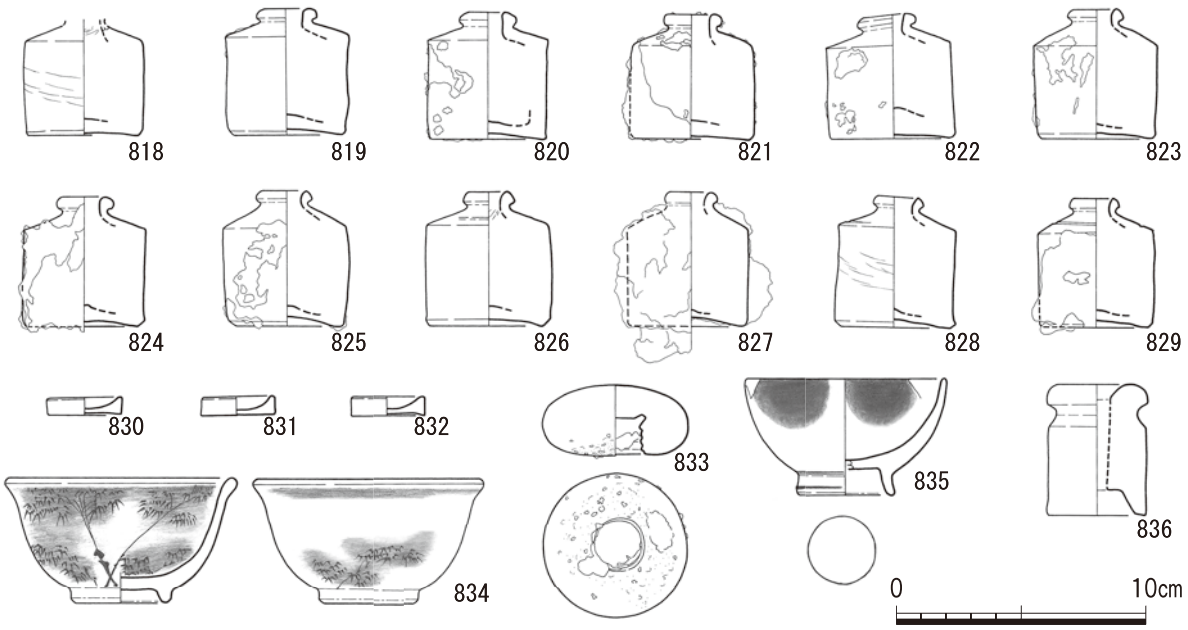
第294図　小広間出土陶磁器類実測図２（１／１・１／３）



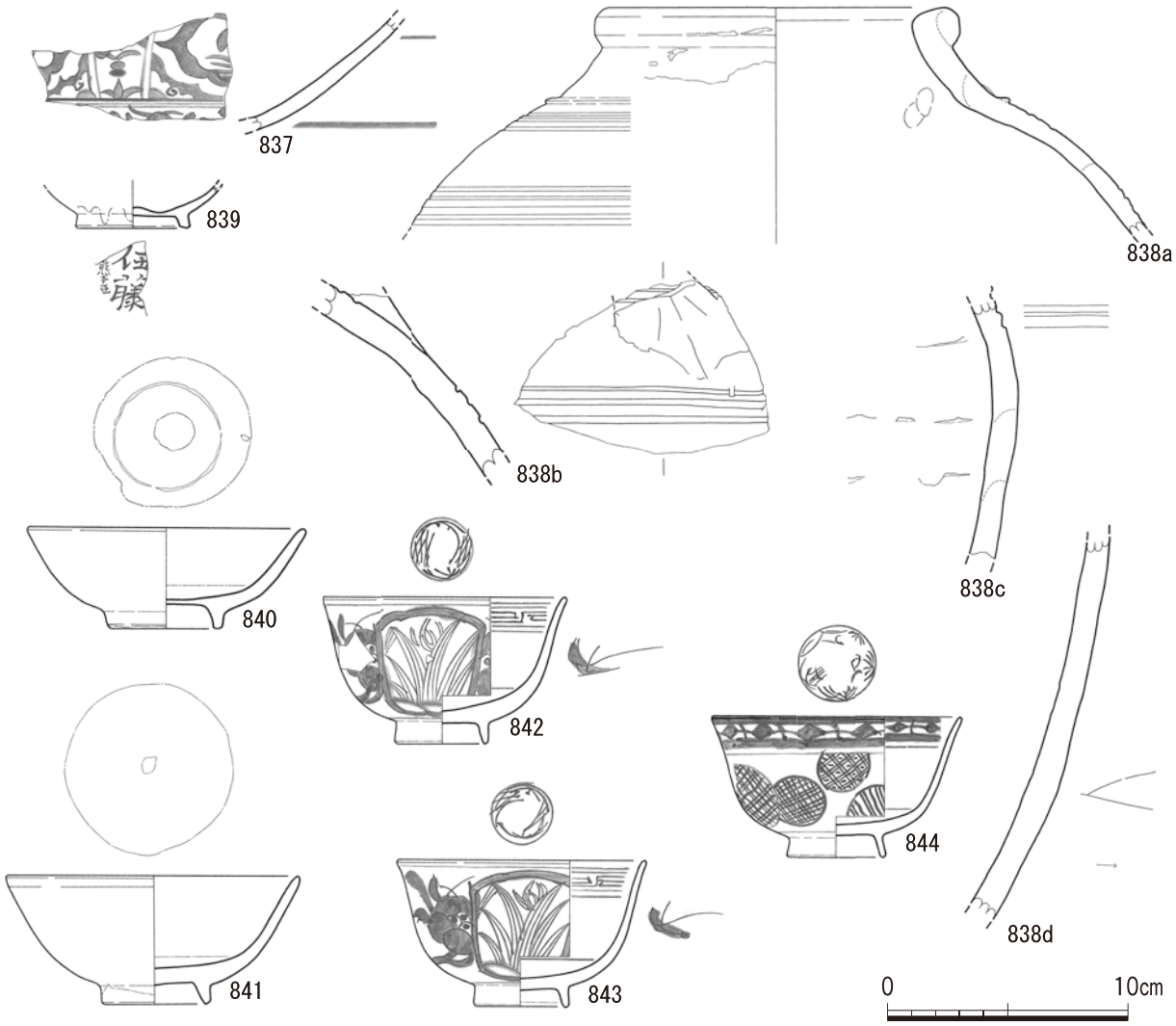
第295図　小広間出土陶磁器類実測図３（１／３・１／５）



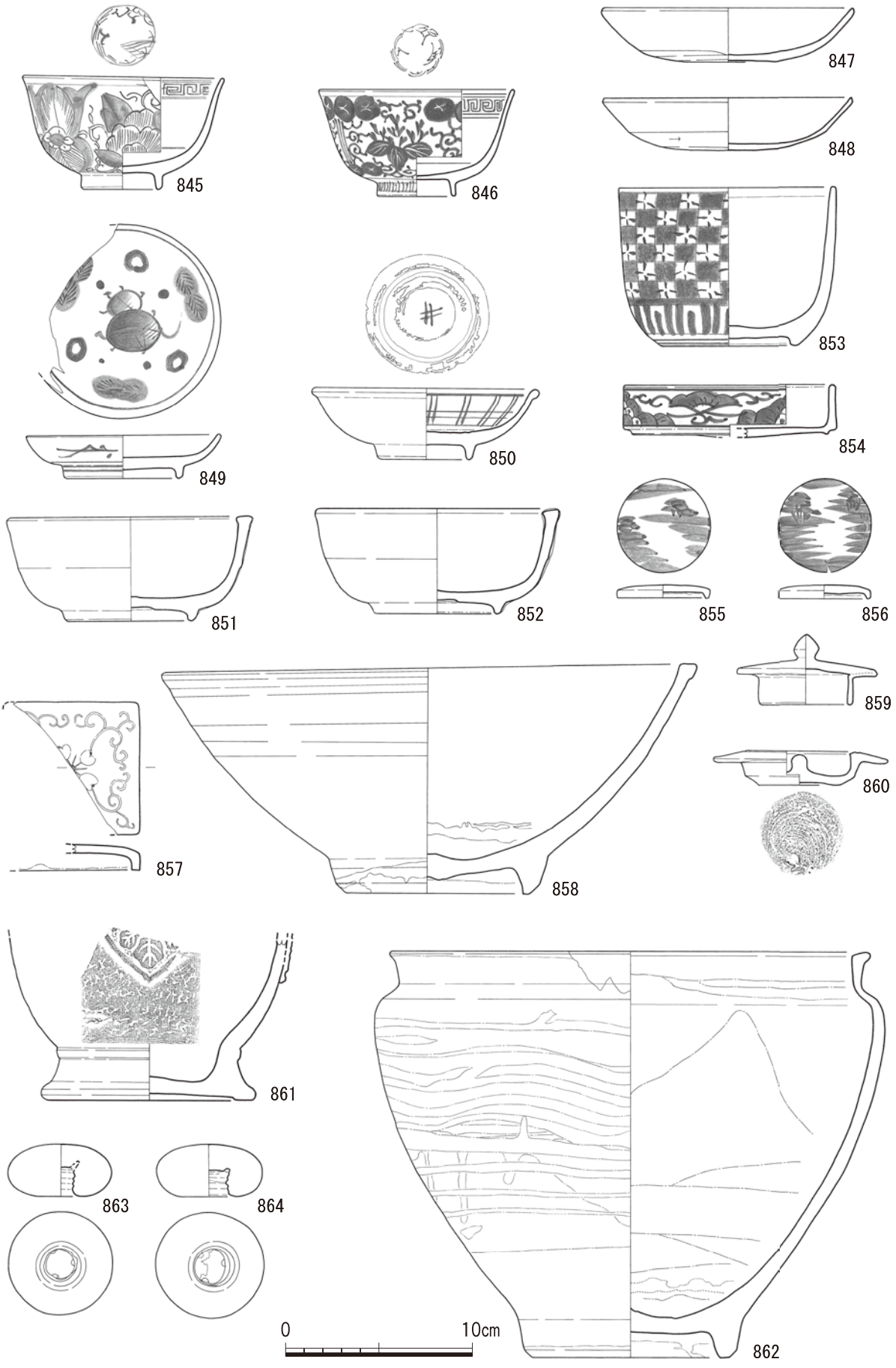
第296図　小広間出土陶磁器類実測図４（１／３）



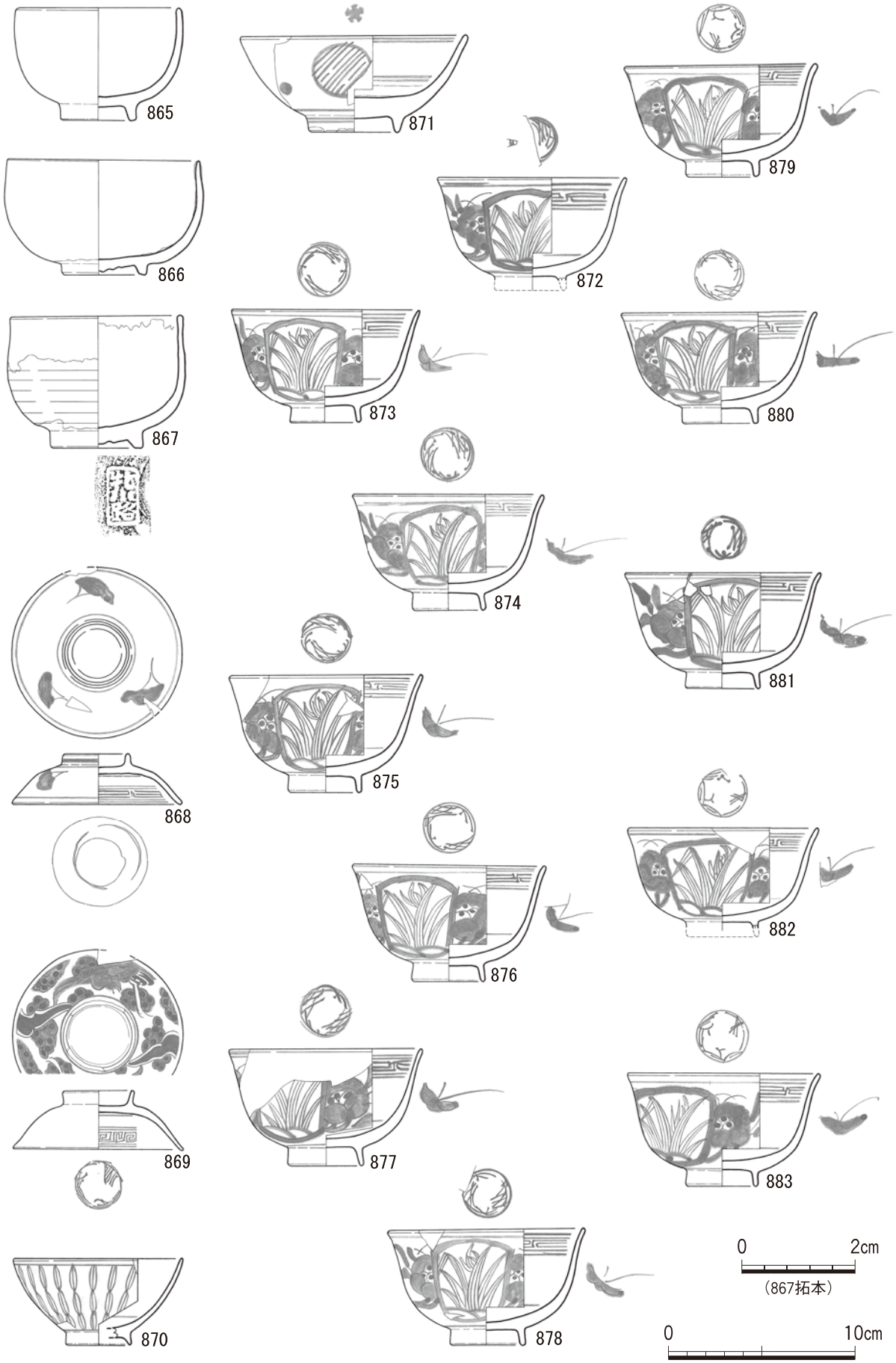
第297図　小広間出土陶磁器類実測図５（１／３）



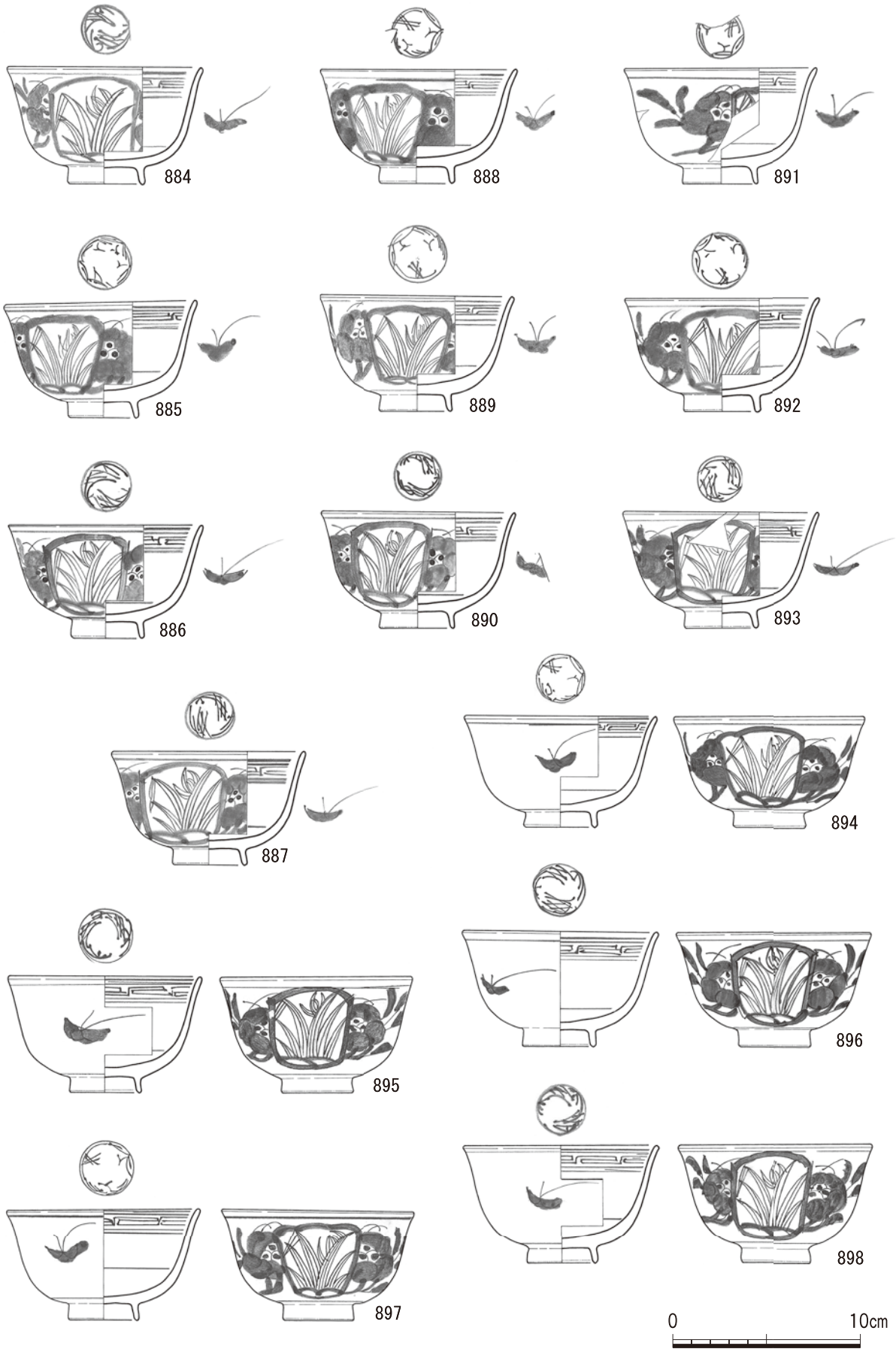
第298図　長局御櫓出土陶磁器類実測図１（１／３）



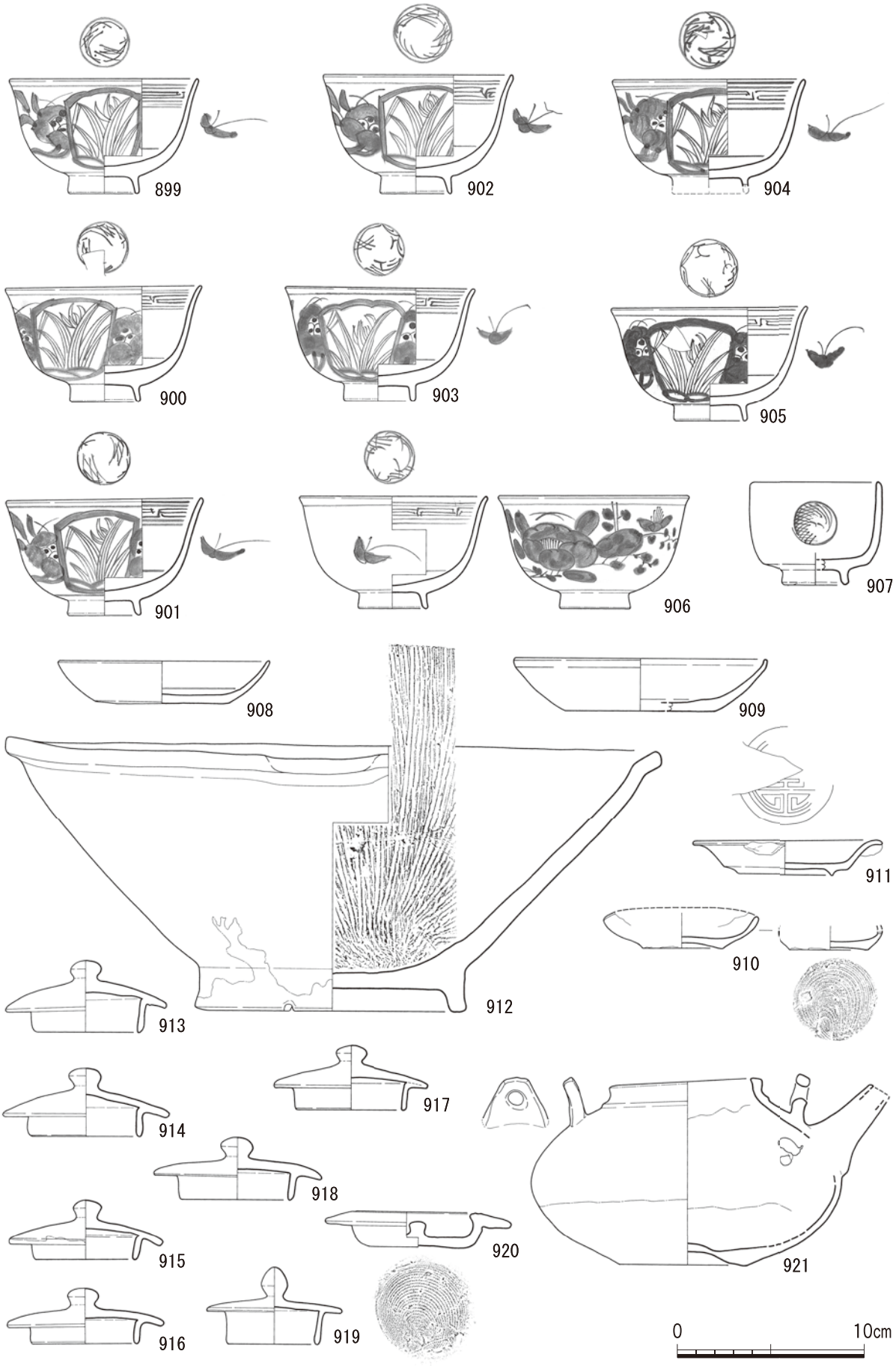
第299図　長局御櫓出土陶磁器類実測図２（１／３）



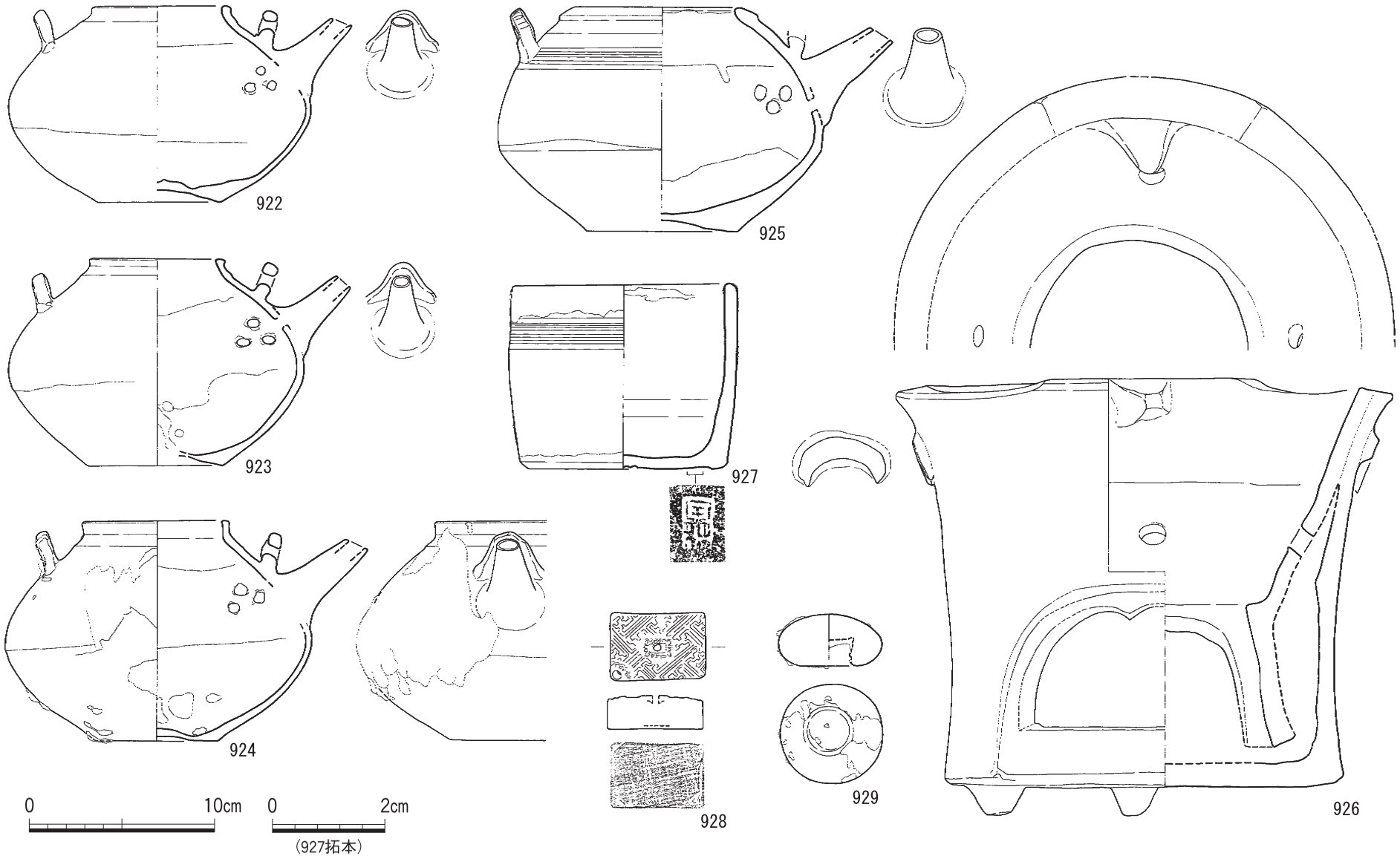
第300図　長局御櫓出土陶磁器類実測図３（１／１・１／３）



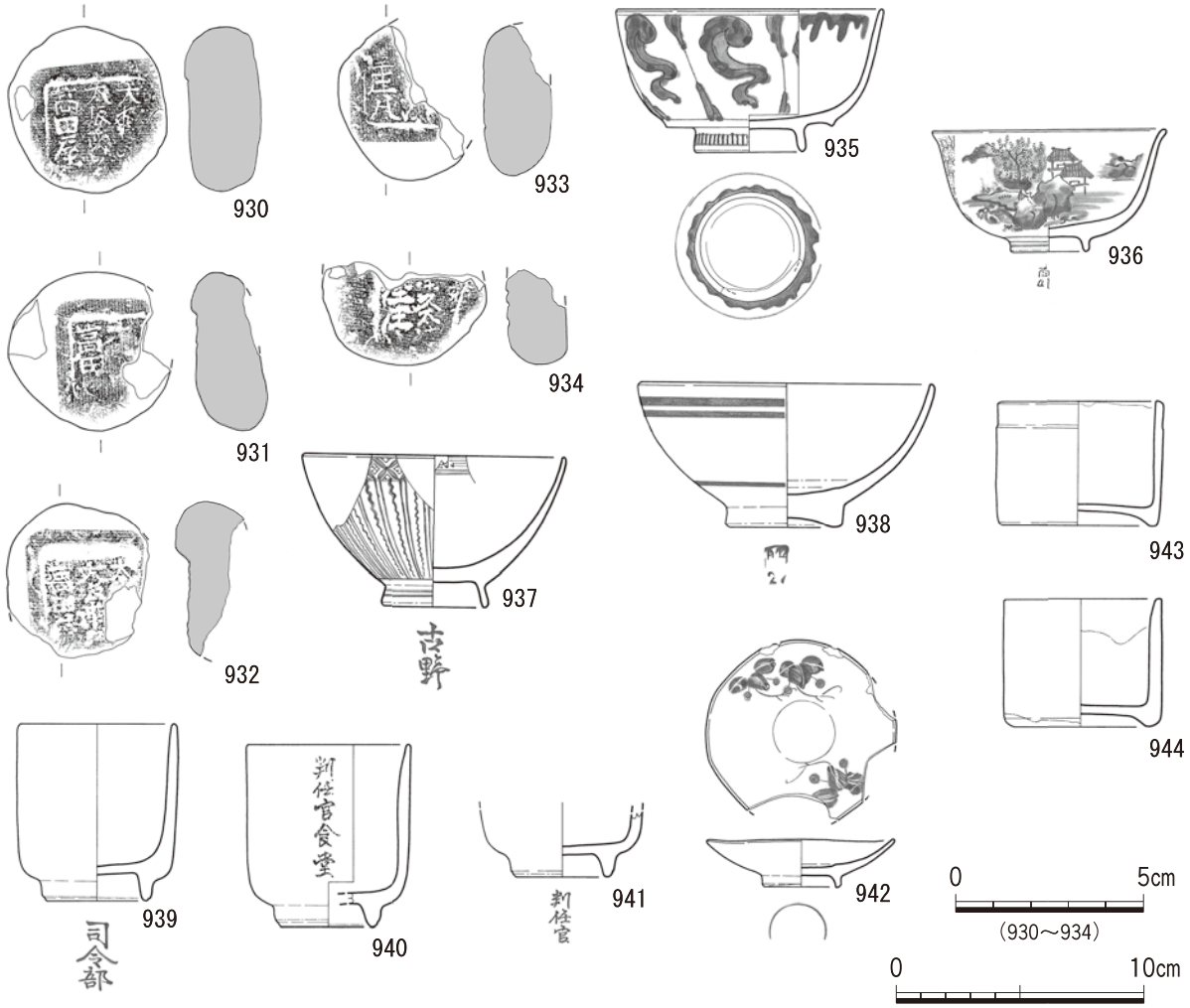
第301図　長局御櫓出土陶磁器類実測図４（１／３）



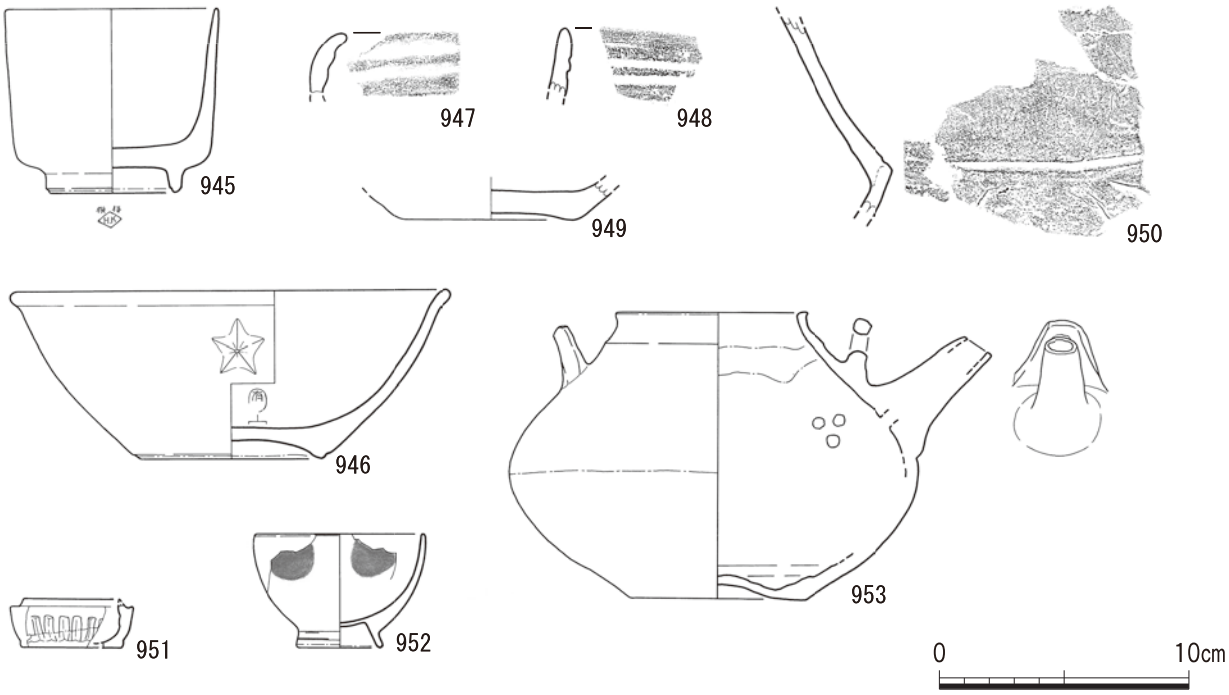
第302図　長局御櫓出土陶磁器類実測図５（１／３）



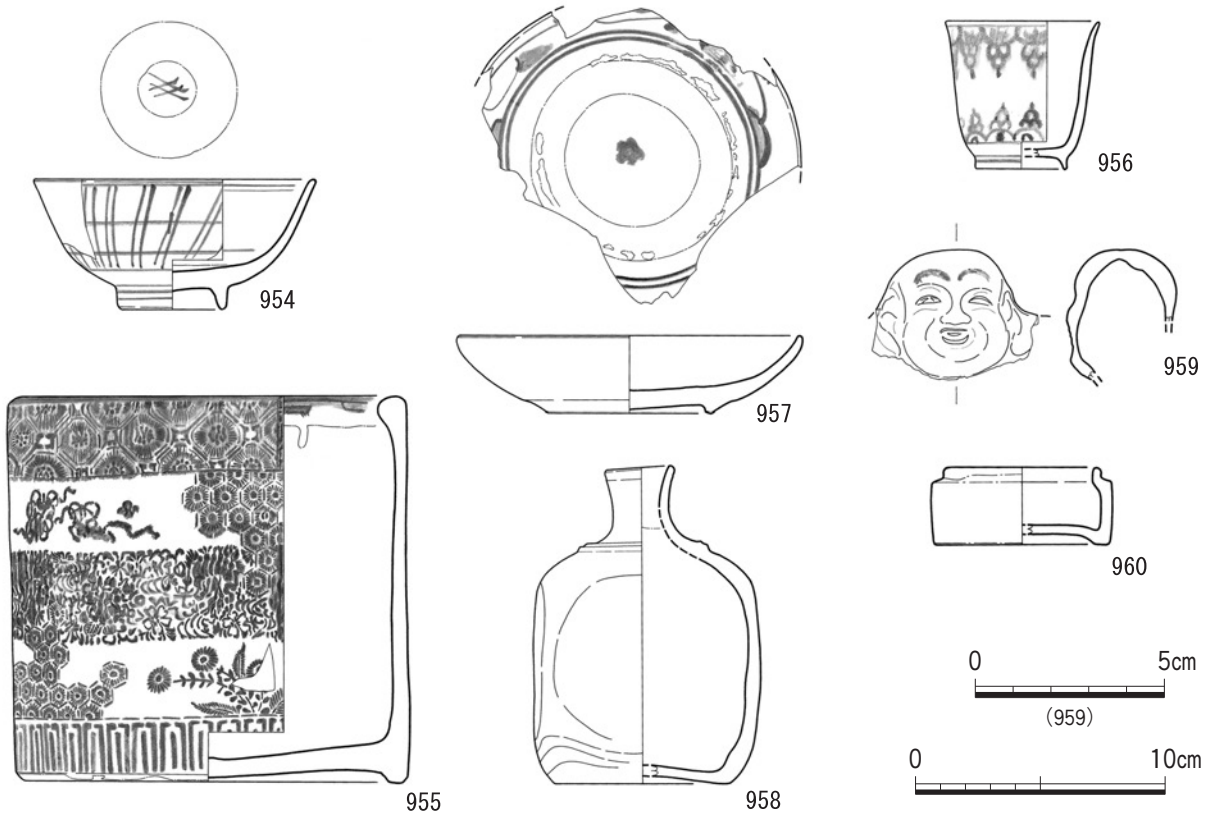
第303図　長局御櫓出土陶磁器類実測図６（１／１・１／３）



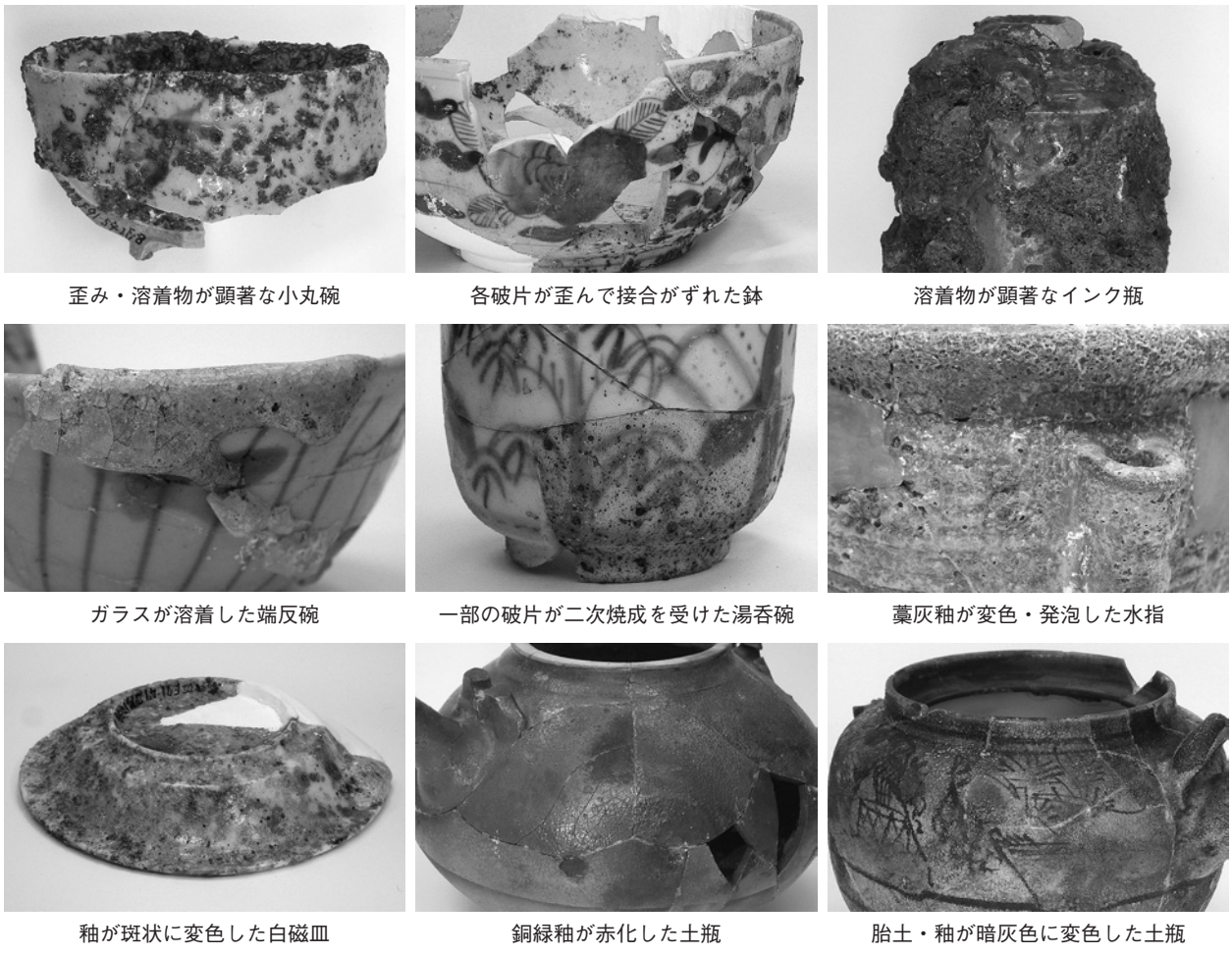
第304図　長局御櫓出土陶磁器類実測図７（１／１・１／３）



第305図　その他のトレンチ出土陶磁器類実測図１（１／３）



第306図　その他のトレンチ出土陶磁器類実測図２（１／２・１／３）



歪み・溶着物が顕著な小丸碗　　各破片が歪んで接合がずれた鉢　　溶着物が顕著なインク瓶

ガラスが溶着した端反碗　　一部の破片が二次焼成を受けた湯呑碗　　藁灰釉が変色・発泡した水指

釉が斑状に変色した白磁皿　　銅緑釉が赤化した土瓶　　胎土・釉が暗灰色に変色した土瓶

第307図　陶磁器の二次焼成状況写真

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
1	1579	F83-58,Ⅲ層	陶器	鉢		福建	13ｃ。福州周辺の製品（懐安窯製品に近似）。口縁部白土目跡。外面露胎。	
2	1772	F84-58,Ⅰ層	磁器青花	碗	口径（16.4），高台径（6.9），高5.8	漳州系	16ｃ末～17ｃ初頭。白化粧認める。内底蛇の目釉剥ぎ。高台砂付着。	
3	1666	F80-54,Ⅱ層	陶器	擂鉢		備前	擂り目斜め方向。乗岡近世1期。	
4	1641	F83-59,Ⅱ層	陶器	向付		志野	角物。鉄絵・長石釉。	
5	1642	F84-54,Ⅰ層	陶器	向付		志野	角物。碁笥底。長石釉。	
6	1592	F84-54,Ⅲ層	陶胎染付	碗	口径10.0，高台径4.2，高6.5	肥前	18ｃ前半。主文は花唐草。	
7	1590	F84-54,Ⅲ層	陶器	碗	口径10.5，高台径3.8，高6.4	肥前	18ｃ前半。京焼風。鉄絵。文様は笹。内田大谷窯に同形態。	
8	1591	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	小坏	口径7.0，高台径3.4，高3.9	肥前	17世紀後半。主文は岩・草花。	○
9	1589	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	小坏	口径6.3，高台径2.9，高3.8	肥前	17ｃ後半。主文は松竹梅。	○
10	1238	SDⅢ029下位	磁器染付	蓋付鉢	口縁11.1，高台径7.1，高8.3	肥前系	化学コバルト。主文は丸。	
11	1602	SKⅠ008	陶器	壷（酒器）	底径8.4	関西系	燗付け。鉄絵。文様は折鶴・松？。外面下位露胎部に煤付着。	○
12	1620	SKⅢ091	陶器	端反碗	口径（11.4），高台径4.3，高6.1	球磨郡？	藁灰釉。内底足付きハマ跡（４箇）。	○
13	1617	SKⅢ091	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.7	肥前系	化学コバルト。文様は鶴・若松。	
14	1614	SKⅢ091	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.7，高5.6	肥前系	化学コバルト。主文は花（素描き）。	
15	1615	SKⅢ091	磁器染付	端反碗	口径（10.4），高台径（4.4），高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
16	1616	SKⅢ091	磁器染付	端反碗	口径(10.5)，高台径(3.9)，高6.2	肥前系	化学コバルト。主文は草花。	
17	1618	SKⅢ091	磁器染付	湯呑碗	口径7.2，高台径4.4，高6.7	肥前系	化学コバルト。主文は楼閣山水。	
18	1619	SKⅢ091	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.3，高5.0	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
19	1621	SKⅢ091	陶器	土瓶蓋	口径10.8，底径5.3，高2.1	肥前	落し蓋。鉄釉。	
20	1655	SXⅠ004	硬質陶器	ローゼット	底径8.8，孔径0.8，高5.6	イギリス	型成形。灰釉（貫通孔も施釉、底部拭き取り）。底部刻印２箇所。1869年10月27日製。	
21	1601	SXⅠ006	磁器染付	湯呑碗	口径6.7，高台径4.3，高5.8	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	○
22	1798	SXⅠ005	磁器染付	蓋付鉢	口径（12.9），底径11.5，高7.7	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花。外底露胎、アルミナ付着。焼継、印銘「白川町口？/とうふや□」（□は「一」？）	
23	1656	SXⅠ006	土師質	土人形		在地？	型合せ成形・中空。天神。胡粉残存。	
24	1267	SXⅢ053（＋F79-54,Ⅲ層）	陶器	大鉢	口径35.9，底径19.5，高17.3	小代or福岡	鉄釉+藁灰釉。内底足付ハマ跡。外底板目（轆轤板圧痕）後ナデ。	
25	1443	SXⅢ069	白磁	合子身	口径4.0，底径3.6，高1.7	肥前系	内底平滑。内面・外底に赤色顔料付着。	
26	1499	SXⅢ073	磁器染付	端反碗	口径9.6，高台径3.7，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は岩・牡丹・蝶。	
27	1246	F79-58,Ⅰ層	白磁	碗	口径8.5，高台径2.9，高5.0	波佐見？	半球形。胎土灰色味帯びる。	
28	1049	F83-58,Ⅰ層	磁器染付	筒形碗	口径（6.5），高台径3.3，高5.3	肥前	呉須。主文は七宝繋ぎ。	
29	1799	F80-64,Ⅰ層	磁器染付	端反碗蓋	口径7.7，高2.3	肥前系	呉須。主文は草花。	
30	1560	F80-64,Ⅰ層	磁器染付	端反小碗	口径9.0，高台径3.6，高4.9	肥前系	呉須。主文は花。	
31	1044	F83-57,Ⅰ層	磁器染付	端反小碗	口径8.6，高台径3.3，高5.0	肥前系	化学コバルト。主文は花。	
32	1454	F82-55,Ⅱｂ層	磁器染付	碗蓋	口径9.0，高2.5	肥前系	化学コバルト。主文は東屋山水。	
33	1562	F82-55,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.8，高5.7	肥前系	呉須。主文は椿・蝶。	
34	1450	F81-55,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径（3.6），高5.9	肥前系	化学コバルト。文様は牡丹・蝶。	
35	1887	F81-54,Ⅱａ層	磁器染付	端反碗	口径9.8，高台径3.7，高5.6	肥前系	化学コバルト。文様は楓。	
36	1804	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.5，高6.0	肥前系	化学コバルト。文様は楓。	
37	1640	F80-61,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径9.6，高台径4.0，高5.5	肥前系	化学コバルト。主文は楓。	
38	1669	F81-53,Ⅱa層	磁器染付	端反碗	口径(9・8),高台径(3.9),高5.5	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。	
39	1571	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	丸碗	口径9.3，高台径2.9，高5.0	肥前系	呉須。文様（内面）は唐子・蝶。	
40	1908	F84-58,Ⅱ層	白磁	広東碗	口径（11.9），高台径（4.7），高5.9	網田	釉色は青緑味帯びる。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡（高台が接した部分が環状に爛れ）。高台部焼き台の粗土付着。	
41	1801	F82-61,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径（5.6），高台径2.8，高4.7	肥前系	呉須。主文は若松。	
42	1877	F81-53,Ⅱa層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径（2.9），高4.9	肥前系	呉須。文様は丸（薄）。	
43	1067	F84-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.3，高台径（3.3），高4.7	肥前系	呉須。文様は丸（薄）。	
44	1448	F81-54,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.3，高台径3.0，高5.6	肥前系	呉須。文様は丸（薄）。	

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
45	1449	F81-54,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.6，高台径3.4，高5.6	肥前系	呉須。文様は薄。	
46	1043	F83-56,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.8，高台径3.5，高5.9	肥前系	胎土淡灰色。呉須。主文は薄。	
47	1643	F82-55,Ⅰ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.0，高台径（4.8），高5.8	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	
48	1563	F82-59,Ⅰ層	白磁	小皿	口径6.3，高台径2.2，高2.2	肥前系	手塩皿ｏｒ紅皿。表面灰緑色味帯びる。	
49	1247	F79-58,Ⅰ層	磁器染付	小坏	口径（5.0），高台径1.8，高2.8	瀬戸美濃	胎土ガラス質。化学コバルト。文様は東屋山水。	
50	1634	F82-55,Ⅱa層	陶器	皿	口径(17.5)，高台径(7.8)，高7.0	内野山	白土掛け流し＋灰釉。内底蛇の目釉剥ぎ。	
51	1566	F83-59,Ⅱ層	陶器	灯盞	受部径10.2，底径4.2，高2.2	関西	内面灰釉、外面露胎。口縁部煤付着。	
52	1561	F82-55,Ⅰ層	磁器染付	小皿	口径9.5，高台径3.7，高2.3	肥前系	呉須。主文は鳥居・森。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
53	1885	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（12.8），高台径5.0，高3.6	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
54	1880	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径12.8，高台径5.4，高3.6	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
55	1882	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（12.8），高台径5.1，高3.7	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
56	1631	F81-54,Ⅰ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（12.9），高台径5.2，高4.7	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。畳付アルミナ付着。	
57	1883	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（13.0），高台径5.0，高3.7	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
58	1884	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（13.1），高台径（5.0），高4.1	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
59	1568	F84-54,Ⅰ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.0，高台径5.0，高3.8	網田	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台部釉爛れ。	
60	1487	F82-53,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.1，高台径5.0，高4.0	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
61	1445	F81-53,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径11.5，高台径4.5，高3.5	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布・重ね焼き跡。	
62	1444	F81-53,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径11.9，高台径4.5，高3.6	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布・重ね焼き跡。	
63	1881	F81-54,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（12.4），高台径5.0，高3.5	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
64	1663	F81-54,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.3，高台径5.0，高3.8	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
65	1451	F81-54,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.4，高台径5.1，高4.2	網田	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ。高台部釉爛れ。内面赤色顔料付着。	
66	1645	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（12.2），高台径5.4，高4.2	肥前系	化学コバルト。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ。	
67	1567	F84-54,Ⅰ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径12.8，高台径5.9，高3.4	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
68	1878	F81-53,Ⅱa層	磁器染付	皿(玉縁)	口径（13.8），高台径5.4，高4.3	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
69	1446	F81-53,Ⅱ層	磁器染付	皿	口径11.5，高台径4.5，高3.6	肥前系	玉縁口縁を意図？。化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
70	1573	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径10.0，高1.8	肥前系	化学コバルト。文様は小花。受部アルミナ塗布。焼き継ぎ銘「松川△」(にぶい赤色)。	
71	1555	Fトレンチ,Ⅰ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径（10.1），高2.0	肥前系	化学コバルト。主文は花。受部アルミナ塗布。焼継跡、印銘「ござ…」(汚れ)。	
72	1564	F82-60,Ⅰ層	磁器染付	蓋付鉢	口径(11.8)，底径（11.2），高6.1	肥前系	化学コバルト？。主文は花（素描き）。	
73	1042	F83-58,1層	磁器染付	蓋付鉢	口径（11.2），底径11.5，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は花（素描き）。外底釉剥ぎ・砂付着。	
74	1557	F84-60,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径11.3，高台径10.5，高2.4	肥前系	化学コバルト。主文は花唐草。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
75	1553	Fトレンチ,Ⅰ層	磁器染付	段重	口径11.7，高台径10.6，高2.1	肥前系	化学コバルト。主文は小花。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
76	1556	Fトレンチ,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径10.0，高台径9.0，高1.9	肥前系	化学コバルト。文様は市松。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
77	1552	Fトレンチ,Ⅰ層	磁器染付	段重	口径10.9，底径9.8，高2.6	肥前系	化学コバルト。文様は市松。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
78	1551	Fトレンチ,Ⅰ層	磁器染付	段重	口径10.9，底径10.0，高2.7	肥前系	化学コバルト。文様は市松。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
79	1810	Fトレンチ,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径（11.4），高台径10.5，高3.7	肥前系	化学コバルト。文様は市松。腰部アルミナ塗布。	
80	1250	F78-53,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径11.1，底径10.3，高2.0	肥前系	化学コバルト。文様は浜千鳥。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
81	1554	Fトレンチ,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径11.0，高台径9.9，高3.3	肥前系	化学コバルト。主文は丸。腰部釉剥ぎ。	
82	1901	F82-53,Ⅱ層	白磁	段重	口径(10.1)，高台径(9.3)，高2.7	肥前系	腰部アルミナ塗布。	
83	1047	F84-58,Ⅰ層	土師質	鉢	口径12.1，底径12.4，高3.9	不明	回転ナデ。外底糸切離し。	
84	1048	F84-58,Ⅰ層	土師質	鉢	口径12.4，底径12.8，高3.9	不明	回転ナデ。外底糸切離し。	
85	1570	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径4.8，高0.7	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面見込み平滑。内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
86	1453	F81-56,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径4.5，高0.8	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面見込み平滑。	
87	1492	F80-54,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径6.4，高0.8	肥前系	呉須。文様は東屋山水。内面渦状の凸凹。	
88	1565	F83-58,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径8.6，高1.9	肥前系	胎土黄ばむ。呉須。文様は松竹梅。内面平滑。	
89	1447	F81-53,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径7.4，高1.5	肥前系	呉須？。文様は鶴・波。内面見込み平滑。内面口縁部（露胎）に墨付着。	
90	1802	F83-58,Ⅰ層	磁器染付	薬盒蓋	口径（5.8），高1.0	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面平滑。	
91	1900	F82-53,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.4，底径4.2，高1.6	肥前系	内底平滑。	
92	1493	F81-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.3，底径4.1，高1.9	肥前系	内底渦状の凸凹。	
93	1879	F81-54,Ⅱ層	磁器染付	合子身	口径（7.0），底径（6.0），高2.5	肥前系	内底平滑。呉須。文様不明（部分）。	
94	1569	F84-54,Ⅰ層	陶器	片口鉢	口径17.1，高台径（7.8），高9.1	肥前	灰釉。内底小さな胎土目。	
95	1245	F79-57,Ⅰ層	陶器	蓋	口径5.7，底径3.6，高2.9	九州	胎土赤褐色。鉄釉。底面糸切り離し。	
96	1482	F80-54,Ⅱ層	陶胎染付	土瓶蓋	口径7.2，最大径9.8	関西系	白土＋化学コバルト。文様は圏線・放射状列点、摘みは犬（貼付）。	
97	1905	F84-56,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径（8.2），高3.4	肥前	白土＋胴緑釉。内面見込みハマ跡。	
98	1496	F81-53,Ⅱ層下位	陶器	土瓶蓋	口径6.6，最大径9.7，高3.8	肥前	白土＋銅緑釉。口縁部アルミナ付着。歪む。	
99	1558	F80-61,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径6.2，最大径9.5，高3.1	小代or福岡	藁灰釉。	
100	1909	F84-59,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径6.5，最大径（9.8），高3.1	九州	胎土暗赤褐色。白土（薄い）＋灰釉。上面重ね焼き跡。	
101	1227	Ｆ78-55,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径10.3，底径6.0，高2.3	肥前	落し蓋。鉄釉。	
102	1668	F80-53,Ⅱ層下位	陶器	土瓶	口径8.4，底径（10.0），高13.3	関西系	白土掛け。主文は東屋山水。線描は鉄、塗りは淡い鉄・銅緑釉。内面下位透明釉。	
103	1497	F81-54,Ⅱ層他	陶器	土瓶	口径（6.6），底径8.2，高11.8	肥前	鉄釉、口縁部釉拭き取り。内面中下位灰釉。外面下位煤付着。	
104	1670	F84-53,Ⅲ層	陶器	土瓶		肥前	白土＋銅緑釉。外面下位墨書「第□」。	
105	1632	F81-54,Ⅰ層	陶器	土瓶	底径8.1	関西系？	内面透明釉。外底墨書「大」。	
106	1068	F84-57,Ⅱ層	陶器	尿瓶	口径6.7，底径（11.2）	福岡？	把手橋形。灰釉。	
107	1633	F81-58,Ⅰ層	陶器	火入	口径（8.6），高台径6.7，高8.8	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花）。口縁部連続的な打ち欠き。	
108	1906	F84-57,Ⅱ層	陶器	不明壺ａ	底径（12.5）	在地？	胎土赤橙色。外面胴部回転ナデ、腰部回転ヘラケズリ。内面ユビ押え・回転ナデ。	
109	1045	F83-57,Ⅰ層	磁器染付	小瓶	口径（１.6），高台径3.1，高8.9	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。	
110	1559	F80-63,Ⅰ層	磁器染付	小瓶	口径1.6，高台径3.1，高9.2	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。	
111	1483	F80-54,Ⅱ層	磁器染付	水滴	平面5.8×3.9，高1.5	肥前系	型成形、文房具。化学コバルト。外底細布目。	
112	1473	F81-56,Ⅰ層	磁器染付	水滴	平面5.5×4.4，高1.8	肥前系	型成形、牡丹。化学コバルト。外底細布目。	
113	1452	F81-56,Ⅱ層	磁器染付	水滴	平面5.5×4.4，高1.8	肥前系	型成形、牡丹。化学コバルト。外底細布目。	
114	1481	F80-53,Ⅱ層	磁器染付	水滴	平面5.5×4.5，高1.7	肥前系	型成形、牡丹。化学コバルト。外底細布目。外底墨書（釈読不可）。	
115	1251	F78-55,Ⅱ層	白磁	水滴	平面5.8×4.4，高1.8	肥前系	型成形、魚々子地・牡丹。外底細布目。	
116	1998	F83-58,Ⅱ層	硬質陶器	ローゼット	口径1.9，孔径0.8	イギリス	型成形。灰釉（貫通孔内施釉）、灰色～青灰色の変色あり（二次焼成？）。	
117	1997	F83-58,Ⅰ層	硬質陶器	ローゼット		イギリス	型成形。灰釉、底部拭き取り。底部に十字形の小刻印。	
118	1996	F83-58,Ⅱ層	硬質陶器	ローゼット	底径（9.8）	イギリス	型成形。灰釉、底部拭き取り。	
119	1995	F82-54,Ⅰ層	硬質陶器	ローゼット	底径（9.8）	イギリス	型成形。灰釉、青灰色の変色あり（二次焼成？）。底部釉拭き取り。	
120	3002	F77-54,Ⅱ層	陶器	ドアノブ	外径（5.6），厚2.7	イギリス？	絞胎様の胎土(にぶい赤褐色・浅黄色)。鉄釉。	
121	1480	F80-53,Ⅱ層	土師質	鞴羽口	外径5.8～7.0	不明	江戸後期以降。上位は被熱により変色。	
122	1587	F84-54,Ⅱ層	土師質	鞴羽口	長25.5，外径4.9～6.5	不明	外面ナデ。端部溶融物付着。刻印「甚七」。	
123	1465	F81-57,Ⅲ層	陶器	碗	口径（9.8），高台径5.1，高6.5	小代	藁灰釉。巴高台。	○

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (4)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
124	1463	F81-57,Ⅲ層	磁器染付	碗蓋	口径9.8，高1.9	瀬戸美濃？	薄手（上手）。胎土白い。呉須、口紅。主文は草花。	
125	1652	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	広東碗蓋	口径12.1，高3.2	肥前系	呉須。主文は東屋山水（雲は墨弾き）。摘み内「富貴長春」。	○
126	1462	F81-57,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.9，高3.0	肥前系	呉須。主文は雲。	
127	1683	F80-62,Ⅲ層	磁器染付	碗蓋	口径（10.3），高2.8	肥前系	呉須。主文は花。	○
128	1593	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径11.0，高台径4.3，高5.6	肥前系	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
129	1646	F83-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.2，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は樹木・寿字。内底「五良太甫」。	○
130	1599	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.7，高台径3.7，高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は牡丹・蝶。	
131	1582	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.5，高台径3.7，高6.2	肥前系	化学コバルト。主文は牡丹・蝶。	○
132	1538	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.8，高台径3.7，高6.1	肥前系	化学コバルト。文様は牡丹・蝶。	
133	1672	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.7，高台径3.5，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は山水・松。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
134	1651	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	平形碗	口径10.0，高台径4.2，高4.6	肥前系	化学コバルト。主文は唐人･漢詩？。705とセット。	○
135	1458	F81-55,Ⅲ層	磁器染付	平形碗	口径11.0，高台径4.1，高4.9	肥前系	化学コバルト。主文は唐子・蝶・瓔珞。	
136	1653	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口6.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	○
137	1488	F84－57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	底径3.6	肥前系	呉須。文様は丸（薄）。歪み顕著（二次焼成）。	○
138	1254	F78-55,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径7.0，高台径3.6，高5.3	肥前系	呉須。主文は鋸歯（白抜き）。	
139	1261	F77-54,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.1，高台径3.0，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	○
140	1577	F82-54,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.1，高台径4.3，高5.9	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	○
141	1594	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.7，高台径4.0，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は岩・草花。歪む。	
142	1650	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.0，高台径4.4，高6.8	肥前系	化学コバルト。主文は梅・松・草花。	○
143	1681	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	小坏	口径（6.2），高台径2.6，高3.4	肥前系	呉須。内底寿字。	
144	1636	F81-58,Ⅲ層	磁器色絵	小坏	口径（5.7），高台径2.6，高2.6	瀬戸美濃	江戸絵付。呉須上絵。文様は鳥（鳳凰？）。内底蛇の目釉剥ぎ。	
145	1596	F84-54,Ⅲ層	磁器色絵	小坏	口径7.9，高台径2.9，高3.0	瀬戸美濃	酒坏。江戸絵付。口紅。主文は転写、呉須(鯉)。字銘は手書き、淡赤色「盛川流/不息」。	○
146	1800	F82-54,Ⅲ層	土師質	坏	口径（12.6），底径6.3，高2.5	在地？	外面腰～底部回転ヘラケズリ。内底静止ナデ。	
147	1595	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	皿	口径10.3，高台径5.6，高2.0	肥前系	ソーサー。呉須。主文は菖蒲・鳥。口縁部油煙付着。	○
148	1539	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径12.6，高台径4.6，高3.6	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
149	1540	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.3，高台径5.3，高3.7	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
150	1542	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.4，高台径5.1，高3.5	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
151	1671	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径14.1，高台径5.0，高3.9	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
152	1889	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径11.7，高台径4.6，高3.6	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
153	1541	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径11.9，高台径4.6，高3.8	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台畳付砂付着顕著。	
154	1498	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径12.5，高台径5.1，高4.1	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
155	1682	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径12.8，高台径5.2，高3.2	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
156	1644	F84-54,Ⅱ層	磁器染付	中皿	口径18.2，高台径（7.5），高3.3	肥前系	呉須。文様は富士（三保の松原？）。畳付重ね焼き跡。	○
157	1648	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径9.8，高1.6	肥前系	化学コバルト。文様は花・格子（花弁は墨弾き）。受部アルミナ塗布。	
158	1586	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径9.9，高1.8	肥前系	化学コバルト。文様は丸（東屋山水・人物）。受部アルミナ塗布。	
159	1461	F81-57,Ⅲ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径10.3，高2.1	肥前系	化学コバルト。文様は丸。	
160	1581	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	蓋付鉢	口径10.9，高台径7.4，高8.6	肥前系	化学コバルト。主文は宝・花。	
161	1455	F81-57,Ⅲ層	磁器染付	蓋付鉢	口径11.3，高台径7.1，高8.1	肥前系	化学コバルト。主文は丸。	
162	1654	F84-54,Ⅲ層	磁器釉下彩	蓋付鉢	口径（10.9），高台径（7.5），高8.6	肥前	主文は岩・草花。線描は化学コバルト・緑(草)、塗りは化学コバルト(淡)・淡赤（花弁)。	
163	1585	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	段重	口径11.1，高台径10.0，高3.1	肥前系	化学コバルト。主文は宝･花。受部アルミナ塗布。	

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (5)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
164	1468	F81-58,Ⅲ層	磁器染付	段重	口径11.1，高台径10.1，高2.1	肥前系	化学コバルト。主文は丸。	
165	1584	F84-54,Ⅲ層	磁器 釉下彩	段重	口径11.3，高台径10.3，高3.2	肥前	文様は草花。化学コバルト・緑（草）・淡赤（花弁塗り）。受部アルミナ塗布。	
166	1583	F84-54,Ⅲ層	磁器染付	合子蓋	口径5.1，高0.8	肥前系	呉須。文様は山水。内面平滑。	
167	1890	F81-54,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径（5.1），高0.9	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
168	1572	F83-54,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.7，高0.9	肥前系	化学コバルト「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
169	1534	F80-56,Ⅲ層	白磁	合子身	口径3.8，底径2.3，高1.7	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	
170	1464	F81-57,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.0，底径3.6，高1.7	肥前系	内底平滑。	
171	1805	F84-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.4，底径3.6，高1.4	肥前系	内底平滑。	
172	1868	F77-53,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.7，底径4.5，高1.6	肥前系	内底平滑。	
173	1806	F84-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.6，底径4.2，高1.8	肥前系	内底平滑。	
174	1576	F83-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径5.0，底径4.7，高1.8	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト小斑付着。	
175	1575	F82-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径5.1，底径4.8，高1.8	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト小斑付着。	
176	1597	F84-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径5.6，底径3.8，高2.1	肥前系	内底渦状の凸凹。受部アルミナ塗布。	
177	1470	F82-58,Ⅲ層	陶器	小水注	口径（6.0），高台径4.0，高3.6	関西系	半磁胎。上絵付け、鉄絵？（二次焼成により不明瞭）。文様は花。	○
178	1600	F84-54,Ⅲ層	陶器	片口鉢	口径16.7，高台径7.3，高8.2	瀬戸美濃	片口部ブリッジ無し。褐釉（内底以外は釉爛れ著しい）。	○
179	1807	F84-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径(5.7)，最大径(8.6)，高3.6	肥前	白土＋銅緑釉。	
180	1537	F80-62,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径6.0，最大径9.2，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
181	1649	F84-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.5，高3.2	肥前	白土＋銅緑釉。	○
182	1892	F81-57,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.8，最大径8.6，高3.7	肥前	白土＋胴緑釉（二次焼成により赤化）。	○
183	1598	F84-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.1，最大径8.2，高3.1	九州	胎土灰色。灰釉。	
184	1902	F82-59,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径（9.4），底径3.6，高2.7	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉。	
185	1469	F82-55,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径8.3，底径3.0，高2.6	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉（白濁）。	○
186	1460	F81-56,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径（8.5），底径8.1，高12.1	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位は透明釉。外面下位煤付着。	○
187	1635	F81-57,Ⅲ層	陶胎染付	汽車土瓶	口径7.0	関西系	白土＋化学コバルト。主文は福字・花。内面透明釉。	
188	1456	F81-55,Ⅲ層	陶器	汽車土瓶	口径8.2，底径6.8，高8.5	関西系	白化粧。主文は松。線描きは鉄絵、塗りは二次焼成により不明瞭（銅緑釉は赤化）。	○
189	1471	F82-59,Ⅲ層	磁器染付	小瓶	高台径3.2	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。	
190	1457	F81-55,Ⅲ層	磁器染付	徳利	高台径8.2	肥前	口頸部鉄釉。文様呉須、葡萄。	
191	1647	F82-55,Ⅲ層	磁器	徳利	高台径（7.2）	肥前系	頸部透明釉・体部鉄釉。ヘラ描き文､花・霊芝。	
192	1523	F78-53,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅（14.7），高12.8	在地？	板作り、平面方形。四足。外側面は炭素吸着。	
193	1637	F81-58,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅（16.2），高13.8	在地？	板作り、平面方形。四足。外側面炭素吸着。	
194	1459	F81-58,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅18.5，高15.2	在地？	板作り、平面方形。四足。外側面炭素吸着。	
195	1532	F84-54,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅（20.1），高15.6	在地？	板作り、平面方形。四足。	○
196	1588	F84-54,Ⅲ層	瓦質	火消壷	口径6.3，底径12.6，高6.4	不明	小形。内外回転ナデ、外側面下位ヘラケズリ後ナデ。	
197	1467	F81-57,Ⅲ層	陶器	火入	口径7.8，高台径7.4，高7.5	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は花文・如意頭（印花）。	○
198	1466	F81-57,Ⅲ層	陶器	火入	口径（8.8），高台径6.5，高8.6	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花）。口縁部連続的な打ち欠き。	
199	1535	F80-56,Ⅲ層	白磁	水滴	平面5.8×4.2，高1.6	肥前系	型成形、魚々子地・牡丹。外底細布目。図右側面は露胎・アルミナ付着。	
200	1536	F80-56,Ⅲ層	白磁	水滴	平面5.9×4.1，高1.7	肥前系	型成形、文房具。外底細布目後ナデ。	
201	1574	F82-54,Ⅲ層	白磁	水滴	平面5.0×3.8，高1.3	肥前系	型成形、茄子・虫。外底細布目。墨付着。	
202	1580	F83-58,Ⅲ層	無釉磁器	パレット？	口縁幅3.8×1.8，高0.8	肥前系	胎土灰白色。型成形。内面に黄色の付着物。	
203	1252	F78-55,Ⅲ層	白磁	戸車	外径3.6，厚0.8	肥前系	内外側面に施釉。	
204	1253	F78-55,Ⅲ層	白磁	戸車	外径3.6，厚0.8	肥前系	内外側面に施釉。	○
205	1543	F81-55,Ⅲ層	白磁	戸車	外径4.0，厚0.7	肥前系	内外側面は施釉。図上面に重ね焼き跡。	
206	1999	F83-58,Ⅱ層	硬質陶器	ローゼット	底径（9.8）	イギリス	型成形。灰釉、底部拭き取り。	○
207	3004	F77-54,Ⅱ層下位	陶器	ドアノブ	外径5.6	イギリス？	絞胎様の胎土（にぶい赤褐色・浅黄色・灰色）。鉄釉。	○

第10表　大広間出土陶磁器類観察表 (6)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
208	3003	F79-53,Ⅱ層下位	陶器	ドアノブ	外径（5.6），厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土(にぶい赤褐色・浅黄色)。鉄釉。	○
209	1638	F82-55,Ⅲ層	陶器	植木鉢	口径（9.9），底径5.6，高8.2	不明	小形、三足。胎土赤褐色。無釉。	○
210	1546	F79-59,Ⅳ層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径2.9，高4.7	肥前系	呉須。文様は丸（薄）。	
211	1547	F79-59,Ⅳ層	磁器染付	小丸碗	口径6.8，高台径3.4，高5.8	肥前系	呉須。主文は薄。畳付アルミナ付着顕著。	
212	1687	SXⅠ006	磁器染付	小坏	口径5.2，高台径1.7，高2.7	不明	胎土ガラス質。内底銘（化学コバルト）「瑞鷹」＝熊本市内酒造会社、1889年以降生産。	
213	1232	SXⅢ051	磁器色絵	湯呑碗	口径8.0，高台径3.0，高5.7	波佐見？	文様は丸（福寿字）。化学コバルト＋上絵塗り（暗赤色・緑色）。ゴム版銘（化学コバルト）「白山」＝白山陶器？。	
214	1231	SXⅢ051	磁器色絵	湯呑碗	口径6.4，高台径3.7，高7.6	三川内？	文様は花・鳳凰。線描はコゲ茶、塗りは朱・青・緑・黄・金。高台内手描き銘（朱色）「嘉祥堂」＝平戸嘉祥？。	
215	1230	SXⅢ051	陶器	湯呑碗	口径7.9，高台径4.9，高5.7	不明	主文は松。白土刷毛塗り＋手描き（茶色・緑色）、松葉輪郭線は白土掻き取り。高台内「日窯」？（暗赤色）。	
216	1264	SXⅢ054	磁器色絵	小坏	口径5.4，高台径2.1，高3.0	不明	胎土ガラス質。釉下彩（化学コバルト）＋上絵付け（金色・朱色）。文様は東屋山水。	
217	1262	SXⅢ054	白磁	碍子	最大径3.6，高4.9	不明	ノップ碍子。低電圧配電用。明治20年頃以降。	
218	1263	SXⅢ054	白磁	碍子	最大径3.7，高5.1	不明	ノップ碍子。低電圧配電用。明治20年頃以降。	
219	1244	F79-58,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口縁7.4，高台径3.1，高5.3	不明	銅版転写。化学コバルト。文様は葡萄。	
220	1046	F83-58,Ⅰ層	磁器染付	小碗	口径8.1，高台径2.9，高4.7	岐阜県	ゴム版絵付け。化学コバルト。主文は福寿。高台内「岐528」＝定林寺・渡邊嘉十。	
221	1228	Ｆ78-55,Ⅰ層	磁器染付	碗	口径8.8，高台径3.5，高5.2	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。主文は螺旋。高台内ゴム版銘「志寿」？。	
222	1988	F79-58,Ⅰ層	磁器色絵	軍坏	口径（5.7）	不明	胎土ガラス質。口縁部は吹き絵（化学コバルト）。口唇部金彩。内面上絵はゴム版（金・赤）、旭日旗・桜・五芒星、銘「…事変記念」(赤)。	
223	1229	Ｆ78-55,Ⅰ層	陶器	缶詰	口径（8.6），底径5.4，高9.5	不明	化学コバルト、ゴム版銘「防衛食（防７）/大日本防空食糧株式會社/社長 小澤專七郎謹製」。	
224	1986	F78-55,Ⅰ層	磁器 釉下彩	缶詰	口径（8.8）	不明	防衛食容器。鉄釉銘「大日本防空食（株式會社）/社長小澤專（七郎謹製）」(括弧内は欠)。	
225	1578	F83-58,Ⅱ層	白磁	蓋付瓶	口径4.8，底径4.6，高4.8	不明	薬瓶。泥漿流し込み成形。発色やや黄ばむ。	

第11表　大御台所出土陶磁器類観察表 (1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
226	1003	SDⅢ008 （＋F85-52,Ⅳa層）	陶器	碗	口径（9.9），高台径5.1，高6.9	小代	藁灰釉。高台内刻印「牝小路」。	
227	1081	SDⅢ008	磁器 釉下彩	蓋付鉢	口径10.6，高台径6.0，高8.2	肥前	主文は梅・笹。線描は化学コバルト・緑色(笹)。塗りは淡い化学コバルト・淡赤色(花弁)。	
228	1001	SDⅢ008	磁器 釉下彩	段重	口径10.6，高台径10.6，高2.9	肥前	主文は梅。化学コバルト＋淡赤色（花弁塗り）。腰部アルミナ塗布。	
229	1820	SDⅢ008	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径（9.1），高3.3	九州	胎土赤橙色。灰釉。	
230	1152	SDⅢ008 （＋F85-53,Ⅲ層）	土師質	壷	口径14.1	不明	内外ナデ（外面平滑）。墨書で牡丹文（淡）・「伊東」(濃)。	
231	1153	SDⅢ008 （＋F85-54,Ⅲ層）	磁器染付	火入	口径11.6，高台径11.0，高9.7	肥前系	化学コバルト。主文は竹林七賢図。外底露胎・白土目跡。	
232	1004	SDⅢ008堀形	磁器	端反小碗	口径（9.1），高台径3.6，高5.2	肥前系	外面鉄釉、高台内・内面透明釉。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
233	1008	SDⅢ008堀形 （＋F85-52,Ⅳa層）	磁器染付	端反小碗	口径9.1，高台径（4.1），高4.8	肥前系	化学コバルト。文様は剣先蓮弁。	
234	1005	SDⅢ008堀形	陶器	土瓶蓋	口径5.4，最大径8.2，高3.3	薩摩	土灰釉。	
235	1007	SDⅢ008堀形	陶器	土瓶蓋	口径5.7，最大径8.5，高3.1	薩摩	土灰釉。	
236	1006	SDⅢ008堀形	陶器	土瓶蓋	口径6.0，最大径8.8，高3.1	薩摩	土灰釉。	
237	1823	SDⅢ008掘形	陶器	土瓶蓋	口径5.7，最大径（9.0），高3.2	九州	胎土赤褐色。灰釉。上面に重ね焼き跡（砂が環状に付着）。	
238	1822	SDⅢ008掘形	陶器	土瓶蓋	口径8.4，底径3.5，高2.1	肥前	落し蓋。鉄釉。	
239	1821	SDⅢ008掘形	陶器	土瓶蓋	口径9.0，底径3.0，高2.8	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉（白濁）。	
240	1002	SDⅢ008＋同堀形	陶器	土瓶蓋	口径10.5，底径3.8，高2.6	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉。	
241	1824	SDⅢ008掘形	陶器	火入	口径（12.0），底径10.0，高8.8	小代or福岡	藁灰釉。外側面櫛歯状条線、字銘（陰刻）は「福」？。	
242	1009	SDⅢ008堀形 （＋F85-51,Ⅲ層）	陶器	火入	口径（11.2），高台径10.8，高9.3	小代	藁灰釉。印刻外面は上位「福」、高台内「葛城」。口縁部連続的な打ち欠き。糸切り後高台刳り。	

第11表　大御台所出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
243	1010	SDⅢ013	陶器	土瓶蓋	最大径8.4	九州	胎土赤褐色。白土＋褐釉。下面（露胎部）墨書（釈読不可）。	
244	1825	SDⅢ013	陶器	土瓶蓋	口径5.8，最大径9.0，高3.4	九州	胎土褐灰色。白土＋灰釉。上面に重ね焼き跡（砂付着）。	
245	1011	SDⅢ013	白磁	ドアノブ	外径5.7，厚2.8，軸径1.5	不明	把手は白磁。円柱形の軸は鉄芯銅張り（鉄芯は断面方形）。	
246	1692	SDⅢ022（＋F85-52,Ⅲ層他）	陶器	尿瓶	高台径11.9	小代or福岡	把手橋形。灰釉＋藁灰釉。高台内鉄漿。	
247	1690	SDⅢ022	磁器染付	鉢･段重蓋	口径9.5，高2.0	肥前系	化学コバルト。主文は花。受部アルミナ塗布。	
248	1689	SDⅢ022	陶器	窯道具？		九州	テストピース？。胎土浅黄橙色・白色粒混入。鉄釉（粗い施釉）。	
249	1828	SKⅢ024	陶器	土瓶蓋	口径（6.3），最大径9.4，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。口縁部アルミナ付着顕著。	○
250	1829	SKⅢ024	陶器	土瓶蓋	口径4.9，最大径8.2，高3.3	薩摩	灰釉。	
251	1012	SKⅢ024（＋F85-50,Ⅳa層）	陶器	土瓶蓋	口径10.1，底径5.0，高2.2	肥前	落し蓋。鉄釉。底部墨書「□除方（濃い）/天井（薄い）」。	
252	1787	SKⅢ026	陶器	土瓶蓋	口径6.6，最大径9.3，高3.8	肥前	白土＋銅緑釉。	
253	1797	SKⅢ026	陶器	土瓶	口径8.2，底径7.0，高11.2	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位は透明釉。外面下位煤付着認められず。	
254	1743	SJⅢ009	土師質	便槽甕	口径45.0，底径22.2，高43.8	在地？	外面口縁～胴部ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ、屎尿の固着物あり。	
255	1744	SJⅢ011	土師質	便槽甕	口径43.4，底径（19.2），高49.2	在地？	外面口縁～胴部ヘラケズリ後ナデ、突帯は櫛目（筋目）後接合。内面ナデ。	
256	1013	SPⅢ015	白磁	合子身	口径（5.6），底径5.0，高2.0	肥前系	内底平滑。外底墨書「幕僚」。	
257	1785	F83 - 51,Ⅰ層	陶器	端反碗	口径10.3，高台径3.9，高5.9	松尾	白象嵌（文様部窪む）＋灰釉。主文は九曜紋（印花）。	○
258	1032	F85-52,Ⅱ層下位	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径4.2，高5.8	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。内面下位白色付着物。	
259	1031	F85-52,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径（10.5），高台径3.7，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は桐・縞。	
260	1033	F86-52,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.8，高5.6	肥前系	化学コバルト。主文は蓮（葉脈は墨弾き）。	
261	1904	F84-50,Ⅰ層	磁器染付	筒形碗	口径（6.8）	肥前系	薄手。外側面突帯。文様は呉須・丁寧な手描き（線描・塗りとも）、葵紋、3単位（2単位残存）。	
262	1014	F82-51,Ⅰ層	磁器染付	小皿	口径9.4，高台径4.0，高2.8	網田？	呉須（暗緑色）。主文は半花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台釉爛れ。	
263	1141	F85-52,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径13.1，高台径5.7，高4.3	肥前系	化学コバルト。文様は草花。内底足付ハマ跡。高台部下位アルミナ付着。	
264	1667	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（12.8），高台径4.8，高4.0	網田？	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
265	1484	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（12.9），高台径4.1，高3.8	網田？	化学コバルト。主文は松･遠山。内底蛇の目釉剥ぎ･アルミナ塗布。高台部アルミナ付着顕著。	
266	1485	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径12.6，高台径5.7，高3.2	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
267	1895	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿	口径13.1，高台径4.9，高3.9	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
268	1899	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.1），高台径5.1，高4.2	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
269	1486	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径13.3，高台径5.1，高3.9	肥前系	化学コバルト。文様は圏線・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
270	1034	F86-52,Ⅱ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径10.0，高2.2	肥前系	化学コバルト。文様は花・青海波。受部アルミナ塗布。	
271	1018	F83-51,Ⅰ層	磁器染付	薬盒蓋	口径4.8，高0.7	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面平滑。	
272	1019	F85-49,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径5.9，高0.9	肥前系	化学コバルト。文様は東屋山水。内面見込み渦状の凸凹。	
273	1916	F85-52,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（6.0），最大径9.0，高3.1	肥前	白土＋銅緑釉。	
274	1913	F85-49,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径6.3，最大径9.0，高3.2	薩摩	灰釉。	
275	1685	F85-46,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（7.1），最大径10.5，高3.6	九州	胎土赤褐色。灰釉。	
276	1020	F84-51,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径6.2，最大径9.8，高3.2	九州	胎土暗灰色。土灰釉。上面重ね焼き跡。内面墨書「松岡」。	
277	1930	F82-52,Ⅱ層	陶器	土瓶	口径（7.8），底径（7.4），高10.3	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位墨書「用」、煤付着認められず。	
278	1036	F85-52,Ⅱ層	陶器	土瓶	口径（7.7），底径（5.7），高10.2	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着。	
279	1016	F83-50,Ⅰ層	磁器染付	小瓶	高台径3.4	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。内面に赤色顔料付着（斑状）。	

第11表　大御台所出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
280	1022	F82-51,Ⅱ層	磁器染付	小瓶	口径1.5，高台径2.9，高9.0	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。	
281	1023	F82-51,Ⅱ層	磁器染付	小瓶	口径1.6，高台径3.0，高8.8	肥前	呉須。主文は蛸唐草・折松葉。	
282	1928	F86-52,Ⅱ層	磁器染付	火入	口径（10.4），高台径（7.3），高8.4	肥前系	化学コバルト。主文は瓔珞。外側面凹線部は釉剥ぎ。高台内露胎。内底アルミナ塗布。	
283	1035	F86-52,Ⅱ層	磁器染付	火入	口径12.2，高台径10.4，高9.9	肥前系	化学コバルト。文様は横縞。高台内露胎、白土目跡。	
284	1026	F83-49,Ⅲ層	磁器染付	筒形碗	口径7.4，高台径3.8，高6.2	肥前	呉須。主文は風景（遠山）。	
285	1024	F82-51,Ⅲ層	陶器	端反碗	口径10.8，高台径3.9，高５.４	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は花（印花）。内底足付ハマ跡。	
286	1030	F85-52,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径（10.4），高台径3.8，高6.2	肥前系	呉須。主文は草花・縞・雪輪。	
287	1027	F83-52,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径（9.0）	肥前系	化学コバルト。主文は花・寿字、素描き。	
288	1898	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.3），高台径5.2，高3.8	肥前系	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
289	1015	F82-51,Ⅲ層	陶器	蓋付鉢	口径11.9，高台径5.8，高7.5	肥前？	胎土淡黄橙色。光沢のある灰釉。	
290	1544	F82-52・53,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径5.1，高0.8	肥前系	呉須。文様は山水。内面見込み平滑。	
291	1028	F85-50,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径（5.4），最大径8.6，高3.1	薩摩	土灰釉。	
292	1029	F85-50,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	最大径8.6	薩摩	土灰釉。内面墨書「小山/松甚」。	
293	1915	F85-52,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（5.8），最大径（9.0），高3.3	肥前	白土＋銅緑釉。	○
294	1914	F85-50,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径（10.4），底径4.9，高2.0	肥前	落し蓋。鉄釉。外底墨書（釈読不可）。	
295	1025	F83-49,Ⅲ層	青磁	火入	口径10.8，高台径5.4，高7.3	肥前系	高台異形、畳付釉剥ぎ。外面タガネ書き（べた書き）「惣」。内面下位（露胎）煤付着。	
296	1038	F85-49,Ⅳb層	磁器染付	小丸碗	口径（6.9），高台径2.7，高5.6	肥前系	呉須。主文は東屋山水。	
297	1039	F85-52,Ⅳc層	磁器色絵	小坏	口径（7.2），高台径（2.9），高3.5	瀬戸美濃	江戸絵付。呉須上絵。文様は並木・建物。	
298	1037	F85-50,Ⅳa層	土師質	芥子面	平面3.0×2.3，厚～1.0	在地？	型成形。裏面ユビ押え後ナデ。	
299	1017	F83-50,Ⅰ層	磁器 釉下彩	丼碗	口径16.8，高台径6.1，高8.2	不明	主文は柿。線描は茶緑色、塗りは藍（化学コバルト）・にぶい緑色。高台内銘「窯山」（手書き・化学コバルト）。	
300	1912	F85-49,Ⅰ層	磁器色絵	皿	口径（13.9），高台径（8.6），高2.2	ノリタケ	泥漿流し込み成形？。転写絵付け。内面文様（朱色僅かに残存）は花唐草。裏印（赤色）「(日本陶器會)社/RC/NORITA(KE)/Nippon Toki K(aisha)」（括弧内欠）。1912～40年製。	

第12表　御小姓部屋出土陶磁器類観察表 (1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
301	1992	F78-51,階段,Ⅱ層	土師	坏	口径（10.3），底径5.2，高2.3	在地？	底部糸切り離し後未調整。内底中央静止ナデ。内面油煙付着。	
302	1991	F78-51,階段,Ⅱ層	土師	坏	口径（10.5），底径5.0，高2.6	在地？	底部糸切り離し後未調整。内底中央静止ナデ。	
303	1240	F77-49,Ⅰ層	陶器	擂鉢		備前	擂り目斜め方向。乗岡近世1期。	
304	3013	F76-50,Ⅰ層	陶器	皿	高台径（5.1）	志野	胎土浅黄色。長石釉。内底鉄絵。	
305	1235	SXⅢ058	陶器	向付		織部	絵織部。鉄絵+塗り(薄茶色･緑色)。外底ケズリ。	
306	1255	F79-49,Ⅲ層	磁器染付	小坏	口径6.4，高台径3.8，高4.7	肥前	18ｃ前半。主文は橋・草花。	
307	1437	F79-50,床直 （＋同Ⅲ層）	白磁	徳利	口径3.4，高台径5.5，高15.6	肥前	17ｃ。碁笥底。	
308	1226	SKⅢ104	陶器	浅碗	口径11.2，高台径（4.0），高4.8	球磨郡？	鉄釉。器面変色・爆ぜ著しい。	○
309	1223	SKⅢ104	磁器染付	端反碗蓋	口径9.6，高3.1	肥前系	呉須。主文は丸（縞・格子）。	○
310	1220	SKⅢ104	磁器染付	端反碗	口径11.2，高台径3.8，高6.0	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
311	1218	SKⅢ104	磁器染付	端反碗	口径11.8，高台径4.1，高5.6	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
312	1219	SKⅢ104	磁器染付	端反碗	口径11.0，高台径4.2，高5.8	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。ガラス融着。	○
313	1222	SKⅢ104	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高5.8	肥前系	呉須。主文は花。	○
314	1221	SKⅢ104	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.8，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は草花・蝶。	○
315	1225	SKⅢ104	白磁	端反小碗	口径8.0，高台径3.0，高4.0	不明	胎土肌理細かい。高台内露胎。	○
316	1224	SKⅢ104	磁器染付	急須	口径5.4，底径5.7，高7.4	肥前系	盛り絵（輪郭線）＋化学コバルト（塗り）。主文は花・蝶。	
317	1233	SXⅢ057	磁器染付	小坏	口径7.0，高台径2.9，高4.4	肥前系	呉須。主文は芭蕉葉。	
318	1234	SXⅢ058	陶器	端反小碗	口径9.2，高台径2.9，高5.0	瀬戸美濃	灰釉＋口縁部銅緑釉。畳付・高台内露胎。	

第12表　御小姓部屋出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
319	1236	SXⅢ058	磁器染付	角皿	口縁11.8，高台径7.8，高3.4	肥前系	呉須。文様は竜田川。蛇の目凹形高台、露胎部アルミナ塗布。内底足付ハマ跡。	
320	3005	SXⅢ058	陶器	ドアノブ	外径（5.6），厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土（にぶい赤褐色・橙色・灰色）。鉄釉。	○
321	1866	F75-50,Ⅰ層	陶器	碗	口径（11.2），高台径4.1，高4.2	球磨郡？	灰釉。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡(アルミナ付着)。畳付アルミナ付着。高台部鉄片付着。	
322	1241	F77-49,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口縁6.4，高台径3.1，高5.2	肥前系	胎土淡灰色。呉須。主文は格子。	
323	1533	F80-52,Ⅲ層	磁器染付	小坏	口径7.1，高台径3.2，高4.3	肥前系	清朝模倣。文様は呉須（濃い）、印版文。	
324	1478	F79-52,Ⅱ層	磁器染付	小皿	口径8.9，高台径3.5，高2.4	肥前系	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
325	1665	F78-52,Ⅱ層	磁器染付	小皿	口径（10.0），高台径5.2，高1.7	瀬戸美濃	木型打ち込み。化学コバルト。文様は玉取獅子（陰印文）。	
326	1494	F79-52,Ⅱ層下位	磁器染付	鉢・段重蓋	口径10.0，高1.9	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花。受部アルミナ塗布。	
327	1994	F80-50,Ⅱ層	白磁	合子身	口径（5.5），底径4.8，高2.0	肥前系	内底平滑。外底墨書（釈読不可）。	
328	1662	F80-52,Ⅰ層	陶器	急須蓋	口径3.5，最大径5.7，高2.7	小代or福岡	土灰釉＋藁灰釉。	
329	1495	F80-52,Ⅱ層下位	陶器	土瓶蓋	口径5.5，最大径8.8，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
330	1491	F79-52,Ⅱ層	陶器	行平蓋	口径15.4，高4.5	関西系	外面は飛鉋、鉄漿＋白土イッチン掛け。受部は白土刷毛塗り。内面は鉄釉。	
331	1243	F77-50,Ⅰ層	磁器染付	水滴	平面6.1×4.6，高1.7	肥前系	型成形、福寿字（陰刻）。化学コバルト？。底部内外とも細布目、内面天井部・側面ユビ押え。外底施釉。穴は閉塞後に穿孔。	
332	3014	Ｆ76-49,Ⅰ層	土師質	面摸	平面3.2×2.7，高1.2	在地？	頭巾を被った人物顔。外面光沢感（使用による摩滅）。	
333	1529	F79-52,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.9，高台径（4.1），高6.0	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
334	1479	F80-52,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径11.4，高台径4.1，高5.7	肥前系	呉須。主文は虫篭。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
335	1260	F78-50,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.8，高6.0	肥前系	呉須。主文は柳・月？。	
336	1870	F79-52,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径（9.7），高台径3.8，高6.0	肥前系	化学コバルト？。文様は折鶴・松。	
337	1265	F79-49,Ⅲ層	磁器染付	碗	口径10.1，高台径3.7，高5.0	肥前系	呉須。主文は浜千鳥。高台内角福。	
338	1526	F79-52,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.2，高台径3.3，高5.4	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。畳付アルミナ付着顕著。	
339	1525	F79-52,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.0，高5.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	
340	1258	F79-50,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.5，高台径4.6，高6.4	肥前系	化学コバルト。主文は菊・岩。	
341	1266	F81-50,Ⅲ層	陶胎染付	平形碗	口径11.7，高台径4.1，高4.4	不明	白化粧。化学コバルト。主文は花・蝶（葉脈は墨弾き）。	○
342	1527	F79-52,Ⅲ層	土師質	坏	口径11.6，底径5.0，高2.6	在地？	外面腰～底部回転ヘラケズリ後ナデ。	
343	1259	F79-50,Ⅲ層	磁器染付	輪花小皿	口径9.1，高台径5.1，高2.9	志田	内面白化粧。呉須。主文は唐船。口紅。	
344	1528	F79-52,Ⅲ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.0），高台径4.9，高3.8	網田	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台部釉爛れ。	
345	1256	F80-49,Ⅲ層	陶器	擂鉢	口径18.6，高台径7.2，高5.9	肥前	小形。鉄釉。砂敷き窯詰め法。	
346	1903	F81-51,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径5.7，最大径8.7	薩摩	土灰釉。	○
347	1442	F78-49,Ⅲ層	陶器	瓶	高台径7.8	内野山	口頸部鉄釉、胴部灰釉。高台部下位泥漿付着。	
348	1441	F78-49,Ⅲ層	陶器	瓶	口径5.7	内野山	白土（口頸部刷毛塗り・胴部掛け流し）。	
349	1438	F79-50,Ⅲ層（＋F79-49,Ⅲ層）	磁器染付	徳利	口径（2.4），高台径（6.8），高18.9	肥前系	呉須。文様は丸。高台内側面細砂付着。	
350	1440	F81-50,Ⅲ層（＋F81-49,Ⅲ層）	磁器染付	徳利	口径（3.4），高台径8.6，高24.5	肥前	呉須。文様は葡萄。高台内アルミナ付着。	
351	1792	F79-50,Ⅲ層（＋同床直）	磁器染付	徳利	口径3.4，高台径8.3，高25.2	肥前	口頸部鉄釉。文様呉須、葡萄。畳付アルミナ付着。	
352	1439	F81-50,Ⅲ層	磁器染付	徳利	高台径8.3	肥前	口頸部鉄釉。文様呉須、葡萄。	
353	1791	F79-50,床直（＋F79－49,Ⅲ層）	磁器染付	徳利	口径3.4，高台径8.7，高26.3	肥前	口頸部鉄釉。文様呉須、葡萄。	
354	1684	F80-52,Ⅲ層	瓦質	火鉢	口径23.8，底径（18.8）	在地？	胎土雲母粒多い。内外とも回転ナデ。文様は草花（型押し）。	
355	1530	F79-52,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅（18.4），高15.3	在地？	板作り、平面方形。四足。	
356	1531	F79-52,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅（17.7），高14.7	在地？	板作り、平面方形。四足。外側面炭素吸着。	
357	1680	F78-52・53,Ⅲ層	磁器染付	火入	口径（9.0），高台径11.0，高8.4	肥前系	呉須。文様は横縞（グラデーションを認める）。高台内露胎。内底アルミナ塗布。口縁部連続的な打ち欠き。	○

第12表　御小姓部屋出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
358	1524	F78-52,Ⅲ層	磁器染付	水滴	平面6.0×4.5，高1.8	肥前系	型成形、福寿字（陰刻）。化学コバルト？。外底細布目・施釉。	○
359	1257	F80-50,Ⅲ層	磁器染付	水滴	平面6.3×4.5，高1.8	肥前系	型成形、福寿字（陰刻）。化学コバルト？。底部内外とも細布目、内面天井部・側面ユビ押え。外底施釉。穴は閉塞後に穿孔。	
360	1239	不明	白磁	広東碗	口縁11.9，高台径5.3，高5.8	網田？	釉は青緑色味を帯びる。内底蛇の目釉剥ぎ(雑)。	
361	1249	F81-51,Ⅰ層	磁器釉下彩	平形碗	口径10.9，高台径3.6，高4.8	不明	胎土ガラス質。銅版転写。文様は梅・鶯。化学コバルト、花弁塗りは淡赤色（小円子)。	
362	1248	F80-51,Ⅰ層	磁器染付	小碗	口径7.2，高台径3.5，高4.1	不明	胎土ガラス質。吹き絵（化学コバルト)。口紅。高台内露胎、アルミナ付着。	
363	1237	SXⅢ062	白磁	碍子	最大径4.0，高5.1	不明	ノップ碍子。低電圧配電用。明治20年頃以降。	
364	1990	F78-50,Ⅰ層	白磁	碍管	長18.4，外径1.6～1.8	不明	細い円柱に巻き付けて成形。管の両端施釉。	
365	1749	F78-50,Ⅰ層	陶器	焼酎瓶	口径10.4	不明	外面白土＋透明釉。内面透明釉。	
366	1748	F75-49,Ⅰ層	陶器	焼酎瓶	口径9.2，底径（26.4)，高44.1	不明	外面白土＋透明釉。内面透明釉。砂底。	
367	1747	F75-49,Ⅰ層	陶器	焼酎瓶	(9.1）/（24.4）/（44.0)	不明	鉄釉(総釉)。外面肩部泥漿付着。外底砂付着。	
368	1746	F75-49,Ⅰ層	陶器	焼酎瓶	口径9.0	不明	内外とも鉄釉。肩部刻印は○内「ト」(常滑？)。	

第13表　長之間出土陶磁器類観察表 (1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
369	1921	F85-54,Ⅱ層	瓦器	椀	高台径（5.8)	在地	12ｃ後半～13ｃ前半。外面下位ヘラケズリは不明。内底当て具痕。	
370	1052	F87-54,Ⅰ層	陶器	建水？	底径15.6	備前？	外面肩～胴部鉄泥刷毛塗り。外底面平滑。	
371	1089	F85-54,Ⅱ層	陶器	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高5.5	球磨郡？	灰釉＋藁灰釉。内底四足ハマ跡。	
372	1137	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径9.6，高台径3.8，高5.7	肥前系	化学コバルト。文様は牡丹・蝶。	
373	1070	F85-53,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径4.3，高5.2	肥前系	化学コバルト。主文は楓・縞。	
374	1104	F86-53,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径9.7，高台径4.0，高5.7	肥前系	化学コバルト。主文は花・宝箱・蝶。	
375	1095	F86-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.9，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は草花。	
376	1066	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径4.0，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は梅・竹。	
377	1931	F86-53,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径（9.6)，高台径3.8，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は蓮。	
378	1092	F86-53,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.7，高台径4.0，高5.7	肥前系	化学コバルト。主文は花（素描き)。	
379	1920	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径（10.3)，高台径4.0，高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。畳付アルミナ付着。	
380	1082	F85-53,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.1，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
381	1085	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.8，高台径3.7，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は岩・竹・梅・菖蒲。	
382	1086	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径（6.8)，高台径4.2，高7.0	肥前系	化学コバルト。主文は岩・花。	
383	1084	F85-53,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径（6.8)，高台径4.2，高6.5	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は白拍子（能「道成寺」の場面？)。	
384	1940	F87-54,Ⅱ層	土師質	坏	口径（12.0)，底径7.4，高2.2	在地？	外底切り離し後ヘラケズリ後ナデ。	
385	3006	Ｆ85-54,Ⅱ層	硬質陶器	縁皿		オランダ	ペトゥルス･レグゥー窯。プリント･ウェア、化学コバルト。口縁部は緩やかな輪花。1855～70年。	
386	1923	F85-54,Ⅱ層下位	陶器	灯盞	受部径（10.3)，底径3.8，高1.9	関西系	半磁胎。灰釉。外面露胎。口縁部釉剥ぎ。	
387	1071	F85-54,Ⅱ層下位	磁器染付	小皿	口径8.6，高台径4.5，高2.2	瀬戸美濃	呉須。主文は蝙蝠・月。	
388	1139	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径11.3，高台径6.7，高2.9	肥前系	蛇の目凹形高台。科学コバルト？。主文は草花。内底(蛇の目釉剥ぎ)と高台内アルミナ塗布。	
389	1075	F85-54,Ⅱ層下位	磁器染付	皿	口径（13.2)，高台径5.8，高3.1	網田？	呉須。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ(雑)・重ね焼き跡。高台内釉爛れ。	
390	1138	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径12.0，高台径（4.8)，高3.3	網田	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ（雑)・重ね焼き跡。高台内釉爛れ。	
391	1142	F86-53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径（11.9)，高台径4.7，高3.6	網田	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
392	1094	F86-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径12.8，高台径4.9，高3.6	網田	化学コバルト。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ。高台部釉爛れ。	
393	1143	F86-53,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径13.5，高台径5.3，高3.7	網田	化学コバルト。主文は遠山・松。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
394	1065	F86-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径13.2，高台径5.1，高4.0	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台部アルミナ付着。	
395	1106	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁)	口径12.2，高台径4.7，高3.7	肥前系	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	

第13表　長之間出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
396	1074	F85-54,Ⅱ層下位	磁器染付	皿（玉縁）	口径13.1，高台径5.3，高3.1	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
397	1140	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径12.9，高台径4.6，高4.0	網田？	化学コバルト。主文は花篭？・蝶。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
398	1051	F87-54,Ⅰ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.8），高台径5.7，高4.2	肥前系	化学コバルト。主文は簡略化した霊芝・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
399	1083	F85-53,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径10.1，高台径9.2，高2.6	肥前系	化学コバルト。文様は草花。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。焼き継ぎ。	
400	1072	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	鉢･段重蓋	口径10.7	肥前系	紐は熨斗形。化学コバルト。主文は菊・梅。受部アルミナ塗布。	
401	1076	F86-54,Ⅱ層下位	磁器染付	鉢･段重蓋	口径10.0，高2.2	肥前系	化学コバルト。文様は花。受部アルミナ塗布。	
402	1160	F85-54,Ⅱ層	磁器 釉下彩	鉢･段重蓋	口径10.0，高2.0	肥前	文様は花・蔓草。線描は化学コバルト・緑色(草)。塗りは淡赤色（花弁）。	
403	1108	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径6.2，高1.1	肥前系	化学コバルト。文様は山水？。内面渦状の凸凹。内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
404	1113	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.4，高1.0	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
405	1107	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.1，高0.8	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
406	1116	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.4，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
407	1115	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
408	1120	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.9	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
409	1114	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.2，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
410	1117	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
411	1112	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
412	1077	F86-54,Ⅱ層下位	磁器染付	薬盒蓋	口径5.1，高2.3	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
413	1110	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
414	1119	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.6，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
415	1118	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高1.0	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面渦状の凸凹。	
416	1109	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.6，高1.1	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀□」。内面見込み渦状の凸凹。	
417	1121	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.3，底径2.9，高1.8	肥前系	内底平滑。内面施釉は底部のみ。	
418	1122	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.5，底径2.8，高1.7	肥前系	内底平滑。内面施釉は底部のみ。	
419	1123	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.5，底径2.8，高1.7	肥前系	内底平滑。	
420	1135	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.6，底径3.3，高1.6	肥前系	内底平滑。内面施釉は底部のみ。	
421	1126	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.8，底径3.0，高1.8	肥前系	内底平滑。	
422	1125	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径（5.5），底径5.5，高1.8	肥前系	内底平滑。内面・受部・外底赤色顔料付着。	
423	1127	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径5.3，底径6.0，高2.0	肥前系	内底平滑。	
424	1124	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.3，底径3.1，高1.6	肥前系	内底平滑。内面施釉は底部のみ。化学コバルト小斑付着。	
425	1132	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.3，底径2.9，高1.8	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	
426	1129	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.4，底径2.8，高1.8	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	
427	1131	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.5，底径3.0，高1.8	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	
428	1134	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.5，底径3.3，高1.9	肥前系	内底平滑。内面施釉は底部のみ。化学コバルト小斑付着。	
429	1133	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.5，底径3.0，高1.8	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	
430	1130	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.4，底径3.9，高1.7	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト小斑付着。	
431	1128	F85-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径4.9，底径3.7，高1.8	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト小斑付着。赤色顔料（紅）付着（受部顕著）。	
432	1078	F86-54,Ⅱ層	白磁	合子身	口径5.2，底径3.3，高2.3	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト斑付着。	

第13表　長之間出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
433	1158	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.8，最大径8.4，高3.5	関西系	白土＋鉄（線描き）・銅緑釉（小円斑）。文様は捻花。	
434	1059	F88-53,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径5.5，最大径8.6，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
435	1088	F85-54,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径5.8，最大径8.3，高3.9	肥前	白土＋銅緑釉。	
436	1917	F85-53,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（5.8），最大径8.6，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
437	1146	F86-53,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.9，高4.0	肥前	白土＋銅緑釉。	
438	1144	F86-53,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径6.2，最大径8.8，高4.1	肥前	白土＋銅緑釉。	
439	1145	F86-53,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径6.0，最大径8.9，高4.0	肥前	白土＋銅緑釉。口縁部アルミナ塗布。	
440	1073	F85-54,Ⅱ層	陶器	土瓶	口径8.3，底径6.4，高11.0	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着顕著。	
441	1090	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	急須	口径6.6，底径6.3，高8.4	不明	化学コバルト。主文は菊？。	
442	1786	F86-53,Ⅱ層下位	陶器	火入	口径9.4，高台径9.4，高6.3	関西系	灰釉（薄く施釉）。鉄絵は串団子？・折松葉・斜格子。口縁部連続的な打ち欠き。	
443	1087	F85-54,Ⅱ層	陶胎染付	火入	口径11.6，高台径10.7，高8.0	肥前系	化学コバルト。主文は松原。外底露胎。内底細砂敷き。口縁部連続的な打ち欠き。	
444	1794	F86-54,Ⅱ層下位	陶器	茶入	口径（3.5），高台径4.8，高6.8	八代？	外底以外施釉。白象嵌＋灰釉。主文は唐草。	
445	1188	F85-54,Ⅲ層	陶器	茶入	口径3.4，高台径4.6，高6.9	八代？	外底以外施釉。白象嵌＋灰釉。主文は唐草。	
446	1154	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.7，高3.0	肥前系	呉須。主文は花唐草。	
447	1162	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径9.0，高3.0	肥前系	呉須。主文は樹木・寿字。見込み「五良太甫」。455とセット。	○
448	1165	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径9.1，高2.9	肥前系	化学コバルト。主文は花。456と組み合う。	○
449	1164	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径9.3，高3.0	肥前系	化学コバルト。主文は花。456と組み合う。	
450	1163	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.9，高2.8	肥前系	化学コバルト。主文は孔雀。	○
451	1170	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.1，高5.9	肥前系	呉須。主文はよろけ縞。	
452	1151	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.5，高5.6	肥前系	呉須。主文は花（素描き）。	
453	1178	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は花（素描き）。	
454	1179	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.5，高台径3.7，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は花（素描き）。	
455	1157	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径4.1，高6.1	肥前系	呉須。主文は樹木・寿字。内底「五良太甫」。447とセット。	○
456	1169	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は花。448・449と組み合う。	○
457	1167	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.8，高台径4.0，高5.8	肥前系	化学コバルト。主文は花篭。	○
458	1168	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.9，高5.6	肥前系	化学コバルト。主文は花篭。	○
459	1166	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径4.0，高5.6	肥前系	化学コバルト。主文は花篭。	○
460	1155	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.0，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は宝珠・花灯内東屋山水。	
461	1180	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.6，高5.7	肥前系	化学コバルト。文様は牡丹・蝶。	
462	1136	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.5，高5.5	肥前系	化学コバルト。主文は蓮（葉脈は墨弾き）。	○
463	1079	F86-54,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.4，高5.2	肥前系	呉須。文様は花・花弁。	○
464	1784	F86-54,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.9，高台径3.2，高5.6	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。二次焼成により歪む。	○
465	1181	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.1，高台径4.1，高5.7	肥前系	外側面面取り(ケズリ)。化学コバルト。主文は花。	○
466	1176	F85-53,Ⅲ層	白磁	菊花皿	口径13.7，高台径8.3，高4.0	肥前	蛇の目凹形高台。口紅。	○
467	1177	F85-53,Ⅲ層	磁器染付	皿(玉縁)	口径13.2，高台径5.3，高4.4	網田	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	○
468	1161	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	鉢・段重蓋	口径9.9，高1.8	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花。受部アルミナ塗布。	
469	1149	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	蓋付鉢	口径12.2，底径11.8，高6.6	肥前系	呉須。主文は花。外底露胎、白土目跡。	
470	1182	F85-54,Ⅲ層	磁器釉下彩	蓋付鉢	口径10.5，高台径7.0，高8.4	肥前	主文は草花・岩。線描は化学コバルト・緑色(草)。塗りは化学コバルト・淡赤色（花弁)。	
471	1150	F85-54,Ⅲ層	磁器釉下彩	段重	口径10.8，高台径10.1，高3.2	肥前	文様は草花。化学コバルト、緑色（草）・にぶい淡赤色（花・実)。	
472	1050	F87-53,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径5.0，高1.0	肥前系	呉須。文様は海浜風景。内面見込み平滑。	
473	1195	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	合子蓋	口径5.5，高0.9	肥前系	化学コバルト。文様は山水文。内面見込み渦状の凸凹。内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
474	1159	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	合子蓋	口径6.5，高1.2	肥前系	化学コバルト。文様は東屋山水。内面見込み渦状の凸凹。	
475	1196	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	合子蓋	口径5.4，高0.9	肥前系	呉須。文様は菖蒲・蝶。内面は見込み平滑、施釉見込みのみ（外周釉剥ぎ)。	

第13表　長之間出土陶磁器類観察表 (4)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
476	1932	F86-53,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高1.2	肥前系	呉須。「肥後/烏犀圓/清田製」(金釘流)。内面見込み平滑。	○
477	1111	F85-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.7	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀円/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
478	1093	F86-54,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.4，高1.0	肥前系	呉須。肥後烏犀円(溶着物顕著)。内面平滑。	○
479	1924	F85-54,Ⅲ層	白磁	合子身	口径5.3，底径5.1，高1.8	肥前系	内底渦状の凸凹。	
480	1199	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.7，最大径9.1，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
481	1198	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.9，高3.4	肥前	白土＋銅緑釉。	
482	1201	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.7，高3.6	肥前	白土＋銅緑釉。	
483	1202	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径6.1，最大径8.5，高3.4	肥前	白土＋銅緑釉。	
484	1200	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径6.4，最大径9.3，高3.8	肥前	白土＋銅緑釉。	
485	1197	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径6.7，最大径9.6，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	
486	1060	F88-54,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径5.4，最大径8.0，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	○
487	1203	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径8.1，高3.5	肥前	白土＋銅緑釉。	○
488	1788	F86-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径6.2，最大径9.2，高3.5	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。	○
489	1922	F85-54,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径8.4，高3.4	肥前	銅緑釉（白化粧無し)。	
490	1204	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径9.7，底径5.2，高2.1	肥前	落し蓋。鉄釉。	
491	1207	F85-53,Ⅲ層	陶器	汽車土瓶	口径8.0，底径6.1，高9.3	関西系	白土掛け。主文は東屋山水。鉄絵（線描)、淡い鉄・銅緑釉（塗り)。外底糸切り離し。	
492	1148	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.6，底径6.4，高10.3	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面煤付着認められず。	
493	1189	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.6，底径6.6，高10.6	肥前	白土＋銅緑釉。未使用品（弦用耳の孔は釉により閉塞、外面下位煤付着認められず)。	
494	1080	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.0，底径6.6，高10.8	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	
495	1174	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.3，底径7.0，高11.3	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	
496	1173	F86-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.3，底径6.5，高10.9	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	
497	1147	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.6，底径6.6，高10.9	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
498	1208	F85-53,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.5，底径6.8，高12.0	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。内面下位は透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
499	1205	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.0，底径6.2，高11.6	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
500	1796	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.1，底径7.5，高11.0	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。外面下位煤付着認められず。	○
501	1206	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.7，底径7.5，高11.9	肥前	白土＋銅緑釉（部分的に赤化)。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
502	1171	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.2，底径6.5，高11.0	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着不明瞭。	
503	1190	F85-54,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.1，底径6.8，高10.6	肥前	外面上位鉄釉、下位白土。内面下位灰釉（白濁)、外面下位煤付着顕著。	
504	1172	F86-54,Ⅲ層	磁器染付	徳利	口径3.4，高台径7.8，高24.6	肥前	口頸部鉄釉。文様は呉須、葡萄。	○
505	1209	F85-54,Ⅲ層	瓦質	火鉢	口縁幅19.8×19·6，高15.5	在地？	板作り、平面方形。四足。外底板目。内面灰・煤付着。外面は炭素吸着。	
506	1175	F85-53,Ⅲ層	土師質	火鉢	口縁幅20.5×21.0，高16.4	在地？	板作り、平面方形。四足。	
507	1186	F85-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.4，高台径3.8，高6.5	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。	
508	1184	F85-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.3，高台径3.8，高6.9	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。	
509	1793	F85-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.3，高台径3.7，高7.1	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。	
510	1185	F85-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径5.3，高台径3.6，高6.7	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。	
511	1545	F86-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.2，底径4.5，高6.1	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は菊花・如意頭（印花)。	○
512	1187	F85-54,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.6，高台径4.7，高6.7	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は菊花・如意頭（印花)。	
513	1183	F85-54,Ⅲ層	陶器	火入	高台径6.3	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。口縁部連続的な打ち欠き。	○
514	1156	F85-53,Ⅲ層	陶器	火入	口径（8.5)，高台径5.9，高8.8	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花)。口縁部連続的な打ち欠き。	○
515	1795	F85-54,Ⅲ層	陶器	水指	口径14.6，高台径11.8，高11.6	小代	刳り高台。管耳。外面横位条線。藁灰釉。	○
516	1194	F85-54,Ⅲ層	白磁	水滴	平面4.3×3.4，高1.6	肥前系	型成形、菊。外底細布目。	

第13表　長之間出土陶磁器類観察表　(5)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
517	1192	F85-54,Ⅲ層	白磁	水滴	平面5.7×4.5，高1.8	肥前系	型成形、牡丹。外底細布目。図右側面は露胎・アルミナ付着。	
518	1193	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	水滴	平面5.6×4.3，高1.5	肥前系	型成形、兎月。化学コバルト？外底細布目。。上面砂粒付着。	
519	1191	F85-54,Ⅲ層	磁器染付	水滴	平面5.6×4.3，高1.6	肥前系	型成形、兎月。化学コバルト？。外底細布目後ナデ。	
520	1062	F88-54,Ⅰ層	磁器染付	小碗	口径8.0，高台径2.8，高4.8	不明	ゴム版絵付け。化学コバルト。主文は南天(濃淡あり)。	

第14表　露地出土陶磁器類観察表　(1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
521	1939	F86-59,Ⅱ層下位	須恵器	蓋	口径（15.1），高1.8	在地	8ｃ後半～9ｃ初頭。外面天井部は切り離し後、粗い静止ヘラケズリ。	
522	1434	F87-57,Ⅱ層	陶器	鉢		中国南部	胎土黄白色粒目立つ。内面ハケメ。体部内外とも泥土塗布（にぶいオリーブ色）。	
523	1623	SBⅢ011	青磁	香炉	口径（11.2）	龍泉窯系	14ｃ代。筒形。	
524	1763	SKⅡ028	磁器染付	端反碗	口径（10.2），高台径（4.2），高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は霊芝（略化）・十字。	
525	1764	SKⅡ028	磁器染付	輪花小皿	口径9.8，高台径6.0，高2.4	志田	内面白化粧＋呉須。口紅。文様は海浜風景。	
526	1040	SKⅢ043	白磁	合子身	口径（5.3），底径（4.3），高1.9	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗付。外底墨書「…/□集課」・朱書（釈読不可）。	
527	1041	SKⅢ043	磁器染付	水滴	平面－×4.0，高1.4	肥前系	型成形、文房具。化学コバルト。外底細布目。外底朱書（釈読不可）。	
528	1691 b	SKⅢ053（＋SKⅢ056）	陶器	不明壷 a	底径（9.3）	在地？	胎土白灰色。肩部穿孔。内外回転ナデ、外面腰部回転ヘラケズリ。銀灰色粒溶着。	○
529	1830	SKⅢ053	陶器	不明壷 a		在地？	胎土白灰色。肩部穿孔。内外とも肩部～胴部回転ナデ。銀灰色粒溶着。	○
530	1604	SKⅢ054	磁器染付	皿（玉縁）	口径（12.0），高台径5.3，高3.4	網田	呉須。主文は松・遠山。高台部釉爛れ。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡。	
531	1831	SKⅢ054	陶器	不明壷 a	底径（8.0）	在地？	胎土白灰色。肩部穿孔。外面胴部回転ナデ、腰部回転ヘラケズリ。内面当て具痕後回転ナデ。銀灰色粒溶着。	○
532	1832	SKⅢ056（＋SKⅢ066）	陶器	不明壷 b	底径（9.4）	在地？	胴部穿孔。外面肩部～胴部回転ナデ、胴部下位回転ヘラケズリ。内面回転ナデ（頸部しぼり痕・肩部ユビ押え）。	
533	1605	SKⅢ057	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.3），高台径5.9，高3.9	肥前系	化学コバルト。主文は霊芝（略化）・十字。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
534	1606	SKⅢ058	磁器染付	端反碗	口径11.4，高台径3.8，高5.5	肥前系	呉須。主文は笹・縞。内底蛇の目釉剥ぎ・重ねた個体の高台部分のみアルミナ付着。	
535	1607	SKⅢ058	磁器染付	火入	口径（9.7），高台径7.3，高8.2	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は桐・草花。内底アルミナ塗布。高台内墨書（不明）。	
536	1691 a	SKⅢ059	陶器	不明壷 a	口径（4.2）	在地？	胎土橙褐色。無釉。内外回転ナデ。	○
537	1609	SKⅢ065	磁器染付	端反碗	口径（11.3），高台径3.9，高5.6	肥前系	呉須。主文は笹・縞。内底蛇の目釉剥ぎ・重ねた個体の高台部分のみアルミナ付着。	
538	1608	SKⅢ065	陶器	土瓶蓋	口径5.0，最大径7.4，高3.6	小代or福岡	鉄釉＋摘み周囲に藁灰釉。	
539	1833	SKⅢ065	陶器	不明壷 b		在地？	胴部穿孔。内外面回転ナデ。	○
540	1610	SKⅢ072（＋SKⅢ083）	磁器染付	端反碗	口径10.9，高台径3.8，高5.2	肥前系	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
541	1688	SKⅢ072	磁器染付	鉢・段重蓋		肥前系	化学コバルト。主文は花。焼き継ぎ・印銘「古手ヤニ」。	
542	1611	SKⅢ081	陶器	土瓶蓋	口径6.6，最大径9.4，高3.6	九州	胎土赤褐色。灰釉。	
543	1834	SKⅢ081（＋SKⅢ085）	陶器	火入	口径（9.3），高台径（9.2），高8.2	龍門司	蛇の目凹形高台。白土＋鉄釉・藁灰釉（垂下）。外底露胎。	
544	1612	SKⅢ082	磁器染付	火入	口径10.1，高台径10.2，高9.6	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花・三階菱内草花。内底・高台内にアルミナ塗布。	
545	1613	SKⅢ083	磁器染付	端反碗	口径10.9，高台径3.7，高5.8	肥前系	呉須。主文は蝙蝠・縞。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
546	1630	SKⅢ083（＋SKⅢ085）	土師質	焜炉	口径32.1，底径24.4，高26.2	在地？	三足。体部ニ重（外枠と内枠の組み合わせ）。内外ナデ。	
547	1210	SKⅢ097	磁器染付	端反碗	口径10.8，高台径4.2，高6.0	肥前系	呉須。主文は蝙蝠・縞。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
548	1360	SKⅢ098	陶器	端反碗	口径（10.0），高台径3.9，高5.3	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は花（印花）。内底三足ハマ跡。赤色顔料付着（破砕後）。	

第14表　露地出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
549	1371	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径（4.0），高6.0	肥前系	呉須。主文は草花・垣根。	
550	1352	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.9，高6.1	肥前系	外面は呉須（細線）・化学コバルト（太線）併用。主文は花。内面は化学コバルト。	
551	1373	SKⅢ098（＋SKⅢ099他）	磁器染付	端反碗	口径（9.6），高台径3.9，高6.3	肥前系	外面は化学コバルト。主文は東屋山水。内底文（鷺）は呉須？。	
552	1381	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径4.0，高5.8	肥前系	化学コバルト？。主文は松・月・舟。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
553	1379	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径9.8，高台径3.8，高5.7	肥前系	化学コバルト。文様は楓。	
554	1374	SKⅢ098（＋SKⅢ099他）	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.2	肥前系	化学コバルト。文様は楓。	
555	1353	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径9.7，高台径3.9，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は草花・蝶。	
556	1355	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径9.7，高台径3.9，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は下り松。	
557	1354	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.8，高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は蓮（葉脈は墨弾き）。	
558	1377	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.7	肥前系	化学コバルト。主文は石榴・蜻蛉、銘「ハマヒロヤキ」（不明）。	
559	1357	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径4.0，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は石榴・蝶。内底三足ハマ跡。	
560	1349	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.5	肥前系	化学コバルト。主文は石榴・蝶。内底三足ハマ跡。	
561	1385	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径4.2，高6.2	肥前系	化学コバルト。主文は花。内底四足ハマ痕。	
562	1384	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.5，高台径4.3，高5.5	肥前系	人工呉須。文様は花弁。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
563	1356	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.8，高台径4.0，高5.4	肥前系	化学コバルト。主文は草花・蝶。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
564	1376	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.5，高台径4.3，高5.6	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
565	1358	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.6，高台径4.6，高5.7	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
566	1367	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.7，高台径4.2，高5.5	網田？	化学コバルト。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
567	1382	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径4.2，高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
568	1370	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径（3.9），高6.3	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗付。	
569	1383	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.9，高6.3	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
570	1386	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.8，高6.3	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底重ね焼き跡・アルミナ付着。	
571	1369	SKⅢ098	磁器染付	端反碗	口径（10.4），高台径3.7，高5.6	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は菊。	
572	1372	SKⅢ098（＋SKⅢ099）	磁器染付	端反碗	口径（10.1），高台径3.9，高5.9	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は菊花。	
573	1378	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.7，高6.0	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花篭。	
574	1359	SKⅢ098	磁器染付	丸碗	口径9.2，高台径3.2，高4.9	肥前系	呉須。文様（内面）は扇。	
575	1388	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	丸碗	口径9.4，高台径3.2，高5.0	肥前系	呉須。文様（内面）は梅。	
576	1380	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	丸碗	口径9.8，高台径3.2，高5.0	肥前系	呉須。文様（内面）は梅。	
577	1387	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	丸碗	口径9.3，高台径3.3，高4.9	肥前系	呉須。文様（内面）は唐子・蝶。	
578	1340	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径5.5，高台径3.1，高4.9	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
579	1344	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径3.0，高5.0	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
580	1342	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径5.3，高台径3.0，高4.9	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
581	1368	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径5.6，高台径3.1，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
582	1339	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.1，高5.2	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
583	1391	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径5.6，高台径3.0，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
584	1390	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径3.1，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	

第14表　露地出土陶磁器類観察表　⑶

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
585	1392	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径5.6，高台径3.2，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
586	1394	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.2，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
587	1346	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径5.9，高台径3.2，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
588	1345	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.1，高4.9	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
589	1341	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径6.1，高台径3.2，高5.2	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
590	1393	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.2，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
591	1343	SKⅢ098	磁器染付	小丸碗	口径6.3，高台径3.0，高4.7	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
592	1389	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.2，高5.1	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
593	1347	SKⅢ098	磁器染付	湯呑碗	口径7.2，高台径4.3，高6.0	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花・窓内松島。	
594	1348	SKⅢ098	磁器染付	湯呑碗	口径7.0，高台径4.0，高6.7	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花篭。	
595	1395	SKⅢ098（＋SKⅢ100）	磁器染付	小坏	口径6.9，高台径3.0，高4.5	肥前系	呉須（ダミ濃淡あり）。主分は雀。高台内銘「楽亭造」。	
596	1364	SKⅢ098	白磁	小皿	口径9.8，高台径4.9，高2.1	瀬戸美濃	寿字文皿。木型打ち込み成形。	
597	1361	SKⅢ098	磁器染付	鉢・段重蓋	口径10.2，高1.9	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。文様は小花。	
598	1362	SKⅢ098	磁器釉下彩	鉢・段重蓋	口径10.0，高1.8	肥前	文様は草花。線描は化学コバルト・緑(草)、塗りは化学コバルト(淡)。受部アルミナ塗布。	
599	1365	SKⅢ098	磁器染付	合子蓋	口径6.2，高0.9	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面見込み平滑。内面露胎部赤色顔料付着。	
600	1366	SKⅢ098	白磁	合子身	口径5.3，底径4.7，高2.0	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。内面露胎部赤色顔料付着。	
601	1350	SKⅢ098	磁器染付	火入	口径9.9，高台径7.5，高8.3	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は桐・草花。内底アルミナ塗布。高台内墨書（不明）。	
602	1375	SKⅢ098（＋SKⅢ099他）	磁器染付	火入	高台径10.3，高9.5	肥前系	化学コバルト。上位文様は型紙摺り（蜘蛛の巣・花・浜千鳥）、下位は手描き（草）。底部内外アルミナ塗布。口縁部内側打ち欠き。	
603	1351	SKⅢ098	磁器染付	湯呑碗	口径8.2，高台径5.0，高8.4	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。主文は腰部に変形蓮弁。	
604	1363	SKⅢ098	白磁	小皿	口径（10.5），高台径5.8，高2.6	不明	胎土ガラス質。化学コバルト小斑付着。	
605	1399	SKⅢ099	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径4.2，高6.1	肥前系	呉須。主文は竜田川。高台部アルミナ付着。	
606	1398	SKⅢ099	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径3.1，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
607	1397	SKⅢ099	白磁	小皿	口径10.0，高台径5.3，高1.8	瀬戸美濃	壽字文皿。木型打ち込み成形。	
608	1396	SKⅢ099	磁器染付	合子蓋	口径6.0，高0.8	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面見込み平滑。内面露胎部赤色顔料付着。	
609	1400	SKⅢ099（＋SKⅢ100）	磁器染付	火入	口径10.1，高台径8.1，高8.5	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は桐・草花。内底アルミナ塗布。高台内墨書は上下に「下丁？」・左右に「通町」、城下の下通町を表す？。	
610	1418	SKⅢ099	陶器	土瓶	口径7.8，底径（8.5），高11.7	肥前	鉄釉。外面下位煤付着認められず。	
611	1405	SKⅢ100	磁器色絵	碗	口径12.2，高台径4.1，高5.7	肥前系？	胎土淡灰色（やや粗）。主文は竹。線描（こげ茶色・赤色）、塗り（黄色・緑色）。字銘「三更明/白獄間」（こげ茶色）、「吉」（赤色）。	
612	1415	SKⅢ100（＋SBⅡ002）	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径（3.8），高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は草花。	
613	1402	SKⅢ100	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径4.0，高5.8	肥前系	化学コバルト？。主文（滲む）は松・月・舟。内底蛇の目釉剥ぎ。	
614	1404	SKⅢ100	磁器染付	端反碗	口径11.9，高台径4.2，高5.2	肥前系	化学コバルト。文様は花弁。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
615	1401	SKⅢ100	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.7，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底重ね焼き跡・アルミナ付着。	
616	1403	SKⅢ100	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底重ね焼き跡・アルミナ付着。	
617	1408	SKⅢ100	磁器染付	丸碗	口径9.1，高台径3.2，高4.7	肥前系	呉須。文様（内面）は扇。	
618	1406	SKⅢ100	磁器染付	丸碗	口径9.6，高台径3.4，高4.8	肥前系	呉須。文様（内面）は唐子・蝶。	
619	1407	SKⅢ100	磁器染付	丸碗	口径9.2，高台径3.2，高4.8	肥前系	呉須。文様（内面）は唐子・蝶。	
620	1410	SKⅢ100	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径2.9，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
621	1411	SKⅢ100	磁器染付	小丸碗	口径6.2，高台径3.1，高4.9	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
622	1412	SKⅢ100	磁器染付	小丸碗	口径6.1，高台径3.2，高5.4	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
623	1413	SKⅢ100	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.1，高5.8	網田？	胎土淡灰色。化学コバルト。文様は菖蒲･蝶2頭。	

第14表　露地出土陶磁器類観察表 (4)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
624	1409	SKⅢ100	磁器染付	湯呑碗	口径6.9，高台径4.3，高6.3	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花・窓内松島。	
625	1416	SKⅢ100 (＋SKⅢ005他)	磁器染付	蓋付鉢	口径10.9，高台径8.4，高8.9	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は小花。	
626	1414	SKⅢ100	磁器染付	水滴	平面9.7×6.7，高2.0	肥前系	大ぶり。型成形、鶴・松・富士。化学コバルト。外底細布目。	
627	1625	SBⅢ001	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.9，高6.2	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
628	1827	SBⅢ001	磁器染付	小丸碗	口径6.1，高台径3.1，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
629	1626	SBⅢ001	磁器染付	平形碗	口径（9.8），高台径3.8，高4.7	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は草花。	
630	1624	SBⅢ001	白磁	捏鉢	口径15.3，高台径7.6，高7.4	不明	胎土は淡灰色、やや粗。内面露胎、カキメ。内底重ね焼き跡（碗高台付着）。	
631	1809	SBⅡ002	陶器	端反椀	口径（11.4），高台径4.3，高6.4	球磨郡？	藁灰釉。内底足付きハマ跡（４箇）。	
632	1549	SBⅡ002	磁器染付	端反碗	口径10.7，高台径4.1，高6.1	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
633	1550	SBⅡ002	磁器染付	小丸碗	口径6.3，高台径3.1，高5.2	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
634	1686	SBⅡ002	白磁	合子身	口径5.6，底径5.0，高2.6	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。外底墨書「幕僚」（濃）・他不明（淡）。	
635	1622	SBⅡ002	磁器染付	湯呑碗	口径7.9，高台径5.1，高8.1	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。主文は変形蓮弁。	
636	1766	SXⅡ002	陶器	碗	口径10.9，高台径4.1，高6.3	球磨郡？	灰釉＋藁灰釉。内底三足ハマ跡。	
637	1765	SXⅡ002	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.1，高6.1	肥前系	呉須。主文は楓。	
638	1767	SXⅡ002	白磁	合子身	口径4.5，底径3.1，高2.1	肥前系	受部アルミナ付着。内底渦状の凸凹。	
639	1769	SXⅡ002	陶器	土瓶蓋	口径6.9，最大径9.4，高3.6	九州	胎土赤褐色（肥前より粗い）。銅緑釉。	
640	1770	SXⅡ002	陶器	土瓶蓋	口径6.7，最大径10.0，高3.3	九州	胎土灰色。褐釉。	
641	1768	SXⅡ002	陶器	土瓶蓋	口径9.8，底径3.6，高2.6	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉。	○
642	1771	SXⅡ002	瓦質	焜炉	口径17.4，高19.1	在地？	瓶掛け。刳り高台。炭素吸着は斑、焼成不良部分は土師質。	
643	1069	SPⅢ032	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径4.1，高5.9	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は松皮菱の窓内花・蝶。	
644	1628	SXⅢ046	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.5，高3.6	肥前	白土＋銅緑釉。	
645	1627	SXⅢ042	磁器染付	端反碗	口径（9.9),高台径（3.7），高5.7	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は草花。	
646	1431	F87-57,Ⅱ層	磁器染付	端反碗蓋	口径（9.3），高3.3	肥前系	呉須。主文は楓。見込み蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
647	1548	Aトレンチ,Ⅰ層	磁器染付	端反碗蓋	口径9.2，高2.7	肥前系	呉須。主文は花。	
648	1430	F87-57,Ⅱ層	磁器色絵	碗蓋	口径9.6，高2.5	瀬戸美濃	呉須上絵。主文は捻花。	
649	1421	F85-56,Ⅱ層上位	陶器	碗	口径（9.2），高台径5.0，高6.6	小代	藁灰釉。高台内刻印「牝小路」。	
650	1096	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.5，高台径3.8，高6.0	肥前系	呉須。主文は雪輪・笹・縞。	
651	1099	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径（3.8），高6.2	肥前系	呉須。主文は草花・垣根。	
652	1432	F87-57,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径（10.3），高台径3.8，高5.9	肥前系	呉須。主文は丸（縞・格子）。	
653	1100	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径4.6，高5.7	網田？	化学コバルト。主文は花。内底蛇の目釉剥ぎ。	
654	1422	F85-56,Ⅱ層下位	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.1，高6.2	肥前系	化学コバルト。主文は浜千鳥。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
655	1755	F88-60,Ⅱa層	磁器	端反碗	口径11.0，高台径4.2，高5.9	肥前系	化学コバルト。文様は草花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
656	1101	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径11.1，高台径4.2，高6.5	肥前系	化学コバルト。文様は花弁。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
657	1428	F87-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.2，高5.5	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。	
658	1938	F86-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径（6.2），高台径(3.2)，高5.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	
659	1429	F87-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.6，高台径3.0，高5.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	
660	1790	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径3.2，高4.9	網田？	化学コバルト(線描きは呉須？)。菖蒲･蝶２頭。	
661	1489	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.2，高5.0	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
662	1419	F88-57,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.1，高5.0	網田？	化学コバルト（線描きは呉須？）。文様は菖蒲・蝶２頭。	
663	1789	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径5.7，高台径3.1，高5.0	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
664	1103	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径5.8，高台径3.0，高5.2	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	
665	1056	F87-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.0，高台径3.2，高5.2	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶２頭。	

第14表　露地出土陶磁器類観察表　⑸

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
666	1098	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径6.5，高台径3.4，高4.9	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
667	1946	F87-57,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径(5.9)，高台径(3.0)，高4.7	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。文様は桜。	
668	1097	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.7，高台径3.9，高6.8	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花篭。	
669	1054	F87-55,Ⅰ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.3，高台径4.1，高6.2	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花・窓内松島。	
670	1102	F86-55,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.0，高台径4.1，高6.1	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は花・窓内松島。	
671	1426	F86-58,Ⅱ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.9，高台径4.3，高5.7	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	
672	1814	F86-60,Ⅱ層	土師質	坏	口径（11.4），底径6.2，高1.9	在地？	外面は腰部～底部回転ヘラケズリ、後底部中央ナデ。	
673	1816	F88-60,Ⅱa層	土師質	坏	口径（13.8），底径7.3，高2.9	在地？	外面は腰部～底部回転ヘラケズリ。内面・破面に油煙付着顕著。	
674	1433	F87-57,Ⅱ層	陶器	皿	口径（17.2），高台径7.0，高5.9	内野山	内面白土流し掛け。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡（細砂付着）。	
675	1063	F88-55,Ⅰ層	磁器染付	小皿	口径9.7，高台径4.2，高2.4	肥前系	化学コバルト。主文は鳥居・山。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
676	1064	F88-55,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径（13.5），高台径5.1，高4.0	網田？	呉須。主文草花。蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
677	1057	F87-55,Ⅰ層	磁器染付	輪花皿	口径（13.7），高台径7.9，高3.8	肥前系	蛇の目凹形高台。型紙摺り。化学コバルト。主文は藤・牡丹。	
678	1105	F88-55,Ⅱ層	磁器染付	脚付小皿	口径9.8，脚台径4.1，高4.4	肥前系	小形縁皿＋脚台。清朝模倣。化学コバルト。主文は草花。	
679	1420	F87-57,Ⅱ層	磁器染付	蓋付鉢	口径（11.9），高台径6.9，高7.6	肥前系	呉須。主文は花。	
680	1941	F87-55,Ⅱ層	磁器染付	段重	口径（11.2），高台径（10.2），高2.3	肥前系	化学コバルト。文様は丸・瑞雲。腰部アルミナ塗布。	
681	1091	F85-55,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径4.5，高1.7	肥前系	小形。鈕は熨斗形。呉須。文様は圏線（グラデーション）。	
682	1815	F87-60,Ⅰ層	磁器染付	薬盒蓋	口径（5.4），高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
683	1435	F87-58,Ⅱ層	磁器染付	合子蓋	口径6.3，高0.9	肥前系	呉須。文様東屋山水。内面見込みほぼ平滑。畳付・内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
684	1945	F87-57,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径6.8，高1.2	肥前系	化学コバルト。文様は東屋山水。内面平滑。	
685	1760	F88-60,Ⅱａ層	磁器染付	合子蓋	口径6.1，高1.1	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面渦状の凸凹。内面赤色顔料付着。	
686	1055	F87-55,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径6.2，高0.9	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面赤色顔料（紅）付着。内面見込み渦状の凸凹。	
687	1935	F86-56,Ⅱ層	白磁	合子身	口径（4.7），底径4.2，高2.1	肥前系	内底平滑。外底墨書は中心に「熊本鎮台/司契判」・周辺に「下閑」（他2文字不明）。	
688	1427	F87-56,Ⅱ層	白磁	合子身	口径5.7，底径5.1，高1.9	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。外底墨書「専□/テ余/賣??」。	
689	1925	F85-56,Ⅱ層	磁器染付	急須	口径（6.6），底径6.0，高8.3	不明	化学コバルト。文様不明。露胎部墨書「通運會社」・「明治十八/年五月/需要之ス」。	
690	1425	F86-58,Ⅱ層	陶器	小壷？蓋	口径3.4，最大径5.1，高1.0	関西系	灰釉。	
691	1762	F86-59,Ⅱｂ層	陶器	土瓶蓋	口径6.1，高台径8.9，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。	○
692	1934	F86-56,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（9.4），底径4.3，高1.9	肥前	落し蓋。鉄釉。	
693	1927	F85-59,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径（8.4），底径3.0，高2.1	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉。	
694	1423	F86-57,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径9.3，底径3.2，高3.1	小代or福岡	落し蓋。藁灰釉。	
695	1061	F88-55,Ⅰ層	陶器	飴壷？	底径3.8	上野？	飴壷としては底部器壁薄い。外底糸切り離し。鉄釉（内面は爛れる）。外面下位露胎。	
696	3012	F87-58,Ⅱ層	陶器	火入	底径（9.6）	龍門司	白土＋灰釉・藁灰釉。蛇の目凹形高台。	
697	1436	F87-58,Ⅱ層	磁器染付	火入	口径（10.3），高台径9.5，高9.0	肥前系	化学コバルト。主文は富士（三保の松原？）・宝。外底露胎。内底細アルミナ塗布。	
698	1053	F87-55,Ⅰ層	青磁	火入	口径（10.4）	瀬戸美濃	胎土ややガラス質。	
699	1926	F85-58,Ⅱ層	白磁	戸車	外径9.2，孔径2.6～2.8，厚1.7	肥前系	大形。側面のみ施釉。平面アルミナ塗布。	
700	1937	F86-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径（6.3），高台径（3.2），高5.2	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	○
701	1936	F86-56,床上	陶器	土瓶蓋	口径6.0，最大径8.9，高4.0	肥前	白土＋銅緑釉。	
702	1424	F86-57,Ⅲ層	磁器染付	水滴	平面6.0×3.7，高2.1	肥前系	型成形、菊花形。化学コバルト？。外底布目。	
703	1058	F87-55,Ⅰ層	陶器	ドアノブ	外径5.6，厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土（灰色・にぶい橙色・赤褐色）。鉄釉。凹部にネジ山・軸を固定するための穴。	○
704	1874	F86-56,Ⅰ層	白磁	湯呑碗	口径（6.9），高台径4.0，高7.8	不明	泥漿流し込み成形。	

第15表　西廊下出土陶磁器類観察表

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
705	1279	SDⅢ027（＋F88-60,Ⅲ層）	磁器染付	平形碗蓋	口径9.9，高2.3	肥前系	化学コバルト。主文は唐人・漢詩？。134とセット。	
706	1211	SDⅢ027,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.9，高5.7	肥前系	化学コバルト。主文は花。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
707	1213	SDⅢ027,Ⅲ層（＋F88-60,Ⅲ層）	磁器染付	端反碗	口径9.2，高台径3.6，高5.9	肥前系	化学コバルト。文様は牡丹・蝶。	
708	1270	SDⅢ027	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.4，高5.6	肥前系	呉須。主文は薄。	
709	1272	SDⅢ027	磁器染付	皿（玉縁）	口径13.8，高台径5.3，高4.2	網田	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥（雑）・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
710	1271	SDⅢ027	磁器染付	皿（玉縁）	口径14.0，高台径5.6，高4.2	網田？	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）＋重ね焼き跡。畳付焼き台の粗土付着顕著。	
711	1273	SDⅢ027	磁器染付	皿（玉縁）	口径14.0，高台径5.5，高4.2	網田？	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き痕。	
712	1278	SDⅢ027	磁器染付	輪花中皿	口径18.6，高台径11.0，高2.8	肥前系	薄手。呉須？(発色淡い)。主文は金魚・水草。	
713	1274	SDⅢ027	磁器染付	蓋付鉢	口径（10.9），高台径（6.6），高8.9	肥前系	化学コバルト。主文は花唐草。高台内側面細砂付着。	
714	1268	SDⅢ027	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径8.6，高3.7	肥前	白土＋銅緑釉。口縁部アルミナ付着。	
715	1269	SDⅢ027	陶器	土瓶蓋	口径5.9，最大径8.6，高3.9	肥前	白土＋銅緑釉。	
716	1281	SDⅢ027	陶器	土瓶	口径8.4，底径（6.8），高10.2	肥前	白土＋銅緑釉。外面下位は煤付着。	
717	1280	SDⅢ027	陶器	土瓶	口径7.6，底径6.3，高10.6	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位は透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
718	1282	SDⅢ027	土師質	火鉢	口縁幅19.8，高15.2	在地？	板作り、平面方形。四足。口縁部内端は表面擦れ（薄い剥落）。	
719	1745	SDⅢ027	土師質	便槽甕	口径57.2，底径24.0，高55.0	在地？	外面胴部中位ヘラケズリ後粘土ナデツケ。内面屎尿の固着物あり。	
720	1812	SXⅡ002	磁器染付	端反碗	口径（10.9），高台径3.8，高5.3	肥前系	呉須。主文はよろけ縞。内底アルミナ付着（釉剥ぎ無し）、高台部アルミナ付着顕著。	
721	1212	F88-60,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径9.8，高台径3.9，高5.9	肥前系	化学コバルト。文様は楓。	
722	1217	F88-60,Ⅲ層	磁器染付	丸碗	口径9.6，高台径3.3，高4.8	肥前系	呉須。文様（内面）は唐子･蝶。	
723	1751	F87-60,Ⅰ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.8，高台径（4.0），高5.9	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	○
724	1750	F86-61,Ⅰ層	陶器	小坏	口径6.3，高台径2.5，高3.8	八代	白象嵌＋灰釉。文様は桜花（印花、シャープ）。高台内中央巴状。	○
725	1758	F86-61,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	○
726	1756	F86-61,Ⅲ層	陶器	急須蓋	口径3.6	八代	灰釉。727とセット。	○
727	1757	F86-61,Ⅲ層	陶器	急須	口径4.0，底径4.1，高5.4	八代	象嵌（文様シャープ）＋灰釉。文様は三日月（白）・蝙蝠（黒）。外底露胎。726とセット。	○
728	1953	F88-60,Ⅲ層	紫泥陶器	急須蓋	口径6.6，高2.0	関西	無釉、表面褐色。型成形、細布目。上面は円形の連続押圧痕。摘みは可動（回転）。	
729	1752	F87-60,Ⅰ層	陶器	灰落し	口径4.5，高台径3.7，高7.0	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花）。	○
730	1753	F87-61,Ⅰ層	白磁	水滴	平面5.6×4.1，高71.8	肥前系	型成形、牡丹。内面ナデ。外底細布目。	○

第16表　小広間出土陶磁器類観察表（1）

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
731	1324	F90-56,Ⅲ層	磁器青花	皿	高台径6.4	漳州系	白化粧認められず。内底蛇の目釉剥ぎ。	
732	1301	F91-55,Ⅰ層	磁器染付	小坏	口径6.7，高台径2.9，高4.0	肥前	17ｃ中葉。呉須。主文は岩・草花。	○
733	1277	SDⅢ001	磁器染付	端反碗	口径（9.9），高台径3.6，高5.6	肥前系	化学コバルト。主文は菖蒲・雲（雲文は墨弾き）。761とセット。	○
734	1275	SDⅢ001	磁器染付	湯呑碗	口径7.1，高台径4.4，高5.7	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	○
735	1276	SDⅢ001	磁器染付	湯呑碗	口径8.2，高台径4.7，高6.9	肥前系	化学コバルト。主文は東屋山水。	○
736	1417	SDⅢ002（＋SDⅢ027,Ⅲ層）	磁器染付	小丸碗	口径6.8，高台径3.4，高5.9	肥前系	胎土淡灰色。呉須。主文は薄。	
737	1629	SDⅢ002（＋F88-55,Ⅲ層）	陶器	鉢	口径27.3，底径（14.7），高19.6	小代or福岡	灰釉＋i藁灰釉。	○
738	1811	SKⅡ021	白磁	合子身	口径5.1，底径5.0，高1.8	肥前系	内底渦状の凸凹。化学コバルト小斑付着。	
739	1603	SJⅢ001,3層	陶器	碗	口径（9.9），高台径5.0，高8.1	小代	藁灰釉。高台内は刻印「牝小路」・墨書「□水」。	
740	3009	F90-56,Ⅰ層	磁器染付	碗	口径（8.4）	肥前系	文様は呉須、丁寧な手描き（線描・塗りとも）、杏葉紋。	
741	1283	F89-57,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.8，高5.9	肥前系	化学コバルト。主文は草花。	

第16表　小広間出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
742	1298	F91-54,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.9，高5.5	肥前系	化学コバルト。主文は蝙蝠。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
743	1296	F91-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.3，高台径3.3，高5.4	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。	
744	1299	F91-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.5，高台径3.2，高5.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	
745	1976	F90-54,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.6，高台径3.4，高5.4	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	
746	1965	F89-60,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径（6.6），高台径3.5，高5.7	肥前系	呉須。主文は薄。	
747	1305	F89-57,Ⅱ層	磁器染付	小丸碗	口径5.9，高台径3.1，高4.8	網田？	化学コバルト。文様は菖蒲・蝶2頭。	
748	1303	F91-56,Ⅰ層	磁器染付	平形碗	口径11.6，高台径4.5，高5.0	肥前系	化学コバルト。主文は松竹梅。	
749	1963	F89-59,Ⅰ層	磁器染付	小坏	口径（6.5），高台径2.9，高3.9	肥前系	呉須。主文は菊。	
750	1304	F89-56,Ⅱ層	磁器染付	小皿	口径9.1，高台径3.9，高2.6	肥前系	呉須。主文は草花。内底蛇の目釉剥ぎ。内面赤色顔料（紅）付着。	
751	1306	F89-57,Ⅱ層	磁器染付	皿	口径12.9，高台径5.5，高3.0	網田？	呉須？。主文は松・遠山。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡。高台部釉爛れ。	
752	1322	F90-56,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径13.2，高台径5.0，高4.0	網田？	化学コバルト。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き痕。高台部釉爛れ。	
753	1321	F90-56,Ⅱ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径12.4，高台径4.8，高3.8	肥前系	化学コバルト。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き痕。	
754	1817	F90-58,Ⅰ層	白磁	合子身	口径4.8，底径4.6，高1.8	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。	
755	1979	F91-55,Ⅰ層	白磁	合子身	口径（4.8），底径4.8，高1.6	肥前系	内底渦状の凸凹。	
756	1978	F91-55,Ⅰ層	白磁	合子身	口径5.4，底径3.6，高2.1	肥前系	内底渦状の凸凹。受部アルミナ塗布。外面化学コバルト斑付着。	
757	1742	F89-56,Ⅱ層	土師質	便槽甕	口径49.1，底径22.7，高46.3	在地？	外面器面荒れ。ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ、屎尿の固着物あり。	
758	1955	F89-56,Ⅱ層	磁器染付	火入	口径（10.6），高台径7.4，高8.5	肥前系	化学コバルト。主文は瓔珞。外側面凹線部は釉剥ぎ。高台内露胎。内底アルミナ塗布。	
759	1291	F90-56,Ⅰ層	陶器	水指	口径8.7，高台径10.2，高16.2	小代	白土掛け流し＋灰釉。外底露胎。	
760	3001	F91-58,Ⅰ層	硬質陶器	ローゼット	底径（9.8）	イギリス	型成形。灰釉、底部拭き取り。	○
761	1308	F90-58,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.4，高3.1	肥前系	化学コバルト。主文は菖蒲・雲（雲文の渦は墨弾き）。733とセット。	
762	1338	F91-61,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.8，高3.0	肥前系	化学コバルト。主文は花・寿字（素描き）。	○
763	1761	F91-59,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.5，高台径3.8，高6.1	肥前系	呉須。主文は浜千鳥。畳付アルミナ付着。	
764	1334	F89-58,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径6.5，高台径3.4，高5.4	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。	○
765	1962	F89-58,Ⅲ層（＋F90-58,Ⅲ層）	磁器染付	小丸碗	口径6.5，高台径3.2，高5.2	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。	○
766	1910	F89-57,Ⅲ層（＋F89-57,Ⅲ層）	磁器染付	小丸碗	口径6.8，高台径3.3，高5.6	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄）。	○
767	1967	F90-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.1，高台径3.0，高5.4	肥前系	胎土淡灰色、緻密。呉須。主文は楓。	○
768	1300	F91-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.1，高5.2	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	○
769	1290	F90-55,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.0，高5.3	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	○
770	1818	F91-58,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径（3.0），高5.3	肥前系	胎土灰白色粒。呉須。文様は楓。	○
771	1289	F90-54,Ⅰ層	磁器染付	小丸碗	口径6.4，高台径3.3，高5.4	肥前系	胎土淡灰色。呉須。文様は楓。	○
772	1216	F89-60,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.0，高台径（3.9），高5.9	肥前系	呉須。主文は竹林七賢図。	○
773	1337	F91-61,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径6.6，高台径4.1，高6.0	肥前系	化学コバルト。主文は竹林七賢図。	○
774	1323	F89-56,Ⅲ層	磁器染付	湯呑碗	口径7.5，高台径4.5，高6.9	肥前系	化学コバルト。主文は花（花弁脈は墨弾き）。	
775	1287	F90-54,Ⅰ層	陶器	小坏	口径5.7，高台径2.6，高5.7	萩	灰釉。切り高台。	○
776	1775	F90-59,Ⅱ層	磁器染付	蓋付鉢	口径11.2，高台径7.5，高8.9	肥前系	化学コバルト。文様は横縞。凹線（口縁部と胴中位括れ部）は釉剥ぎ後鉄漿塗布。	○
777	1311	F89-59,Ⅱ層	磁器染付	蓋付鉢	口径14.9，高台径8.3，高7.2	肥前系	化学コバルト。主文は草花。歪む（二次焼成）。	○
778	1332	F89-58,Ⅲ層	磁器染付	段重	口径8.1，高台径7.2，高3.0	肥前系	小形。呉須。主文は竹・花。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	○
779	1288	F90-54,Ⅰ層	磁器染付	段重	口径11.6，底径10.9，高2.5	肥前系	化学コバルト。文様は横縞・花。腰部釉剥ぎ・アルミナ塗布。	○
780	1759	F91-58,Ⅲ層	磁器染付	合子蓋	口径7.5，高1.4	肥前系	呉須。文様は東屋山水。内面見込み平滑。	
781	1302	F91-55,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径6.1，高1.0	肥前系	化学コバルト。文様は東屋山水。内面見込みは渦状の凸凹。	○
782	1959	F89-57,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.5，高1.0	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面平滑。	○
783	1330	F89-58,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.8，高1.1	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面平滑。	

第16表　小広間出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
784	1335	F90-61,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.0，高0.7	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	○
785	1975	F90-61,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.4，高0.8	肥前系	呉須。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	○
786	1310	F89-59,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.8	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/半廻入」。内面見込み平滑。	○
787	1331	F89-58,Ⅲ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.9，高0.9	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	
788	1307	F89-58,Ⅱ層	磁器染付	薬盒蓋	口径5.3，高0.9	肥前系	化学コバルト。「渡辺/肥後烏犀圓/一廻入」。内面見込み渦状の凸凹。	○
789	1333	F89-58,Ⅲ層	白磁	合子身	口径3.9，底径3.8，高1.8	肥前系	内底平滑。	
790	1974	F90-61,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.3，底径3.0，高1.9	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。	○
791	1326	F90-57,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.5，底径4.5，高1.9	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。	
792	1325	F90-57,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.9，底径5.3，高1.9	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。	
793	1961	F89-57,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.9，底径5.0，高1.8	肥前系	内底平滑。受部アルミナ塗布。	○
794	1957	F89-56,Ⅲ層	白磁	合子身	口径3.4，底径2.8，高1.6	肥前系	内底平滑。外面化学コバルト小斑付着。	
795	1336	F90-61,Ⅲ層	白磁	合子身	口径4.1，底径3.1，高1.7	肥前系	内底平滑。化学コバルト小斑付着。	○
796	1774	F90-59,Ⅱ層	陶器	鉢	口径27.6，高台径10.3，高13.0	肥前	鉄釉。砂敷き窯詰め法。	○
797	1295	F91-55,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径8.1，高3.5	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化）。	○
798	1294	F91-55,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径6.0，最大径9.1，高3.5	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化）。	○
799	1293	F91-55,Ⅰ層	陶器	土瓶	口径7.0，底径6.8，高10.6	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化）。内面下位は透明釉。外面下位煤付着認められず。	○
800	3008	F89-60,Ⅲ層	炻器	瓶	口径5.8	ヨーロッパ	胎土灰色・緻密。内外塩釉。挽き上げ痕明瞭。	
801	1907	F84-57,Ⅲ層 （＋F89-57,Ⅲ層）	紫泥陶器	小壷 （茶入？）	口径（4.0），底径（3.8），高3.6	関西	無釉。内外とも平滑（ナデ）。外底回転ヘラケズリ、中央に陰印刻「孟」（孟臣？）。	
802	1309	F89-58,Ⅱ層	陶器	壷	口径15.8，高台径9.5，高13.9	信楽？	胎土明灰色、長石粒多。鉄釉。外面腰部～高台部回転ナデ。内底胎土目（４箇）。	○
803	1754	F91-58,Ⅰ層	陶器	灰落し	口径4.8，高台径3.7，高6.3	松尾	白象嵌＋灰釉。剣先・桜花（印花）。	○
804	1327	F90-57,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.1，高台径4.5，高7.0	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印文）。	○
805	1328	F89-58,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.4，高台径4.2，高7.2	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印文）。	○
806	1972	F90-59,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.2，高台径3.8，高7.2	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・桜花（印花）。	○
807	1329	F89-58,Ⅲ層	陶器	灰落し	口径4.8，高台径4.4，高7.6	松尾	白象嵌＋灰釉。主文は剣先・花（印文）。	○
808	1490	F89－57,Ⅱ層	陶器	灰落し	口径（3.4），高台径4.6，高8.2	八代	白象嵌＋灰釉。主文は花（印花）。	○
809	1215	F89-60,Ⅰ層	磁器染付	煙管雁首	火皿径1.3	肥前系	化学コバルト。両側面に横線。金属製煙管の小泉Ⅵ期に近似。	○
810	1214	F89-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径（1.3），底径（4.4），高4.4	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外面総釉）。内面挽き上げ痕。	○
811	1970	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径（1.3），底径4.3，高5.3	イギリス	塩釉（外面総釉）。内面挽き上げ痕。溶着物顕著。	○
812	1969	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径（1.3），底径4.3，高5.5	イギリス	胎土淡灰色、緻密。塩釉（外面総釉）。内外とも挽き上げ痕。	○
813	1316	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.5，高5.1	イギリス	胎土浅黄橙色・緻密。塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。	○
814	1284	F89-59,Ⅰ層	炻器	インク瓶	口径1.7，底径4.1，高5.1	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉。外側面挽き上げ痕。	○
815	1319	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.2，高5.2	イギリス	塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。	○
816	1317	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.1，高5.3	イギリス	塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。溶着物顕著。	○
817	1320	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.2，高5.3	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。	○
818	1964	F89-59,Ⅰ層	炻器	インク瓶	底径4.4	イギリス	胎土にぶい黄橙色、緻密。塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。	○
819	1297	F91-54,Ⅰ層	炻器	インク瓶	口径1.7，底径4.2，高5.0	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外底面露胎）。溶着物顕著。	○
820	1286	F89-59,Ⅰ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.5，高5.0	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外面総釉）。	○
821	1968	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.7，底径4.7，高5.0	イギリス	胎土淡灰色、緻密。塩釉（外面総釉）。溶着物顕著。	○
822	1285	F89-59,Ⅰ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.7，高4.9	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外面総釉）。	○
823	1313	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.3，高5.1	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉。溶着物顕著。	○
824	1312	F90-59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.4，底径4.3，高5.1	イギリス	塩釉（外面総釉）。溶着物顕著。	○

第16表　小広間出土陶磁器類観察表 (4)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
825	1315	F90 - 59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.6，底径4.1，高5.4	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉（外面総釉）。	○
826	1971	F90 - 59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径（1.5），底径4.4，高5.3	イギリス	胎土淡灰色、緻密。塩釉（外面総釉）。	○
827	1776	F90 - 59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.6，底径4.2，高5.4	イギリス	胎土淡灰色・緻密。塩釉。溶着物顕著。	○
828	1314	F90 - 59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.6，底径4.3，高5.2	イギリス	胎土浅黄橙色・緻密。塩釉（外底面露胎）。外側面挽き上げ痕。	○
829	1318	F90 - 59,Ⅱ層	炻器	インク瓶	口径1.5，底径4.2，高5.1	イギリス	塩釉（外面総釉）。外側面挽き上げ痕。溶着物顕著。	○
830	1982	F91 - 60,Ⅲ層	白磁	パレット？	口径2.8，底径2.9，高0.7	肥前系	平皿。外底釉剥ぎ。	○
831	1981	F91 - 60,Ⅲ層	白磁	パレット？	口径2.8，底径2.9，高0.8	肥前系	平皿。外底釉剥ぎ。	○
832	1983	F91 - 61,Ⅲ層	白磁	パレット？	口径2.8，底径3.0，高0.8	肥前系	平皿。外底釉剥ぎ。	○
833	3015	F89 - 56,Ⅱ層	陶器	ドアノブ	外径5.8，厚2.8	イギリス？	鉄釉。凹部に金属溶融塊が詰まる（軸）。釉爛れ・溶着物顕著。	○
834	1954	F89 - 55,Ⅰ層	磁器染付	小碗	口径8.8，高台径3.6，高5.0	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。文様は手描き・吹き絵（エアスプレー）、竹。	
835	1973	F90 - 60,Ⅰ層	磁器染付	小碗	口径7.8，高台径3.7，高4.6	不明	胎土ガラス質。吹き絵（エアスプレー）。化学コバルト。口紅。	
836	1292	F90 - 61,Ⅰ層	白磁	碍子	最大径4.0，高5.2	不明	ノップ碍子。低電圧配電用。明治20年頃以降。	

第17表　長局御櫓出土陶磁器類観察表 (1)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
837	1773	F74-47,Ⅱ層	磁器青花	皿		漳州系	芙蓉手。白化粧あり。	
838	1693	F67-46,Ⅲ層	陶器	壷	口径（18.6）	タイ（ノイ窯）	胎土灰白色粒･黄灰色粒目立つ。外面上位は灰釉(くすんだオリーブ色)を雑に施釉。外面上位横ナデ後雑な沈線､下位ヘラケズリ後雑なナデ。	
839	1843	F71-46,Ⅰ層	陶器	碗	高台径（4.6）	関西系？	胎土緻密・灰色・黒色粒目立つ。灰釉。高台内赤色顔料付着、墨書「伍藤/熊本区」。	
840	1703	F73-45,Ⅰ層	陶器	浅碗	口径11.2，高台径4.5，高4.2	球磨郡？	灰釉。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡。	
841	1709	F72-46,Ⅱ層	陶器	碗	口径12.0，高台径4.2，高5.3	一勝地	灰釉。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。高台内に墨書（二次焼成の汚れによ釈読不可)。	○
842	1694	F68-45,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.0	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
843	1698	F68-45,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径（3.7），高6.1	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
844	1700	F72-42,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.9，高5.8	肥前系	呉須。主文は丸（格子・縞)。	
845	1720	F72-46,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.4，高台径3.9，高6.0	肥前系	呉須。主文は花唐草。	
846	1841	F70-47,Ⅱ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径4.1，高5.7	肥前系	化学コバルト。主文は桐・花唐草（葉脈・花弁は墨弾き)。	
847	1846	F71-46,Ⅱ層	土師質	坏	口径（13.2），底径4.9，高2.9	在地？	外面腰部～底部回転ヘラケズリ。	
848	1858	F73-48,Ⅱ層下位	土師質	坏	口径（13.1），高2.8	在地？	外面腰部～底部切り離し後回転ヘラケズリ。	
849	1719	F72-46,Ⅱ層	磁器染付	小皿	口径10.1，高台径5.9，高2.3	肥前	呉須。主文は亀・水草。	
850	1704	F73-45,Ⅰ層	磁器染付	皿（玉縁）	口径11.6，高台径4.7，高3.8	網田	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ（雑）・重ね焼き跡。内底釉爛れ（剥ぎ残った部分)。	
851	1718	F72-46,Ⅱ層	青磁	深皿	口径（13.0），高台径6.5，高5.5	肥前系	蛇の目釉剥ぎ高台。高台内アルミナ付着。	
852	3011	F72-46,Ⅱ層	青磁	深皿	口径（12.9），高台径6.5，高5.6	肥前系	蛇の目凹形高台。高台内アルミナ付着。	
853	1716	F71-47,Ⅱ層	磁器染付	蓋付鉢	口径11.5，高台径7.3，高8.5	肥前系	化学コバルト。主文は市松。	
854	1862	F74-45,Ⅰ層	磁器染付	段重	口径（11.1），高台径（10.2）	肥前系	呉須。主文は花唐草。腰部アルミナ塗布。	
855	1702	F72-46,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径4.8，高0.7	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面平滑。内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
856	1708	F74-47,Ⅰ層	磁器染付	合子蓋	口径4.8，高0.8	肥前系	化学コバルト。文様は山水。内面見込み平滑。内面口縁部（露胎）赤色顔料付着。	
857	1856	F73-46,Ⅰ層	磁器 釉下彩	合子蓋	平面（縦）7.1，高1.4	不明	角形。盛り絵、花唐草。塗りは緑色（雌しべ)、薄い桃色（花弁)。胎土はややガラス質。	
858	1722	F71-46,Ⅱ層	陶器	鉢	口径28.1，高台径9.6，高12.0	肥前	鉄釉。砂敷き窯詰め法。	
859	1713	F71-46,Ⅱ層	陶器	土瓶蓋	口径７.5，最大径7.4，高3.7	九州	胎土暗赤褐色。鉄釉。	
860	1701	F72-45,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径9.3，底径4.3，高1.9	肥前	落し蓋。鉄釉。	
861	3010	F71-47,Ⅰ層	瓦質	壷	底径11.3	不明	上質（丁寧なつくり・炭素吸着良好)。外面は回転印刻による地文（縮み状の皺）後横ナデ後貼付文（桐)。内面は黒漆塗り。	
862	1721	F71-46,Ⅱ層	陶器	半銅甕	口径（25.4），高台径10.3，高21.5	肥前or筑後	鉄漿＋白土（横縞状）＋外面上位透明釉。砂敷き窯詰め法。	

第17表　長局御櫓出土陶磁器類観察表 (2)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
863	1717	F71-47,Ⅱ層	陶器	ドアノブ	外径5.5，厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土。鉄釉。凹部にネジ山・軸を固定するための穴（3個）。	
864	1711	F70-47,Ⅱ層	陶器	ドアノブ	外径5.6，厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土。鉄釉。凹部にネジ山・軸を固定するための穴（3個）。	
865	1521	F74-46,Ⅲ層	陶器	碗	口径8.5，高台径4.0，高6.0	関西系	白薩摩？。灰釉（やや厚めに施釉・貫入目立つ）、畳付以外施釉。	○
866	1733	F71-46,Ⅲ層	陶器	碗	口径10.1，高台径4.3，高6.1	小代or福岡	藁灰釉。巴高台。朱色の顔料付着。	○
867	1737	F72-46,Ⅲ層	陶器	碗	口径8.9，高台径4.7，高7.0	小代	褐釉＋藁灰釉。高台内刻印「牝小路」。	
868	1777	F69-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.8，高2.7	肥前系	呉須。主文は花。見込み蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布・重ね焼き跡。	
869	1736	F71-46,Ⅲ層	磁器染付	端反碗蓋	口径8.9，高3.1	瀬戸美濃	呉須。主文は鶴・花。	○
870	1854	F72-45,Ⅲ層	磁器染付	小広東碗	口径(8.8)，高台径(3.3)，高4.6	肥前	呉須。主文は木賊。	
871	1739	F73-45,Ⅲ層	磁器染付	碗	口径11.8，高台径4.5，高5.2	波佐見	呉須。主文は丸。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡（アルミナ付着）。	
872	1674	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.8	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
873	1503	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.6，高6.1	肥前系	呉須。窓内菖蒲・花・蝶。	
874	1511	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須。窓内菖蒲・花・蝶。	
875	1508	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須。窓内菖蒲・花・蝶。	
876	1728	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.7，高6.1	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
877	1677	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径（10.2），高台径3.8，高6.2	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	○
878	1513	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須。窓内菖蒲・花・蝶。	
879	1726	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.9	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）？。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
880	1509	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.8，高5.9	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）？。窓内菖蒲・花・蝶。	
881	1502	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.8，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）？。窓内菖蒲・花・蝶。	
882	1675	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
883	1727	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
884	1510	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.9，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶	
885	1730	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.5，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
886	1504	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.6，高6.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶	
887	1507	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.7，高6.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶	
888	1725	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.7，高6.1	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
889	1501	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶。	
890	1506	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.8，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶	
891	1676	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径（3.9），高6.1	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
892	1505	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径（3.7），高6.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶	
893	1729	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
894	1783	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.9	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
895	1782	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.7，高6.1	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
896	1780	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.2，高台径3.7，高6.1	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
897	1779	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高5.9	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
898	1781	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径10.1，高台径3.5，高6.3	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。窓内菖蒲・花・蝶。	
899	1724	F68-45,Ⅲ層他	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.5，高6.1	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
900	1732	F68-45,Ⅲ層他	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.6，高6.2	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
901	1512	F68-45,Ⅲ層他	磁器染付	端反碗	口径10.3，高台径3.7，高6.2	肥前系	呉須。窓内菖蒲・花・蝶。	

第17表　長局御櫓出土陶磁器類観察表 (3)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　考	被熱
902	1723	F68-45,Ⅲ層他	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.6，高6.3	肥前系	呉須。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	○
903	1695	F68-45,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.1	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）？。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	○
904	1664	F68-45,Ⅲ層他	磁器染付	端反碗	口径10.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）併用。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	
905	1696	F68-45,Ⅰ層	磁器染付	端反碗	口径10.0，高台径3.7，高6.0	肥前系	呉須（線描き）・化学コバルト（塗り）？。主文は窓内菖蒲・花・蝶。	○
906	1778	F68-45,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径9.9，高台径3.6，高6.0	肥前系	呉須。主文は椿・蝶。	
907	1864	F74-46,Ⅲ層	磁器染付	小丸碗	口径（6.6),高台径（3.3),高5.5	肥前系	網田焼？。胎土淡灰色。呉須。文様は丸（薄)。	○
908	1678	F69-45,Ⅲ層	土師質	坏	口径（11.1），底径7.1，高2.3	在地？	外底手持ちヘラケズリ後ナデ。	
909	1840	F69-45,Ⅲ層	土師質	坏	口径（13.2），底径（7.9），高2.8	在地？	外底は糸切り離し後回転ヘラケズリ。	
910	1673	F67-47,Ⅲ層	土師質	耳皿	口径～8.2，底径4.2	在地？	内外とも回転ナデ。外底糸切り。	
911	1710	F71-47,Ⅱ層	白磁	小皿	口径10.0，高台径4.9，高1.8	瀬戸美濃	寿字文皿。木型打ち込み成形。	○
912	1740	F72-46,Ⅲ層	陶器	擂鉢	口径34.4，底径14.3，高14.2	肥前	鉄釉刷毛塗り（横方向)。砂敷き窯詰め法(内底に細砂・硅石粒付着)。	
913	1679	F74-46,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.4，最大径8.5，高3.8	肥前	白土＋銅緑釉。	
914	1520	F74-46,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.6，最大径8.8，高3.6	肥前	白土＋銅緑釉。	
915	1697	F68-45,Ⅰ層	陶器	土瓶蓋	口径5.2，最大径8.2，高3.2	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。	○
916	1518	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.5，最大径8.3，高3.0	肥前	白土＋銅緑釉。	○
917	1839	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径(5.8)，最大径(8.2)，高3.4	肥前	白土＋銅緑釉。	○
918	1517	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径5.7，最大径8.9，高3.3	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。	○
919	1734	F71-46,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径4.7，最大径7.2，高4.1	九州	胎土暗赤褐色。鉄釉。	
920	1519	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶蓋	口径9.9，底径5.0，高1.9	肥前	落し蓋。鉄釉。	
921	1522	F74-46,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.1，底径6.7，高9.7	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着認められず。	
922	1515	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.4，底径6.7，高10.5	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。外面下位煤付着認められず。	○
923	1514	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.2，底径（7.2)，高11.1	肥前	白土+銅緑釉（二次焼成により赤化)。外面下位煤付着認められず。	○
924	1516	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径7.8，底径6.7，高11.7	肥前	白土＋銅緑釉（二次焼成により赤化)。溶着物付着顕著。外面下位煤付着認められず。	○
925	1731	F69-45,Ⅲ層	陶器	土瓶	口径8.2，底径8.1，高12.0	肥前	鉄釉、口縁部釉拭き取り。内面中下位灰釉。外面下位煤付着認められず。	○
926	1741	F73・74-46,Ⅲ層	土師質	焜炉	口径26.5，底径21.3，高23.3	在地？	三足。体部ニ重（外枠と内枠の組み合わせ)。内外ナデ。	
927	1738	F72-45,Ⅲ層	陶器	火入	口径11.6，高台径10.4，高9.8	小代	藁灰釉。外底刻印「松風」。口縁部連続的な打ち欠き。	○
928	1735	F71-46,Ⅲ層	白磁	水滴	平面5.1×3.6，高1.8	肥前系	型成形、沙綾文。外底細布目。	
929	1712	F70-47,Ⅱ層	陶器	ドアノブ	外径5.5，厚2.8	イギリス？	絞胎様の胎土。鉄釉。二次焼成により凹部に溶融物流入。	○
930	1847	F71-46,Ⅲ層	土師質	不明	縦4.4，横4.2，厚1.9	大坂？	焼成不良。印刻「大番？/大坂…/高田屋」。	
931	1848	F71-46,Ⅲ層	土師質	不明	縦4.2，厚1.9	大坂？	焼成不良。印刻「大…/高田□」。	
932	1849	F71-46,Ⅲ層	土師質	不明		大坂？	焼成不良。印刻「大…/大坂連？/高田屋」。	
933	1851	F71-46,Ⅲ層	土師質	不明	厚1.8	大坂？	焼成不良。印刻「…/…屋八」。	
934	1850	F71-46,Ⅲ層	土師質	不明	横4.3，厚1.6	大坂？	焼成不良。印刻「…久太/…屋」。	
935	1714	F71-46,Ⅱ層	磁器染付	碗	口径10.5，高台径4.4，高5.8	不明	腰部突帯（托付碗形)。呉須？。主文は霊芝。突帯端鉄釉。内外面とも黄緑色味を帯びる。	
936	1500	F67-46,Ⅲ層	磁器染付	端反碗	口径（9.3)，高台径3.0，高4.9	有田	ゴム版絵付け。化学コバルト。主文は楼閣山水。高台内統制番号「有41」＝親和陶磁器製。	
937	1861	F74-46,Ⅰ層	磁器色絵	碗	口径（10.4)，高台径4.1，高6.1	不明	化学コバルト。文様は釉下彩(ゴム版)、七宝繋ぎ・よろけ縞。高台内銘は上絵(手書き)「古野」。	
938	1863	F74-46,Ⅰ層	磁器 釉下彩	碗	口径11.6，高台径4.2，高5.9	塩田	体部文様（横縞）は緑（酸化クロム)。統制番号（ゴム版）は化学コバルト「肥27」＝永田製陶所。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ塗布。	
939	1706	F74-46,Ⅰ層	磁器色絵	湯呑碗	口径（6.1)，高台径4.0，高7.1	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。手書き「司令部」。	
940	1705	F74-46,Ⅰ層	磁器色絵	湯呑碗	口径（6.4)，高台径（3.6)，高7.3	不明	泥漿流し込み成形。化学コバルト。手書き「判任官食堂」。判任官は1871年8月制定。	
941	1853	F71-47,Ⅱ層	磁器色絵	湯呑碗	高台径3.7	不明	泥漿流し込み成形。高台内は化学コバルト(手書き)「判任官」。判任官は1871年8月制定。	

第17表　長局御櫓出土陶磁器類観察表 (4)

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
942	1715	F71-46,Ⅱ層	磁器 釉下彩	変形小皿	口径7.6，高台径2.9，高1.9	瀬戸美濃？	胎土ガラス質。文様は葉・実。化学コバルト（枝葉、葉脈は墨弾き）・淡赤色（実）。	
943	1699	F71-46,Ⅰ層	白磁	薬瓶？	口径6.6，底径6.2，高5.0	不明	泥漿流し込み成形。蓋付？。胎土ガラス質。内面のみ施釉。	
944	1707	F74-47,Ⅰ層	白磁	薬瓶？	口径6.3，底径5.4，高5.1	不明	泥漿流し込み成形。胎土ガラス質。外側面～内面上位施釉。	

第18表　その他のトレンチ出土陶磁器類観察表

報告No.	実測No.	出土位置	焼成形態	器種	計測値(単位cm,括弧内推定値)	産地	備　　考	被熱
945	1859	F73-62T，Ⅰ層 御天守廊下Tr.	磁器色絵	湯呑碗	口径8.3，高台径5.0，高7.4	不明	泥漿流し込み成形。高台内ゴム版「特選/H.K」(酸化クロム)。	
946	1860	F73-62T,Ⅰ層 御天守廊下Tr.	白磁	鉢	口径17.3，高台径7.1，高6.7	有田	軍用食器。泥漿流し込み成形。外面上位貼付文（五芒星)。内底統制番号（陰刻)「有□」。	
947	1474	F82-66T,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	縄文土器	深鉢		在地	鳥井原式。口縁部凹線。	
948	1475	F82-66T,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	縄文土器	深鉢		在地	晩期前葉。口縁部沈線。	
949	1477	F82-66T,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	縄文土器	深鉢	底径6.8	在地	後期後葉～晩期前葉。	
950	1476	F82-66T,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	縄文土器	深鉢		在地	御領～天城式。外面頸部ミガキ。	
951	3007	F87-63,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	青白磁	合子身	底径（4.0）	中国南部	福建産？。南宋代。胎土灰白色。釉色灰色味帯びる。	
952	1950	F87-63T,Ⅰ層 二様の石垣下Tr.	磁器染付	小坏	口径（6.6)，高台径3.2，高4.6	不明	胎土ガラス質。吹き絵（エアスプレー)。化学コバルト。口紅。	
953	1021	F87-49,Ⅰ層 月見櫓台所Tr.	陶器	土瓶	口径（7.6)，底径6.9，高11.3	肥前	白土＋銅緑釉。内面下位透明釉。外面下位煤付着顕著。	
954	1661	F80-45,Ⅰ層 二階櫓Tr.	磁器染付	端反碗	口径（11.0)，高台径4.0，高5.2	肥前系	呉須。主文は格子。内底蛇の目釉剥ぎ・アルミナ付着。	
955	1660	F80-45,Ⅰ層 二階櫓Tr.	磁器染付	手焙り	口径14.7，高台径15.0，高15.3	肥前系	型紙摺り。化学コバルト。主文は亀甲・草花。	
956	1472	F79-69,Ⅰ層 御天守片口之間Tr.	磁器染付	小坏	口径（6.0)，高台径3.6，高5.9	肥前	呉須。主文は瓔珞。内底コンニャク印判（五弁花？)。17世紀～18世紀前半。	
957	1658	F79 - 69,Ⅰ層 御天守片口之間Tr.	磁器染付	皿	口径（13.4)，高台径6.4，高3.1	波佐見	呉須。主文は花。内底蛇の目釉剥ぎ・重ね焼き跡（重ねた個体のアルミナ付着)。	
958	1659	F79 - 69,Ⅰ層 御天守片口之間Tr.	軟質陶器	角瓶	口径2.5，底径7.0，高12.6	不明	胎土橙色。外面鉄釉、火襷あり。	
959	1657	F79 - 69,Ⅰ層 御天守片口之間Tr.	陶器	陶製人形		関西系	半磁胎。型成形・中空。布袋。灰釉（地）＋鉄釉（眉)。18世紀後半～19世紀後半。	
960	1984	天守前北築山Tr.	白磁	薬瓶	口径（5.9)，底径（7.0)，高3.1	不明	胎土ガラス質。泥漿流し込み成形。受部アルミナ塗布。	

3．建築金物・調度金物・その他（第308図～第337図）

金属製品については、出土総量がコンテナにして500箱を越えている。建築金物、生活用品、武器等に大別して分類を行ったが、釘や鋲等の大量に出土した遺物については法量などの集計を終えていない。よって本報告では、調査区ごとに主な出土遺物を掲載するにとどめる。時期の区分が難しいものもあり、一部に明治初期のものも含まれる。

１～136は大広間の出土品である。１～３は瓦釘、４・５・８は釘である。１～３・８は平頭、５は巻頭、４は切頭か。６・７は座金を有する飾鋲である。９～11は鎹である。11の捻じれは、建物倒壊時に強い力が加わったためか。12～19は目鎹である。大広間周縁部には「拭板」や「縁側」等があり、まとまって出土した。20～34は鎹である。20・21は釘の長さが左右で異なり、短い方の釘は胴から逆方向に延びている。22・23も鋲穴が少ない方の釘の向きは左右対称である。25は目鎹の一種か。表側に飾りの入る化粧金物である。20～34は、Ⅱ層中の出土品も多いが、「九曜之間」の東側でのみ出土している。金物の寸法や鋲の多用から、比較的大きな材に使用されたものと想像する。調査区内ではⅢ層中から目板瓦がまとまって出土している場所でもあり、後世に建物の拡張等が行われた可能性も考えられる。35・36は平面形がコの字形を呈する。用途は不明だが、近い間隔で鋲が打たれており、しっかりと固定する必要があったものと思われる。37～40は肘壷金物である。37は四ツ辻一之開御門、38･39は九曜之間下、40が若松之間付近で出土している。いずれも大門の金物には小さい。41～48は門周りに使われる金物で、44以外は四ツ辻周辺の出土である。44は、九曜之間下の門跡で、八双金物が装着した状態の桟と共に出土した。49は突出し錠の鍵である。麒麟之間下で出土している。50・51は扉の金物。御家老間下の通路で出土した。52～64は釘隠しである。Ⅰ層からの出土品も多いが、六葉の釘隠しは大広間で最も多く出土している。文様は52・54が桐・桔梗、62・63が菊・桐である。56～61はすべて菊・桐・桔梗だが、配置が異なる。52・53は樽の口が桔梗紋、64は菊門である。65は桔梗紋の唄金物である。中心が潰れて低くなっている。66・70は襖の、67・69は小襖の引手である。66・67・69は昭君之間・若松之間付近、70は麒麟之間出土である。68は型押しによる成形で、後世の持ち込みか。71・73～76は文様入りの板金物である。72は釘の剥落した飾鋲の頭か。79は鉄製、80は銅製の足付きの金物である。79は直径が9.6㎝のものもあり、80は径がやや大きく、鍍金の残る類品が長之間で出土している。用途はわからない。81・82・84・86は折釘である。84は、壁に障らないよう座金の片側が切れている。掛金の折れが逆向きのものもあり、組み合わせて使うものであろう。すべてⅡ層中の遺物であるが、内８割が九曜之間下で出土している。83・85も掛金である。87・89のような金物は用途が多様で分類が難しいため、単独で出土した場合は請壷としている。87は釘の部分が捻じれており、使用する材に合わせて作られたものと思われる。88は銅製で、細かな鑢目が認められる。調度品に使われたものか。90・91・93・94は掛金である。94は、掛金が大きく湾曲している。請壷との間に障害がある場所に使われたものと推測している。92は軸吊り金物である。寸法から、比較的小さな扉等に使用されたものと思われる。95・97は八双金物で、文様・寸法からみて一組の金物と考えている。98・99は名称・用途ともに不明である。100は樋受けである。胴の長辺に鋲穴が穿たれており、垂木に固定したものである。数寄屋北側の通路上で出土しているが、原位置は不明である。101～118は、調度類に使用された金物である。102は、桟通しの座金と長持等の側面に固定する補強金物が一体になっている。106・107は錠を差すための金物である。戸締まりの金物としても使用されるが、固定した材の厚さが一寸以下で座金も薄く、調度類に使用されたものと推測される。119～136は生活用品や工具である。明治10年の火災時には鎮台の本営として使用されていたため、これらの遺物には調度類や生活用品等には軍が使用していた製品も含まれる。

137～151は大御台所の出土品である。143は銅製の掛金で、座金に細工が入る。144～146・149も含め、調度類に使用されたものか。147は六葉の座金で、大広間の六葉金物よりも径が小さく、猪の目も穿たれ

ていない。長之間でも小片が出土している（202）。

152～187は御小姓部屋調査区の出土品である。152～182は建築金物が主体である。152は六葉座金で、寸法は大広間の六葉金物に近い。牡丹様の花紋をあしらっている。露地に類品がみられる（225）。153・154は襖引手である。153はやや作りが雑にみえる。154は大広間出土のものより大ぶりで、一般的な御殿サイズに近い。155は九曜紋を冠した樽の口で、他の出土品より小径である。163～170は閂巻金物である。一番近い四ツ辻脇北開御門のものか。171は閂受金物で、ガイドの金物が抜けている。181は輪掛金で、扉の引手と思われる。183～187は生活用品と工具である。185は、寸法と重量の似たものが数点出土している。186・187は金てこで、時期はわからない。四ツ辻北東隅の石垣際で大量の石炭バケツと共に出土したもので、鎮台が城内での作業に使用した道具類を保管していたものと思われる。

188～216は長之間の出土品である。188～208は建築と調度類に使用された金物が主体である。191は鍵である。胴から釘にかけての丸みが目立つ。197は掛金、198は釘隠しの菊座である。198は鍍金の痕跡が認められる。200は襖、201は小襖の引手と考えている。208は鐶付きの座金である。209～214は生活用品と考えている。215は樋受け、216は樋である。塀重門東側の露地で出土した。

217～240は露地から出土した。露地には明瞭なⅢ層が存在せず、原位置を保つ遺物は確認できていない。217は目鍵である。釘穴が１つで、古いタイプのものか。218～220・222は銅製の釘・鋲で、223と共に調度類の金具と思われる。226は床壁に使われる掛金物である。227は230～233は、突出し錠と鍵が一括で出土している。234～238は生活用品である。239は幅が５㎝で、近世の石垣の矢痕より小さい。240は引手の類か。寸法や反りの異なるものが存在するが、240以外は単独で出土している。

241～317は三階御櫓を含む小広間から出土した。小広間では、特に調度類の金物が大量に出土している。247・248は長持の持手、249～254は箪笥など調度類の引手である。257・258は木瓜型の襖引手、259・260も引手と思われる。円鐶の大きさは違うが、座金寸法はほぼ同じである。調度類の金具の可能性もある。262・263は肘金物に対して壷金物の寸法が小さい。264は厚さ1.5㎝程の材に鋲留めされた金物で、材に合わせた特注品か。265は縦框に鋲で固定する蝶番で、262・263も含めて比較的軽い建具等に使用されたものと推測している。268～282・285～289も調度類の金物である。283は、出土した突出し錠の鍵の中では最大である。284は栓錠とされるものか。304～317は生活用品である。313は布を裁断する裁ち包丁と考えている。

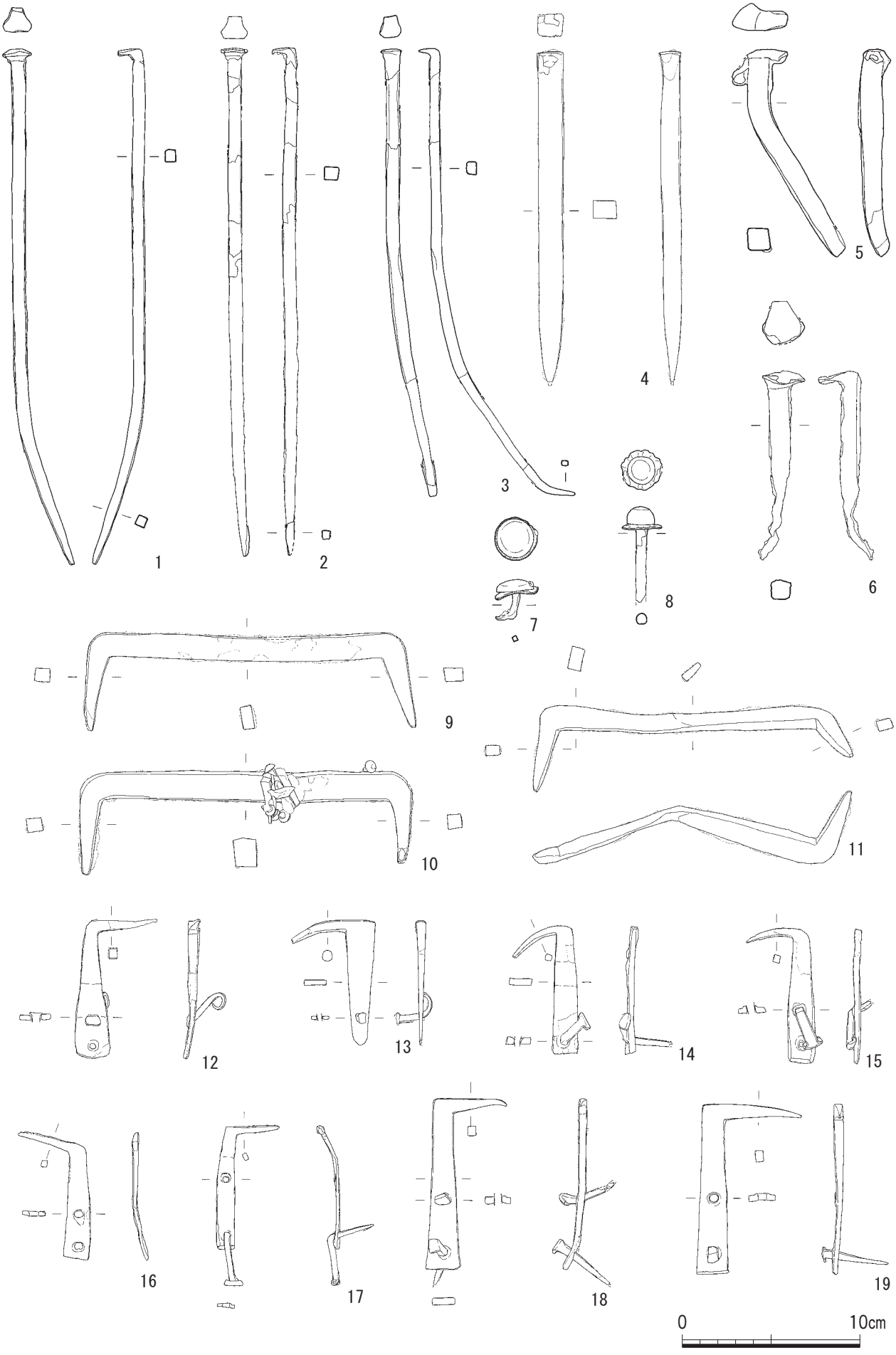
318～359は長局御櫓から出土した。長局御櫓の出土遺物では、次項の武器類が特徴的である。318～326・328～335・338～344は建築金物、327・337・345～350は調度類の金物である。351～357は生活用品・工具の類である。358は先端が潰れているが、釘の一種か。359は持手のようだが、用途は不明である。

４．近世武器（第338図～第352図）

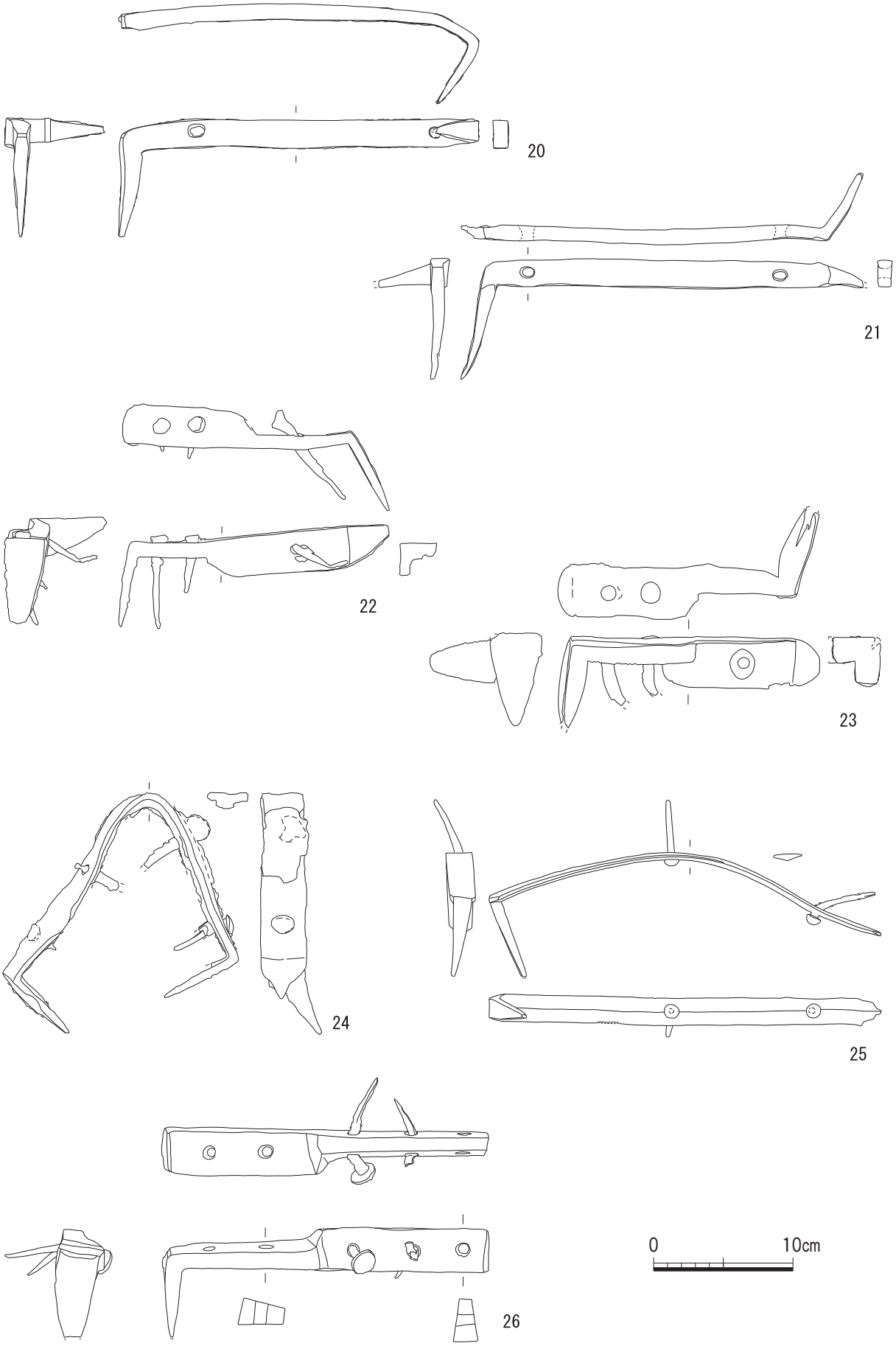
武器類の保存状態は比較的良好で、刀装具の細工なども判別可能であるが、分析を終えていない遺物もあるため、前項と同じく概要を述べるにとどめる。詳細については、改めて報告する機会を持ちたい。

１・２は金銅に銀で象嵌を施した柄頭である。３に伴うものと思われるが、出土時には分離していた。３には柄木地の木質と柄巻が残る。目貫の材質は銅で、鍍金が認められる。縁の中央に「民國（花押）」の銘が入る。刀装具の出土は、後述する長局御櫓に次いで大広間に多く（４～７・14・16～19）、そのほとんどが閘り通路上の、特に御家老間・帳台之御間下に集中する。14の小柄には柘植吉勝（花押）の銘が入る。８・10～13・15・22の刀装具は小広間で出土した。11の脇差と12の鍔は一括で出土している。11は茎に「助定」銘が入る。12には鍍金が認められる。16・17・19～21の小柄にも鍍金がみられる。鉄鏃は大広間（23・24・27）、御小姓部屋（25）、小広間（26・29）、大御台所（28）、露地（30）、長局御櫓（104）で出土しており、鑿頭形が最も多い。小刀とした31～33は、小広間に多くみられた。34～36は断面が三角

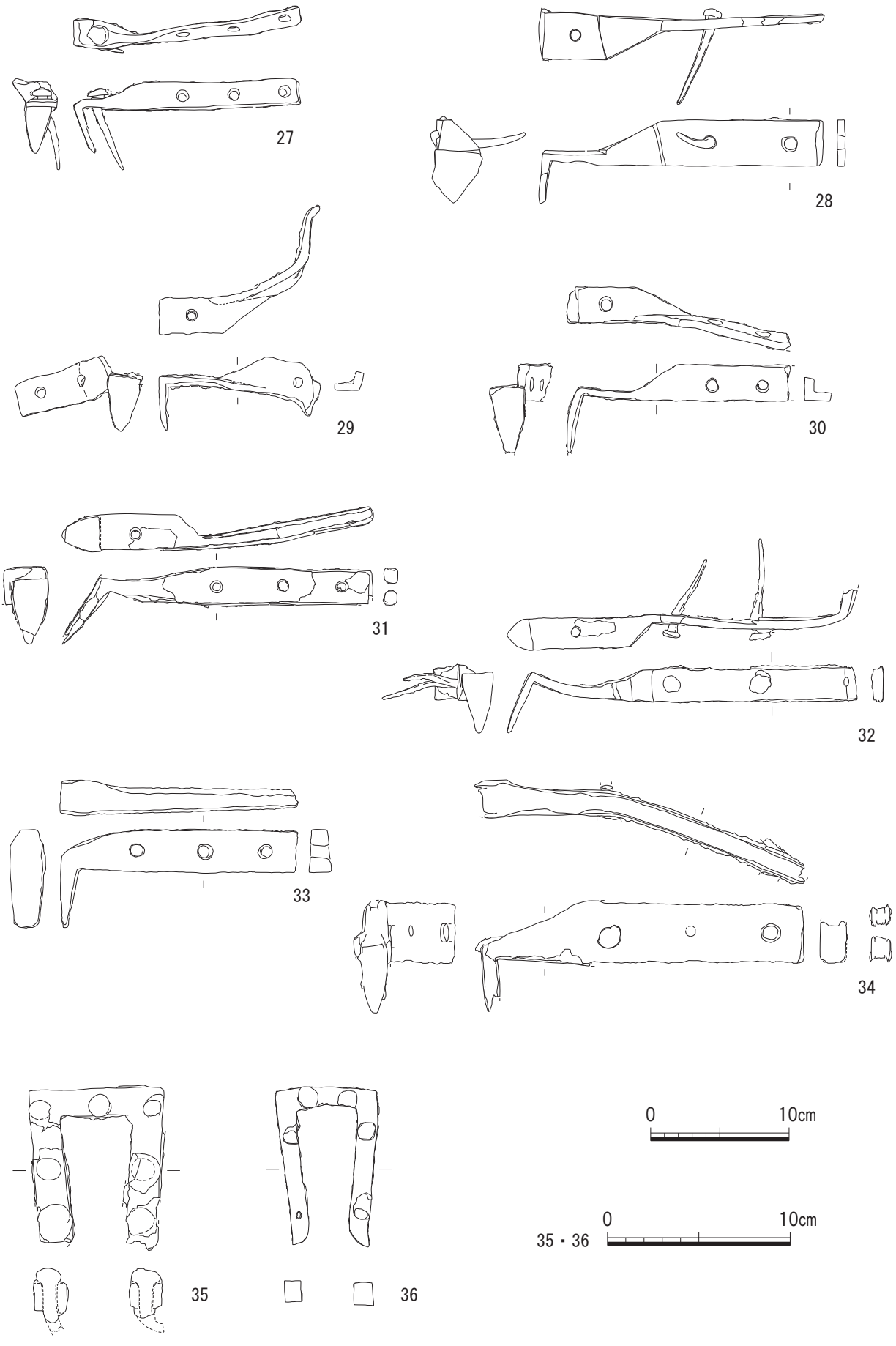
形を呈し、それほど鋭利ではないが先端が尖っている。用途不明で、武器ではない可能性もある。37は九曜紋を配した火縄銃である。昭君之間で出土した。銅製で、実用品ではないと思われる。38～93は、長局御櫓で出土した武器類である。櫓の一画で、火縄銃や洋式小銃の部品などと共に出土した。38・39は太刀、40～43は刀、44は脇差である。残り１本の刀と合わせて計８本がまとまって出土している。39は全長が67.8㎝で、成人用ではない可能性もある。刀・太刀の全長は88～90㎝、刀身の長さは70～75㎝で、反りは浅いもので0.9㎝、深いもので1.5㎝である。40～42は茎に銘が入る。45～50・52は薙刀、51は長巻である。53～63は槍で、60～63は十文字槍である。薙刀・槍共に刀装具は銅を主体とし、責金具や逆輪には金・銀を使用した猪の目や花紋、三つ葉などの細工がみられる。67～93の目貫は、肉眼では鍍金は認められない。出土地点から、いくつかは38～44に伴うものと考えられる。



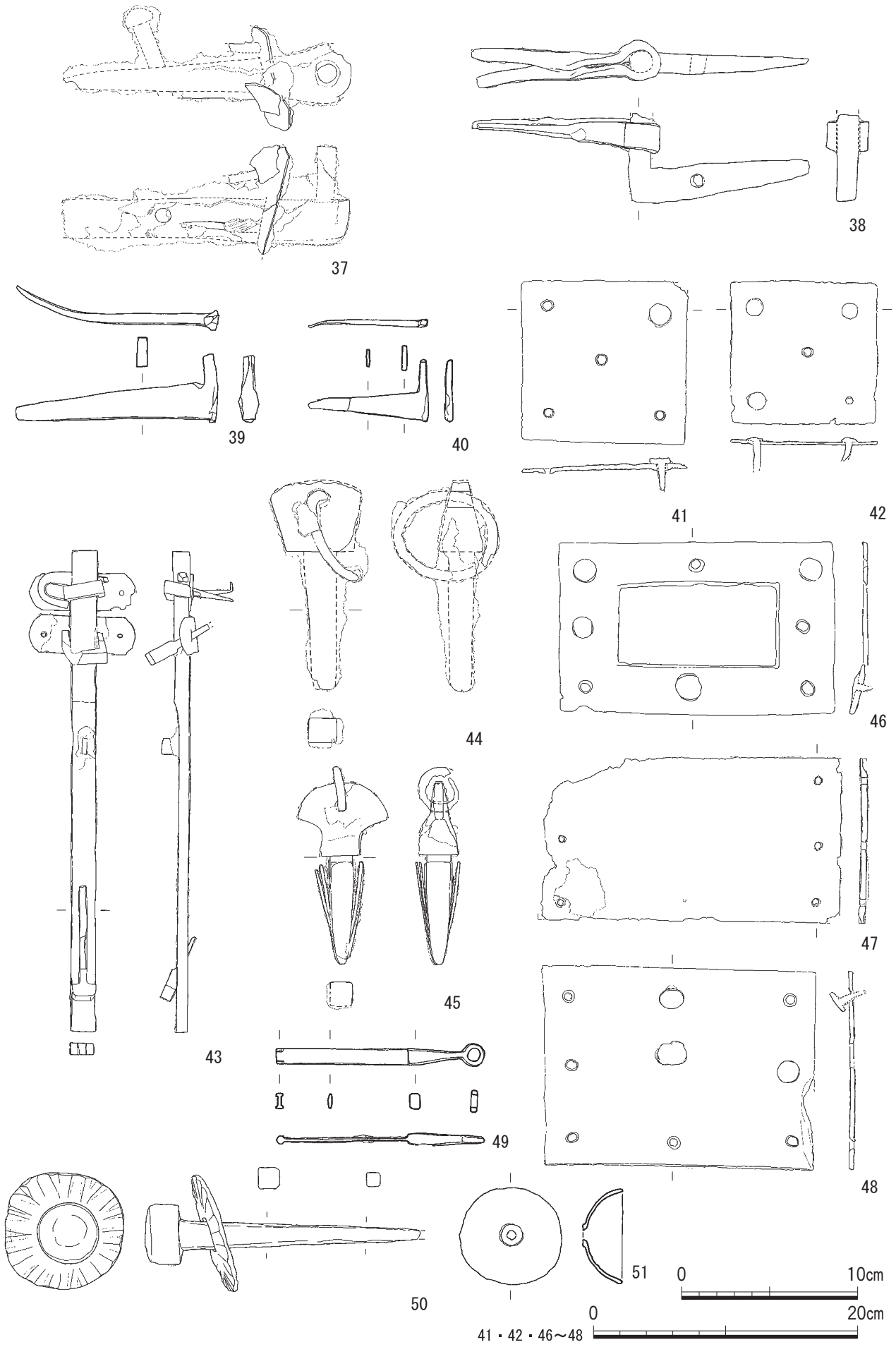
第308図　建築金物・調度金物・その他実測図 1



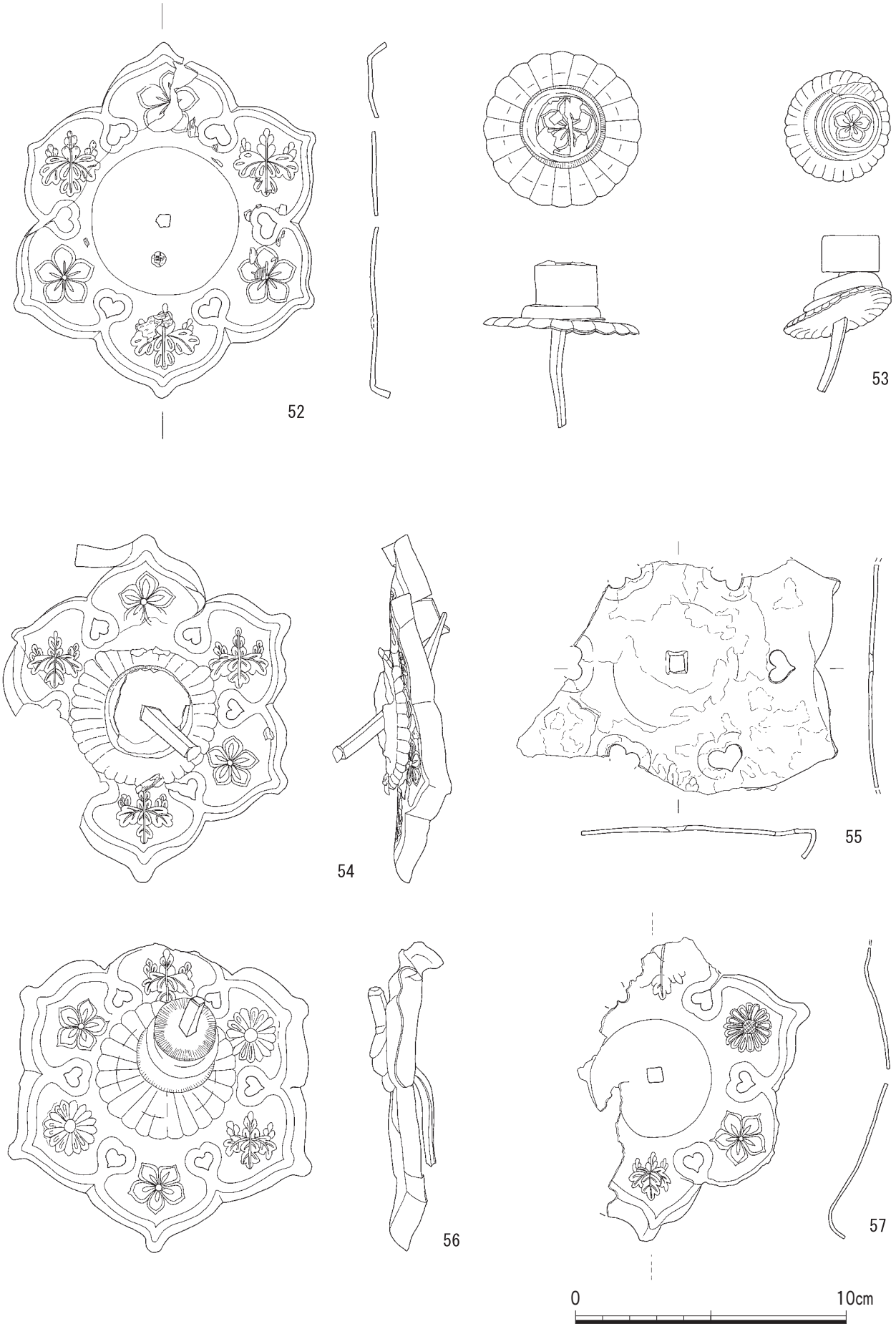
第309図　建築金物・調度金物・その他実測図 2



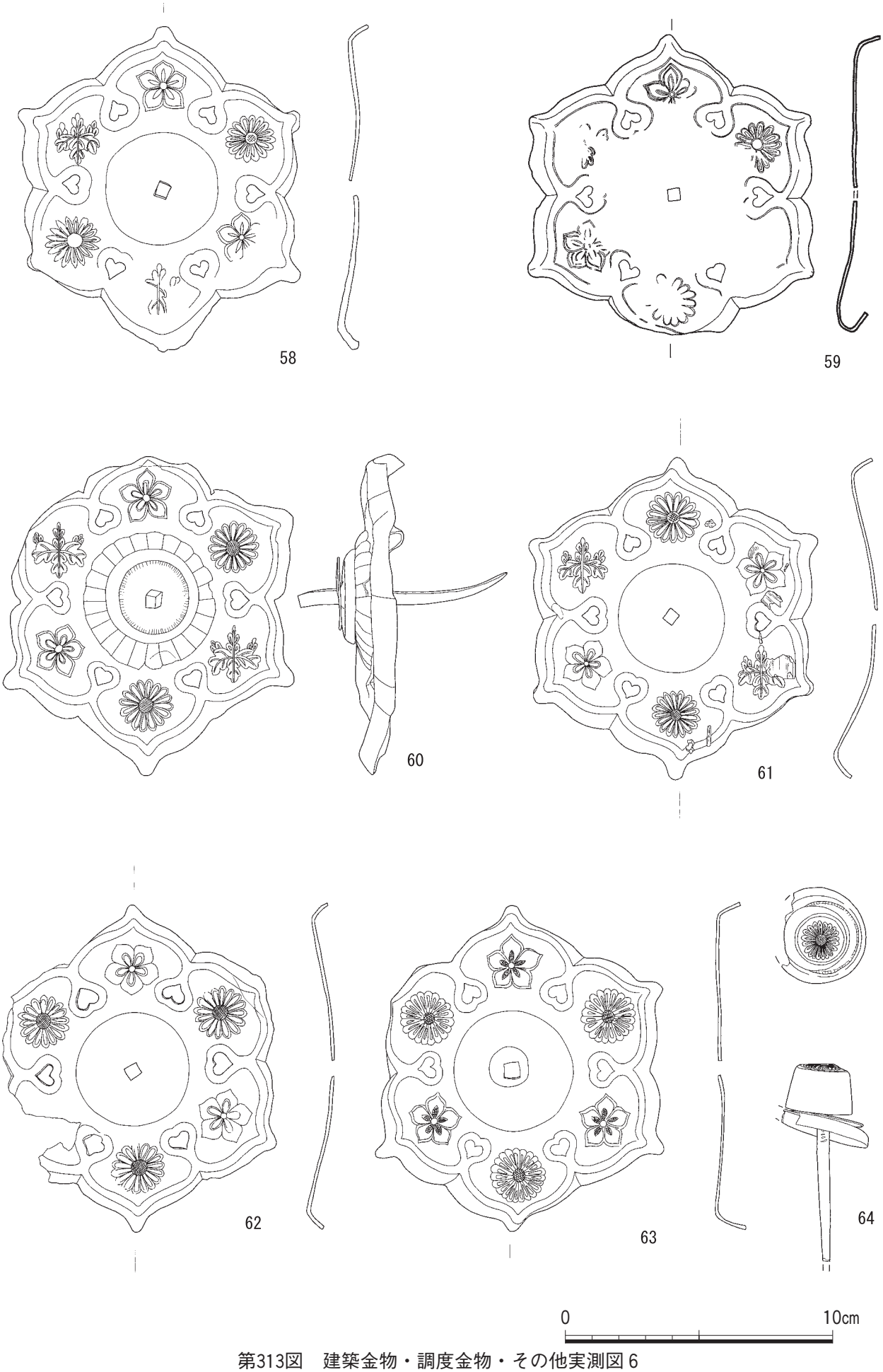
第310図　建築金物・調度金物・その他実測図 3



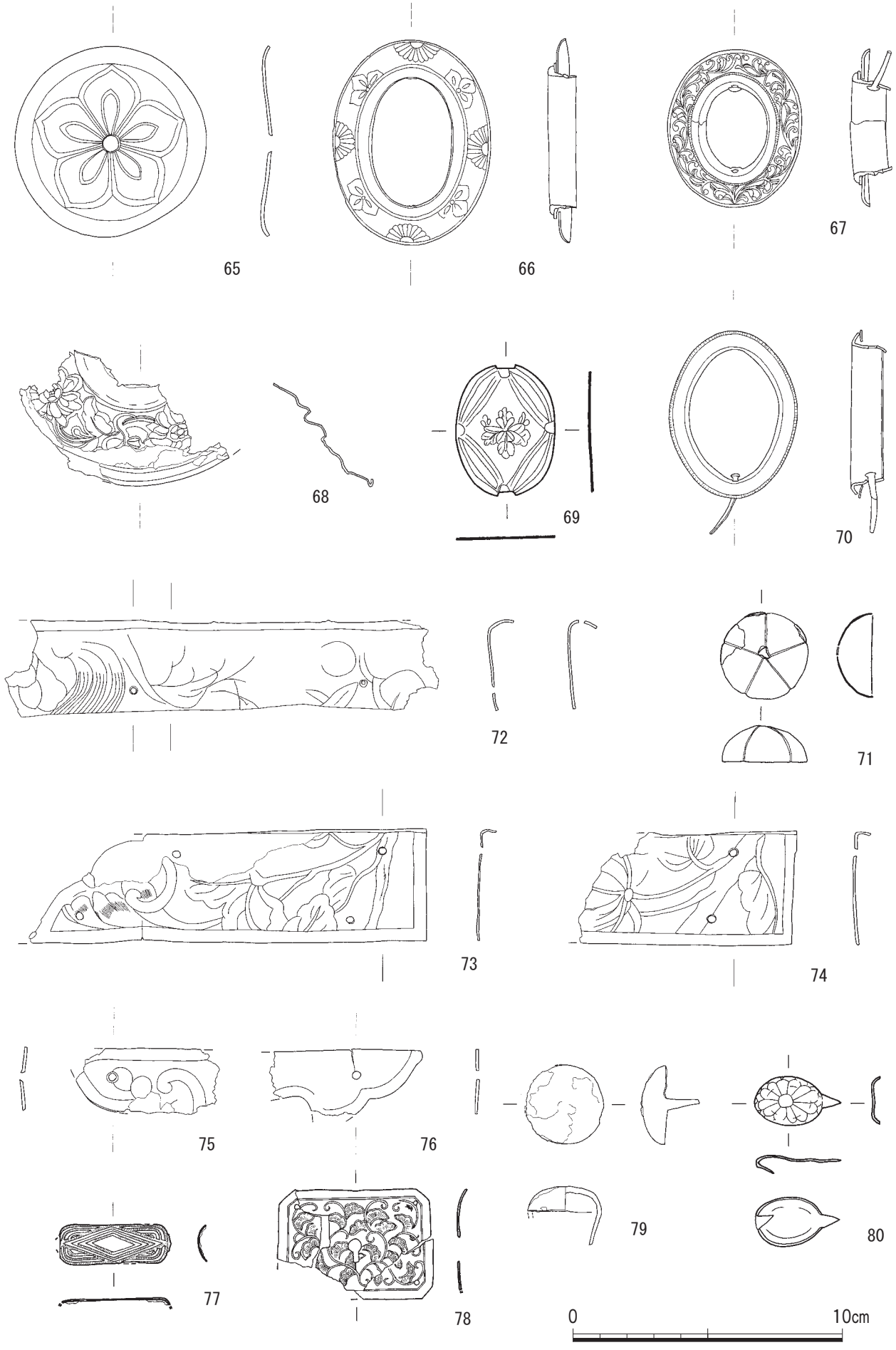
第311図　建築金物・調度金物・その他実測図 4



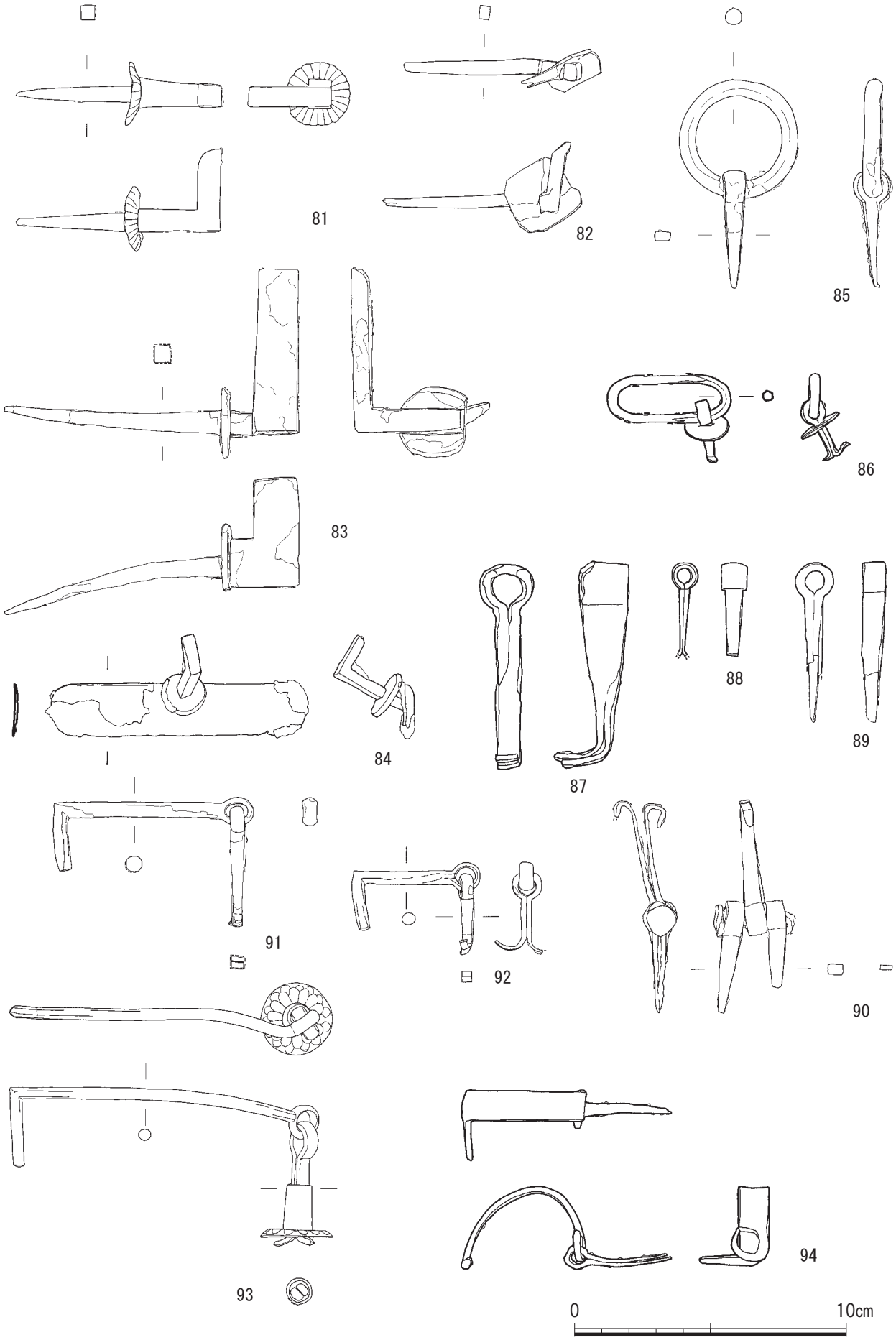
第312図　建築金物・調度金物・その他実測図 5



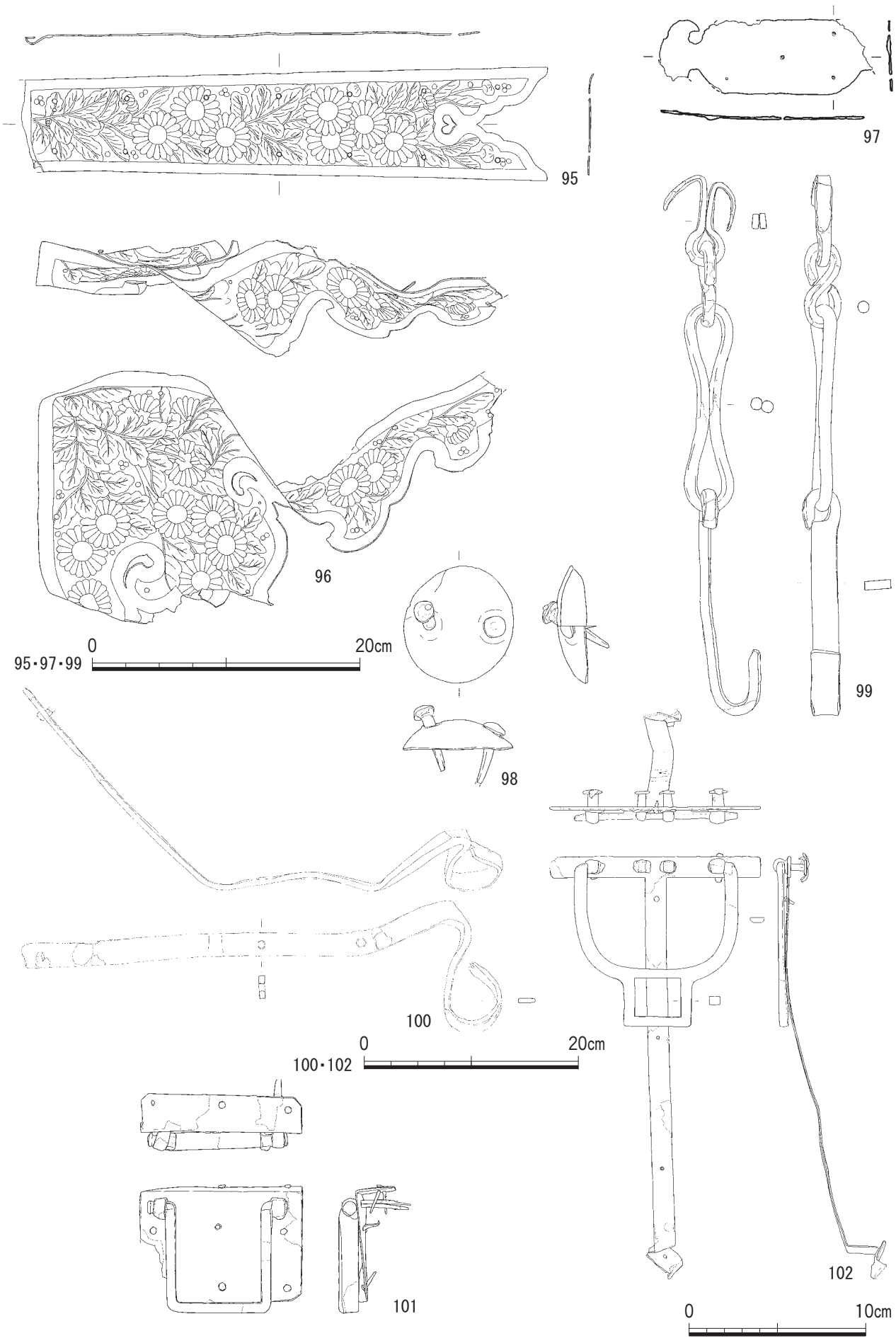
第313図　建築金物・調度金物・その他実測図 6



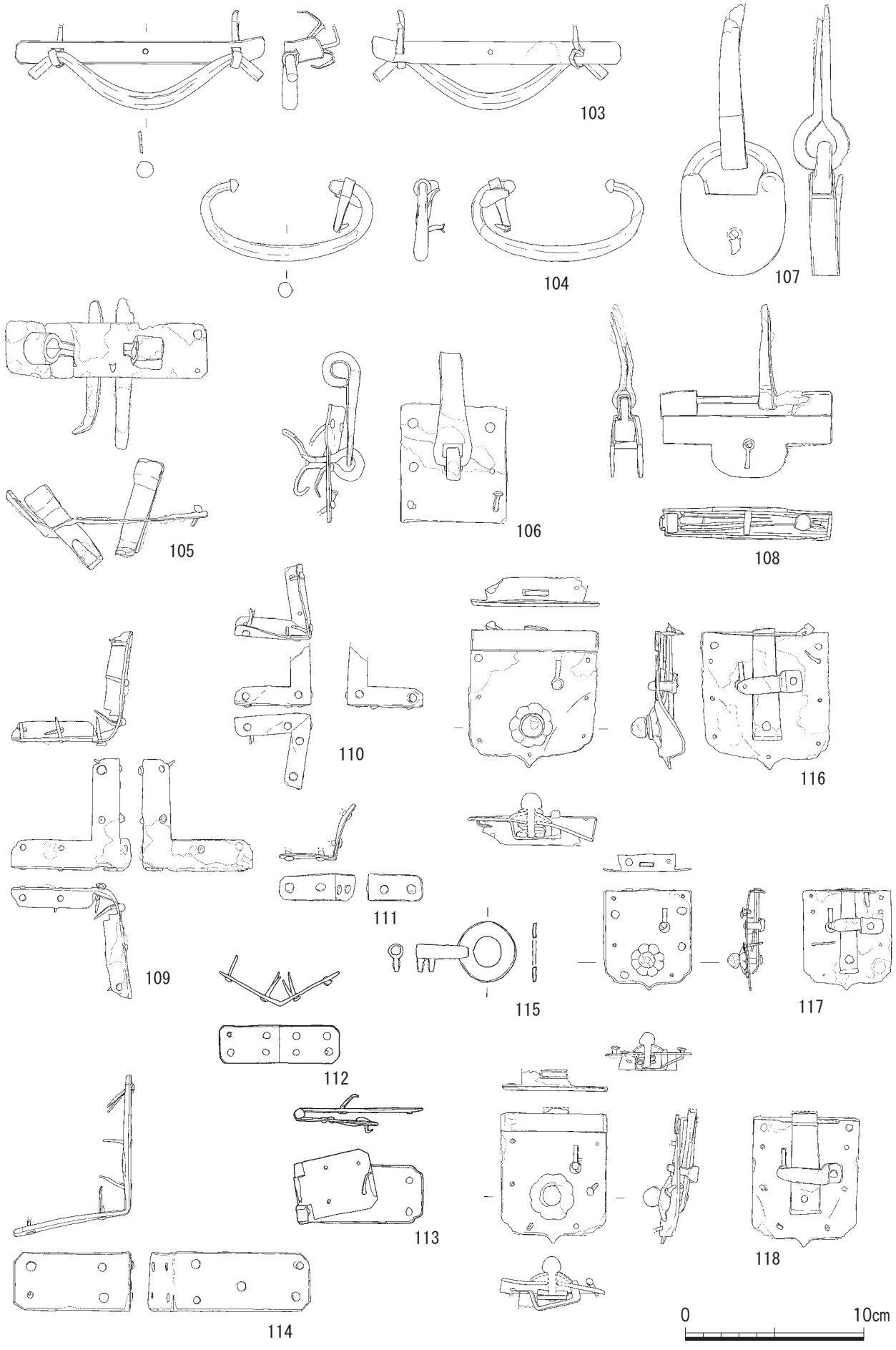
第314図　建築金物・調度金物・その他実測図 7



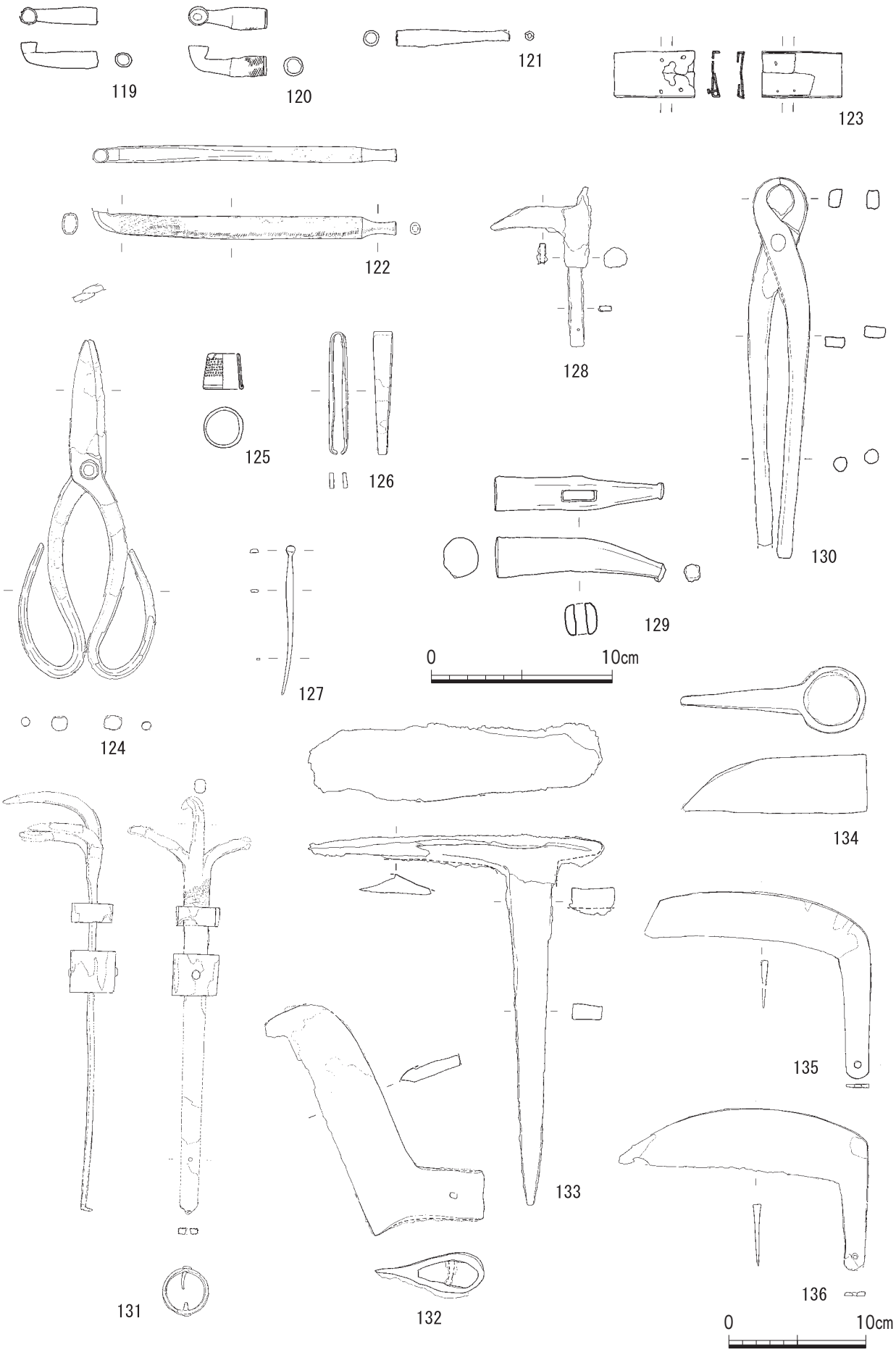
第315図　建築金物・調度金物・その他実測図 8



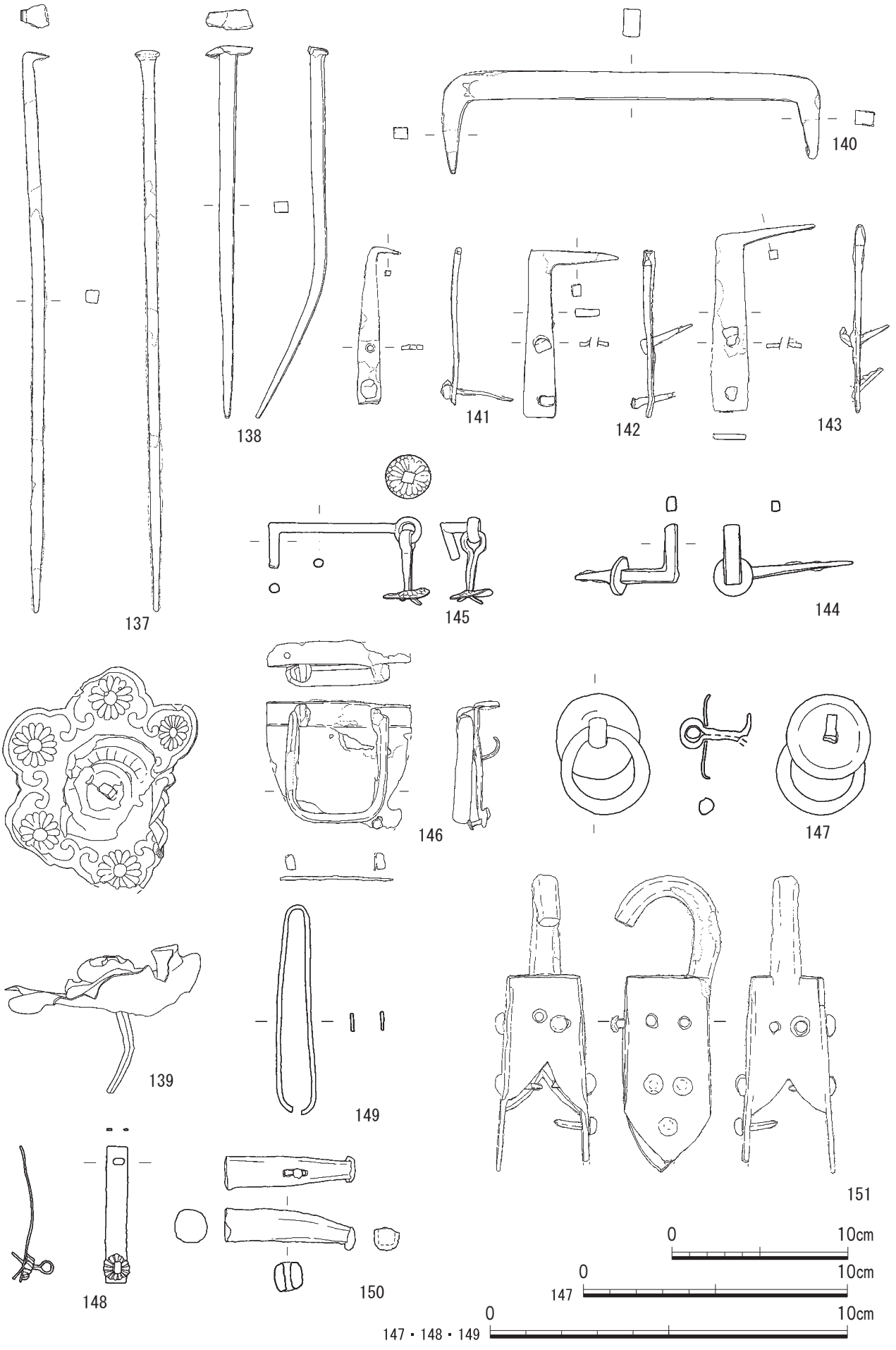
第316図　建築金物・調度金物・その他実測図 9



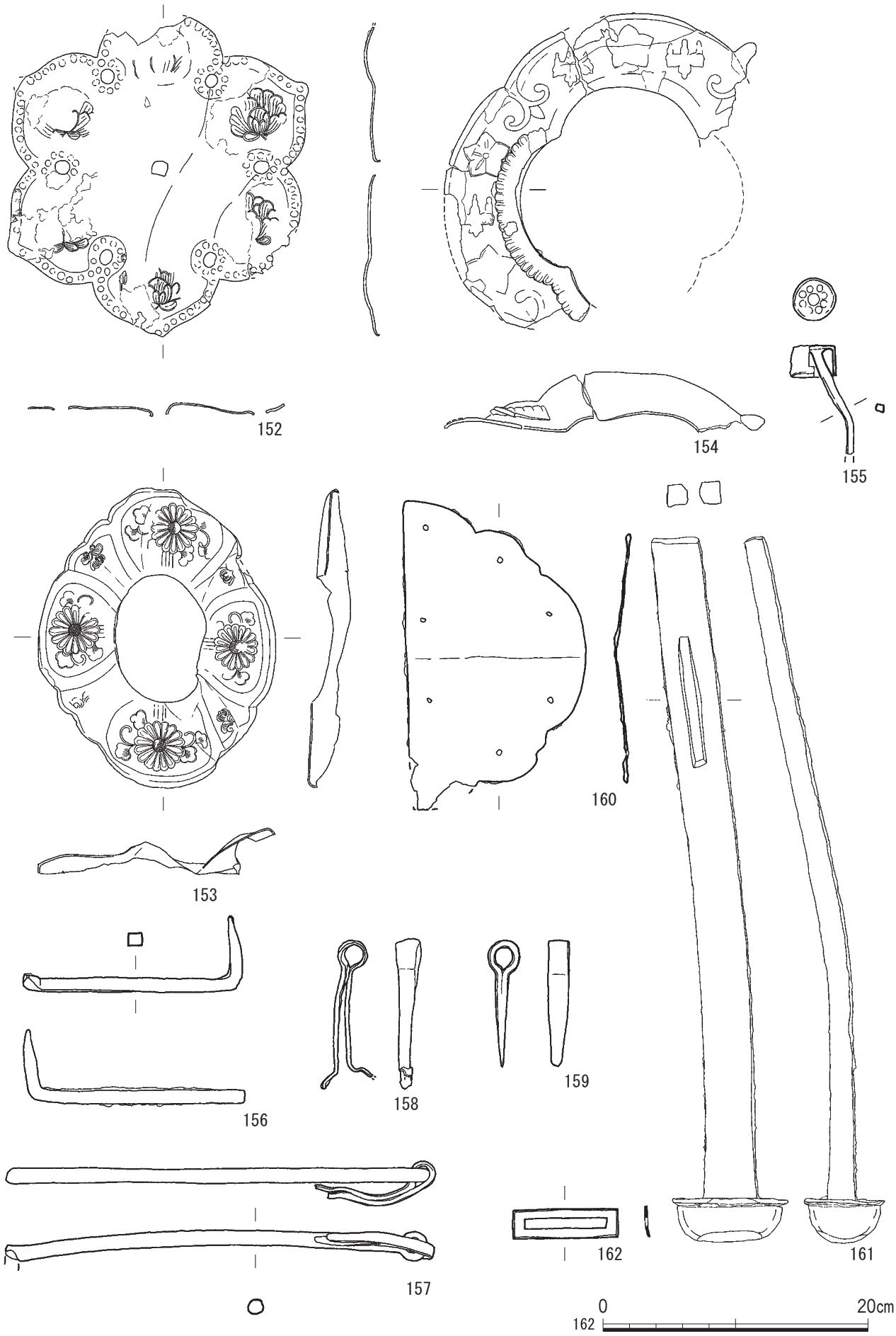
第317図　建築金物・調度金物・その他実測図10



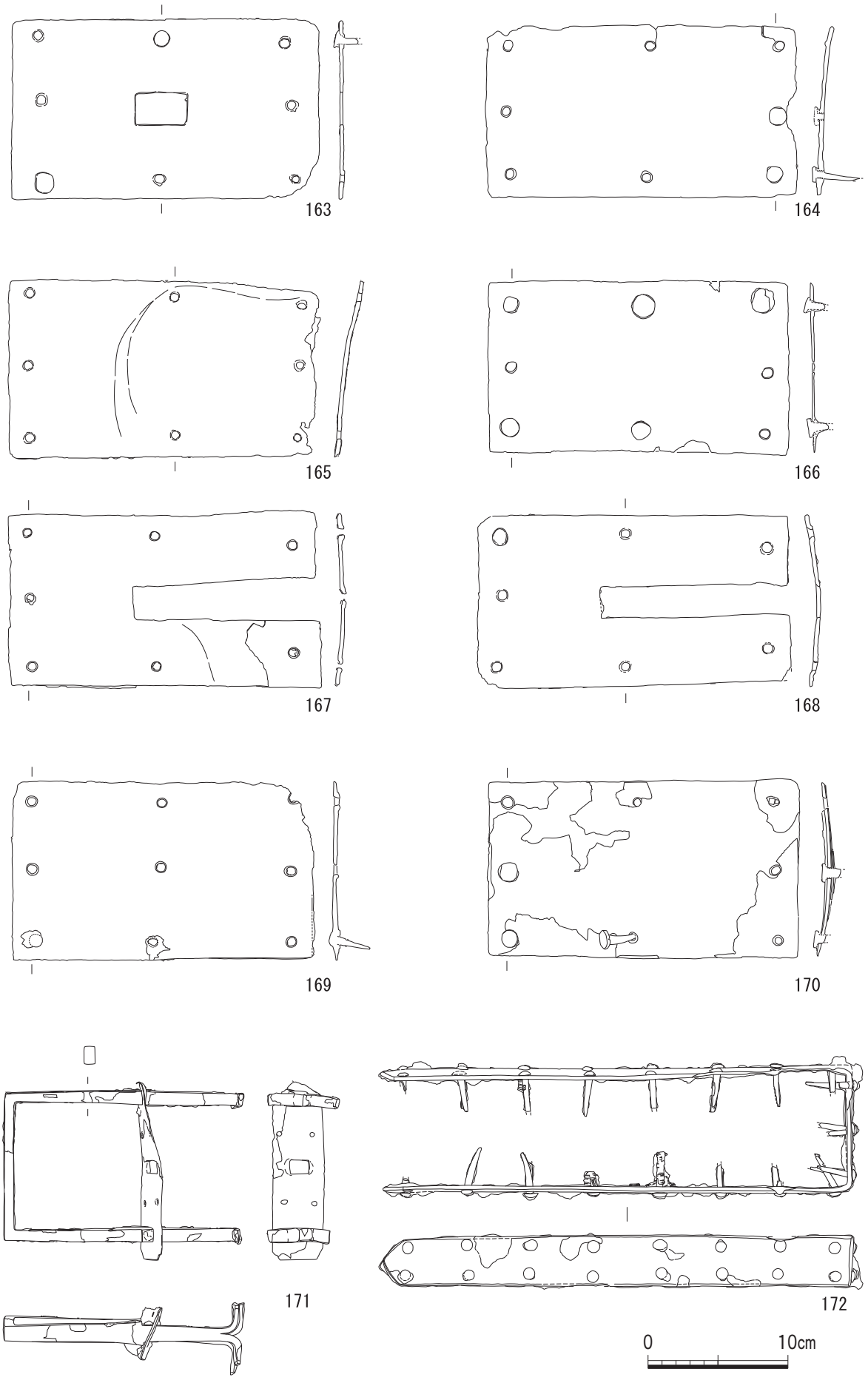
第318図　建築金物・調度金物・その他実測図11



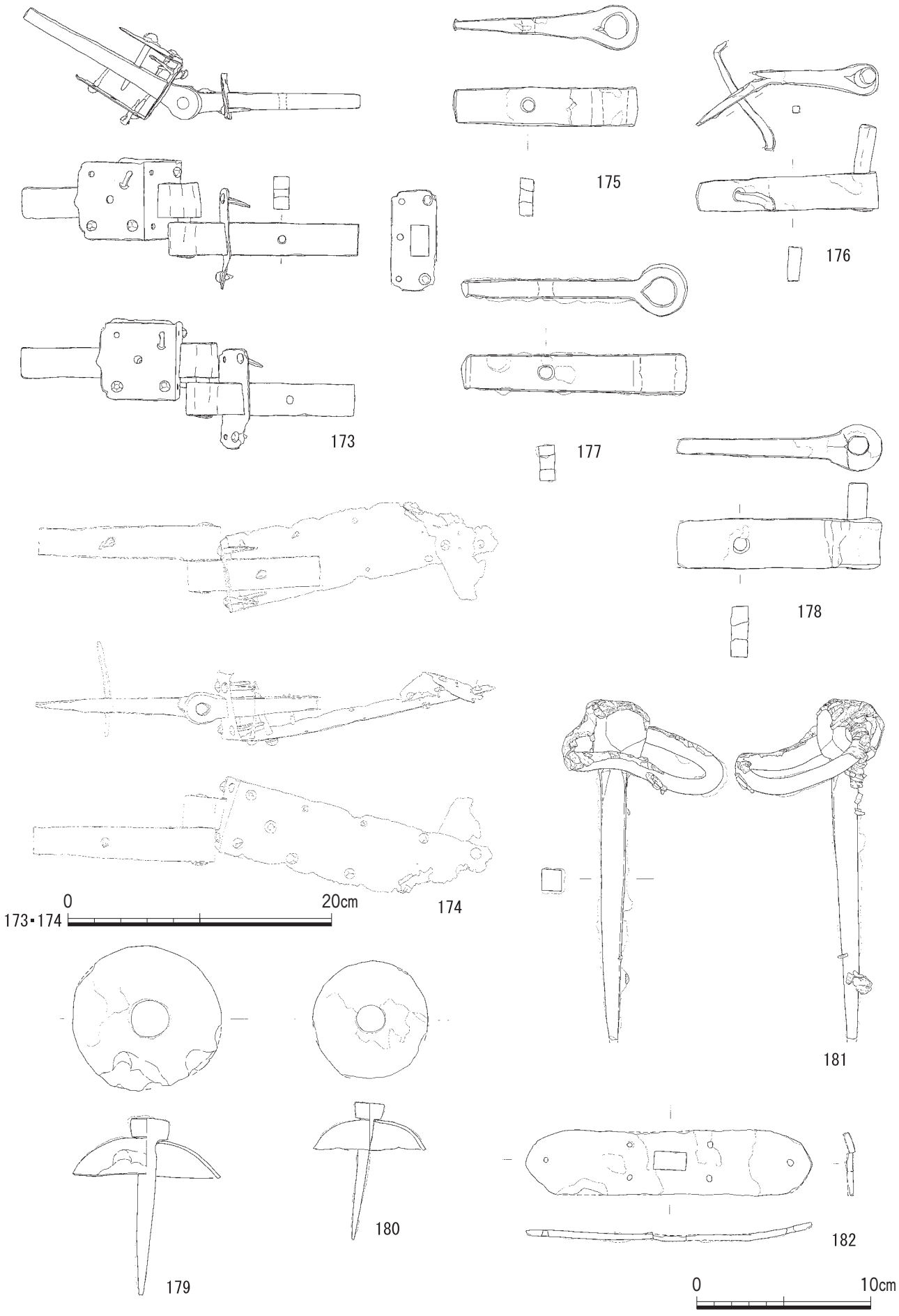
第319図　建築金物・調度金物・その他実測図12



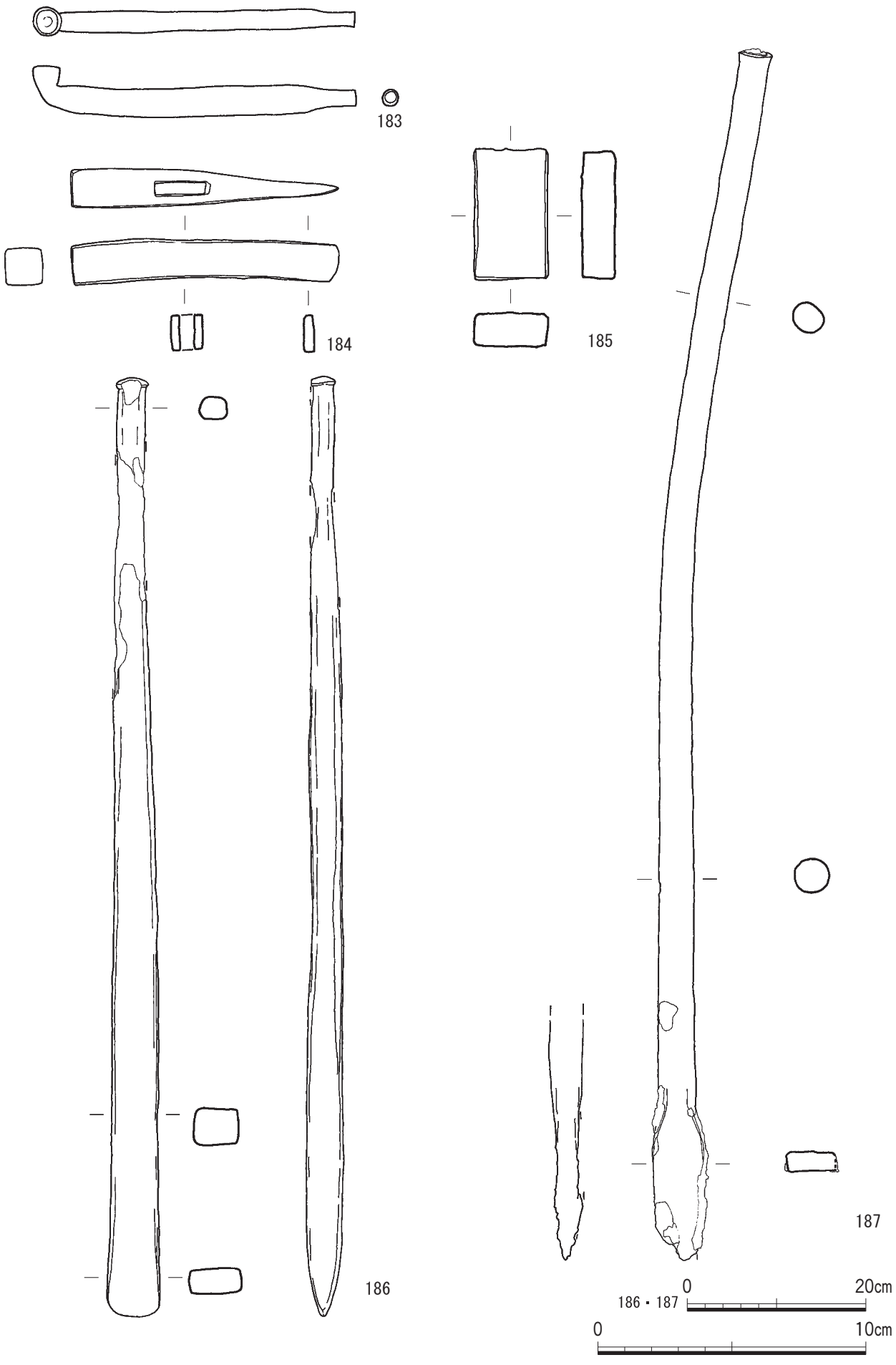
第320図　建築金物・調度金物・その他実測図13



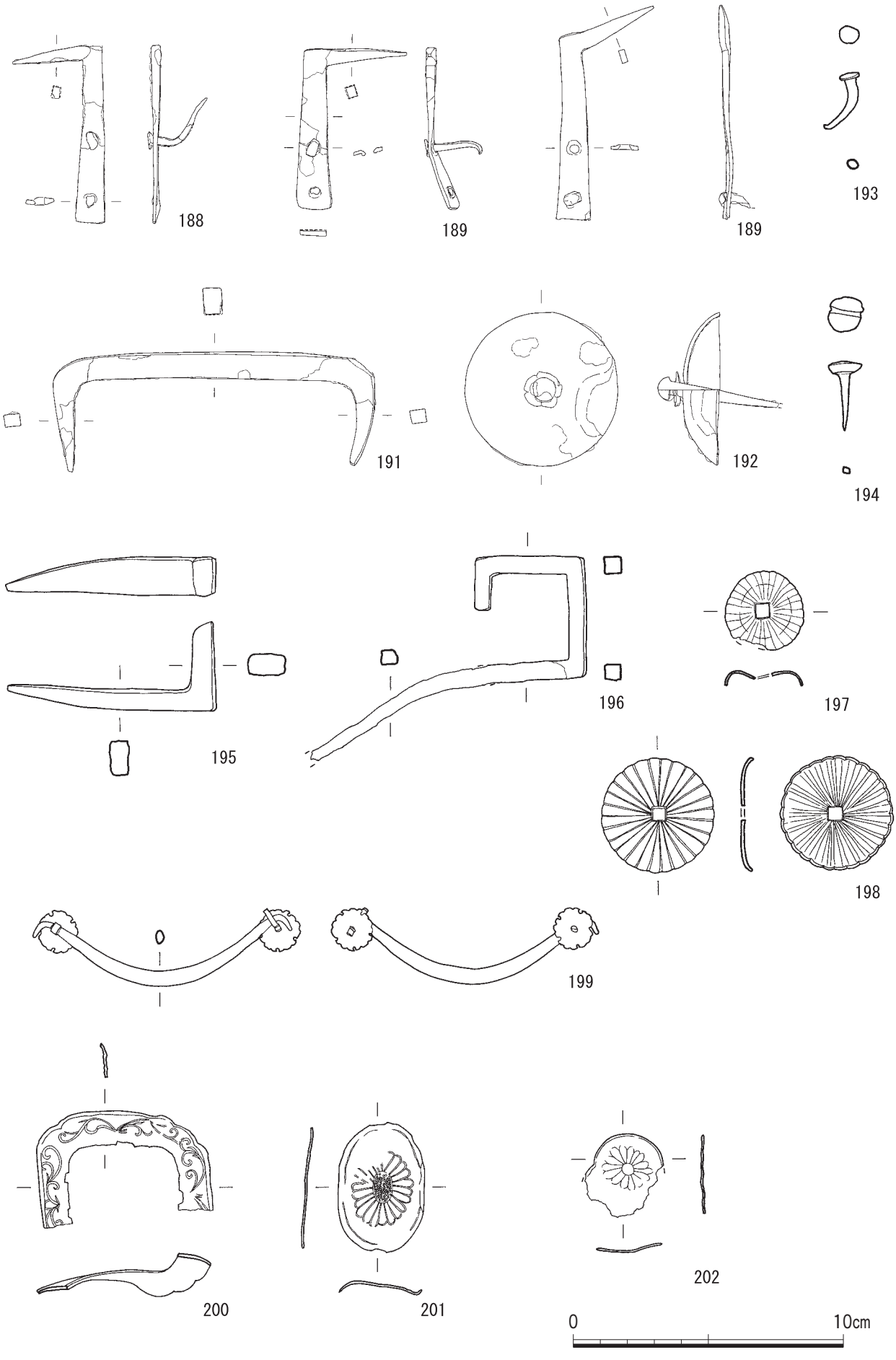
第321図　建築金物・調度金物・その他実測図14



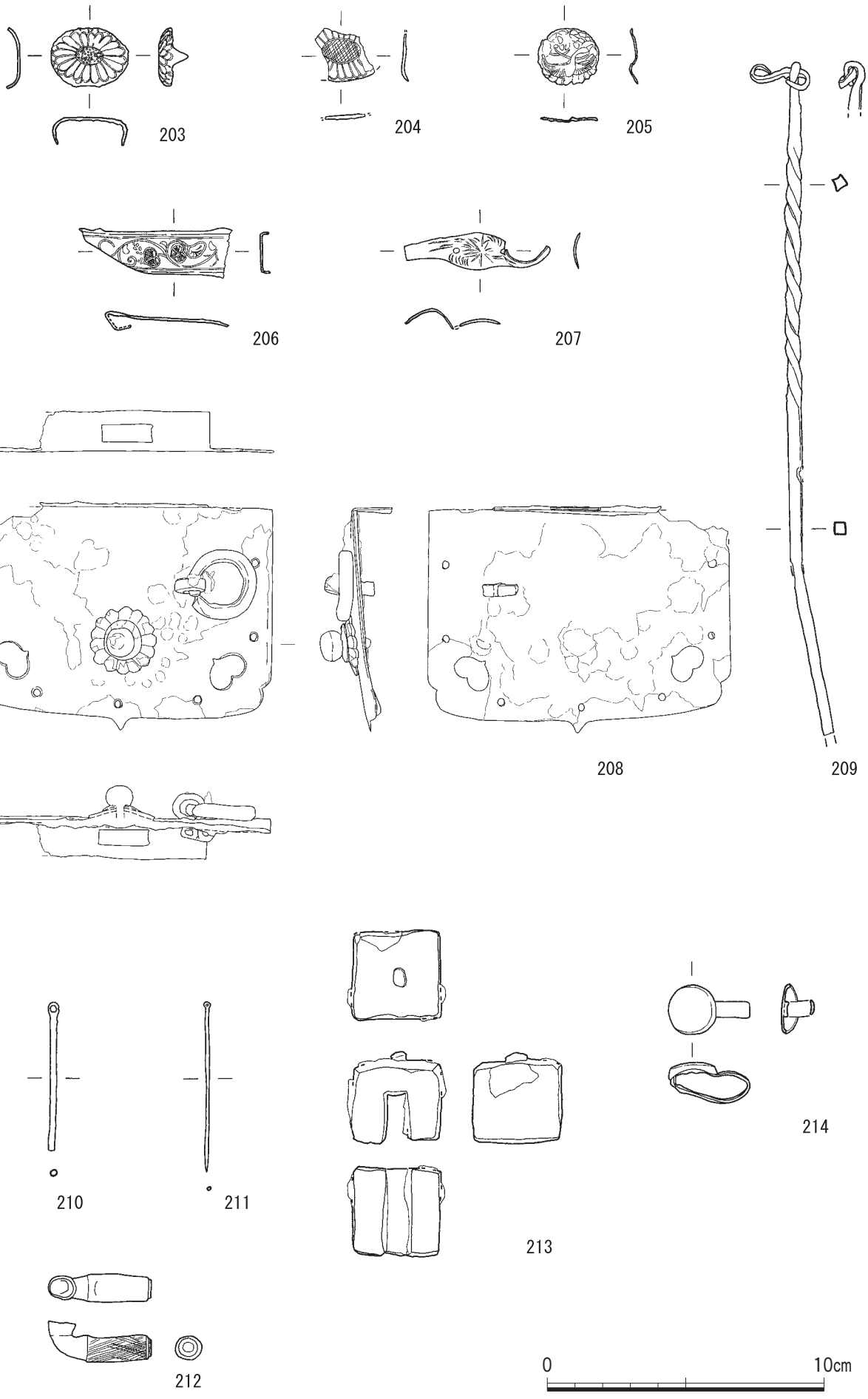
第322図　建築金物・調度金物・その他実測図15



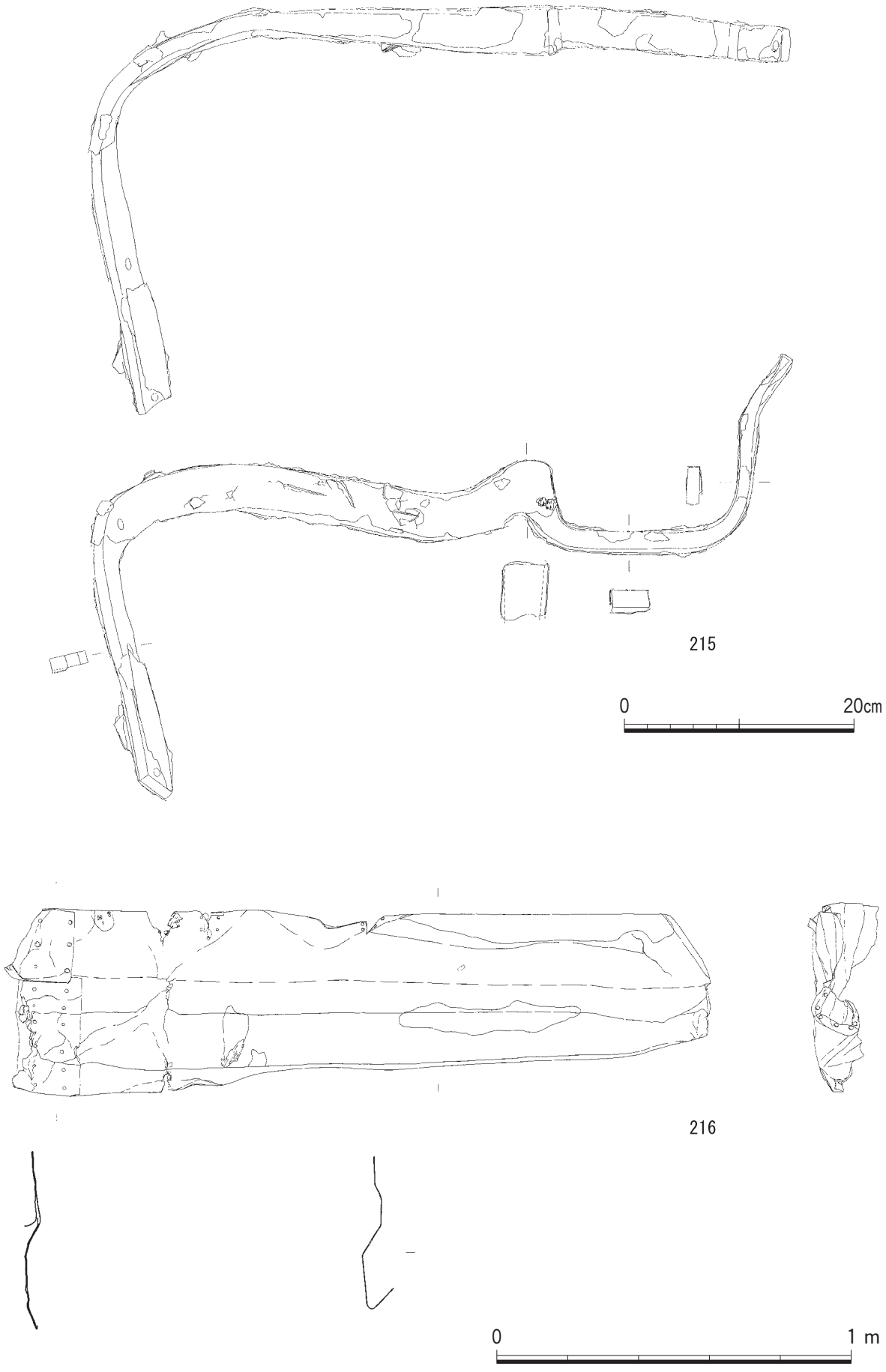
第323図　建築金物・調度金物・その他実測図16



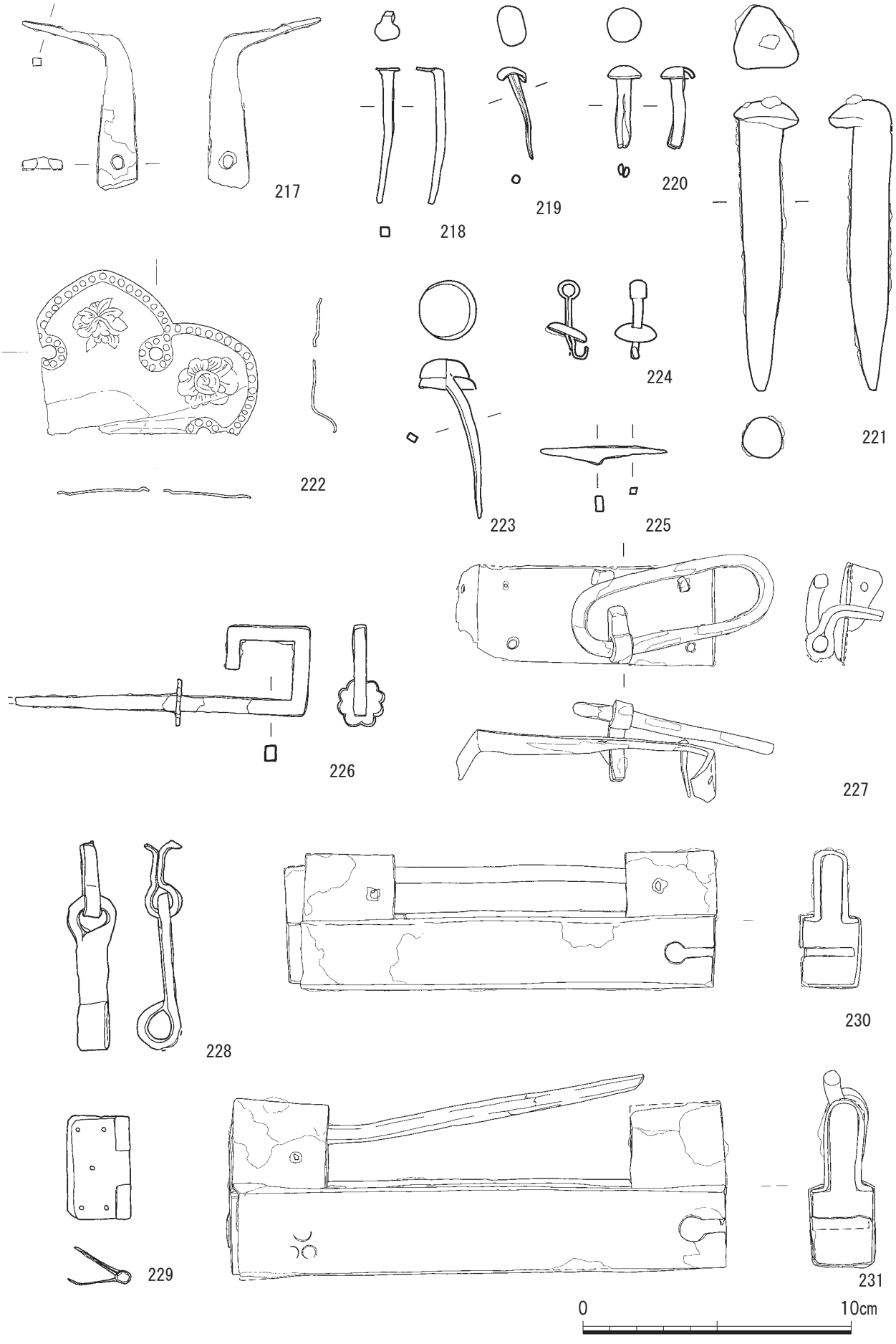
第324図　建築金物・調度金物・その他実測図17



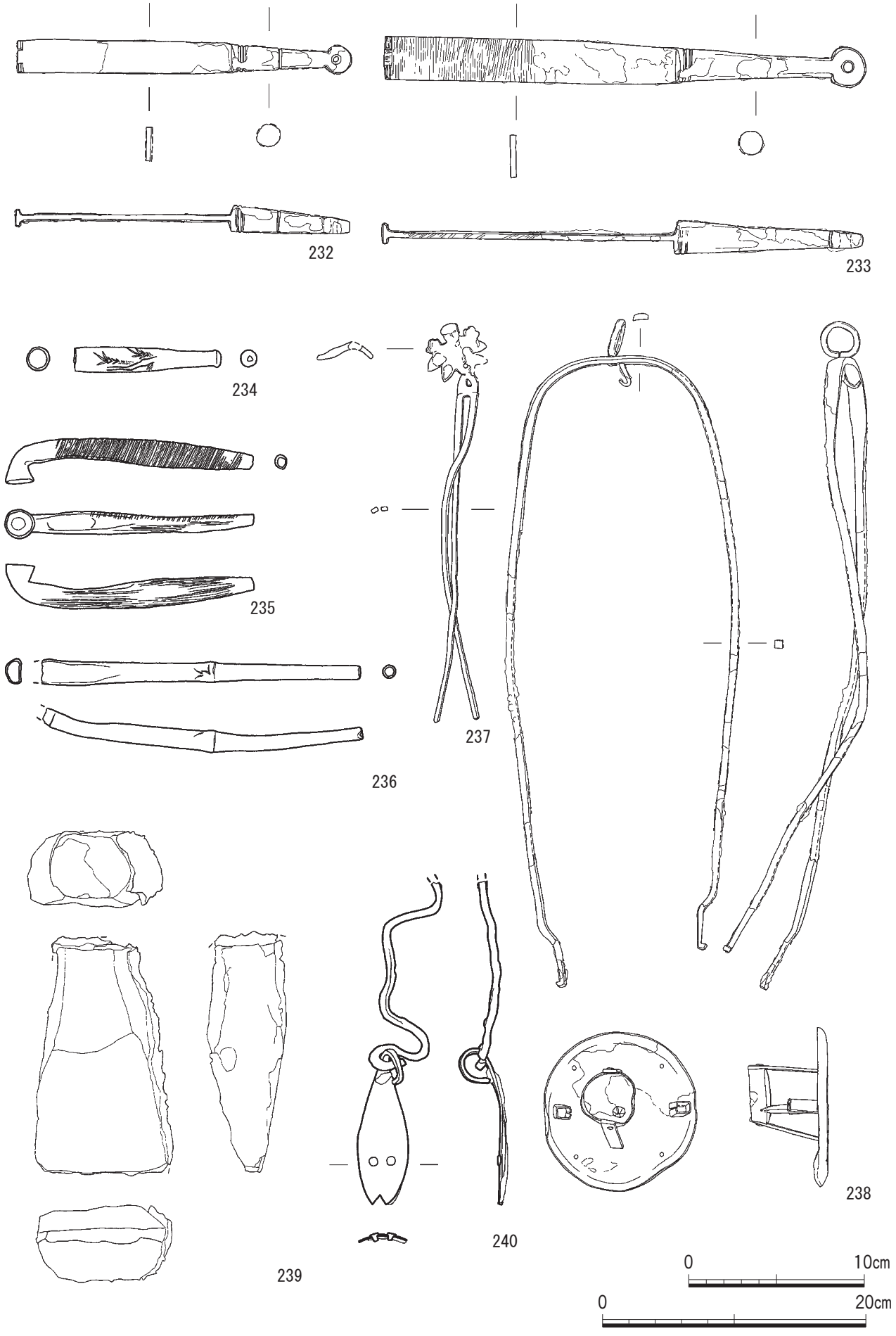
第325図　建築金物・調度金物・その他実測図18



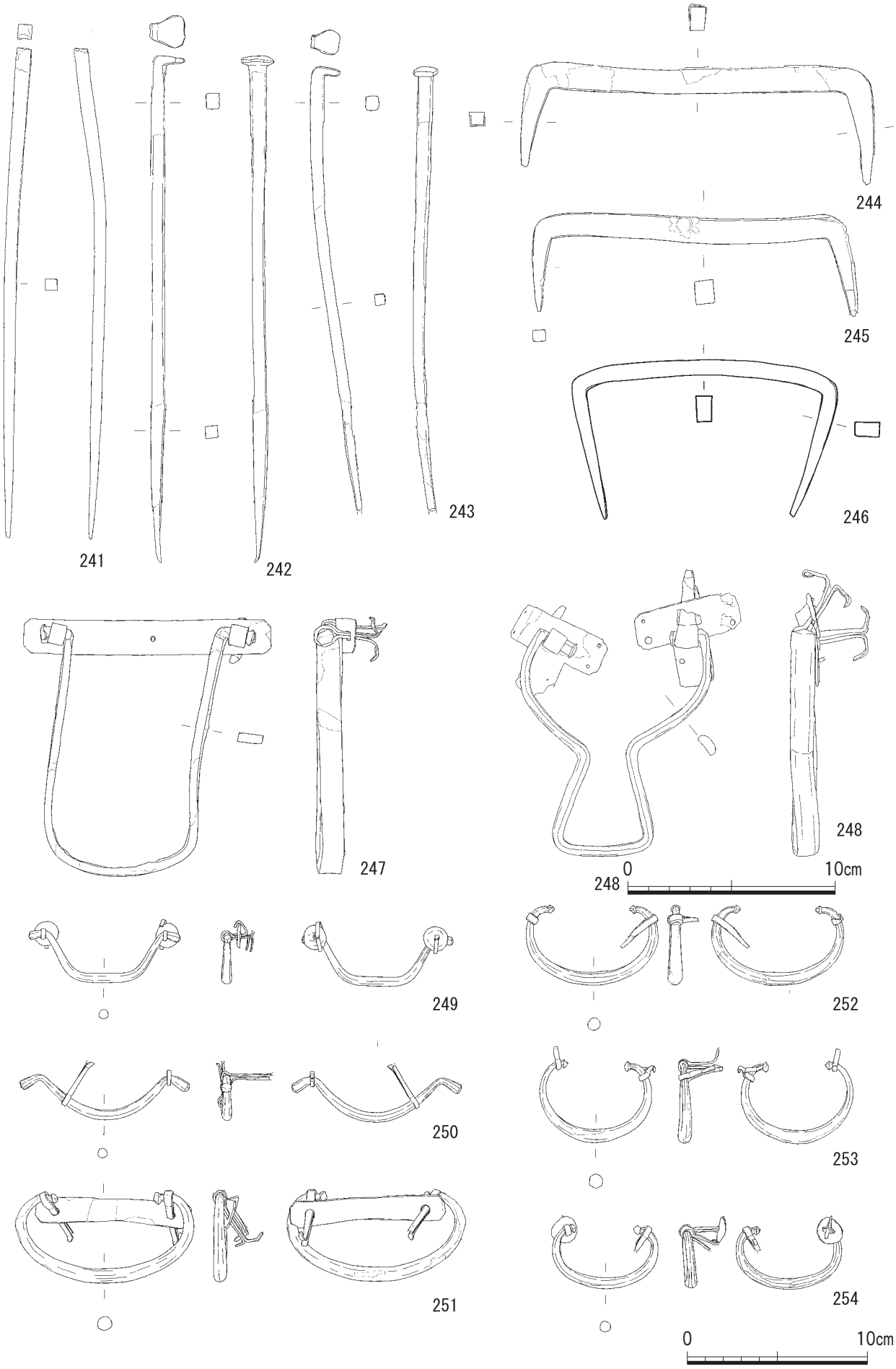
第326図　建築金物・調度金物・その他実測図19



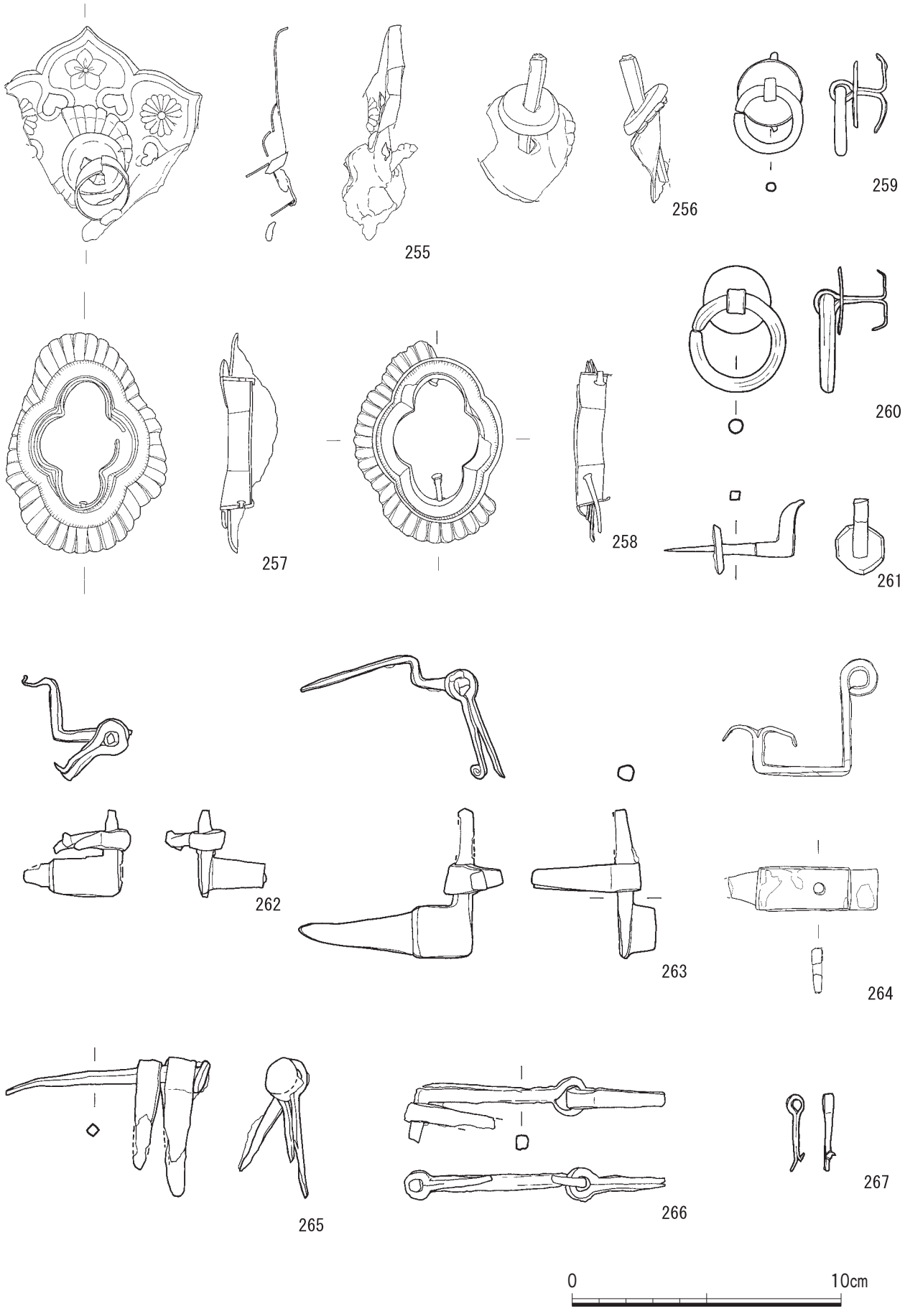
第327図　建築金物・調度金物・その他実測図20



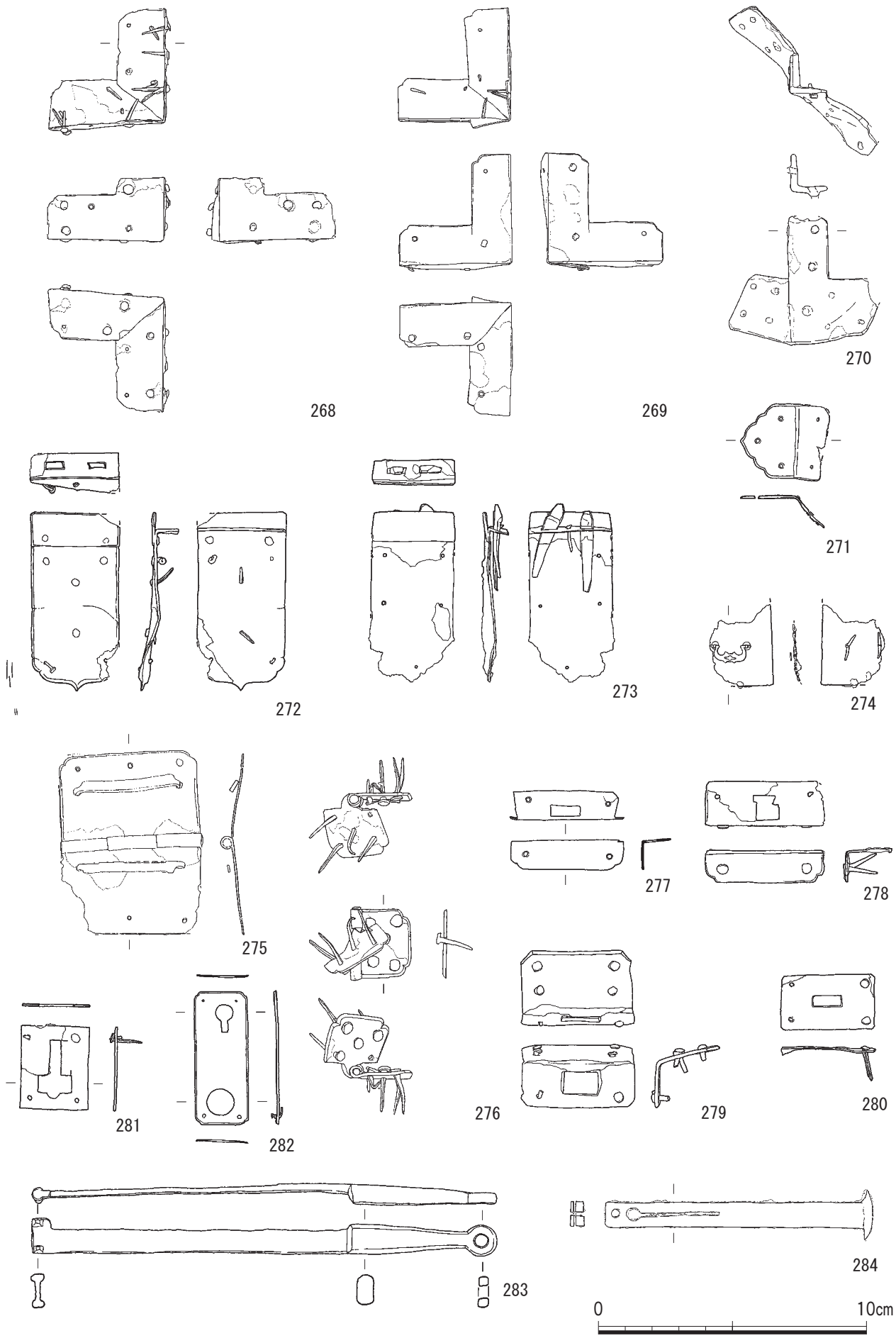
第328図　建築金物・調度金物・その他実測図21



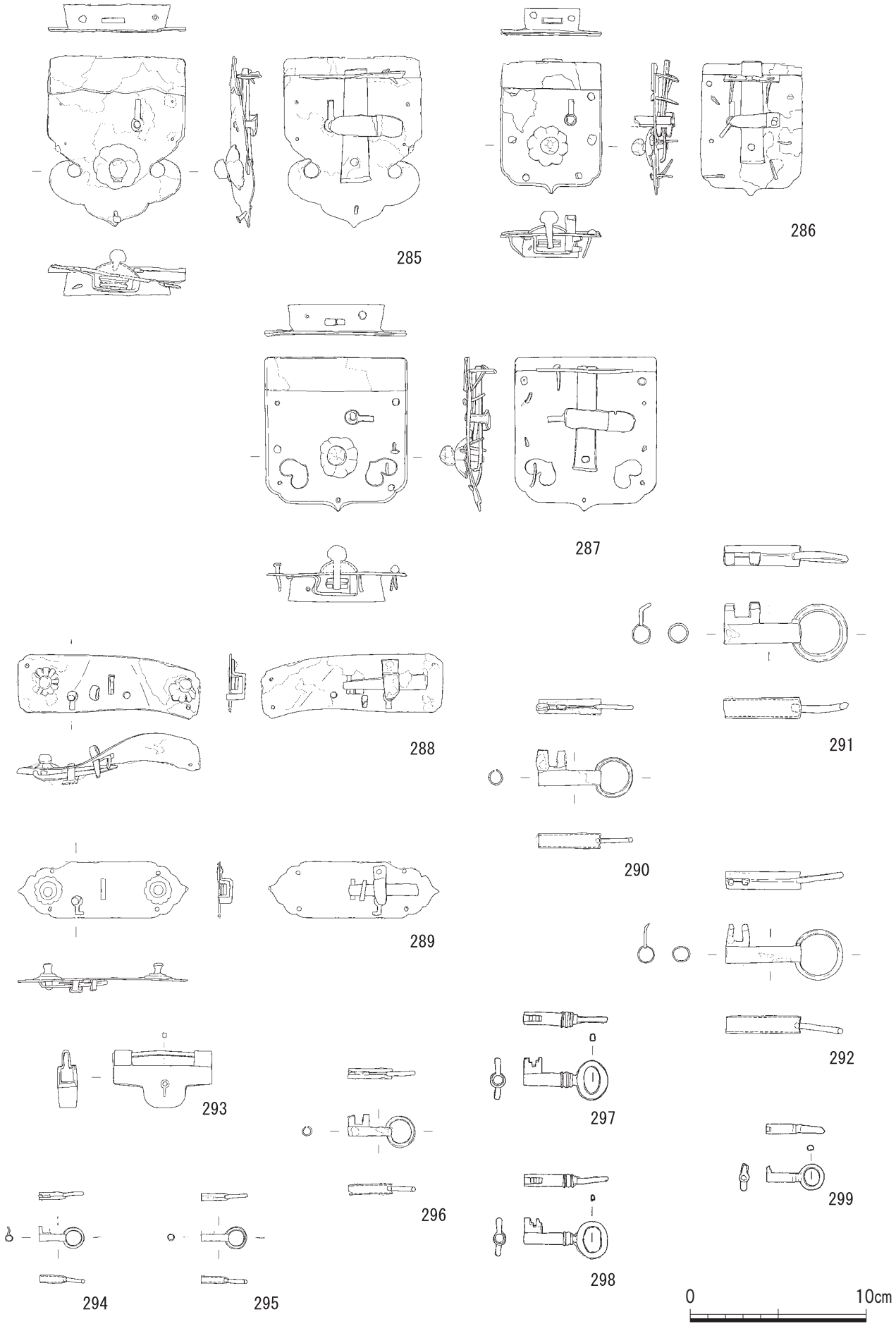
第329図　建築金物・調度金物・その他実測図22



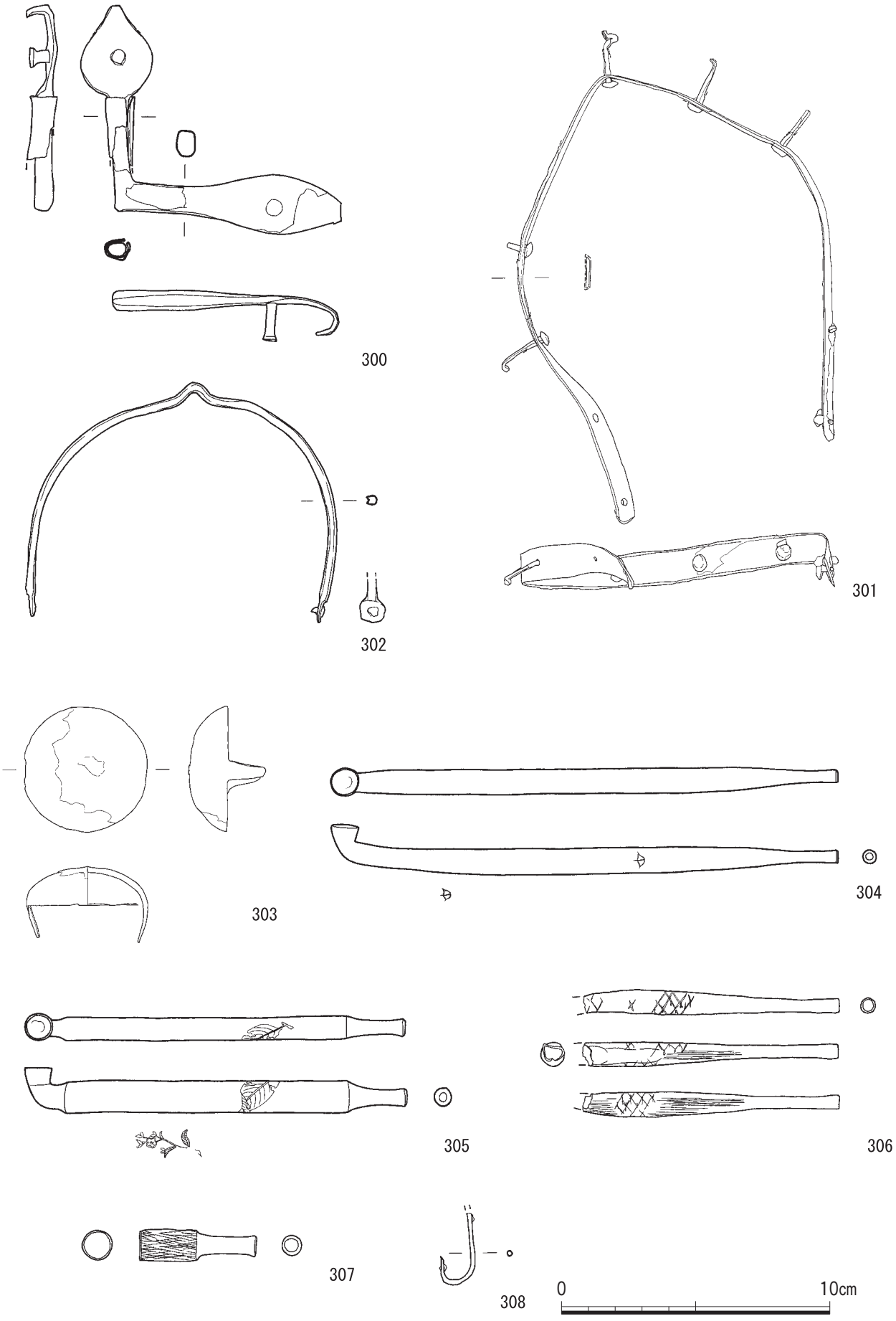
第330図　建築金物・調度金物・その他実測図23



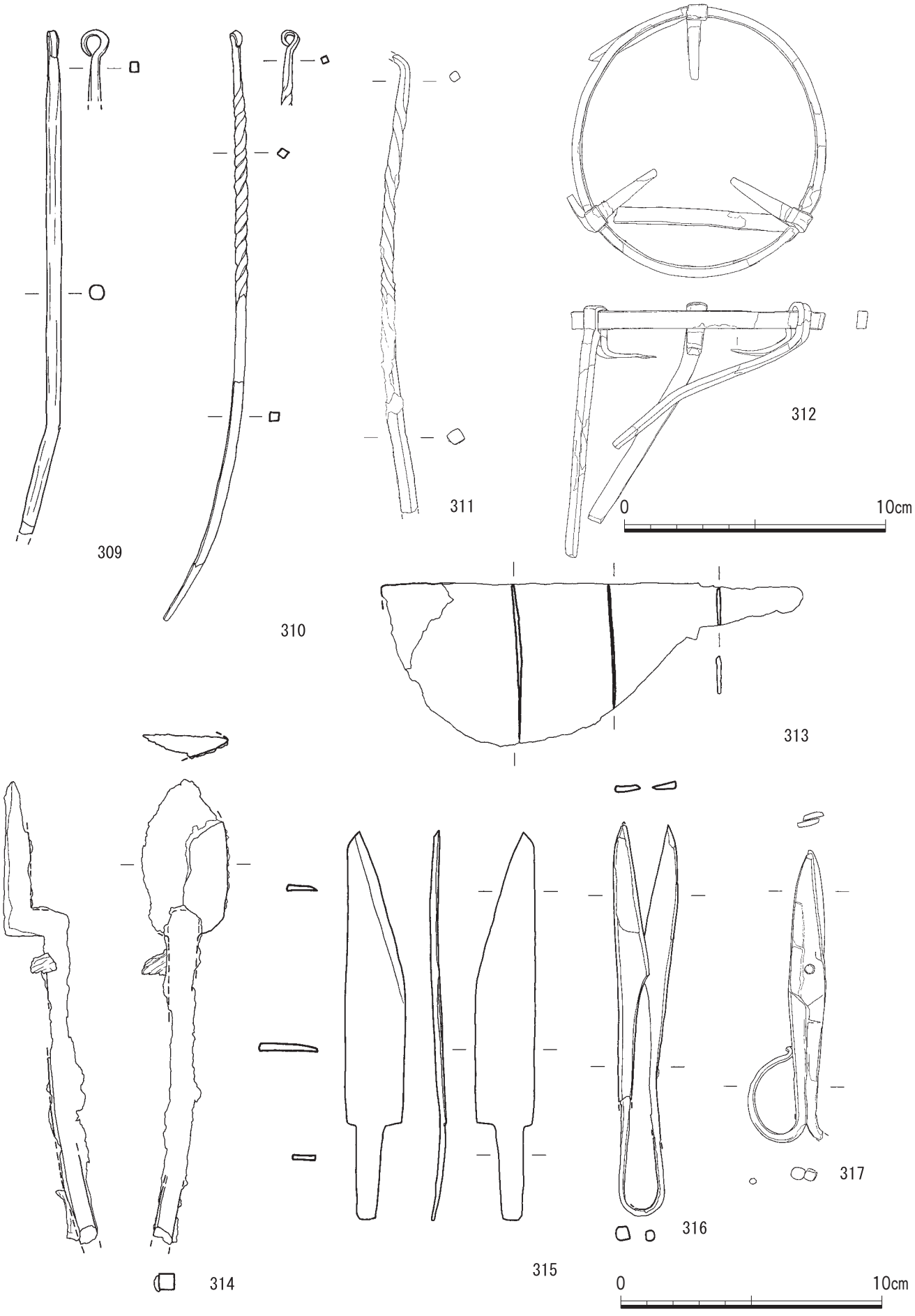
第331図　建築金物・調度金物・その他実測図24



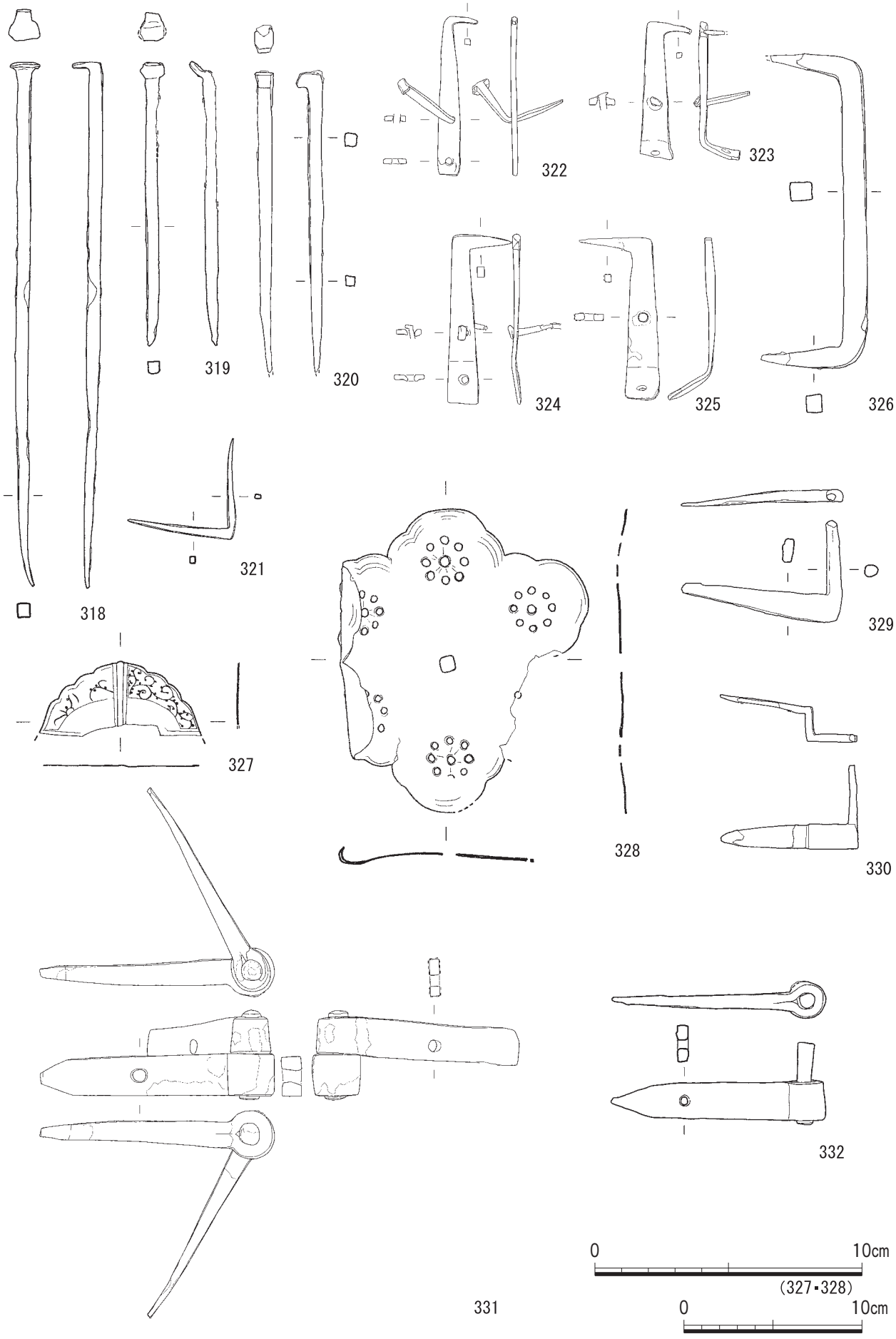
第332図　建築金物・調度金物・その他実測図25



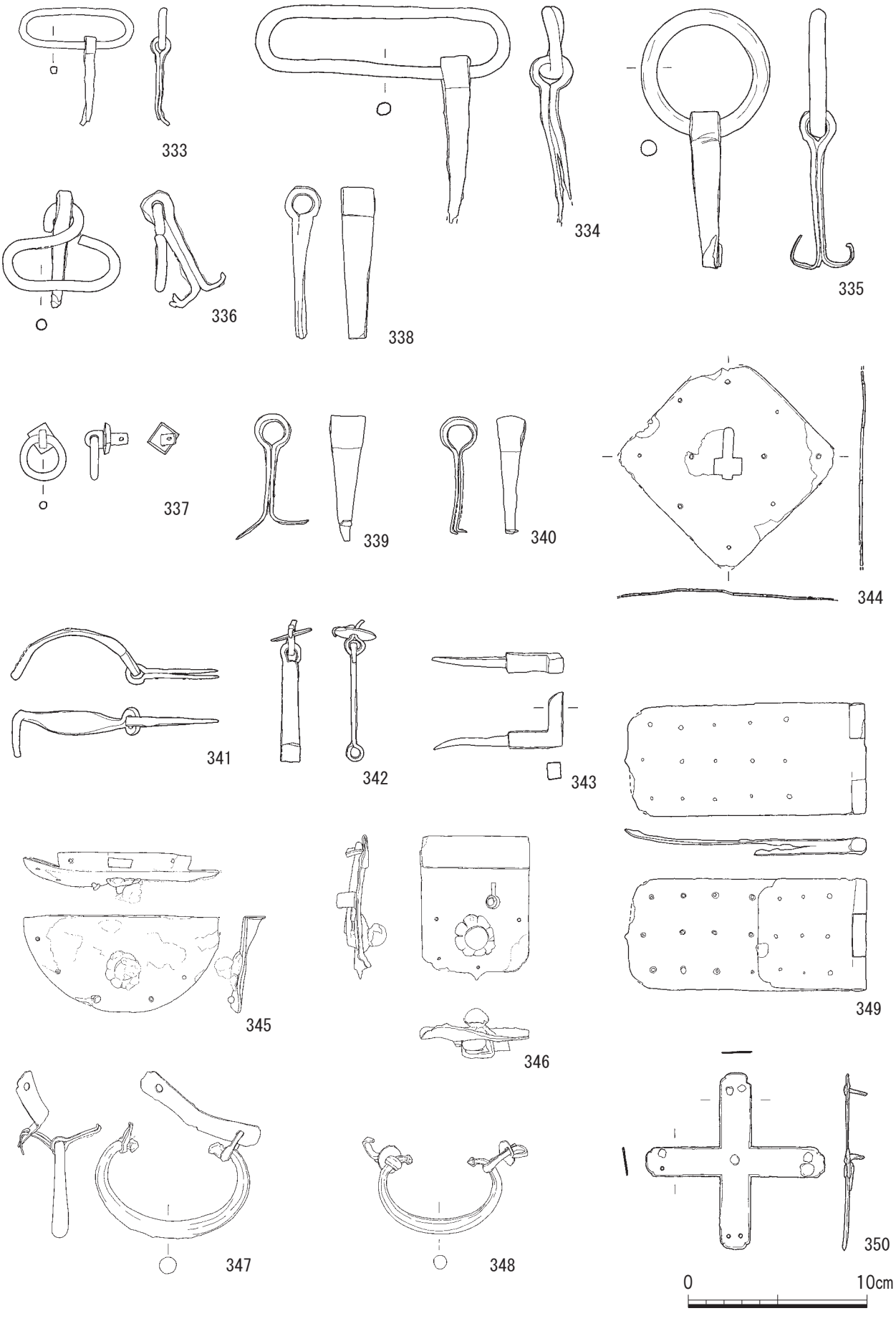
第333図　建築金物・調度金物・その他実測図26



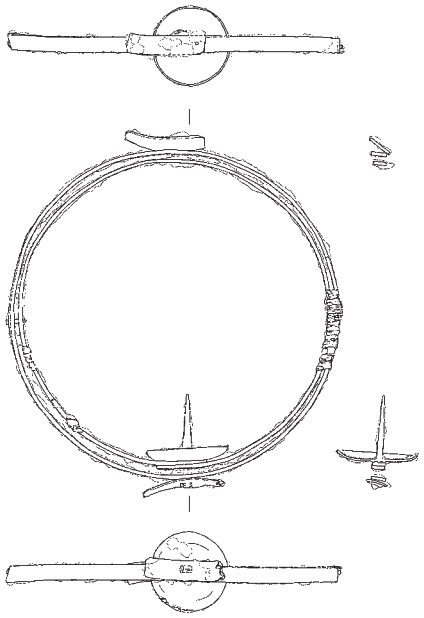
第334図　建築金物・調度金物・その他実測図27

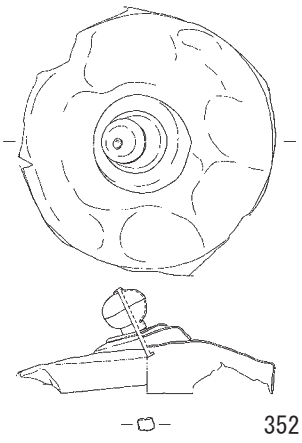


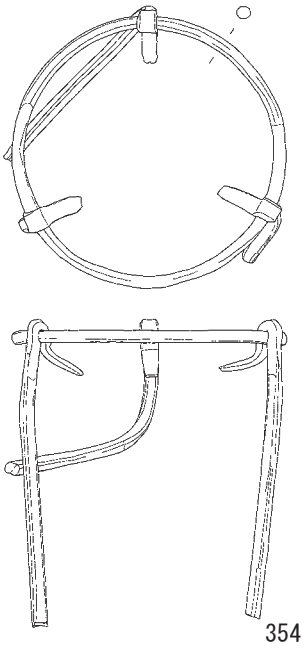
第335図　建築金物・調度金物・その他実測図28

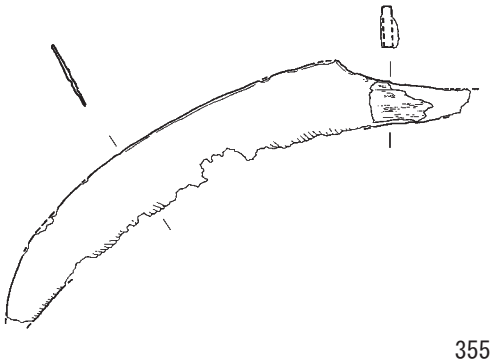


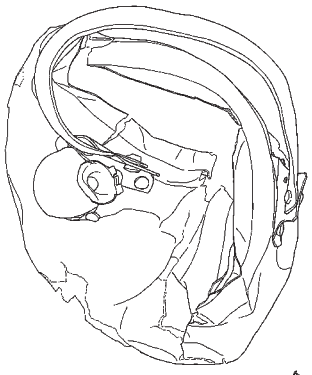
第336図　建築金物・調度金物・その他実測図29

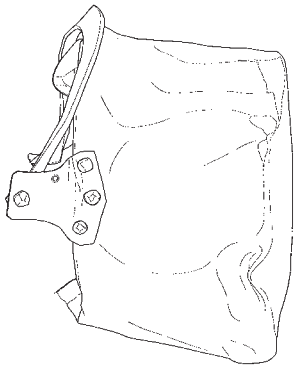


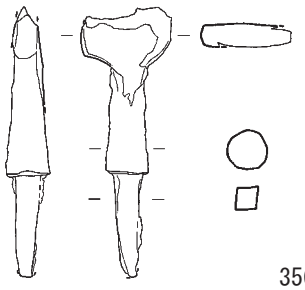


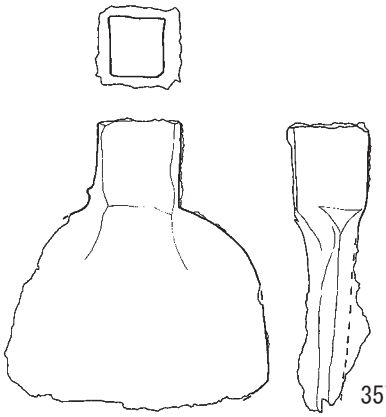


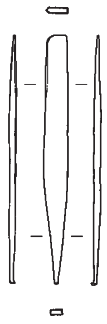


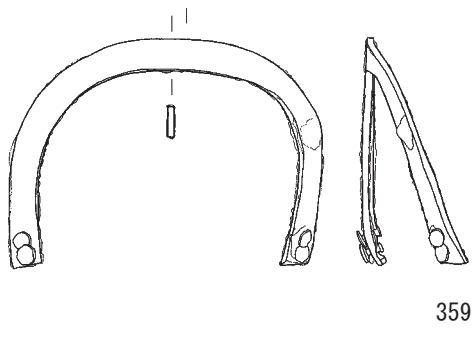




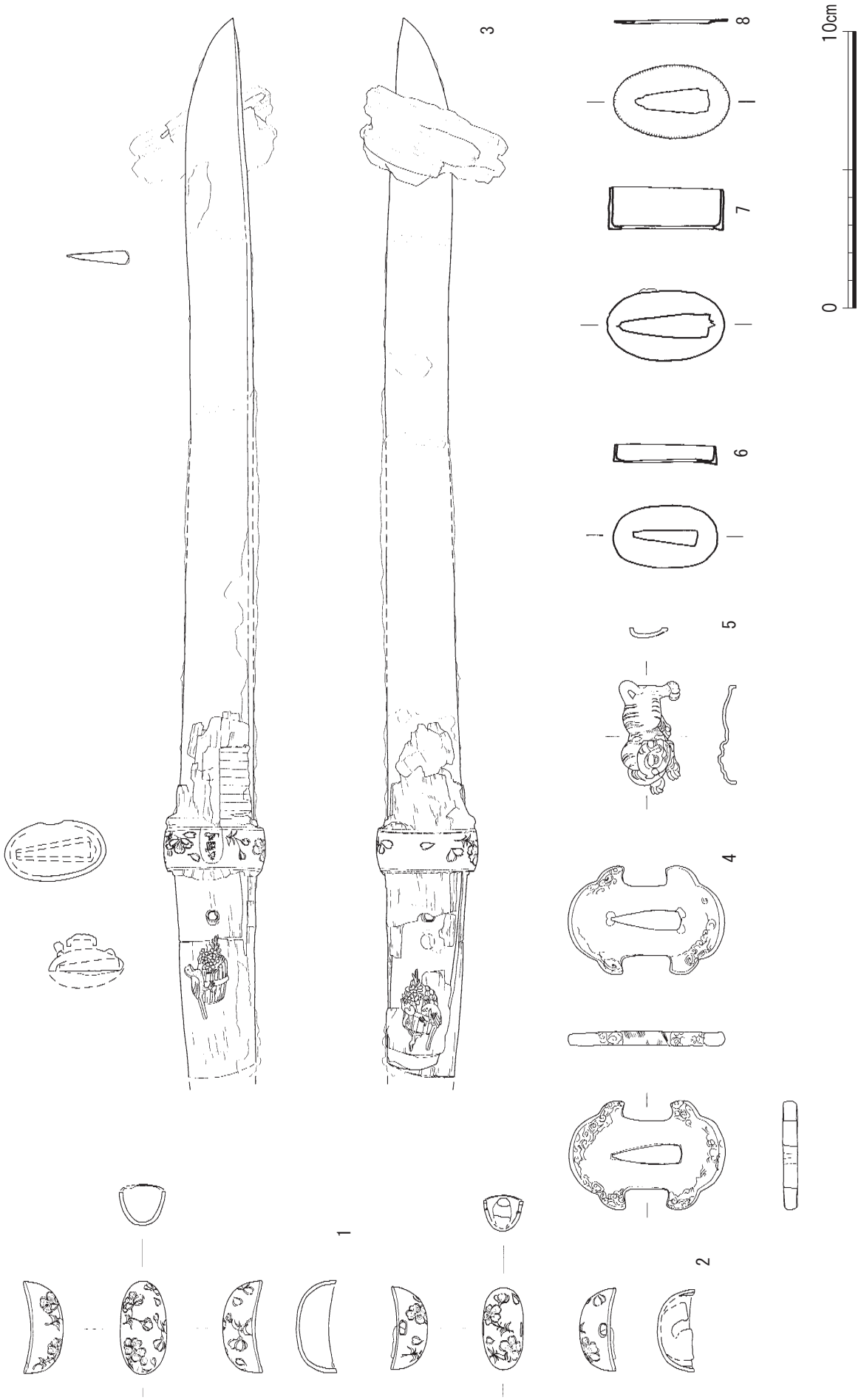




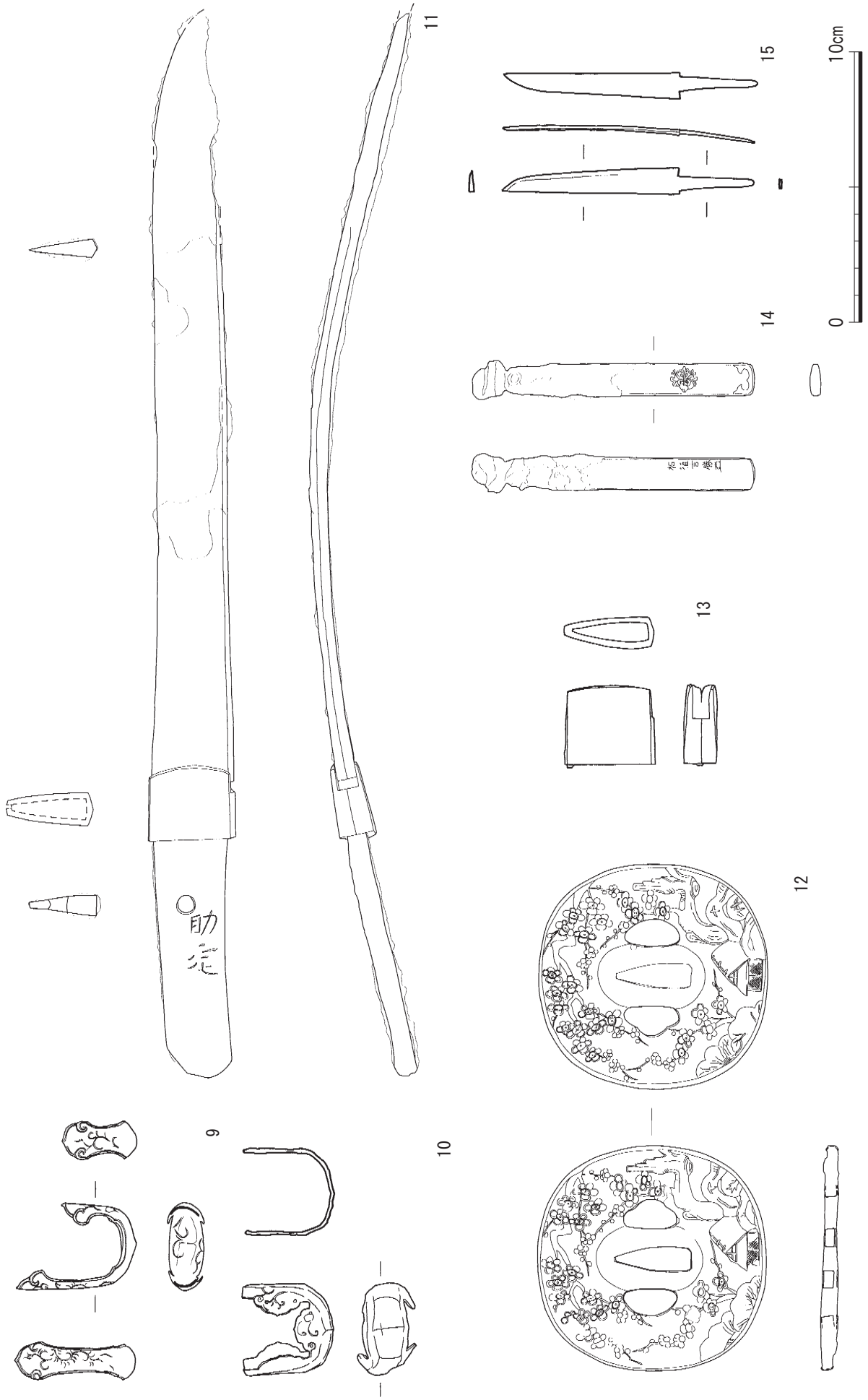




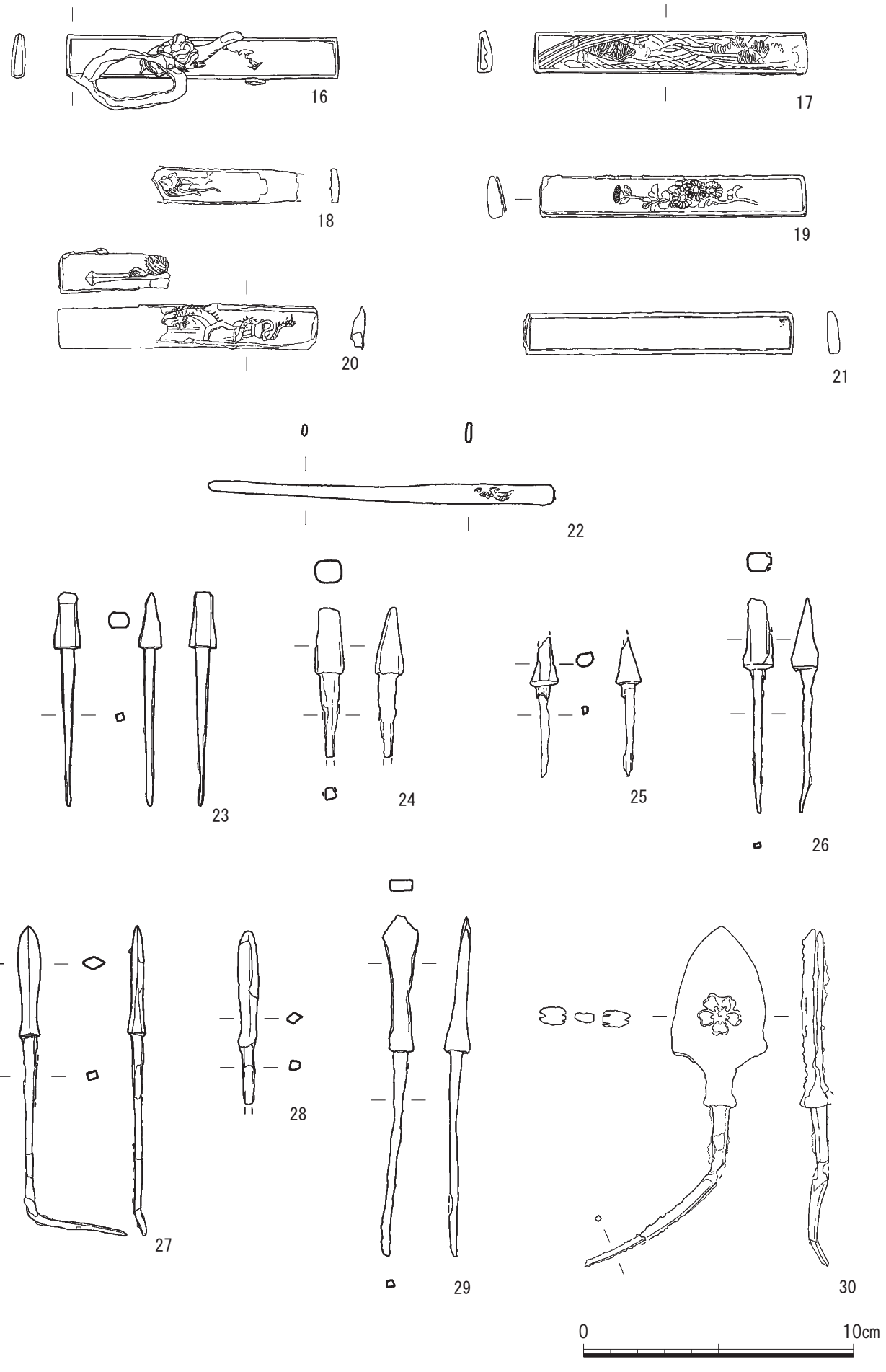
第337図　建築金物・調度金物・その他実測図30



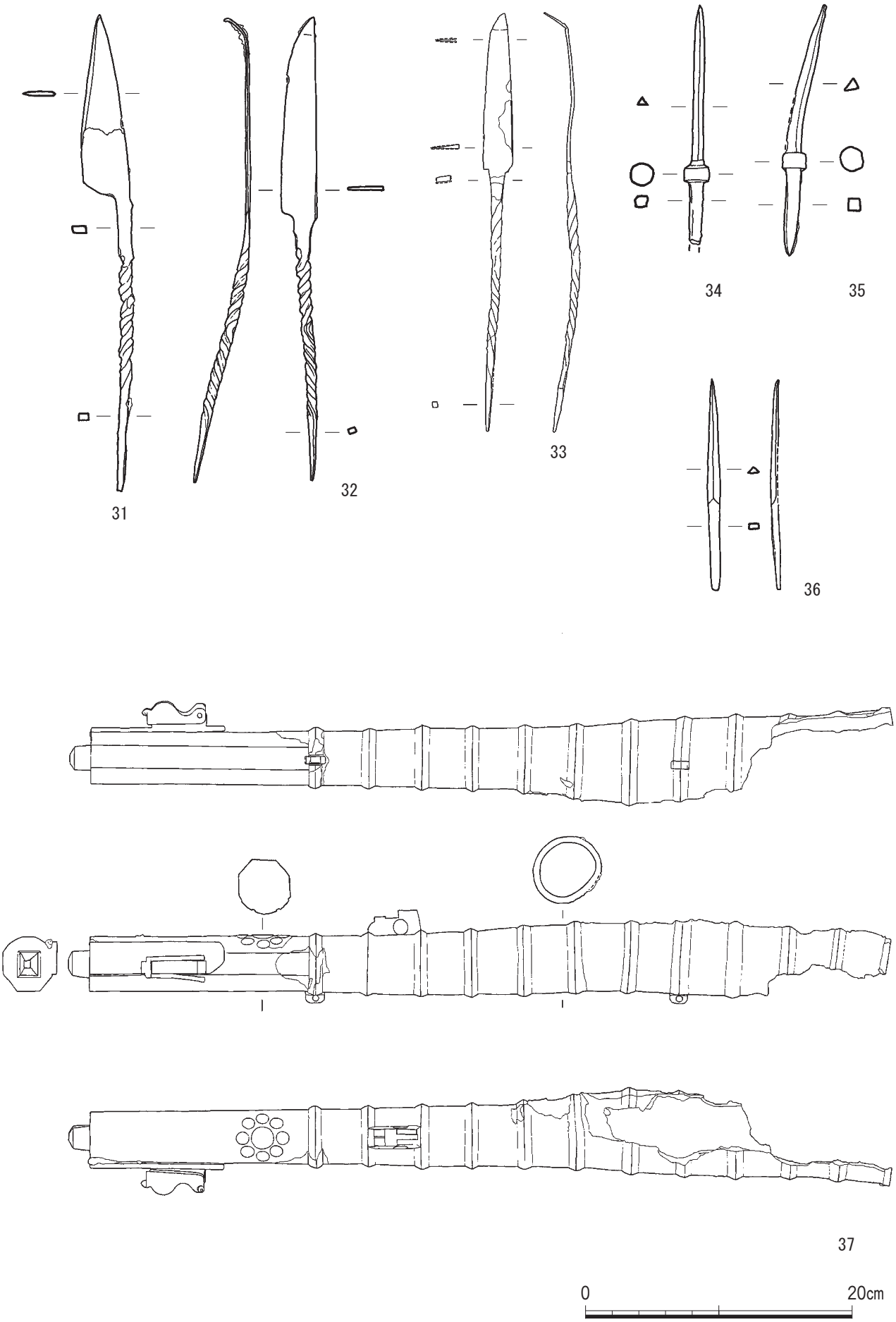
第338図　近世武器実測図 1



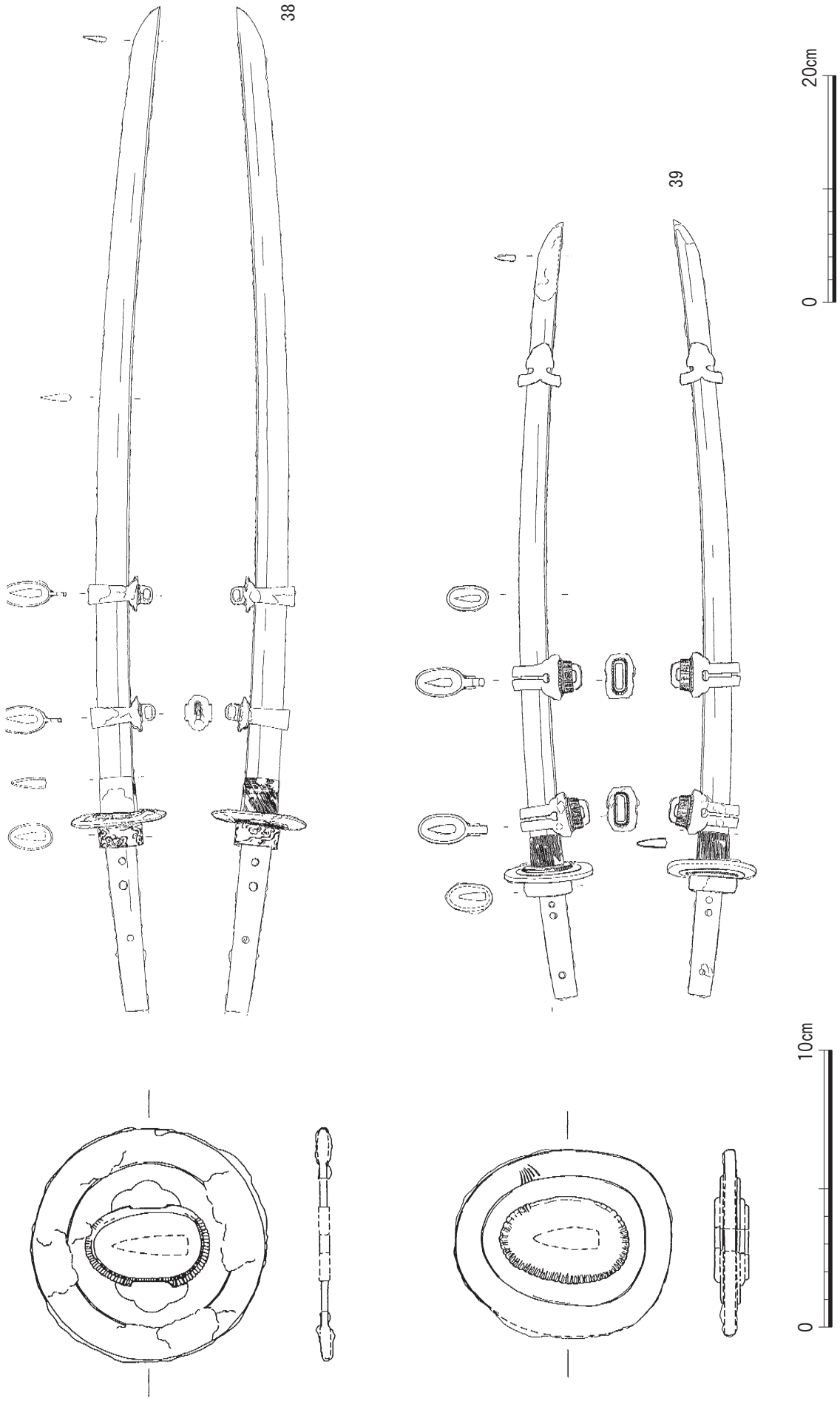
第339図　近世武器実測図２



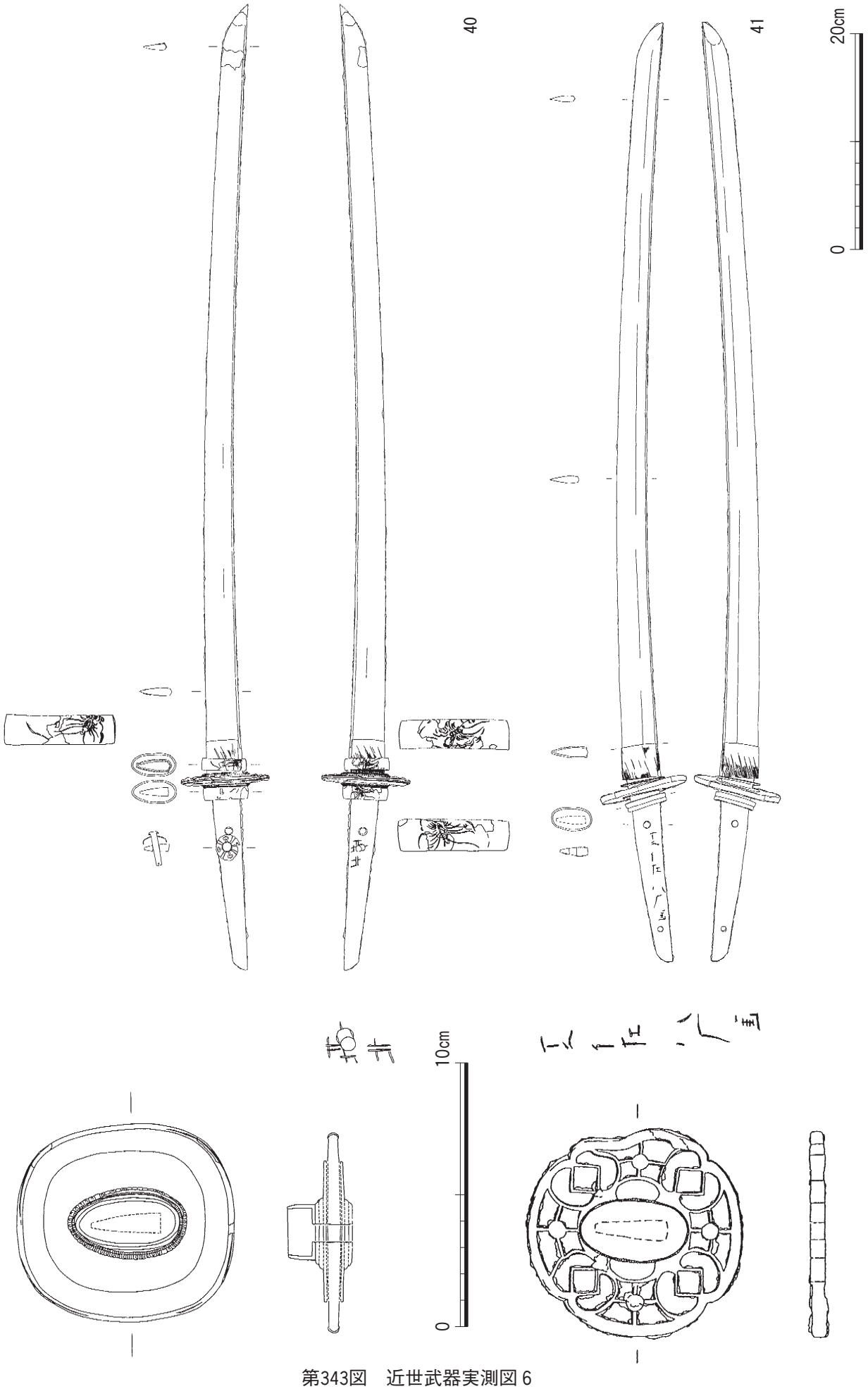
第340図　近世武器実測図 3



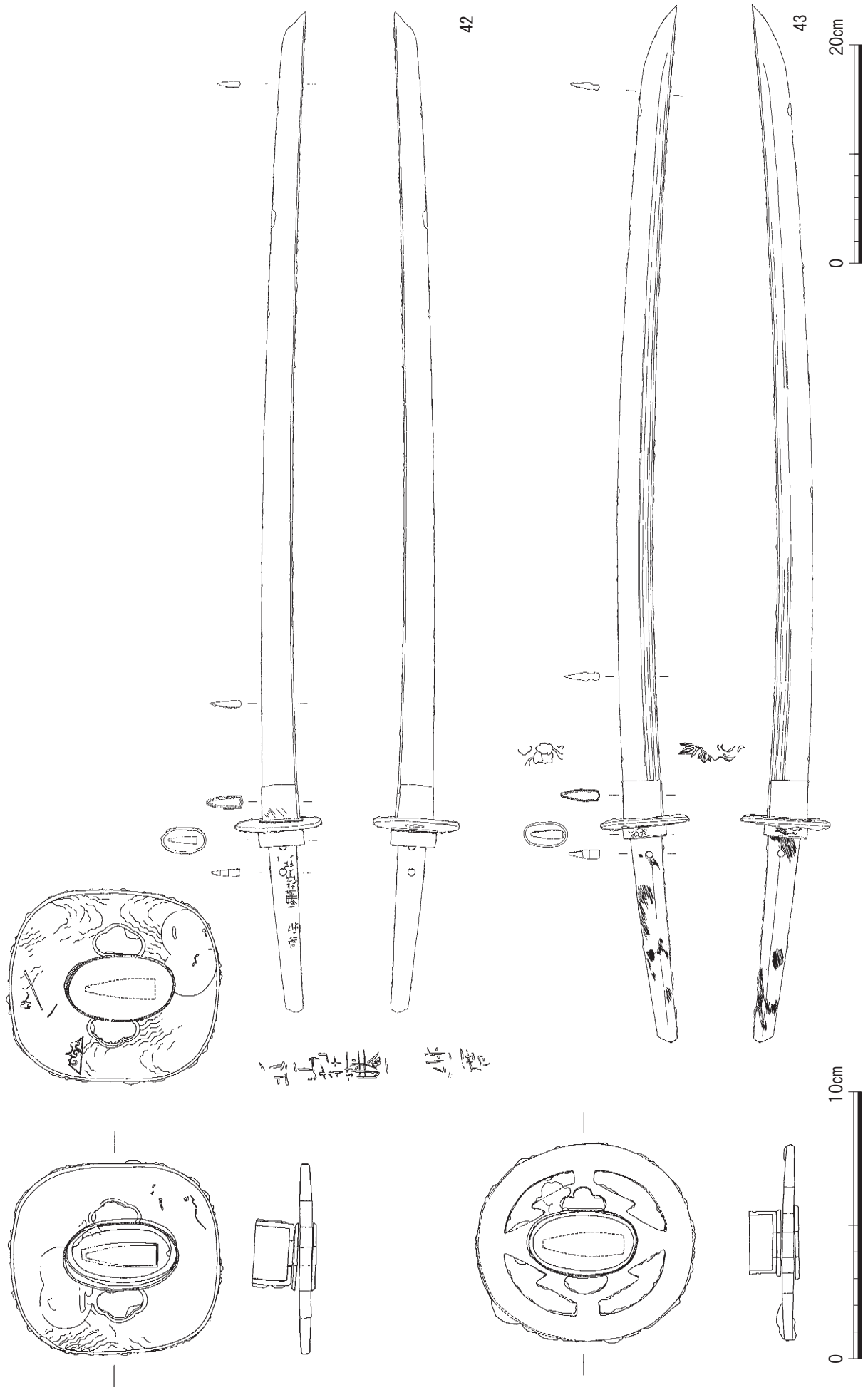
第341図　近世武器実測図 4



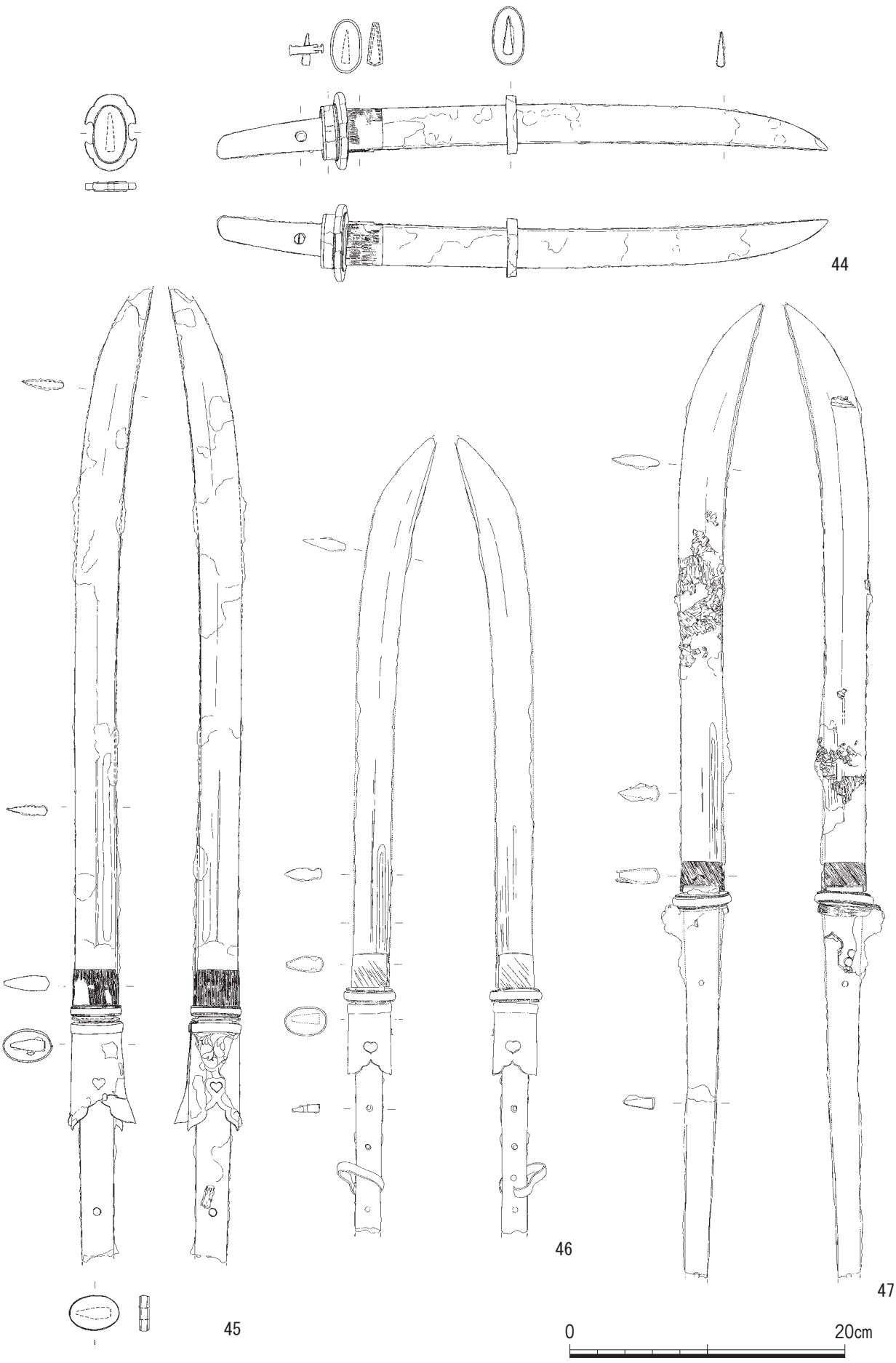
第342図　近世武器実測図 5



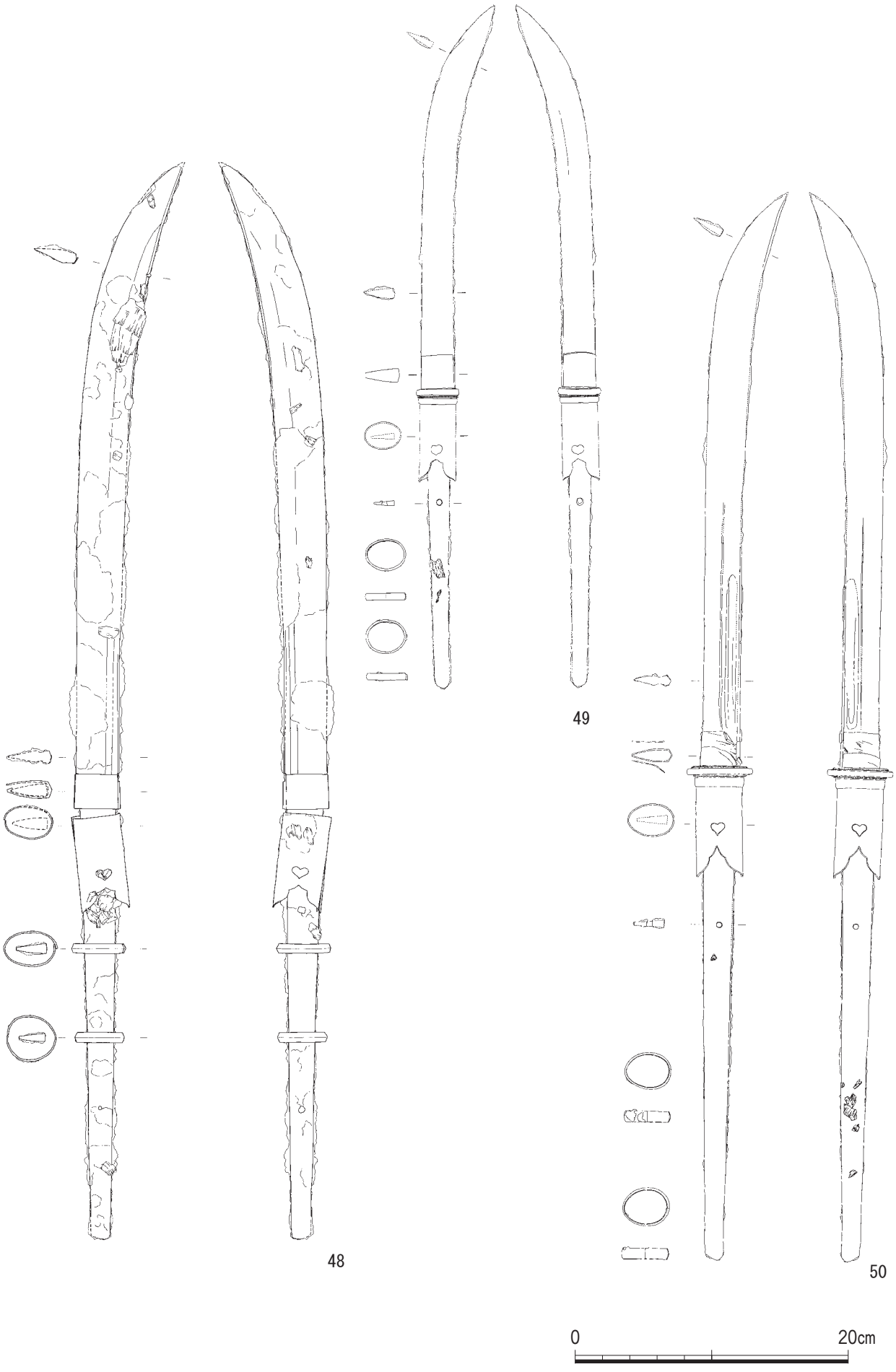
第343図　近世武器実測図 6



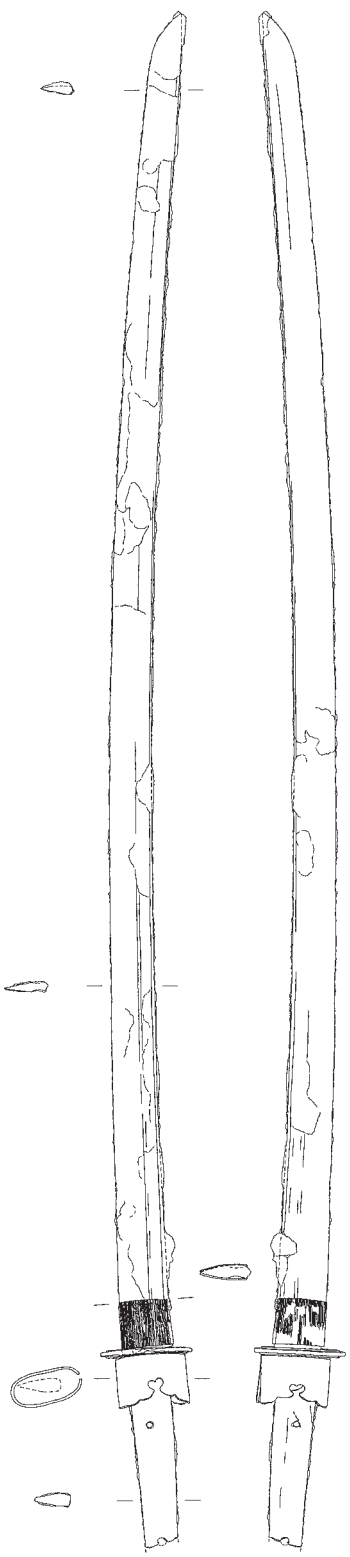
第344図　近世武器実測図 7



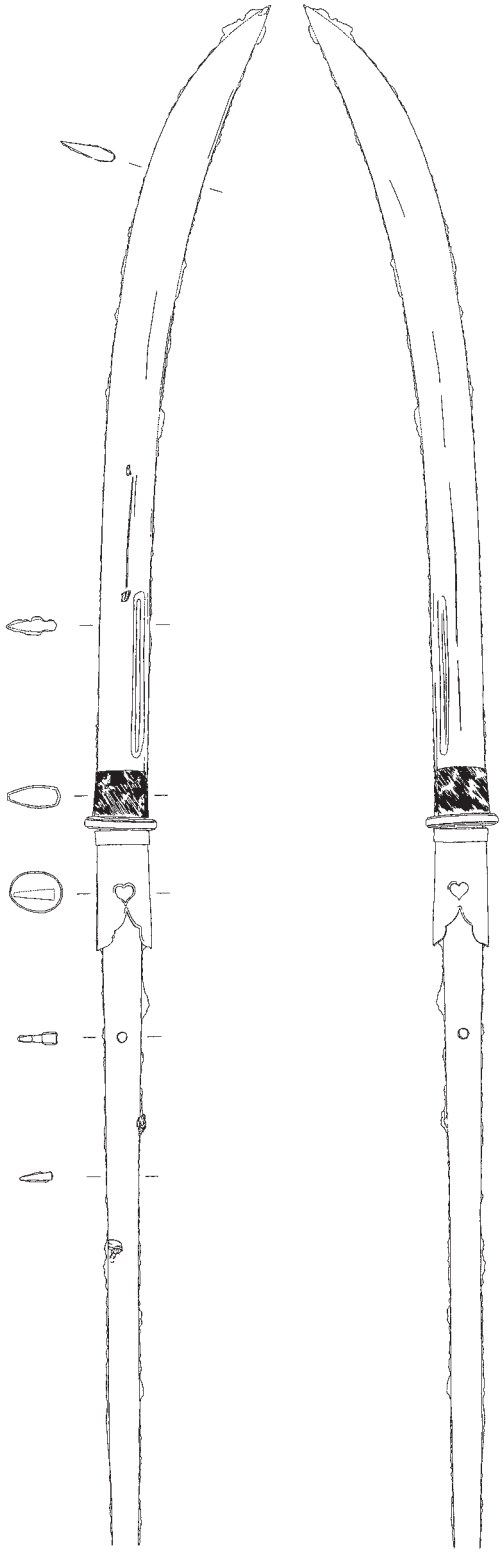
第345図　近世武器実測図 8



第346図　近世武器実測図 9



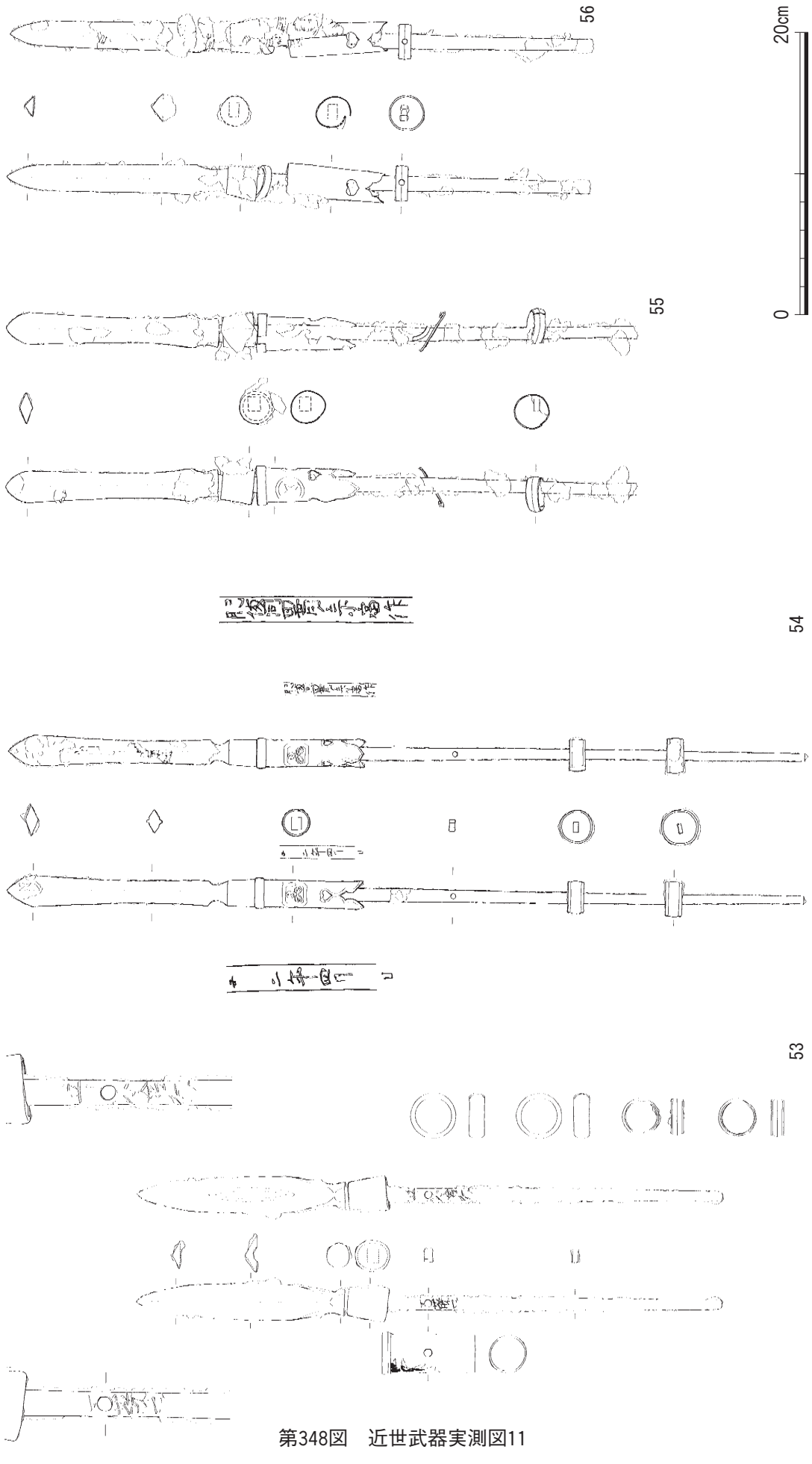
51



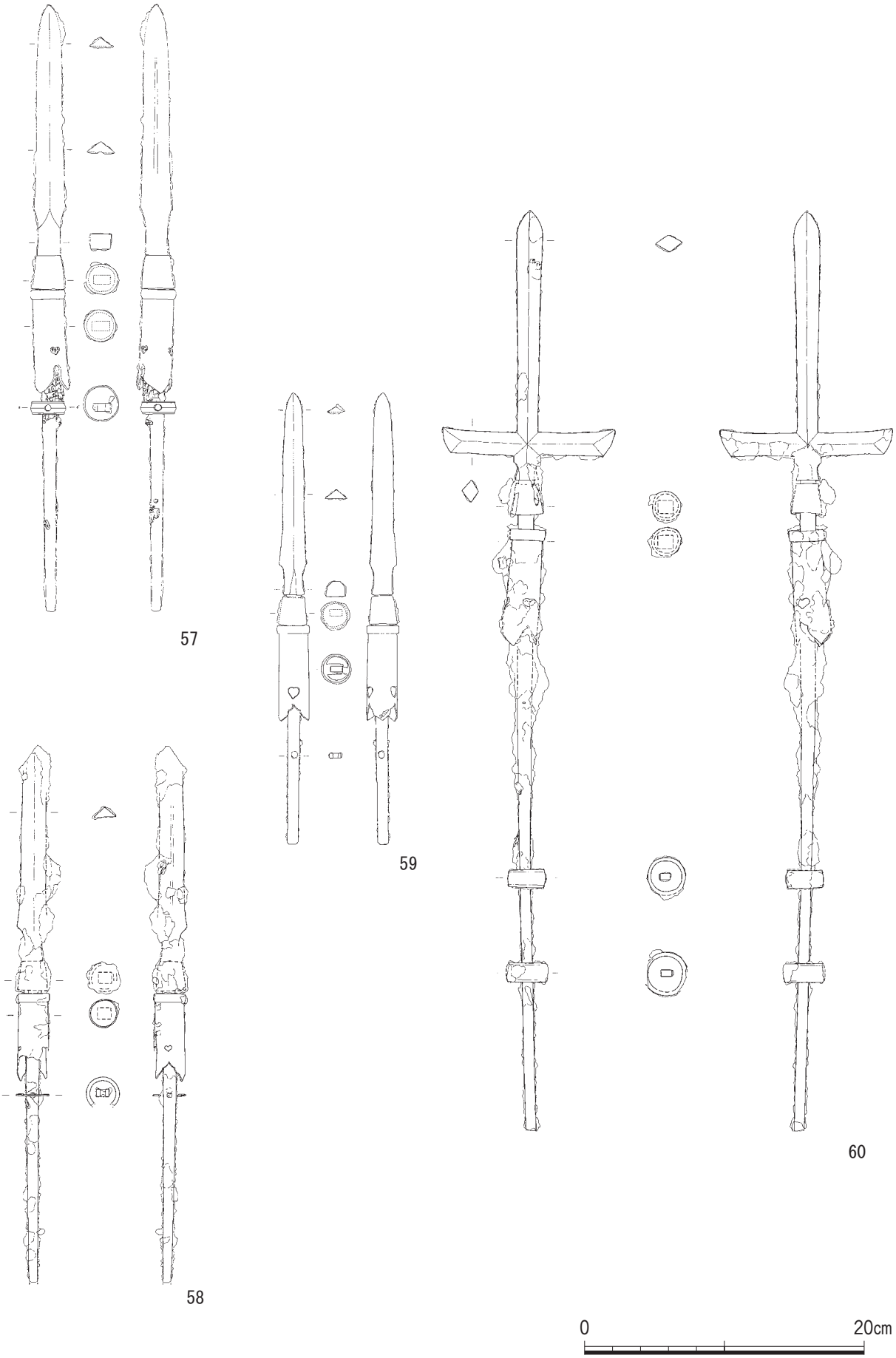
52

0 20cm

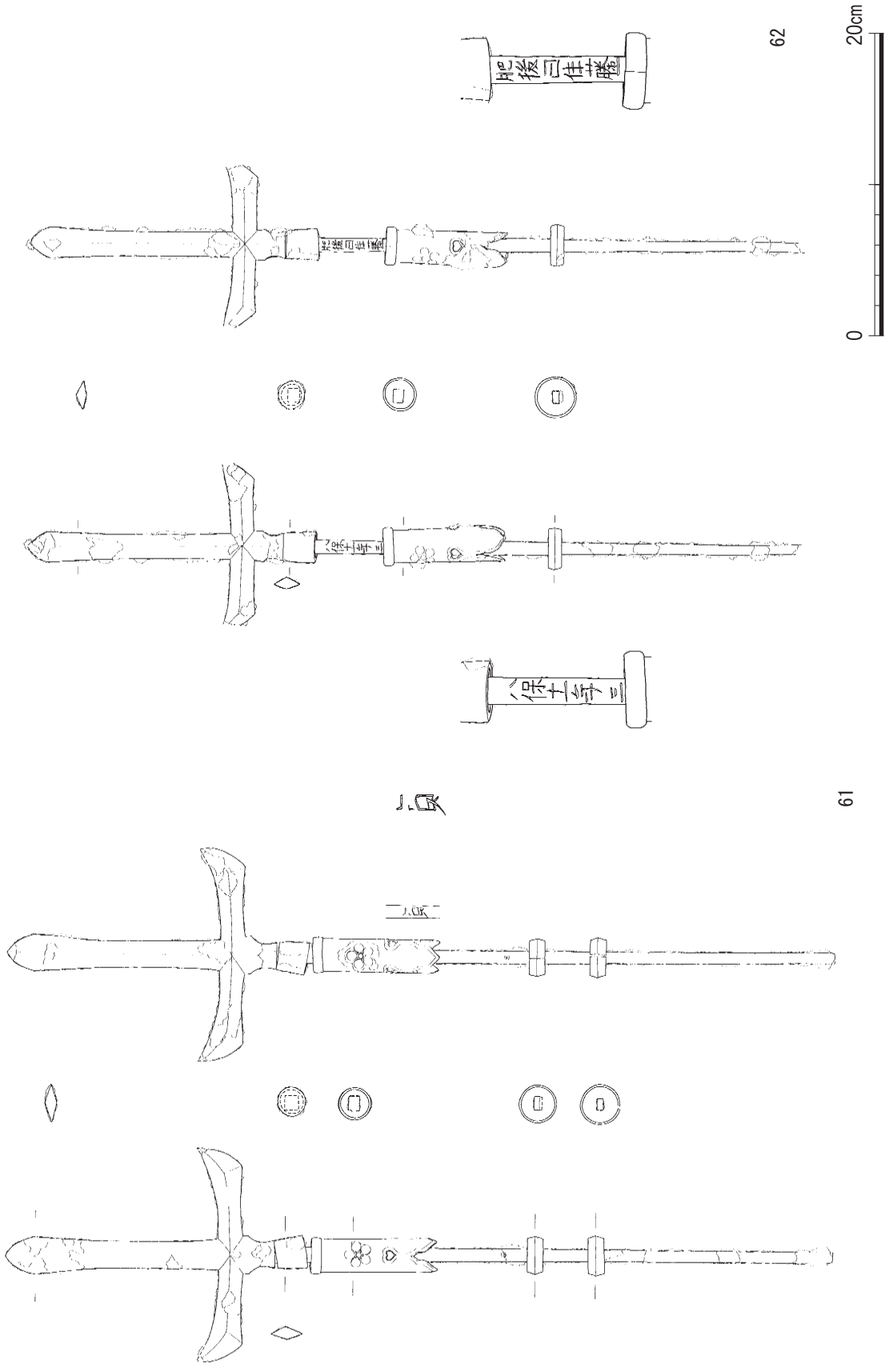
第347図　近世武器実測図10



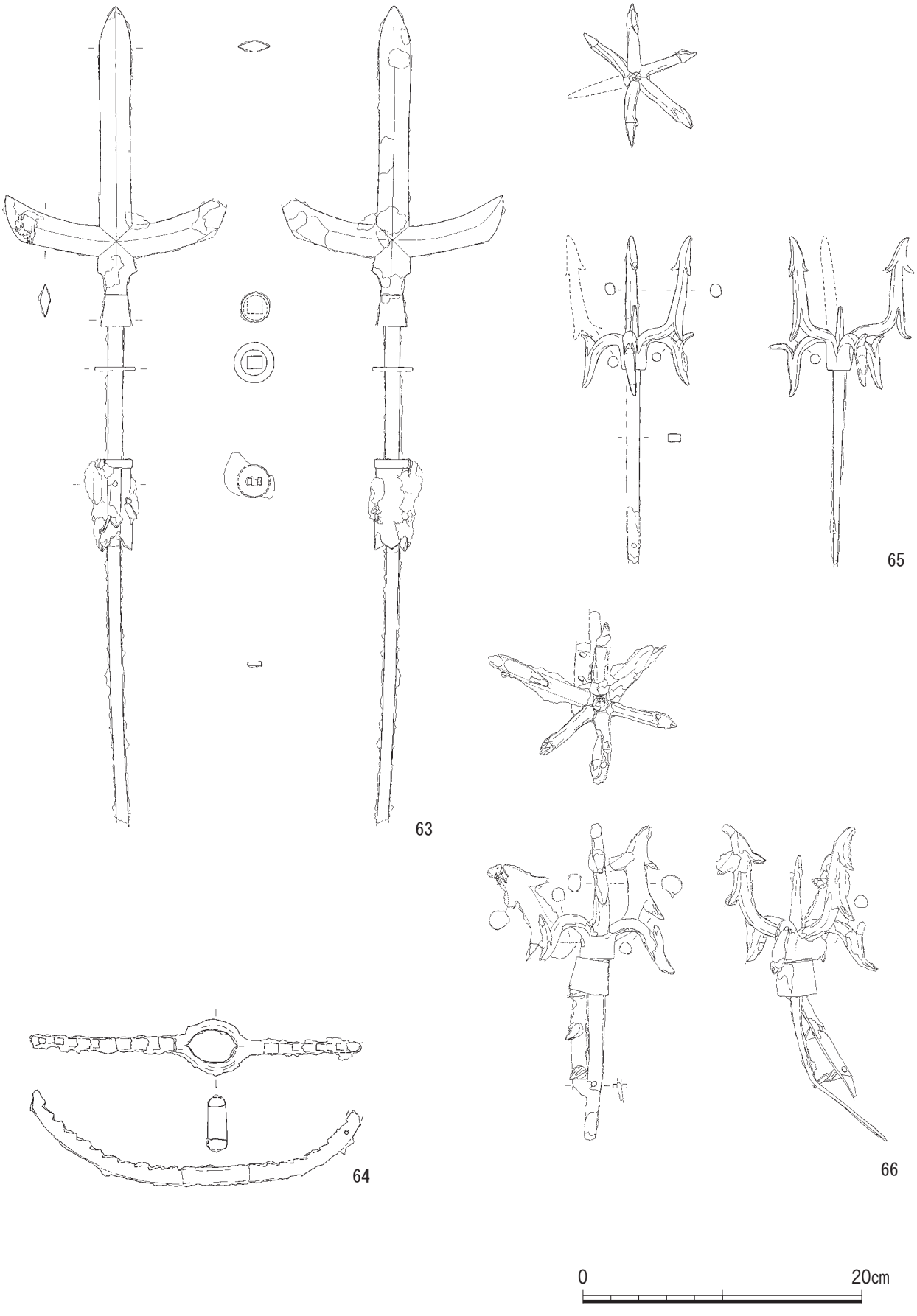
第348図　近世武器実測図11



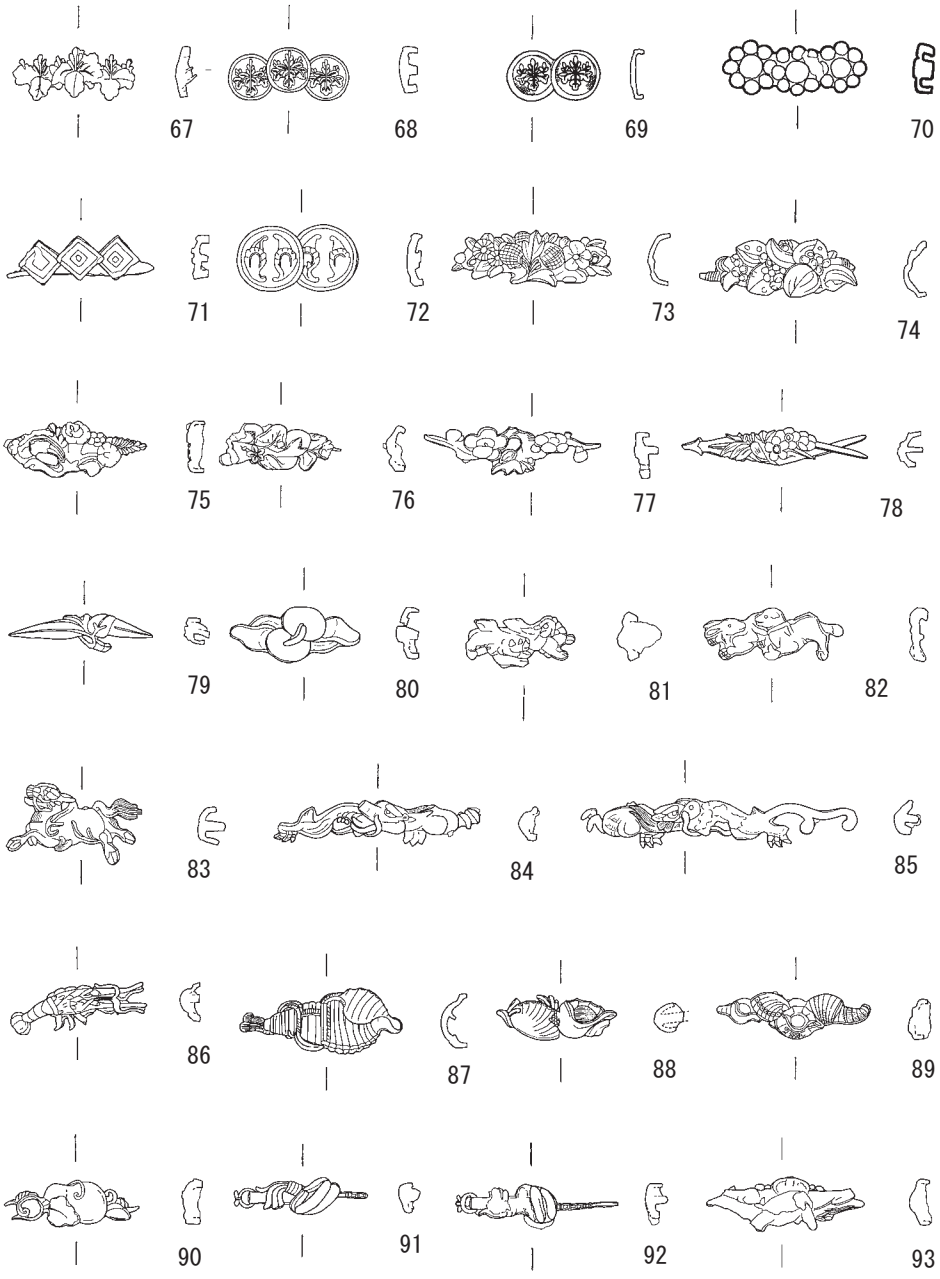
第349図　近世武器実測図12



第350図　近世武器実測図13



第351図　近世武器実測図14



第352図　近世武器実測図15

第19表　建築金物・調度金物一覧表

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値（cm）	備考
第308図	1	291	鉄	瓦釘	F83-54	Ⅲ層	81.2	頭幅・奥行1.6／1.4　全長29　幅・奥行0.6／0.5	
	2	290	鉄	瓦釘	F84-61	Ⅲ層	81.1	頭幅・奥行1.5／1.4　全長28.2　幅・奥行0.8／0.7	
	3	289	鉄	瓦釘	F84-61	Ⅲ層	66.2	頭幅・奥行1.2／1.2　全長27.7　幅・奥行0.6／0.8	
	4	738	鉄	釘	F80-59	Ⅲ層	155.8	頭幅・奥行1.3／1.45　全長（18.5）　幅・奥行1.35／0.9	
	5	210	鉄	釘	F 77-54	Ⅱ層	116.9	頭幅・奥行3.1／1.5　全長11.7　幅・奥行1.2	
	6	212	鉄	釘	F 77-53	Ⅱ層	58.0	頭幅・奥行2.3／2.4　全長11.6　幅・奥行1.1	
	7	304	鉄	鋲	F81-61	Ⅲ層	11.2	頭径1　頭高さ0.7　全長3.1　径0.3　座金径2.4	
	8	297	鉄	鋲	F81-61	Ⅰ層	19.4	頭径1.6　頭高さ1　全長（5.4）　径0.6　座金径2.2	
	9	619	鉄	鎹	F84-53	Ⅲ層	133.0	全長18.5　全幅5.5　胴幅・奥行1.2／0.6　釘長さ4.3	
	10	617	鉄	鎹	F81-52	Ⅲ層	260.2	全長18.5　全幅5.9　胴幅・奥行1.6／1.3　釘長さ4.3	
	11	618	鉄	鎹	F84-53	Ⅲ層	102.2	全長17.8　全幅4.9　幅・奥行1.8／0.8　釘長さ3.4	
	12	719	鉄	目鎹	F81-57	Ⅲ層	25.0	全長7.8　全幅4.55　胴長さ6.9　釘長さ3.3	
	13	714	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	22.8	全長7　全幅4.7　胴長さ6.3　釘長さ2.9	
	14	715	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	21.0	全長7.2　全幅3.7　胴長さ6.7　釘長さ2.6	
	15	718	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	20.4	全長7.6　全幅4　胴長さ7　釘長さ2.6	
	16	717	鉄	目鎹	F81-55	Ⅲ層	12.6	全長7.2　全幅4　胴長さ5.9　釘長さ3.2	
	17	722	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	11.2	全長6.9　全幅3.5　胴長さ6.5　釘長さ2.4	
	18	721	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	34.8	全長9.5　全幅4.5　胴長さ8.7　釘長さ2.9	
	19	720	鉄	目鎹	F80-62	Ⅲ層	42.2	全9.5　全幅5.8　胴長さ8.6　釘長さ4.1	
第309図	20	489	鉄	違い鎹	F77-54	Ⅲ層	368.2	全長25.8　全幅8.3／7.2　胴長さ25.4　胴幅・奥行2／1.1　釘長さ6.1／4.6	
	21	490	鉄	違い鎹	F77-54	Ⅲ層	704.7	全長28.8　全幅・奥行8.6／4.9　胴長さ24.7　胴幅・奥行2／1.2　釘長さ7.1／4.6	
	22	487	鉄	違い鎹	F78-54	Ⅱ層下位	386.3	全長（19）　全幅7.3／(6.1)　胴長さ16.3／18.5　胴幅・奥行2.9／1.1　2.8／1　釘長さ5.6／(5)	
	23	492	鉄	違い鎹	F78-53	Ⅱ層	531.7	全長（18.7）　全幅（7.9）／(6.6)　胴長さ（16.1）　胴幅・奥行（3）／(1.8)　(3.5)／(1.4)　釘長さ(5)／(5.1)	
	24	478	鉄	鎹	F77-54	Ⅱ層下位	447.6	全長（30）　全幅17　胴長さ(29.3)　胴幅・奥行(2.9)／（1）　釘長さ（5.1）／（5.4）	
	25	491	鉄	鎹	F77-54	Ⅱ層	124.7	全長28　全幅8.8　胴長さ29.7　胴幅・奥行0.5／1.9　釘長さ5.6	
	26	485	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層	866.0	全長23.4　全幅7.7　胴長さ23.4　胴幅・奥行1.9／3.1　3／1.8　釘長さ（5）	
第310図	27	483	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層	128.1	全長16.3　全幅5.5　胴長さ16.3　胴幅・奥行2／0.3　釘長さ（3.4）	
	28	477	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層下位	409.4	全長20.5　全幅6.1　胴長さ20　胴幅・奥行3.4／3.3　釘長さ3	
	29	479	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層下位	134.6	全長14.6　全幅9　胴長さ16.7　胴幅・奥行（0.9）／（2.6）　釘長さ3.2	
	30	475	鉄	目鎹	F78-54	Ⅱ層下位	170.9	全長16.1　全幅（6.5）　胴長さ15　胴幅・奥行2.6　釘長さ（4.1）	
	31	474	鉄	目鎹	F78-54	Ⅲ層	319.9	全長（22.5）　全幅（5.5）　胴長さ19.7　胴幅・奥行（2.7）／(2.6)　釘長さ（5.2）	
	32	473	鉄	目鎹	F78-54	Ⅲ層	263.9	全長25.3　全幅5　胴長さ（24.3）　胴幅・奥行（2.5）／(2.3)　釘長さ4	
	33	488	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層下位	919.4	全長（17.1）　全幅7　胴長さ（17）　胴幅・奥行3／2.3　釘長さ4.2	
	34	486	鉄	目鎹	F77-54	Ⅱ層	596.1	全長（23.6）　全幅（8）　胴長さ（23.3）　胴幅・奥行（4.5）／(2.8)　釘長さ（4.7）	
	35	507	鉄	不明	F 77-54	Ⅱ層下位	506.6	全長（8.9）　全幅（7.3）　胴幅・奥行（1.8）	
	36	506	鉄	不明	F 77-54	Ⅱ層下位	175.8	全長（8.7）　全幅（5.5）　胴幅・奥行（1.1）／(1.3)	
第311図	37	494	鉄	肘金物	F81-55	Ⅱ層	964.7	全長（21.2）　全高（7.4）　奥行4.8　軸径1.4　胴高さ（3.5）　座金高さ・幅（8.3）／(8)	
	38	493	鉄	肘壺金物	F78-53	Ⅱ層	179.9	肘金具全長9.9　全高（5）　奥行（1.3）　釘長さ8.7　釘幅2　壺金具全長10.4　全高（1.6）　奥行2.6　釘長さ8.6	
	39	95	鉄	肘金物	F 77-54	Ⅲ層	68.6	全長11.6　全高4　奥行1.1　軸長さ1.8　釘長さ10.9	
	40	294	鉄	肘金物	F83-61	Ⅰ層	15.8	全長6.7　全高3.6　奥行0.6　軸長さ1.9　釘長さ6.1	
	41	523	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	529.7	縦・横（12.3）　最大厚（0.4）	
	42	528	鉄	門巻金物	F 81-54	Ⅲ層	111.8	縦・横（10.8）　最大厚（0.3）	
	43	495	鉄	落とし金物	F 81-54	Ⅲ層	1077.9	全長45.2　胴幅・奥行2.4／1.6　座金長さ・幅（9.9）／(3.5)	
	44	497	鉄	留栓金物	F 78-53	Ⅲ層	254.3	全長（11.8）　全幅（5）　奥行（2.5）　頭長さ（4）　円鎹径・太さ（5.3）／(0.6)	
	45	496	鉄	留栓金物	F 82-54	Ⅱ層	162.4	全長（10.3）　全幅（4.9）　奥行（2.2）　頭長さ（4）　円鎹径・太さ（2.5）／(0.4)	
	46	526	鉄	門巻金物	F 81-54	Ⅲ層	420.7	縦（12.9）　横（20.2）　最大厚（0.5）	
	47	520	鉄	門巻金物	F 82-53	Ⅲ層	304.1	縦（12.5）　横（21.9）　最大厚（0.4）	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	48	527	鉄	門巻金物	F80-53	Ⅲ層	710.1	縦 (14.5)　横 (20.1)　最大厚 (0.5)	
	49	308	鉄	鍵	F84-54	Ⅲ層	17.3	全長11.6　全幅1.3　奥行0.8　鍵長さ・奥行7.3／0.4	
	50	678	鉄	鋲・座金	F81-58	Ⅲ層	287.6	全長15.2　鋲頭径・高さ3.4／1.9　釘径1.2　座金径6.9	
	51	98	鉄	唄金物	F81-58	Ⅲ層	45.8	径5.4　高さ2.2　孔内径0.5	
第312図	52	565	銅	釘隠し	F81-61	Ⅰ層	154.1	全高 (6.3)　六葉座金径・高さ13.1／0.7　菊座径5.7／2.9　高さ0.5／0.5　樽の口径・高さ2.3／1.5	
	53	566	銅	釘隠し	F80-61	Ⅰ層	35.1	全高 (5.7)　菊座径4.1／2.5　高さ0.2／0.5　樽の口径・高さ2.1／1.3	
	54	568	銅	釘隠し	F80-61	Ⅰ層	113.5	全高 (4.5)　六葉径・高さ12.9／0.9　菊座径・高さ5.4／0.5	
	55	740	銅	釘隠し	F84-52	Ⅲ層	92.8	全長 (13.4)　全幅 (10.5)　高さ1.1	
	56	595	銅	釘隠し	F81-55	Ⅱ層	120.8	全高 (2.4)　六葉径・高さ11.4／0.9　菊座径5／2.7　高さ0.5／0.5	
	57	545	銅	釘隠し	SXⅠ004	上位	48.5	全長 (11.4)　全幅 (9.7)　高さ0.7	
第313図	58	543	銅	釘隠し	F81-61	Ⅲ層		径12.2　高さ0.7　釘全長6.7　釘幅・奥行0.5	
	59	52	銅	釘隠し	F81-59	Ⅲ層	87.9	径12　高さ1	
	60	596	銅	釘隠し	F81-59	Ⅱ層	112.5	六葉径・高さ12.5／0.9　菊座径5／3.5　高さ0.6／0.4　樽の口座金径2.6　釘長さ7.8　釘幅・奥行0.6	
	61	567	銅	釘隠し	F80-61	Ⅰ層	82.2	径12　高さ1	
	62	569	銅	釘隠し	F83-56	Ⅰ層	60.6	径12.2　高さ1	
	63	610	銅	釘隠し	F80-62	Ⅰ層	73.2	径12.2　高さ1.2	
	64	546	銅	釘隠し	F83-58	Ⅱ層	39.1	菊座径・高さ3.5／0.5　樽の口座金径2.7　樽の口径・高さ2.5／1.6	
第314図	65	550	銅	唄金物	F81-61	Ⅲ層	34.2	径7.1　高さ0.5	
	66	553	銅	引手	F80-61	Ⅰ層	28.2	長径7.6　短径5.8　高さ1	
	67	552	銅	引手	F81-61	Ⅲ層		長径5.9　短径5　高さ1.5	
	68	551	銅	不明	F83-61	Ⅰ層	10.0	復元径 (11.7)　全高 (4)	
	69	305	銅	引手	F81-61	Ⅲ層	4.1	長径3.1　短径2.5	
	70	554	銅	引手	F84-54	Ⅲ層	26.7	長径6.3　短径4.7　高さ1.1　鋲長さ・径2.4／0.2	
	71	89	銅	不明	F80-62	Ⅲ層	9.1	径3.1　高さ1.3	
	72	555	銅	板金物	F81-61	Ⅲ層	44.0	全長 (16.1)　幅3　奥行1	
	73	557	銅	板金物	F81-61	Ⅲ層	38.3	全長 (14.8)　幅4.1　奥行0.6	
	74	556	銅	板金物	F81-61	Ⅲ層	19.6	全長 (7.9)　幅4.1　奥行0.6	
	75	560	銅	板金物	F81-61	Ⅲ層	7.7	全長 (5.4)　幅2.4	
	76	559	銅	板金物	F81-61	Ⅲ層	6.2	全長 (5.7)　幅2.5	
	77	179	鉄	不明	F81-58	Ⅰ層	3.9	縦1.9　横4　奥行0.4	
	78	65	鉄	鍵穴座金	F81-55	Ⅲ層	8.6	縦4.2　横5.8　鍵穴縦・横0.9／0.5	
	79	704	鉄	不明	F80-59	Ⅲ層	5.8	径2.9　高さ1　足長さ1.2	
	80	64	鉄	飾金物	F78-53	Ⅲ層下位	2.5	長径2.5　短径1.7　高さ0.3　足長さ0.7	
第315図	81	802	鉄	折釘	F84-54	Ⅲ層	34.6	全長7.8　掛金高さ3　釘長さ4.2　釘幅・奥行0.9／1.1　座金径2.4	
	82	803	鉄	折釘	F84-54	Ⅲ層	15.8	全長6.6　掛金高さ2.4　釘長さ5.4　釘幅・奥行0.6　座金幅・奥行2.4	
	83	749	鉄	折釘	F77-54	Ⅱ層	102.6	全長10.8　掛金高さ6　奥行4.5　釘長さ8.1　釘幅・奥行0.8　座金高さ2.6	
	84	293	鉄	折釘・座金	F82-61	Ⅰ層	20.2	釘全長 (3)　掛金高さ1.8　釘幅・奥行0.5　座金径1.5　座金長さ・幅 (9.7)／(2.1)	
	85	613	鉄	輪掛金	F81-52	Ⅲ層	19.6	円鎹径・太さ4.4／0.6　根壺長さ4.8　根壺幅・奥行0.8／1.2　釘長さ3.3	
	86	311	鉄	竿掛金	F84-54	Ⅲ層	8.1	円鎹長径・短径4.6／1.7　円鎹太さ0.3　根壺長さ3　根壺幅・奥行0.5／0.8　釘長さ2　座金径1.7	
	87	207	鉄	請壺	F78-54	Ⅱ層下位	53.3	全長 (8.7)　幅2　奥行1.9　釘長さ (7.2)	
	88	105	銅	不明	F81-55	Ⅲ層	6.8	全長 (3.5)　幅1　奥行1　釘長さ (2.4)	
	89	102	鉄	請壺	F80-62	Ⅲ層	14.3	全長 (5.9)　幅1.5　奥行0.9　釘長さ (4.7)	
	90	682	鉄	軸吊り金物	F82-59	Ⅲ層	18.2	全長7.8　全幅 (3)　奥行1.3　吊金具長さ4.1　幅・奥行1.2／0.6　釘長さ2.8　根壺長さ6.4　幅・奥行1.3／0.8　釘長さ5.1	
	91	702	鉄	掛金	F80-62	Ⅲ層	20.0	掛金長さ7.3／2.6　掛金径0.6　根壺長さ4.7　根壺幅・奥行1／0.5　釘長さ3.7	
	92	701	鉄	掛金	F80-62	Ⅲ層	10.8	掛金長さ4.7／2.1　掛金径0.5　根壺長さ3.3　根壺幅・奥行1.1／0.5　釘長さ2.3	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	93	703	銅	掛金	F80-62	Ⅲ層	37.8	掛金長さ11.5／2.9　掛金径0.5　根壷長さ5　根壷幅・奥行1.3／0.6　釘長さ3.7　座金径2.6　座金高さ0.3	
	94	303	鉄	掛金	F83-54	Ⅲ層	15.7	掛金長さ4.5／2.6　幅1.1　奥行3　根壷長さ3.9　根壺幅0.9　釘長さ3.2	
第316図	95	608	銅	八双金物		表採	266.1	全長（39.1）　最大幅8.5	
	96	597	銅	八双金物	F81-58	Ⅰ層	477.9	全長（34.4）　全幅（19.2）	
	97	101	鉄	板金物	F 82-58	Ⅲ層	19.2	全長（11.9）　全幅（4）	
	98	706	鉄	不明	F81-54	Ⅲ層	46.6	径6.6　高1.7　鋲頭径1.3　鋲長さ4.2／(3.5)	
	99	746	鉄	不明	F82-59	Ⅲ層	467.6	全長40.2　全幅2.7　奥行7.2	
	100	752	鉄	樋受け	F78・79-62	Ⅰ層	554.0	全長（61.3）　全高（13）　胴幅・奥行2.4／0.5	
	101	797	鉄	把手	F84-54	Ⅲ層	110.4	把手長さ・幅5.7／5.8　奥行1.2　座金縦・横6／9　奥行2.4	
	102	760	鉄	持手・棹通し	F84-54	Ⅲ層	369.4	把手長さ・幅15／15.2　奥行0.9　座金長さ・幅（37.8）／19.8	
第317図	103	808	鉄	引手	F84-61㊦	Ⅱ層	66.0	引手長さ・幅13／3.2　座金縦・横1.2／13.7	
	104	800	鉄	引手	F84-54	Ⅲ層	39.6	引手長さ・幅9.6／4.5	
	105	741	鉄	不明	F84-53	Ⅲ層	88.0	座金縦・横3.2／11.1　根壷長さ（9.9）／（9）　幅・奥行1.8／1.5	
	106	763	鉄	不明	F83-55	Ⅰ層	81.8	下がり長さ6.3　幅・奥行2.1　座金縦・横6.6／5.7　根壷長さ（6）　幅・奥行1.8／0.8　釘長さ（4.2）	
	107	809	鉄	錠	F83-61㊦	Ⅲ層	201.8	錠縦・横7.5／5.7　厚さ1.5　根壷長さ9.3　幅・奥行3／1.5　釘長さ6.3	
	108	811	鉄	錠	F84-54	Ⅱ層	110.2	錠縦・横4.5／9.5　厚さ1.8　根壷長さ（6）　幅・奥行1.2／0.8　釘長さ（4.8）	
	109	795	鉄	補強金物	F84-54	Ⅲ層	23.4	縦・横・奥行6　幅1.5	
	110	799	鉄	補強金物	F84-54	Ⅲ層	10.8	縦・横・奥行4.3　幅1	
	111	796	鉄	補強金物	F84-54	Ⅲ層	6.0	縦・横1.5／3.1　奥行3	
	112	346	鉄	蝶番	F84-54	Ⅲ層	10.0	縦・横2.1／3.9　奥行3.9	
	113	348	鉄	蝶番	F84-54	Ⅲ層	32.2	縦3.3　横・奥行7.2／4.7	
	114	798	鉄	補強金物	F84-54	Ⅲ層	60.0	縦3.2　横・奥行6.5／7.4	
	115	153	鉄	鍵	F 82-58	Ⅱ層	14.2	全長5.5　幅3.2　奥行0.8　鍵長さ・幅2.3／1.6	
	116	695	鉄	鍵穴座金	F80-62	Ⅲ層	76.8	縦7.5　横7.2　奥行1.7　鍵孔高さ・幅1.6／0.7	
	117	693	鉄	鍵穴座金	F80-62	Ⅲ層	29.8	縦5.5　横5　奥行1　鍵孔高さ・幅1.3／0.6	
	118	762	鉄	鍵穴座金	F80-62	Ⅰ層	62.4	縦7.2　横5.4　奥行（0.9）　鍵孔高さ・幅1.6／0.6	
第318図	119	82	銅系	煙管	F 81-56	Ⅲ層	3.8	全長4.2　全高1.5　奥行0.9	
	120	80	銅系	煙管	F 81-54	Ⅲ層	7.4	全長4.3　全高1.6　奥行1.1	
	121	81	銅系	煙管	F 81-56	Ⅲ層	4.8	全長6.2　全高・奥行0.8	
	122	629	銅系	煙管	F81-57	Ⅲ層	48.6	全長（16.6）　全高（1.5）　奥行0.9	
	123	122	銅系	筆箱バンド	F 81-57	Ⅲ層	7.2	縦・横2.5／4.4　奥行0.4	
	124	643	鉄	鋏	F82-58	Ⅱ層	119.6	全長18.6　全幅7.5	
	125	77	銅系	指貫	F 81-56	Ⅲ層	9.1	全高2　径1.8／2.2　厚さ0.2	
	126	805	鉄	毛抜き	F84-54	Ⅲ層	11.2	全長6.8　全幅1	
	127	630	銅系	耳かき	F81-58	Ⅲ層	2.0	全長8.4　全幅0.5	
	128	72	鉄	鳶口	F 82-57	Ⅲ層	75.8	全長（11.6）　全幅（7.2）　奥行（1.6）	
	129	90	鉄	金槌	F 84-61	Ⅲ層	140.2	全長9.3　全高2.5　奥行1.9	
	130	97	鉄	万力	F 81-57	Ⅲ層	469.6	全長27.7　全幅3.9　奥行1.7	
	131	761	鉄	手鍬	F84-54	Ⅲ層	246.2	全長30.6　全幅6　奥行6	
	132	217	鉄	柄鎌	F 81-57	Ⅲ層	384.7	全長（16.8）　全幅（16）　奥行3	
	133	218	鉄	鍬	F 80-58	Ⅲ層	931.9	全長（27）　全幅21.5　奥行（5.7）	
	134	181	鉄	鳶口	F 81-58	Ⅰ層	435.3	全長13.5　全高4.2　奥行4.9	
	135	806	鉄	鎌	F84-54	Ⅲ層	140.6	全長16.5　全高13.5　奥行0.4	
	136	807	鉄	鎌	F84-54	Ⅲ層	173.6	全長（18.3）　全高さ12　奥行0.6	
第319図	137	735	鉄	瓦釘	F82-52	Ⅲ層	76.6	頭幅・奥行1.4　全長41.5　釘幅・奥行0.7	
	138	730	鉄	瓦釘	F81-54	Ⅲ層	63.6	頭幅・奥行2.3／1.1　全長21.7　釘幅・奥行0.7／0.6	
	139	607	銅	釘隠し	F85-52	Ⅱ層	43.7	全径（7.9）　釘長さ（4.3）	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	140	615	鉄	鏃	F83-49	Ⅰ層	225.6	全長21　全幅5.8　胴幅・奥行1.5／0.9　釘長さ4.2	
	141	728	鉄	目鏃	F84-52	Ⅲ層	15.4	全長8.9　全幅2.3　胴長さ8.5　釘長さ（1.3）	
	142	724	鉄	目鏃	F83-52	Ⅲ層	36.6	全長9.5　全幅5.2　胴長さ8.6　釘長さ3.6	
	143	726	鉄	目鏃	F83-52	Ⅲ層	41.6	全長10.6　全幅5.8　胴長さ9.3　釘長さ4.1	
	144	107	鉄	折釘	F 83-52	Ⅲ層	5.0	全長（9）　掛金高さ1.7　釘長さ（3.4）　釘幅・奥行0.3／0.5　座金径1.1	
	145	160	銅	掛金	F 84-49	Ⅰ層	36.6	掛金長さ8.5／2.6　径0.6　根壺長さ4.5　幅・奥行1.4／0.6　釘長さ3.1　座金径2.5	
	146	677	鉄	持手	F84-52	Ⅲ層	76.6	把手長さ・幅5.4／5.1　奥行1.2　座金縦・横6.3／7.5　奥行1.2	
	147	20	銅	丸鑢	F84-52	Ⅲ層	8.8	円鑢径・太さ2.5／0.4　座金径・高さ2.3／0.2　根壺長さ2.4　幅・奥行0.9／0.5　釘長さ1.7	
	148	43	銅	不明	F 86-52	Ⅱ層	1.0	全長3.9　全幅0.6　菊座径0.7　高さ0.3　根壺長さ1.4　幅・奥行0.4／0.2	
	149	78	鉄	毛抜き	F 82-51	Ⅲ層	4.8	全長5.9　全幅0.6	
	150	91	鉄	金槌	F 84-52	Ⅲ層	97.9	全長7.3　全高2.3　奥行1.9	
	151	498	鉄	不明	F 84-52	Ⅲ層	1185.2	全長22.1　全幅8.1　奥行7	
第320図	152	710	銅	六葉座金	F81-52	Ⅲ層	41.7	全径11.9　厚さ0.1	
	153	707	銅	引手	F77-51	Ⅰ層	32.5	長径11.1　短径8.9　高さ0.3	
	154	708	銅	引手	F81-52	Ⅲ層	56.8	全径（11.5）　厚さ0.1	
	155	50	銅	釘隠し	F 79-50	Ⅲ層	8.1	全長（4）　頭径1.6　頭高さ1.2　釘幅・奥行0.3	
	156	152	鉄	違い鏃	F 79-52	Ⅱ層	15.0	全長8.3　全幅2.9　銅長さ7.7　胴幅・奥行0.5　釘長さ2.3／2.2	
	157	159	銅	掛金	F 76-50	Ⅰ層	35.1	掛金長さ17.8　掛金径0.6　根壺長さ5.4　幅・奥行0.9／0.4　釘長さ4.4	
	158	104	鉄	請壺	F 80-51	Ⅲ層	5.1	全長（5.9）　幅・奥行1.1／0.9　釘長さ4.8	
	159	106	鉄	請壺	F 79-52	Ⅲ層	8.2	全長4.8　幅・奥行1.3／0.8　釘長さ3.5	
	160	156	鉄	補強金物	F 77-50	Ⅰ層	39.4	縦6.9　横・奥行5.8	
	161	499	鉄	桔木金物	F 78-51	Ⅲ層	771.8	全長34.9　饅頭幅・奥行3.5／4.9　高さ2　座金幅・奥行3.9／5.6　胴幅・奥行1／2.5	
	162	367	銅	筆箱バンドの金物	F79-50	Ⅲ層	1.2	全長3.9　全幅1　厚さ0.1	
第321図	163	516	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	416.9	縦・横（12.8）／（21.9）　厚さ（0.3）	
	164	518	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	414.3	縦・横（12.4）／（22）　厚さ（0.3）	
	165	517	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	381.5	縦・横（12.8）／（22.1）　厚さ（0.3）	
	166	521	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	311.2	縦・横（12.5）／（21.45）　厚さ（0.3）	
	167	525	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	301.1	縦・横（12.7）／（22.3）　厚さ（0.2）　抉り幅・長さ（2.2）／（13.2）	
	168	524	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	517.6	縦・横（12.5）／（22.5）　厚さ（0.3）　抉り幅・長さ（2.2）／（13.2）	
	169	519	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	460.2	縦・横（12.6）／（12.85）　厚さ（0.4）	
	170	522	鉄	門巻金物	F 80-52	Ⅲ層	514.2	縦・横（12.9）／（22.2）　厚さ（0.3）	
	171	739	鉄	門受金物	F77-52	Ⅲ層下位	340.0	全長17.1　全幅（12.6）　奥行（5.1）　門通し長さ・幅9.9／10.6　胴幅・奥行0.6／1.2　座金長さ・幅（12.6）／3.6	
	172	586	鉄	八双金物	F 78-53	Ⅲ層	525.9	全長34.6　全幅4.6　奥行9.3	
第322図	173	815	鉄	肘壺金物	F78-51	Ⅲ層上位	2600.0	肘金具全長21.3　全高8.4　奥行3.6　座金縦・横11.1／5.1　壺金具全長22.2　全高3.9　奥行3.6　八双縦・横8.7／9.3　奥行7.5	
	174	816	鉄	肘壺金物	F78-51	Ⅲ層上位	2050.0	肘金具全長20.4　全高7.8　奥行3.3　壺金具全長（15）　全高3.6　八双縦・横（8.4）／（33.6）　奥行7.5	
	175	587	鉄	壺金物	F79-52	Ⅲ層	148.6	全長10.5　全高2.2　奥行5.4	
	176	680	鉄	肘金物	F80-52	Ⅲ層	129.4	全長10.8　全高4.8　奥行1.8	
	177	585	鉄	壺金物	F 78-52	Ⅲ層	177.0	全長9.8　全高2.1　奥行1.8	
	178	679	鉄	肘金物	F81-48	Ⅲ層	282.4	全長11.7　全高4.8　奥行2.7	
	179	591	鉄	唄金物	F78-53	Ⅱ層下位	122.1	径8.4　高さ2.3　鋲全長10.2　頭径・高さ2.1／1.2	
	180	590	鉄	唄金物	F78-53	Ⅱ層下位	67.6	径6.6　高さ1.7　鋲全長7.8　頭径・高さ1.7／0.9	
	181	588	鉄	輪掛金	F79-52	Ⅲ層	423.9	円鑢径・太さ（8.4）／0.9　根壺長さ（19.5）　根壺幅・奥行3.9／3　釘長さ（15.9）	
	182	584	鉄	座金	F 78-52	Ⅲ層	56.3	全長16.3　全幅（3.8）　厚さ0.4	
第323図	183	83	銅	煙管	F 79-52	Ⅲ層	22.3	全長11.8　全高1.9　奥行1.1	
	184	92	鉄	金槌	F 78-52	Ⅲ層	91.3	全長9.9　全高2.2　奥行1.5	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	185	71	鉄	不明	F 78-52	Ⅲ層	115.2	縦4.6　横2.7　奥行1.2	
	186	830	鉄	金てこ	F78-52	Ⅲ層	1500	全長105.0	
	187	835	鉄	金てこ	F78-52	Ⅲ層	3050	全長135.0	
第324図	188	723	鉄	目鏟	F85-54	Ⅲ層	29.2	全長9.7　全幅5.1　胴長さ8.9　釘長さ3.8	
	189	725	鉄	目鏟	F85-54	Ⅲ層	35.4	全長8.7　全幅6　胴長さ8.8　釘長さ4.4	
	190	727	鉄	目鏟	F85-54	Ⅲ層	33.2	全長11.6　全幅5.4　胴長さ9.2　釘長さ4.6	
	191	614	鉄	鏟	F88-55	Ⅱ層下位	192.6	全長17.6　全幅6.5　胴長さ17.6　胴幅・奥行1.4／1　釘長さ4.86.5	
	192	582	鉄	唄金物	F 86-53	Ⅲ層	91.9	径8.4　高さ2.3　鋲全長（6.6）　頭径・高さ1.3／0.6	
	193	133	銅	鋲	F 86-54	Ⅲ層	0.3	頭径・高さ0.3／0.1　全長1.7　径0.2	
	194	132	銅	鋲	F 87-53	Ⅲ層	0.5	頭径・高さ0.6／0.2　全長1.3　径0.2	
	195	94	鉄	折釘	F 85-54	Ⅲ層	57.4	全長7.7　釘長さ6.7　釘高さ3.2　釘幅・奥行1.2／1.4	
	196	168	鉄	折釘	F 88-54	Ⅰ層	46.5	全長（11）　釘長さ（10.5）　釘高さ4.5　釘幅・奥行0.7	
	197	157	銅	菊座	F 88-53	Ⅰ層	2.9	径2.9　高さ0.5	
	198	51	銅	菊座	F 88-53	Ⅲ層	8.5	径4.2　高さ0.5	
	199	93	銅	引手	F 85-54	Ⅲ層	8.1	長さ・幅9.5／2.6　奥行0.3　座金径1.5	
	200	40	銅	引手	F 85-54	Ⅱ層下位	9.9	縦・横（4.2）／6.3　厚さ0.2	
	201	36	銅	引手	F 86-53	Ⅱ層	4.8	長径4.8　短径3.2　厚さ0.1	
	202	44	銅	六葉座金	F 85-53	Ⅱ層	2.6	縦・横（3）／（2.9）　厚さ0.1	
第325図	203	35	銅	不明	F 87-53	Ⅱ層	4.0	長径2.9　短径2.1　高さ0.5　足長さ0.5	
	204	38	銅	飾金物	F 85-54	Ⅱ層	1.6	全長（2.1）　全幅（1.9）　厚さ0.2	
	205	34	銅	飾金物	F 86-54	Ⅱ層	1.1	径2.2　厚さ0.1	
	206	41	銅	飾金物	F 85-53	Ⅱ層	4.5	全長（5.5）　全幅1.7　奥行0.3	
	207	39	銅	飾金物	F 85-54	Ⅱ層	1.4	全長（5.2）全幅（1.4）　奥行0.2	
	208	698	鉄	座金	F85-54	Ⅲ層	63.0	縦10.8　横7.5　奥行1.5　円鐶径2.4	
	209	163	鉄	火箸	F 88-53	Ⅰ層	24.7	全長（24）　幅・奥行0.5／0.8	
	210	75	銅	針	F 85-54	Ⅲ層	1.1	全長（5.3）　幅0.3　径0.2　孔径0.2	
	211	74	鉄	針	F 85-54	Ⅲ層	0.4	全長6　幅0.2　径0.2　孔径0.1	
	212	79	銅	煙管	F 85-54	Ⅲ層	5.2	全長3.7　全高1.4　奥行1	
	213	392	鉄	不明	F86-54	Ⅲ層	132.6	縦3.1　横3.1　高さ3.3　凹部高さ・幅1.8／0.6	
	214	174	鉄	不明	F 88-53	Ⅰ層	5.0	全長2.9　全幅1.8　奥行1.2	
第326図	215	621	鉄	樋受け	F85-53	Ⅲ層	4500.0	全長（60）　全高（42）　胴幅・奥行3.3／1.5	
	216	834	銅	樋	F86-5 3	Ⅲ層		全長（197）　全幅（53.3）　全高（20）	
第327図	217	713	鉄	目鏟	F88-60	Ⅲ層	10.4	全長6.3　全幅4.2　胴長さ5.1　釘長さ3.3	
	218	209	鉄	釘	F 86-57	Ⅱ層	4.3	頭幅・奥行0.9　全長5　幅・奥行0.3	
	219	205	鉄	鋲	F 87-57	Ⅱ層	2.6	頭径・高さ1.5／0.3　全長3.6　径0.3	
	220	200	鉄	不明	F 88-56	Ⅱ層	6.3	頭径・高さ1.3／0.5　全長3.1　径0.5	
	221	211	鉄	釘	F 85-56	Ⅱ層下位	65.2	頭幅・奥行2.4／2.3　頭高さ1.2　全長10.7　径1.5	
	222	598	銅	六葉座金	F88-53	Ⅰ層	17.7	全長（8.1）　全幅（6）　厚さ0.1	
	223	203	鉄	鋲	F 85-60	Ⅱ層	9.6	鋲頭径・高さ1.9／0.7　全長6.2　幅・奥行0.3／0.2　座金径・高さ2.1／0.4	
	224	274	銅	不明	F85-60Ⓕ	Ⅱa層	3.7	全長3.9　幅・奥行0.8／0.6　座金径・高さ1.5／0.4	
	225	206	鉄	合釘	F 85-56	Ⅱ層	2.2	全長4.7　全幅0.7　奥行0.3	
	226	394	鉄	折釘	F86-60	Ⅰ層	23.2	全長（10.8）　掛金高さ3.3　釘長さ（5.9）　釘幅・奥行0.6／0.4　座金径1.7	
	227	750	鉄	竿掛金	F88-59	Ⅱ層	54.4	円鐶長径・短径7.6／2.9　座金長さ・幅8.8／3.7　奥行1.5　根壷長さ3.3　幅・奥行1.2／0.5　釘長さ2.1	
	228	204	鉄	不明(錠差し)	F 85-58	Ⅱ層	23.1	下がり長さ5.7　幅・奥行1.8／1.7　根壷長さ（3.2）　幅・奥行1.2／0.6	
	229	46	銅	蝶番	F 85-56	Ⅱ層	10.4	縦・横3.8／2.4　奥行2.4	
	230	599	鉄	錠	F88-59	Ⅱ層	313.6	縦5　横16　奥行2.4	
	231	600	鉄	錠	F88-59	Ⅱ層	486.5	縦6.3　横18.5　奥行2.9	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
第328図	232	601	鉄	鍵	F88-59	Ⅱ層	28.3	全長12.6　全幅1.2　奥行0.9　鍵長さ・奥行7.8／0.7	
	233	602	鉄	鍵	F88-59	Ⅱ層	60.1	全長18　全幅1.8　奥行1.3　鍵長さ・奥行11／0.8	
	234	32	銅	煙管	F 85-60	Ⅱ層	6.1	全長5.5　全高・奥行0.9	
	235	33	銅	煙管	F 86-56	Ⅱ層	12.8	全長9.4　全高1.7　奥行1.1	
	236	167	銅	煙管	F 88-57	Ⅰ層	13.6	全長12　全高0.8　奥行1	
	237	603	銅	簪	F86-59	Ⅰ層	9.0	全長15　全幅2.3　厚さ0.3	
	238	576	鉄	灯火物	F 87-60	Ⅰ層	102.5	吊金具全長38.4　全幅・奥行12.9／2.1　幅・奥行0.3　皿径・高さ9／4.5	
	239	399	鉄	矢	F85-58	Ⅰ層	445.2	全長 (8.9)　全幅 (5.1)　奥行 (3)	
	240	272	鉄・銅	不明	F85-60㊦	Ⅱb層	10.9	下がり全長6.4　全幅1.9　奥行1.2　吊金具全長・径 (11)／0.3	
第329図	241	736	鉄	瓦釘	F90-61	Ⅲ層	175.0	頭幅・奥行1　全長36　幅・奥行0.9／0.8	
	242	732	鉄	瓦釘	F91-61	Ⅲ層	75.0	頭幅・奥行1.8／1.7　全長27.8　幅・奥行0.7	
	243	731	鉄	瓦釘	F90-58	Ⅲ層	49.6	頭幅・奥行1.3／1.5　全長24.5　幅・奥行0.7／0.8	
	244	616	鉄	鎹	F91-54	SDⅢ001	198.8	全長19.5　全幅6.5　胴長さ18.1　胴幅・奥行1.3／0.8　釘長さ4.5／5.1	
	245	604	鉄	鎹	F91-54	Ⅰ層	161.3	全長17　全幅5.4　胴長さ16.5　胴幅・奥行1.5／1.2　釘長さ4.2／4.5	
	246	273	鉄	鎹	F91-58	Ⅰ層	208.3	全長14.8　全幅8.4　胴長さ14.5　胴幅・奥行0.9／1.4　釘長さ7.2／6.9	
	247	674	鉄	持手	F90-60	Ⅲ層	142.2	把手長さ・幅12.6／7.8　奥行1.2　座金縦・横1.8／12.6	
	248	675	鉄	持手	F90-60	Ⅲ層	388.0	把手長さ・幅15.612.9　奥行1.7　座金縦・横5.7／7.2	
	249	688	銅	引手	F89-58	Ⅲ層	13.5	長さ・幅8.3／2.7　奥行0.3　座金径1.4	
	250	687	銅	引手	F90-61	Ⅲ層	13.2	長さ・幅9.3／3.2　奥行0.4	
	251	691	銅	引手	F90-60	Ⅲ層	46.0	長さ・幅9.8／5.1　奥行0.8　座金縦・横1.4／8.5	
	252	689	銅	引手	F91-55	Ⅲ層	22.6	長さ・幅7.3／4.4　奥行0.6	
	253	692	銅	引手	F90-60	Ⅲ層	20.2	長さ・幅6.4／4.6　奥行0.7	
	254	690	銅	引手	F91-55	Ⅲ層	14.4	長さ・幅5.9／4　奥行0.6　座金径1.5	
第330図	255	709	銅	釘隠し	F89-58	Ⅲ層	39.7	六葉座金全長 (7.5)　全幅 (8.4)　高さ0.6　菊座径・高さ2.4／0.6	
	256	711	銅	釘隠し	F89-58	Ⅲ層	15.4	菊座径・高さ2.4／0.4　釘長さ (4.7)　幅・奥行 (0.5)	
	257	606	銅	引手	F74-46	Ⅲ層	48.7	長径8.1　短径5.9　高さ1.2	
	258	611	銅	引手	F89-59	Ⅱ層	25.6	長径7.9　短径5.5　高さ1.1	
	259	177	銅	丸鑿	F 91-54	Ⅰ層	11.9	円鑿径・太さ2.5／0.4　座金径・厚さ2.5／0.2　根壷長さ3.6　幅・奥行0.8／0.4　釘長さ2.8	
	260	269	銅	丸鑿	F90-59	Ⅲ層	18.3	円鑿径・太さ3.6／0.6　座金径・厚さ2.5／0.1　根壷長さ4　幅・奥行1／0.7　釘長さ3.1	
	261	96	鉄	折釘	F 89-60	Ⅲ層	10.8	全長5.2　釘長さ3.4　幅・奥行0.4　掛金高さ2.1　幅・奥行0.5　座金径1.8	
	262	288	鉄	肘壷金物	F91-58	Ⅰ層	5.4	肘金具全長 (2.4)　全高2.2　奥行 (2.1)　釘長さ2.1　壷金具全長2　全高0.6　奥行0.9　釘長さ1.2	
	263	287	鉄	肘壷金物	F90-59	Ⅰ層	29.2	肘金具全長6.4　全高5.5　奥行2.2　壷金具全長 (4.3)　全高1　奥行1　釘長さ (3)	
	264	681	鉄	請壷	F89-59	Ⅲ層	36.2	全長・全幅4.4　奥行1.5	
	265	202	鉄	蝶番	F 89-56	Ⅱ層	28.7	鋲頭径1.2　全長7.6　根壷長さ (5.6)／(4)　幅1.1／0.9　奥行1.1／0.9	
	266	158	鉄	掛金	F 91-56	Ⅰ層	19.7	掛金長さ6.2／2　径0.4　根壷長さ3.6　幅・奥行 1.1／0.6　釘長さ2.6　請壷長さ (3.4)　幅・奥行1／0.8	
	267	103	鉄	請壷	F 90-58	Ⅲ層	1.2	全長2.9　幅・奥行0.6／0.4　釘長さ2.2	
第331図	268	685	鉄	補強金物	F90-60	Ⅲ層	31.2	縦・横 (3.6)／6.4　奥行6.4　幅2.7	
	269	684	鉄	補強金物	F90-60	Ⅲ層	33.8	縦・横6.2　奥行6.2　幅2.4	
	270	686	鉄	補強金物	F90-59	Ⅲ層	64.8	縦7.2　横・奥行 (5.7)　幅2.1／3.6	
	271	155	鉄	補強金物	F 90-58㊦	Ⅰ層	12.9	縦4.1　横3.2　奥行2.4	
	272	277	鉄	不明	F90-59	Ⅰ層	37.5	縦9.9　横4.9　奥行1.5	
	273	275	鉄	不明	F91-59	Ⅰ層	35.1	縦 (9.5)　横4.8　奥行1.4	
	274	286	鉄	座金	F91-58	Ⅰ層	5.0	全長 (4.5)　全幅 (3.5)	
	275	515	鉄	蝶番	F 91-58	Ⅰ層	73.4	最大長10.3　最大幅7.9　厚さ0.1	
	276	683	鉄	蝶番	F89-60	Ⅲ層	35.8	縦4.1　横・奥行3.3	
	277	268	鉄	口金	F90-59	Ⅲ層	8.9	縦1.6　横6.2／5.9　奥行1.6	
	278	279	鉄	口金	F90-59	Ⅰ層	18.1	縦1.7　横6.6　奥行2.5	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	279	154	鉄	口金	F 91-54	Ⅰ層	38.4	縦3.4　横6.2　奥行2.5	
	280	266	鉄	座金	F91-58	Ⅲ層	9.4	縦3　横5.6　厚さ0.1	
	281	278	鉄	鍵穴座金	F90-59	Ⅰ層	9.5	縦4.6　横3.8　厚さ02　鍵孔縦・横3.3／1.9	
	282	280	鉄	鍵穴座金	F90-58	Ⅰ層	16.6	縦7.5　横2.9　厚さ0.2　鍵孔縦・幅1.5／0.9	
	283	87	鉄	鍵	F 90-57㊦	Ⅲ層	114.1	全長25.5　全幅2　奥行1.1　鍵長さ17.4　幅・奥行2／0.9	
	284	512	鉄	栓錠	F 89-59	Ⅱ層	110.4	最大長14.8　頭部幅2.9　胴部幅1.4　厚さ0.7	
第332図	285	697	鉄	鍵穴座金	F90-60	Ⅲ層	67.2	縦9.5　横7.8　奥行1.5　鍵孔縦・横1.8／0.6	
	286	694	鉄	鍵穴座金	F90-60	Ⅲ層	56.0	縦7.4　横5.7　奥行1.5　鍵孔高・横1.5／0.6	
	287	696	鉄	鍵穴座金	F89-59	Ⅲ層	85.0	縦8.6　横8　奥行1.2　鍵孔縦・横0.9／1.8	
	288	757	鉄	鍵穴座金	F91-58	Ⅰ層	33.8	縦3.2　横10.8　奥行1.2　鍵孔縦・横1.2／0.6	
	289	754	鉄	鍵穴座金	F90-58	Ⅲ層	27.6	縦3.2　横9.4　奥行0.9　鍵孔縦・横1.2／0.6	
	290	639	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	8.0	全長5.5　全幅2.7　奥行0.9　鍵長さ・幅3.2／2.1	
	291	637	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	23.4	全長7　全幅3.6　奥行1.2　鍵長さ・幅3.8／2.4	
	292	638	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	11.0	全長6.5　全幅3　奥行0.9　鍵長さ・幅3.9／2.2	
	293	634	鉄	錠前	F89-59	Ⅲ層	29.6	縦3.3　横5.7　奥行1.2	
	294	635	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	1.4	全長2.6　全幅1.2　奥行0.6　鍵長さ・幅1.4／0.9	
	295	636	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	1.6	全長2.6　全幅1.2　奥行0.6　鍵長さ1.4	
	296	640	鉄	鍵	F89-59	Ⅲ層	3.4	全長3.8　全幅1.8　奥行0.6　鍵長さ・幅2.1／1.2	
	297	281	鉄	鍵	F91-58	Ⅰ層	12.3	全長4.7　全幅2.4　奥行0.9　鍵長さ・幅2.1／1.6	
	298	282	鉄	鍵	F91-58	Ⅰ層	8.8	全長4.7　全幅2.2　奥行0.7　鍵長さ・幅2.2／1.5	
	299	283	鉄	鍵	F91-58	Ⅰ層	1.4	全長2.2　全幅1　奥行0.4　鍵長さ・幅1／0.6	
第333図	300	284	鉄	不明	F90-59	Ⅲ層	49.7	全長7.5　全幅8.4　奥行1.1	
	301	700	鉄	不明	F90-60	Ⅲ層	30.8	全長36.7　全幅1.1　厚さ0.2	
	302	85	鉄	吊金物	F 89-60	Ⅲ層	14.4	全長8.7　全幅10.7　径0.3　奥行1	
	303	705	鉄	不明	F89-56	Ⅲ層	23.2	径4.6　高1.4　足長さ1.4	
	304	264	銅系	煙管	F90-58	Ⅰ層	42.0	全長18.7　全高1.8　奥行1	
	305	263	銅系	煙管	F90-58	Ⅰ層	41.5	全長14.1　全高1.7　奥行1	
	306	30	銅系	煙管	F 89-56	Ⅱ層	8.8	全長（9.4）　全高（0.9）　奥行（0.9）	
	307	31	銅系	煙管	F 90-56	Ⅱ層	5.7	全長4.3　全高・奥行1.1	
	308	76	鉄	釣針	F 89-61	Ⅲ層	0.5	全長（2.7）　全1.3　径0.2	
第334図	309	164	鉄	火箸	F 89-60	Ⅰ層	30.8	全長（19.2）　幅・奥行1／0.5	
	310	165	鉄	火箸	F 89-60	Ⅰ層	18.6	全長22.9　幅・奥行0.7／0.5	
	311	632	鉄	火箸	F91-54	SDⅢ001	18.2	全長（17.4）　幅・奥行0.4	
	312	753	鉄	五徳	F90-57	Ⅰ層	394.4	径16.5　高さ15.9	
	313	86	鉄	包丁	F 90-61	Ⅲ層	53.2	全長（12）　全幅（6）　厚さ（0.2）	
	314	216	鉄	こて	F 89-58	Ⅲ層	80.0	全長（17.4）　全幅（3.4）　高さ（2.5）	
	315	84	鉄	切出小刀	F 90-60	Ⅲ層	34.0	全長11.1　全幅2.2　最大厚0.3	
	316	161	鉄	糸切鋏	F 91-54	Ⅰ層	33.0	全長14.9　全幅2.5　奥行0.5	
	317	644	鉄	鋏	F89-59	Ⅰ層	25.0	全長（10.8）　全幅（3）　奥行0.6	
第335図	318	246	鉄	瓦釘	F69-45	Ⅲ層	86.8	頭幅・奥行1.7　全長29.2　幅・奥行0.7／0.8	
	319	247	鉄	釘	F 74-46	Ⅲ層	34.4	頭幅・奥行1.3／1.2　全長15.6　幅・奥行0.7	
	320	230	鉄	皆折釘	F 67-47	Ⅰ層	50.9	頭幅・奥行1.1／1.5　全長（16.8）　幅・奥行0.7	
	321	229	鉄	合折釘	F 67-47	Ⅰ層	7.0	縦・横5.7／5.8　幅0.3／0.3　奥行0.2／0.4	
	322	770	鉄	目鎹	F67-46	Ⅰ層	21.8	全長8.8　全幅2.3　胴長さ8.4　釘長さ1.2	
	323	773	鉄	目鎹	F67-46	Ⅰ層	27.8	全長8.8　全幅3　胴長さ8.4　釘長さ1.5	
	324	772	鉄	目鎹	F67-46	Ⅰ層	23.2	全長9.4　全幅3.6　胴長さ8.4　釘長さ2.4	
	325	771	鉄	目鎹	F67-46	Ⅰ層	35.0	全長9.9　全幅4.5　銅長さ9　釘長さ3	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値（cm）	備考
	326	227	鉄	鏃	F 71-46	Ⅱ層	208.6	全長17.6　全幅5.8　胴長さ16.8　幅・奥行1.2／1　釘長さ4.5	
	327	314	鉄	補強金物	F71-46	Ⅲ層	6.8	縦（2.4）　横・奥行（3）　厚さ0.1	
	328	335	銅	六葉座金	F 72-46	Ⅰ層	40.6	径11.2　厚さ0.1	
	329	236	鉄	肘金物	F 72-46	Ⅲ層	43.1	全長8　全高1.6　奥行0.8　釘長さ 8　釘幅1.6	
	330	238	鉄	肘金物	F71-45	Ⅲ層	27.9	全長7.9　全高4.7　奥行2　釘長さ3.8　釘幅1.4　軸径0.4	
	331	769	鉄	肘壷金物	F67-47	Ⅰ層	393.4	肘金具長さ13　幅・奥行2.4／2.7　釘長さ10.5　壺金具長さ11.4　幅・奥行2.1／1.8　釘長さ10.2	
	332	237	鉄	肘金物	F67-46	Ⅲ層	147.0	全長12　全高4.5　奥行2　釘長さ9.8　釘鐶幅2.1　軸径0.9	
第336図	333	243	鉄	竿掛金	F71-46	Ⅲ層	16.2	円鐶長径・短径6.4／2.3　鐶太さ0.3　根壷長さ5　幅・奥行1.1／0.6　釘長さ4	
	334	244	鉄	竿掛金	F73-46	Ⅲ層	130.2	円鐶長径・短径14.1／4　鐶太さ0.7　根壷長さ（9.2）　幅・奥行2.4／1	
	335	245	鉄	輪掛金	F67-46	Ⅲ層	149.2	鐶径7.1　鐶太さ0.9　根壷長さ（11.5）　幅・奥行2／1.5　釘長さ（9.5）	
	336	260	鉄	不明	F 74-46	Ⅲ層	52.5	鐶長径・短径6.5／3　鐶太さ0.6　根壷長さ（7.6）　幅・奥行1.8／0.6	
	337	321	銅	丸鐶	F71-46	Ⅱ層	13.4	鐶径2.6　鐶太さ0.4　座金径1.9　奥行2.4	
	338	233	鉄	請壷	F70-45	Ⅲ層	66.1	全長8.4　幅1.9　奥行1.8　釘長さ6.7	
	339	235	鉄	請壷	F67-45	Ⅲ層	29.5	全長（8.2）　幅2　奥行2　釘長さ（6.3）	
	340	234	鉄	請壷	F70-45	Ⅲ層	17.0	全長（7）　幅2.1　奥行1.6　釘長さ（5）	
	341	259	鉄	掛金	F 74-46	Ⅲ層	25.7	掛金長さ7.1/2.6　幅1.3　奥行2.7　根壷長さ5.2　幅・奥行1.1／0.5　釘長さ4	
	342	261	鉄	不明（錠差し）	F71-45	Ⅲ層	14.3	下がり長さ6.6　幅・奥行1.2／0.9　座金径2.2　根壷長さ（3）　幅・奥行1.1・0.3	
	343	241	鉄	折釘	F71-46	Ⅲ層	33.1	全長7.3　釘長さ4.3　幅・奥行0.6／0.5　掛金高さ3　幅・奥行1	
	344	226	鉄	鍵穴座金	F 71-46	Ⅱ層	53.4	縦（11）　横（11.8）　鍵穴縦・横2.8／1.5　厚さ0.2	
	345	768	鉄	座金	F71-46	Ⅰ層	45.0	縦5.4　横10.8　奥行1.2	
	346	765	鉄	鍵穴座金	F72-46	Ⅱ層		縦8.1　横6　奥行0.9	
	347	766	鉄	引手	F72-46	Ⅱ層		長さ5.4　幅8.4　奥行0.9	
	348	767	鉄	引手	F67-47	Ⅱ層		長さ4.2　幅6.9　奥行0.6	
	349	219	鉄	蝶番	F 72-46	Ⅱ層	99.1	縦6.1　横13.4　奥行6.2	
	350	225	鉄	補強金物	F 71-46	Ⅱ層	18.6	縦・横9.8　幅1.7	
第337図	351	668	鉄	がんどう	F 71-46	Ⅲ層	223.6	骨径21.5　幅1　皿径・高さ5.3／0.6　芯長さ4.3	
	352	775	銅	薬缶蓋	F71-45	Ⅰ層	215.2	径（16.5）　全高（6.9）　つまみ径・高さ3／2.5	
	353	776	銅	薬缶	F71-45	Ⅰ層	1013.3	全高（18.9）　全幅（19.5）　奥行（24）	
	354	774	鉄	五徳	F67-47	Ⅰ層	511.2	径17.8　高さ20.2	
	355	240	鉄	鋸鎌	F67-46	Ⅲ層	39.6	全長（20.2）　全幅（4.6）　最大厚（0.2）	
	356	391	鉄	鑿	F72-46	Ⅱ層	82.7	全長（10.7）　全幅（3.5）　奥行（1.7）	
	357	228	鉄	釿	F 74-46	Ⅰ層	440.6	全長（11.6）　全幅（10.3）　奥行（3）	
	358	222	鉄	不明	F 71-46	Ⅱ層	13.6	全長9.8　全幅1　最大厚0.3	
	359	502	鉄	不明	F 67-45	Ⅲ層	137.0	全長12.1　全幅16.1　奥行0.4	

第20表　近世武器一覧表

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値（cm）	備考
第338図	1	561	銅系	柄頭	Fトレンチ	Ⅱ層	8.9	全長3.3　全幅1.7　高さ1.5	金象嵌
	2	562	銅系	柄頭	Fトレンチ	Ⅱ層	6.7	全長3　全幅1.5　高さ1.3	金象嵌
	3	563	鉄・銅	脇差	Fトレンチ	Ⅱ層	231.1	全長（38）　刃部長29　最大厚0.5	
	4	628	銅	鍔	F81-58	Ⅲ層	54.4	長径5.6　短径3.9　厚さ0.5	
	5	712	銅	目貫	F81-59	Ⅲ層	2.8	全長2.1　全幅4.1　奥行0.4	
	6	58	銅	縁	F 81-55	Ⅲ層	7.6	長径3.7　短径2.3　奥行0.7	
	7	59	銅	縁	F 81-58	Ⅲ層	22.4	長径4.2　短径2.5　奥行1.5	
	8	57	銅	切羽	F 89-60	Ⅲ層	5.3	長径4　短径2.6　厚さ0.1	
第339図	9	55	銅	石突	F 85-54	Ⅲ層	6.9	全長4.4　全幅3.2　奥行2.7	
	10	47	銅	石突	F 89-59	Ⅱ層	15.1	全長3.3　全幅3.1　奥行1.7	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値 (cm)	備考
	11	575	鉄・銅	脇差	F 91-58	Ⅰ層	293.0	全長 (38.9)　刃部長 (29.9)　刃部最大厚0.7	
	12	574	銅	鍔	F 91-58	Ⅰ層	168.1	長径8.4　短径8.3　最大厚0.7	
	13	45	銅	?	F 89-56	Ⅱ層	26.4	全長3.3　全幅2.9　最大厚1.2	
	14	625	銅	小柄	F81-58	Ⅲ層	25.0	全長 (10.4)　全幅1.2　最大厚0.4	
	15	270	鉄	小柄	F90-58	Ⅲ層	5.0	全長9.3　全幅1　刃部長6.5　刃部最大厚0.2	
第340図	16	624	銅	小柄	F81-58	Ⅲ層	49.2	全長9.9　全幅1.6　最大厚0.5	
	17	626	銅	小柄	F81-58	Ⅲ層	35.4	全長9.9　全幅1.15　最大厚0.6	
	18	627	銅	小柄	F81-58	Ⅲ層	8.6	全長 (5.4)　全幅1.4　厚さ0.4	
	19	742	銅	小柄	F81-56	Ⅲ層	36.2	全長9.7　全幅2　最大厚0.5	
	20	744	銅	小柄	F85-54	Ⅲ層	21.6	全長9.5　全幅1.5　最大厚0.5	
	21	743	銅	小柄	F85-54	Ⅲ層	27.8	全長9.8　全幅1.5　最大厚0.4	
	22	151	銅	笄	F 88-60	Ⅰ層	12.8	全長12.7　全幅0.7　厚さ0.2	
	23	307	鉄	鏃	F84-54	Ⅲ層	8.1	全長7.8　全幅1　奥行0.8　鏃長さ2	
	24	49	鉄	鏃	F 79-53	Ⅱ層	9.2	全長 (5.4)　全幅1.1　奥行1　鏃長さ2.4	
	25	68	鉄	鏃	F 81-50	Ⅲ層	4.2	全長 (5.1)　全幅 (1.7)　奥行0.9　鏃長さ (1.7)	
	26	67	鉄	鏃	F 89-55	Ⅲ層	8.3	全長13　全幅1.2　奥行 (1)　鏃長さ7.8	
	27	306	鉄	鏃	F84-54	Ⅲ層	9.7	全長14　全幅0.9　奥行0.6　鏃長さ4	
	28	48	鉄	鏃	F 85-51	Ⅱ層	5.7	全長 (6.4)　全幅 (0.7)　奥行 (0.4)　鏃長さ (4.2)	
	29	150	鉄	鏃	F 91-56	Ⅰ層	14.8	全長12.4　全幅1.2　奥行1　鏃長さ5	
	30	417	鉄	平根鏃	F86-60㊦	Ⅱa層	29.6	全長 (14.7)　全幅3.5　奥行 (1.1)　鏃長さ6.5	
第341図	31	292	鉄	小刀	F83-54	Ⅲ層	15.8	全長18　全幅1.8　刃部長6.4　刃部最大厚0.2	
	32	267	鉄	小刀	F86-61	Ⅲ層	12.6	全長17　全幅1.4　刃部長7.3　刃部最大厚0.2	
	33	699	鉄	小刀	F91-60	Ⅲ層	7.0	全長16　全幅1.1　刃部長5.8　刃部最大厚0.2	
	34	69	鉄	不明	F 89-60	Ⅲ層	9.1	全長 (9)　全幅0.9	
	35	149	鉄	不明	F 91-55	Ⅰ層	10.0	全長9.4　全幅0.8	
	36	148	鉄	不明	F 91-55	Ⅰ層	3.1	全長7.8　全幅0.5　奥行0.3	
	37	892	銅	火縄銃	F 81-61	Ⅲ層		全長62　全幅6.5　奥行	
第342図	38	667	鉄・銅	太刀	F71-46	Ⅲ層	1047.1	全長89.7　刃部長72　刃部最大厚0.8　反り1.5　鍔縦・横8.35	
	39	664	鉄・銅	太刀	F71-46	Ⅲ層	850.5	全長67.8　刃部長56.2　刃部最大厚0.8　反り1.4　鍔縦・横7.7／6.6	
第343図	40	832	鉄・銅	刀	F71-46	Ⅲ層	1020.4	全長88.4　刃部長70.4　刃部最大厚0.7　反り0.9　鍔縦・横8.1／7.4	
	41	665	鉄・銅	刀	F71-46	Ⅲ層	949.9	全長88.1　刃部長71　刃部最大厚0.7　反り1.4　鍔縦・横8.1／7.9	
第344図	42	831	鉄・銅	刀	F71-46	Ⅲ層	950.0	全長91.2　刃部長73.6　刃部最大厚0.6　反り0.9　鍔縦・横7.8／7.1	
	43	833	鉄・銅	刀	F71-46	Ⅲ層	1150.0	全長94.5　刃部長74.2　刃部最大厚0.8　反り1.5　鍔縦・横8／7.4	
第345図	44	666	鉄・銅	脇差	F71-46	Ⅲ層	424.0	全長44.4　刃部長35　刃部最大厚0.75　反り0.7　鍔縦・横5.6／3.8	
	45	669	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	822.6	全長 (70.6)　刃部長 (51.7)　刃部最大幅3　刃部最大厚0.6　反り (1.4)　茎長 (17.8)	
	46	826	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	550.0	全長 (57.7)　刃部長 (40)　刃部最大幅3　刃部最大厚0.9　反り (1.4)　茎長 (16.8)	
	47	827	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	750.0	全長 (70.6)　刃部長 (42.6)　刃部最大幅3.4　刃部最大厚0.9　反り (1.8)　茎長 (27)	
第346図	48	660	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	910.0	全長 (78.5)　刃部長 (48.6)　刃部最大幅3.5　刃部最大厚0.9　反り (2.2)　茎長 (31.4)	
	49	825	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	307.2	全長 (50)　刃部長28　刃部最大幅2.35　刃部最大厚0.8　反り1.5　茎長 (21.2)	
	50	823	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	660.0	08081-8-1　残存全長78.1　刃部長42　最大幅 (3)　最大厚0.9　反り (1.7)　残存茎部長35.1	
第347図	51	670	鉄・銅	長巻	F70-46	Ⅲ層	975.8	全長101.2　刃部長87.9　刃部最大厚0.7　反り1.7　鍔縦・横6.1／4.9	
	52	824	鉄・銅	薙刀	F70-46	Ⅲ層	1050.0	全長 (95.5)　刃部長 (50.2)　刃部最大幅3.4　刃部最大厚0.8　反り (3)　茎長 (45.3)	
第348図	53	821	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	189.6	全長41.2　刃部長14.6　刃部最大幅 (2.55)　刃部最大厚 (0.8)　茎長26.6	
	54	671	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	285.3	全長 (56.2)　刃部長 (15.5)　刃部最大幅2.15　刃部最大厚0.9　茎長 (40.7)	
	55	655	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	313.7	全長 (44.6)　刃部長 (15)　刃部最大幅2.3　刃部最大厚0.9　茎長 (29.6)	
	56	654	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	250.2	全長 (41.2)　刃部長15.6　刃部最大幅2.2　刃部最大厚 (0.8)　茎長 (25.7)	
第349図	57	822	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	281.6	全長 (43.2)　刃部長17.8　刃部最大幅 (2.2)　刃部最大厚0.7　茎長 (25.4)	

図	掲載番号	実測番号	種別	名称	出土位置	層位	重量(g)	計測値（cm）	備考
	58	656	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	206.4	全長（38.2） 刃部長（15.3） 刃部最大幅（1.7） 刃部最大厚0.7 茎長（22.9）	
	59	820	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	154.8	全長32.1 刃部長14.4 刃部最大幅（1.9） 刃部最大厚0.7 茎17.7	
	60	659	鉄・銅	十文字槍	F70-46	Ⅲ層	498.4	全長（65.5） 刃部長（19） 刃部最大幅12.3 刃部最大厚1.2 茎長（46.5）	
第350図	61	672	鉄・銅	十文字槍	F70-46	Ⅲ層	370.9	全長（54.5） 刃部長（17.7） 刃部最大幅14 刃部最大厚0.8 茎長（36.8）	
	62	658	鉄・銅	十文字槍	F70-46	Ⅲ層	265.5	全長（50.9） 刃部長（17） 刃部最大幅10.5 刃部最大厚0.8 茎長（33.9）	
第351図	63	657	鉄・銅	十文字槍	F70-46	Ⅲ層	385.0	全長（58.5） 刃部長（20.6） 刃部最大幅15.9 刃部最大厚0.8 茎長（37.9）	
	64	316	鉄・銅	槍	F70-46	Ⅲ層	129.1	全長（23.4） 全幅（6.8）	
	65	673	鉄	やがらもがら	F70-46	Ⅲ層	215.2	全長（23.4） 刃部最大長11.4 刃部最大幅10.3 茎長（13.8）	
	66	817	鉄	やがらもがら		表採	412.4	全長（25.2） 刃部最大長11 刃部最大幅（11.2） 茎長（16）1	
第352図	67	653	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	3.4	全長1.5 全幅3.2 奥行0.6	
	68	793	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.6	全長1.4 全幅3.2 奥行0.5	
	69	428	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	2.9	全長2.5 全幅1.3 奥行0.4	
	70	323	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	7.0	全長3.8 全幅1.4 奥行0.6	
	71	652	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	3.6	全長1.3 全幅3.9 奥行0.5	
	72	790	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	6.0	全長1.8 全幅3.2 奥行0.5	
	73	647	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	6.0	全長1.5 全幅4.4 奥行0.6	
	74	791	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	5.2	全長1.6 全幅4.2 奥行0.6	
	75	777	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	3.8	全長1.5 全幅3.7 奥行0.5	
	76	782	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.2	全長1.2 全幅3.3 奥行0.5	
	77	778	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.6	全長1.3 全幅4.7 奥行0.7	
	78	650	銅	目貫	F74-46	Ⅲ層	4.8	全長1 全幅4.9 奥行0.7	
	79	648	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	3.2	全長1 全幅3.9 奥行0.7	
	80	787	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	3.8	全長1.5 全幅3.5 奥行0.6	
	81	794	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.8	全長1.3 全幅2.9 奥行0.6	
	82	779	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	5.8	全長1.4 全幅3.7 奥行0.5	
	83	649	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	5.2	全長2.2 全幅3.6 奥行0.7	
	84	786	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.8	全長1.2 全幅5.5 奥行0.5	
	85	785	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	7.0	全長1.3 全幅7.4 奥行0.7	
	86	651	銅	目貫	F74-46	Ⅲ層	4.4	全長1.2 全幅3.7 奥行0.6	
	87	792	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	6.2	全長1.8 全幅4.3 奥行0.7	
	88	788	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.0	全長1.2 全幅3.2 奥行0.8	
	89	781	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.2	全長1.3 全幅4.1 奥行0.5	
	90	780	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	4.4	全長1.3 全幅3.6 奥行0.6	
	91	783	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	2.6	全長1 全幅3.5 奥行0.5	
	92	784	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	2.8	全長1.1 全幅4.3 奥行0.6	
	93	789	銅	目貫	F71-46	Ⅲ層	5.2	全長1.4 全幅4.2 奥行0.6	

５．近代武器・軍用品（第353～368図、第21・22表）

今回本丸御殿の発掘調査から出土した遺物の中で、近代以降の武器・軍用品を中心に報告する。分類については、第21表の通りである。取り扱う範囲は、明治元年（1868）から昭和20年（1945）までとする。また別の土層からの出土であっても、一連の遺物としてここで一括して取り扱う。

１・２は、明治８年11月太政官布告第174号陸軍服制図（以下明治８年布告）の正帽日章である。上面の穴は前立の差込口と考えられる。１の直径は4.8㎝、２はと４㎝弱と、２種類が確認された。4.8㎝の大きさの日章は、日章の中心径が1.9㎝、1.6㎝、1.3㎝の３種類が存在する。３は、明治８年布告の略帽の星章である。出土した全てが銅製品であった。明治８年布告によると、下士は真鍮製、兵卒は銅製と定められている。今回出土したものは、全て兵卒用である。４は、一般兵用軍帽星章と考えられる。５は、陸軍下士勤功章である。明治37年（1904）に制定されたもので、陸軍下士の功績を表彰するために定められた徽章である。伍長任官後６年間に渡り品行方正・成績優秀な下士に年功精勤を賞して授与された。中央に桜と周囲には桜葉が意匠として施されている。

６から15は軍服用釦である。６から９は裏足釦で、主に外部に晒され目立つ部分に使用されている釦である。周囲には縁飾が有るものと無いものとが存在する。６は明治８年布告の外套用釦と思われる。８・９の中央には漢数字が表現されているが、これは聯隊番号を示すものである。なお１点だけ、陶製の桜の裏足釦が出土している。10から15は表穴釦である。穴は主に４つか５つであるが、例外的に３つや２つが確認された。素材は銅、貝（あるいは木製か樹脂？）、ガラス製の３種類が確認された。10・11は銅製であるが、長靴を袴部分で留めるための釦であると思われる。文字入りは輸入品と考えられるが、装飾が施されているものも出土している。断面形は船底の形である。14・15はガラス製の釦で、主に襦袢用に用いられたと考えられる。こちらも装飾がほどこされているものや、無文のものが確認されている。

16から22は鉤製品である。16は、尾錠用金具である。正袴の後にある調整用の金具である。17・18は、スプリングホックである。現在も学生服の詰襟部分で使用されているように、17・18も、軍服の一部特に襟元で使用されたものと考えられる。19は鉤金具である。背嚢吊金具、刀帯用鉤釦あるいは外套用剣帯吊具と考えられる。20は鼓金である。主に革製品の留め合わせ金具として用いられる。21・22は、装飾用鉤金具であるが、名称が不明なのでS字形フックと呼称する。22はイギリス製の輸入品と考えられるが、21は中央に菊の紋章があしらわれているのは日本製と考えられる。

23から27はバックルである。23から25は、フランス式ベルト金具である。26と27は、明治45年２月勅令第10号陸軍服制の、将校用正刀帯の金具である。22は差込用のオス金具である。直径約３㎝光線32条の日章部分が欠落している。28は、将官及び参謀将校が用いる飾緒の金具である。紐の両端部分に付属されるので、２個１組で用いられる。

29は踵鉄である。靴底に釘で打ちつけるので本来は２個１組である。30は、拍車である。明治８年布告では将官は真鍮製、下士及び兵卒は鉄製である。先端部分の歯車が欠落している。こちらも２個１組で用いる。31は、ゴーグルである。容器に収納された形で出土している。32は、隔離式ガスマスクの吸収缶である。底面に「昭和12」上面に「化工」と記されている。中には223ｇの中和剤（活性炭素等）が残存していた。33は、兵士個人の認識票である。「室園末吉」と刻まれている。上部には輪が確認される。34・35は、双眼鏡である。36・37は水筒である。37の蓋表部分には「五十八万　三号」と記されている。

38・39は火縄銃の弾である。40から45は幕末以降輸入された小銃の弾と薬莢である。40・41は、スナイドル銃の弾である。40の弾底凹部には、陶製のプラグが確認された。42・43は、エンフールド銃の弾である。42はマッシュルーム状に先端が潰れている。44はスペンサー銃の薬莢である。45はスナイドル銃の薬莢である。46は、前装銃の銃口蓋である。軸部分にはコルクや木製の栓が附属していた。47は床尾板であ

る。３ヶ所のネジ留めが確認される。48・49は環帯である。48はさらに負いひも環が付く。環帯の数で「二ツバンド、三つバンド」と呼称される。50は床尾下部に付く負いひも環である。51は、朔杖である。これは主に銃身内部の掃除用具として用いられ、洗頭部分の穴は紙や布を入れて掃除を行うための穴であり、ネジ山は不発弾を取り除くため転弾子（ワーム、第364図77番網掛け部分）を取り付けるためのものである。52は打金の機構である。打金を弾く大発条（メインスプリング）が欠落している。53は、雷管である。管打式銃に用いられる。54は、小銃銃身先端に付く金具の銃床キャップである。

55から59は、銃剣に関連する遺物である。55は、エンフィールド銃剣本体である。刀身が三角錐になるのが特徴である。56は、ヤタガン形銃剣本体である。刀身が２回湾曲するのが特徴的である。57・58はヤタガン形銃剣の鞘金具である。57は鯉口で58は鐺である。59も銃剣である。

60から62は拳銃関連品である。60はＳｍｉｔｈ＆ＷｅｓｓｏｎＭｏｄｅｌ２Ａｒｍｙ（Ｓ＆Ｗ№２）である。小広間三階櫓脇の排水溝内から、弾薬筒を装填するように銃身を上方向へ折った状態で出土している。将校用の護身拳銃である。61は60用の.22インチ口径リムファイヤーの薬莢である。62は、ル・フォショウ拳銃のピン打式薬莢である。こちらも護身用拳銃と考えられるが、旧日本帝国陸軍は明治15年（1882）頃まで、「蟹目拳銃」の名で使用していた。

63は、正剣用鐺である。明治８年布告では将官以上の鐺装飾に用いられている。根本部分しか残存していないが、全体の桜唐草の意匠が良好に確認された。

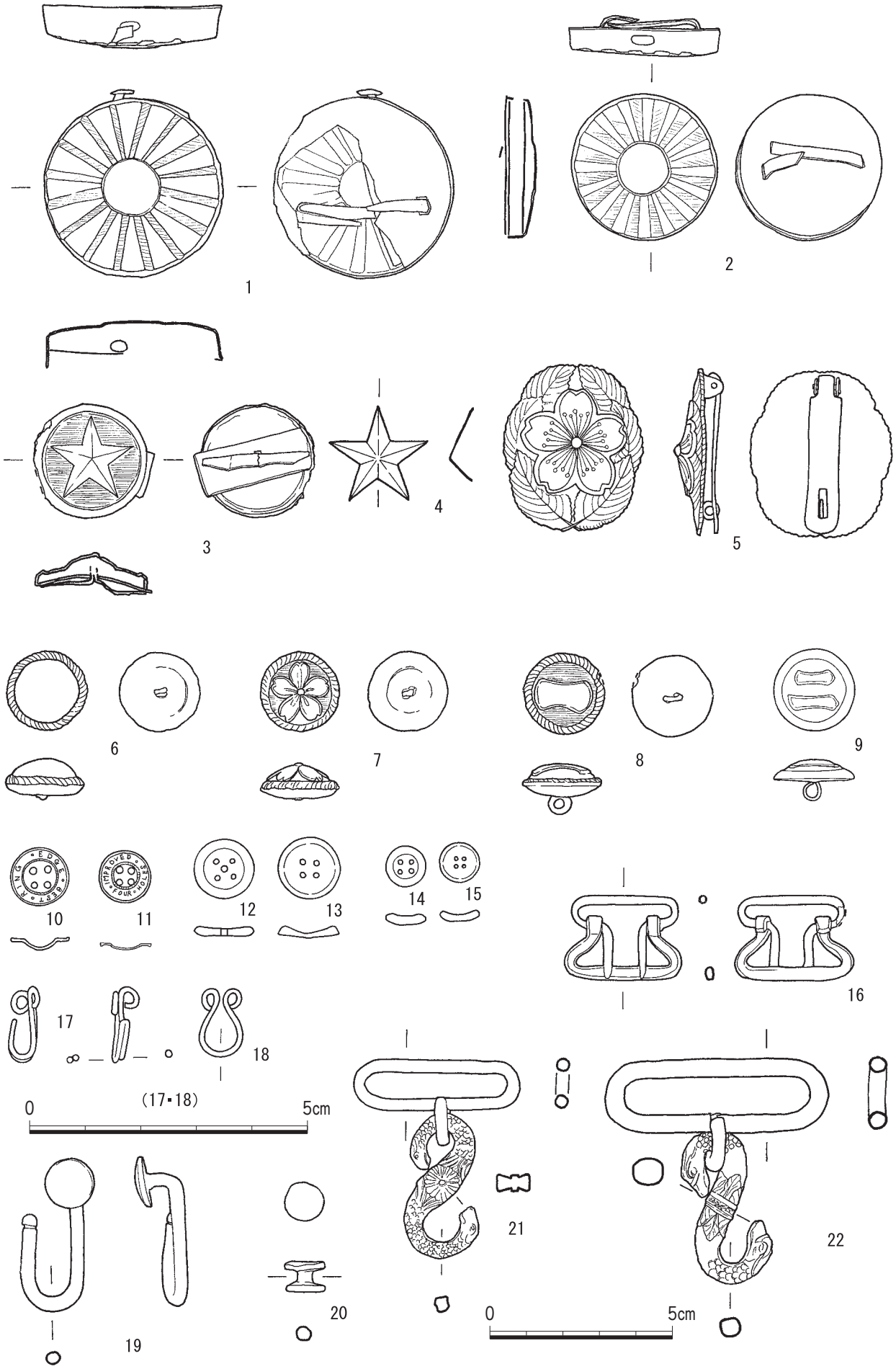
64から69は火砲に関連する遺物である。64から66は、四斤砲弾の破片である。65と66には鉛鋲（スタッド）が良好に確認される。64は砲弾先頭部分で、信管を装着するネジ山が確認される。67は、20ドイム臼砲片である。68・69は摩擦管である。68は摩擦管環線（ワイヤーループ）が無い（使用済み）L字形摩擦管、69は環線が残存する（未使用）I字形摩擦管である。

70から74は、馬具に関連する遺物である。70は頭絡金具で、轡部分を中心に良好な状態で確認された。71は鐙である。72から74は蹄鉄である。72や74のように蹄釘で２個１組の形で出土しているものが多い。蹄鉄や装蹄といった技術・文化は古来日本には伝来せず、近世まで馬草鞋が使用されていた。現在のような装蹄技術は、幕末の安政６年（1859）洋式装蹄として、イギリスからもたらされたのが始まりである。やがて富国強兵と騎兵部隊の重要性から、護蹄報国の名のもと官民挙て軍馬関連の育成に努めた。72は前蹄鉄、73・74は後蹄鉄である。73は氷路など滑走を防ぐための氷上蹄鉄である。上下４ヶ所の大きなネジ穴は、鉄臍（突起物の事：クランポン）が着脱できる方式で、螺旋鉄臍式氷上蹄鉄と呼称される。今回本丸御殿で出土した氷上蹄鉄の全ては後蹄鉄であった。

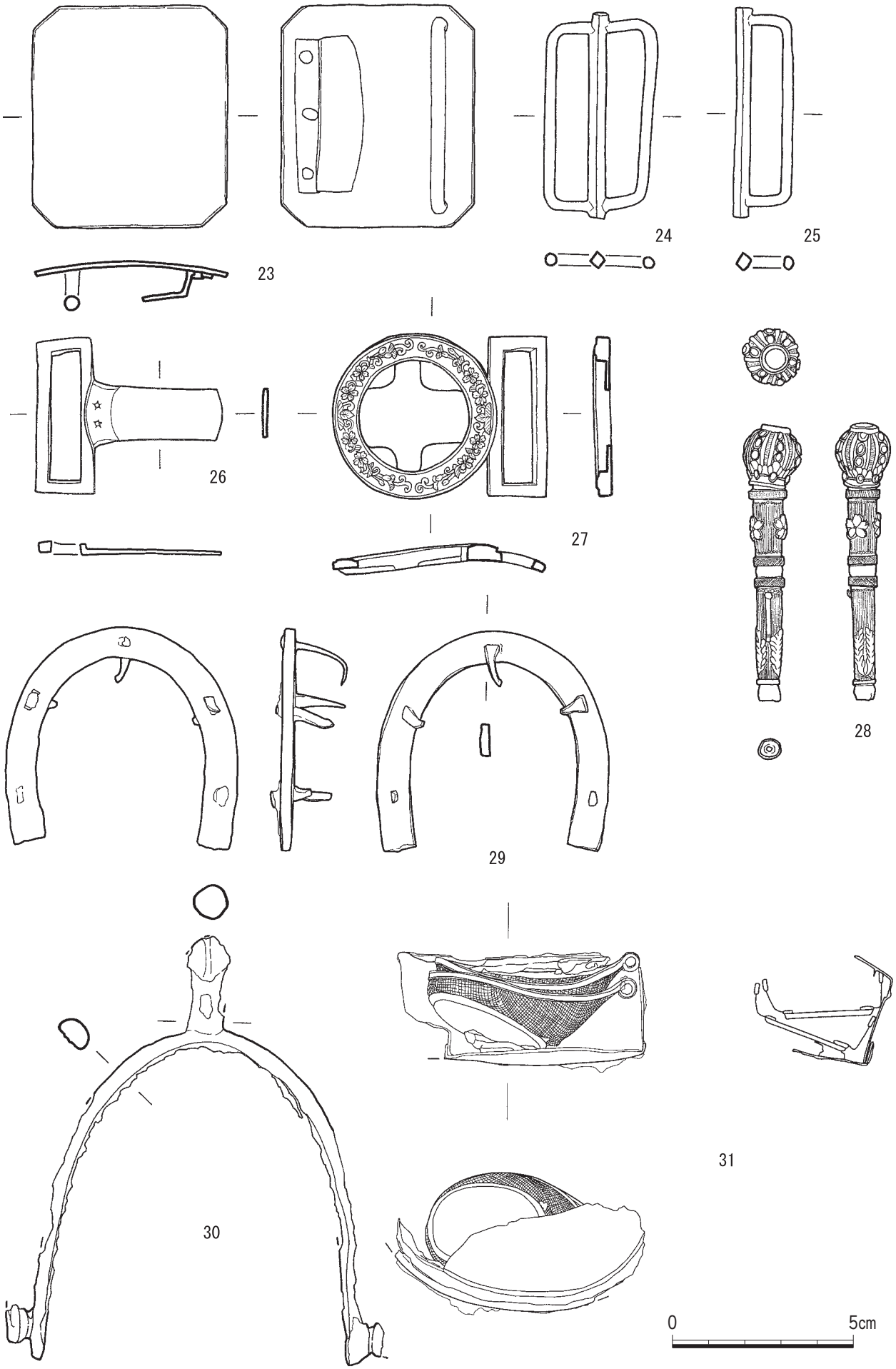
75から79は、小銃の手入れ用工具に関連する遺物である。76は銃身内部掃除用のブラシである。下端部にネジ山が確認される。76・77はT字形工具、78・79は三ツ又工具である。いずれも枝分かれした部分で複数の作業に対応できるようになっている。77の左側には転弾子（網掛け部分）が附属されている。78右上部分には、火門突（雷管を据えるための突起）の着脱用の火門抜が備わっている。Ｔ字形工具・三ツ又工具とも外火式前装銃（ゲベール・エンフィールド銃等）の分解・結合に用いられたものと考えられる。

80は文鎮である。表面には「武庫」と刻まれている。81は熊本鎮台の印章で、「臺印」と記されている。「印」の編部分外側には、穴が貫通している。82は時計と考えられるが、受熱が著しく不明な部分が多い。83から85は、ストーブの装飾部分である。83には「ABEND（ROTH）BRO　SN.Y.　187〇」と会社名と西暦が記されている。85は、ストーブ内部の換気口と考えられる。86は、バケツである。87は、短射銃である。短射銃の中でも極端に砲身が短い。火門孔も貫通しており使用可能であるが、射程は数百ｍ程と推定される。

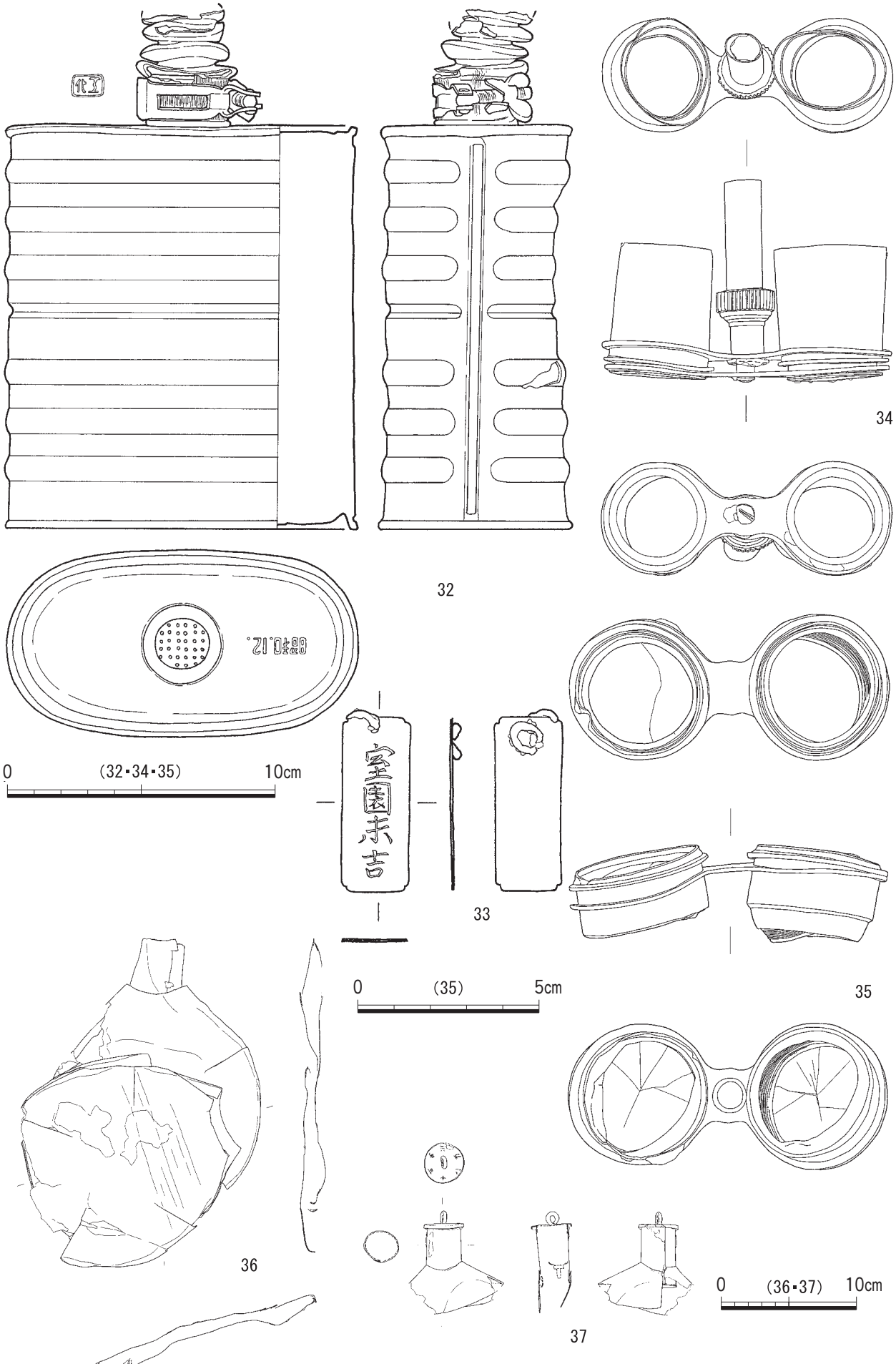
第21表　近代武器・軍用品分類表



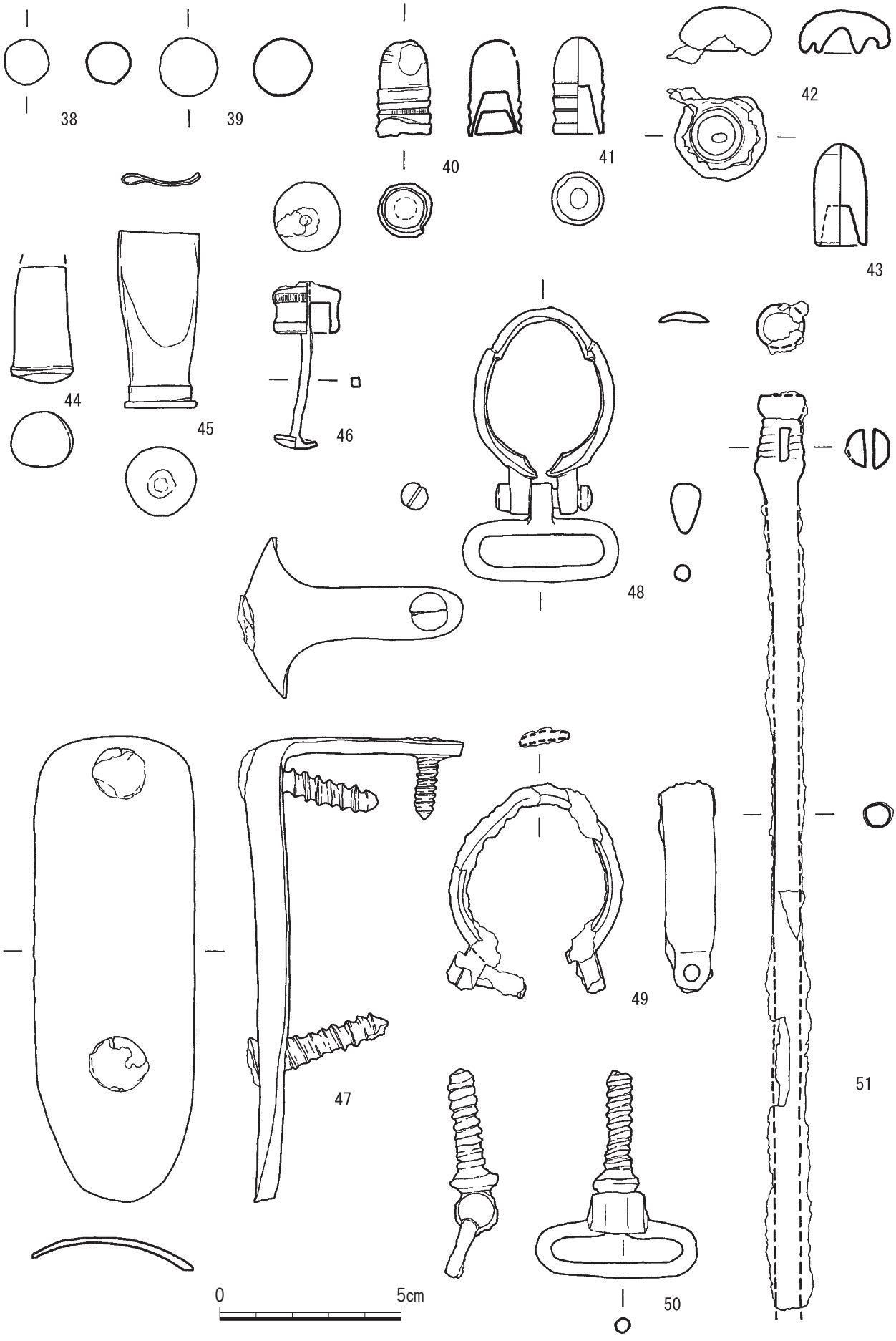
第353図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図１（１／１・２／３）



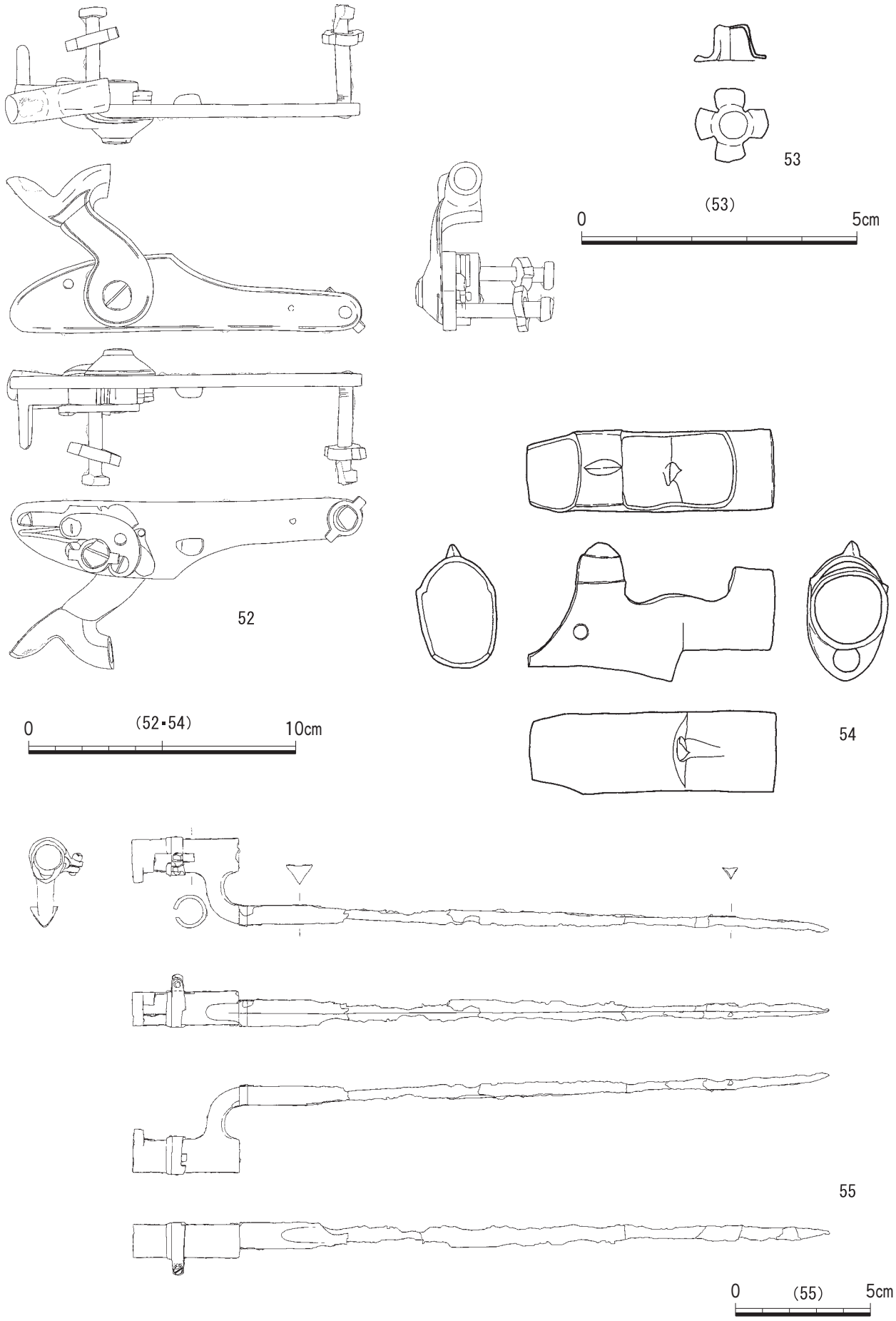
第354図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図２（２／３）



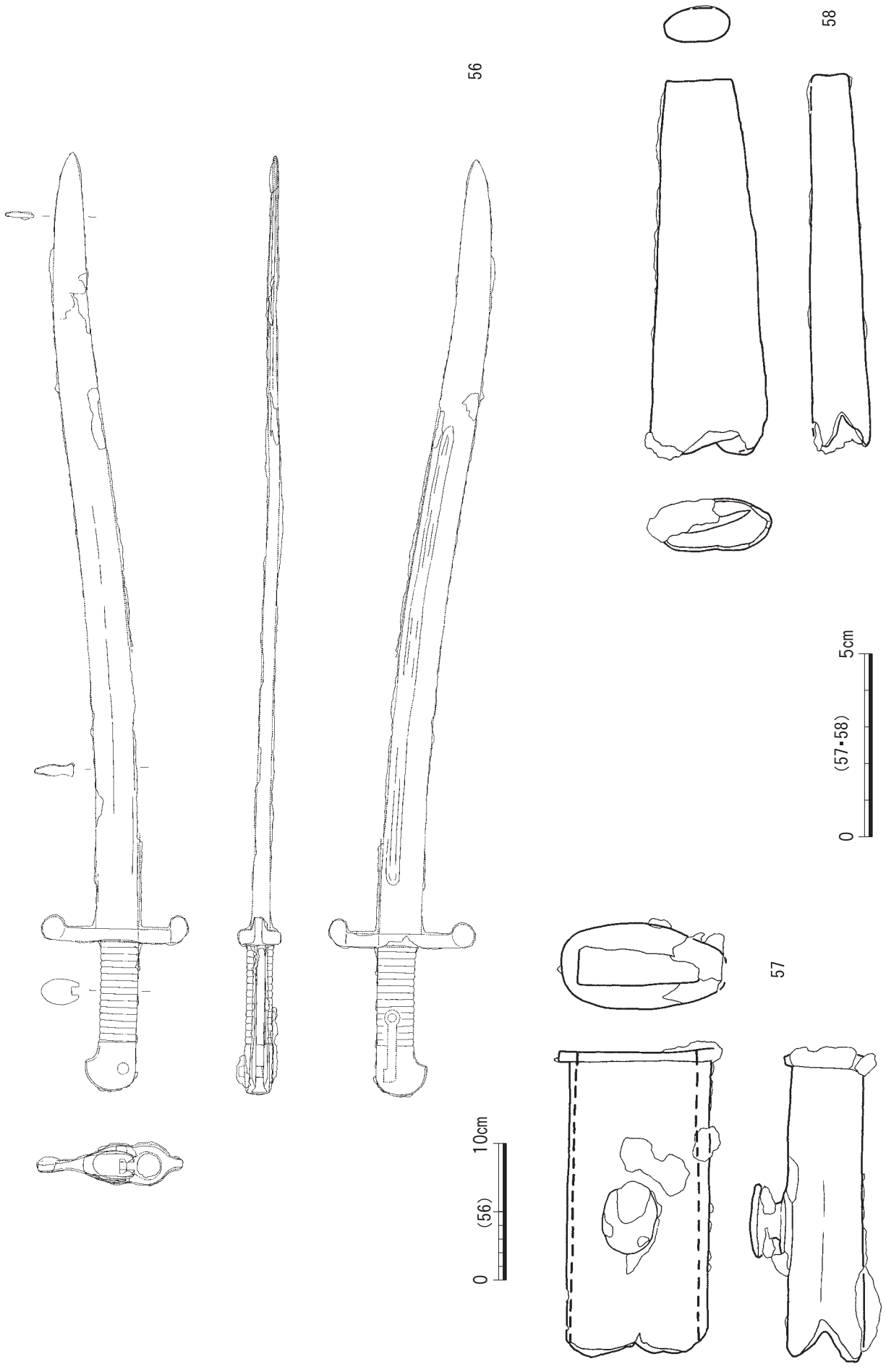
第355図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図３（１／２・２／３・１／４）



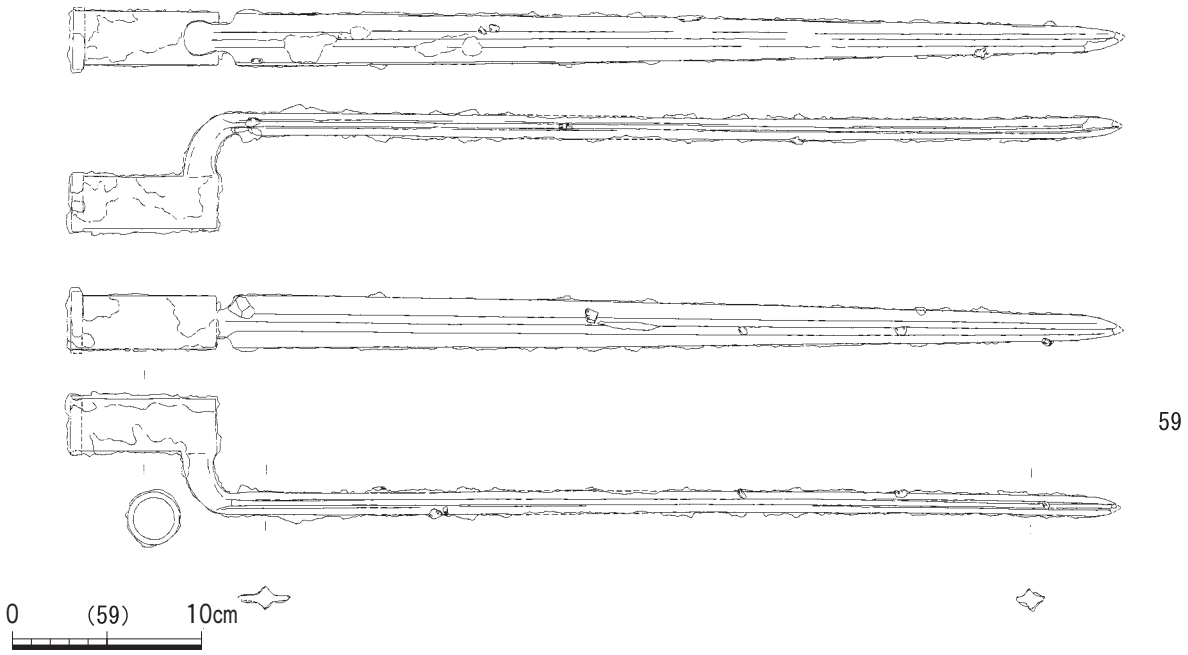
第356図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図４（２／３）

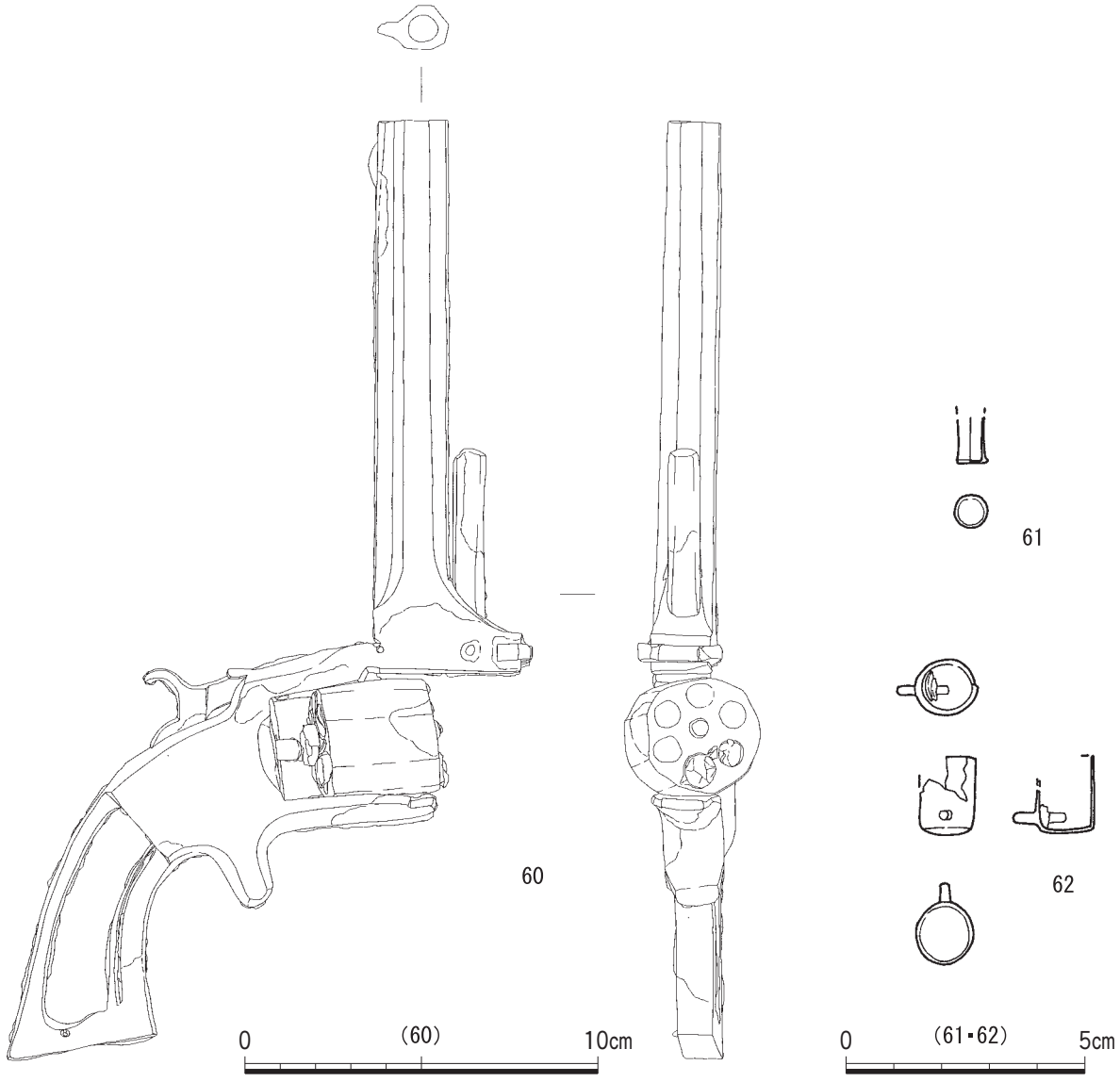


第357図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図５（１／１・１／２・１／４）

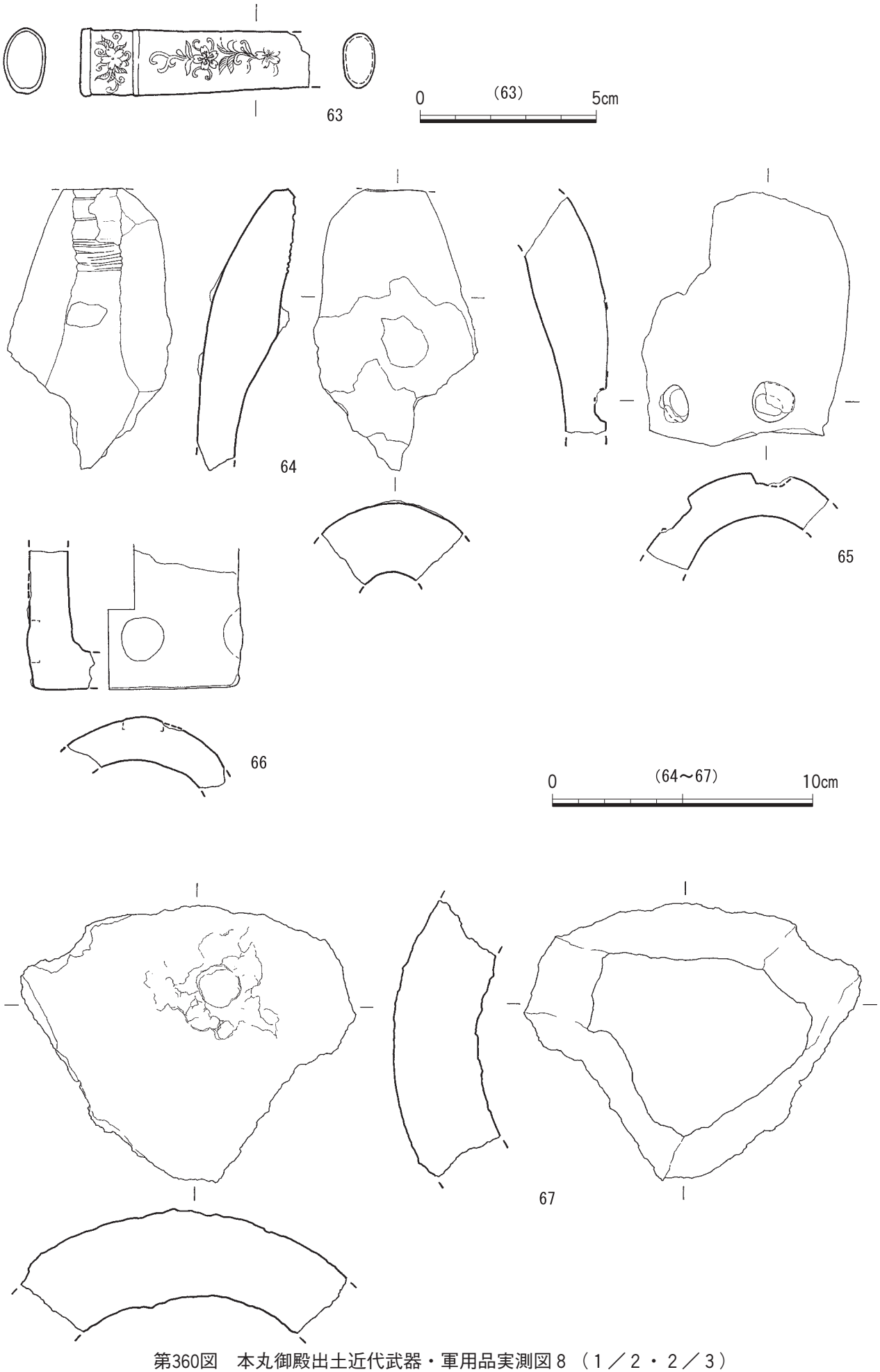


第358図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図６（２／３・１／４）

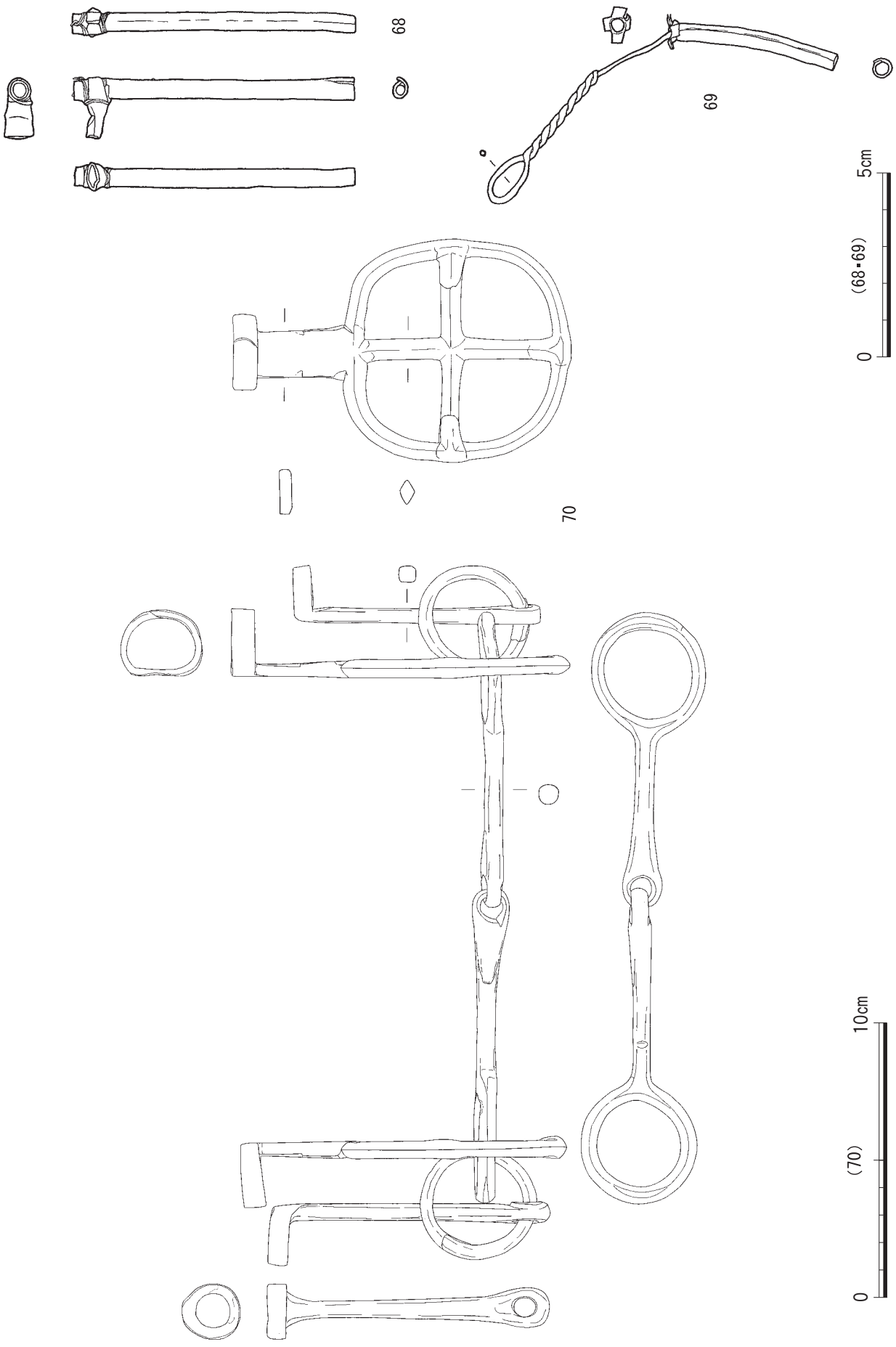




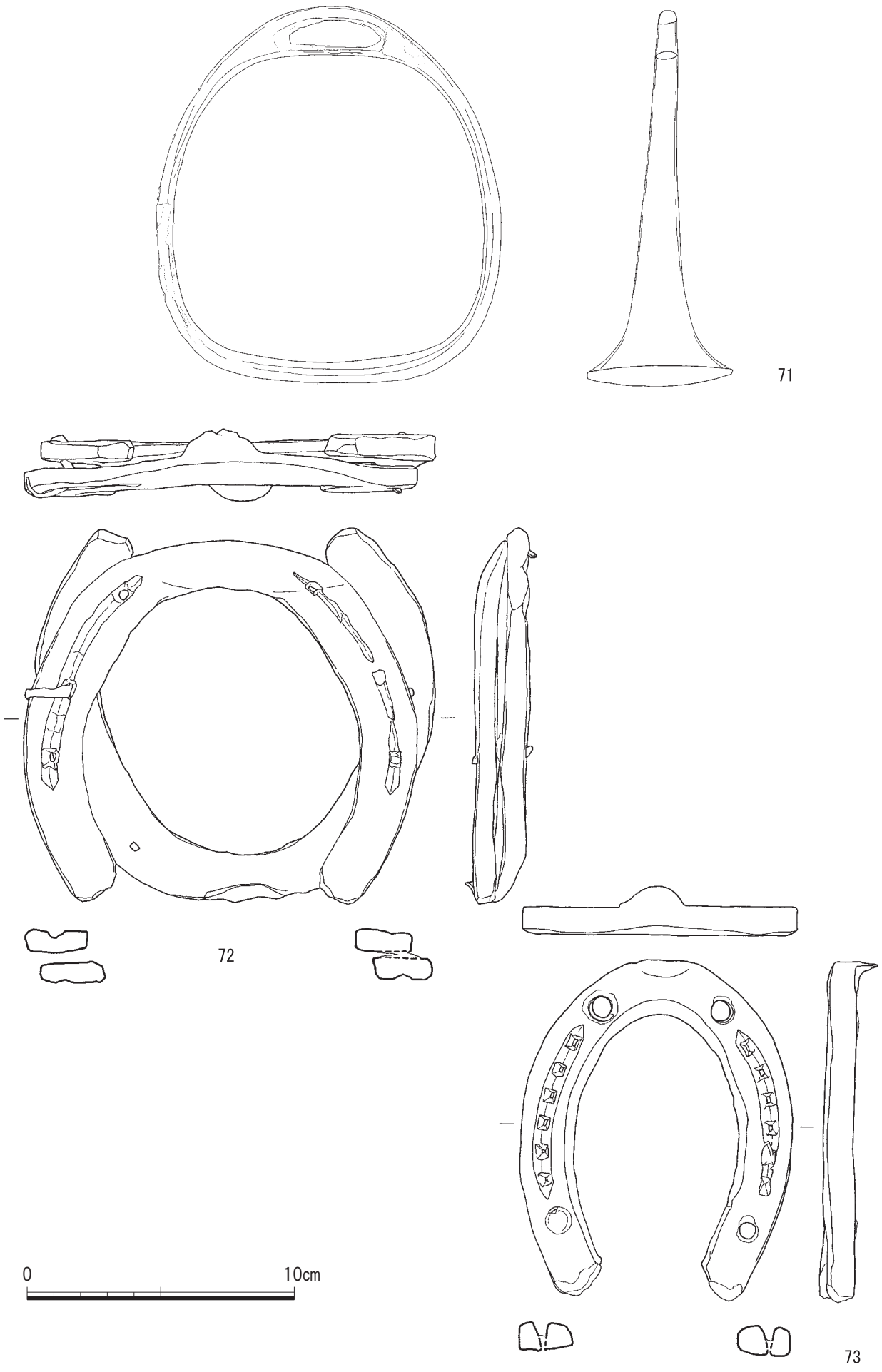
第359図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図７（１／２・２／３・１／４）



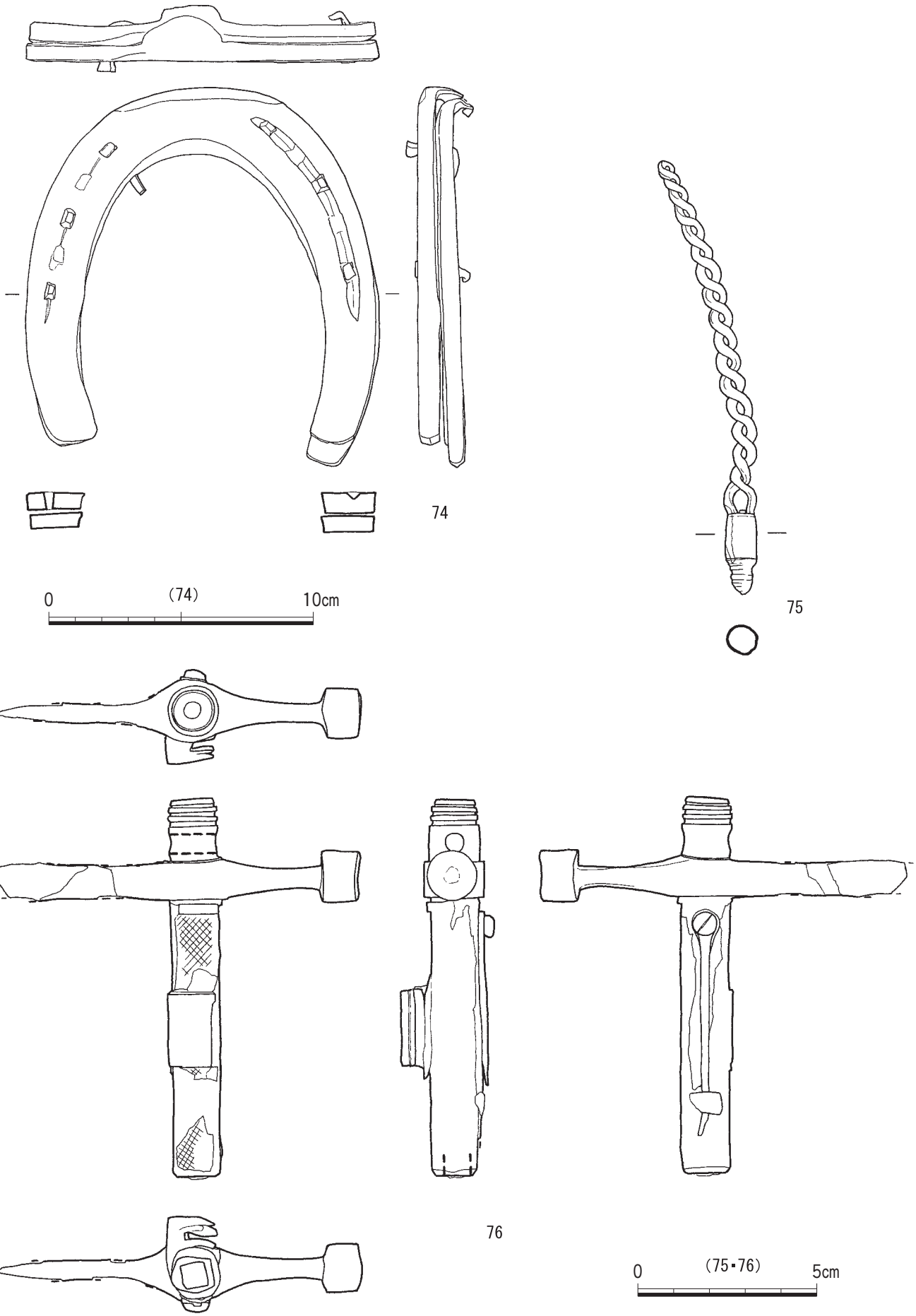
第360図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図８（１／２・２／３）



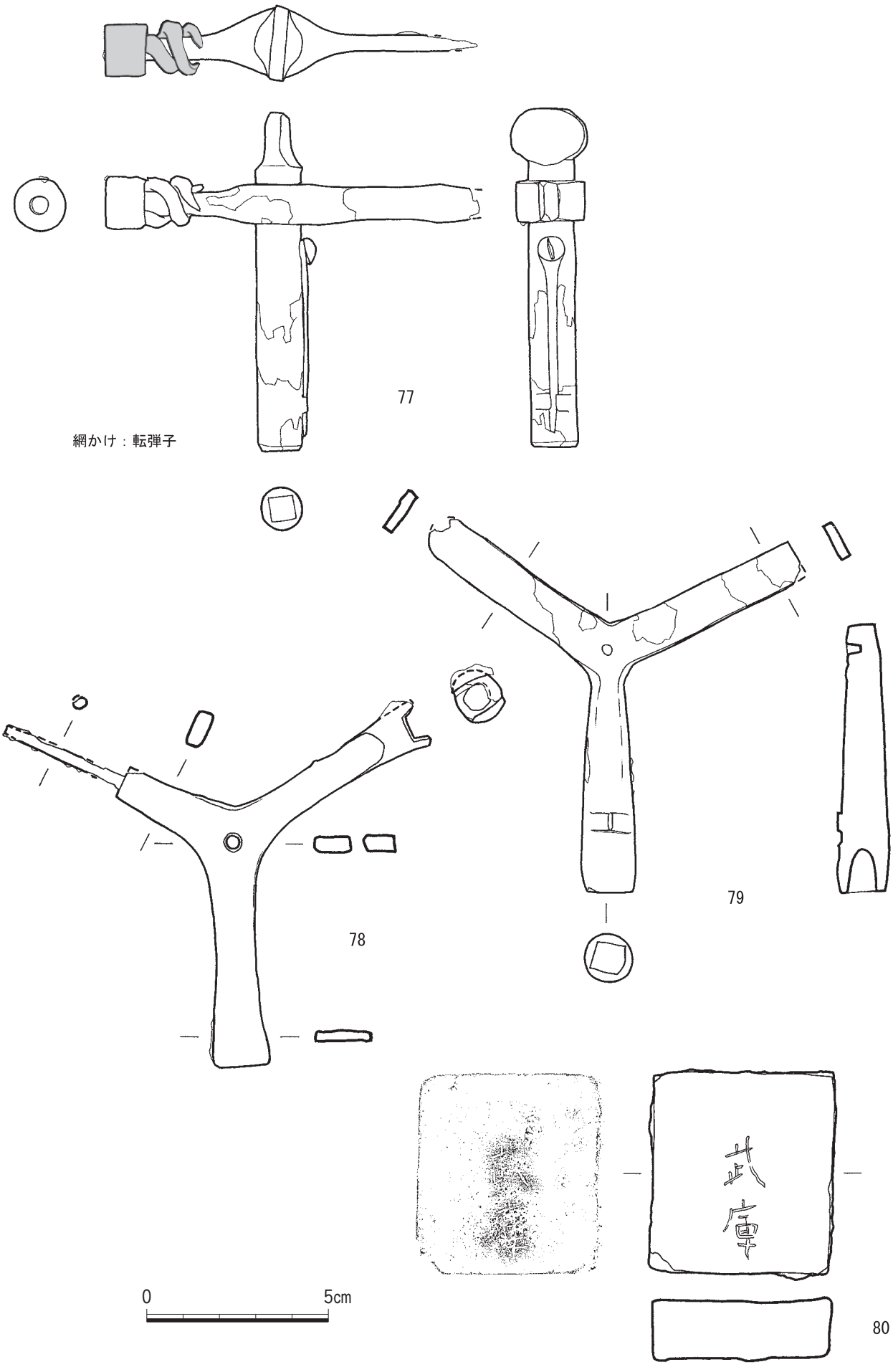
第361図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図９（１／２・２／３）



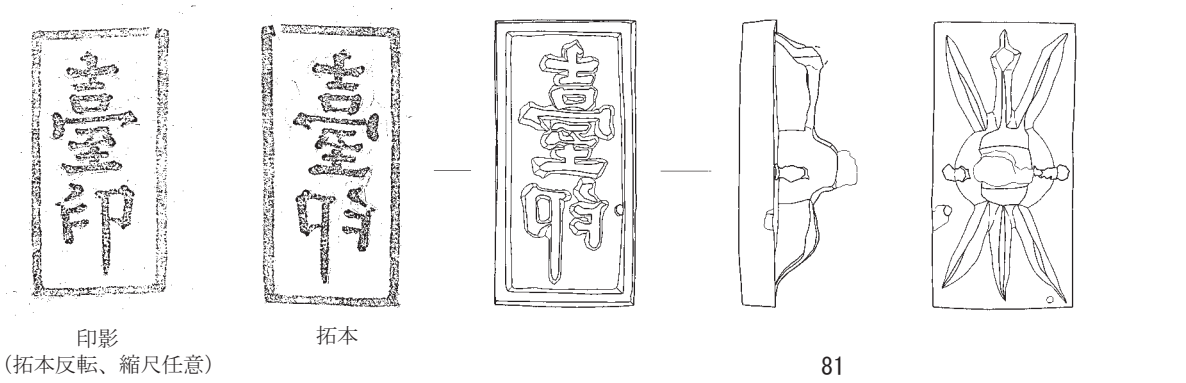
第362図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図10（１／２）

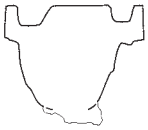


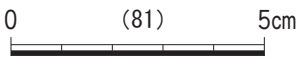
第363図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図11（１／２・２／３）

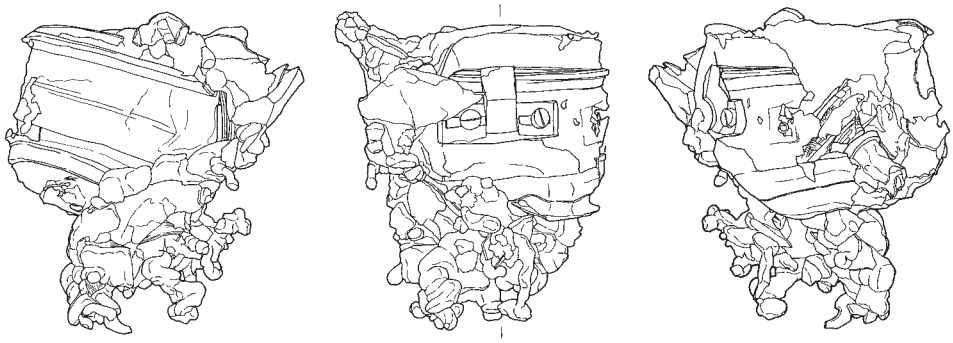


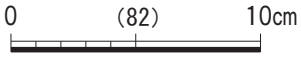
第364図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図12（２／３）

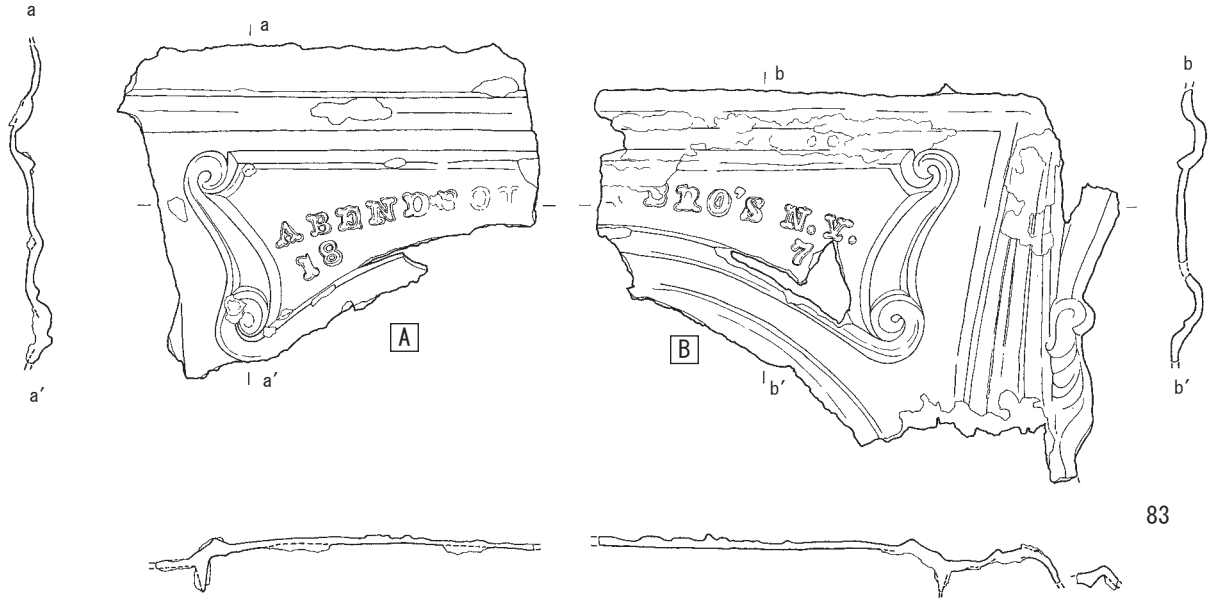




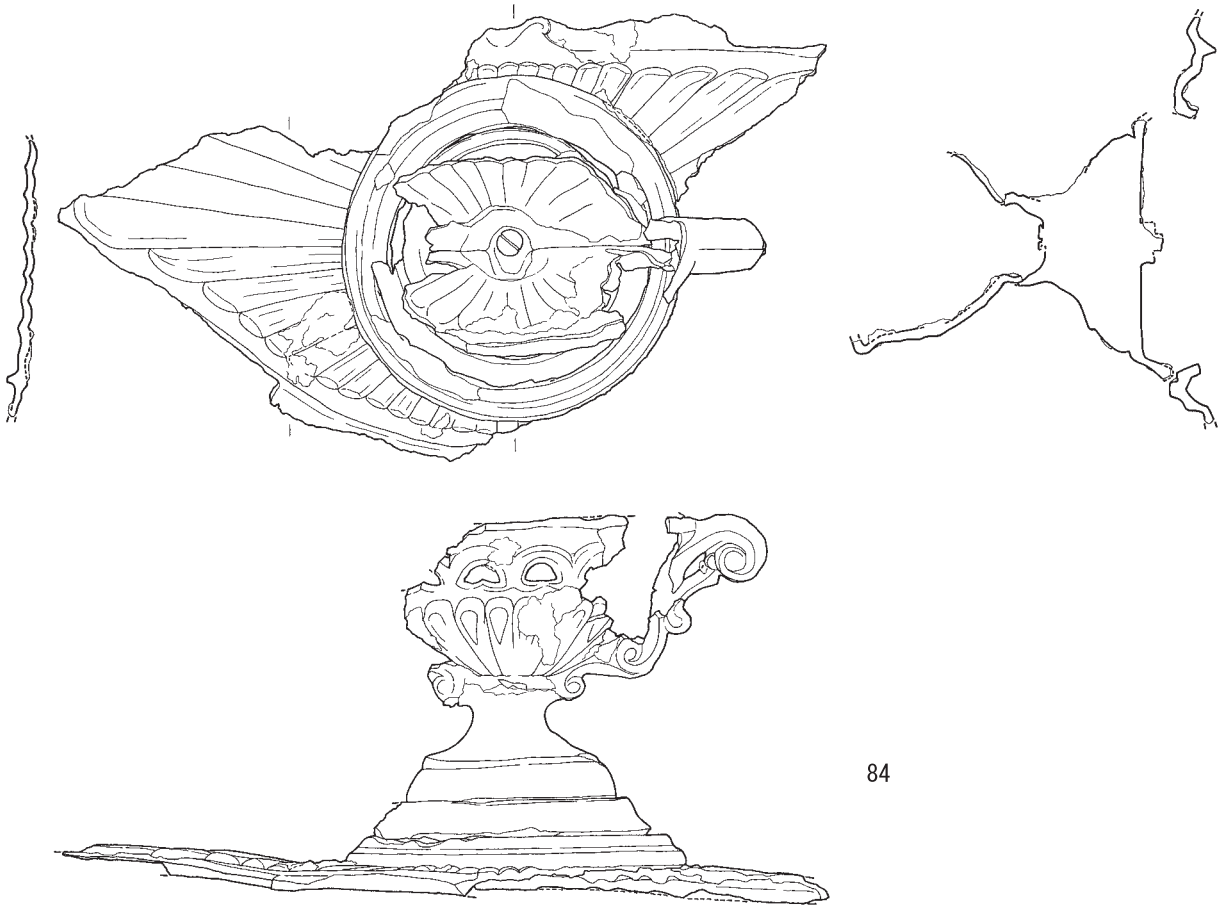




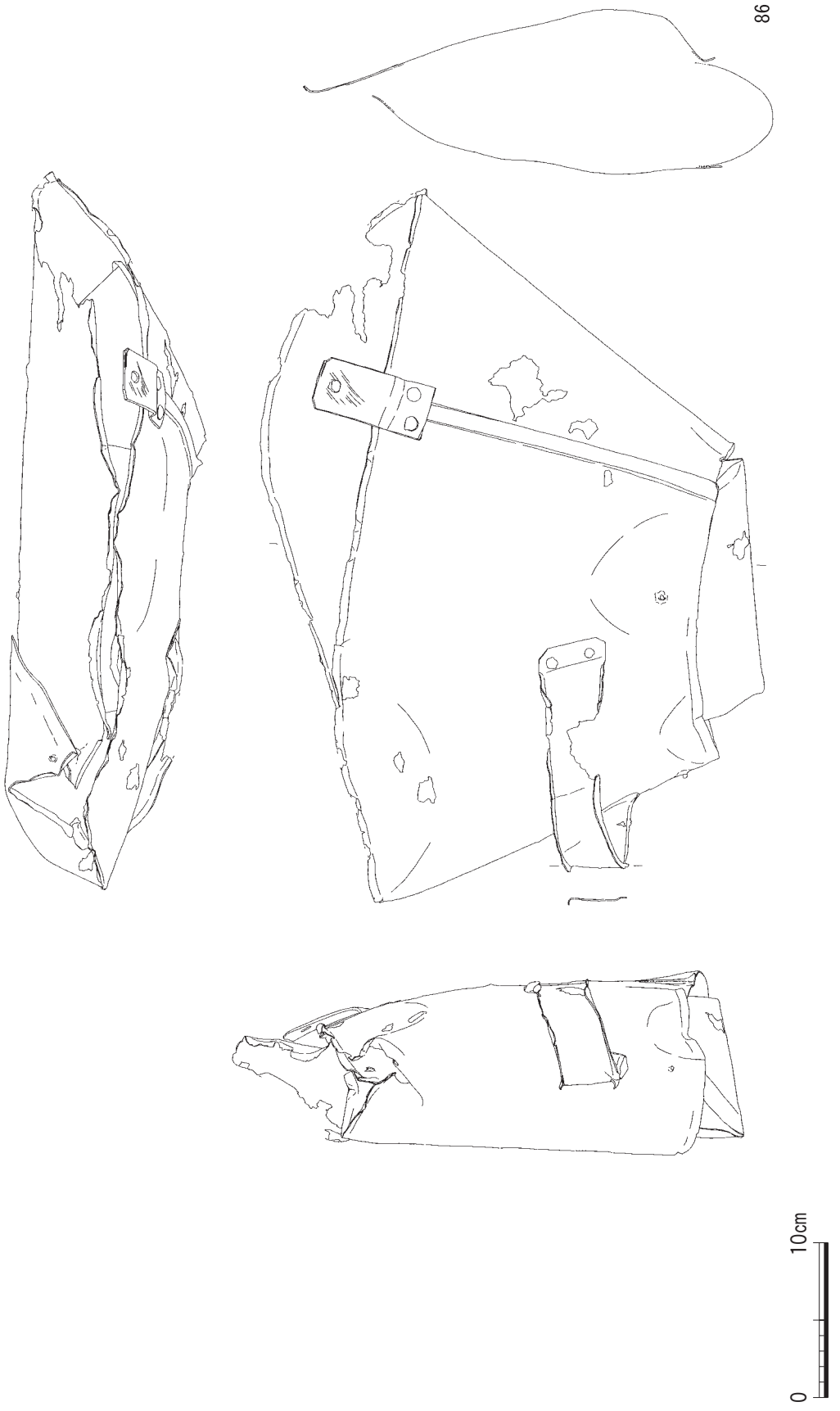




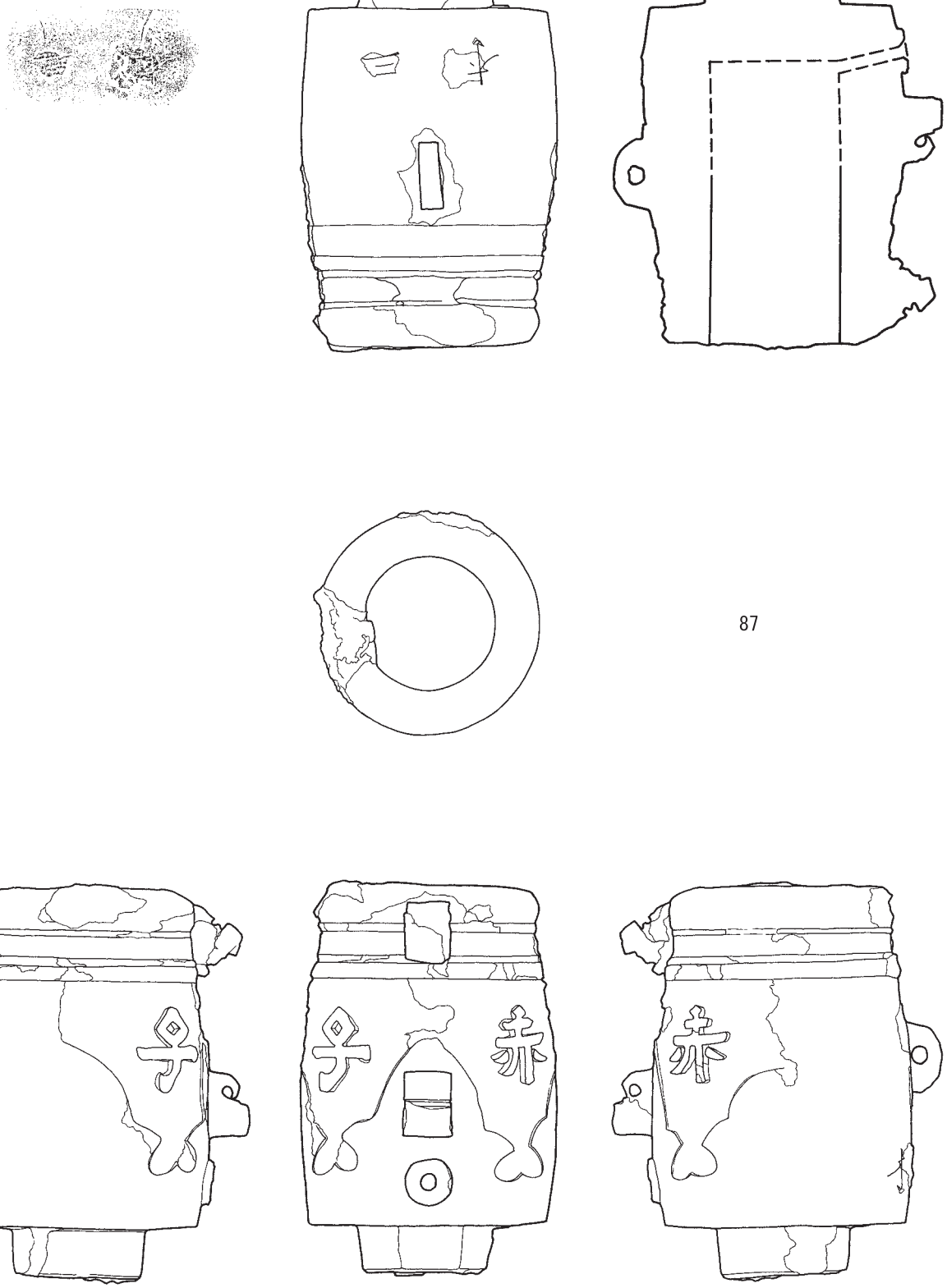
第365図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図13（1／3・2／3・1／4）



第366図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図14（１／４）



第367図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図15（１／４）



第368図　本丸御殿出土近代武器・軍用品実測図16（１／２）

第22表　近代武器・軍用品遺物観察表

図	番号	名　称	区　画	グリッド	遺　構	層	遺物№	計　測（cm）	備　　考	備　考　2	実測№	箱№
353	1	帽日章	御小姓部屋	F80－49		Ⅲ	225	直径4.9、高1.12、厚0.1、重20.3ｇ中心径1.6	明治8年　正帽日章	大	139	29
353	2	帽日章	御小姓部屋	F80－49		Ⅲ	335	直径4.0、高0.9、厚0.1以下、重13.6ｇ 中心径1.5	明治8年　正帽日章	小	140	29
353	3	帽星章	御小姓部屋	F79－52		Ⅲ	842	直径3.1、高1.1、厚0.1以下、重5.9ｇ	明治8年　兵卒用略帽星章		147	29
353	4	帽星章	大広間	F84－58		Ⅱ	325	長2.55、幅2.80、高0.7、重2.1ｇ	一般兵用　軍帽星章		897	15
353	5	記念章	長局御櫓	F71－46		Ⅲ	1051	長4.55、幅3.85、厚1.3、重：23.8ｇ	陸軍下士勤功章		465	13
353	6	裏足釦	大広間	F84－53		Ⅲ	815	直径2.2、高1.15、重3.3ｇ	明治8年　外套用釦	縁飾有	143	1
353	7	裏足釦	大広間	F84－53		Ⅲ	815	直径2.2、高1.0、重3.2ｇ		縁飾有	144	1
353	8	裏足釦	大広間	F84－53		Ⅲ	815	直径2.2、高1.4、重3.3ｇ	聯隊番号「一」	縁飾無	146	29・56
353	9	裏足釦	大御台所	F84－52		Ⅲ	816	直径2.2、高1.15、重3.3ｇ	聯隊番号「二」	縁飾無	890	1
353	10	表穴釦	大広間	F81－53		Ⅲ	827	直径1.6、厚0.35、重1.3ｇ	銅４つ穴	RING･EDGE･BEST	868	1
353	11	表穴釦	大広間	F81－53		Ⅲ	827	直径1.4、厚0.2、重0.7ｇ	銅４つ穴	IMPROVED･FOUR･HOLES	869	1
353	12	表穴釦	大広間	F79－53		Ⅲ	841	直径1.6、厚さ0.25、重0.7ｇ	貝５つ穴	縁有	860	1
353	13	表穴釦	大広間	F79－53		Ⅱ層下位	834	直径1.7、厚0.28、重0.6ｇ	貝４つ穴	縁無	857	1
353	14	表穴釦	大広間	F81－53		Ⅲ	827	直径1.12、厚0.3、重0.5ｇ	ガラス４つ穴	縁有	862	1
353	15	表穴釦	大広間	F81－53		Ⅲ	827	直径1.1、厚0.3、重0.5ｇ	ガラス４つ穴	縁無	866	1
353	16	尾錠用金具	大御台所	F83－49		Ⅲ	161	長2.3、幅3.2、厚0.35、重3.2ｇ			108	30
353	17	スプリングホック	露地	F88－59	SKⅢ081		592	長1.4、幅（0.9）、重0.2ｇ	鉤		917	22
353	18	スプリングホック	露地	F88－59	SKⅢ099		524	長1.25、幅0.8、重0.3ｇ	輪		916	22
353	19	鉤金具	大広間	F81－55		Ⅲ	655	高4.2、幅2.2、重9.3ｇ			121	28
353	20	鼓金	大広間	F81－55		Ⅲ	655	高0.75、幅1.2、重2.7ｇ	革製品留金具		5・6	30
353	21	S字形フック	大御台所	F83－52		Ⅲ	183	長5.4、幅4.6、厚0.35、重20.3ｇ	日本製		116	28
353	22	S字形フック	長局御櫓	F71－46		Ⅲ	1052	長6.22、幅6.2、厚0.45、重39.7ｇ	イギリス製		322	27
354	23	バックル	大広間	F82－59		Ⅲ	696	長6.15、幅5.4、高1.38、重71.6ｇ	フランス式		125	28
354	24	バックル	大広間	F82－59		Ⅲ	696	長5.7、幅3.15、重15.8ｇ	フランス式		123	28
354	25	バックル	大広間	F82－59		Ⅲ	696	長5.86、幅1.6、重9.2ｇ	フランス式		124	28
354	26	バックル	小広間	F89－61		Ⅲ	487	長4.9、幅5.15、厚0.38、重：15.9ｇ	将校用（オス）		118	28
354	27	バックル	小広間	F90－58		Ⅱ	490	長4.6、幅6.0、厚0.5、重：42.3ｇ	将校用（メス）		192	29
354	28	飾緒金具	大広間	F81－55		Ⅲ	655	長7.8、幅1.55、厚0.7	参謀飾緒用		395	
354	29	踵鉄	大御台所	F84－52		Ⅲ	816	長6.2、幅6.4、厚0.32、重27.5ｇ	釘穴５ヶ所		215	28･40･42
354	30	拍車	御小姓部屋	F80－52		Ⅱ層下位	831	長11.9、幅10.5、重37.8ｇ			905	13
354	31	ゴーグル	長之間	F86－53		Ⅱ層下位	453	長6.8、幅3.9、高3.3、重25.9ｇ			592	
355	32	吸収缶	御小姓部屋	F76･77－50	3号カクラン		134	長（19.1）、幅13.0、厚7.0、重540.4ｇ	離隔式ガスマスク用	活性炭素等内容物223.7ｇ	911	14
355	33	認識票	大広間	F78－54		Ⅲ	456	長5.05、幅1.85、厚0.09、重6.8ｇ	「室園末吉」		119	28
355	34	双眼鏡	大広間	F83－54		Ⅲ	29	長7.65、幅10.8、高4.3、重143.9ｇ			578	
355	35	双眼鏡	大広間	F83－54		Ⅲ	29	長3.6、幅11.7、厚4.4、重157.9ｇ			579	
355	36	水筒	御小姓部屋	F78－49・50		Ⅲ	308	長30.2、幅17.65、重273.8ｇ			645	
355	37	水筒	御小姓部屋	F78－49・50		Ⅲ	308	長7.6、幅6.9、重32.6ｇ	「五十八万　三号」		646	
356	38	小銃弾	大広間	F80－58		Ⅲ	622	直径1.25、重11.0ｇ	火縄銃		24	30
356	39	小銃弾	御小姓部屋	F79－52		Ⅲ	842	直径1.65、重24.3ｇ	火縄銃		27	30
356	40	小銃弾	長之間	F86－53		Ⅱ	276	長2.75、底1.50、重28.8ｇ	スナイドル	陶栓	360	26
356	41	小銃弾	大広間	F81－54		Ⅲ	22	高2.7、底径1.41、重30.3ｇ	スナイドル	Ａ２類＊	22	30
356	42	小銃弾	御小姓部屋	F78－49		Ⅰ	91 132	長1.2、底径1.3、重36.6ｇ	エンフィールド	ａ類＊	469	13
356	43	小銃弾	大広間	F84－54		Ⅲ	35	長2.83、底径1.45、重34.8ｇ	エンフィールド	ｂ類＊	300	28
356	44	小銃薬莢	小広間	F89－61		Ⅲ	487	直径1.55、長さ2.95、重4.3ｇ	スペンサー		409	13
356	45	小銃薬莢	大御台所	F85－46		Ⅳ	583	高4.9、底径2.0、重10.4ｇ	スナイドル	ボクサー実包MkⅠ＊	23	30
356	46	銃口蓋	御小姓部屋	F79－49		Ⅲ	292 339	長4.65、幅1.80、厚0.2、重15.4ｇ	前装銃用		1	30
356	47	床尾板	大御台所	F83－51		Ⅲ	144	長12.9、幅4.5、厚0.1、重143.6ｇ			11	29
356	48	負革留	西廊下	F88－61		Ⅰ	22	長7.6、幅4.35、50.3ｇ	床尾板負革留		285	28
356	49	銅金	御小姓部屋	F80－49		Ⅲ	223 253 340	長5.7、幅1.39、厚0.26、重37.2ｇ	銅金、環帯		9	30
356	50	負革留	小広間	F90－61		Ⅲ	18	長5.75、幅4.5、厚0.4、重26.6ｇ	床尾負革留		18	30
356	51	朔杖	長局御櫓	F74－46		Ⅲ	1022	長25.4、幅1.2、厚0.75、重71.1ｇ			258	31
357	52	小銃機構	長局御櫓	F71－46		Ⅲ	1051	長6.3、幅13.2、重188.0ｇ	打金の機構		764	
357	53	雷管	長之間	F85－54		Ⅲ	454	高0.65、幅0.55、重0.8ｇ			3	30
357	54	銃床キャップ	大御台所	F84－52		Ⅲ	816	長9.15、幅3.00、厚0.15、重77.4ｇ	ゲベール銃		16	29
357	55	銃剣	御小姓部屋	F79－50		Ⅲ	561	長51.65、幅1.95、厚1.9、重280.2ｇ	エンフィールド銃剣		828	
358	56	銃剣	御小姓部屋	F79－50		Ⅲ	561	長69.5、幅2.9、厚1.85、重730ｇ	ヤタガン形銃剣		828	
358	57	鯉口	長局御櫓	F74－46		Ⅲ	1022	長8.1、幅（3.4）、厚2.0、重79ｇ	ヤタガン形銃剣		365	26
358	58	鐺	長局御櫓	F74－46		Ⅲ	1022	長（10.2）、幅3.2、厚1.55、重50.4ｇ	ヤタガン形重剣		366	26
359	59	銃剣	長局御櫓	F73－46		Ⅲ	1023	長55.2、幅2.8、厚1.2、重410.2ｇ			662	
359	60	拳銃	小広間	F88･89－60	ＳＤⅢ027	埋土	513	銃身15.5、銃把～弾倉13.3、口径0.8、重642.3ｇ	Smith&Wesson №２		609	
359	61	拳銃薬莢	大広間	F81－58		Ⅲ	666	直径0.7、長0.97、重0.3ｇ	S&W薬莢		411	13
359	62	拳銃薬莢	大広間	F82－55		Ⅲ	691	直径1.20、長1.11、重1.6ｇ	ル・フォショウ拳銃用	ピンファイヤー薬莢	410	13
360	63	鐺	小広間	F89－60		埋土下位	513	長6.5、幅1.9、厚0.1、重17.8ｇ	正剣		910	14
360	64	砲弾片	西廊下	F87－60		Ⅱ	46	長10.6、幅6.1、厚2.4	四斤砲弾	信管部分螺子跡有	387	31
360	65	砲弾片	大広間	F83－54		Ⅰ	10	長（9.6）、幅（7.6）、厚2.6、重394.3ｇ	四斤砲弾	スタッド（鉛鋲）跡２ヶ所	301	31
360	66	砲弾片	大広間	F81－55		Ⅱ	653	長5.3、幅5.1、厚1.5	四斤砲弾	スタッド（鉛鋲）跡２ヶ所	389	31

第22表　近代武器・軍用品遺物観察表

図	番号	名　称	区　画	グリッド	遺　構	層	遺物№	計　測（cm）	備　　考	備　考　2	実測№	箱№
360	66	砲弾片	大広間	F83－54		Ⅰ	10	長（9.6）、幅（7.6）、厚2.6、重394.3ｇ	四斤砲弾	スタッド（鉛鋲）跡２ヶ所	301	31
360	67	砲弾片	大広間	F84－57		Ⅱ	327	長10.05、幅12.8、厚3.2、直径19.0	20ドイム砲弾		199	29
361	68	摩擦管	御小姓部屋	F79－52		Ⅲ	842	a：7.63、b：0.50 、c：1.51、重：6.6ｇ	L字形		368	26
361	69	摩擦管	長之間	F85－54		Ⅲ	454	a：4.60、b：0.50 、重：4.2ｇ	Ⅰ字形		2	30・34
361	70	頭絡金具	御小姓部屋	F80－49		Ⅰ	11	長12.35、幅25.4、高8.1、重390.8ｇ	頭絡金具		751	
362	71	鐙	大広間	F82－59		Ⅲ	696	長13.9、幅12.8、重320ｇ	鐙		747	
362	72	蹄鉄	長之間	F87－54	ＳＢⅢ009	埋土	289	長13.3、幅14.5、厚0.7、重681.2ｇ（重さのみ2個分）	前蹄鉄	釘穴：6穴（3＋3）	375	25
362	73	蹄鉄	長之間	F87－54	ＳＢⅢ009	埋土	373	長12.55、幅10.15、厚1.0、重308.5ｇ	後氷上蹄鉄	釘穴：12穴(6+6)、螺子穴4穴	373	25
363	74	蹄鉄	長之間	F87－54	ＳＢⅢ009	埋土	289	長14.1、幅13.0、厚0.65、重540.3ｇ（重さのみ2個分）	後蹄鉄	釘穴：6穴（3＋3）	374	25
363	75	ブラシ	御小姓部屋	F81－52		Ⅰ	636	長12.3、幅0.72、厚0.72、重16.1ｇ	銃身用		354	26
363	76	工具	小広間	F91－55		Ⅰ	6	長10.6、幅10.3、厚1.3、重41.2ｇ	T字形工具		357	26
364	77	工具	大広間	F82－53		Ⅱ	37	長9.35、幅10.15、厚1.45、重115.9ｇ	T字形工具		359	26
364	78	工具	大広間	F71－46		Ⅲ	1051	長9.85、幅11.75、厚0.45、重56.0ｇ	三ツ又工具		255	25
364	79	工具	大広間	F84－54		Ⅲ	35	長10.2、幅10.25、厚1.3、重量94.8ｇ	三ツ又工具		372	25
364	80	文鎮	長局御櫓	F73－46		Ⅲ	1023	長5.5、幅5.0、厚1.6、重400ｇ	「武庫」		906	13
365	81	印章	大広間	F81－58		Ⅲ	666	長5.7、幅2.8、厚2.35、重87.1ｇ	鎮台印	「臺印」、銅製	581	
365	82	時計	小広間	F90－60		Ⅲ	25	高12.7、幅10.95、奥行11.85、重1,640ｇ			912	16
365	83	ストーブ	長局御櫓					A:残存長17.85、残存幅22.45、重790ｇ B:残存長21.2、残存幅27.85、重1,050ｇ	「ABEN（DROTH） BROS' NY 187〇」		914	130
366	84	ストーブ	長局御櫓					残存長23.7、残存幅40.85、残存高20.65、重1,540ｇ			915	129
366	85	ストーブ	長局御櫓					残存高11.45、残存幅30.1、重1,320ｇ			913	130
367	86	バケツ	御小姓部屋	F78－52		Ⅲ	844	長33.5、幅46.25、奥12.5、厚0.1、重1500ｇ			819	
368	87	短射銃	小広間	F90－60		Ⅲ	497	長12.55、幅8.2、厚10.6、重3,350ｇ	短火矢筒、短射筒	「赤子」「三本？」	918	

＊：玉東町教育委員会　『玉東町西南戦争遺跡』　2012年　153・154頁参照

《参考文献》

・内閣官報局「明治８年11月太政官布告第174号陸軍武官服制図」『明治８年　法令全書』　1875
・内閣官報局「明治45年２月勅令第10号陸軍服制」『明治45年　法令全書』　1912
・原島善之助編　『産馬大鑑』　裳華房　1907
・陸軍省編纂　『馬事提要』　1914
・帝國軍人教育會編　『最新圖解陸軍模範教典』　1937
・中西立太　『改訂版　日本の軍装―幕末から日露戦争―』　大日本絵画　2006
・国立歴史民俗資料館　『歴史のなかの鉄炮伝来』　2006
・幕末軍事史研究会編　『武器と防具　幕末編』　新紀元社　2008
・歴史群像編集部編　『全国版幕末維新人物事典』　学習研究社　2010
・リチャード・ホームズ編　『武器の歴史大図鑑』　創元社　2012
・八代市教育委員会『若宮官軍墓地跡・横手官軍墓地跡』　八代市文化財調査報告書第16集　2002
・玉東町教育委員会『玉東町西南戦争遺跡』　玉東町文化財調査報告第８集　2012
・熊本市教育委員会　『田原坂』　熊本市の文化財第５集　2011
・熊本市教育委員会　『田原坂Ⅱ』　熊本市の文化財第15集　2012
・熊本市教育委員会　『田原坂Ⅲ』　熊本市の文化財第30集　2013
・熊本市教育委員会　『田原坂Ⅳ』　熊本市の文化財第39集　2014
・熊本市教育委員会　『田原坂Ⅴ』　熊本市の文化財第48集　2015
・熊本市熊本城調査研究センター『熊本城発掘調査報告１―飯田丸の調査―』熊本城調査研究センター報告書第１集　2014
・小佐々学　「日本在来馬と西洋馬」　『日本獣医師会雑誌』64　2011

近代武器・軍用品出土状況から見た本丸御殿（第23表）

第23表の区画毎の近代武器・軍用品出土遺物の出土点数を基に、本丸御殿出土遺物の状況を報告する。従来から言われているように、小広間の重要性を示す遺物としてＳｍｉｔｈ＆Wesson№２本体や時計、短射銃など、特殊な遺物の出土が目立つ。その一方で鎮台の印章は大広間からの出土である。その大広間では釦の出土多く、特に万単位での銅製・貝製・ガラス製釦、スプリングホックの出土は際立って多い。またＴ字工具が多く出土している。大御台所も、銅製・貝製・ガラス製釦、スプリングホックが数多く出土しているが、やはり大広間の数と比べると少ない。御小姓部屋からは、帽日章の出土が大御台所と含めて数多く出土している。加えて鼓金の出土は、他の区画からの出土より際立って多い。また水筒やバケツといった遺物も御小姓部屋から出土している。長之間からは大御台所同様、蹄鉄の出土が確認された。露地からは、摩擦管の出土が目立つ。また踵鉄は、大広間、御小姓部屋とともに３ヶ所で約９割の出土量である。同様に拍車も大広間から３点、御小姓部屋から２点出土している。長局御櫓では、銃口蓋、銃剣本体、銃部品、が多く出土している。日章や釦の出土は無いが、ストーブなど季節利用の道具が出土している。注目される遺物として「武庫」と記された文鎮が長局御櫓から出土している。『熊本鎮臺戰闘日記』には「武庫日誌」の記述が存在する。内容は、武器の調達・供給、各所戦闘の様子などが記されている。その中に「武庫主管」と役職名を示す部分が記載されている。この事からも長局御櫓が武庫という部署が管理する倉庫であった可能性がある。

なお、月見櫓付近のＦ87－48・49グリッド、Ｆ88－49グリッドⅠ層中から38点の使用済み摩擦管が出土している。本丸御殿付近での大砲の使用は、西南戦争の他に正午の時報を告げるいわゆる「ドン」が想起される。明治５年（1872)、鎮台内の時刻を知らせるために使用したのが始まりである。初期は増永砲を使用し、明治45年（1912）からは20センチ野砲が使用されている。大正11年（1922）からサイレンに切り替えられたが、昭和２年（1927）に復活した。その後昭和14年（1939）９月19日で最後となり、昭和18年（1943）２月16日金属供出のため、小倉造兵廠に送られ姿を消している。今回出土した摩擦管は、月見櫓に据えられていた午砲に使用されたものと想定される。

西南戦争関連遺物の出土状況（第369図、第24表）

ここでは、西南戦争に関連する遺物を中心に報告する。したがって本丸御殿Ⅲ層出土遺物を中心として、一部Ⅱ層下位出土遺物も合わせて取り扱う。

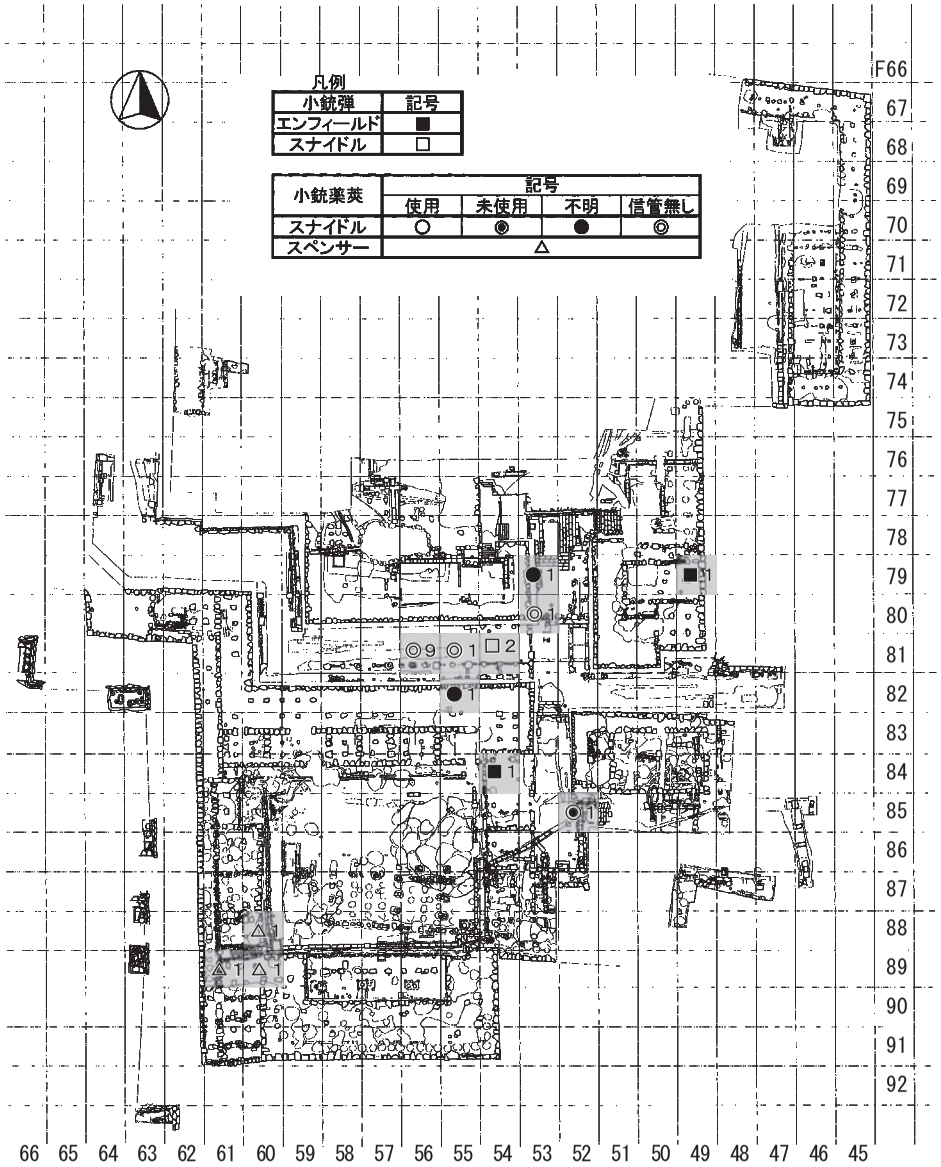
小銃については弾と薬莢を中心に扱う。小銃の弾と薬莢では、スペンサー銃とスナイドル銃の２種類が確認されている。弾に関して実見した所、全て使用が確認された。加えて出土点数が４点と少ない。これは、再利用のため回収されたもの、あるいは有効射程距離などを考えると、本丸御殿方面に射撃できないほどの戦闘が各所で行われた結果と思われる。スペンサー銃薬莢は、F88・89－60グリッドで各１点、F89－61グリッドの１点出土している。場所は、西廊下・小広間の西側部分に位置している。スナイドル銃薬莢を観察すると、使用・未使用の偏在性が見て取れる。これは、センターファイヤー方式であれば、薬莢外底部中央の雷管における打痕の有無の観察により使用・未使用が確認できる。使用済みの薬莢はF81－54グリッドの１点のみであった。未使用薬莢もF85－52グリッドの１点のみである。他方、雷管が無い薬莢も出土している。これは、薬莢内に火薬を装填する時に事故を防ぐための練習用とされる[1)]。出土状況を観察すると、F81－55・56グリッドから１点と９点。F80－53グリッドから１点出土している。

火砲関連資料として、砲弾片と摩擦管を扱う。砲弾片は四斤砲弾と20ドイム臼砲弾片が出土しているが、全てが破片である。分布状況を見てみると20ドイム臼砲弾片は１点、四斤砲弾片も４点と散在的な出土状況である。摩擦管の使用の有無は環線（ワイヤーループ）の有無で判断できる。使用済みの摩擦管の出土状況は、F79・80－52グリッドからそれぞれ２点、F81－53グリッドから２点出土している。また、Ｆ84－53・54グリッドからそれぞれ１点、F85－52グリッドから１点、F85－54グリッドから４点出土している。

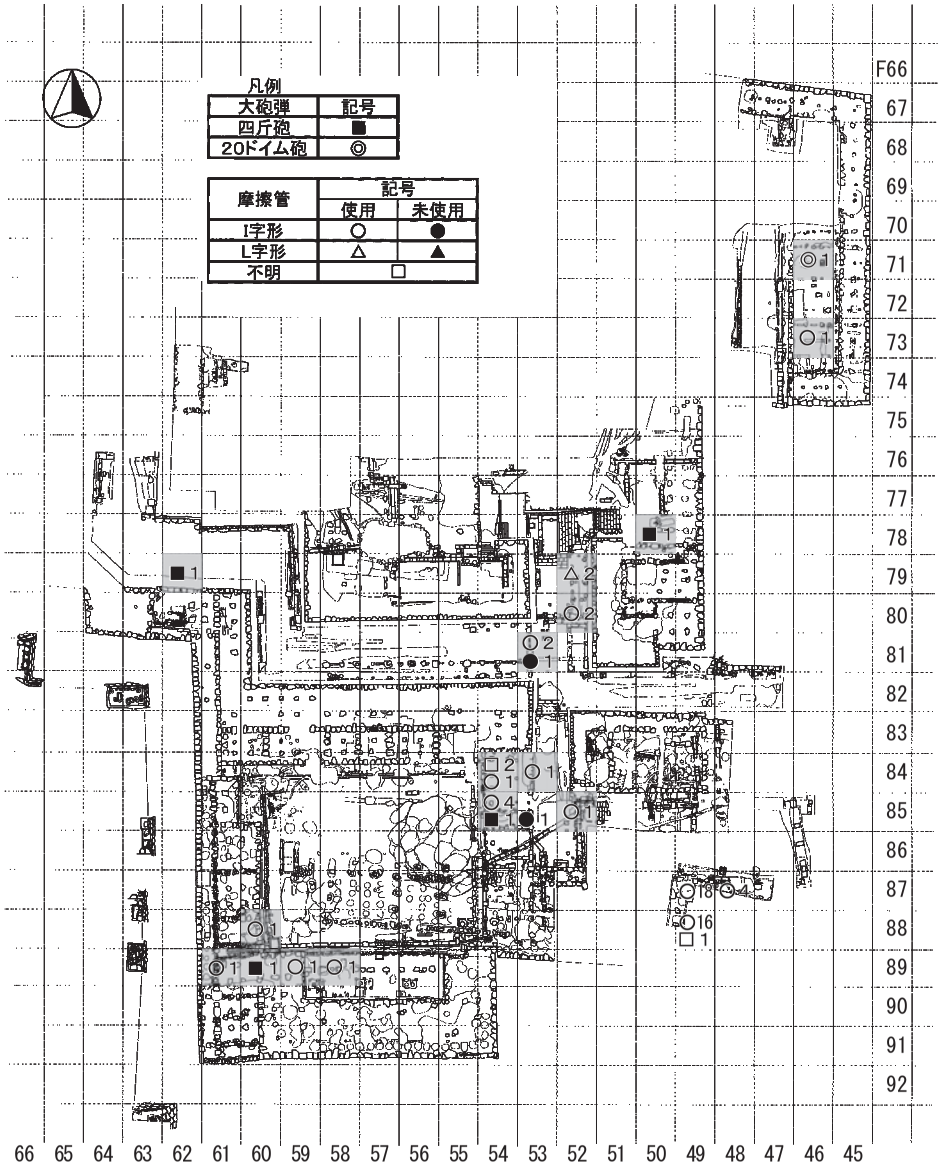
第23表　近代武器・軍用品出土位置一覧表

名称				大区画	大広間	大御台所	御小姓部屋	長之間	露地	西廊下	小広間	長局御櫓	月見櫓台所	二様の石垣下	合計
軍装	軍服	章	日章		65	125	(208)	7	2		2				(409)
			星章		(180)	(47)	(78)	7	25	1	(2)				(340)
			バッジ		1							1			2
		釦	裏足釦	無文	(1,355)	(140)	(563)	(33)	(22)		(4)				(2,117)
				桜	(48)	(15)	(1)	(11)	1		(6)				(82)
				文字	2	1									3
			表穴釦	銅	(10,072)	(576)	(472)	1	(2)		(2)				(11,125)
				貝	19,540	296	1,827	27	14		6				21,710
				ガラス	24,259	362	2,235	12	10		19				26,897
		鉤	スプリングホック	鉤	(25,018)	(93)	(36)				(1)				(25,148)
			スプリングホック	輪	(19,961)	(147)	(61)		2		3				(20,174)
			尾錠用金具		(165)	(173)	3	(2)	(3)		11				(357)
			鉤金具		(377)	(671)	(31)	(4)	6	1	2		1		(1,093)
			S字形フック			1						10			11
			鼓金		(2,112)	9	(568)	(11)	96						(2,796)
		装飾	バックル		5						5				10
			飾緒金具		4										4
		靴	踵鉄		108	19	179	13	168		9		1		497
			拍車		3		2				1				6
	その他		認識票		1										1
			双眼鏡		3										3
			吸取缶				1								1
			水筒				2								2
			ゴーグル					1							1
兵器	銃	小銃	弾	火縄銃	10		8		1	1	1	3			24
				スナイドル	2			1							3
				エンフィールド	3		2								5
			薬莢	スペンサー	8				2	15	10				35
				スナイドル	21	6	9	14	7	1	5	1		1	65
			銃口蓋		6	5	14	3		1	1	19			49
			雷管		6	2	1	15	4		2	1			31
			部品	負革留	1					1	1	1			4
				銃床キャップ		1									1
				床尾板		2					1	7			10
				胴金			2								2
				朔杖							2	2			4
				打金の機構								4			4
		銃剣	本体				2					2			4
			部品	鐺、鯉口	2	5						21			28
		拳銃	本体	S＆W本体							1				1
			薬莢	S＆W薬莢	3			3	1		2				9
				ル･フォショウ薬莢	5										5
	刀剣	剣	部品	鐺							1				1
	火砲	大砲	弾	四斤砲片	9	1	2	5	3	2	4	2			28
				20ドイム臼砲片	1							1			2
			摩擦管	Ⅰ字形	25	37	4	42	179	33	118	1	38	4	481
				L字形			2	1	49		1				53
				不明	10	5			5	3	9	1	1		34
	馬具		頭絡金具		1	1	25								27
			鐙		1										1
			蹄鉄			42		190							232
	その他	工具	銃ブラシ		1	2	3		3			2			11
			T字形工具		31	1					2	1			35
			三ツ又工具		1							2			3
その他			印章		1										1
			バケツ				2								2
			時計								1				1
			短火矢筒								1				1
			文鎮									1			1
			ストーブ									3			3

＊（数字）は総重量を一個の重さから割り出した個数



小銃関連出土分布



大砲関連出土分布

第369図　西南戦争関連武器類出土分布図（縮尺任意）

第24表　西南戦争関連武器類出土位置一覧表

項目		名称	名称２	大区画	グリッド	層	遺物№	備　考	備考　２	個数	実測№	箱№（仮）
銃	小銃	弾	スナイドル	大広間	F81－54	Ⅲ	22		Ａ２類	1	22	30
銃	小銃	弾	エンフィールド	大広間	F84－54	Ⅲ	35		ｂ類	1	300	28
銃	小銃	弾	エンフィールド	御小姓部屋	F79－49	Ⅲ	296		ｂ類	1	21	30
銃	小銃	弾	スナイドル	大広間	F81－54	Ⅲ	646		陶栓、Ａ２類	1	369	26
銃	小銃	薬莢	スペンサー	西廊下	F88－60	Ⅲ	603			1		33
銃	小銃	薬莢	スペンサー	小広間	F89－60	Ⅲ	485			1		33
銃	小銃	薬莢	スペンサー	小広間	F89－61	Ⅲ	487			1	409	13
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F79－53	Ⅱ層下位	834			1		101
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F80－53	Ⅱ層下位	829			1		101
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F81－54	Ⅱ層下位	644			1		101
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F82－55	Ⅲ	691			1		33
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大御台所	F85－52	Ⅲ	145			1		33
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F81－56	Ⅲ	660			9		33
銃	小銃	薬莢	スナイドル	大広間	F81－55	Ⅲ	655			1		33
火砲	大砲	弾	四斤砲	長之間	F85－54	Ⅲ	454			2		34
火砲	大砲	弾	四斤砲	小広間	F89－60	Ⅲ	485			1		34
火砲	大砲	弾	四斤砲	御小姓部屋	F78－50	Ⅲ	309			1		34
火砲	大砲	弾	四斤砲	大広間	F79－62	Ⅲ	865			1		30
火砲	大砲	弾	臼砲	長局櫓	F71－46	Ⅲ	1051	20ドイム砲弾		1		123
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F77－54	Ⅱ層下位	472	不明	使用１ピンのみ	1		102
火砲	大砲	摩擦管		大台所	F85－52	Ⅱ層下位	812	Ｉ字形	使用１	1		102
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F81－53	Ⅱ層下位	826	Ｉ字形	使用２、未使用１	3		102
火砲	大砲	摩擦管		御小姓部屋	F79－52	Ⅱ層下位	833	Ｌ字形	使用１	1		102
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F84－54	Ⅲ	35	不明	不明２	2		98
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F84－54	Ⅲ	22	Ｉ字形	使用１	1		98
火砲	大砲	摩擦管		長之間	F85－54	Ⅲ	454	Ｉ字形	使用４、未使用１	5	2	30・34
火砲	大砲	摩擦管		小広間	F89－58	Ⅲ	479	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		小広間	F89－59	Ⅲ	483	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		小広間	F89－61	Ⅲ	487	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		小広間	F91－61	Ⅲ	504	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		西廊下	F88－60	Ⅲ	603	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F84－53	Ⅲ	815	Ｉ字形	使用１	1		34
火砲	大砲	摩擦管		御小姓部屋	F80－52	Ⅲ	832	Ｉ字形	使用２	2		34
火砲	大砲	摩擦管		御小姓部屋	F79－52	Ⅲ	842	Ｌ字形	使用１	1	368	26
火砲	大砲	摩擦管		大広間	F80－61	Ⅲ	54	Ｉ字形	使用１	1		98
火砲	大砲	摩擦管		長局御櫓	F73－46	Ⅲ	1046	Ｉ字形	使用１	1	1040	123

F88－60グリッドから１点、F89－58・59・61グリッドからそれぞれ１点ずつ出土している。加えてＦ73－46グリッドから１点出土している。これを平面観察してみると、小広間北西部分、長之間北側、大広間東側あるいは御小姓部屋西側、長局御櫓の４ヶ所に集中部分を見て取れる。西南戦争直後に作成された戦力配置状況を記録した「両軍配備図」[2)]からは、本丸部分は御裏五階平櫓部分と長局御櫓部分（F67～74－45～48グリッド）に砲台の印がある。しかし長局御櫓Ⅲ層出土の摩擦管は１点のみである。この事からも配備図には記されていない砲台の設置や、大砲の砲撃が想定される。

《参考文献》

日本史籍協会　『熊本鎭臺戰闘日記』　東京大学出版会　1977
荒木精之編著　『写真の先駆者　冨重利平』　冨重利平作品集刊行会　1977
花立三郎「熊本城のドン復活」　『新熊本市史　通史編第７巻　近代Ⅲ』　熊本市　2003
玉東町教育委員会『玉東町西南戦争遺跡』　玉東町文化財調査報告第８集　2012
村田眞理「熊本城の記憶Scene２　熊本城のドン」『熊本城』（複刊第九十五号）熊本城顕彰会　2014
熊本市熊本城調査研究センター『熊本城発掘調査報告１―飯田丸の調査―』熊本城調査研究センター報告書第１集　2014

〔註〕

１）熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室文化財保護主幹中原幹彦氏のご教示による。

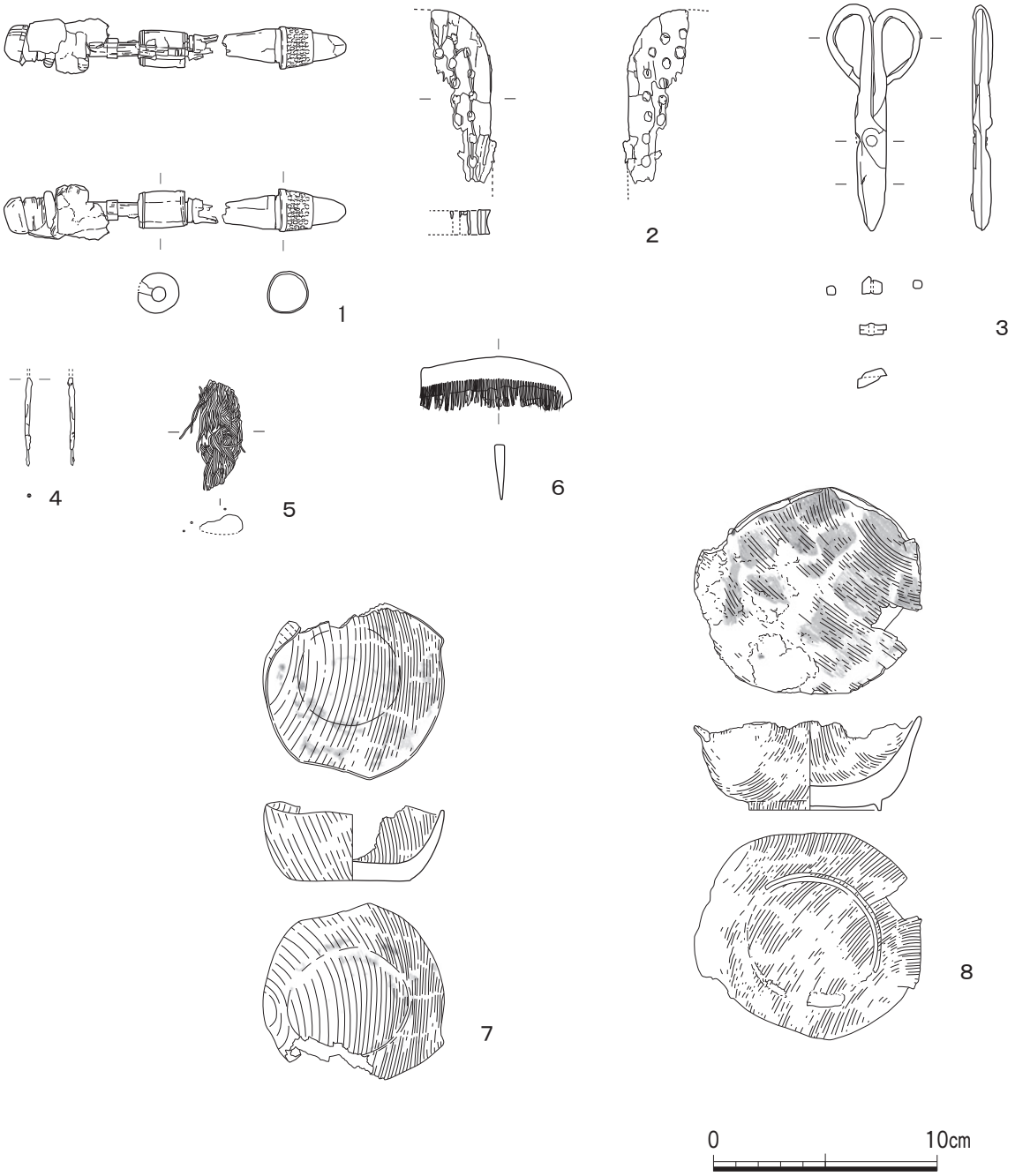
２）熊本市熊本城調査研究センター『熊本城発掘調査報告１―飯田丸の調査―』2014　284頁　第169図参照。

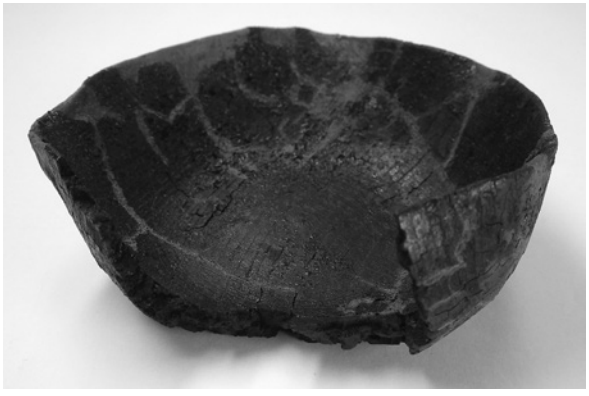
６．有機質製品（第370・371図）

今回の調査では、Ⅲ層を中心に有機質の遺物が出土している。多くは炭化した状態である。１～６はF81－56グリッドで出土した携帯用の裁縫セットである。折り重なった炭化材の中からそれぞれの長軸を揃えて密着して出土しており、本来は何らかの容器に入れられていた可能性が高い。大広間内にあったものが落下してきたものであろう。１は針入れを兼ねた糸巻きである。復元全長は15.3㎝で最大径は1.8㎝。本体は木製で、先端の膨らんだ部分が空洞であり、中に針を収納することができる。この膨らんだ部分には金属製の指貫がはまっている。膨らんだ部分の反対側は円板に芯を通して連ねており、ここに糸を巻いて使用する。巻いていた糸が一部炭化して残存していた。この製品は現在も同様のものが流通している。２はブラシと思われる。先端の一部が残存しており、毛の部分は焼失している。３は洋鋏。全長は10㎝。４は針と思われる細長い金属製品である。１の周辺で２～３本出土している。本来は１の中に収納した状態であったと思われる。５は糸。右撚りのようである。６は櫛。残存長は6.8㎝。平面半月形を呈していたものと思われる。装飾等は確認できていない。７・８は木製の椀。内外器面に赤色の着色がみられる。８は麒麟之間から出土した。薄い高台が付いている。９は「九曜之間下御門」から出土した門扉の下框である。南側の扉材で、四隅を八双金物で挟み込んでいる。図の左側が北を向いて出土した。扉の合わせ目になり、左端に縦框の部材がみられる。厚さは最大で約９㎝。右側は、八双金物の両端に縦方向の部材が残存しているが、八双金物を固定した鋲の位置からは、この間にも本来木質があったはずである。八双金物は、最大のもので残存長34㎝。先端が残存しているものは剣菱形に加工されているが、他のものは端部が曖昧である。２枚をつないだものもあり、八双金物として製作したものではなく、板金物を八双金物として使用したことが伺える。北側が鋲を上下揃えているのに対し、南側はばらついている。材の形態に起因するものか。この炭化材周辺にも門金具が多数出土している。10はゴザまたは畳の表面である。闇り通路からは、畳床の可能性のある炭化した繊維が出土したが、畳表はほとんどみられなかった。11はワラジ。長局御櫓から出土した。この他にもムシロやナワも出土している（付編２参照）。12は闇り通路から出土した炭化材。天井竿の一部と思われる。現存法量は高さ14㎝、幅9.5㎝。いわゆる猿頬の刳り込みがみられ、広間の天井が猿頬の竿縁であったことがわかる資料である。刳り込みは、上幅が７㎝、下幅4.7㎝、高さ５㎝。焼失時に大広間から落下した上、現代の配管工事で撹乱された部分から出土したものであり、大広間内での使用部位を限定するのは困難である。この他にも闇り通路出土の炭化材の中に、四方転びの踏み台や建具と思われるものが含まれている。また、何らかのものを貯蔵していたと思われる樽状の製品も、闇り通路の四ツ辻東に並べられていた。13は布。布の分析結果は付編３に掲載している。闇り通路の焼土中から多く出土した。特に集中した場所はないが、素材と思われる布の塊がF81－52グリッドのⅢ層から出土している。布は大半が綾織の木綿で、編物もわずかに出土している。素材と製品があるようだが、具体的な製品の復元はできていない。闇り通路の炭化材の中にはリノニウムもわずかに含まれていた。紙もわずかにみられたが、出土状態を維持して取り上げることはできなかった。

製品ではないが、注目される有機質遺物として炭化米がある。詳細な分析は付編に譲るが、炭化米については焼失理由の根拠に挙げられている。今回の調査では、調査区内の各所から炭化米の出土がみられたが、まとまった量が集中する箇所はない。塊状炭化物として出土したものもあるが、現状では炊飯後と生米との区別ができない。Ⅲ層だけではなく、Ⅱ層からも出土しており、焼失時に各所で炊飯等が行われていた可能性がある。

なお、出土した炭化材の樹種同定を行っている。同定結果については機会を改めて報告する。

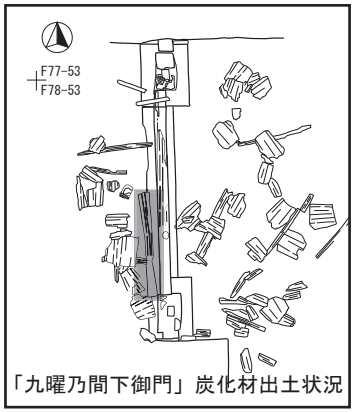


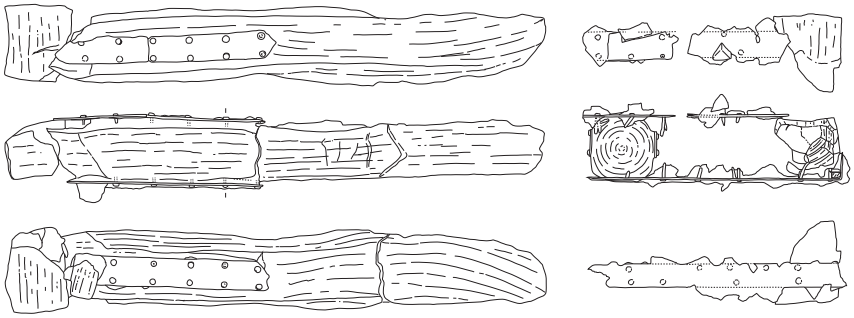


7

8

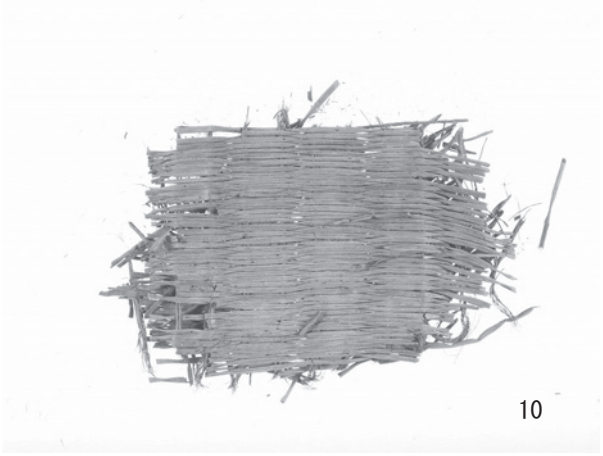
第370図　遺物実測図等　有機質製品 1



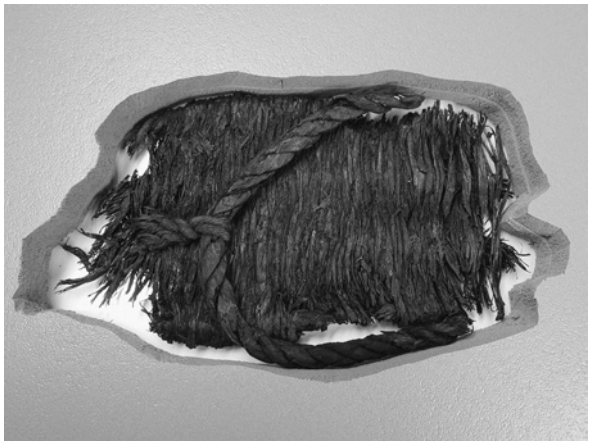


9

0 50cm

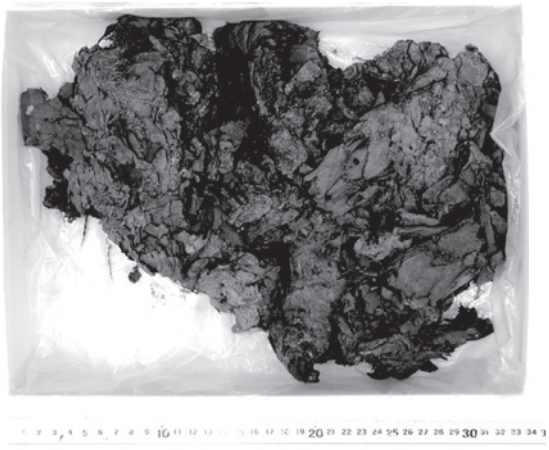


10



11

12



13

第371図　遺物実測図等　有機質製品 2

７．ガラス製品（容器）（第372～375図，第25表）

個々の資料の報告は、観察表（第25表）をもって記し、本文中では補足を行なうこととする。なお、器種（形態）の名称は、主に桜井準也氏の成果に従っている[1)]。

報告の順序は、出土位置を優先し、大区画ごとに、遺構→Ⅲ層→Ⅳ層→Ⅰ・Ⅱ層→その他、の順とする。

出土属性・被熱状況からみた年代比定

Ⅲ層は本丸御殿（鎮台本営）焼失に伴う焼土等を多量に含んでおり、焼失時の埋没土、あるいは焼失から間も無い時期の整地層と判断され、絶対年代を判断するうえでの鍵層と捉えられるものである。Ⅳ層は焼失前の埋没土である。なお、Ⅰ・Ⅱ層出土資料のうち、明らかに被熱したものについては、Ⅲ層出土資料と同等に扱っている。それは、これらの被熱の原因が本丸御殿焼失によるものである可能性が極めて高いため、その後の土地利用の過程により原位置を保ってはいないものの、本来はⅢ層に帰属すべき、すなわち、時間属性においてⅢ層出土資料と同等に扱うべき資料と判断したためである。

被熱の有無は以下の条件により認定している。①明らかに変形する。②表面が溶ける。③細かい皺・へたりが認められる。④表面が爛れ、光沢感が失われる。⑤銀化が顕著である。⑤明らかな変色が認められる。以上の要素のうち、特に①～④を重視し、これらを確認することにより、土中に埋没していたための汚れ・腐食などと弁別ができるものと考える。個々の資料について、被熱を認定したものは観察表の「被熱」の欄に○印を記している。

上記および型式的位置付けから、以下の資料を本丸御殿（鎮台本営）焼失以前の産品と捉える。

薬瓶：25・50ａ・51　　薬瓶共栓：44～49・50ｂ　　インク瓶：４・５・30　　インク瓶？：６

ワイン瓶：７・29・33・35　　洋酒瓶：８～10・34　　脚付坏：11

栓の形態想定

容器の栓の形態については可能な限り観察表に記している。栓には紙栓・木栓・機械栓・共栓（ガラス栓）・コルク栓・スクリュー栓・王冠栓等があるが、本報告資料については後四者が想定される。スクリュー栓・王冠栓については身の口縁部形状から想定が容易であるが、コルク栓か共栓かの弁別は、以下の観点によっている。すなわち、４・56のように身の内面口頸部に横方向の細かい擦痕を施し、磨りガラス状に加工したものを共栓と判断し（栓の着脱を容易にするための措置）、同じ箇所が他の部位と同様に滑らかなものをコルク栓と想定している。このことは栓についても同様で、薬瓶共栓44・45・47～50の軸部側面には、成形後、回転調整により施した細かい擦痕が認められる。

成形技法の観察

型成形の製品においては、金型の合せ目の痕跡、すなわちバリの有無が技法の痕跡を明瞭に示すものとなる。観察表では、バリを確認したものについて、その方向を記している。多くの場合、180度回転した対称位置２箇所に縦方向のバリが認められる。食品瓶・サイダー瓶などのように、口縁部と頸部との境に明瞭な屈曲（段差）があるものについては、縦方向のバリに加えて、屈曲部の直下に横方向のバリも認められ、口縁部と頸部以下とで金型が分かれていたことを示している。

バリは認められないものの、６・30のように胴部横断面が多角形を呈し、器壁が薄いものは型吹き技法と判断される。型の中に溶けたガラスを吹き込んで外形を型の内形に合わせる成形法であり、近代初期のガラス容器生産において最も一般的な技法とされる[2)]。他、この型吹き技法の痕跡を示すものが薬瓶共栓47・48・50である。中実品ではあるが、軸底部中央に小孔が認められ、これは底部側から溶けたガラスを型に吹き込む際、小孔の体積分だけガラス素材が不足していたためにできたものと考えられる。

西洋のガラス容器

Ⅲ・Ⅳ層出土品で、ワイン瓶などの洋酒瓶、インク瓶、脚付坏などは西欧からの輸入品と考えられる。このうち、生産国・年代が特定できるのがインク瓶４である。外底に円形と菱形を組み合わせた形のエン

ボスの登録商標（REGISTRATION MARK）が認められ、この形状の登録商標は1842～83年のイギリス製品において特許登録済みを示し、最初の3年間の特許権侵害を防ぐために付されたものという[3)]。本資料は表面が溶けているため判読が難しいが、菱形区画内の下端に個口番号「6」が認められ、この番号配列から1842～67年製と判断される。インク瓶5についても、4と同じ色調・器形（船形）であることと、外底のエンボスの意匠・文字「IMPERIAL」からイギリス製の可能性が高いとみている。ともにⅢ層出土で、被熱していることから、明治10年（1877）の焼失時には本丸御殿（鎮台本営）に存在していたと判断される。この時期にはインクは国産化されておらず、輸入に頼っていたことから上記の内容は補足できる。同様のことから、インク瓶30も西欧からの輸入品と考えられる。底部八角形のフラスコ状の器形を呈するもので、同形態品が出島和蘭商館跡から出土しており、イギリスあるいはアメリカにおいて1840～55年に製造されたものと報告されている[4)]。

〔註〕

1）桜井準也『ガラス瓶の考古学』六一書房　2006

2）註文献1に同じ。

3）東京都埋蔵文化財センター『東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集　汐留遺跡Ⅲ－旧汐留貨物駅跡地内の調査－　第6分冊』2003

4）岡　泰正「出島・食卓の情景－平成9・10年度の発掘におけるヨーロッパ陶器・ガラス器をめぐって－」『国指定史跡　出島和蘭商館跡』長崎市教育委員会　2002

被熱による顕著な変形・皺　被熱による顕著な変色・皺　被熱による歪みでずれた接合面

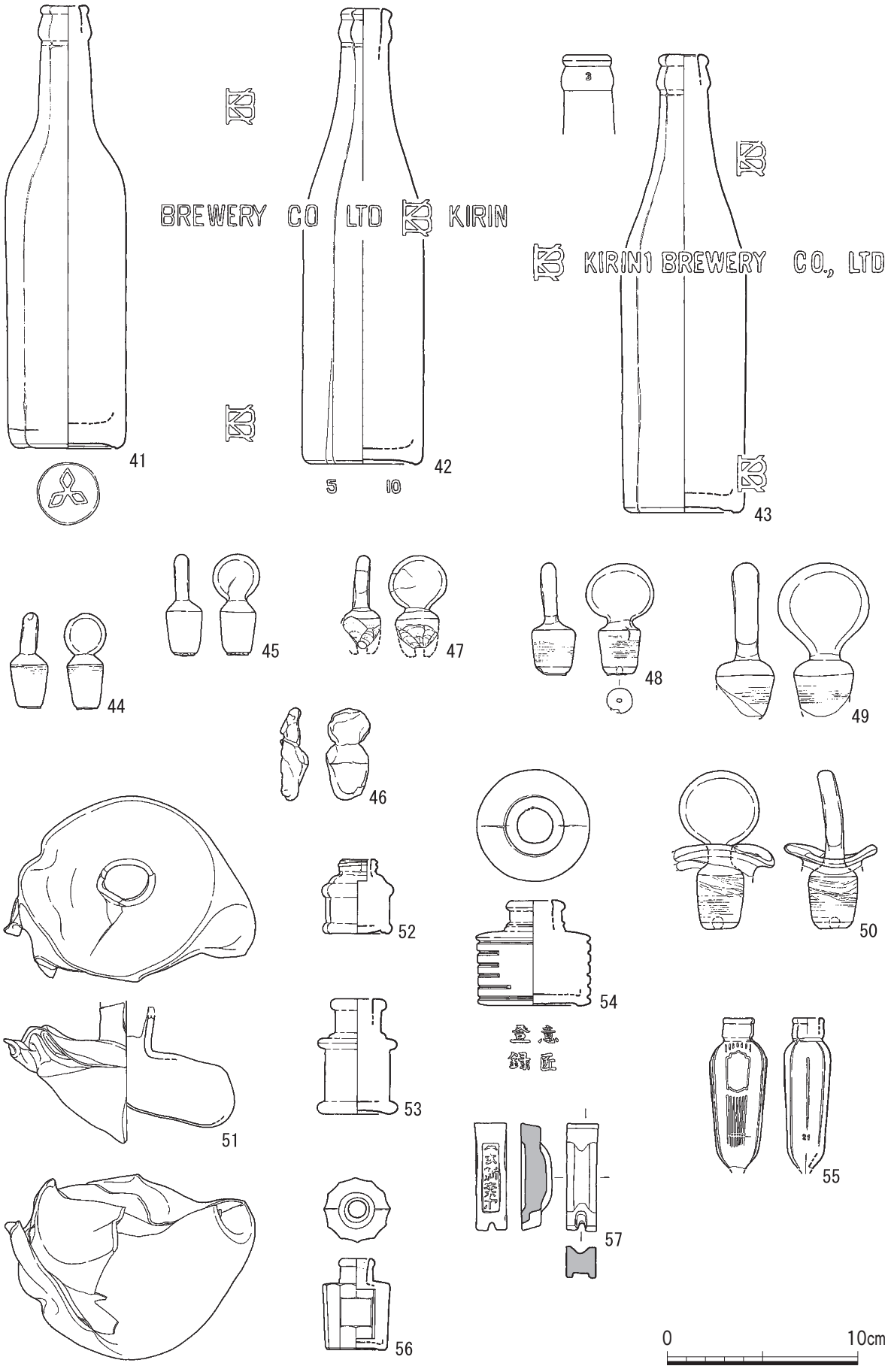
被熱による顕著な変形・白濁化　被熱による顕著な銀化　内面口頸部の磨りガラス加工

共栓軸部の磨りガラス加工　縦横方向のバリ　共栓軸底部にみる小孔

第372図　ガラス製品観察属性写真

第373図　ガラス製品実測図１（１／２・１／３）

第374図　ガラス製品実測図２（１／２・１／３）



第375図　ガラス製品実測図３（１／３）

第25表　ガラス製品観察表 (1)

図－No.	実測No.	区画	出土位置	種　類	計測値,単位cm･括弧内推定値	色　調	備　考	被熱
373－1	57	大広間	SXⅢ054	薬品瓶	口径1.5，高8.8，底部3.8×2.8	青緑色	横断面隅丸方形。コルク栓。胴部正面エンボス「○芳香ヒマシ油」、胴部側面に目盛。縦のバリ認める。	
－ 2	3	大広間	SXⅢ053	化粧瓶	口径1.3，高9.3，底部3.6×2.0	暗青色	横断面長方形。コルク栓。胴部広坦面は緩やかに窪み・小円突起あり。縦のバリ認める。	
－ 3	36	大広間	SXⅠ006	サイダー瓶	口径1.9，高20.6，底径4.8	淡オリーブ色	王冠栓。エンボスは胴部上位「ダイヤモンド印 登録 （標章） 商標」・胴部下位「（標章） 株式會社布引礦泉所製造」、外底部にダイヤモンド形の標章。ダイヤモンドレモン瓶（1914年～）。縦横のバリ認める。	
－ 4	43	大広間	F83-54，Ⅲ層	インク瓶	口径（1.4），高5.5，底部4.8×3.7	明緑色	イギリス製。舟形。共栓（口頸部内面は磨りガラス状）。底部エンボスは菱形のREGISTRATION MARK（登録商標）、菱形の下に「６」（1842～67年製）。縦のバリ認める。	○
－ 5	40	大広間	F83-54，Ⅲ層	インク瓶	口径（1.6），高5.8，底径5.0×3.8	明緑色	イギリス製？。舟形。気泡目立つ。底部エンボスは徽章形の意匠内に「IMPERIAL」。縦のバリ認める。	○
－ 6	45	大広間	F83-56，Ⅲ層	インク瓶？	底部（平行する辺間）4.3	明青緑色	型吹き成形、胴部八角柱形。外側面に横波方向の細かい筋認める。	
－ 7	53	大広間	F80-62，Ⅲ層	ワイン瓶	計測不可	オリーブ黒色	西欧製。ポート型？（頸部太め・中膨らみ）。被熱による変形・爛れ著しい。	○
－ 8	54	大広間	F81-56，Ⅰ層	洋酒瓶	底径6.7～7.8	オリーブ灰色～青緑色	西欧製。被熱による変色・変形・爛れ著しい。	○
－ 9	33	大広間	F82-58，Ⅲ層	洋酒瓶	底径2.1	暗オリーブ色	西欧製。小形のワイン瓶？。キックは外底側の刳り無し。	○
－10	17	大広間	F81-58，Ⅲ層	洋酒瓶	底部8.5×4.6	明緑色（失透質）	西欧製。角形。表面艶無し（被熱による？）。底部エンボス「392」。側面に縦のバリ認める（部分的）。	○
－11	59	大広間	F83-55，Ⅳ層	脚付坏	脚底径5.0	半透明	西欧製。リキュールグラス形。西欧製。脚部に2段（現状）の突帯。銀化。	
－12	41	大広間	F82-54，Ⅰ層	薬品瓶	口径1.8，高6.0，底径2.2	暗オリーブ色	コルク栓。肩部に小列点。エンボスは胴部下位「↑」、底部「20」・縦方向のバリ認める。	
－13	42	大広間	F83-58，Ⅰ層	薬品瓶	口径1.7，高5.5，底径2.1	透明	コルク栓。縦方向のバリ認める。	
－14	23	大広間	F84-59，Ⅰ層	薬品瓶？	底径2.4	藍色	底部エンボスは山「ヨ」。縦のバリ認める。	
－15	5	大広間	F78-55，Ⅰ層	化粧瓶	口径5.7，高5.6，底径5.6	青緑色	円筒形。スクリュー栓。気泡目立つ。型と製品の間の紐状挟雑物圧痕認める。	
－16	39	大広間	F80-64，Ⅰ層	ウィスキー瓶	口径2.0，高19.0，底径6.1×3.1	褐色	横断面楕円形。スクリュー栓。大黒葡萄酒株式会社、1946～62年製。エンボスは胴部正面「OCEAN （標章） DAIKOKU BUDOSHU CO,LTD. TOKYO OSAKA」、底部「3□ （標章） 1」。縦横のバリ認める。	
－17	4	大広間	F78-55，Ⅰ層	食品瓶	口径4.1，高10.1，底径4.3	青緑色	広口。縦横のバリ認める。外底は型がずれる。	
－18	20	大広間	F80-59，Ⅰ層	食品瓶	口径4.0，高10.1，底径4.4	青緑色	広口。縦横のバリ認める。外底は型がずれる。	
－19	50	大広間	F82-57，Ⅰ層	ビー玉	径1.70	明灰青色	微気泡目立つ。渦状の細かい筋あり。一部に細かい表面荒れあり。	
－20	51	大広間	F82-57，Ⅰ層	ビー玉	径1.83	青緑色	微気泡目立つ。渦状の細かい筋あり。一部に細かい表面荒れあり。	
374－21	15	大広間	石垣解体時採集	薬品瓶	口径1.8，高20.0，底径6．8	淡い青緑色	細頸。コルク栓。下位に大きめの気泡目立つ。口縁～胴部に横方向の細かい筋認める。外底一方向の静止ナデ調整。	
－22	6	小姓部屋	SXⅢ058	薬品瓶	口径2.0，高9.2，底径3.6	淡い緑色	やや広口。コルク栓。縦横のバリ認める（頸部のバリ交差部隆起）。	
－23	1	小姓部屋	SXⅢ057	ビー玉	径1.73	青緑色		
－24	2	小姓部屋	F80-50，Ⅱ層	整髪料瓶	口径1.7，高5.6，底径3.6	透明	コルク栓。エンボスは肩部「サハラ香油」、底部「4」。縦のバリ認める。	
－25	56	長之間	F85-54，Ⅲ層	薬瓶	口径2.6，高5.0，底径2.5	透明	被熱により銀化・白色化著しい。	○
－26	25	長之間	F74-47，Ⅰ層	インク瓶	口径1.5，高4.6，底径3.2	淡い青緑色	スクリュー栓。底部エンボス「６」。縦のバリ認める。外底は型がずれる。	
－26	25	長之間	F74-47，Ⅰ層	インク瓶蓋	口径2.4，高1.1		黒色。プラスチック製？。エンボス「NISSAN ニッサン INK」。	
－27	21	長之間	F87-54，Ⅰ層	ニッキ水瓶	底径2.2	淡い青緑色	瓢箪形。微気泡目立つ。外器面の図ドットは細かい凸凹。縦のバリ認める。	
－28	14	露地	SBⅢ003	インク瓶	口径1.8，高6.5，底径4.9	透明	コルク栓。微気泡目立つ。縦のバリ認める。	
－29	52	露地	SXⅡ002	ワイン瓶	口径2.4，高24.5，底径6.4	オリーブ黒色	西欧製。ボルドー型。コルク栓。被熱により表面艶無し、皺顕著。	○

第25表　ガラス製品観察表　(2)

図－No.	実測No.	区画	出土位置	種　類	計測値, 単位cm・括弧内推定値	色　調	備　考	被熱
374－30	44	露地	F83-55，Ⅲ層	インク瓶	底部（平行する辺間）5.5	透明	西欧製。型吹き成形。フラスコ形（底部八角形）。外底に渦状の細かい筋認める。	○
－31	38	露地	F86-60，Ⅰ層	食品瓶	口径4.8，高10.8，底径5.5	暗緑色	広口。底部エンボスは平行する３本の短線。縦横のバリ認める。	
－32	37	西廊下	SKⅡ002	インク瓶	口径2.1，高6.7，底径4.6	明青緑色	コルク栓。底部エンボス「R□CHTINK101INJAPAN」。縦のバリ認める。外底は型がずれる。	
－33	47	小広間	F89-60，Ⅰ層	ワイン瓶	計測不可	オリーブ黒色	西欧製。コルク栓。被熱による変形・爛れ著しい。	○
－34	46	小広間	F89-60，Ⅲ層	洋酒瓶	計測不可	黒褐色	西欧製。被熱による変形・爛れ著しい。	○
－35	48	小広間	F89-60，Ⅰ層	ワイン瓶	底径7.0～7.3	オリーブ黒色	西欧製。キック深い。被熱による変形・爛れ著しい。	○
－36	55	小広間	F89-60，Ⅰ層	薬品瓶	口径1.8，高8.0，底径3.6	透明	細頸。コルク栓。底部エンボスは３個の丸内「チ」。頸～肩部に縦のバリ認める。頸部上位にタール状付着物あり。	
－37	22	小広間	F91-54，Ⅰ層	食品瓶	口径4.2，高10.1，底径4.8	暗緑色	広口。縦横のバリ認める。	
－38	49	小広間	Dトレンチ，Ⅰ層	ビー玉	径1.67	暗青緑色	微気泡目立つ。渦状の細かい筋認める。	
－39	29	小広間	F91-57，Ⅰ層	ビー玉	径1.73	青緑色	上位の皺は絞りながら切り離した痕跡か。	
－40	32	長局御櫓	SXⅢ075	インク瓶	口径1.4，高4.2，底径3.2	青緑色	スクリュー栓。微気泡目立つ。縦のバリ認める。内壁に紺色のインク付着。	
375－41	34	長局御櫓	SXⅢ075	サイダー瓶？	口径1.7，高23.4，底径5.2	オリーブ色	王冠栓。外底エンボスは丸内に三菱の標章。縦横のバリ認める。	
－42	27	長局御櫓	SXⅢ075	サイダー瓶	口径1.8，高24.1，底径5.5	透明	王冠栓。エンボスは胴部「（標章）KIRINBREWERYCO，LTD」、底部「5　10」。縦横のバリ認める。	
－43	35	長局御櫓	SXⅢ075	サイダー瓶	口径1.8，高24.2，底径5.7	透明	王冠栓。エンボスは胴部「（標章）KIRIN1BREWERYCO，LTD」、口縁部「3」。縦横のバリ認める。	
－44	11	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	高5.1，摘み幅2.1・厚0.8，軸最大径1.9・底径1.1	摘み透明，軸半透明	軸部は回転調整（磨りガラス）。	○
－45	10	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	高5.3，摘み幅2.5・厚0.8，軸最大径1.9・底径1.1	摘み透明，軸半透明	軸底部の縁辺は細かい打裂により整形。軸部は回転調整（磨りガラス）。	○
－46	13	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	計測不可	白色	被熱により変形・銀化著しい。	○
－47	18	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	摘み幅3.0・厚0.8，軸最大径2.3	摘み透明・軸半透明	型吹き（底部にガラスの不足分の小孔）。軸部は回転調整（磨りガラス）。軸部二次加工（同方向・６回の打ち欠き）。	○
－48	12	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	高5.9，摘み幅3.6・厚0.8，軸最大径2.3・底径1.3	摘み透明，軸部半透明	型吹き（底部にガラスの不足分の小孔）。軸部は回転調整（磨りガラス）。	○
－49	9	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	摘み幅4.9・厚1.4，軸最大径3.1	摘み透明・軸半透明	軸部は回転調整（磨りガラス）。	○
－50 a	58	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶	計測不可	半透明	口縁部のみ。変形著しい。	○
－50 b	58	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶共栓	高8.4，摘み幅4.2・厚0.9，軸最大径2.5・底径1.4	摘み透明・軸半透明	型吹き（底部にガラスの不足分の小孔）。軸部は回転調整（磨りガラス）。	○
－51	19	長局御櫓	F71-45，Ⅲ層	薬瓶	計測不可	半透明	共栓（頸部内面は磨りガラス状）。被熱による変形著しい（本来は円筒形・いかり肩・細頸）。	○
－52	16	長局御櫓	F71-46，Ⅰ層	インク瓶	口径1.4，高3.9，底径3.1	暗青緑色	スクリュー栓。微気泡目立つ。縦のバリ認める。	
－53	30	長局御櫓	F74-47，Ⅰ層	インク瓶	口径1.6，高6.1，底径3.5	透明	コルク栓。外側面に細かい横筋認める。	
－54	24	長局御櫓	F74-46，Ⅰ層	インク瓶？	口径1.9，高5.6，底径5.4	透明	あるいは墨汁瓶か。コルク栓。胴部横沈線（ラベル貼付箇所は平滑）。底部エンボス「意匠登録」。縦のバリ認める。	
－55	28	長局御櫓	F74-47，Ⅰ層	目薬瓶	上面口径1.3	青緑色	スポイト一体型。コルク栓。正面に花灯形の浅い刳り込み（ラベル貼付箇所）。側面エンボス「21」。縦横のバリ認める。	
－56	31	長局御櫓	F71-47，Ⅰ層	インク瓶？	口径1.3，高4.8，底径2.9～3.1	透明	胴部横断面十二角形。共栓、口頸部内面に横位の細かい擦痕（磨りガラス状）。正面に浅い刳り込み（ラベル貼付箇所）。頸～肩部に縦のバリ認める。	
－57	26	長局御櫓	F74-46，Ⅰ層	不明	長5.7，幅1.6，高1.6	藍色	型成形。エンボスは底部窪みに「□式新案□」（１字目は富士山の意匠？）。	

8．板（窓）ガラス（第376・377図，第26表）

本調査区からは、窓ガラスとみられる板ガラス片が多量に出土している。これらは、焼失以前、本丸御殿が鎮台本営として利用されていた時期に、御殿を改装してガラス窓が取り付けられていたことを示すものである。以下の理由による。①明治10年（1877）２月19日の本丸御殿焼失に伴う土層（Ⅲ層）から多量に出土する。②建物の縁辺に沿って多く出土し、Ｆ85-60グリッドにおいては火災によって倒れたガラス窓の一部が、ほぼ原形の状態で検出されている。③被熱したものが多い。

ガラスの質は、肉眼観察によれば、色調は僅かに緑色を帯びた透明で、気泡は認められず、表面は平坦である（波打っていない）。所謂フロートガラスである。平面形・大きさは、全て破片資料のために不明であるが、Ｆ85-60グリッド検出の倒れたガラス窓の出土状況をみると、桟の間隔が約27㎝×40㎝以上で、これについて大体の形状を想定することができる。厚さは以下の計測方法により求めている。

①被熱による明らかな変形が無いものを対象とする。②時期属性が明確なⅢ層出土資料を対象とする。③破片数が膨大であるためサンプリングした200点について計測する。④出土位置が偏らないよう配慮する。⑤計測値のうち、集中する値から極端に外れるものを除外したうえで平均値を求める。

以上に基づく計測の結果、板ガラスの厚さは一律ではなく、1.4～3.2㎜と幅があり、殆どが1.6～2.4㎜に集中し、その平均値は1.98㎜である。一つの破片でも計測箇所によって約0.2㎜の差があるものも認められ、これは、当時、均等な厚さの板ガラスを製造する技術が未発達であったためと想定される。なお、出土位置による厚さの違いは認められなかった。

個々の実測図・観察表の作成は行なっていないが、本丸御殿（鎮台本営）焼失時に取り付けてあったガラス窓の位置復元を目的として、出土位置ごとの重量を集計した（第26表）。計測・集計の対象・方法は以下の通りである。

①主にグリッド単位で取り上げたものを対象とする。②Ⅰ～Ⅲ層出土資料を対象とし、Ⅰ・Ⅱ層（御殿焼失後の表土）とⅢ層（御殿焼失に伴う土層）とを分けて扱う。③遺構出土資料は、出土量が少ないこと、原位置を動いている可能性もあり、復元を行なううえであまり有効ではないことから原則扱わない。ただし、雨落ち溝SDⅡ001・SDⅢ027など、出土状況から焼失・倒壊時に多量のガラス片が落ち込んだことが明らかな遺構資料については例外的に扱う。④明らかな被熱資料は御殿焼失によるものである可能性が極めて高いため、そうではないものと分けて扱う。第26表では明らかな比熱資料を○、そうでないものを×としている。⑤上記のように分けた各計測値を合計し、出土位置ごとの重量とする。ただし、Ⅰ・Ⅱ層出土のうち明らかな被熱資料でないものは、焼失後に持ち込まれた可能性も否定できないため、出土位置ごとの重量合計の対象から除外する。

なお、上記にて明らかな比熱資料としたものは、以下の観察により認定している。

①明らかに変形する（少々の歪みは無視する）。②表面の白濁が顕著である。③溶着物が認められる。④表面が発泡する。これらのうち、①・②は普遍的に認められるものである。

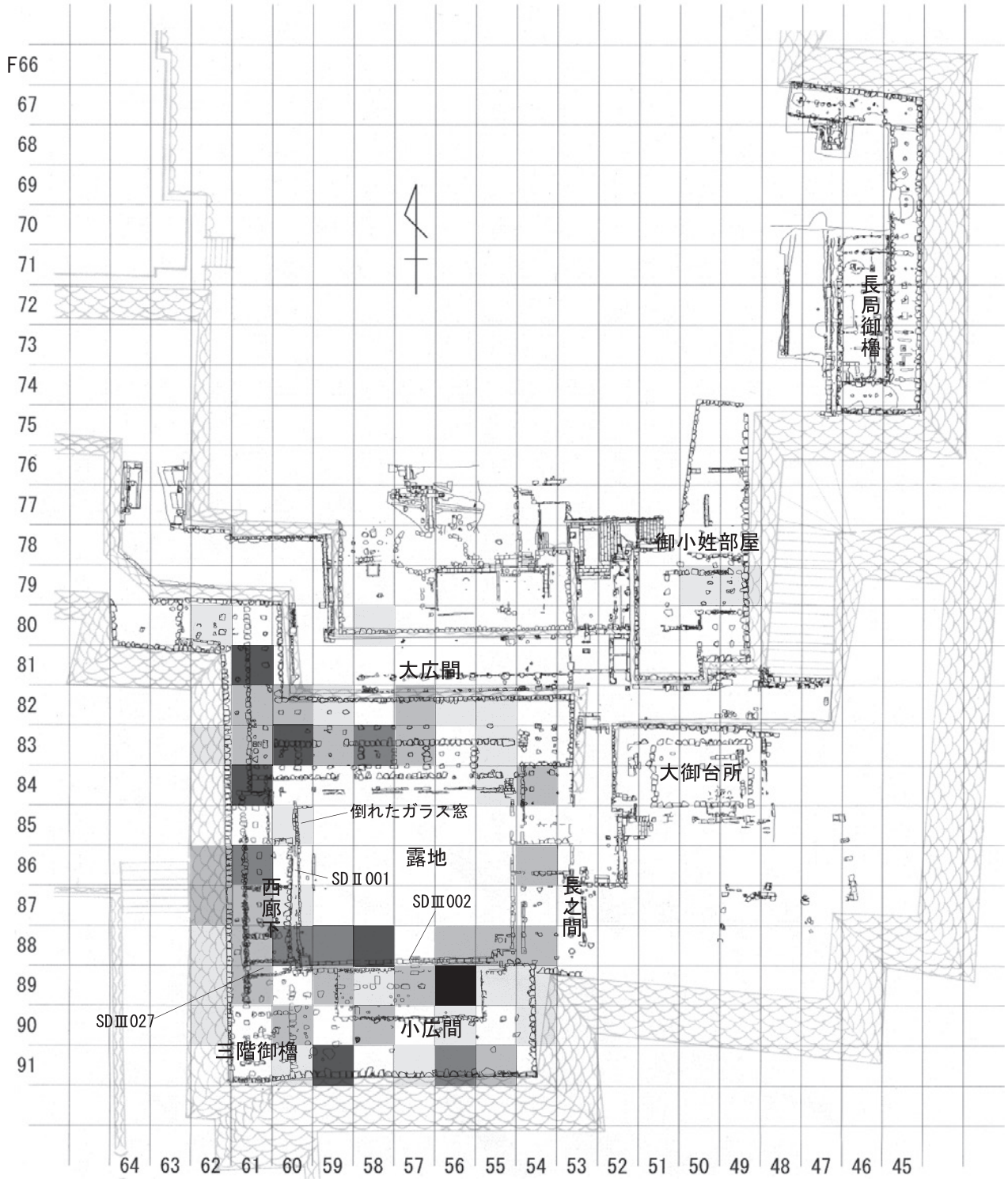
以上の基準により作成した第26表と、これを可視化させた第376図によれば、以下の場所（建物の壁）にガラス窓が取り付けてあった可能性が高いといえる。

大広間：西辺（Ｆ81-62～Ｆ84-62グリッド）、座敷「松之間・桐之間・櫻之間」と縁側廊下「椽ヶ輪」の境の仕切り（Ｆ83-60～Ｆ83-57グリッド）。

西廊下：西辺（Ｆ86-62～Ｆ89-62）、東辺（Ｆ85-60～Ｆ88-60）。

小広間：北辺（Ｆ88-55・56・58～60）、南辺（Ｆ91-55・56・59）。なお、小広間の南西側は三階御櫓が存在するが、この箇所においては取り付けていなかった可能性が高い。

以上の他、長之間西辺（Ｆ86-55グリッド）とこれに連続する麒麟之間西辺（Ｆ84-55グリッド）についてもガラス窓が取り付けてあった可能性を指摘することができる。御小姓部屋は、Ｆ79-50・49グリッド



SDⅡ001　SDⅢ002南脇　SDⅢ027

凡例

17000g以上　3000g～5000g未満　300g～1000g未満

5000g～8000g未満　1000g～3000g未満

第376図　各グリッド板ガラス出土分布図（縮尺任意）

において出土量がやや多いが、部分的でもあり不明瞭である。これについては、F79-50・49グリッドから北側のグリッドが削平により土層の残りが悪かったことが反映しているのかもしれない。

被熱した板ガラス

被熱痕跡が不明瞭な板ガラス

第377図　板ガラス写真

第26表　板ガラス出土位置・量集計表 (1)

大区画	グリッド	被熱	各出土量(g)		合計(g) ※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
大御台所	F81－47	×	5.2		124.8
		○	124.8		
大御台所	F81－48	×	15.8		0.0
大御台所	F82－51	×	4.7		0.0
大御台所	F82－51	○		13.6	13.6
大御台所	F82－52	×	4.9		0.0
大御台所	F82－52	○	20.6	1.2	21.8
大御台所	F83－49	○	1.9		1.9
大御台所	F83－50	×	3.1		0.0
大御台所	F84－49	×	4.5		0.0
大御台所	F84－50	○	6.3		6.3
大御台所	F84－53	○	17.9		17.9
大御台所	F85－49	×	11.4		0.0
大御台所	F85－50	×		6.1	11.1
		○	5.0		
大御台所	F85－51	×	1.5		0.0
大御台所	F85－52	○	47.4		47.4
大広間	F77－54	×	17.0		6.4
		○	13.3	31.1	
大広間	F78－53	○	6.4		6.4
大広間	F78－54	×	9.3		10.1
		○		0.8	
大広間	F78－55	×	1361.7		4.8
		○		4.8	
大広間	F78－58	×	3.5		0.0
大広間	F78－59	○	17.6		17.6
大広間	F79－53	○	11.9		11.9
大広間	F79－54	×	21.6		62.9
		○	62.9		
大広間	F79－55	×	33.2		0.0

大区画	グリッド	被熱	各出土量(g)		合計(g) ※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
大広間	F79－56	×	7.6		0.0
大広間	F79－57	×	9.3		19.0
		○	19.0		
大広間	F79－58	×	5.6		125.8
		○	125.8		
大広間	F79－59	×	3.1		0.0
大広間	F80－53	×	28.2	4.2	6.7
		○	2.5		
大広間	F80－54	×	31.8		0.0
大広間	F80－56	○	2.0		2.0
大広間	F80－57	×	2.0		40.2
		○	40.2		
大広間	F80－58	×	120.0	11.0	452.1
		○	441.1		
大広間	F80－59	×	42.8		38.8
		○	38.8		
大広間	F80－60	×		15.1	0.0
大広間	F80－61	×	1.7		8.6
		○	8.6		
大広間	F80－62	×		82.8	317.7
		○	2.8	232.1	
大広間	F80－63	○	28.9	1.8	30.7
大広間	F80－64	○		1.7	1.7
大広間	F81－53	×	47.6		6.4
		○	6.3	0.1	
大広間	F81－54	×	149.4	39.5	265.2
		○	225.7		
大広間	F81－55	×	9.5	8.0	260.6
		○	38.3	214.3	

第26表　板ガラス出土位置・量集計表 (2)

大区画	グリッド	被熱	各出土量(g)		合計(g) ※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
大広間	F81－56	×	24.0		219.9
		○	23.7	196.2	
大広間	F81－57	×		16.1	159.9
		○	49.8	94.0	
大広間	F81－58	×	0.8		25.1
		○		25.1	
大広間	F81－59	×		11.6	33.9
		○	13.5	8.8	
大広間	F81－60	○	20.4	23.6	44.0
大広間	F81－61	×	15.0		6573.9
		○	1483.9	5090.0	
大広間	F81－62	○	124.1		124.1
大広間	F82－53	×		7.5	113.5
		○		106.0	
大広間	F82－54	×		11.8	
大広間	F82－55	×	10.5	109.2	476.8
		○	147.2	220.4	
大広間	F82－56	×		1.3	368.5
		○	359.0	8.2	
大広間	F82－57	×	2.5		1037.6
		○	916.3	121.3	
大広間	F82－58	○	113.5		113.5
大広間	F82－59	×	22.3	13.5	750.4
		○	85.6	651.3	
大広間	F82－60	×	9.6		2033.6
		○	383.6	1650.0	
大広間	F82－61	×		11.3	2688.2
		○	2403.1	273.8	
大広間	F82－62	○	233.7	26.2	259.9
大広間	F83－54	○		3.5	3.5
大広間	F83－55	○	15.0	304.9	319.9
大広間	F83－56	○	294.8		294.8
大広間	F83－57	○	1148.2		1148.2
大広間	F83－58	○	3386.4	400.0	3786.4
大広間	F83－59	×	39.9		1172.5
		○	1172.5		
大広間	F83－60	○	6242.2	48.6	6290.8
大広間	F83－61	○	1281.5	133.0	1414.5
大広間	F83－62	○	486.9		486.9
大広間	F84－54	×	10.5	40.0	1614.7
		○	338.0	1236.7	
大広間	F84－55	×	10.8		469.9
		○	424.6	45.3	
大広間	F84－58	×	24.8		21.1
		○	21.1		
大広間	F84－60	○	30.6		30.6
大広間	F84－61	×	81.8	14.4	6267.2
		○	951.0	5301.8	
大広間	F84－62	○	5.8		5.8

大区画	グリッド	被熱	各出土量(g)		合計(g) ※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
御天守廊下	F73－62	×	15.2		0.0
御小姓部屋	F75－49	○	6.0		6.0
御小姓部屋	F75－50	×	2.2		43.9
		○	43.9		
御小姓部屋	F75－51	×	4.0		0.0
御小姓部屋	F76－50	○	56.2		56.2
御小姓部屋	F76－51	×	6.3		0.0
御小姓部屋	F77－49	○	52.5		52.5
御小姓部屋	F78－49	×		10.9	140.6
		○		129.7	
御小姓部屋	F78－50	×	317.1	3.2	123.3
		○	11.1	109	
御小姓部屋	F78－52	○	5.5	52.2	57.7
御小姓部屋	F79－49	×		48.9	523.4
		○	39.6	434.9	
御小姓部屋	F79－50	×	12.5	72.9	920.5
		○	811.2	36.4	
御小姓部屋	F79－51	○	53.6		53.6
御小姓部屋	F79－52	○	2.3	226.2	228.5
御小姓部屋	F80－49	×	1.2		0.0
御小姓部屋	F80－50	×	130.6		11.0
		○	11.0		
御小姓部屋	F80－51	×	29.7		0.0
御小姓部屋	F80－52	○	86.9		86.9
御小姓部屋	F81－50	○	3.9	3.0	6.9
御小姓部屋	F81－52	×	12.1		181.7
		○	73.0	108.7	
長之間	F85－54	×	10.6	2.5	8.7
		○	6.2		
長之間	F86－53	○		4.0	4.0
長之間	F86－54	×	67.4		1986.1
		○	1358.7	627.4	
長之間	F87－54	○		56.0	56.0
長之間	F87－55	○	4.2		4.2
長之間	F88－53	○	9.1		9.1
長之間	F88－54	○	1741.8	3.7	1745.5
露地	F85－58	○	12.6		12.6
露地	F85－59	×	14.6		7.3
		○	7.3		
露地	F85－60下	×	64.3		53.5
		○	53.5		
露地	F86－55	×	85.8		51.0
		○	51.0		
露地	F86－59	×	220.4		41.7
		○	41.7		
露地	F86－60下	×	75.8		8.8
		○	8.8		
露地	F87－58	×	0.8		0.0

第26表　板ガラス出土位置・量集計表 ⑶

大区画	グリッド	被熱	各出土量（g）		合計（g）※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
露地	F87－59	×	53.7		112.0
		○	112.0		
露地	F87－60下	○	83.4		83.4
露地	F88－55	×	63.4	113.2	2161.2
		○	1187.4	860.6	
露地	F88－56	×	1676.2	1550.0	2115.8
		○	422.6	143.2	
露地	F88－57	×	117.6	104.5	185.5
		○	56.0	25.0	
露地	F88－58	×	10.2	121.2	142.1
		○	0.8	20.1	
露地	F88－59	×	1139.3	1566.1	3187.7
		○	453.4	1168.2	
露地	F88・89－58	×		188.5	188.5
露地	F88－60下	×	146.3		88.2
		○	88.2		
小広間	F89・90－60	○	13.8		13.8
小広間	F89－54	○	385.3		385.3
小広間	F89－55	○	179.4	649.7	829.1
小広間	F89－56	×	92.6	3773.7	24503.7
		○	1760.2	18969.8	
小広間	F89－57	×	214.2	661.3	2124.2
		○	275.2	1187.7	
小広間	F89－58	×	1147.8	170.4	603.7
		○	372.6	60.7	
小広間	F89－59	×		3070.0	5330.2
		○		2260.2	
小広間	F89－59	×	275.0	550.7	2255.4
		○	568.6	1136.1	
小広間	F89－60	○	90.4	113.7	204.1
小広間	F89－61	×		84.4	1350.4
		○	38.0	1228.0	
小広間	F89－62	×	1.8		403.1
		○	403.1		
小広間	F90－54	×	93.0		966.1
		○	966.1		
小広間	F90－55	×	977.4		171.5
		○	171.5		
小広間	F90－56	×	7.0		939.5
		○	939.5		
小広間	F90－57	×	16.6		161.2
		○	36.7	124.5	
小広間	F90－58	×	427.3		1170.1
		○	929.1	241.0	
小広間	F90－59	○	269.3	5.3	274.6

大区画	グリッド	被熱	各出土量（g）		合計（g）※網部加算
			Ⅰ・Ⅱ層	Ⅲ層	
小広間	F90－60	×	10.9		1684.3
		○	4.4	1679.9	
小広間	F90－61	○	23.2		23.2
小広間	F90－62	○	793.7		793.7
小広間	F91－54	×	338.9	16.7	137.8
		○	121.1		
小広間	F91－55	×	644.7		2064.9
		○	2064.9		
小広間	F91－56	×	7.9		3070.1
		○	3070.1		
小広間	F91－57	×	46.6		519.7
		○	519.7		
小広間	F91－58	○	2482.9	762.7	3245.6
小広間	F91－59	○	7413.2	526.3	7939.5
小広間	F91－60	○	89.2	294.4	383.6
小広間	F91－61	×	2.0		263.3
		○	239.5	23.8	
小広間	F91－62	○		3.4	3.4
小広間・露地	F88・89－57	×		24.2	148.8
		○		124.6	
小広間北	SDⅢ002南脇	×		1379.2	2058.0
		○		678.8	
小広間北	SDⅢ027	×		461.0	1914.9
		○		1453.9	
西廊下	F85－60	×	4340.2		690.2
		○	690.2		
西廊下	F85－61	×	5.6		
		○	1386.4	94.1	
西廊下	F86－60	×	1535.0		226.4
		○	226.4		
西廊下	F86－61	×	48.1		4661.3
		○	1261.3	3400.0	
西廊下	F86－62	○	1117.6		1117.6
西廊下	F87－60	×	1382.1		791.2
		○	440.6	350.6	
西廊下	F87－61	×	2.7		1463.3
		○	1463.3		
西廊下	F87－62	○	1125.7		1125.7
西廊下	F88－60	×	274.4	3350.0	4583.5
		○	450.0	783.5	
西廊下	F88－61	×	1.4		2185.8
		○	1085.8	1100.0	
西廊下	F88－62	○	417.6		417.6
西廊下東	SDⅡ001	×		2.1	17512.5
		○		17510.4	

９．石製品（第378～388図，第27表）

個々の資料の報告は、原則、観察表（第27表）をもって記し、本文中では補足を行なうこととする。

出土属性・被熱状況からみた年代比定について

報告の順序は、出土位置を優先し、大区画ごとに、遺構→Ⅰ・Ⅱ層→Ⅲ層・床直→その他、の順とする。Ⅲ層は明治10年（1977）２月19日の本丸御殿（鎮台本営）焼失に伴う焼土等を多量に含んでおり、焼失時の埋没土、あるいは焼失から間も無い時期の整地土と判断され、絶対年代を判断するうえでの鍵層と捉えられる。なお、Ⅰ・Ⅱ層出土資料のうち、明らかに被熱したものは、Ⅲ層出土資料と一緒に扱っている。それは、後の土地利用の過程により原位置を保ってはいないものの、これらの被熱の原因が本丸御殿焼失によるものである可能性が極めて高いため、時間属性において同等に扱うべきと判断したためである。

被熱の有無は以下の条件により認定している。①明らかに変形する。②表面が発泡する。③溶着物が認められる。④堆積岩の場合、節理面から剥がれるような亀裂が顕著に認められ、表面の剥落が著しい。⑤滑石の場合、石材変質が顕著に認められる。⑥明らかな変色が認められる。以上の要素により、土中に埋没していたための汚れ・劣化などと弁別ができるものと考えている。個々の資料について、被熱を認定したものは観察表の「被熱」の欄に○印を記している。

砥石の使用痕

砥石の認定・使用形態の想定を行なううえでは、使用痕の観察が不可欠である。本報告では、使用痕の形態を下記のように分類し、観察表に記した。

ａ：細い条線状の擦痕。金属の刃を寝かせて研ぐことによって生じたもの。通常の使用法を反映したものである。ｂ：断面がＶ字形の溝。ａ類に比べて太く深い。金属の刃を立てて研ぐことによって生じたと考えられるもの。ｃ：断面がＵ字形の凹線。金属製品の曲面を研ぐことによって生じたと考えられるもの。上記の形状の使用痕が、平坦面ではなく、立方形の縁辺・角や、複数の面をまたがるように認められる場合は、「´」を付すこととした。断面Ｕ字形を呈する使用痕ｃのうち、深く抉られた溝は、刃物ではない金属製品（工具とは限らない）を研いだために生じた可能性が高い。これを認める36・70～74は、いずれも砂岩製で表面が比較的粗い製品である。36は通常の砥石よりも大形であることから据えて使用したものとみられる。70～74は小形で、使用痕が多面・多方向にあることから手持ちで使用したものとみられる。うち、73・74については同心円形で低い段状の使用面も認められる。この部分の摩滅は著しく、74においては薄い鉄分？の皮膜も認められる。金属製品の窪んだ部分を回転運動にて磨ったことにより生じたものとみられる。これは使用痕ｃと併せて、一体・一連の作業工程によるものとみられ、ともに作業対象となる金属製品の形状を部分的ながら反映していると考えられる。

砥石・石筆の切断痕

砥石・石筆については、加工の際の切断痕に注目する。主に短側面に認められ、その形状により切断に用いた工具を想定するものであり、内田祐治氏による関東地方の砥石を対象とした成果を参照した[1)]。本報告の砥石においては、ノコギリ痕（１・45）、幅狭のタガネ痕（34）、幅広の平タガネ痕（76）が認められ、45については、途中までノコギリの刃を入れ、石材が薄くなった時点で折断している。ノコギリ痕について内田氏は、1850年代に出現し1900年代に盛行するとしており、この年代観は当該地域においても適用できる可能性がある。石筆はいずれもノコギリにより切断している（基部上面において観察）。切断面が狭いこと、軟質石材の滑石であることから、これに適した工具・方法が採られたとも考えられる。

石硯の刻書

背の覆手内に「赤間関」の刻書が認められるものは、いずれも浅めの片切彫りで、彫り方に勢いがある。これは軟質の石材に、手馴れた者が書いたことによるとみられる。これらの字の形状は、概ね以下の3大別ができる。字の形状はこれを書いた者の癖を反映するものであり、このことは複数人が同じ部位に同じ

文字を書いたことを示す可能性が高い。

14・16・17・50：「赤」の最終画の「丶」が大きく下方に伸びる。「間」の最終画（「日」の下線）が左上に跳ねる。18・22・42：「赤」の最終画の「丶」が大きく下方に伸び、「間」の最終画（「日」の下線）はやや右上がりとなる。15：前二者に比べて字が小さく、赤の最終画の「丶」は右上りに伸びる。関の旁（門構えの中）の下が「ス」字形になる。

以上に加え、「赤間関」の刻書が認められる石硯の石材は、被熱による変色が著しいものを除いて、いずれも灰赤色系の色調である。赤色頁岩とみられ、所謂赤間石の可能性が高い[2)]。すなわち、「赤間関」は工房にて生産地を示す商標として刻まれたものと評価される。好例として萩城跡の事例が挙げられ、覆手に「赤間関」・「赤間関住」・「赤間関正久」を刻書した赤間産硯が多く出土している[3)]。

これに対し、苗字・数字・記号等は、消費地において、所有者・使用者によって書かれたものと考えられる。「佐々木姓」（12）・「田竜」（13）は薬研彫りにて書かれ（「田竜」は苗字の一字と名前の最初の字を組み合わせたものか）、「木村」（69）は細線で、恐らくは釘書きにて書かれている。いずれも楷書で丁寧な字形ではあるが、やや下手で手馴れたタッチでないことが明らかである。これら所有者・使用者を示す刻書は、同形態が多いため、他との区別をする必要性から書かれたものであり、本丸御殿（鎮台本営）における石硯の多用期、すなわち多くの事務員が執務していた時期の資料と考えられる。

石灰岩製硯（第385図41）

41は携帯用の所謂ダビ硯である。注目すべきは石灰岩製という点で、例えば、松井文庫蔵の八代白島石灰岩製の文鎮[4)]のように、これを携帯した所有者の嗜好性・高階層性を示す資料と評価できる。

石筆の形態分類

滑石製石筆は、被熱により白色化・ガラス質化した資料が多く、溶着物が認められるものもあるが、実測図では、原則、これを細かく表現していない。ただし、67については溶融物の付着が顕著で、さらに別個体片が溶着していることから例外的に表現することとした。石筆の形状には二者がみられる。その差異が何に起因するのかは不明だが、便宜上、以下のように分類している。

ａ類：軸の中位が緩やかに膨らみ、胴張り状を呈する。胴張り部の横断面形は扁平である。ｂ類：軸は基部から先端部まで直線的である。横断面形はａ類に比べて縦横の幅が等しい。

印章「熊本鎭臺本營之印」（第387図68）

上面を丸く加工した方柱形を呈する蛇紋岩製の印章である。印面は、粗く平滑化した後（凸部に粗い擦痕が残る）、隷書にて「熊本鎭臺本營之印」を彫り出している。印刀彫りの断面は片薬研形である。熊本の「本」と本営の「本」とでは字体が異なっており、これは二者を弁別する意識によるものとみられる。他の面は研磨調整であるが、整形時の条痕も部分的に残っており、特に上面において明確である。表面の色調は、破砕後に被熱したため、その程度により異なっており、黒色化した部分はより強く被熱したものとみられる。本資料は小広間三階御櫓跡、F89-60グリッドⅢ層からの出土である。これは小広間が鎮台本営のなかでも管理的な執務を行なう場であった可能性が高いことを示している。なお、本印章が押印された文書は現状では未発見であるという[5)]。

〔註〕

1）内田祐治「下宿内山遺跡出土の砥石」『清瀬市郷土博物館年報　平成元年度』1990

2）下関市教育委員会文化財課のご教示による。石材の名称は地元での汎用に従った。

3）山口県埋蔵文化財センター『山口県埋蔵文化財センター調査報告第27集　萩城跡（外堀地区）Ⅰ』2002ほか

4）熊本県立博物館編『松井文庫所蔵品調査報告書（一）』熊本県教育委員会　1989

5）富田紘一氏のご教示による。

砥石側面の切断痕

ノコギリ痕（第379図１）

ノコギリ痕（第385図45）

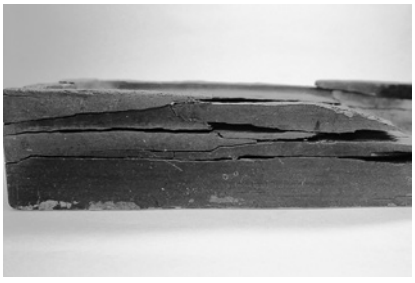
幅狭のタガネ痕（第383図34）

幅広の平タガネ痕（第388図76）

被熱の痕跡

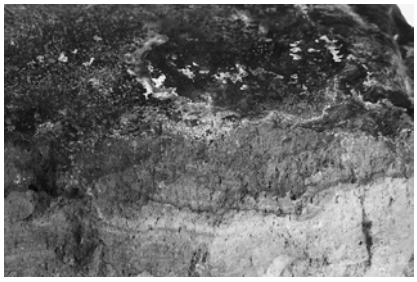
赤色頁岩の表面発泡

溶融物の付着



赤色頁岩製硯の側面の亀裂

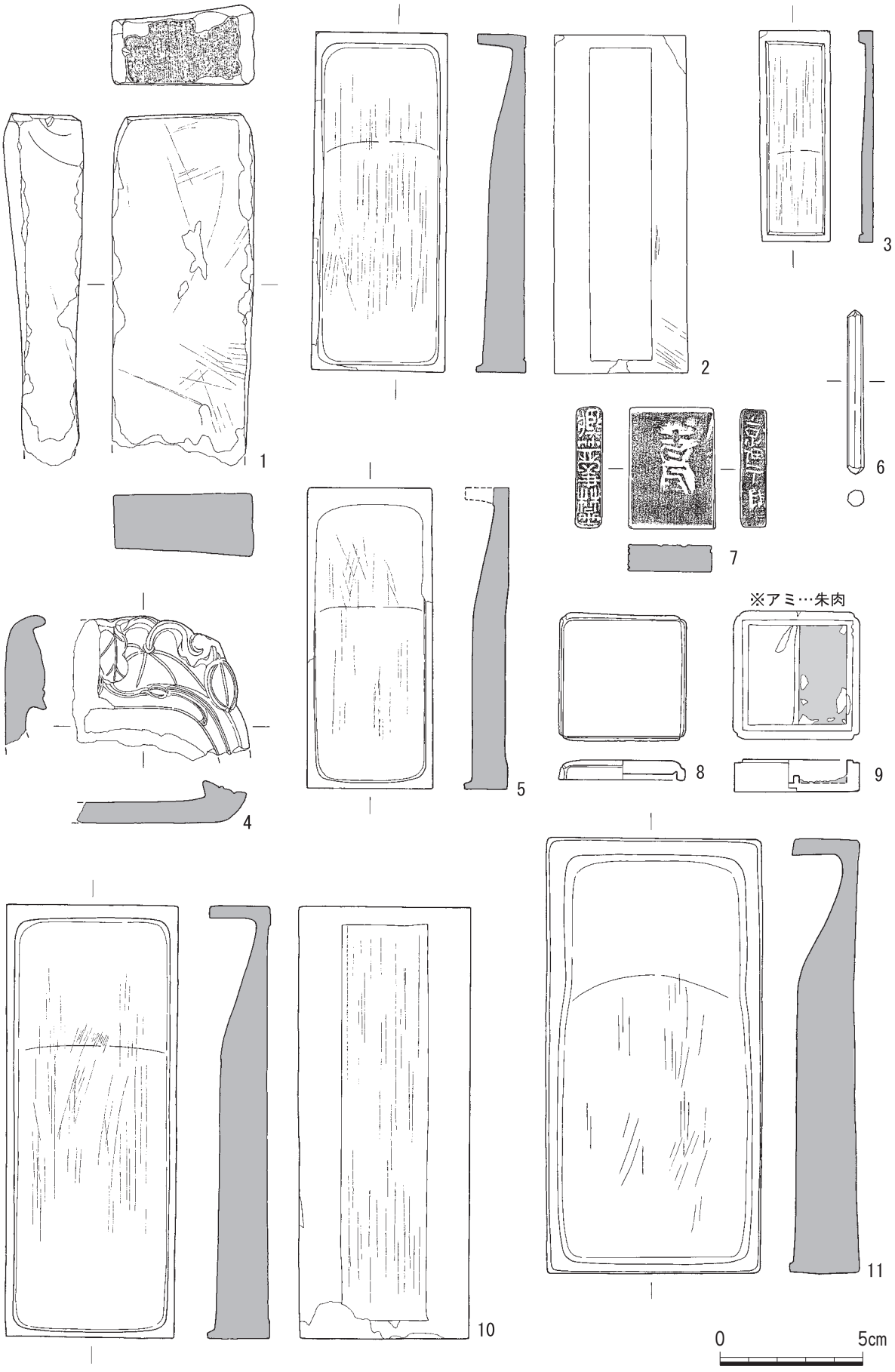
赤色頁岩の表面剥離



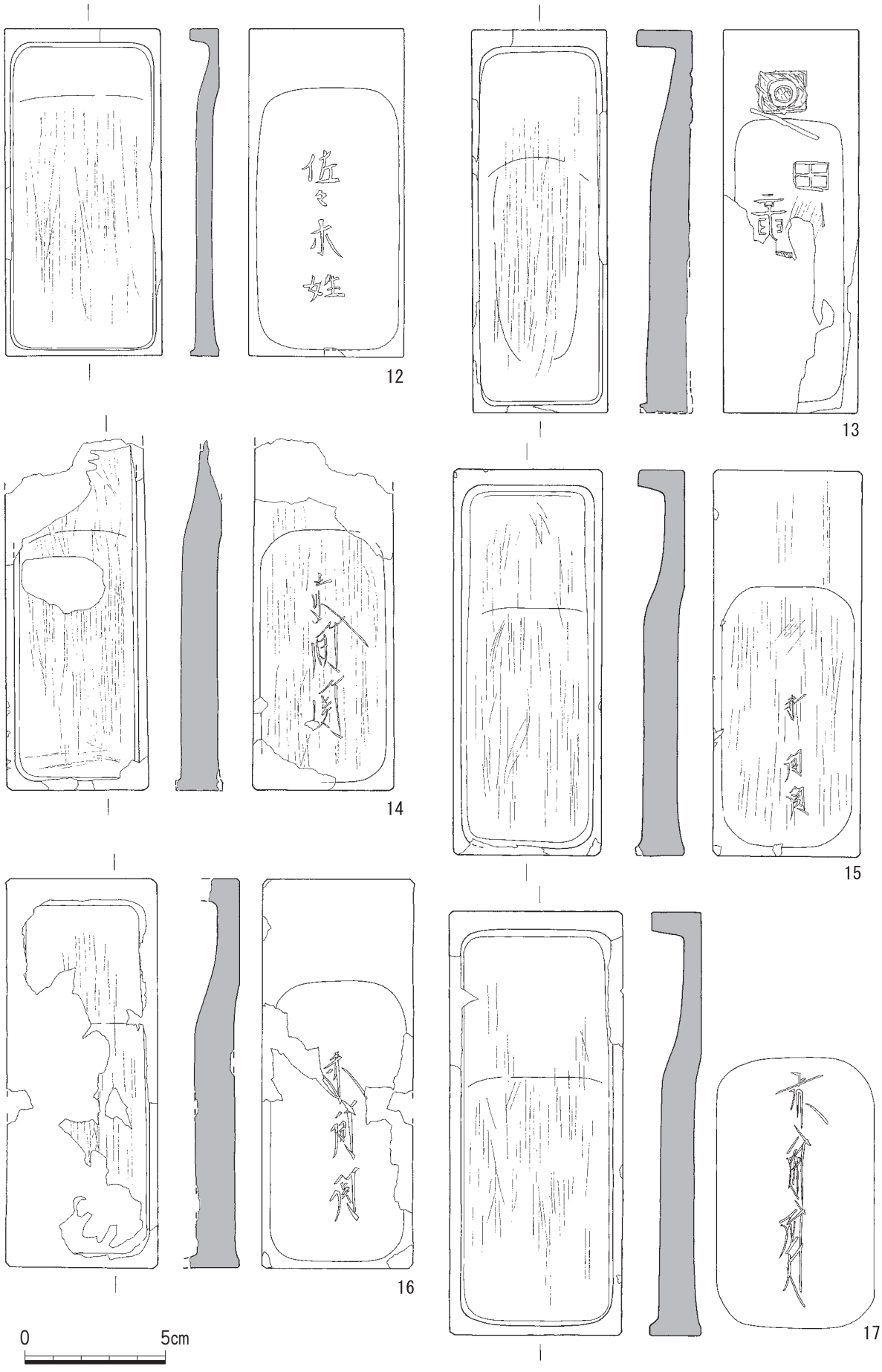
流紋岩の変色

滑石のガラス質化・変色

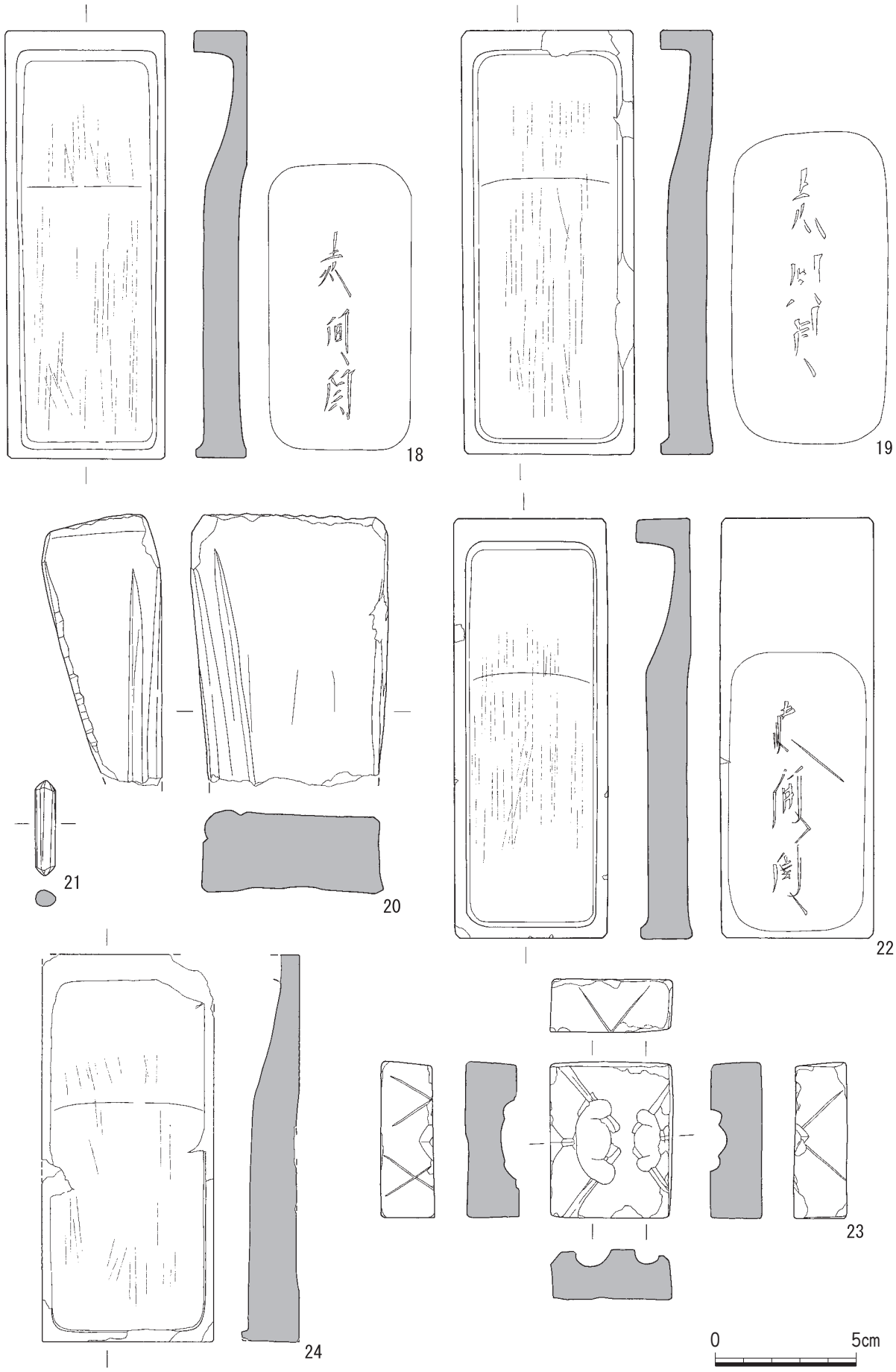
第378図　石製品観察属性写真



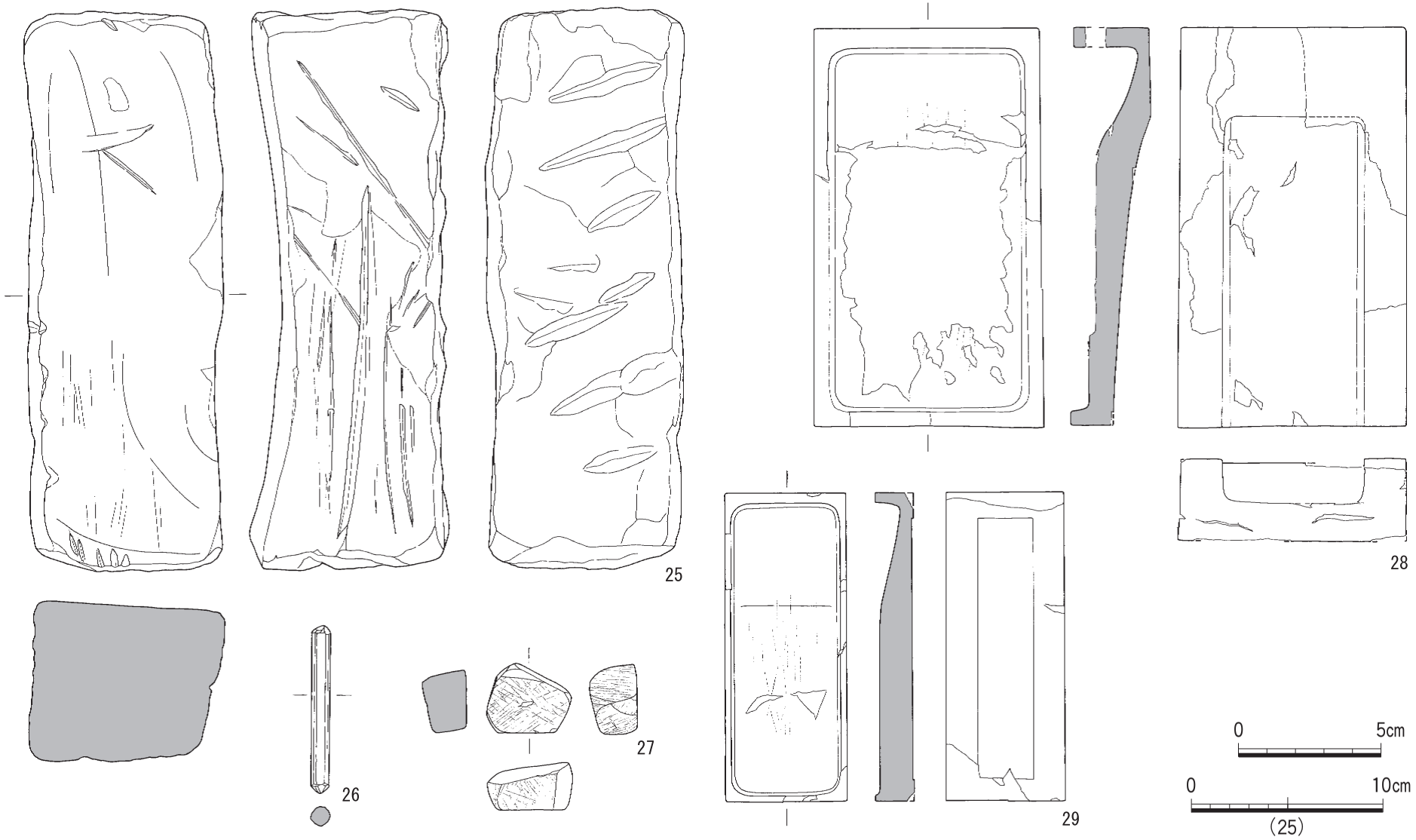
第379図　石製品実測図１（１／２）



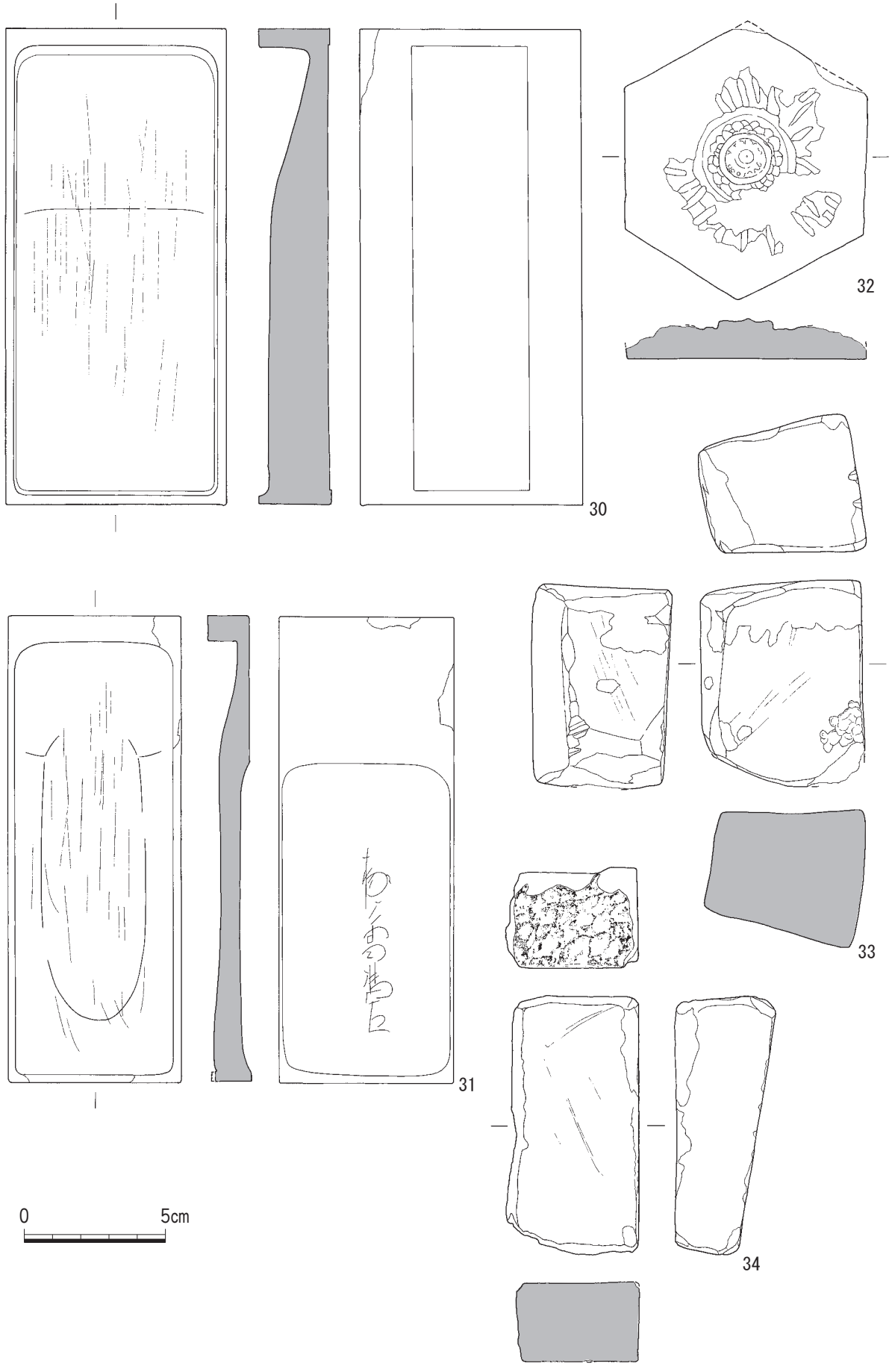
第380図　石製品実測図２（１／２）



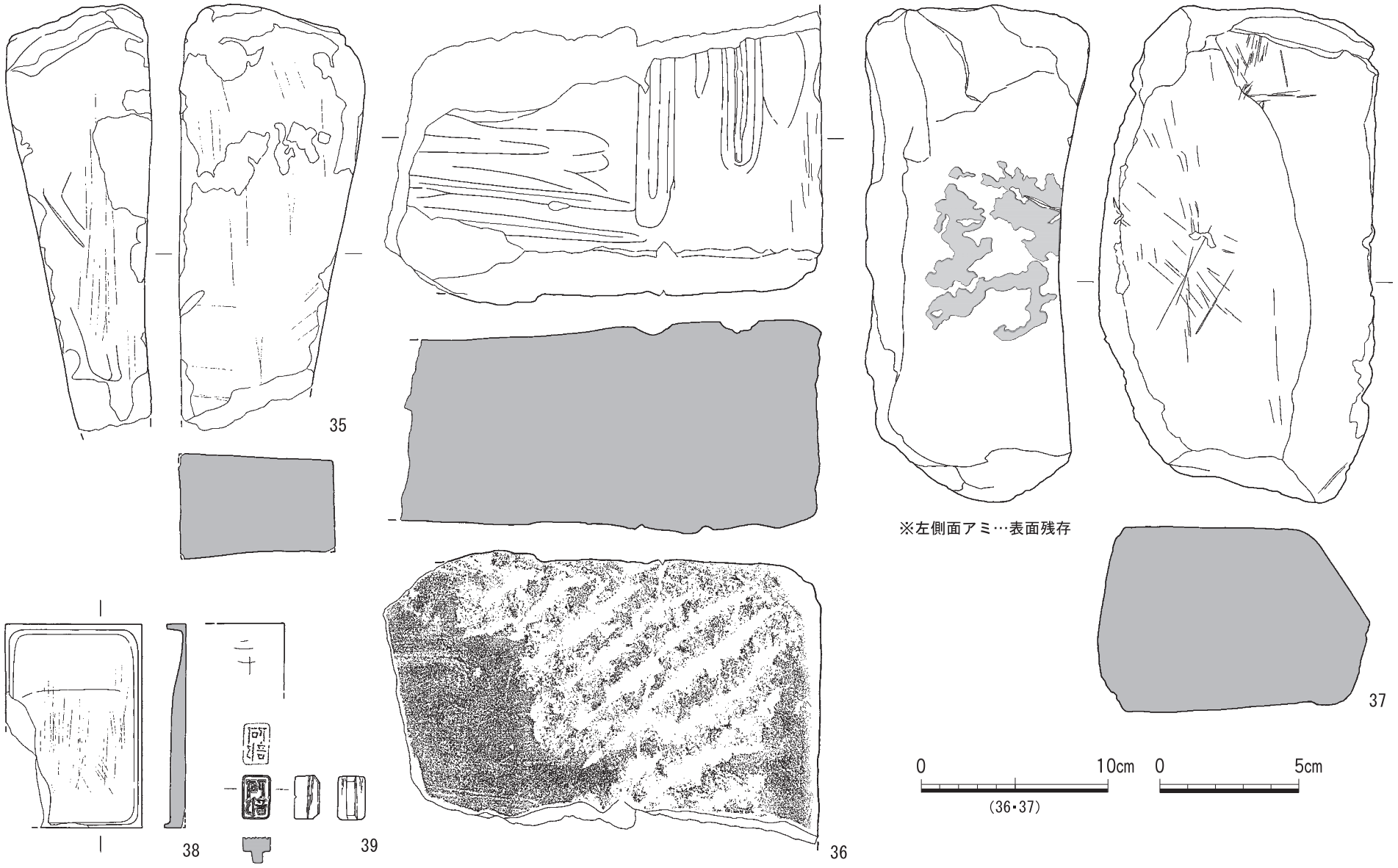
第381図　石製品実測図３（１／２）



第382図　石製品実測図４（１／２・１／３）

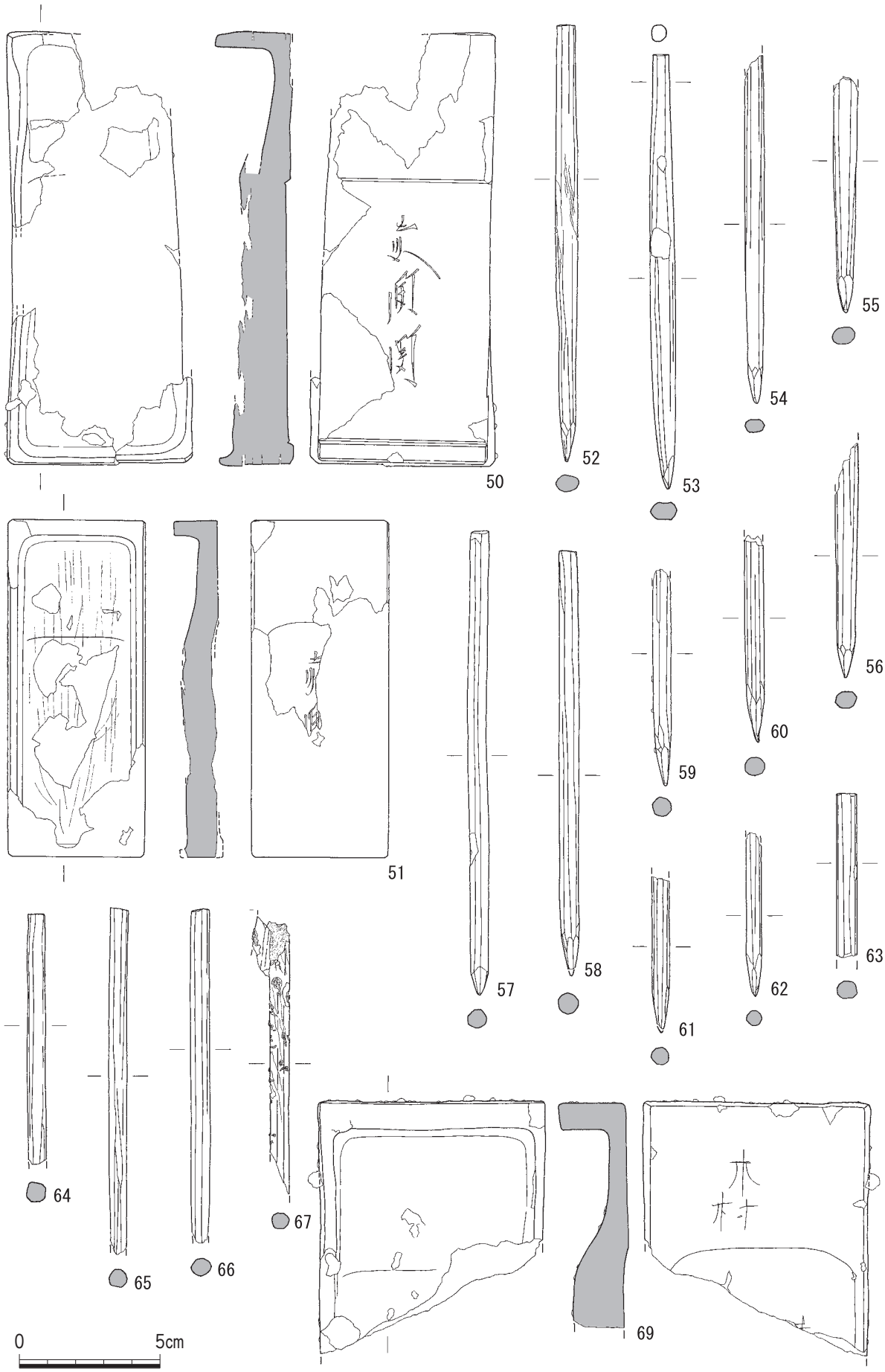


第383図　石製品実測図５（１／２）

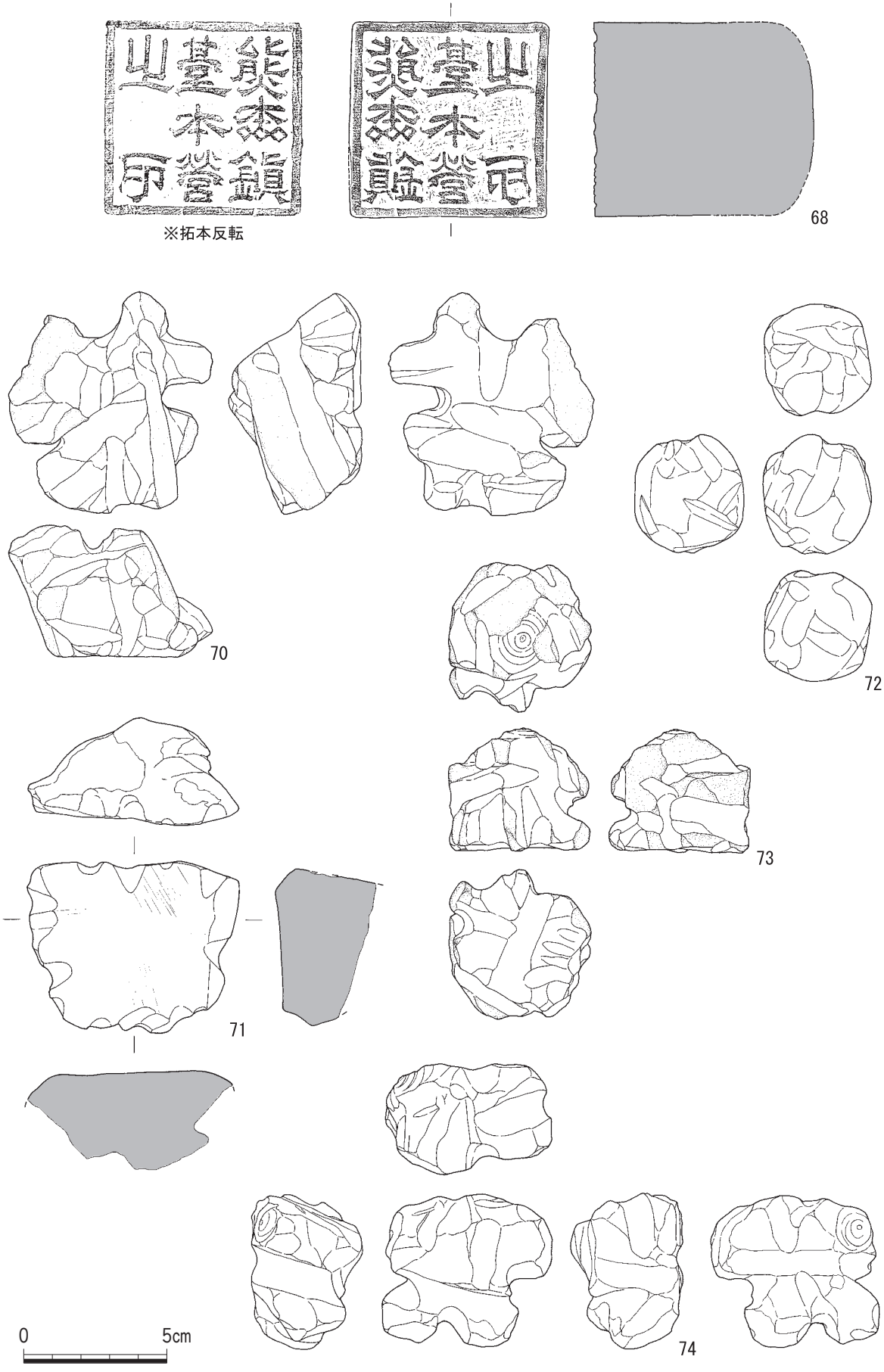


第384図　石製品実測図６（１／２・１／３）

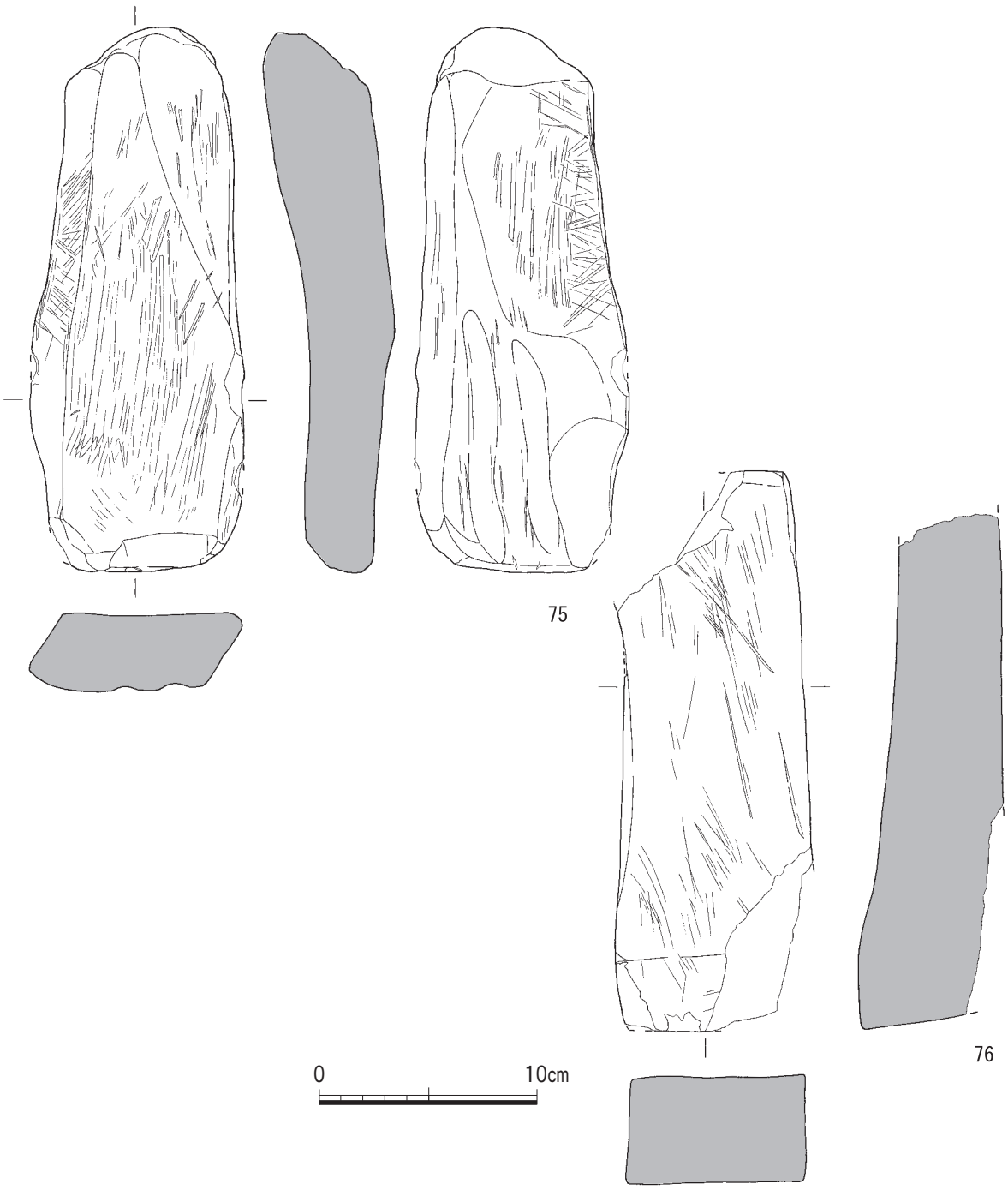
第385図　石製品実測図７（１／２）



第386図　石製品実測図８（１／２）



第387図　石製品実測図９（１／２）



第388図　石製品実測図10（１／３）

第27表　石製品観察表 (1)

図－No.	実測No.	大区画	出土位置	種　類	石材	計測値（cm，括弧内推定）	備　　考	被熱
379－1	38	大広間	SKⅢ087	砥石	砂岩(細)	長－，幅～5.0，厚～2.8	現状4面使用。使用痕ａ。短側面（図上）はノコギリ切断痕。	
－2	1	大広間	F80-63，Ⅰ層	石硯	粘板岩	長11.9，幅4.6，厚1.7	背の覆手は長方形。	
－3	5	大広間	F82-53，Ⅰ層	石硯	粘板岩	長7.4，幅2.5，厚0.5	ダビ硯（携帯用）。硯池は緩やかに傾斜。背は平坦。	
－4	16	大広間	F84-60，Ⅰ層	石硯	赤色頁岩	長－，幅－，厚1.5	彫刻硯（半肉彫り・瓜文）。彫刻面はノミ痕認める。	
－5	22	大広間	F81-55，Ⅱ層	石硯	粘板岩	長10.6，幅4.4，厚1.5	背の覆手は隅丸長方形。	
－6	11	大広間	F83-58，Ⅰ層	石筆	滑石	長5.8，径0.6	削り整形（横断面多角形），両端使用。	
－7	54	大広間	F84-56，Ⅱ層	印章	蛇紋岩	長3.2，幅2.2，厚0.7	銘は全て陰刻。表は「吉屋?」、長側面は「無尽蔵」（篆刻）・「京町一丁目」。「吉屋？」・「京町一丁目」は追刻（下手）。	
－8	9	大広間	F80-63，Ⅰ層	朱肉詰(蓋)	滑石	長4.5，幅4.4，高0.7	表面研磨。畳付はケズリ痕残る。	
－9	9	大広間	F80-63，Ⅰ層	朱肉詰(身)	滑石	長4.5，幅4.4，高1.1	内面片側に朱肉が残存する。器表面研磨、蓋受部はケズリ痕認める。	
－10	4	大広間	F82-53，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長15.2，幅6.0，厚2.7	背の覆手は長方形。	
－11	2	大広間	F82-53，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長15.3，幅7.5，厚2.5	背の覆手は隅丸長方形（広い）。	
380－12	25	大広間	F82-55，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長11.7，幅5.6，厚1.0	背の覆手は隅丸長方形。刻書「佐々木姓」（薬研）。	○
－13	21	大広間	F85-56，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長13.7，幅4.8，厚1.9	墨堂は窪む。背の覆手は隅丸長方形。刻書は背上位に四角内丸、中位に「田竜」（薬研）と細い斜線（不明）。	○
－14	3	大広間	F82-53，Ⅲ層	石硯	赤色頁岩	長－，幅5.0，厚1.7	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	
－15	6	大広間	F83-53，Ⅰ層	石硯	赤色頁岩	長13.8，幅5.3，厚1.7	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	○
－16	27	大広間	F84-53，Ⅲ層	石硯	赤色頁岩	長13.9，幅5.4，厚－	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。硯面・縁は残り悪い。	○
－17	7	大広間	F83-54，Ⅰ層	石硯	赤色頁岩	長15.1，幅6.1，厚1.8	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	○
381－18	23	大広間	F81-56，Ⅲ層	石硯	赤色頁岩	長15.2，幅5.7，厚1.9	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	○
－19	24	大広間	F81-56，Ⅲ層	石硯	赤色頁岩	長15.1，幅6.1，厚1.8	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）は摩滅気味。	○
－20	8	大広間	F84-55，Ⅲ層	砥石	流紋岩	長－，幅～7.0，厚～4.2	4面使用（現状）。使用痕ａ・ｂ。短側面は切断後未調整。	
－21	58	大広間	F80-58，Ⅲ層	石筆	滑石	長3.4，径0.6×0.7	削り整形（横断面多角形）。両端使用。	
－22	19	大御台所	SKⅢ009	石硯	赤色頁岩	長14.9，幅5.5，厚1.9	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	
－23	52	大御台所	表採	鋳型	流紋岩	長4.3，幅5.4，厚1.9	小形の箪笥かんの鋳型。2箇分（大・小あり）。湯道は各3箇所。側面にV字・X字形の細線、被熱による変色箇所あり。	
－24	26	大御台所	F83-51，Ⅰ層	石硯	粘板岩	長13.8，幅6.1，厚2.1	背の覆手は隅丸長方形。	○
382－25	60	大御台所	F84-51，Ⅰ層	砥石	砂岩(粗)	長29.6，幅～10.3，厚～10.6	荒砥。3面使用（表・両長側面）。使用痕ａ・ｂ・ｂ´。背面・短側面（図下）に切り出し整形時の粗いケズリ痕。	○
－26	57	小姓部屋	F79-50，床直	石筆	滑石	長5.9，径0.7	ケズリ整形（横断面多角形）。両端使用。	
－27	41	小姓部屋	F79-52，Ⅲ層	不明	滑石	長2.9，幅～2.4，厚～1.7	表面削り整形（擦痕顕著）。煤付着は認められない。	
－28	30	長之間	F85-54，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長14.0，幅8.0，厚2.7	硯池は光沢感あり。背の刳り込みは深く、箕形。	○
－29	31	長之間	F84-54，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長10.8，幅4.3，厚1.4	背の覆手は長方形。	○
383－30	28	長之間	F85-54，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長16.9，幅7.8，厚2.5	背の覆手は長方形。	○
－31	29	長之間	F85-54，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長16.6，幅6.2，厚1.5	表の墨堂は使用により窪む。背の覆手は隅丸長方形。刻書「□□馬太？」（細線）。	
－32	17	露地	SXⅡ002	建築部材？	粗粒片岩	一辺長7.0～7.6，厚2.1	外壁の装飾具？。石材は非在地。平面六角形。表面は花形のレリーフ、背面は平坦。	
－33	44	露地	F85-55，Ⅱ層	砥石	砂岩(粗)	長7.3，幅～5.7，厚～4.9	6面使用。使用痕ａ・ｂ´。部分的に敲打痕あり。	
－34	14	露地	F86-60，Ⅱa層	砥石	砂岩(細)	長9.2，幅～4.7，厚～3.6	4面使用（現状）。使用痕ａ。短側面（図下）は欠折後も使用し凸部摩滅。短側面は幅狭のタガネによる切断痕。	
384－35	46	露地	F85-56，Ⅱ層	砥石	流紋岩	長－，幅～6.7，厚～5.2	4面使用（表・背・長側面）。使用痕ａ・ｂ。短側面は平ノミによるケズリ調整？。	
－36	70	露地	F85-58，Ⅱ層	砥石	砂岩(粗)	長－，幅－，厚～11.4	現状2面使用（表・背）。使用痕ａ・ｃ。背面に整形時の粗いケズリ痕。緑錆付着。	
－37	71	露地	F86-56，Ⅲ層	砥石	流紋岩	長27.0，幅～14.9，厚～12.1	略五角柱形。4面使用。使用痕ａ。	○
－38	18	西廊下	SDⅢ027	石硯	粘板岩	長7.4，幅4.9，厚0.7	ダビ硯（携帯用）。背は平坦。刻書「二十」（細線）。	○
－39	89	西廊下	F87-60，Ⅱ層	印章	滑石	縦1.5，横1.0，厚0.9	印面隅丸長方形「阿部」（楷書体）。断面凸字形。上面・つまみ部は細かい擦痕明瞭（整形痕）。	
385－40	37	小広間	SJⅢ001	不明	石灰岩？	長－，幅2.2，厚1.8	立方形、小形。各辺面取り、全面平滑、擦痕。	
－41	61	小広間	F91-58，Ⅰ層	石硯	石灰岩	長－，幅3.9，厚0.8	ダビ硯（携帯用）。背は平坦。	
－42	36	小広間	F89-59，Ⅱ層	石硯	粘板岩	長14.8，幅6.1，厚1.8	背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	
－43	55	小広間	F89-55，栗石内	石筆	滑石	長3.4，径0.5	削り整形（横断面多角形）。両端使用。	

第27表　石製品観察表　(2)

図－No.	実測No.	大区画	出土位置	種　類	石材	計測値（cm，括弧内推定）	備　　考	被熱
385－44	59	小広間	F91-56，Ⅰ層	石筆	滑石	長（4.3），径0.6	削り整形（横断面多角形）。両端使用。	
－45	15	小広間	F90-58，Ⅰ層	砥石	粘板岩	長－，幅～4.9，厚1.7	3面使用（現状）、表・背面（板状節理面）と長側面（左）を使用。使用痕a。短側面・長側面（図右）はノコギリ切断痕。	
－46	32	小広間	F89-56，Ⅰ層	石硯	粘板岩	長12.1，幅6.2，厚2.2	背は平坦。長側面に意図的な傷（薬研）。	
－47	34	小広間	F90-57，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長11.0，幅4.4，厚－	背の覆手は長方形。硯面・縁は残り悪い。	○
－48	12	小広間	F90-58，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長17.2，幅6.4，厚－	背は平坦。硯面・縁は残り悪い。	○
－49	35	小広間	F90-58，Ⅲ層	石硯	粘板岩	長－，幅（5.6），厚2.2	背の覆手は隅丸長方形。変形著しい。	○
386－50	13	小広間	F91-58，Ⅰ層	石硯	赤色頁岩	長15.5，幅5.6，厚2.7	背は横縁の無い刳り込み。刻書「赤間関」（片切彫り）。硯面・縁は残り悪い。	○
－51	33	小広間	F89-56，Ⅲ層	石硯	赤色頁岩	長12.0，幅4.9，厚1.5	硯池は光沢感あり。背の覆手は隅丸長方形。刻書「赤間関」（片切彫り）。	○
－52	84	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長15.6，径0.8×0.6	a類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面は半分までノコギリ切断痕（途中から折る）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－53	86	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長15.6，最大径0.9×0.6	a類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面はノコギリ切断痕（平行条線）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－54	83	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.7×0.5	a類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面はノコギリ切断痕（平行条線）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－55	76	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.9×0.6	a類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－56	77	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.6×0.8	a類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－57	74	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長16.5，径0.7	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面ノコギリ切断痕（平行条線）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－58	85	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長（15.1），径0.7	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面切断痕不明。被熱により白色・ガラス質化。	○
－59	79	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.7	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－60	75	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.7×0.6	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－61	10	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.6	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－62	78	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.5×0.6	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－63	56	小広間	F89-59，Ⅲ層	石筆	滑石	長－，径0.6×0.7	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面平滑。被熱により白色・ガラス質化。	○
－64	80	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.7	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。上端面切断痕不明。被熱により白色・ガラス質化。	○
－65	82	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.6	ケズリ整形（横断面多角形），上端面ノコギリ切断痕（平行条線）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－66	81	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.7×0.6	b類。ケズリ整形（横断面多角形），上端面ノコギリ切断痕（平行条線）。被熱により白色・ガラス質化。	○
－67	87	小広間	F90-59，Ⅱ層	石筆	滑石	長－，径0.6	b類。ケズリ整形（横断面多角形）。被熱痕顕著（白色・ガラス質化、溶着物付着、亀裂）。	○
387－68	88	小広間	F89-60，Ⅲ層	印章	蛇紋岩	縦6.9，横7.0，厚7.6	「熊本鎮台本営之印」。書体は隷書体。	○
386－69	20	長局御櫓	F74-46，Ⅰ層	石硯	粘板岩	長－，幅8.1，厚2.4	背の覆手は隅丸長方形。刻書2箇所「木村」（細線）・右下は不明（細線）。	○
387－70	49	長局御櫓	F71-47，Ⅲ層	砥石	砂岩(粗)	長～7.4，幅～6.4，厚～4.5	手持ち、略立方体。全面使用。使用痕c・c´。	○
－71	47	長局御櫓	F71-46，Ⅲ層	砥石	砂岩(粗)	長～7.5，幅～6.0，厚－	手持ち、4面使用（現状）。使用痕a・c・c´。	
－72	48	長局御櫓	F67-46，Ⅲ層	砥石	砂岩(粗)	4.2×3.7×3.8	手持ち、略球形。使用痕b（客）・c（主）。	
－73	50	長局御櫓	F71-47，Ⅱ層	砥石	砂岩(粗)	長～5.0，幅～6.1，厚3.3	手持ち、略立方体。全面使用。使用痕c・c´、同心円・段状の使用痕あり（摩滅著しい）。	○
－74	51	長局御櫓	F74-46，Ⅲ層	砥石	砂岩(粗)	長～5.8，幅～5.4，厚3.9	手持ち、略立方体。全面使用。使用痕c・c´、同心円・段状の使用痕あり。摩滅面に鉄分皮膜？付着。	
388－75	39	長局御櫓	F72-47，Ⅲ層	砥石	流紋岩	長25.3，幅～9.9，厚～4.8	4面使用（短側面は使用痕不明瞭）。使用痕a・b・c。	○
－76	40	長局御櫓	F73-46，Ⅲ層	砥石	流紋岩	長25.9，幅－，厚－	4面使用（表・背・長側面）。使用痕a。短側面は幅広の平タガネによる切断痕。	○

10．中世石造物（第389図，第28表）

本丸御殿出土の中世石造物は、熊本城（新城）の築城時、石狩りによって石垣裏込めに使用されたものと考えられる。そのため、報告の順序は、他の出土品のように出土属性に重きを置かず、形態ごととする。

個々の資料の報告は、原則、観察表（第28表）をもって記し、本文中では補足を行なう。調整は、表面の剥落が著しいものが多いため残存箇所の観察に基づいており、明らかに表面を磨いたと判断できるものを「研磨」、表面が滑らかであるものの研磨の痕跡が不明瞭なものを「平滑」と表記している。凝灰岩製石塔の場合、脆い材質であることから、製作時、剥落を防止するために表面を研磨して石材の肌理を潰す加工を行なう必要があり、本来は全てについて研磨が施されていたと考えられる。石材同定は肉眼観察による。なお、五輪塔部材（各輪）の計測部位については、第389図中に凡例を示している。

石塔類（１～８）

１・２は五輪塔空風輪である。１については形状が縦方向に伸び、空輪側辺が張らないこと、２については側辺が直線的で、空輪の上位が屈曲して稜をもつことから、ともに16世紀代まで降る型式とみられる。３～７は五輪塔水輪である。３は、全体に剥落が著しく、残りの良い箇所を正面とした。正面の種子キリークのみ判読できるが、左右の面は欠落しており、背面については種子が彫られていることが辛うじて判るというものである。金剛界四仏を刻んだ可能性が高い。形状や種子の彫り方から14世紀後半～15世紀代と考えられる。４～７は扁平化が認められ、特に７は側辺の張りが弱く雑な成形であることから、大略16世紀代に位置付けられる。

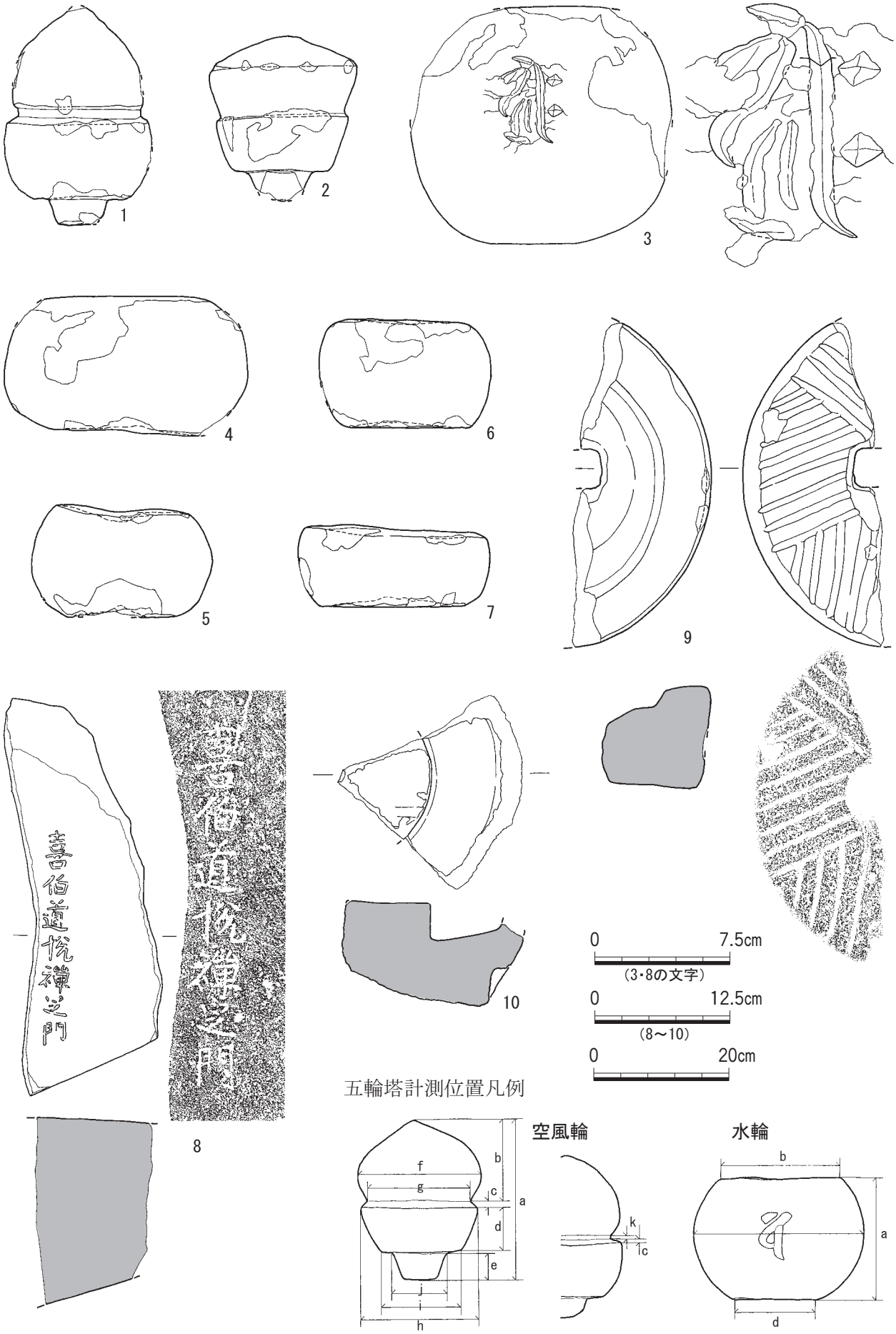
８は安山岩剥片を用いた板碑（自然石塔婆）の砕片で、平坦面を粗く研磨し、これを正面としている。「喜伯道悦禅定門」銘が認められる。

碾臼（９・10）

９は籾臼（上臼）、10は茶臼（下臼）である。臼面の溝は、９は均整な正目６分画である。10は使用による摩滅が著しいため不明である。

第28表　中世石造物観察表

図－No.	実測No.	区　画	出土位置	種　類	石　材	計　測　値（cm，括弧内推定）	備　　考
389－１	62	御小姓部屋	F80-52，Ⅱ層	五輪塔空風輪	凝灰岩	a：－，b：－，c：0.5，d：11.5，e：3.8，f：－，g：18.2，h：20.8，i：14.3，j：8.7，k：1.1	表面荒れ，残存部平滑
－２	65	小広間	F91-51，Ⅲ層	五輪塔空風輪	凝灰岩	a：24.4，b：11.5，c：0.5，d：7.9，e：4.4，f：22.0，g：18.5，h：19.5，i：13.8，j：9.6	表面残存部研磨
－３	73	露地	不明	五輪塔水輪	凝灰岩	a：35.2，b：－，c：（38.7），d：14.5	歪み（ｃは最大で41.3cm），正面キリーク（黒漆残存），左右面欠，背面種子は不明
－４	63	不明		五輪塔水輪	凝灰岩	a：18.9，b：－，c：36.2，d：－	表面荒れ，残存部平滑
－５	66	露地	F85･86-55･56	五輪塔水輪	安山岩	a：16.0，b：19.8，c：26.8，d：16.3	表面残存部平滑
－６	64	不明		五輪塔水輪	凝灰岩	a：15.8，b：19.7，c：25.6，d：18.3	表面荒れ，残存部平滑
－７	67	露地	SKⅢ059	五輪塔水輪	凝灰岩	a：11.4，b：26.9，c：28.5，d：21.5	表面荒れ，残存部平滑
－８	72	不明		板碑	安山岩	厚：～17.4	板状，表面は平滑，記銘「喜伯道悦禅定門」
－９	68	露地	SBⅡ002	籾臼（上臼）	安山岩	外径：（32.0），高：9.5	６分画，区画内の溝８本，上下面とも摩滅，外側面もやや摩滅，もの入れ孔壁面は平滑
－10	69	不明		茶臼（下臼）	安山岩	摺り面径：（16.0），高：9.8	溝３本のみ残存（摩滅），皿状突帯部は研磨，外側面～底面はタタキ整形，外側面に窪み



第389図　中世石造物実測図（1／3・1／5・1／8）

11．動物遺存体について

今回の発掘調査で各所から動物遺存体が出土した。同定は、土井ケ浜・人類学ミュージアムの沖田絵麻氏に分析を依頼している。詳細は付編１の『熊本城跡（飯田丸・本丸）から出土した動物遺存体の分析』に掲載しており、ここでは出土状況を記述する。なお、『熊本城跡（飯田丸・本丸）から出土した動物遺存体の分析』には、『熊本城跡発掘調査報告書１―飯田丸の調査』（熊本城調査研究センター2014年）に紹介した飯田丸出土の動物遺存体の詳細も含まれる。

出土状況を層・遺構毎に記述する。Ⅰ層は現代の表土で、重機により除去した部分も多く、資料数は少ない。F84－54グリッドでウマが出土している。F80－58グリッドで出土したイヌは、現代の埋葬で、ほぼ全身骨が残存していた。II層以下は人力で掘削したため、資料数は格段に増加する。マダイを含むタイ科・シイラ・ハタなどの魚類が広範囲のⅡ層中で出土している。切断痕も認められる資料が多く、食材であったものと考えられる。Ⅱ層土は客土で元位置は不明だが、同種の資料がⅢ層からも出土しており、西南戦争以降の軍の食糧として持ち込まれたものと考えられる。Ⅲ層からは魚類が中心に出土している。鶴之間と麒麟之間の境付近（F84－54グリッド）からやや集中して出土している。長局御櫓でウシの足、御小姓部屋でシイラが出土しているが量は少なく、その場で加工されたかどうかは不明である。切断痕もあり、西南戦争以降の軍の食糧として持ち込まれたものと考えられる。Ⅳ層は焼失前の土層だが、トレンチ調査がほとんどで、掘削は小規模で限定的である。F88－55グリッドでキジと思われる資料が出土しているが、切断痕も不明瞭で、食糧かどうかは不明瞭である。F85－52グリッドではマダイが出土している。

続いて遺構出土資料について記述する。SJⅢ001・002は、小広間穴蔵で検出した埋設甕で、便所の可能性が高い遺構と判断している。穴蔵からは５基の埋設甕を検出したが、東端の２基のみを内部まで調査した。SJⅢ001からはタイ科の魚骨、SJⅢ002からはタイ科とシイラ科の魚骨が出土している。大きさから便中のものとは考えにくく、食糧残滓をSJⅢ001・002に廃棄したものと判断している。この遺構は小広間焼失により埋没しており、焼失前に使用されていたと判断できる。大御台所周辺のSDⅢ005・008・010・016から、タイ科・シイラ科の魚骨が出土している。大御台所で調理されたものの残滓の可能性もある。SKⅢ049・057・059・071は露地から検出された土坑群である。内部からマダイ・ウシなどが出土している。この土坑群は、建物焼失後の露地にⅡ層が形成された後で掘り込まれた廃棄坑で、内部からは瓦を中心とした廃棄物が出土している。動物遺存体は、Ⅱ層に含まれていたものの混入か、もしくは廃棄物のひとつとして持ち込まれたものと考えられる。遺構の形成時期は、近代から現代初頭と想定している。他にも御小姓部屋の礎石抜き取り跡（SKⅢ109）からウシ、大広間棟北側のSXⅢ054とした池から大型獣の骨が出土している。いずれも現代に形成された遺構である。

この他に、貝類も多く出土している。詳細は付編２に掲載している。大半はⅡ・Ⅲ層からの出土で、魚類と同じ傾向を示している。食糧として城内に持ち込まれた可能性が高い。中にはイタヤガイを使用した貝杓と思われる道具の一部もある。

今回の調査で注目されるのは御小姓部屋で検出したSXⅢ057である。F80・81－50グリッドで検出した土坑で、「熱河・河北聖戦記念碑」の設置及び撤去と樹木の抜根の際に形成されたものと思われる。遺構は調査前に重機によって形成されたものと思われるが、この遺構の内部と周辺から、ダチョウとキリンと思われる骨が出土している。出土状況からは、SXⅢ057付近にあったものがSXⅢ057形成時に混入したものと判断できる。記念碑と樹木は、少なくとも昭和33（1958）年の航空写真に写っており、動物骨はそれ以前から埋没していたものと思われる。ダチョウもキリンも切断痕が認められており、何らかの利用が行われた可能性が高い。近現代のものとしても、キリンを食糧とすることは常態ではない。沖田氏の論稿にもあるが、動物園などの記録などと合わせて城内に持ち込まれた経緯を検討する必要があるだろう。

12．銭貨（第390～416図，第29～31表）

銭種の同定は、国内銭については主に古銭界における成果[1)]を参照した。中国銭については嶋谷和彦氏に同定を依頼し、ご教示いただいた内容を記している。

ａ．報告の方法

報告の順序は、まずは銭種を大まかに分け（中国銭・寛永通宝など国内の円形穴銭・天保通宝・近代以降の貨幣）、次いで出土位置を勘案した。出土位置は、区画ごと→遺構→遺構外の順としている。

銭貨についても、他の出土品と同様、被熱の痕跡に注目した。被熱の原因が本丸御殿（鎮台本営）焼失によるものである可能性が極めて高いため、埋没前の利用状況を検討するうえで参考となるためである。被熱の有無は、素材が金属であることから、土中に埋没していたための錆化（緩やかな酸化）との弁別が難しいが、以下の条件により認定している。①熔解・変形する。②溶着物が顕著である。③表面が発泡する。④表面が爆ぜたように剥落する。⑤銅銭については明らかな表面の赤化が認められる。以上の要素のうち、特に①～③を重視して明らかな被熱資料として抽出し、観察表の「被熱」欄に○印を記している。

ｂ．一括資料について

御小姓部屋SJⅢ025の便槽甕の内部から寛永通宝34点がまとまって出土している（279～312）。これらのうち26点は明らかな被熱資料であり、本丸御殿焼失時に便槽内に落ち込んだものと考えられる。他、出土状況から一括性を評価し得る資料は無いが、同一グリッドから多量に出土した以下の事例がある。

大広間F81-58グリッド：寛永通宝47点…Ⅲ層（御殿焼失に伴う土層）出土44点、Ⅰ層出土３点（３点とも明らかに被熱）。固着痕を認めるもの11点、明らかに被熱したもの36点。

長之間F85-54グリッド：寛永通宝46点・中国銭２点・仙台通宝１点・不明穴銭２点…Ⅲ層出土41点、固着するもの・固着痕を認めるもの12点。天保通宝９点…全てⅢ層出土、固着痕を認めるもの６点、明らかに被熱したもの４点。明治９年以前造の近代銭２点…２点とも明らかに被熱。

小広間F89-56グリッド：天保通宝53点（537～589）…全てⅢ層出土、固着痕を認めるもの16点、明らかに被熱したもの52点）。寛永通宝19点…固着痕を認めるもの10点、明らかに被熱したもの10点。明治９年以前造の近代貨幣３点…３点とも明らかに被熱。

上記３例について、穴銭複数点が固着するもの、表面に固着痕が認められるものが注目される。すなわち、本来は緡の状態で存在していたことを示すものであり、出土量・被熱資料の多さを勘案すれば、これらは本丸御殿（鎮台本営）焼失直前において保管されていた可能性が高いといえる。

ｃ．注目される銭貨

中国銭で注目されるのは、利用通宝（338）・洪化通宝（５）の稀少例２点である。嶋谷氏のご教示によれば、ともに清朝の中国平定前の三藩時代に鋳造された銭貨であり、利用通宝は全国でも初例になると思われる。洪化通宝は堺環濠都市遺跡（SKT43地点）の近世墓群出土の六道銭に事例があるという。

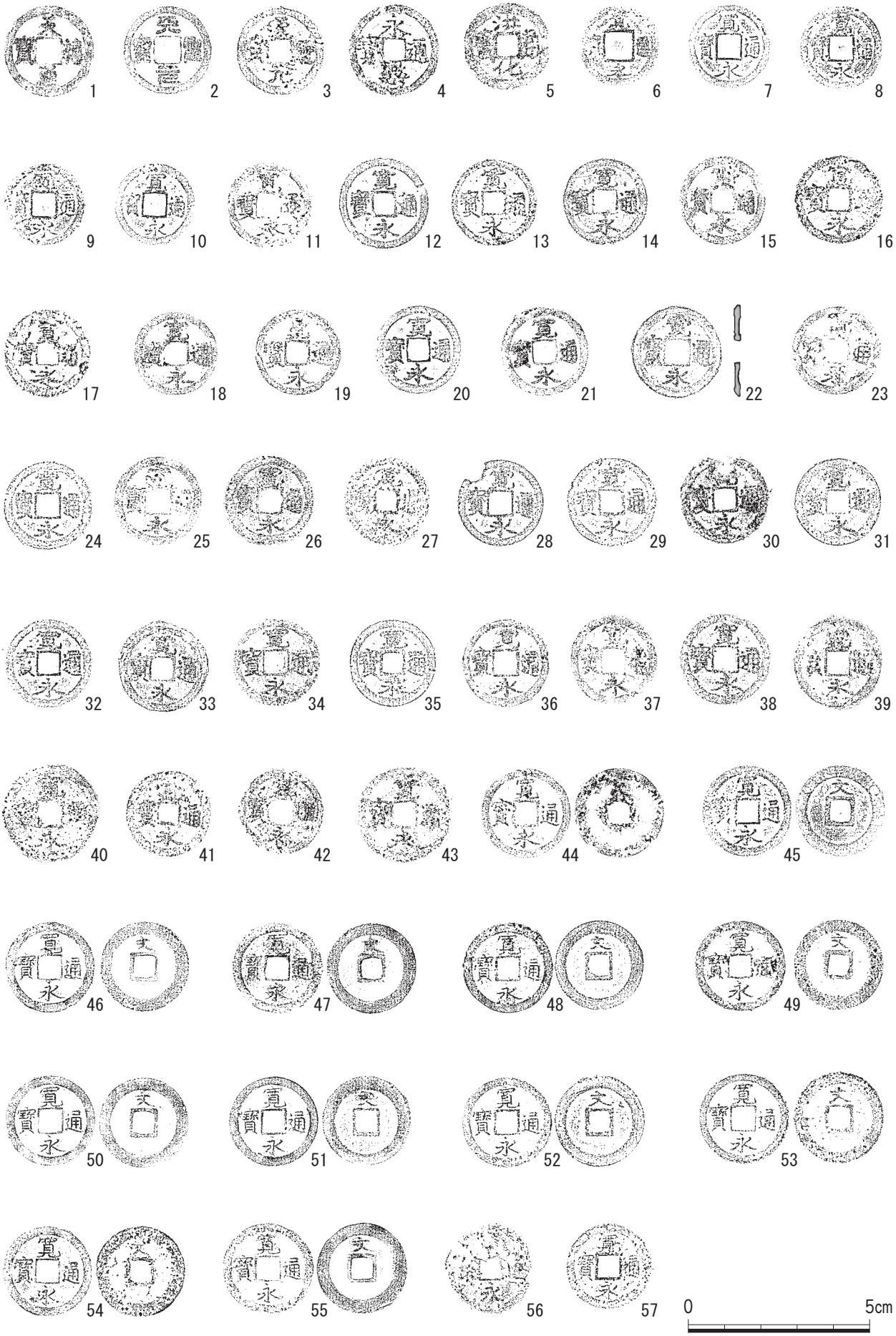
仙台通宝（396・397・673）は天明４～８年（1784～1788）、仙台藩が鋳造した方形方孔の鉄銭である。幕府が仙台藩に鋳造を許可した条件は領内のみの通用とすることであったが、実際には領外にも大量に流出してしまい、全国の銭相場を混乱させる要因となったという[2)]。九州・沖縄にも出土事例があり、熊本城跡においては飯田丸からの出土に次ぐ事例である[3)]。

〔註〕

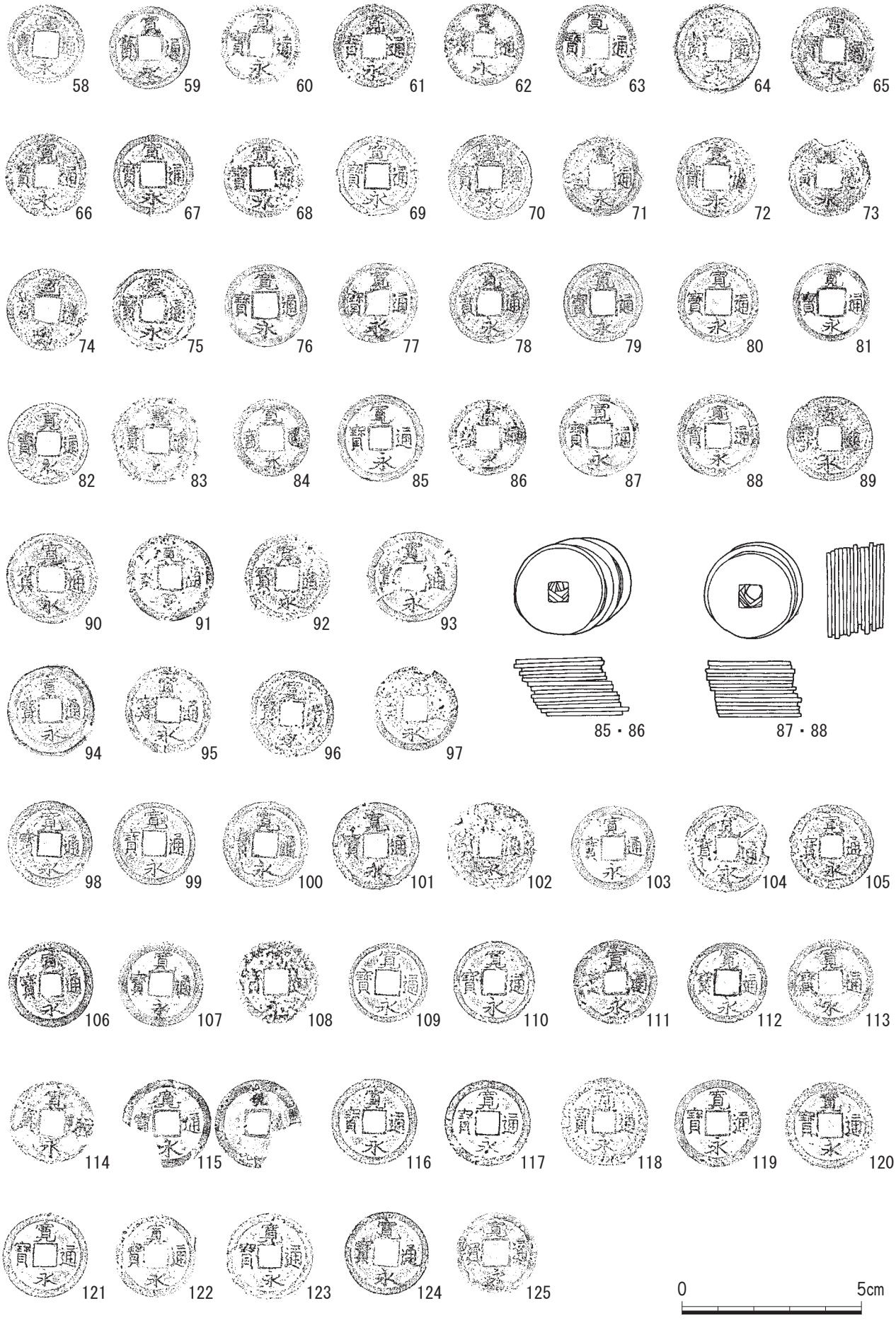
１）静岡いずみ会編『改訂第４版　穴銭入門　寛永通宝－新寛永銭の部－』書信館出版　2013
　　天保通寶研究会編『天保通寶と類似貨幣カタログ』書信館出版　2007
　　松尾吉陽『穴銭入門収集事始記　古寛永のいろは』書信館出版　2010ほか

２）仙台市『仙台市史　通史編５　近世３』2004

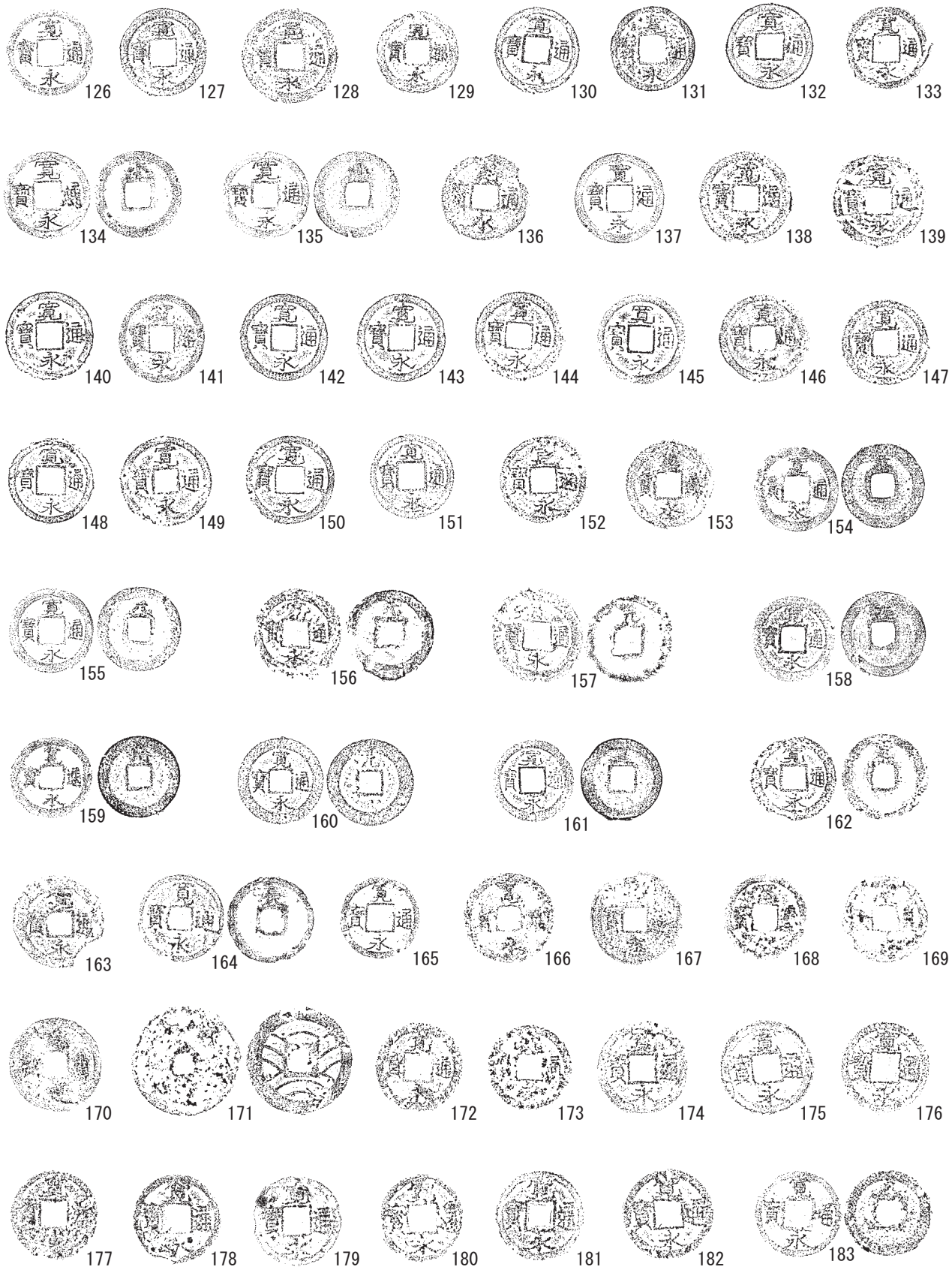
３）熊本市熊本城調査研究センター『熊本城跡発掘調査報告書１－飯田丸の調査－』2014



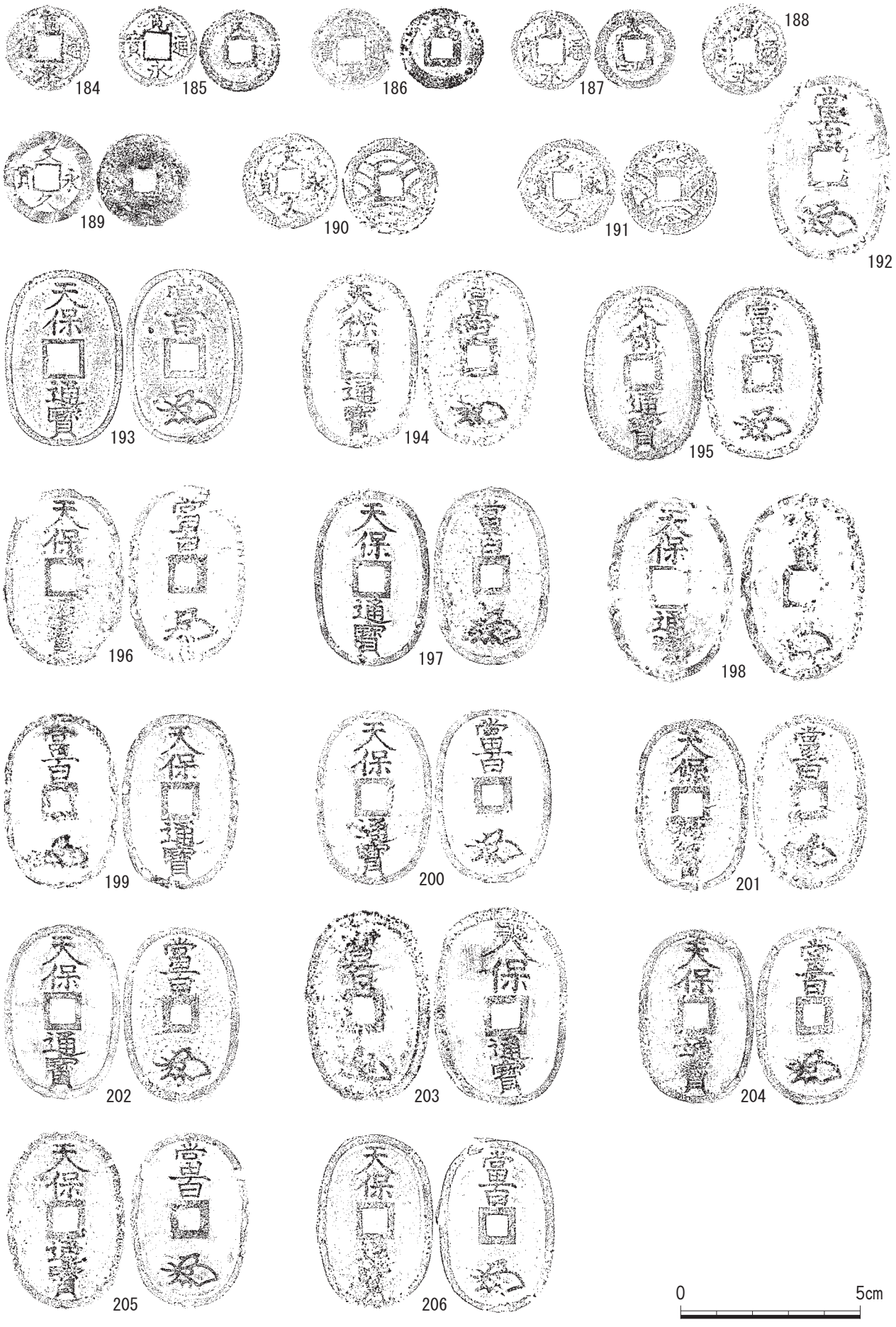
第390図　大広間出土銭貨拓影図１（２／３）



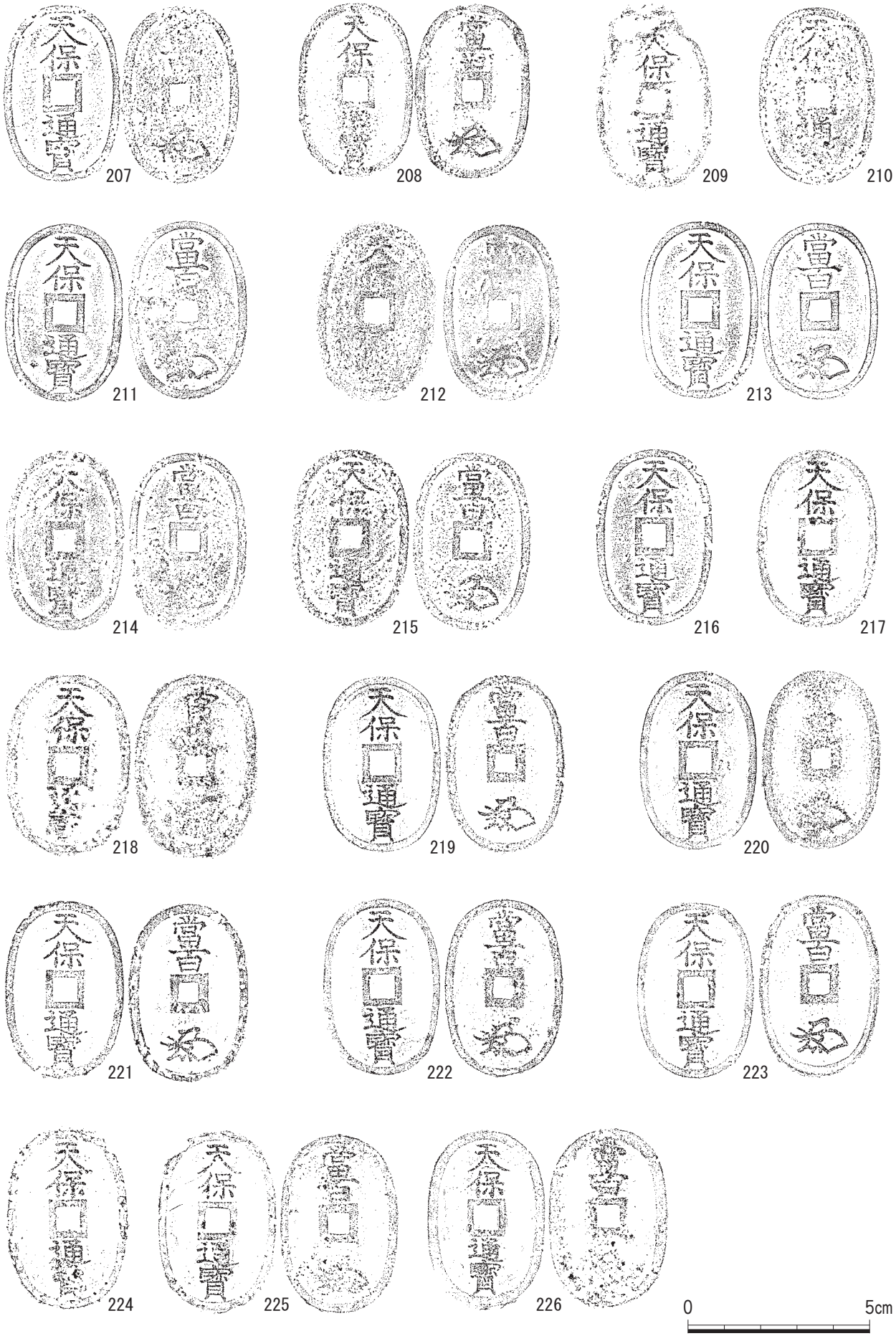
第391図　大広間出土銭貨拓影図２（２／３）



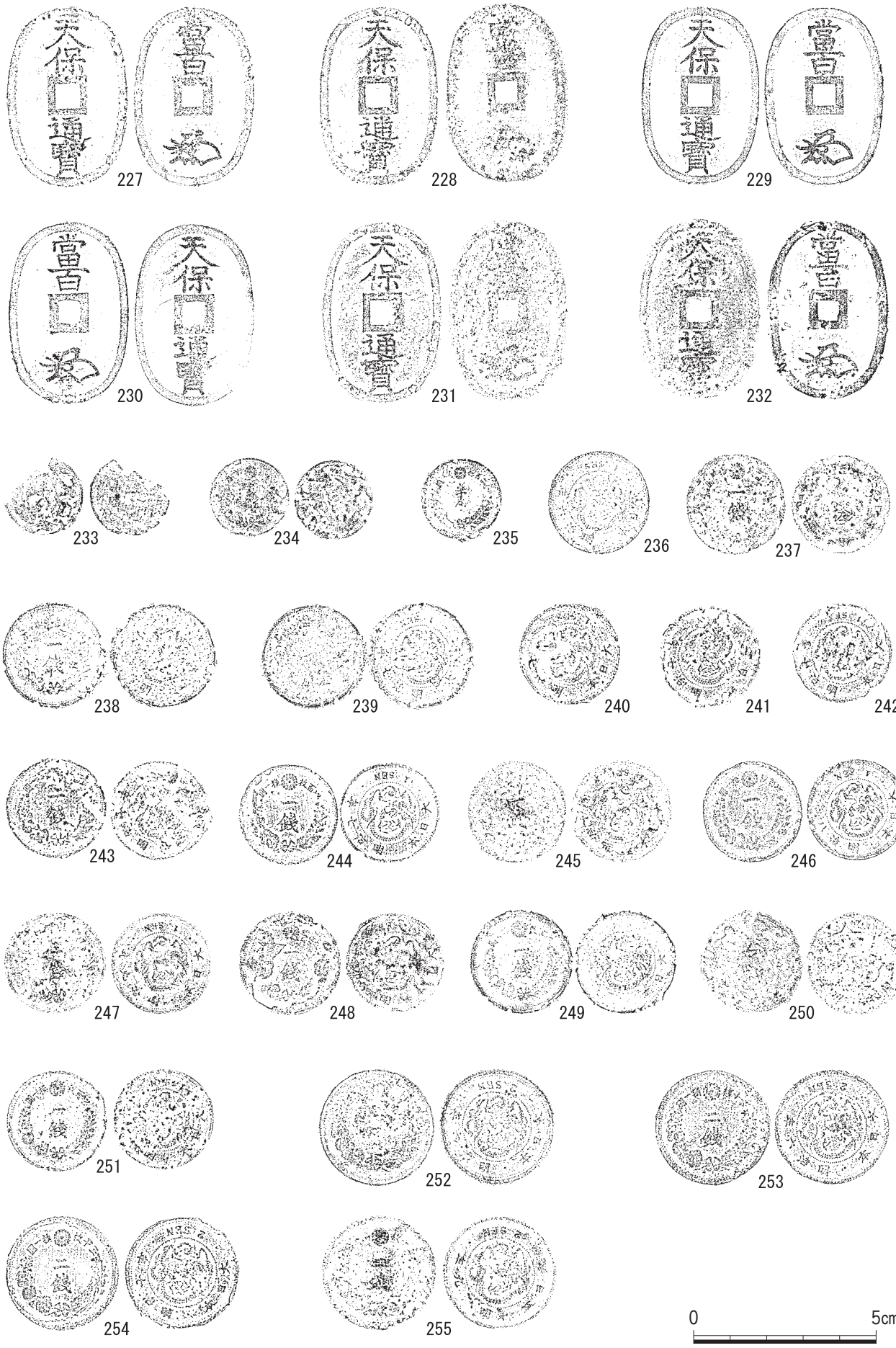
第392図　大広間出土銭貨拓影図３（２／３）



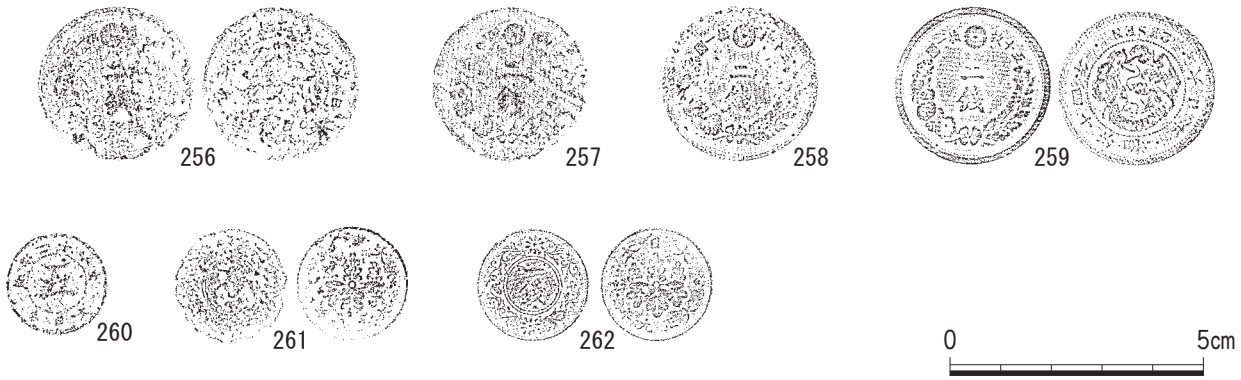
第393図　大広間出土銭貨拓影図４（２／３）



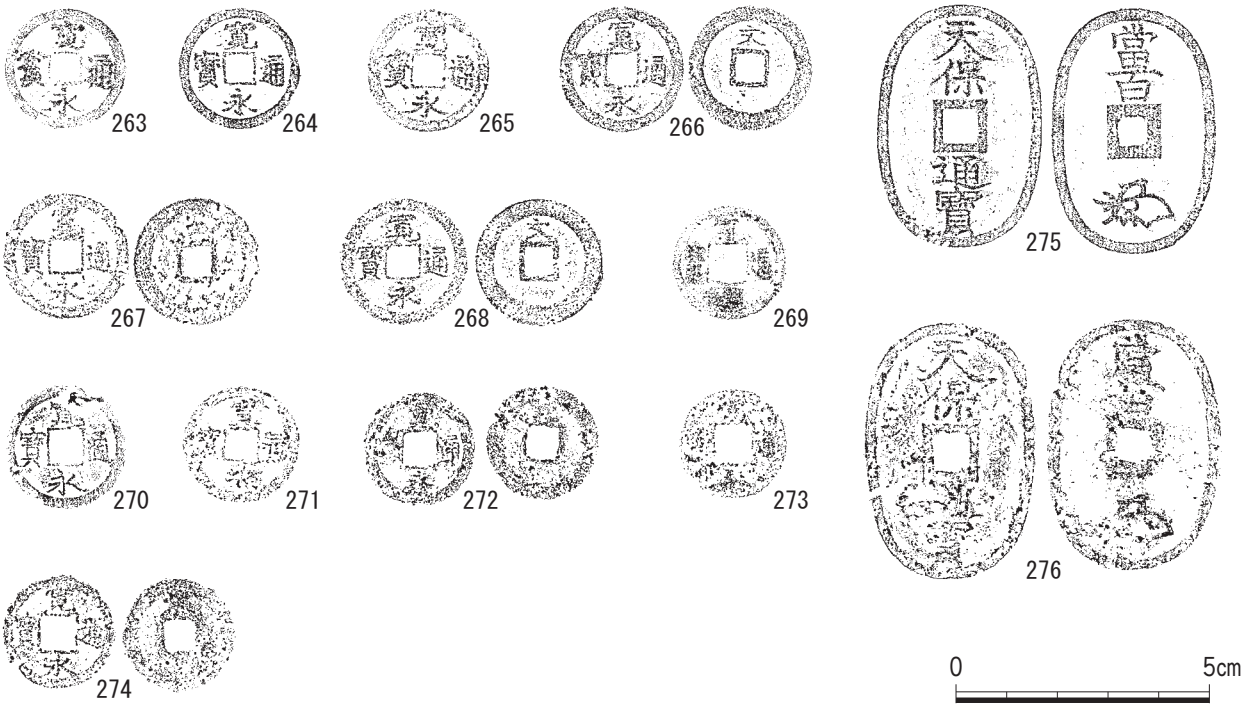
第394図　大広間出土銭貨拓影図５（２／３）



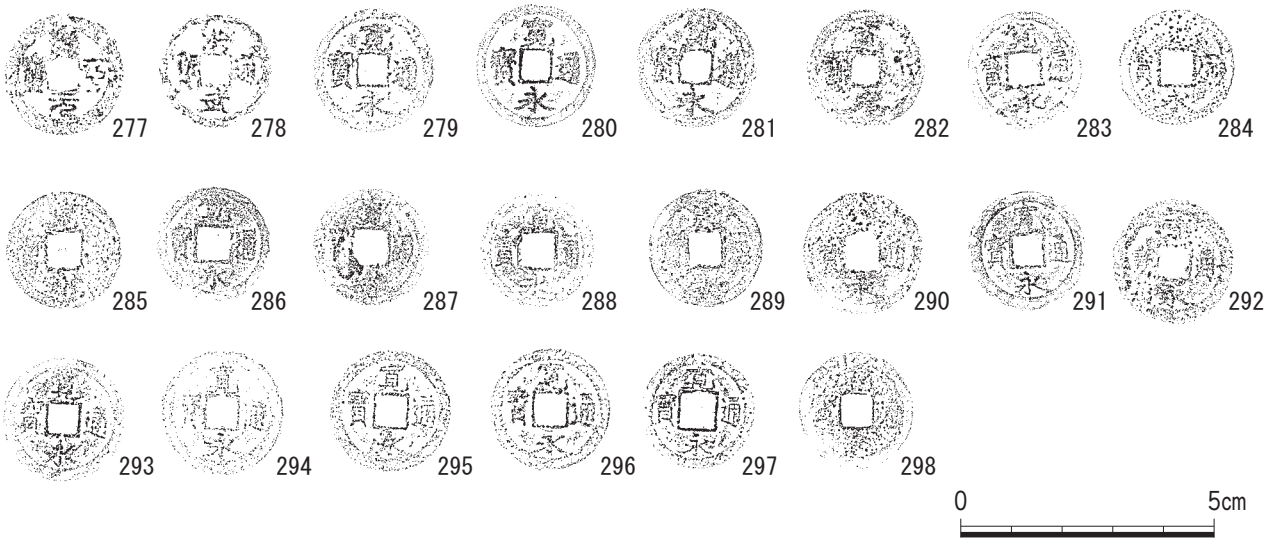
第395図　大広間出土銭貨拓影図６（２／３）



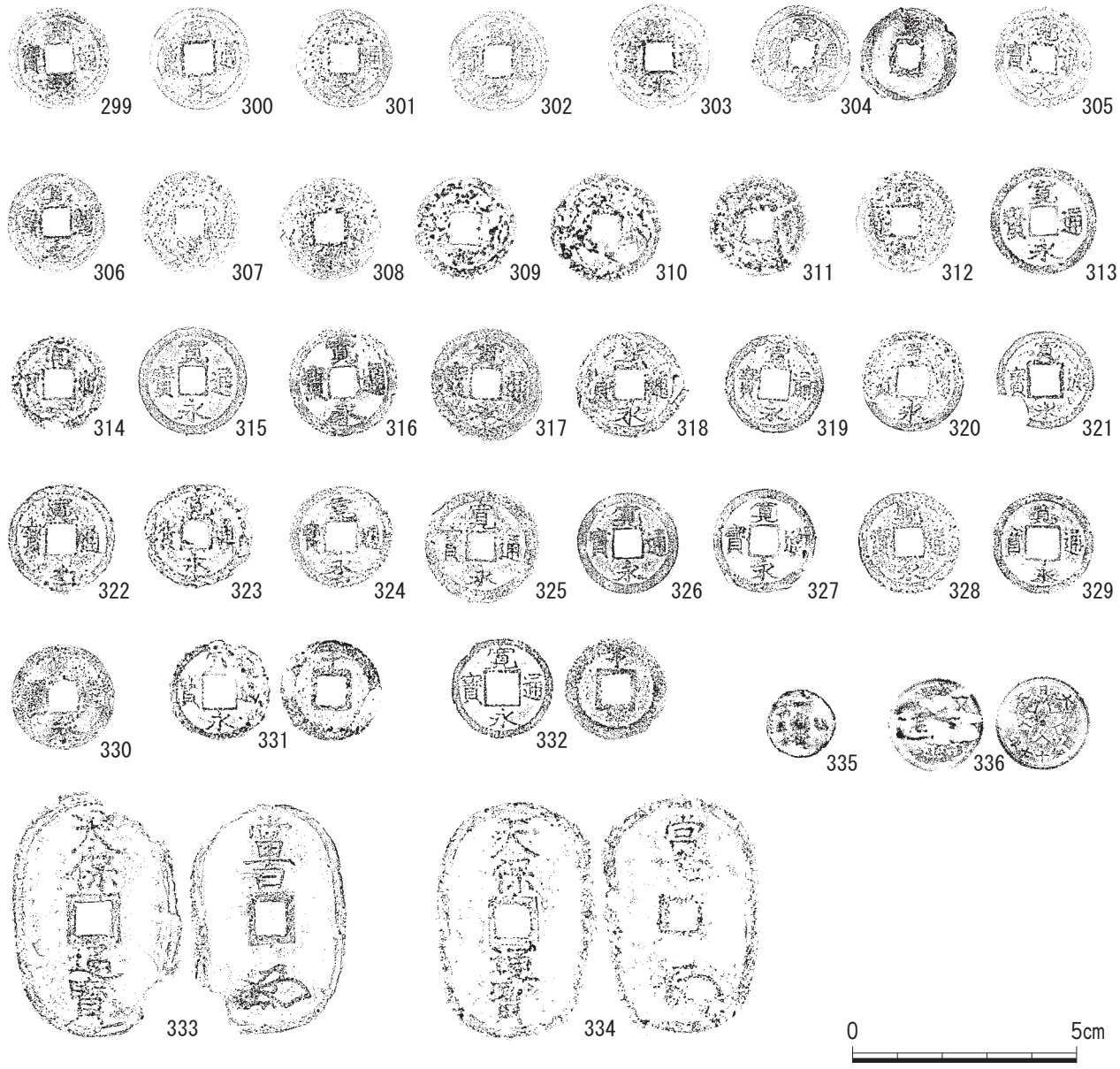
第396図　大広間出土銭貨拓影図７（２／３）



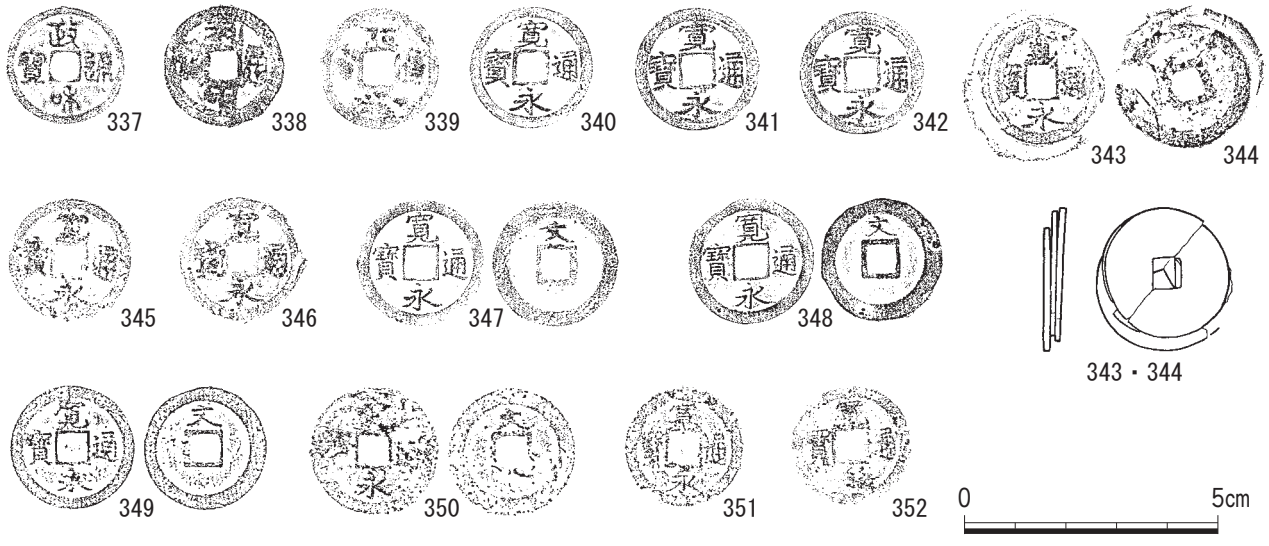
第397図　大御台所出土銭貨拓影図（２／３）



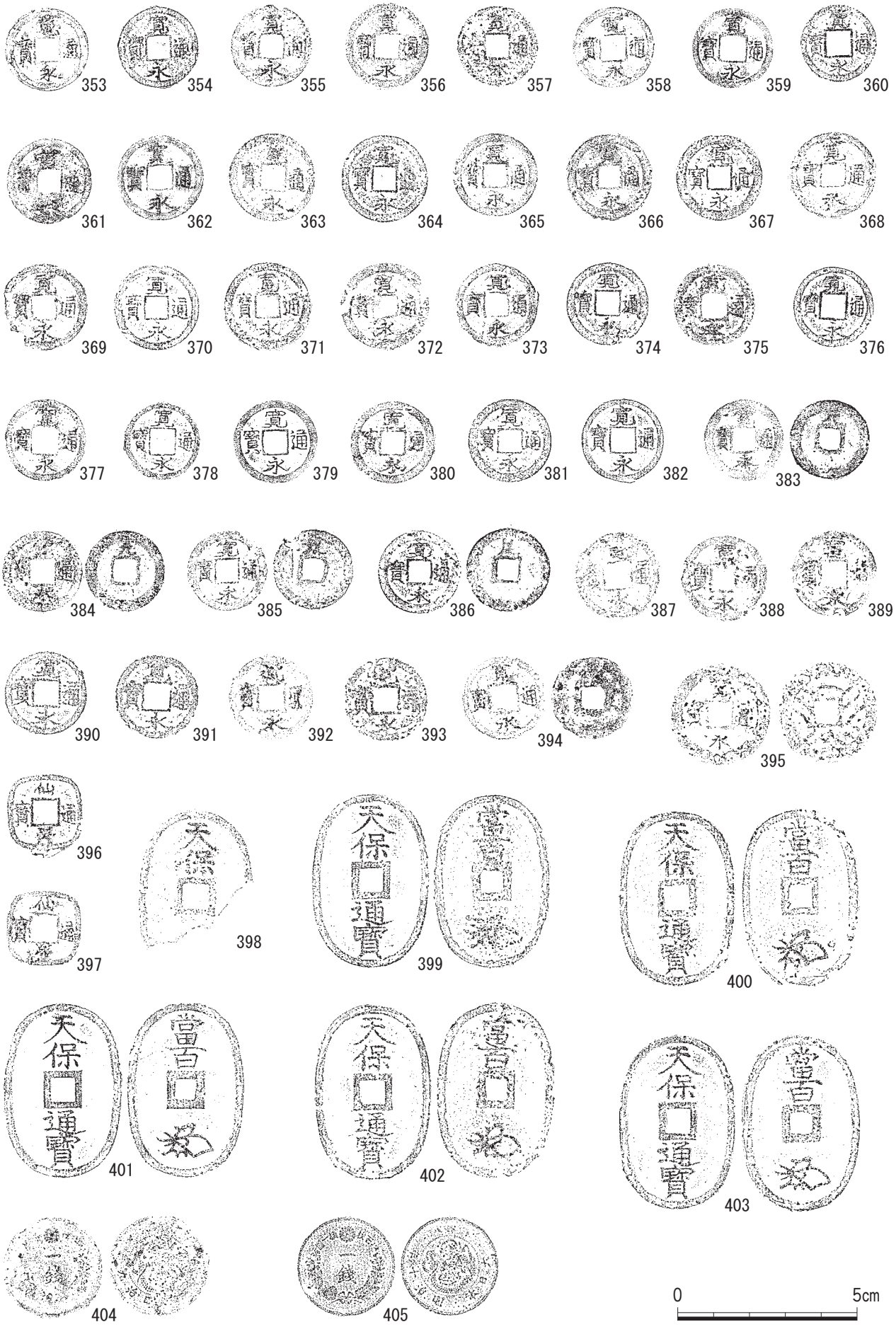
第398図　御小姓部屋出土銭貨拓影図１（２／３）



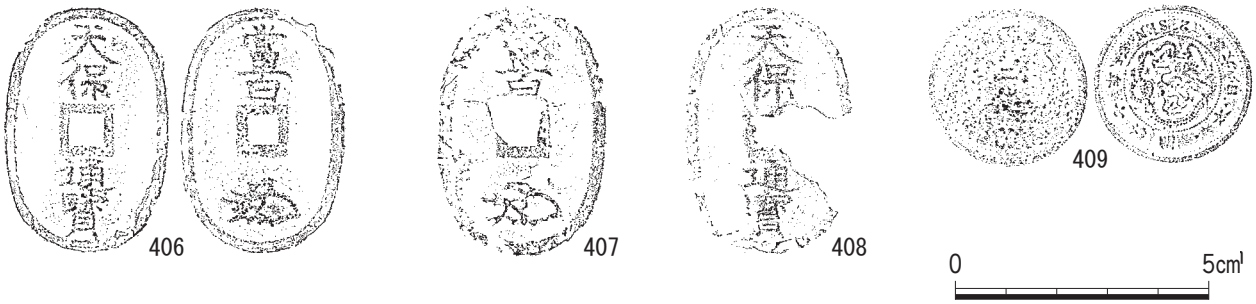
第399図　御小姓部屋出土銭貨拓影図２（２／３）



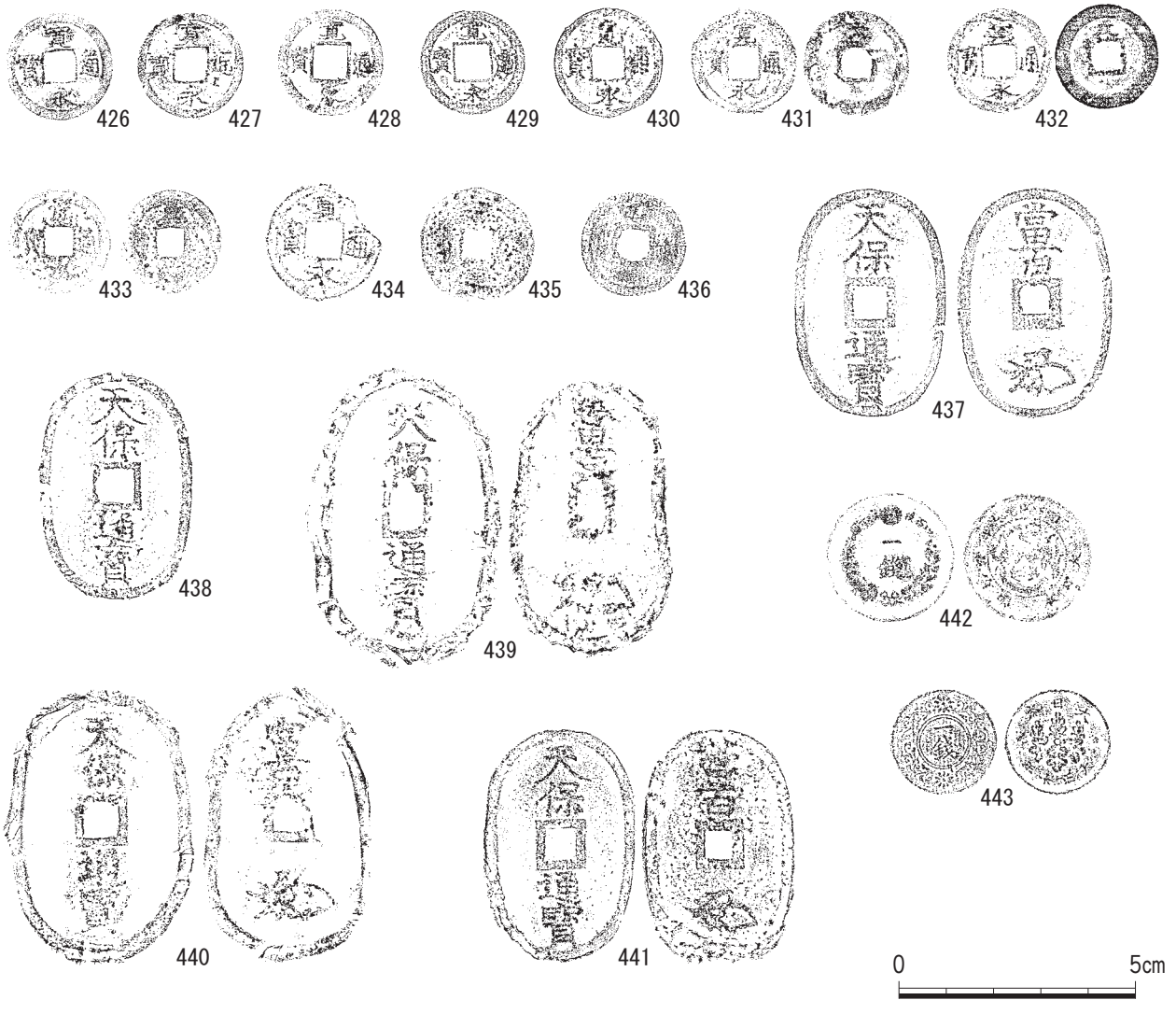
第400図　長之間出土銭貨拓影図１（２／３）



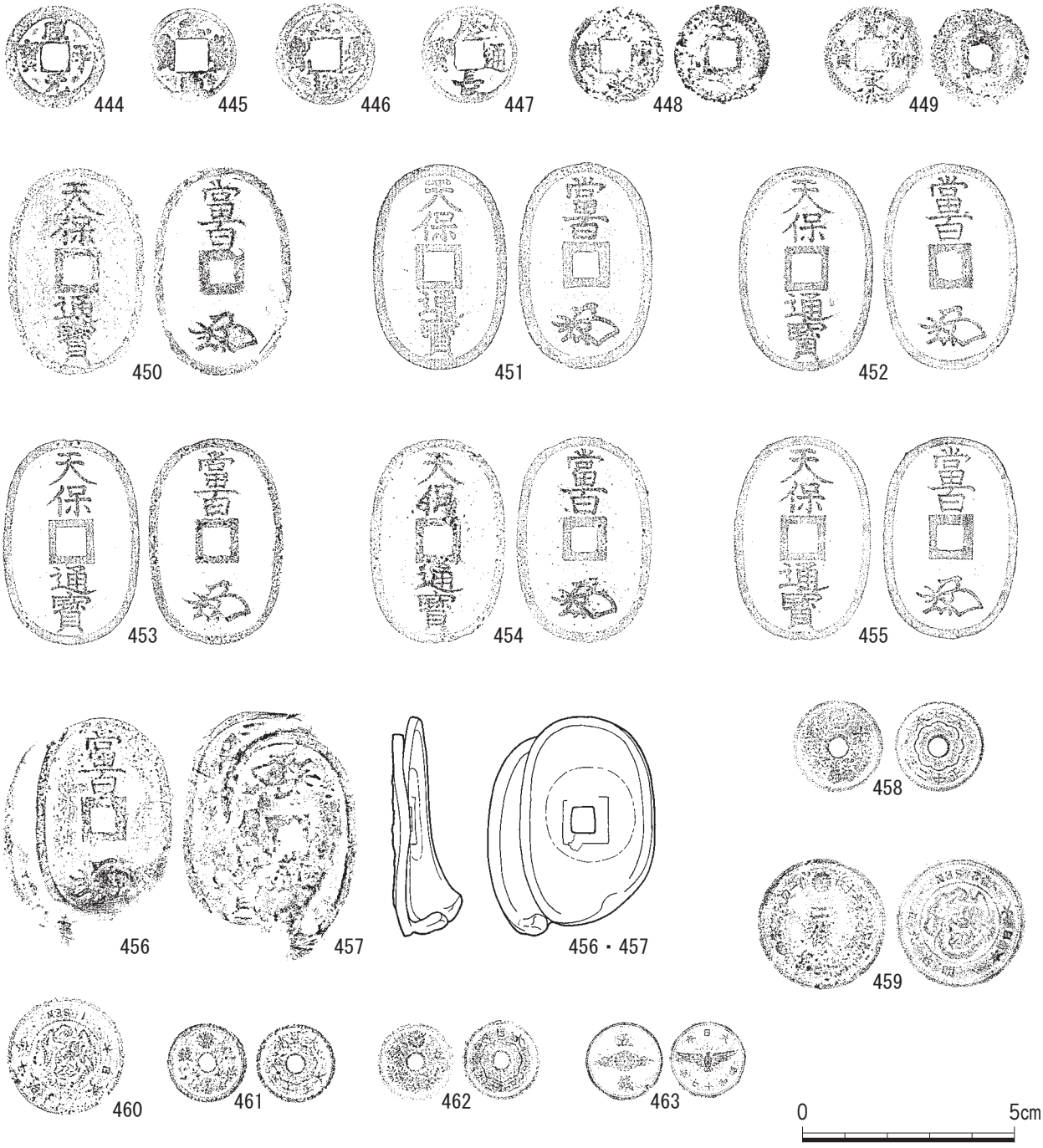
第401図　長之間出土銭貨拓影図２（２／３）



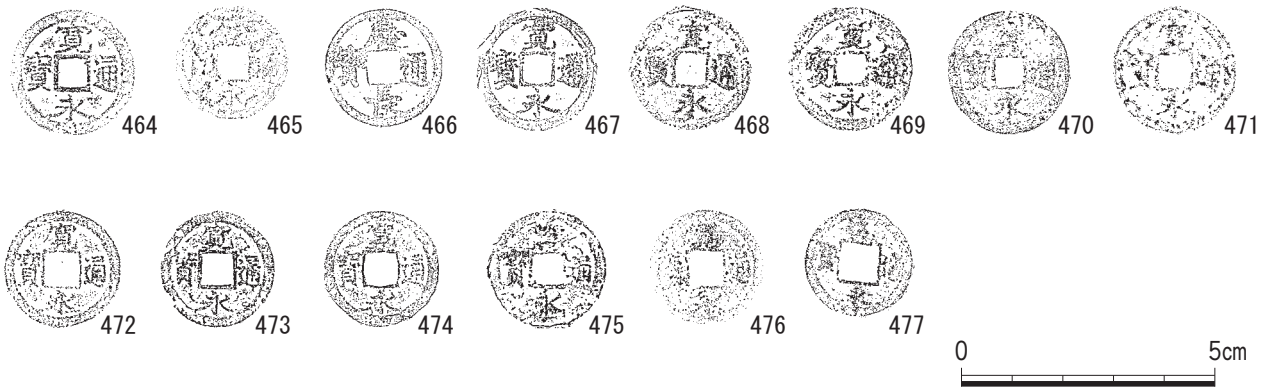
第402図　長之間出土銭貨拓影図３（２／３）



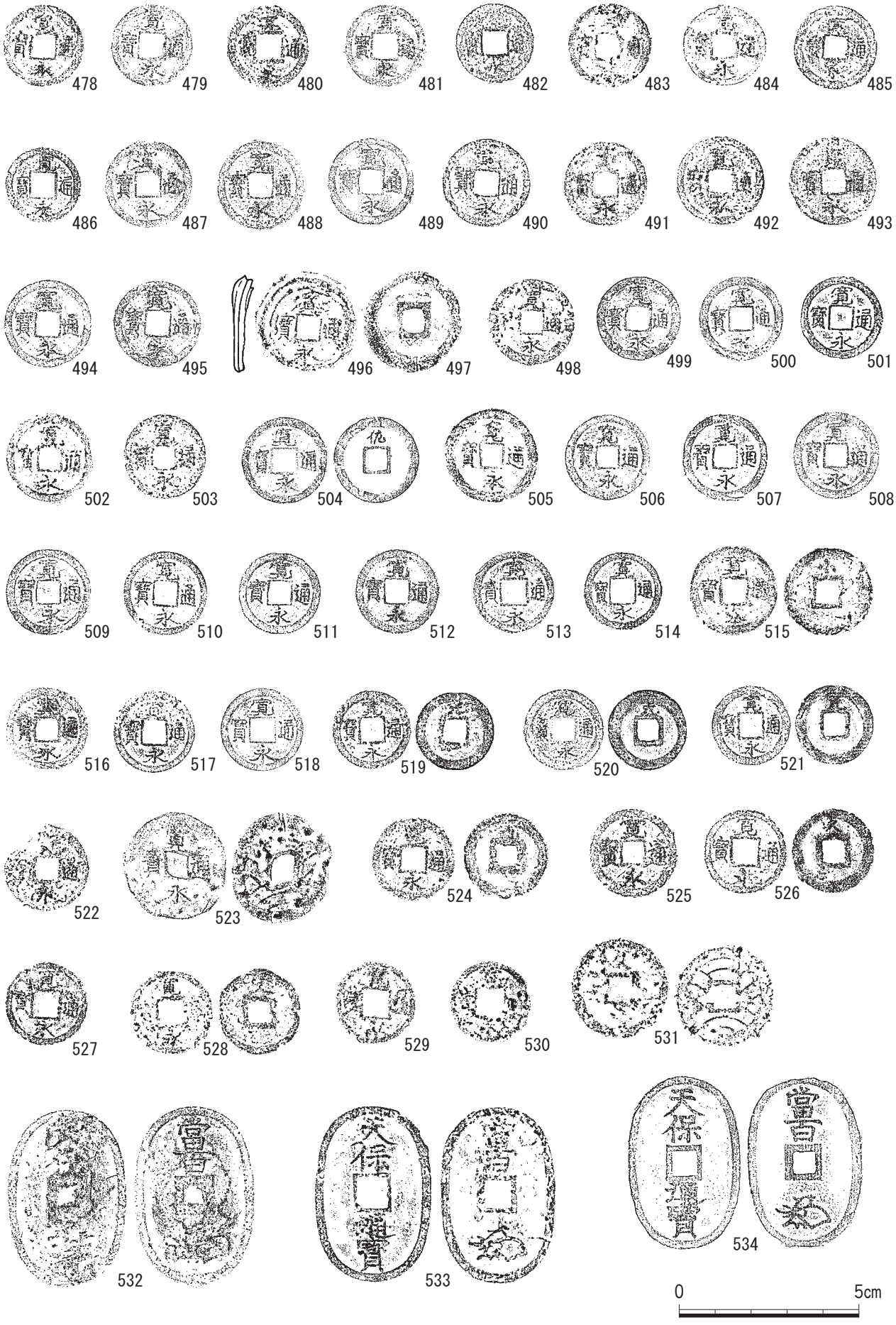
第403図　露地出土銭貨拓影図（２／３）



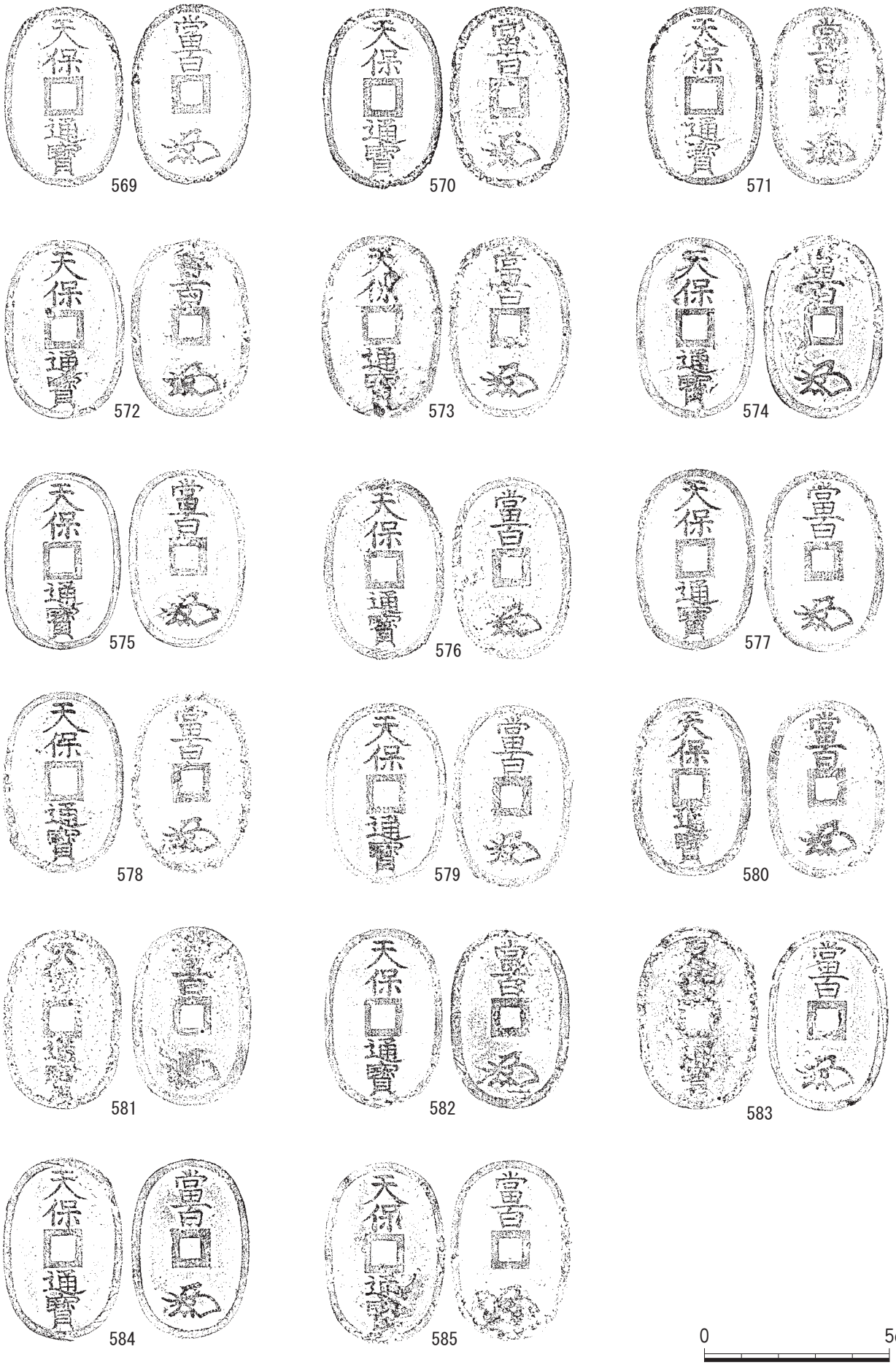
第404図　西廊下出土銭貨拓影図（２／３）



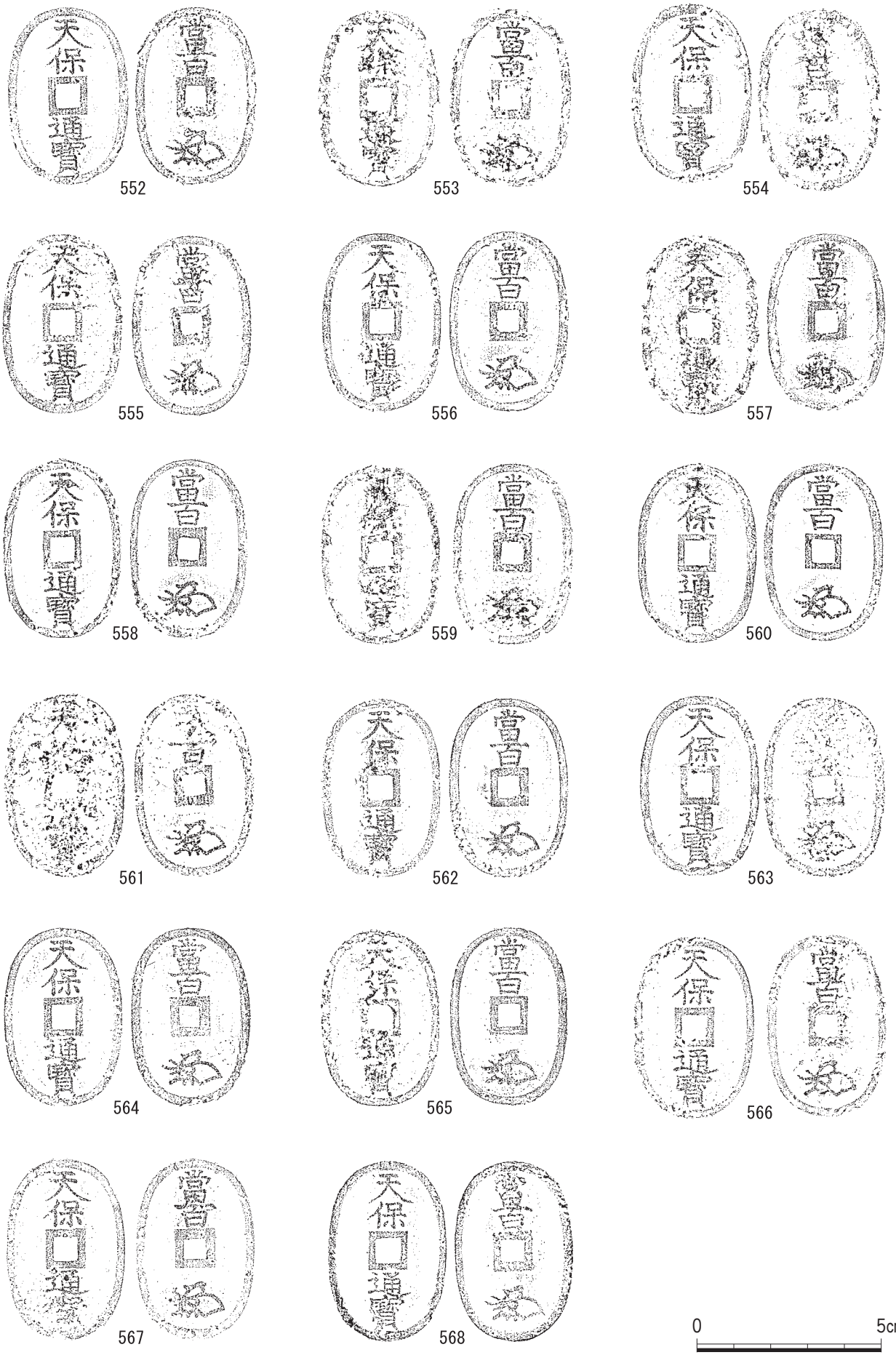
第405図　小広間出土銭貨拓影図１（２／３）



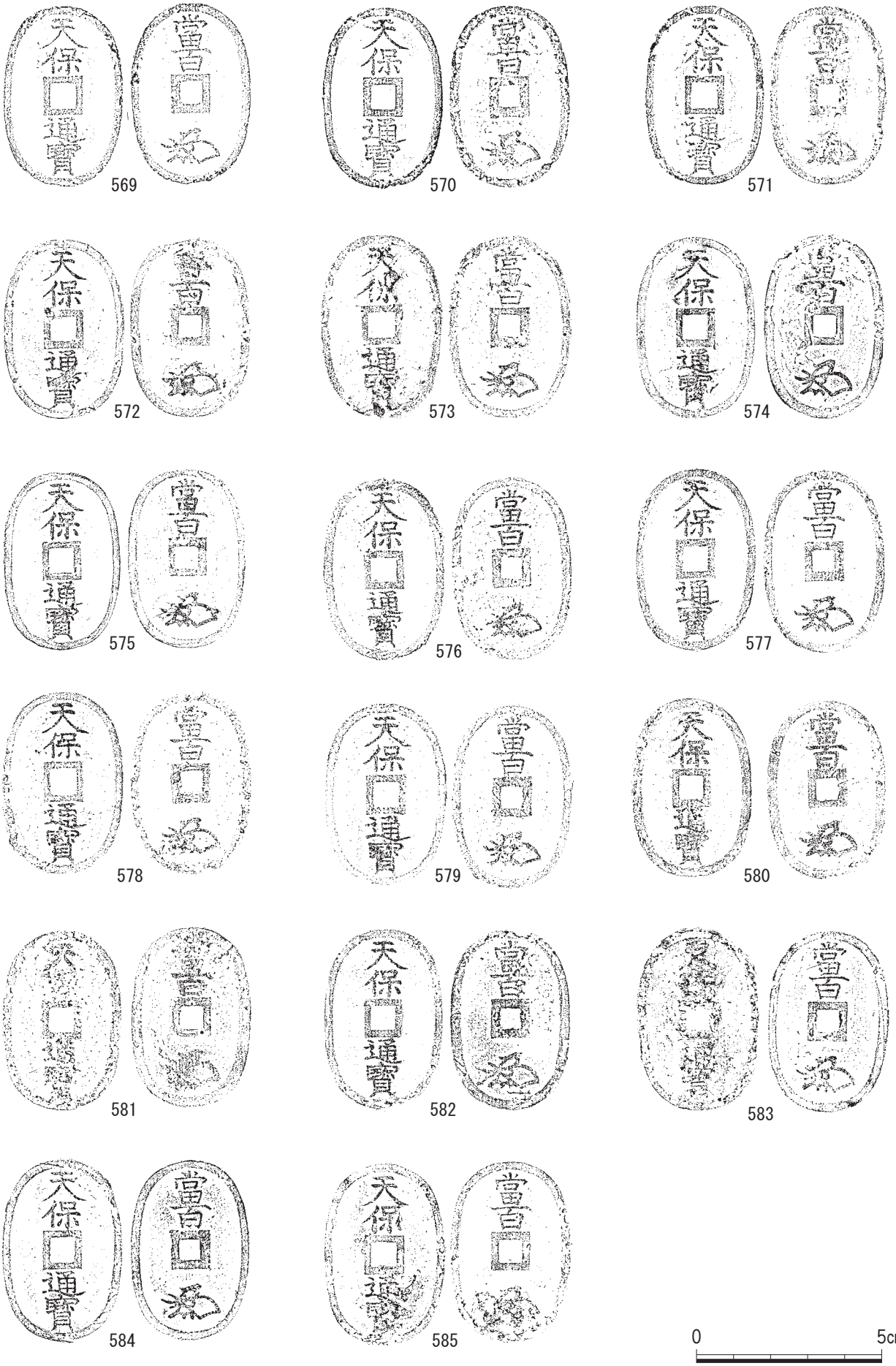
第406図　小広間出土銭貨拓影図２（２／３）



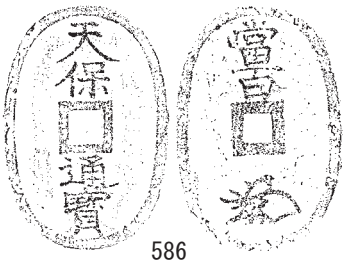
第407図　小広間出土銭貨拓影図３（２／３）

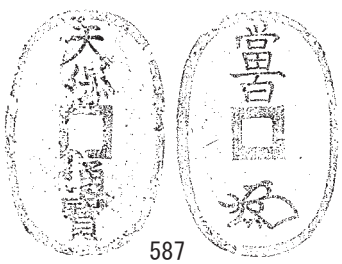


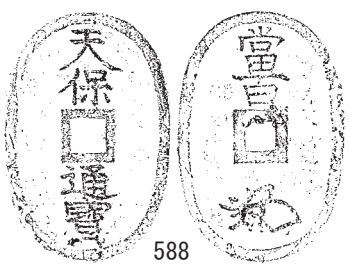
第408図　小広間出土銭貨拓影図４（２／３）

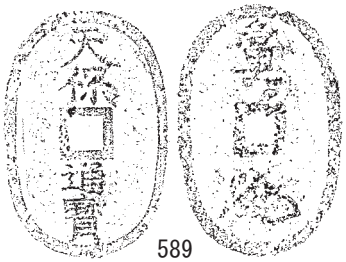


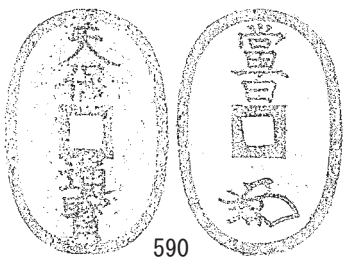
第409図　小広間出土銭貨拓影図５（２／３）

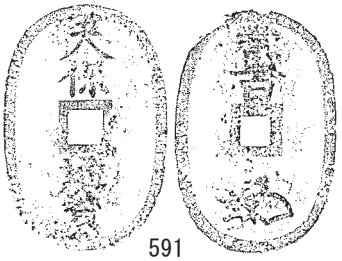

586

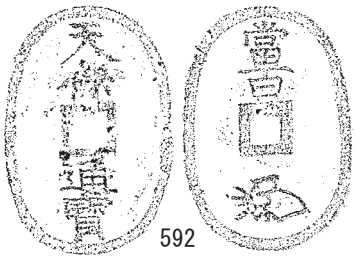

587

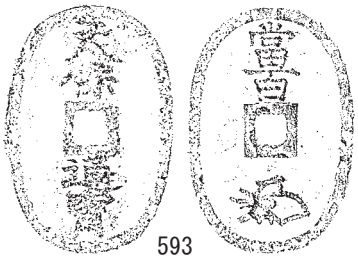

588

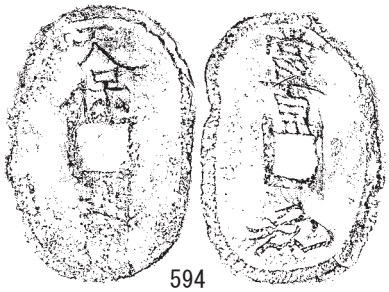

589

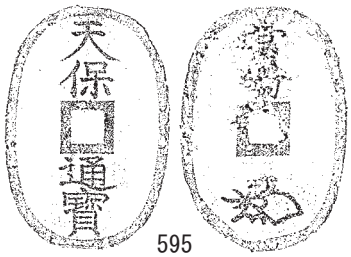

590

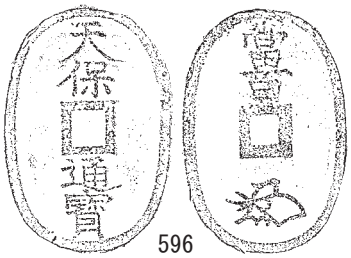

591

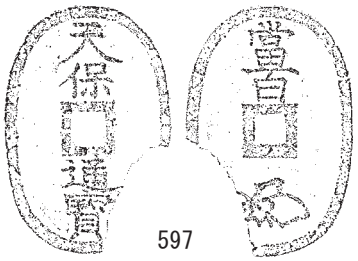

592

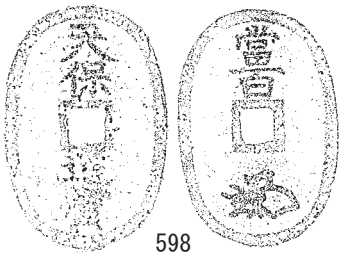

593

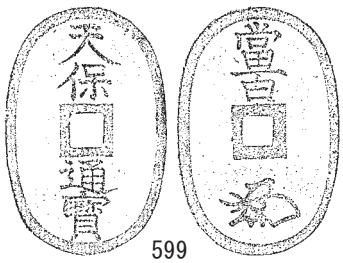

594

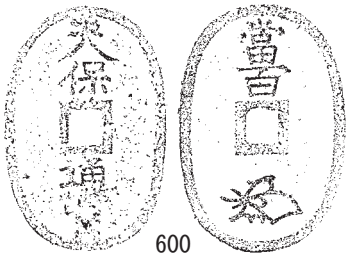

595

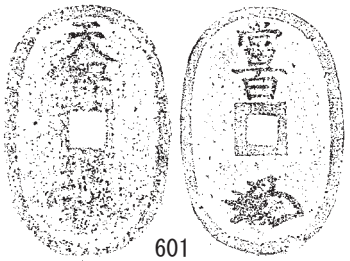

596

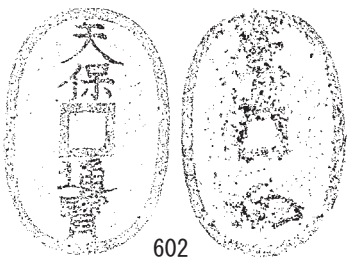

597


598


599

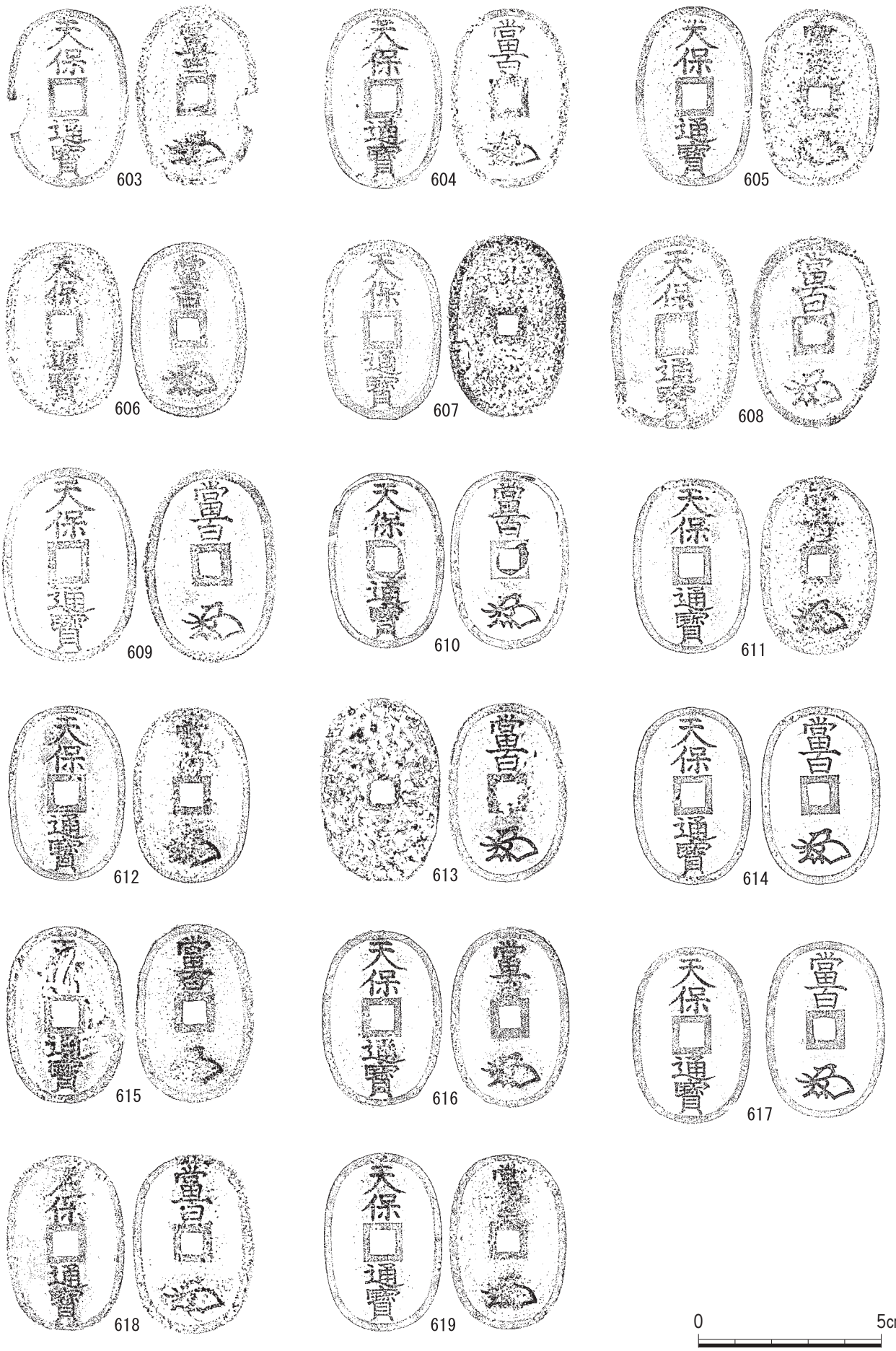

600


601

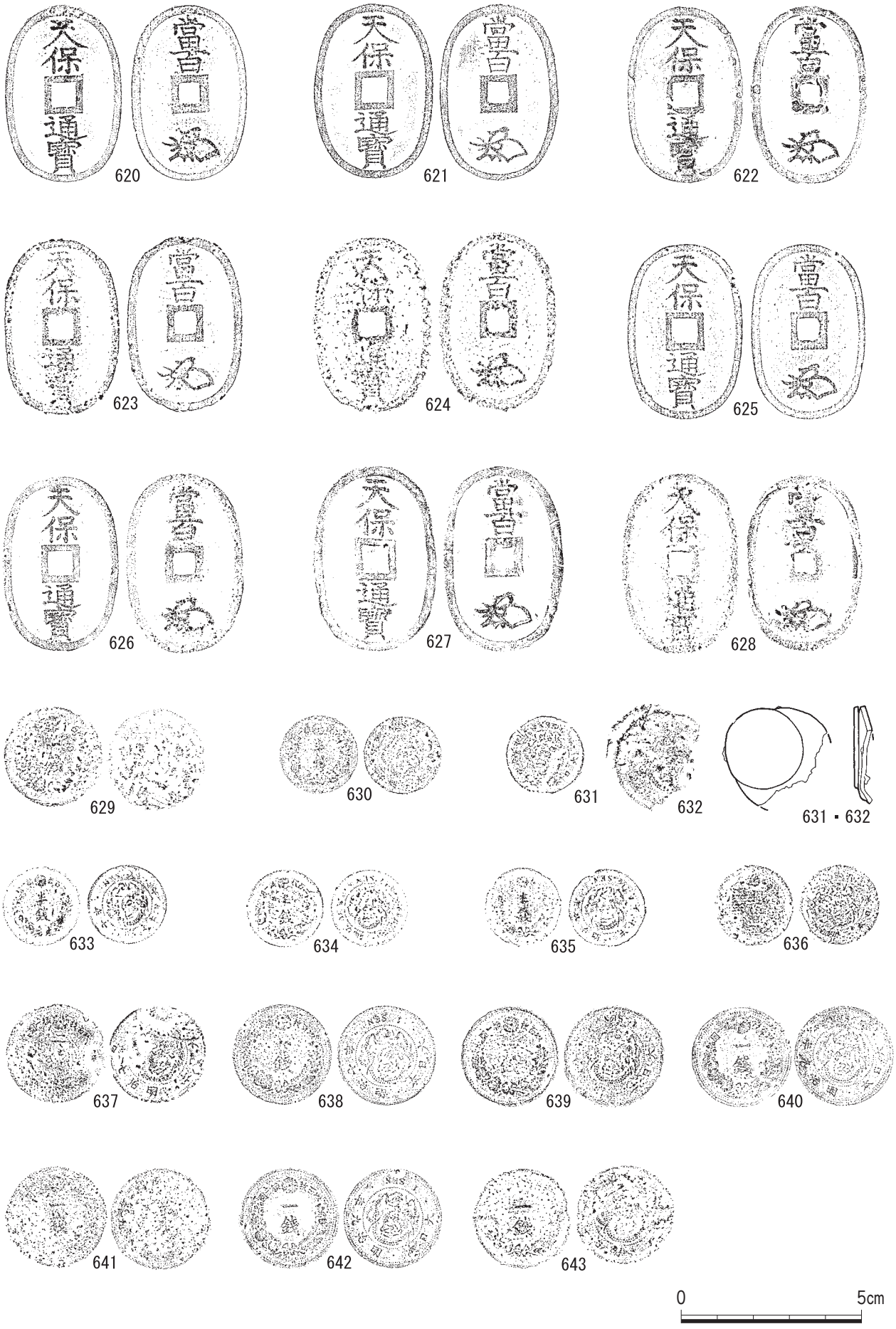

602

0 5cm

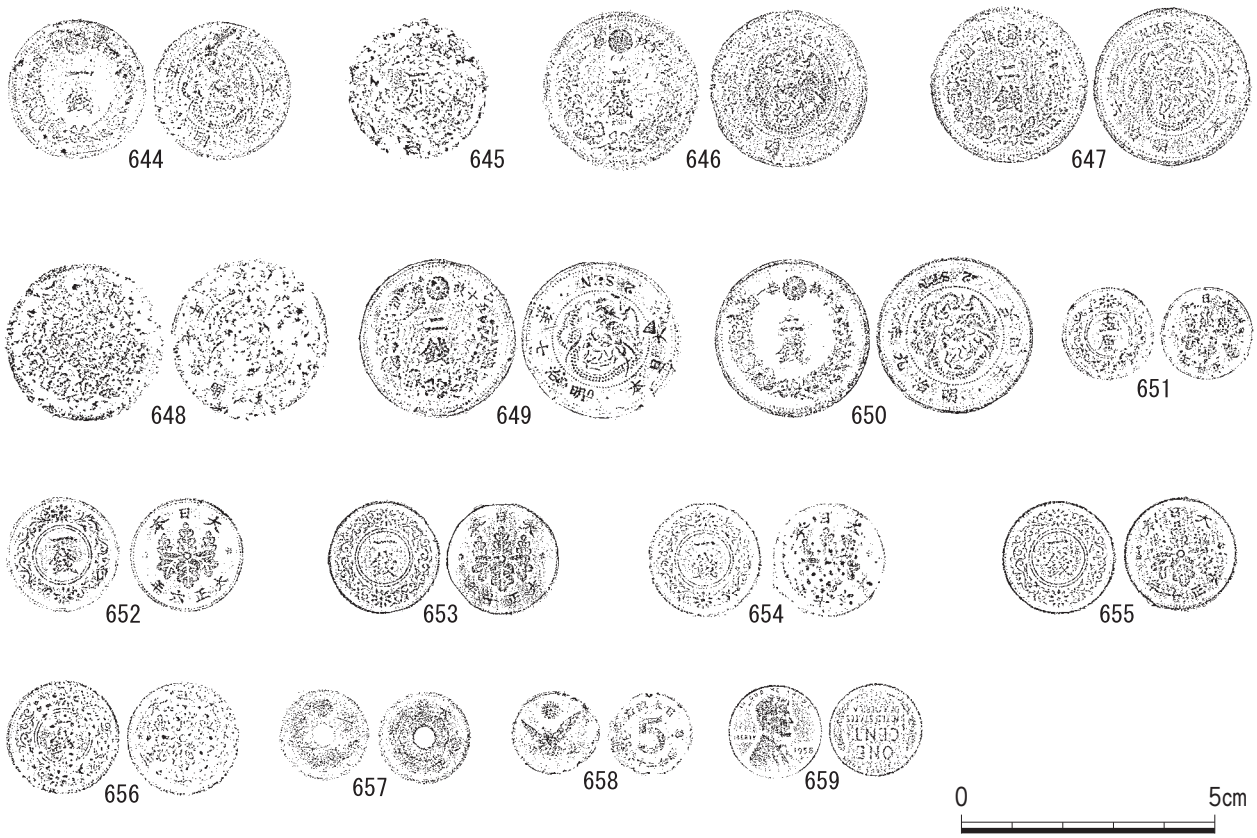
第410図　小広間出土銭貨拓影図６（２／３）



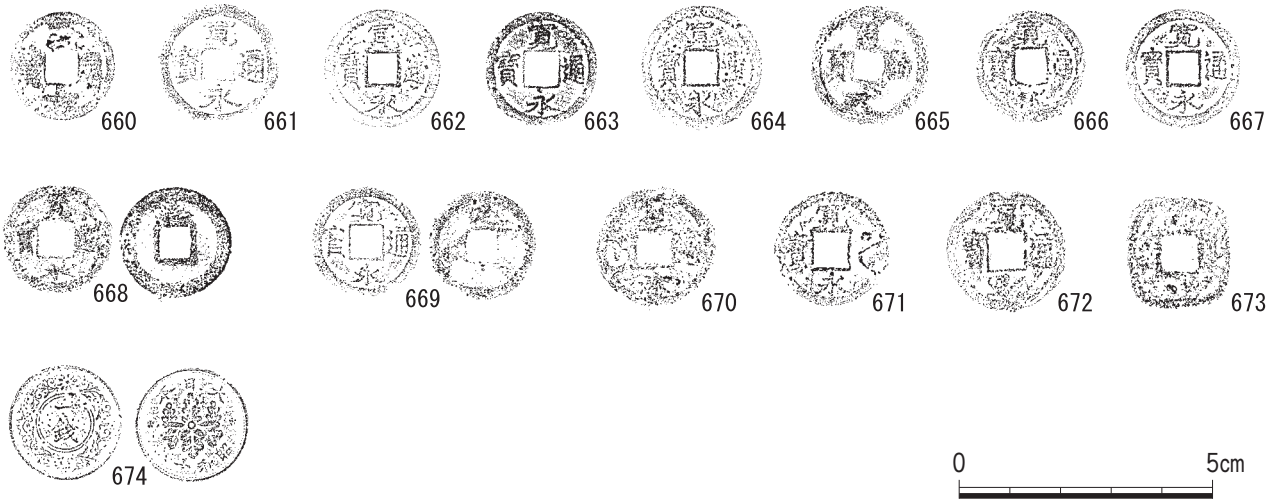
第411図　小広間出土銭貨拓影図７（２／３）



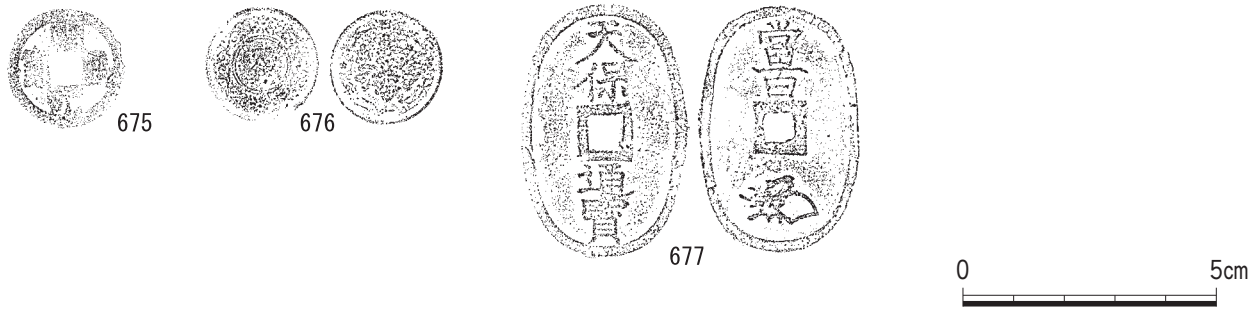
第412図　小広間出土銭貨拓影図８（２／３）



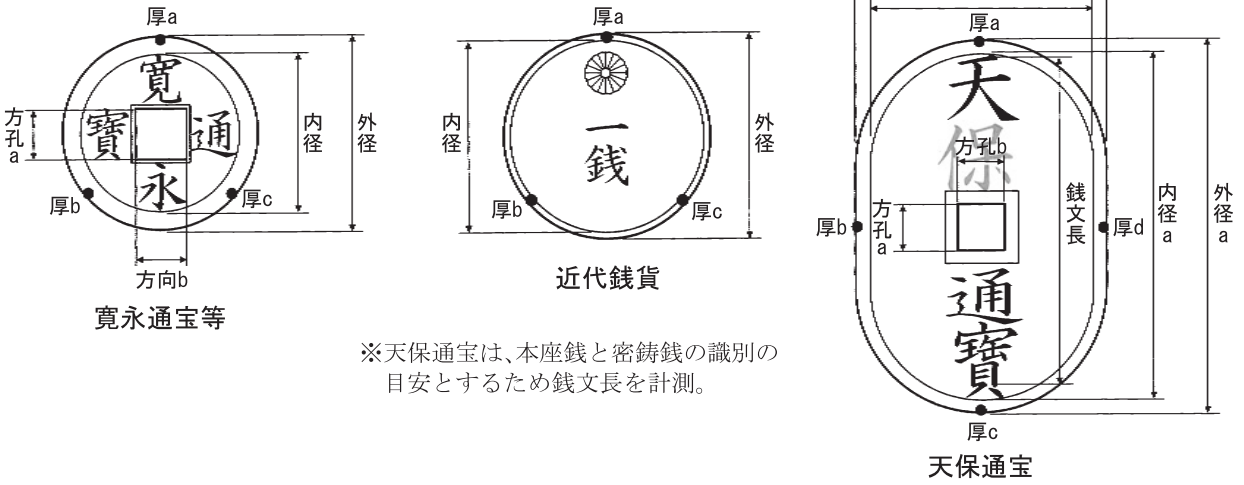
第413図　小広間出土銭貨拓影図９（２／３）



第414図　長局御櫓出土銭貨拓影図（２／３）



第415図　その他出土の銭貨拓影図（２／３）



※天保通宝は、本座銭と密鋳銭の識別の目安とするため銭文長を計測。

第416図　銭貨計測部位凡例

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (1)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
390－1	53	大広間	F81-54，Ⅱ層	天禧通宝	北宋	1017年始鋳	25.8	21.0	6.3	6.3	1.3	1.1	1.1	模鋳銭	
－2	510	大広間	F82-57，Ⅰ層	天聖元宝	北宋	1023年始鋳	24.7	21.9	7.3	6.9	1.3	1.1	1.3	本銭，篆書	
－3	151	大広間	F81-55，Ⅲ層	天聖元宝	北宋	1023年始鋳	24.7	20.4	6.4	6.2	1.4	1.2	1.1	本銭，真書	○
－4	1	大広間	F79-57，Ⅰ層	永楽通宝	明	1408年始鋳	25.5	21.5	5.7	5.7	1.4	1.8	1.4	本銭	
－5	7	大広間	F80-62，Ⅰ層	洪化通宝	清初三藩	1678年始鋳	(22.1)	(18.8)	5.3	5.2	1.6	1.6	1.6	歪み，本模不明	○
－6	606	大広間	SKⅠ002	寛永通宝（新）	藤沢・吉田島銭	元文期	22.5	18.7	7.3	7.5	1.0	0.9	1.0		○
－7	607	大広間	SXⅠ004	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.5	6.4	6.4	1.1	1.1	1.1		
－8	610	大広間	SXⅠ004	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.5	18.7	6.3	6.5	1.1	1.0	1.1		
－9	608	大広間	SXⅠ004	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	21.0	18.7	6.5	6.3	1.1	1.0	1.1		
－10	609	大広間	SXⅠ004	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	22.9	18.4	6.2	6.2	1.3	1.3	1.3		
－11	65	大広間	F82-58，Ⅱ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	(24.1)	(18.3)	6.0	6.0	1.1	1.1	1.1	歪み	○
－12	216	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	25.8	20.3	5.5	5.5	1.6	1.6	1.3		
－13	17	大広間	F84-58，Ⅰ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	24.9	21.4	5.5	5.4	1.4	1.3	1.3		

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (2)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
390－14	237	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	23.8	19.7	5.5	5.5	1.3	1.4	1.4		○
－15	66	大広間	F82-59，Ⅱ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	24.9	20.1	5.7	5.7	1.3	1.3	1.3		○
－16	195	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	24.5	20.5	5.2	5.3	1.5	1.6	1.5		○
－17	239	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（古）	浅草銭	寛永期	24.6	18.0	5.4	5.5	1.4	1.4	1.5		○
－18	542	大広間	F83-61，Ⅲ層	寛永通宝（古）	芝銭	寛永期	23.3	19.0	5.8	6.2	0.8	1.0	1.0		
－19	2	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（古）	芝銭	寛永期	24.0	20.3	5.5	5.5	1.3	1.3	1.1		
－20	564	大広間	F82-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	長門銭	寛永期	24.5	20.0	5.2	5.5	1.2	1.1	1.2		
－21	495	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（古）	長門銭	寛永期	(24.5)	(20.0)	5.4	5.7	1.4	1.5	1.3	歪み	○
－22	539	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	24.7	20.2	6.0	6.3	1.4	1.3	1.1	加工銭（外縁面取り）	
－23	64	大広間	F82-58，Ⅱ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	24.9	20.8	6.0	6.0	1.3	1.3	1.2		○
－24	108	大広間	F78-55，Ⅰ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	24.9	19.7	6.4	6.4	1.4	1.2	1.4	固着痕	○
－25	58	大広間	F81-54，Ⅱ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	24.9	19.6	6.4	6.4	1.6	1.5	1.4		
－26	160	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	25.3	19.6	6.6	6.6	1.5	1.6	1.5		
－27	555	大広間	F83-58，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.8	21.6	5.5	5.2	1.3	1.4	1.5		○
－28	110	大広間	F78-56，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.5	20.2	6.1	6.1	1.4	1.5	1.4		
－29	234	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.8	19.8	5.6	5.3	1.3	1.4	1.4		
－30	109	大広間	F78-55，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.3	19.9	5.7	5.9	1.4	1.4	1.3	固着痕	
－31	238	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.5	19.8	5.6	5.6	1.2	1.1	1.1		○
－32	575	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.5	20.5	5.5	5.8	1.2	1.2	1.2		
－33	201	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.2	19.4	5.7	5.7	1.2	1.2	1.2	固着痕	○
－34	11	大広間	F81-58，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.7	21.1	6.0	5.5	1.5	1.5	1.4		○
－35	221	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.6	19.7	5.3	5.2	1.1	1.1	1.2		
－36	9	大広間	F81-58，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.7	21.5	6.0	6.0	1.5	1.4	1.5		○
－37	60	大広間	F81-55，Ⅱ層	寛永通宝（古）	鳥越銭	明暦期	24.9	20.3	6.0	5.8	1.4	1.6	1.4		○
－38	229	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	鳥越銭	明暦期	25.5	21.0	6.1	6.1	1.6	1.6	1.7		○
－39	129	大広間	F81-53，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明		25.0	20.2	5.8	5.8	1.5	1.3	1.2	歪み	○
－40	156	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明		26.5	20.9	6.2	6.0	1.6	1.6	1.5	歪み，平面膨張？	○
－41	194	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明		24.1	19.9	5.2	5.4	1.5	1.5	1.5		○
－42	192	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明		23.9	20.4	(6.1)	(6.2)	(0.8)	(0.9)	(0.9)		○
－43	242	大広間	F82-55，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明		26.2	21.7	6.0	6.0	1.5	1.2	1.5	歪み，平面膨張？	○
－44	59	大広間	F81-55，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	21.7	5.5	5.6	1.4	1.3	1.3		

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (3)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
390－45	573	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.5	20.5	5.8	5.4	1.2	1.3	1.3		○
－46	496	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.4	6.0	5.9	1.4	1.4	1.3		
－47	498	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.8	5.6	6.0	1.4	1.4	1.5	固着痕	
－48	499	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.4	5.6	5.8	1.3	1.5	1.5	固着痕	
－49	514	大広間	F83-59，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.5	21.0	5.6	6.0	1.2	1.2	1.4		
－50	67	大広間	F84-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.6	6.0	6.0	1.3	1.3	1.3		
－51	500	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.4	20.5	5.8	6.0	1.3	1.3	1.2	固着痕	
－52	501	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.1	20.8	6.2	6.3	1.3	1.3	1.3	固着痕	
－53	502	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.5	21.2	6.2	6.2	1.2	1.3	1.3	固着痕	○
－54	10	大広間	F81-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.1	21.6	6.0	5.8	1.4	1.3	1.4		○
－55	494	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.1	6.0	6.0	1.1	1.1	1.1	固着痕	
－56	193	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	(24.6)	(20.4)	(5.0)	(5.3)	(1.2)	(1.2)	(1.4)	背は溶着物顕著	○
－57	222	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	23.6	18.9	5.7	5.7	1.2	1.1	1.3	歪み	○
391－58	558	大広間	F83-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	江戸萩原銭	元禄期	22.6	19.0	6.9	7.0	1.3	1.2	1.1		
－59	504	大広間	F80-63，Ⅰ層	寛永通宝（新）	江戸萩原銭	元禄期	23.4	19.7	6.3	6.3	1.0	1.0	1.0		
－60	56	大広間	F81-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.0	6.1	6.1	1.1	1.1	1.1		
－61	148	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.9	19.9	6.3	6.3	1.5	1.5	1.6		○
－62	512	大広間	F82-60，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.4	—	6.1	6.1	1.3	1.6	1.3		○
－63	43	大広間	F78-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.1	6.4	6.4	1.3	1.2	1.4		
－64	535	大広間	F83-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.0	6.4	6.6	1.2	1.2	1.2		
－65	146	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	24.4	(20.0)	6.1	6.0	1.7	1.7	1.7	歪み	○
－66	187	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.7	19.5	6.2	6.1	1.4	1.5	1.5		
－67	207	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	18.8	6.5	6.5	1.4	1.3	1.4		○
－68	224	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.6	18.4	6.3	6.4	1.1	1.2	1.0		
－69	226	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.0	6.3	6.3	1.3	1.2	1.1		○
－70	571	大広間	F82-61，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	24.1	20.4	6.0	6.6	1.7	1.5	1.6		○
－71	157	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.4	18.4	6.6	6.6	1.2	1.2	1.3		○
－72	161	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	18.9	6.1	6.2	1.1	1.1	1.1		
－73	162	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.7	18.5	6.2	6.2	1.4	1.4	1.3		○
－74	189	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.7	6.4	6.4	1.1	1.1	1.2		○
－75	204	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.8	19.1	6.2	6.2	1.3	1.4	(1.3)		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (4)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
391－76	213	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.8	19.4	6.4	6.4	1.1	1.1	1.1	歪み	○
－77	134	大広間	F81-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.1	18.9	6.4	6.4	1.1	1.1	1.1		
－78	196	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	18.9	6.0	6.5	1.4	1.3	1.3		○
－79	235	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.5	18.4	6.8	6.7	1.0	1.0	1.0		○
－80	230	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	18.6	6.5	6.7	1.0	0.9	0.9	固着痕	
－81	506	大広間	F80-63，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.2	19.2	6.8	7.0	1.2	1.1	1.1	固着痕	
－82	232	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	18.9	6.5	6.6	1.1	1.1	1.0		○
－83	515	大広間	F83-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	20.1	6.5	6.2	1.1	1.2	1.1		○
－84	503	大広間	F82-55，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永期	21.9	17.8	6.1	6.4	1.0	1.0	1.0		
－85	541	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	24.5	19.5	5.8	5.5	—	—	—	15枚固着の図上	○
－86	541	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永期	22.0	17.3	6.1	6.1	—	—	—	15枚固着の図下	○
－87	540	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	19.2	6.3	6.2	—	—	—	15枚固着の図下	○
－88	540	大広間	F83-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.4	18.3	6.5	6.5	—	—	—	15枚固着の図上	○
－89	155	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.4	20.5	6.3	6.2	1.4	1.4	1.4		○
－90	191	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	26.5	21.0	6.6	6.5	1.5	1.6	1.6	歪み	○
－91	199	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.7	19.0	6.2	6.2	1.2	1.4	1.2		○
－92	175	大広間	F81-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.3	20.5	6.1	5.8	1.2	1.5	1.4		
－93	215	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	25.8	21.4	7.4	6.8	1.1	1.3	1.1		○
－94	533	大広間	F83-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.2	20.0	6.0	5.9	1.1	1.1	1.3		
－95	4	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.9	20.4	5.9	5.9	1.5	1.2	1.3		○
－96	556	大広間	F83-59，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.6	20.7	6.3	6.4	1.1	1.2	1.1		
－97	415	大広間	F78-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.0	20.0	6.8	6.7	1.2	1.1	1.2		○
－98	562	大広間	F80-61，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.5	21.0	6.2	5.8	1.3	1.5	1.5		○
－99	158	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.1	20.0	6.2	6.0	1.7	1.7	1.5		
－100	181	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.7	20.2	6.5	6.2	1.1	1.1	1.1	固着痕	
－101	231	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.8	20.1	6.7	6.5	1.0	1.0	1.0	固着痕	
－102	223	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.4	18.6	6.2	6.2	1.2	1.2	1.3	固着痕	○
－103	509	大広間	F82-57，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	23.8	19.1	6.0	5.8	1.1	1.2	1.2		
－104	198	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.8	19.5	5.8	5.9	1.4	1.4	1.4		○
－105	206	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.1	18.6	5.9	5.9	1.1	1.1	1.2		
－106	552	大広間	F83-55，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.6	20.2	5.7	5.5	1.4	1.5	1.5		

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (5)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
391−107	57	大広間	F81-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.4	18.8	6.0	6.1	1.1	1.1	1.1		
−108	600	大広間	F81-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.5	19.3	6.4	6.5	1.1	1.1	1.2		○
−109	547	大広間	F81-62，Ⅰ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	22.7	19.7	6.6	6.6	0.9	0.8	1.0		
−110	233	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.5	18.7	6.0	6.0	1.2	1.1	1.2	固着痕	○
v111	219	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.8	18.9	5.5	5.8	1.4	1.5	1.6		○
−112	113	大広間	F80-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	22.8	18.8	6.6	6.6	1.2	1.1	1.2		
−113	47	大広間	F79-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	亀戸銭	正徳期	25.0	20.4	6.6	5.9	1.6	1.6	1.6		
−114	203	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝御用銭	正徳期	23.5	—	(7.0)	(6.3)	1.2	1.4	1.5	歪み	○
−115	147	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背佐，佐渡銭	正徳期	25.3	20.5	6.1	6.2	1.6	—	1.6	歪み	○
−116	131	大広間	F81-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.3	19.4	5.8	5.9	1.3	1.3	1.4		
−117	112	大広間	F80-55，Ⅰ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.5	19.7	6.1	6.2	1.5	1.5	1.4		
−118	182	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.9	19.5	5.3	5.3	1.6	1.8	1.6		○
−119	5	大広間	F80-62，Ⅰ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	25.0	19.9	5.8	5.9	1.4	1.4	1.4		
−120	227	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	25.0	19.9	6.2	6.2	1.5	1.5	1.5		○
−121	228	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.5	19.5	5.8	6.0	1.5	1.6	1.3		○
−122	497	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	23.4	19.4	6.4	6.0	1.4	1.4	1.3		○
−123	225	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.9	20.1	5.9	5.7	1.4	1.4	1.3	固着痕	○
−124	240	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，山城横大路銭	元文期	23.6	18.6	6.8	6.3	1.1	1.2	1.1		○
−125	63	大広間	F82-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.1	19.9	6.4	6.4	1.4	1.4	1.3	極印あり	
392−126	46	大広間	F79-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.1	19.1	6.2	6.2	1.3	1.2	1.3		
−127	183	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.6	19.4	6.8	6.8	1.1	1.2	1.3		○
−128	211	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	25.6	19.6	6.5	6.7	1.6	1.3	1.4		○
−129	190	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	21.9	17.3	6.1	6.1	1.1	1.1	1.0	歪み	○
−130	217	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.0	19.4	6.6	6.5	1.1	1.1	1.4	固着痕	
−131	210	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	22.8	19.2	6.9	6.8	1.1	1.2	1.2	歪み	○
−132	534	大広間	F83-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	23.0	19.5	6.8	6.5	1.0	1.2	1.3		
−133	126	大広間	F80-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	22.1	17.8	6.6	6.6	1.2	1.4	1.3		○
−134	68	大広間	F84-57，Ⅱ層	寛永通宝（古）	背小，小梅銭	元文期	23.4	19.7	6.5	6.5	1.1	1.1	1.1		
−135	508	大広間	F82-57，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背小，小梅銭	元文期	22.2	20.1	6.5	6.4	1.3	1.4	1.8		
−136	154	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	日光銭	元文期	23.2	19.2	6.3	6.3	1.3	1.3	1.3		○
−137	511	大広間	F82-57，Ⅰ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	22.1	20.2	6.4	6.3	1.2	1.2	1.1		

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (6)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
392－138	150	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	24.1	20.0	6.4	6.4	1.3	1.3	1.3	歪み	
－139	205	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	24.8	20.0	6.5	6.3	1.4	1.3	1.2		○
－140	220	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.8	18.5	6.8	6.7	0.8	0.9	0.8	固着痕	
－141	3	大広間	F80-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.5	19.2	6.1	6.1	1.1	1.2	1.2		
－142	180	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.5	19.0	6.2	6.4	1.2	1.2	1.2		
－143	236	大広間	F81-59，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.7	19.0	6.0	6.2	1.3	1.3	1.3		○
－144	185	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.7	18.8	6.4	6.4	1.0	1.0	1.2		○
－145	577	大広間	F83-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.9	19.8	6.1	6.0	1.3	1.3	1.1		
－146	197	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.6	19.2	6.0	6.3	1.4	1.2	1.4		○
－147	152	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.3	18.8	6.3	6.3	1.2	1.2	1.4		
－148	200	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	22.9	18.5	6.5	6.7	1.1	1.1	1.1	固着痕	
－149	208	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	24.9	20.0	5.8	5.8	(1.8)	(1.8)	(1.8)		○
－150	214	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.8	19.1	6.8	6.9	1.0	1.1	1.0	固着痕	
－151	184	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	22.8	19.3	6.6	6.6	1.2	1.3	1.3		
－152	149	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.4	19.7	6.2	6.2	1.3	1.4	1.4		○
－153	159	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	23.1	17.7	6.1	6.1	1.1	1.1	1.3	背不明瞭	○
－154	52	大広間	F81-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.7	17.9	6.4	6.4	1.1	1.1	1.1		
－155	505	大広間	F80-63，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.7	18.3	6.1	6.2	1.2	1.1	1.2	固着痕	
－156	202	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	24.0	18.2	6.0	6.2	1.5	1.3	1.5	固着痕	○
－157	212	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	(23.2)	(17.3)	(6.7)	(6.5)	(1.5)	(1.5)	(1.8)	歪み	○
－158	565	大広間	F82-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	23.0	18.0	6.2	6.1	1.1	0.9	1.0		
－159	543	大広間	F83-61，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.0	16.1	5.5	5.7	1.3	1.2	1.2		
－160	186	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	23.2	17.9	5.2	5.5	1.0	1.1	1.0		○
－161	545	大広間	F80-64，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	22.1	18.7	6.1	6.1	1.0	1.0	0.8		
－162	209	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	22.5	17.2	5.7	5.7	1.3	1.5	1.4	歪み	○
－163	218	大広間	F81-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	24.8	18.9	5.5	5.7	1.4	1.2	1.3	歪み，背不明瞭	
－164	188	大広間	F81-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背長，長崎銭	明和期	23.4	20.9	5.7	5.9	1.1	1.1	1.1		○
－165	50	大広間	F81-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	亀戸銭（四年銭）	明和期	21.9	17.4	6.0	6.0	1.3	1.5	1.4		
－166	51	大広間	F81-53，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不明		24.4	(19.7)	5.6	5.6	1.6	1.7	1.6		○
－167	153	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不明		24.2	19.3	6.3	6.3	1.4	1.4	1.5		○
－168	599	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不明		22.7	19.0	6.7	6.4	0.9	1.0	1.0		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (7)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
392−169	246	大広間	F83-53，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不明		23.5	(18.8)	6.0	6.0	1.5	1.5	1.4		○
−170	133	大広間	F81-54，Ⅲ層	寛永通宝	新古不明		24.4	20.2	6.6	6.6	0.9	0.9	0.9	歪み	○
−171	163	大広間	F81-55，Ⅲ層	寛永通宝（当四文銭）	背11波	明和期以降	28.8	—	(5.9)	(5.7)	(1.3)	(1.3)	(1.4)		○
−172	672	大広間	F83-58，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	深川十万坪銭	元文期	23.6	18.4	(6.4)	6.1	1.5	1.6	1.5		
−173	18	大広間	F84-60，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	日光銭	元文期	23.0	19.1	6.6	6.6	1.4	1.4	1.5		
−174	582	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	24.9	18.9	6.2	6.1	(2.3)	1.5	2.0		
−175	538	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	23.7	19.5	6.8	6.6	1.5	1.5	1.5		
−176	579	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	24.3	18.8	7.0	6.9	1.3	1.3	1.3		
−177	559	大広間	F84-54，Ⅱ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	24.0	21.3	6.4	6.4	1.3	1.3	(1.4)		
−178	675	大広間	F84-54，Ⅱ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	(24.1)	(22.1)	6.1	6.6	(1.7)	(1.7)	(1.8)		
−179	674	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	23.9	19.1	6.8	6.8	1.6	1.2	1.4		
−180	671	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	旧甲斐飯田銭	明和期	24.2	19.6	6.2	6.5	1.3	1.3	1.3		○
−181	580	大広間	F83-58，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	伏見銭	明和期	23.9	19.2	5.9	6.0	1.5	1.5	1.5		○
−182	6	大広間	F80-62，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	伏見銭	明和期	24.4	20.5	6.1	6.6	1.5	1.5	1.6		
−183	69	大広間	F84-60，Ⅱ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.1	19.9	6.0	6.1	1.4	1.4	1.4		
393−184	578	大広間	F84-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.7	21.1	6.1	6.1	1.7	1.8	1.6	背不明瞭	○
−185	581	大広間	F84-58，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.8	18.4	6.3	6.1	1.4	1.4	1.5		○
−186	561	大広間	F80-61，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.5	20.3	6.3	6.3	(1.6)	(1.8)	(2.0)		○
−187	557	大広間	F83-59，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.4	20.5	6.4	6.4	1.5	1.6	1.5		
−188	673	大広間	F83-58，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	不明		(26.9)	20.0	6.3	6.1	(2.9)	(2.3)	(2.0)		
−189	563	大広間	F80-61，Ⅲ層	文久永宝（当四文銭）	真文，背11波	文久期	(26.1)	(22.0)	6.3	6.3	1.3	1.4	1.3	歪み	○
−190	167	大広間	F81-55，Ⅲ層	文久永宝（当四文銭）	真文，背11波	文久期	27.2	20.3	6.2	6.0	1.5	1.6	1.5		○
−191	164	大広間	F81-55，Ⅲ層	文久永宝（当四文銭）	草文，背11波	文久期	27.2	21.5	6.8	6.7	1.5	1.5	1.4		
397−263	241	大御台所	F82-52，Ⅲ層	寛永通宝（古）	芝銭	寛永期	24.2	19.8	5.3	5.5	1.1	1.2	1.2		○
−264	16	大御台所	F84-51，Ⅰ層	寛永通宝（古）	仙台銭	寛永期	25.0	21.0	5.5	5.5	1.4	1.4	1.6		
−265	14	大御台所	F83-50，Ⅰ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.0	21.0	6.0	5.8	1.6	1.5	1.5		
−266	21	大御台所	F85-52，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文、亀戸銭	寛文期	25.3	20.7	6.1	5.7	1.6	1.6	1.6		
−267	15	大御台所	F84-50，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.5	20.4	5.6	5.8	1.7	1.6	1.6		○
−268	13	大御台所	F83-50，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.8	22.0	6.0	5.8	1.6	1.6	1.7		○
−269	245	大御台所	F83-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.9	18.8	7.0	7.0	1.0	0.9	1.0		○
−270	605	大御台所	F82-48，Ⅳ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.8	20.1	6.6	6.6	1.2	1.1	1.1		

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (8)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
397－271	247	大御台所	F84-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.4	19.2	5.4	5.8	1.5	1.5	1.8		○
－272	412	大御台所	F83-49，Ⅳ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	23.1	18.3	6.3	6.3	1.3	1.2	1.1		
－273	411	大御台所	F85-49，Ⅳa層	寛永通宝（新）	不明		(21.7)	(17.3)	(6.9)	(6.9)	(1.2)	(1.2)	(1.2)		○
－274	12	大御台所	F82-51，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	22.1	20.5	6.4	6.2	1.6	2.0	1.4		○
398－277	416	御小姓部屋	F79-49，Ⅲ層	治平元宝	北宋	1064年始鋳	24.3	18.3	(6.4)	(6.4)	1.4	1.4	1.5	模鋳銭，篆書	○
－278	414	御小姓部屋	F78-51，Ⅲ層	洪武通宝	明	1368年始鋳	22.7	19.3	5.2	5.9	2.0	2.2	2.4	本銭，無背	○
－279	640	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（古）	長門銭	寛永期	24.8	20.0	5.6	5.6	1.4	1.4	1.4		○
－280	649	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（古）	岡山銭	寛永期	24.5	20.1	5.6	5.6	1.3	1.3	1.3		
－281	637	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.2	20.3	6.0	6.0	1.0	1.1	1.1		○
－282	644	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（古）	不明		(24.1)	(19.0)	(5.1)	(5.1)	(1.6)	(1.6)	(1.5)		○
－283	647	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.4	6.1	6.1	1.1	1.0	1.1		○
－284	661	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	18.2	6.0	6.0	1.4	1.5	1.5		○
－285	662	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	(19.0)	6.6	6.6	1.1	1.1	1.1		○
－286	636	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.7	19.4	6.2	6.2	0.8	0.9	0.8		
－287	659	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.3	6.3	6.6	1.1	1.2	1.0		○
－288	658	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	(18.5)	6.6	6.6	0.9	0.9	0.9		○
－289	666	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	四ツ宝銭？		(23.0)	18.8	6.2	6.2	1.4	1.3	1.3	固着痕	○
－290	663	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.2	(18.6)	(7.4)	6.8	1.2	0.9	1.1		○
－291	643	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.0	18.6	5.6	5.8	1.1	1.1	1.3	固着痕	
－292	657	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.4	18.9	5.4	5.5	(1.9)	(1.8)	1.4		○
－293	650	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	24.6	19.9	5.6	5.6	1.3	1.3	1.3		
－294	653	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.5	19.6	5.9	5.9	1.3	1.3	1.3	固着痕	○
－295	638	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.2	19.5	5.9	5.9	1.7	1.7	1.7		○
－296	641	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.3	20.1	6.3	6.2	1.3	1.4	1.3		
－297	645	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.0	18.3	6.3	6.6	1.2	1.2	1.3		
－298	652	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.3	18.5	6.3	6.3	1.1	1.1	0.9		
399－299	654	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.2	17.5	6.0	6.0	0.9	1.0	1.0		○
－300	665	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	22.8	18.2	6.4	6.4	1.3	1.4	1.4		○
－301	642	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	藤沢・吉田島銭	元文期	22.1	17.4	5.7	5.7	1.1	1.1	1.0		○
－302	664	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不旧手，山城清水・涌井銭	元文期	22.9	(18.4)	6.8	6.3	1.3	1.4	1.4	背は不明瞭	○
－303	656	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.5	18.7	5.9	6.3	1.4	1.6	1.3		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (9)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
399－304	655	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	(22.0)	17.4	5.3	5.3	1.1	0.9	1.1	固着痕	○
－305	651	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（鉄一文銭）	深川十万坪銭	元文期	22.6	17.5	5.6	5.2	1.1	1.1	1.0		
－306	660	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不明		22.2	18.6	5.9	5.9	1.0	1.1	1.1		○
－307	648	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不明		(23.3)	(18.5)	(5.8)	(5.9)	(1.4)	(1.5)	(1.5)		○
－308	639	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不明		23.2	(18.6)	6.5	6.5	1.1	1.1	1.1		○
－309	669	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝（新）	不明		(23.4)	(18.7)	(6.2)	(6.6)	(1.2)	(1.2)	(1.2)	背は不明瞭	○
－310	667	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝	新古不明		(25.4)	(18.3)	(5.2)	(5.4)	(1.5)	(1.7)	(1.7)		○
－311	668	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝	新古不明		(23.5)	(18.5)	(5.4)	(5.9)	(1.7)	(1.4)	(1.7)	固着痕	○
－312	646	御小姓部屋	SJⅢ025	寛永通宝	新古不明		23.0	18.6	5.8	5.8	1.4	1.3	1.3		○
－313	633	御小姓部屋	SXⅢ056	寛永通宝（古）	松本銭	寛永期	24.6	19.9	5.5	5.5	1.4	1.4	1.4		
－314	634	御小姓部屋	SXⅢ057	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.0	17.1	6.0	6.0	1.2	1.1	1.2		○
－315	115	御小姓部屋	F79-50，Ⅰ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	24.7	19.5	5.9	5.9	1.3	1.4	1.3		
－316	44	御小姓部屋	F79-52，Ⅱ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.1	20.0	6.0	5.8	1.1	1.3	1.5		
－317	120	御小姓部屋	F79-52，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.8	20.9	6.2	6.3	1.4	1.4	1.3		○
－318	121	御小姓部屋	F79-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	24.2	19.7	6.2	6.2	1.5	1.6	1.5		○
－319	117	御小姓部屋	F80-50，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.6	18.1	6.2	6.3	1.2	1.1	1.1		
－320	42	御小姓部屋	F78-52，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	19.1	6.4	6.7	1.1	1.1	1.1		○
－321	107	御小姓部屋	F77-51，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.5	19.3	6.4	6.4	1.5	—	1.4		
－322	122	御小姓部屋	F79-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.8	20.1	6.8	6.5	1.4	1.2	1.2		
－323	125	御小姓部屋	F80-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	(24.0)	19.6	6.3	6.3	2.0	1.9	1.9		○
－324	418	御小姓部屋	F80-51，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭？		23.0	18.9	6.3	6.3	1.1	1.3	1.3		○
－325	128	御小姓部屋	F81-52，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	26.0	20.2	5.8	5.8	1.8	1.8	1.8	歪み	○
－326	111	御小姓部屋	F80-51，Ⅰ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.2	18.8	6.3	6.3	0.9	0.9	0.8		
－327	417	御小姓部屋	F79-50，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.4	19.9	6.3	6.3	1.4	1.4	1.2		
－328	116	御小姓部屋	F79-51，Ⅱ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.4	18.9	6.4	6.4	1.1	1.0	1.0		
－329	48	御小姓部屋	F80-52，Ⅱ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	23.1	19.0	6.6	6.6	1.3	1.4	1.4		
－330	45	御小姓部屋	F79-52，Ⅱ層	寛永通宝（新）	日光銭	元文期	23.7	19.2	6.3	6.1	1.6	1.4	1.4		○
－331	632	御小姓部屋	F80-50，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背千，仙台石ノ巻銭	元文期	22.9	18.9	6.5	6.5	1.5	1.4	1.6		
－332	124	御小姓部屋	F80-52，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背千，仙台石ノ巻銭	元文期	23.6	19.6	6.6	6.6	1.6	1.4	1.5		
400－337	86	長之間	F86-53，Ⅱ層	政和通宝	北宋	1111年始鋳	23.8	20.5	5.7	5.7	1.3	1.3	1.6	模鋳銭，篆書	
－338	265	長之間	F85-54，Ⅲ層	利用通宝	清初三藩	1667年始鋳	24.5	19.2	5.1	5.1	1.6	1.5	1.5	本模不明	

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (10)

報告No. (図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔a／b		外厚a／b／c				
400－339	73	長之間	F85-54，Ⅱ層	元□通宝			24.0	20.5	6.1	6.1	1.0	1.1	1.0	右「通」・左「寶」	
－340	72	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（古）	仙台銭	寛永期	24.5	20.0	5.5	5.5	1.1	1.1	1.1		
－341	75	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（古）	建仁寺銭	承応期	25.3	20.7	6.4	6.0	1.1	1.2	1.1	固着痕	
－342	76	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.0	20.2	5.8	5.7	1.1	1.1	1.1	固着痕	
－343	284	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.2	20.2	6.2	5.5	—	—	—	現状3枚固着の図上	○
－344	284	長之間	F85-54，Ⅲ層	不明銅銭（背面）			25.5	—	6.1	6.1	—	—	1.4	現状3枚固着の図下	○
－345	255	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	鳥越銭	明暦期	24.6	20.4	6.2	6.2	1.2	1.3	1.2		○
－346	252	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（古）	不明	寛永期	24.6	20.0	5.7	5.5	1.4	1.2	1.3	固着痕	
－347	74	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.3	20.9	5.5	5.5	1.4	1.4	1.4		
－348	78	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.1	20.5	5.9	5.9	1.4	1.4	1.2		
－349	281	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	24.8	19.7	5.8	5.9	1.3	1.2	1.3		○
－350	285	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背文，亀戸銭	寛文期	25.6	20.8	6.1	6.1	1.5	1.5	1.5		○
－351	303	長之間	F86-53，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	24.0	19.3	6.0	5.9	1.3	1.3	1.4		
－352	275	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	24.0	19.0	6.0	5.9	1.3	1.2	1.3		○
401－353	272	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	23.5	18.3	6.1	6.1	1.1	1.1	1.0	固着痕	
－354	87	長之間	F86-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.1	18.8	6.1	6.1	1.2	1.2	1.2		
－355	264	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.5	18.4	6.4	6.4	1.2	1.4	1.2		
－356	271	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.6	18.9	6.2	6.2	1.4	1.4	1.2		
－357	23	長之間	F87-54，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	(20.0)	6.1	6.2	1.6	1.6	1.5		○
－358	267	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.9	18.8	6.8	6.8	0.9	0.8	0.8		
－359	80	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	19.2	6.4	6.5	1.2	1.1	1.2		
－360	22	長之間	F87-54，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.1	19.2	6.7	7.1	1.1	1.0	1.0		
－361	71	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.6	20.2	6.3	6.3	1.4	1.4	1.4		
－362	77	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.7	20.2	6.6	6.6	1.2	1.2	1.2	固着痕	
－363	269	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.5	20.2	6.5	6.5	1.2	1.2	1.3		○
－364	278	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.7	20.2	6.2	6.2	1.2	1.2	1.3		
－365	274	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	23.6	19.1	6.2	6.2	1.0	1.1	1.1		
－366	277	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.2	19.4	6.0	5.9	1.1	1.3	1.3	歪み	○
－367	27	長之間	F88-53，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	25.0	20.1	5.7	6.0	1.4	1.3	1.4		
－368	260	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	亀戸銭	正徳期	24.7	20.2	5.5	5.5	1.5	1.5	1.4	固着痕	
－369	253	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.6	19.6	6.4	6.4	1.5	—	1.6	固着痕	○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (11)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
401−370	261	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.2	19.4	5.6	5.2	1.3	1.5	1.3	固着痕	
−371	288	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.6	19.7	5.9	6.0	1.3	1.3	1.3		○
−372	256	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	難波銭	享保期	25.7	20.1	6.5	6.1	1.5	1.3	1.5		
−373	254	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.5	19.2	5.7	5.9	1.1	1.1	1.1	固着痕	○
−374	286	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.7	18.7	6.3	6.3	1.1	1.2	1.1		○
−375	628	長之間	F85-53，トレンチ	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.3	(18.8)	6.8	6.8	1.6	1.6	1.6	焼面下部出土	○
−376	279	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.0	19.0	6.6	6.6	0.9	1.1	1.1		
−377	259	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	23.1	18.8	6.9	6.9	1.5	1.5	1.3		
−378	26	長之間	F88-53，Ⅰ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	21.6	19.9	7.0	7.0	1.0	1.0	1.0		
−379	79	長之間	F85-54，Ⅱ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.7	18.8	6.2	6.2	1.1	1.1	1.3		
−380	257	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.8	19.0	6.2	5.8	1.4	1.3	1.4		
−381	282	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.4	18.6	5.8	5.8	1.2	1.2	1.1		○
−382	304	長之間	F88-53，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.7	19.9	6.6	6.6	1.0	1.0	1.0		
−383	270	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.7	17.5	6.1	6.1	1.3	1.2	1.2		
−384	280	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝	背元，高津新地銭	寛保期	22.9	18.3	6.3	6.3	1.1	1.2	1.1		○
−385	262	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	22.7	17.8	6.1	5.9	0.9	1.1	1.2		○
−386	276	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	23.5	17.8	6.1	6.1	1.2	1.0	1.3		
−387	268	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	23.9	19.8	6.1	6.0	1.3	1.4	1.3		○
−388	258	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	24.6	20.0	5.6	5.8	1.3	1.3	1.6		○
−389	263	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	25.0	19.2	5.5	5.5	1.7	1.9	1.7		
−390	283	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	23.9	20.0	6.3	6.3	1.2	1.4	1.2		
−391	28	長之間	F88-53，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	伏見銭	明和期	24.1	21.2	6.8	6.4	1.5	1.5	1.3		
−392	266	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	伏見銭	明和期	24.1	19.8	6.4	6.4	1.3	1.4	1.3		
−393	287	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	伏見銭	明和期	23.8	19.0	6.4	6.5	1.5	1.2	1.3		○
−394	273	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.4	18.6	6.1	6.2	1.4	1.4	1.4		
−395	248	長之間	F85-54，Ⅲ層	寛永通宝（鉄四文銭）	背十一波，伊勢津藩邸	慶応２年	28.6	21.0	6.4	6.4	1.4	1.5	1.5		
−396	29	長之間	F88-53，Ⅰ層	仙台通宝（鉄）	撫角銭	天明４年	縦21.6 横21.5	縦17.8 横17.8	6.3	6.3	1.4	1.4	1.5		
−397	249	長之間	F85-54，Ⅲ層	仙台通宝（鉄）	撫角銭	天明４年	縦21.7 横21.7	縦17.7 横17.3	6.7	6.7	1.3	1.4	1.3		
403−410	94	露地	F88-59，Ⅱ層	洪武通宝	明	1368年始鋳	24.4	20.7	5.8	5.8	1.6	2.0	1.8	無背	
−411	624	露地	SKⅢ065	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.8	(19.6)	6.6	6.6	1.2	1.2	1.2		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (12)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
403−412	625	露地	SKⅢ073	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	(23.7)	(19.5)	(6.0)	(6.2)	(1.1)	(0.9)	(1.2)	２枚固着の図下，歪み	○
−413	625	露地	SKⅢ073	不明銅銭			—	—	—	—	—	—	—	２枚固着の図上，溶解	○
−414	626	露地	SKⅢ074	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.2	18.4	6.2	6.4	1.0	1.0	1.0		
−415	612	露地	SBⅡ001	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.6	19.2	6.0	6.0	1.3	1.4	1.2		
−416	622	露地	SXⅡ002	寛永通宝（新）	藤沢・吉田島銭	元文期	22.6	17.7	7.3	6.9	1.5	1.4	1.4		○
−417	297	露地	F85-55，Ⅲ層	寛永通宝（古）	長門銭	寛永期	24.3	20.5	5.8	5.7	1.4	1.3	1.3		
−418	93	露地	F87-58，Ⅱ層	寛永通宝（古）	不明		24.2	20.3	5.9	6.1	1.1	1.2	1.2		
−419	428	露地	F86-61，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.0	6.1	6.3	1.0	1.0	1.0		
−420	429	露地	F87-60，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.9	21.0	6.5	6.4	1.5	1.1	1.3		
−421	299	露地	F85-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.2	19.3	6.0	6.2	1.0	1.1	1.1		
−422	298	露地	F85-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	23.9	19.1	6.1	6.1	1.1	1.2	1.1		
−423	81	露地	F85-55，Ⅱ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.2	19.0	6.0	6.0	1.5	1.6	1.6		
−424	82	露地	F85-56，Ⅱ層	寛永通宝（新）	難波銭	享保期	24.2	19.4	5.9	5.9	1.4	1.7	1.6		
−425	300	露地	F85-55，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.3	18.3	6.0	6.0	1.0	1.0	1.1		
−426	84	露地	F85-57，Ⅱ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	23.0	18.3	6.3	6.3	1.0	1.0	0.9		
−427	430	露地	F87-60，Ⅰ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	(23.0)	(19.9)	(7.2)	6.8	1.1	1.0	1.0	歪み	○
−428	423	露地	F87-60，Ⅰ層	寛永通宝（新）	藤沢・吉田島銭	元文期	23.0	19.0	7.1	7.0	1.0	1.0	1.1		
−429	89	露地	F86-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	藤沢・吉田島銭	元文期	22.6	18.6	7.0	7.2	1.0	1.0	1.0		
−430	90	露地	F86-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.7	19.9	6.6	6.6	1.2	1.0	1.1		○
−431	437	露地	F87-60，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.7	18.8	6.6	6.5	1.3	1.0	1.0	固着痕	○
−432	85	露地	F85-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.5	17.7	6.1	6.1	1.0	1.1	1.3		
−433	584	露地	F85-60，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.2	16.7	6.0	5.7	1.2	1.2	1.1		
−434	493	露地	F86-59，Ⅱ層	寛永通宝（鉄）	亀戸銭	明和期	(24.1)	(19.0)	6.9	6.9	(1.5)	(1.4)	1.5		
−435	91	露地	F86-59，Ⅱ層	寛永通宝	新古不明		(24.8)	(18.3)	(5.5)	(5.5)	(1.3)	(1.3)	(1.3)	永・通は読める	○
−436	88	露地	F86-56，Ⅱ層	不明銅銭			23.9	(18.8)	6.5	6.5	(1.0)	(1.0)	(1.0)		
404−444	614	西廊下	SKⅡ006	咸平元宝	北宋	998年始鋳	24.6	18.2	6.0	6.2	1.2	1.3	1.3	模鋳銭	
−445	615	西廊下	SKⅡ006	元豊通宝	北宋	1078年始鋳	22.3	19.0	7.6	7.8	0.9	0.9	0.9	模鋳銭，真書 加工銭（方孔を拡げる）	
−446	616	西廊下	SKⅡ006	元豊通宝	北宋	1078年始鋳	24.4	19.9	7.1	(7.1)	1.0	1.0	1.0	模鋳銭，真書	
−447	617	西廊下	SKⅡ006	慶長通宝		慶長期	23.1	20	6.2	6.4	1.1	1.1	1.1		
−448	670	西廊下	F87-61，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背千，仙台石ノ巻銭	元文期	23.5	19	6.8	6.6	1.4	1.3	1.4		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (13)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
404−449	590	西廊下	F88-62，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	24.2	19.5	6.1	6.1	1.7	1.6	1.8		
405−464	618	小広間	SXⅡ003	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.2	20.0	5.5	5.7	1.1	1.0	1.0		
−465	619	小広間	SXⅡ003	寛永通宝（新）	旧亀戸銭？	元文期以後？	23.0	(18.1)	6.2	6.2	(1.6)	(1.2)	(1.2)		○
−466	104	小広間	F9 1 -57，Ⅱ層	慶長通宝		慶長期	23.8	19.8	6.0	6.0	1.1	1.1	1.2		
−467	321	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（古）	芝銭	寛永期	24.5	20.7	5.6	5.6	1.0	1.0	1.0	固着痕	
−468	324	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	24.6	20.5	5.9	5.9	1.4	1.4	1.2		○
−469	325	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.1	18.9	5.2	5.2	1.4	1.4	1.2		○
−470	463	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（古）	沓谷銭	明暦期	25.0	21.0	6.5	6.4	1.6	1.6	1.3		
−471	448	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（古）	不明		(24.7)	(21.6)	6.3	6.1	1.1	1.1	1.4	歪み	○
−472	95	小広間	F89-56，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.2	6.4	6.4	1.1	1.1	1.1		
−473	32	小広間	F89-59，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.1	6.1	6.1	1.2	1.2	1.2		○
−474	98	小広間	F90-57，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.1	6.3	6.3	1.2	1.2	1.3		
−475	326	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.5	18.8	5.8	5.9	1.3	1.3	1.3	固着痕	○
−476	583	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.7	18.8	6.8	6.5	1.1	1.1	1.2		○
−477	35	小広間	F91-55，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	21.8	18.3	7.0	6.5	1.1	1.1	1.2		
406−478	319	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.2	19.3	6.3	6.3	1.1	1.2	1.2	固着痕	○
−479	449	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.4	19.7	(6.4)	(6.5)	1.4	1.3	1.4		○
−480	322	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.3	19.0	6.9	6.9	1.1	1.1	1.1	固着痕	
−481	464	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	20.1	6.6	6.9	1.0	1.0	1.4		
−482	97	小広間	F89-56，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.5	17.0	6.3	6.7	1.2	1.2	1.1		○
−483	483	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	18.0	6.3	6.1	1.3	1.3	1.4		○
−484	482	小広間	F91-59，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.0	18.4	6.2	6.1	1.2	1.3	1.2		○
−485	390	小広間	F90-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	23.6	18.3	5.7	6.1	1.2	1.2	1.4		○
−486	310	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永期	21.3	16.6	6.5	6.5	0.9	1.0	1.0		
−487	443	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	(24.9)	(21.3)	6.5	6.4	1.3	1.2	1.2	歪み	○
−488	386	小広間	F89-60，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.5	20.0	6.6	6.6	0.9	1.0	0.9		
−489	446	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.6	20.8	6.5	6.5	1.3	1.2	1.2		
−490	384	小広間	F89-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.4	20.4	6.5	6.7	0.9	0.9	0.9		
−491	485	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	25.0	19.0	6.1	6.0	1.6	1.5	1.7		○
−492	316	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.9	20.5	6.0	6.2	1.1	1.0	1.1	固着痕	○
−493	392	小広間	F90-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	25.0	20.1	6.3	6.3	1.4	1.5	1.5		○

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (14)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
406−494	460	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.8	20.8	6.5	6.3	1.1	1.1	1.0		
−495	465	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.4	21.1	6.1	6.3	1.0	1.0	1.0		○
−496	484	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	(26.0)	(20.0)	(6.1)	6.1	—	—	—	２枚固着の図右，固着痕	○
−497	484	小広間	F91-59，Ⅱ層	不明銅銭（背面）			—	—	—	—	—	—	—	２枚固着の図左，溶解	○
−498	309	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.5	19.6	6.0	6.0	1.3	1.3	1.4		○
−499	442	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.0	19.7	6.5	6.5	1.0	1.0	1.0		○
−500	462	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧藤沢銭	宝永４年以前	24.0	19.5	6.0	6.0	1.1	1.3	1.1		○
−501	327	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭	宝永４年以前	23.3	19.3	5.9	5.9	1.2	1.2	1.3	固着痕	○
−502	486	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭？		23.6	18.4	6.2	6.3	1.2	1.2	1.1		○
−503	487	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	旧猿江銭？		23.3	18.8	6.2	6.0	1.3	1.2	1.3		○
−504	441	小広間	F90-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背佐，佐渡銭	正徳期	24.6	20.5	6.2	6.0	1.4	1.4	1.3		
−505	406	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	26.5	19.3	6.0	5.7	1.5	1.7	1.7	歪み	○
−506	466	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.2	21.6	5.8	5.8	1.1	1.1	1.1		○
−507	323	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.7	19.6	5.8	5.8	1.3	1.3	1.2	固着痕	
−508	459	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.4	19.7	6.9	6.9	1.6	1.2	1.4		○
−509	461	小広間	F90-58，Ⅲ層	寛永通宝（新）	仙台石ノ巻銭	享保期	24.3	20.3	6.2	6.5	1.0	1.0	1.0		○
−510	308	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不旧手，山城清水・涌井銭	元文期	23.7	19.7	6.5	6.5	1.3	1.4	1.3		
−511	444	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.4	19.6	6.3	6.2	1.1	1.0	1.0		
−512	391	小広間	F90-57，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.7	19.0	6.5	6.3	1.0	1.0	0.9		
−513	311	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	深川十万坪銭	元文期	23.0	18.4	6.5	6.6	1.1	1.3	1.3		
−514	119	小広間	F89-58，Ⅱ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	22.0	18.7	6.8	6.7	0.8	0.8	0.8		
−515	488	小広間	F91-59，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背小，小梅銭	元文期	(24.5)	(19.4)	6.1	6.1	1.6	1.6	1.4	歪み	○
−516	317	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.9	18.6	5.7	6.0	1.1	1.2	1.2	固着痕	○
−517	41	小広間	F91-60，Ⅰ層	寛永通宝	旧清水銭	元文期	23.3	19.0	6.6	6.6	1.3	1.0	1.0		○
−518	447	小広間	F91-58，Ⅰ層	寛永通宝（新）	旧亀戸銭	元文期以後	23.5	20.3	6.4	6.4	1.2	1.1	1.2		
−519	38	小広間	F91-56，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.1	18.0	6.5	6.4	1.0	1.0	1.0		
−520	105	小広間	F91-57，Ⅱ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.9	18.3	6.3	6.3	1.1	1.1	1.1		
−521	315	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.5	17.7	6.4	6.3	0.9	0.9	0.9	固着痕	
−522	318	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（新）	不明	不明	(24.0)	—	(5.7)	(5.7)	1.2	1.2	1.2		○
−523	102	小広間	F90-58，Ⅱ層	寛永通宝（当四文銭）	表不明，背11波	明和期以降	—	—	—	—	—	—	—	歪み	○
−524	388	小広間	F89-61，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背小，小梅銭	元文期	24.1	(19.2)	6.2	6.2	1.8	1.7	1.7	背は錆化顕著	

第29表　寛永通宝ほか銭貨観察表 (15)

報告No.（図－No.）	整理No.	大区画	出土位置	銭　種	鋳造地，通称	始鋳年主な年代	計測値（mm）							備　考	被熱
							外径	内径	方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c				
406－525	320	小広間	F89-56，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	25.2	18.9	5.8	5.9	1.1	1.1	1.2	固着痕	
－526	389	小広間	F90-55，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.7	19.8	6.3	6.3	1.5	1.7	1.5		
－527	34	小広間	F91-55，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.6	21.0	6.6	6.6	1.1	1.1	1.2	背は溶着物顕著	
－528	407	小広間	F90-60，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	背久，常陸太田銭	明和期	23.9	18.6	5.9	5.9	1.5	1.6	1.4		
－529	676	小広間	F91-60，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	不明		23.9	(19.4)	7.2	9.8	(1.9)	1.4	1.6		
－530	601	小広間	F91-61，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	不明		(22.9)	(19.4)	(6.8)	(6.8)	(1.4)	(1.4)	(1.4)		
－531	378	小広間	F89-57，Ⅲ層	文久永宝（当四文銭）	草文？，背11波	文久期	(27.2)	(27.1)	—	—	(1.4)	(1.3)	(1.4)		○
414－660	593	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	慶長通宝		慶長期	21.4	17.2	6.6	6.4	1.0	1.0	0.9		○
－661	589	長局御櫓	F73-45，Ⅰ層	寛永通宝（古）	水戸銭	寛永期	24.5	19.9	5.7	5.7	1.2	1.1	1.1		
－662	604	長局御櫓	F74-45，Ⅲ層	寛永通宝（新）	京都萩原銭	元禄期	23.5	18.7	6.0	6.0	1.1	1.1	1.1		
－663	630	長局御櫓	F73-46，トレンチ	寛永通宝（新）	四ツ宝銭	宝永４年以前	22.7	19.3	6.6	6.5	1.1	1.1	1.2	歪み	
－664	598	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧七条銭	宝永４年以前	24.9	19.6	6.3	6.3	1.3	1.3	1.3		○
－665	587	長局御櫓	F73-45，Ⅰ層	寛永通宝（新）	不旧手，旧十万坪銭	宝永４年以前	24.4	18.8	6.1	6.1	1.3	1.0	1.2		○
－666	595	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	寛永通宝（新）	小梅手	元文期	22.3	18.5	(6.8)	6.1	1.1	1.2	1.2	歪み	○
－667	596	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	寛永通宝（新）	秋田銭	元文期	23.6	19.1	6.1	6.0	1.2	1.2	1.1		
－668	585	長局御櫓	F72-46，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背元，高津新地銭	寛保期	22.6	16.6	6.3	6.4	1.4	1.4	1.3		
－669	586	長局御櫓	F72-46，Ⅰ層	寛永通宝（新）	背足，足尾銭	寛保期	22.1	18.1	6.0	6.0	1.3	1.2	1.2		
－670	588	長局御櫓	F73-45，Ⅰ層	寛永通宝（鉄一文銭）	亀戸銭	明和期	24.0	19.3	6.7	6.5	1.1	1.4	1.4		
－671	594	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	寛永通宝（鉄一文銭）	仙台石ノ巻銭	天明期？	23.1	18.7	6.6	6.4	1.8	1.5	1.5		
－672	602	長局御櫓	F69-45，Ⅲ層	寛永通宝（鉄一文銭）	不明		(24.4)	(19.8)	(5.9)	(6.2)	(1.4)	(1.6)	(1.6)		
－673	603	長局御櫓	F69-45，Ⅲ層	仙台通宝（鉄）	撫角銭	天明４年	縦(21.9) 横(21.9)	縦(18.4) 横(17.5)	(6.0)	(6.0)	(2.0)	(1.9)	(1.9)		○
415－675	629	不明		開元通宝	唐	621年始鋳	(24.1)	(18.9)	(6.5)	(6.5)	(0.9)	(0.9)	(0.9)	模鋳銭	

第30表　天保通宝観察表 (1)

報告No.（図－No.）	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（mm）											備　考	被熱
					外径a／b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
393－192	136	大広間	F81-55，Ⅲ層	中郭	(51.1)	(34.4)	(44.7)	(27.7)	8.4	8.0	3.3	3.1	3.6	3.1	—	歪み，溶着物（面は顕著）	○
－193	574	大広間	F83-54，Ⅲ層	中郭	49.5	33.4	46.1	28.8	8.0	8.5	2.7	2.6	2.7	2.7	42.3	溶着物	○
－194	54	大広間	F81-54，Ⅱ層	広郭	49.5	32.9	44.7	27.0	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	3.0	41.3		
－195	132	大広間	F81-54，Ⅲ層	広郭	49.9	33.6	44.8	27.2	6.5	6.5	2.5	3.2	3.2	2.8	41.6	発泡	○

第30表　天保通宝観察表　(2)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（㎜）											備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
393－196	135	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.6	33.2	(44.7)	28.6	6.9	6.9	2.6	2.8	3.0	3.0	—	溶着物，表面爆ぜ	○
－197	137	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	(49.4)	(32.9)	45.0	27.9	6.6	6.6	2.9	2.7	2.6	2.7	—	歪み，溶着物，変色	○
－198	138	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	(51.8)	(36.0)	(45.3)	9.0	8.3	(3.6)	(3.5)	(3.8)	(3.9)		—	歪み，溶着物顕著，亀裂	○
－199	139	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.4	32.7	44.7	27.3	6.3	6.3	2.8	2.9	3.0	2.7	41.9	表面爆ぜ，溶着物	○
－200	140	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.4	33.0	44.9	27.9	6.1	6.1	2.7	2.7	2.7	2.7	41.9	溶着物	○
－201	141	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.4	32.7	44.4	27.8	6.6	6.2	2.9	3.0	3.0	3.1	—	歪み，溶着物，変色	○
－202	142	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.6	33.8	44.7	27.4	6.4	6.4	2.8	2.9	3.0	2.7	42.0	溶着物	○
－203	143	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	(52.1)	(35.5)	(48.3)	(29.4)	6.4	6.4	(3.8)	(4.0)	3.0	3.0	—	歪み，溶着物，変色，亀裂	○
－204	144	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.0	33.1	44.4	27.2	6.6	6.3	3.0	2.7	2.7	2.7	41.5	溶着物	○
－205	145	大広間	F81-55，Ⅲ層	広郭	49.7	33.7	44.7	28.0	6.3	6.3	2.7	2.7	3.0	2.7	—	溶着物，表面爆ぜ	○
－206	176	大広間	F81-57，Ⅲ層	広郭	49.1	32.7	44.7	27.7	6.5	6.5	2.7	3.0	3.0	3.0	—	溶着物，変色	○
394－207	548	大広間	F82-56，撹乱	広郭	49.7	33.3	44.6	28.0	6.7	6.1	3.2	3.0	3.0	2.9	42.1	溶着物	○
－208	507	大広間	F82-57，Ⅰ層	広郭	49.1	32.5	44.1	28.1	6.4	6.6	2.7	2.7	2.9	2.8	—	溶着物	○
－209	62	大広間	F82-57，Ⅱ層	広郭	—	(32.4)	—	(26.1)	5.6	5.2	—	2.7	3.1	3.1	—	歪み，溶着物，上位溶解	○
－210	549	大広間	F82-58，Ⅰ層	広郭	50.0	33.3	45.9	27.5	6.1	6.1	2.7	3.1	2.8	3.0	—	溶着物（背は顕著）	○
－211	566	大広間	F82-58，Ⅲ層	広郭	49.4	33.2	45.6	28.2	6.6	6.3	2.7	3.0	3.0	3.0	42.1	溶着物，表面剥落	○
－212	567	大広間	F82-58，Ⅲ層	広郭	49.2	33.0	44.0	27.7	6.9	6.8	2.7	2.7	2.9	2.7	—	溶着物，変色	○
－213	568	大広間	F82-58，Ⅲ層	広郭	49.0	33.0	45.0	28.5	6.4	6.4	2.7	2.7	2.8	2.7	41.9		
－214	569	大広間	F82-58，Ⅲ層	広郭	49.6	33.3	45.0	28.5	6.1	6.3	3.0	2.8	2.9	3.0	41.7	溶着物	○
－215	572	大広間	F83-54，Ⅲ層	広郭	49.6	33.0	44.7	28.3	6.2	6.5	3.0	2.7	3.0	3.1	—	溶着物	○
－216	553	大広間	F83-58，Ⅰ層	広郭	49.5	33.2	44.7	28.1	6.5	6.1	3.0	3.0	2.7	3.0	41.3	溶着物（背は顕著）	○
－217	516	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.5	32.7	44.6	27.6	6.3	6.8	3.0	2.7	2.6	2.7	41.9	溶着物（背は顕著）	○
－218	517	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	(49.9)	(34.2)	(46.0)	(29.9)	6.1	6.1	(3.0)	(3.3)	(3.3)	(3.1)	—	歪み，発泡，溶着物（背は顕著）	○
－219	518	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.4	32.7	44.4	27.9	6.4	6.8	3.0	3.0	2.9	2.9	42.0		
－220	519	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.7	32.9	45.7	28.3	6.7	6.3	2.3	2.4	2.3	2.6	42.0	溶着物（背は顕著）	○
－221	520	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.4	33.2	44.2	28.0	6.4	6.6	3.1	3.1	3.1	3.2	41.9	溶着物，表面爆ぜ	○
－222	521	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.1	32.5	44.8	28.8	6.4	6.5	2.9	2.9	2.7	3.0	41.8	溶着物	○
－223	522	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.4	33.0	45.5	28.0	6.8	6.4	2.5	2.7	2.5	2.5	41.8		
－224	523	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.4	33.2	45.2	28.3	6.1	6.1	(3.3)	(3.3)	2.8	2.7	—	溶着物（背は顕著）	○
－225	524	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.5	33.3	44.7	28.6	6.6	6.4	2.9	2.9	2.8	2.8	41.8	溶着物	○
－226	525	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.0	32.9	44.0	27.4	6.6	7.1	2.7	2.8	3.0	2.7	40.7	溶着物（背は顕著）	○

第30表　天保通宝観察表　(3)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（mm）											備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
395−227	526	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.6	33.1	45.2	28.4	6.4	6.4	3.0	3.0	2.7	3.0	41.7	溶着物，変色	○
−228	527	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.4	32.7	44.2	27.8	6.4	6.6	2.7	3.1	3.1	2.9	41.4	溶着物（背は顕著）	○
−229	528	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	49.1	32.7	45.5	29.2	6.0	6.8	2.7	2.7	2.7	2.8	41.7		
−230	529	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	50.0	33.8	45.1	28.5	6.6	5.9	2.7	2.4	2.5	2.5	42.1		
−231	560	大広間	F83-58，Ⅱ層	広郭	50.0	33.6	45.4	29.8	6.1	6.6	3.0	3.0	3.0	3.0	42.0	溶着物（背は顕著），変色	○
−232	576	大広間	F83-58，Ⅲ層	広郭	49.3	33.7	45.7	28.8	6.0	6.1	2.5	2.6	2.7	2.9	—	溶着物	○
397−275	19	大御台所	F85-49，Ⅰ層	広郭	49.7	33.0	44.4	28.3	6.4	6.4	2.6	2.7	2.7	2.7	42.0		
−276	20	大御台所	F85-49，Ⅰ層	広郭	(49.8)	(34.4)	(46.6)	(29.2)	7.0	6.9	2.5	(2.6)	2.5	2.7	—	歪み，溶着物	○
399−333	123	御小姓部屋	F79-52，Ⅲ層	広郭	(54.5)	(35.4)	(49.1)	(30.3)	7.5	7.5	3.2	3.2	3.4	3.3	—	歪み，溶解，溶着物	○
−334	49	御小姓部屋	F81-52，Ⅱ層	広郭	52.9	(33.5)	46.5	(26.9)	5.4	5.9	(3.3)	(3.8)	(3.4)	—	—	歪み，溶着物	○
401−398	70	長之間	F85-54，Ⅱ層	中郭	—	(32.6)	—	(28.0)	6.5	7.1	2.7	2.7	—	—	—	下位欠失，溶着物（背は顕著），変色	○
−399	289	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.0	32.1	44.0	28.0	6.4	6.3	2.5	2.4	2.3	2.4	41.9	固着痕あり	
−400	290	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.7	33.2	45.2	28.3	6.7	6.7	2.7	2.7	2.7	2.8	—	溶着物，表面爆ぜ	○
−401	291	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.6	33.1	44.6	27.8	6.4	6.4	2.8	3.0	3.0	3.0	41.9	固着痕あり	
−402	292	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.4	33.5	44.4	28.0	6.1	7.0	2.9	3.1	2.6	3.0	41.6	溶着物，固着痕あり	○
−403	293	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.5	33.1	44.4	28.1	6.6	6.4	2.5	2.3	2.6	2.7	42.0	固着痕あり	
402−406	295	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	49.1	33.0	44.1	28.1	6.2	6.6	2.7	2.7	2.7	2.7	41.5	固着痕あり	
−407	294	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	(49.8)	33.5	—	27.7	—	—	—	(3.2)	(3.2)	(3.1)	—	面は溶着物顕著，背は表面爆ぜ	○
−408	296	長之間	F85-54，Ⅲ層	広郭	50.0	(33.3)	44.4	(27.4)	(6.1)	—	2.8	2.7	2.6	(2.9)	—	溶解，溶着物（背は顕著）	○
403−437	301	露地	F85-55，Ⅲ層	広郭	49.4	32.9	44.0	27.8	6.3	6.8	2.6	2.6	2.5	2.5	42.0		
−438	302	露地	F85-55，Ⅲ層	広郭	48.8	33.0	43.8	27.4	6.6	6.6	2.2	(2.7)	2.4	2.6	41.6	面は表面爆ぜ，背は溶着物顕著	○
−439	419	露地	F86-55，Ⅱ層	広郭	(56.3)	(33.4)	—	—	—	—	—	3.0	3.3	—	—	歪み，溶解，溶着物	○
−440	420	露地	F86-55，Ⅱ層	広郭	—	(33.8)	—	(27.9)	5.9	5.9	—	—	—	—	—	歪み，亀裂，溶着物	○
−441	24	露地	F87-55，Ⅰ層	広郭	(50.0)	(32.4)	(45.2)	(27.6)	6.0	6.0	3.0	3.2	—	3.0	—	歪み，溶着物	○
404−450	413	西廊下	SDⅢ027	広郭	49.3	32.8	43.7	27.3	6.2	6.2	3.4	3.4	2.8	3.2	—	表面剥落，発泡	○
−451	431	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	49.3	32.5	44.3	27.5	6.7	7.0	2.5	2.5	2.5	2.7	41.7		
−452	432	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	49.2	32.8	45.0	28.0	6.9	6.7	2.3	2.3	2.3	2.2	42.0		
−453	433	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	49.2	32.7	45.1	28.7	6.6	6.6	2.7	2.7	2.7	2.6	41.7		
−454	435	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	49.0	33.1	44.1	28.5	6.4	6.7	2.74	2.7	2.7	2.6	—		
−455	436	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	49.7	32.6	44.3	28.4	6.4	6.6	2.6	2.7	2.7	2.6	41.8		

第30表　天保通宝観察表 (4)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（㎜）											備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
404−456	434	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	—	32.7	—	27.7	6.4	6.4	2.7	—	—	2.7	—	2枚固着の図上，円径22～23㎜の変色歪み，溶着物	○
−457	434	西廊下	F87-60，Ⅰ層	広郭	—	—	—	—	—	—	—	2.8	—	—	—	2枚固着の図下，歪み，溶解顕著	○
406−532	620	小広間	SXⅡ003	広郭	49.3	33.4	(42.5)	28.0	6.0	(5.5)	3.0	2.9	2.9	3.0	—	溶着物	○
−533	627	小広間	SXⅢ070	長郭	49.9	33.0	43.6	26.6	8.3	8.1	2.7	2.9	2.9	2.8	42.2	溶着物	○
−534	99	小広間	F90-57，Ⅱ層	中郭	48.7	32.2	44.1	27.7	7.0	7.0	2.5	2.5	2.5	2.5	40.6		
407−535	475	小広間	F90-58，Ⅲ層	中郭	49.4	33.1	44.6	27.7	7.7	8.0	2.6	2.7	2.7	2.6	—	溶着物	○
−536	479	小広間	F90-58，Ⅲ層	中郭	(50.3)	33.3	(45.5)	27.9	8.0	8.0	2.7	3.0	3.0	2.7	—	歪み，表面剥落	○
−537	305	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.7	36.8	44.2	(22.7)	6.1	6.1	2.7	2.8	2.7	(3.5)	42.0	溶着物（背は顕著）	○
−538	306	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	50.0	33.4	(44.4)	33.3	6.1	6.1	2.6	2.8	(2.8)	(3.3)	—	溶着物，背は顕著	○
−539	307	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	50.0	33.3	44.6	32.6	6.0	6.1	2.8	2.8	2.8	2.5	—	溶着物，表面爆ぜ	○
−540	328	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.1	44.2	28.0	6.1	6.1	3.1	3.0	3.0	2.9	41.8	溶着物，変色	○
−541	329	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	33.2	44.1	27.7	6.6	6.3	2.8	2.7	2.7	2.7	—	溶着物，表面爆ぜ	○
−542	330	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.9	33.1	44.5	28.3	6.3	6.2	3.1	2.7	2.9	2.8	—	溶着物，固着痕あり	○
−543	331	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.2	32.7	43.8	27.7	6.6	6.6	2.7	2.6	2.7	2.8	—	溶着物	○
−544	332	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.2	32.9	44.7	28.0	6.4	6.4	2.7	2.9	2.8	2.7	41.8	溶着物，変色	○
−545	333	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.9	33.2	44.3	27.7	6.6	6.3	2.7	2.5	2.7	2.7	41.8	溶着物（背は顕著）	○
−546	334	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.3	32.9	44.2	27.8	6.3	6.4	2.6	2.8	2.7	2.7	41.7		
−547	335	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.8	44.7	28.6	6.3	6.3	2.6	2.9	2.9	2.8	—	溶着物	○
−548	336	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.3	44.6	27.9	6.6	6.6	3.0	2.8	2.8	2.9	—	溶着物，固着痕あり	○
−549	337	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.7	43.9	27.7	6.3	6.2	2.8	2.7	3.1	2.9	—	溶着物（面は顕著）	○
−550	338	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	33.1	44.4	27.9	6.7	6.6	2.8	2.5	2.7	2.7	—	溶着物，変色，固着痕あり	○
−551	339	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	33.4	44.4	28.0	6.4	6.5	2.9	2.6	2.9	2.7	41.9	溶着物，変色	○
408−552	340	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.4	43.9	27.6	6.3	6.3	2.7	2.6	2.6	2.7	41.8	溶着物	○
−553	341	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.5	44.9	(27.0)	6.6	6.2	(3.4)	3.2	(2.1)	2.8	—	溶着物，表面爆ぜ	○
−554	342	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.7	33.5	43.9	27.5	6.3	6.1	2.8	2.9	2.9	2.9	41.8	溶着物，表面爆ぜ	○
−555	343	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	33.0	44.6	28.0	6.4	6.5	2.6	2.8	2.7	3.0	—	溶着物，変色	○
−556	344	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	33.0	44.2	27.8	6.3	6.3	2.7	2.7	2.5	2.6	41.9	溶着物，変色，固着痕あり	○
−557	345	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.1	32.6	(44.6)	(44.6)	6.4	6.7	2.7	2.7	2.7	2.5	—	溶着物，固着痕あり	○
−558	346	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	32.8	44.6	28.0	6.6	6.2	2.7	2.7	2.7	2.7	41.7	溶着物，表面爆ぜ，固着痕あり	○
−559	347	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.8	33.3	44.1	28.0	6.4	6.4	2.8	2.7	(3.4)	2.7	—	溶着物，背は表面爆ぜ顕著	○

第30表　天保通宝観察表 (5)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（mm）											備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
408−560	348	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.3	32.7	43.7	27.5	6.6	6.8	2.6	2.5	2.4	2.5	—	溶着物，変色	○
−561	349	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	33.0	44.1	28.0	(6.1)	(6.3)	2.5	2.6	(2.9)	2.8	—	面は溶着物顕著	○
−562	350	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	32.9	44.3	27.7	6.8	6.8	2.9	(3.0)	(3.0)	2.8	—	溶着物，変色	○
−563	351	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.3	44.4	27.9	6.4	6.6	2.7	2.8	2.7	2.7	—	溶着物（背は顕著）	○
−564	352	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	32.9	44.7	28.0	6.1	6.1	2.6	2.7	2.6	2.7	41.9	溶着物，変色	○
−565	353	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.0	44.4	27.7	6.4	6.1	2.9	2.8	2.7	2.7	—	溶着物，表面爆ぜ，固着痕あり	○
−566	354	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.8	33.3	44.2	27.9	6.2	6.3	2.9	2.9	2.8	2.8	41.9	溶着物，固着痕あり	○
−567	355	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.7	44.4	27.2	6.3	6.1	2.9	2.9	2.8	2.8	—	溶着物，変色	○
−568	356	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.7	33.0	44.4	27.9	6.8	6.8	2.7	2.7	2.6	2.6	41.9	溶着物，変色，固着痕あり	○
409−569	357	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.8	44.1	28.0	6.8	6.8	2.8	2.7	2.7	2.7	41.7	溶着物，変色	○
−570	358	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.8	33.3	44.6	27.8	6.4	6.4	2.7	2.7	2.7	2.8	41.8	溶着物，変色	○
−571	359	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	48.9	32.5	44.8	28.1	6.6	6.6	2.7	3.1	(2.7)	2.7	41.7	溶着物，表面爆ぜ	○
−572	360	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.0	32.8	44.0	27.2	6.3	6.3	3.1	3.1	2.7	3.0	—	溶着物，固着痕あり	○
−573	361	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	33.3	43.9	(27.5)	6.4	6.4	2.6	2.7	2.4	2.4	—	溶着物	○
−574	362	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.5	32.7	44.0	27.5	6.3	6.3	2.9	2.9	2.9	2.7	—	溶着物，変色	○
−575	363	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	48.8	32.3	43.6	27.7	6.3	6.6	2.7	2.6	2.6	2.7	41.5	溶着物，変色，固着痕あり	○
−576	364	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.9	33.1	43.8	27.3	6.4	6.4	(3.1)	2.9	2.8	2.5	41.6	溶着物，変色	○
−577	365	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.9	44.9	28.0	6.4	6.4	2.7	2.7	2.7	2.7	41.8	溶着物	○
−578	366	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	50.0	33.1	44.3	27.6	6.7	6.6	2.9	2.9	2.9	2.7	42.1	溶着物	○
−579	367	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.7	33.1	44.4	27.5	6.4	6.4	2.6	2.5	2.7	2.7	41.9	溶着物，固着痕あり	○
−580	368	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.2	33.0	43.1	26.5	6.2	6.4	3.0	3.0	2.7	2.7	40.9	溶着物，変色	○
−581	369	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.7	(43.0)	27.0	6.5	6.6	2.4	2.4	2.4	2.4	—	溶着物，変色，固着痕あり	○
−582	370	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.9	44.0	27.6	6.4	6.4	3.0	2.7	3.0	2.9	41.7	溶着物	○
−583	371	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	33.0	44.7	27.5	6.5	6.5	2.5	2.4	2.8	3.1	—	溶着物（面は顕著），固着痕あり	○
−584	372	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	32.8	44.6	28.0	6.1	6.2	2.8	2.7	2.7	2.7	41.8	変色，固着痕あり	○
−585	373	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.1	44.2	28.0	6.3	6.3	2.6	2.8	2.8	2.8	—	溶着物，変色	○
410−586	374	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.4	33.0	44.2	27.6	6.4	6.4	2.7	2.8	2.7	2.7	41.9	溶着物，変色	○
−587	375	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.0	32.4	44.1	27.7	6.4	6.3	3.0	3.1	3.1	3.0	—	溶着物，変色，固着痕あり	○
−588	376	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	49.6	33.2	44.4	27.7	6.6	6.6	2.6	2.7	2.6	2.7	42.0	変色，固着痕あり	○
−589	377	小広間	F89-56，Ⅲ層	広郭	50.2	33.1	43.8	27.6	6.4	6.5	3.1	3.0	3.0	3.0	—	溶着物（背は顕著），変色	○
−590	379	小広間	F89-58，Ⅲ層	広郭	49.5	33.0	43.9	27.3	6.3	6.3	2.9	2.9	2.9	2.9	—	歪み，溶着物	○

第30表　天保通宝観察表　(6)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（㎜）											備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d				銭文長		
410−591	380	小広間	F89-58，Ⅲ層	広郭	49.4	32.9	43.8	27.6	6.6	6.7	2.9	2.8	2.8	2.8	—	溶着物	○
−592	381	小広間	F89-58，Ⅲ層	広郭	49.3	33.6	44.1	28.7	5.6	6.0	2.8	3.1	2.8	3.0	—	歪み，溶着物	○
−593	382	小広間	F89-58，Ⅲ層	広郭	49.3	33.1	43.5	26.3	6.8	6.1	2.6	2.5	2.7	2.6	—	溶着物，表面剥落	○
−594	383	小広間	F89-58，Ⅲ層	広郭	(51.9)	(39.7)	(46.4)	(30.7)	(8.3)	(9.0)	2.9	2.9	2.7	2.5	—	歪み，溶着物	○
−595	385	小広間	F89-60，Ⅲ層	広郭	50.0	33.0	44.9	28.3	6.4	6.2	2.8	2.7	2.8	2.8	42.0	溶着物	○
−596	100	小広間	F90-57，Ⅱ層	広郭	49.2	33.0	44.2	28.5	6.6	6.6	2.9	2.7	2.8	2.9	41.9		
−597	393	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	(49.3)	33.0	(45.1)	27.9	6.4	6.0	3.0	2.7	2.7	2.8	—	歪み，表面剥落，欠失あり	○
−598	394	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	50.0	32.4	43.4	27.6	6.6	6.6	2.7	2.6	2.6	2.7	—	溶着物，変色	○
−599	395	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	49.4	32.5	45.5	28.8	6.5	6.1	2.7	2.7	2.8	2.7	42.0		
−600	398	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	48.9	32.7	45.5	28.3	6.4	6.2	2.7	2.7	2.6	2.7	—	溶着物	○
−601	399	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	(49.4)	33.1	(45.5)	(28.3)	6.4	5.8	2.7	2.8	3.0	2.7	—	歪み，溶着物	○
−602	400	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	(49.3)	33.0	44.4	28.8	6.6	6.6	(3.0)	2.9	(3.0)	2.7	—	歪み，溶着物，変色	○
411−603	401	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	49.5	(32.7)	44.4	(28.0)	6.2	6.2	2.7	(2.7)	2.7	2.7	42.2	溶着物	○
−604	402	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	49.7	33.0	45.5	28.5	6.4	6.4	2.8	2.8	2.9	2.8	—	溶着物	○
−605	403	小広間	F90-57，Ⅲ層	広郭	49.2	32.8	45.5	28.1	6.3	6.0	2.7	2.6	2.7	3.0	42.1	溶着物（背は顕著）	○
−606	101	小広間	F90-58，Ⅱ層	広郭	49.1	32.7	43.0	26.5	7.0	6.9	2.9	2.8	2.8	2.8	—	溶着物	○
−607	103	小広間	F90-58，Ⅱ層	広郭	50.0	33.1	44.1	27.0	6.2	6.2	2.9	2.9	2.9	2.8	41.8	溶着物（背は顕著）	○
−608	396	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	(52.5)	(35.7)	(47.0)	(29.2)	5.8	6.4	(3.7)	(3.7)	(3.7)	(3.8)	—	歪み，亀裂，溶着物	○
−609	405	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	(53.2)	(36.6)	(48.7)	(30.7)	(7.0)	(6.6)	(3.8)	(3.8)	(3.5)	(3.9)	—	歪み	
−610	467	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.3	32.8	44.6	28.4	6.4	6.0	2.6	2.5	2.6	2.6	—	歪み，表面剥落	○
−611	468	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.0	32.7	44.6	28.6	6.6	6.6	2.7	2.7	2.8	3.0	41.6	溶着物，変色	○
−612	469	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.8	32.5	44.8	28.6	6.6	6.6	2.7	2.7	2.6	2.7	41.6	溶着物	○
−613	470	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	50.0	33.0	45.2	28.5	6.0	6.0	3.0	2.3	3.1	3.5	—	面は溶着物顕著，背は表面爆ぜ	○
−614	471	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.6	33.0	44.7	28.0	6.6	6.6	2.8	2.6	2.7	2.7	42.1		
−615	472	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.1	33.6	44.4	28.2	6.8	7.2	2.4	2.6	2.4	2.7	—	溶着物	○
−616	473	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.7	33.4	45.9	29.0	6.6	6.6	2.5	2.3	2.3	2.5	42.1	溶着物	
−617	474	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.3	32.9	45.4	28.1	6.9	6.6	2.7	2.7	2.7	2.7	41.7		
−618	476	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.2	33.1	43.0	27.1	5.9	5.7	2.7	2.7	3.0	2.7	—	溶着物，変色	○
−619	477	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.2	32.7	44.0	28.3	7.0	6.4	2.8	2.7	2.8	2.6	41.7	溶着物	○
412−620	478	小広間	F90-58，Ⅲ層	広郭	49.3	32.7	44.0	28.0	6.4	6.3	2.6	2.7	2.6	2.5	42.0		
−621	40	小広間	F91-56，Ⅰ層	広郭	49.4	(32.7)	45.0	(28.6)	6.4	6.4	2.8	(2.5)	2.5	2.5	41.9	歪み，表面縮れ状	○

第30表　天保通宝観察表 (7)

報告No. (図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	分類	計測値（㎜）										銭文長	備　考	被熱
					外径 a ／ b		内径 a ／ b		方孔 a ／ b		外厚 a ／ b ／ c ／ d						
412−622	426	小広間	F91-58，Ⅰ層	広郭	49.6	32.7	45.2	28.6	6.4	6.4	2.6	2.4	2.5	2.5	41.8	表面剥落	○
−623	455	小広間	F91-58，Ⅰ層	広郭	49.7	32.7	45.1	28.6	6.7	7.0	3.0	2.6	2.6	2.6	41.8	溶着物	○
−624	456	小広間	F91-58，Ⅰ層	広郭	49.5	33.6	45.1	28.8	6.3	6.8	2.8	3.0	2.8	3.0	—	溶着物（面は顕著）	○
−625	457	小広間	F91-58，Ⅰ層	広郭	49.3	32.6	45.2	28.5	6.5	6.6	2.7	2.7	2.7	2.6	41.3		
−626	489	小広間	F91-59，Ⅱ層	広郭	49.4	33.9	44.3	32.5	6.6	6.6	2.8	2.7	2.5	2.7	41.4	溶着物	○
−627	490	小広間	F91-59，Ⅱ層	広郭	51.6	(34.0)	46.0	(28.4)	7.0	7.0	3.4	3.0	3.2	3.1	—	歪み，表面爛れ	○
−628	491	小広間	F91-59，Ⅱ層	広郭	48.9	33.0	45.1	27.9	6.2	6.2	2.5	2.5	2.3	2.7	—	歪み，溶着物，表面剥落	○
415−677	546	二様の石垣下	F81-66，Ⅰ層	広郭	(49.8)	(33.8)	(45.5)	(29.0)	(6.6)	(6.6)	(3.0)	(2.7)	(2.5)	(2.8)	—	歪み，溶着物，発泡	○

第31表　近代以降の貨幣観察表 (1)

報告No. (図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭種	文様など	記銘など	計測値（㎜）					被熱
							外径	内径	外厚 a ／ b ／ c			
395−233	166	大広間	F81-55，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・半錢，背：…・□日□・明治六年・…	22.4	19.7	1.5	1.5	1.5	
−234	165	大広間	F81-55，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：二百枚・換一圓・半錢，背：…・明治□年・１／２…	22.5	19.6	1.4	1.4	1.6	
−235	168	大広間	F81-55，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文	表：二百□・…圓・半錢，背は不明瞭	22.7	—	(1.5)	(1.5)	(1.6)	○
−236	536	大広間	F83-58，Ⅱ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：大日本・明治六年・１SEN	28.2	26.4	1.6	1.9	1.7	○
−237	8	大広間	F81-57，Ⅰ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七□・１S…	28.3	26.8	2.0	2.0	2.0	○
−238	531	大広間	F83-58，Ⅱ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一□・一錢，背：大日□・明□七年・□SE□	28.3	26.6	1.7	1.7	1.7	○
−239	532	大広間	F83-58，Ⅱ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・換一圓・一□，背：大日□・明治七年・１SEN	28.4	26.7	1.9	1.7	1.8	○
−240	169	大広間	F81-55，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・一錢，背：大日本・明□七年・１…	28.4	(25.3)	1.8	1.8	1.8	○
−241	170	大広間	F81-55，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：□日本・明治七年・１□EN	28.5	—	(2.1)	(2.1)	(2.2)	○
−242	171	大広間	F81-55，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：大日本・明治七年・１SEN	28.4	(24.8)	1.8	1.8	1.8	○
−243	172	大広間	F81-55，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・□一圓・一錢，背：□日本・明治七年・…	28.0	23.8	1.8	1.8	1.9	○
−244	179	大広間	F81-57，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七年・１SEN※固着痕あり	28.3	26.8	1.7	1.8	1.8	
−245	243	大広間	F82-57，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百□・…・一錢，背：大日本・明治七□・１SEN	28.5	25.0	1.8	1.8	1.8	○
−246	114	大広間	F80-59，Ⅰ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治八□・１SEN	28.2	26.1	1.7	1.7	1.7	
−247	61	大広間	F81-55，Ⅱ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・□一□・一錢，背：大日本・明治九年・１SEN	28.3	25.0	1.7	1.7	1.6	
−248	130	大広間	F81-53，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百□・…圓・一錢，背：□日本・明治九年・１S…	28.3	26.5	1.6	1.8	1.7	○
−249	530	大広間	F83-58，Ⅱ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治十年・□S□N	28.2	26.5	1.8	1.7	1.7	
−250	244	大広間	F82-57，Ⅲ層	１銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・一錢，背：大日本・明治十□・□SE□	28.8	(25.0)	1.8	1.8	1.8	○

第31表　近代以降の貨幣観察表　(2)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭種	文様など	記銘など	計測値（mm）					被熱
							外径	内径	外厚 a ／ b ／ c			
395−251	513	大広間	F82-61，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明…・□SEN	28.3	27.1	1.7	1.5	1.9	○
−252	537	大広間	F83-58，Ⅱ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：大日本・明治六年・2SEN	31.9	29.6	2.3	2.4	2.4	○
−253	177	大広間	F81-57，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治六年・2SEN	32.2	28.4	2.4	2.3	2.5	
−254	178	大広間	F81-57，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治七年・2SEN，表に径27㎜の固着痕あり	32.2	27.5	2.5	2.4	2.5	
−255	55	大広間	F81-54，Ⅱ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治九年・2SEN	32.0	27.4	2.5	2.5	2.7	
396−256	174	大広間	F81-55，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五…・換一□・二錢，背：大日本・明治九年・2…N	32.7	28.3	2.6	2.8	2.8	○
−257	173	大広間	F81-55，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十□・□一圓・二錢，背は不明瞭	31.5	28.0	2.1	2.1	2.2	○
−258	550	大広間	F82-58，Ⅰ層	2銭銅貨	龍文	表：五十□・換一圓・…，背は不明瞭	32.1	29.6	2.6	2.7	2.4	○
−259	544	大広間	F80-64，Ⅰ層	2銭銅貨	龍文（波鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治十四年・2SEN	32.0	29.0	2.4	2.3	2.3	
−260	551	大広間	F83-55，Ⅰ層	5銭白銅貨	菊文	表は不明瞭，背：明治二十六年・大日本・五	20.7	19.2	1.9	2.0	1.9	
−261	570	大広間	F82-61，Ⅲ層	1銭銅貨	桐文	表は不明瞭，背：大日□・大正八年	23.1	20.7	1.6	1.3	1.4	
−262	554	大広間	F83-58，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正九年	23.0	21.7	1.4	1.4	1.3	
399−335	631	御小姓部屋	SKⅢ108	1銭錫貨	表：菊	昭和19・20年発行，表：一錢，背は不明瞭	(16.1)	(12.9)	(2.1)	(2.6)	(2.1)	
−336	635	御小姓部屋	SXⅢ057	10銭アルミ貨	表：菊，背：桜	表：十□，背：大日本・昭和十七年	22.1	19.8	1.5	1.5	1.5	
401−404	251	長之間	F85-54，Ⅲ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：□百枚・…・一錢，背：大日本・明治九年・…N	28.6	(24.6)	1.7	1.9	1.7	○
−405	92	長之間	F87-53，Ⅱ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治十年・1SEN	28.0	26.1	1.7	1.6	1.7	
402−409	250	長之間	F85-54，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五…・換一圓・二錢，背：大日本・明治十年・2SEN	32.0	27.6	2.4	2.4	2.3	○
403−442	83	露地	F85-56，Ⅱ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七年・1SEN	28.2	25.9	1.7	1.7	1.7	
−443	25	露地	F87-55，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十年	23.1	22.0	1.3	1.2	1.3	
404−458	613	西廊下	SKⅡ005	10銭白銅貨	表：菊・桐，背：八稜花・青海波	円孔径4.4mm，表：十錢，背：大日本・大正十二年	22.2	20.5	1.4	1.4	1.4	
−459	623	西廊下	SDⅢ027	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治九年・2SEN	31.9	28.1	2.3	2.3	2.3	
−460	439	西廊下	F87-61，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：大日本・□治七年・大日本・1SEN	28.5	26.6	(1.5)	(1.6)	(2.0)	○
−461	421	西廊下	F86-60，Ⅰ層	5銭白銅貨	小形，表：菊・桐，背：八稜花	円孔径3.9㎜，表：五錢，背：大日□・大正十年	19.1	17.4	1.3	1.3	1.3	
−462	422	西廊下	F86-60，Ⅰ層	5銭白銅貨	小形，表：菊・桐，背：八稜文	円孔径3.8㎜，表：五錢，背：大日本・大正十年	19.1	17.7	1.3	1.3	1.3	
−463	440	西廊下	F88-61，Ⅰ層	5銭アルミ貨	表：菊・瑞雲，背：鳥	表：五錢，背：大日本・昭和十七年	19.0	17.4	1.6	1.8	1.7	
412−629	621	小広間	SXⅡ003	1銭銅貨	龍文	表：以百□・□一圓・一錢，背：…1SEN	28.4	(24.8)	2.0	1.8	1.8	○
−630	445	小広間	F91-58，Ⅰ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：二百枚・換一圓・半錢，背：□日本・明治六□・1/2SEN	22.4	21.8	1.0	1.3	1.4	
−631	106	小広間	F91-57，Ⅱ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	2枚固着の図上，背：大日本・□治六年，□SE□	22.5	20.7	(2.1)	—	—	○
−632	106	小広間	F91-57，Ⅱ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	2枚固着の図下，背：…治…	—	—	—	(1.9)	2.0	○
−633	408	小広間	F90-62，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：二百枚・換一圓・半錢，背：大日本・明治七年・□SEN	22.3	19.7	1.3	1.3	1.3	

第31表　近代以降の貨幣観察表　(3)

報告No.(図－No.)	整理No.	大区画	出土位置	銭種	文様など	記銘など	計測値（mm）					被熱
							外径	内径	外厚 a ／ b ／ c			
412−634	410	小広間	F90-62，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：二百枚・換一圓・半錢，背：大日本・明治八年・½SEN	22.4	19.5	1.5	1.5	1.4	○
−635	409	小広間	F90-62，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表：…・…圓・半錢，背：大日本・明治八年・□SEN	22.4	(19.1)	1.5	1.5	1.5	○
−636	314	小広間	F89-56，Ⅲ層	半銭銅貨	龍文（角鱗）	表は不明瞭，背：大日本・明治…・□SEN	22.7	(19.8)	1.4	1.5	1.4	○
−637	118	小広間	F90-61，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七□・…	28.3	27.0	(1.8)	(1.8)	(1.9)	○
−638	450	小広間	F91-58，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七年・1SEN	28.1	21.7	1.6	1.7	1.7	
−639	480	小広間	F90-58，Ⅲ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治七年・1SEN	28.4	25.8	1.8	1.8	1.9	
−640	452	小広間	F91-58，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百□・換一圓・一錢，背：大日本・明治九年・1SEN	28.1	26.7	1.6	1.6	1.8	
−641	451	小広間	F91-58，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百□・□一圓・一錢，背：…・明□九年・…	28.6	26.6	1.9	1.9	1.9	○
−642	387	小広間	F89-61，Ⅲ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治九年・1SEN	28.1	24.5	1.7	1.7	1.7	
−643	397	小広間	F90-57，Ⅲ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：□百枚・□一圓・一錢，背：…・明治十□・…N	28.1	24.5	1.8	1.8	(2.0)	○
413−644	453	小広間	F91-58，Ⅰ層	1銭銅貨	龍文（角鱗）	表：以百枚・換一圓・一錢，背：大日本・明治□年・1…	28.1	26.5	1.7	1.8	1.7	○
−645	312	小広間	F89-56，Ⅲ層	1銭銅貨	龍文	表：□百枚・換一圓・一錢，背は不明瞭	28.3	(23.6)	2.1	1.9	1.9	○
−646	37	小広間	F91-55，Ⅰ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治六年・2SEN	31.9	30.1	2.6	2.6	2.6	
−647	36	小広間	F91-55，Ⅰ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：□十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治七年・2SEN	32.0	30.0	2.5	2.5	2.6	○
−648	313	小広間	F89-56，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換□圓・二錢，背：大…・明治七年・…	32.1	(28.2)	2.8	2.8	2.9	○
−649	481	小広間	F91-58，Ⅲ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治七年・2SEN	31.8	29.5	2.2	2.2	2.2	○
−650	454	小広間	F91-58，Ⅰ層	2銭銅貨	龍文（角鱗）	表：五十枚・換一圓・二錢，背：大日本・明治九年・2SEN	32.1	30.8	2.2	2.3	2.4	
−651	427	小広間	F91-59，Ⅰ層	5厘銅貨	桐文	表：五厘，背：大日本・大正七年	19.9	17.5	1.1	1.1	1.1	
−652	424	小広間	F89-59，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正六年	22.0	21.7	1.4	1.3	1.3	
−653	33	小広間	F89-61，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十年	23.1	21.6	1.4	1.3	1.4	
−654	425	小広間	F90-58，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十年	23.2	21.9	1.3	1.4	1.4	
−655	96	小広間	F89-56，Ⅱ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十年	23.1	21.3	1.4	1.4	1.4	
−656	31	小広間	F89-55，Ⅰ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十一年	23.0	21.2	1.3	1.3	1.3	
−657	592	小広間	F91-55，Ⅰ層	5銭白銅貨	小形，表：菊・桐，背：八稜花	円孔径4.0mm，表は不明瞭，背：大…・大正十…	19.0	17.0	1.2	1.2	1.2	
−658	591	小広間	F89-60，Ⅰ層	5銭錫貨	表：菊・鳩	表：五錢，背：日本政府・5・昭和二十年	17.3	14.8	1.6	1.5	1.6	
−659	30	小広間	F89-54，Ⅰ層	1セント銅貨	表：リンカーン，背：小麦	表：IN GOD WE TRUST/LIBERTY/1958，裏：E.PLURIBUS・UNUA/ONE/SENT/UNITED STATES/OF AMERICA	19.0	—	1.5	1.6	1.6	
414−674	597	長局御櫓	F72-46，Ⅱ層	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・昭和十年	23.1	21.2	1.5	1.4	1.5	
415−676	611	不明	出土地点不明	1銭銅貨	桐文	表：一錢，背：大日本・大正十二年	23.1	22.0	1.3	1.4	1.3	

第6章　まとめ

1．遺構

熊本城最上段にある本丸は茶臼山の頂上に高さ5m～16mの高石垣を廻らせた曲輪で、天守を含む多数の櫓群や多重の門が曲輪周縁を固めていた。その中央にあった御殿は、表向の大広間棟を中心に中向や奥向の殿舎を付属した構成となっていて、御殿南側の小広間や月見御台所、廊下なども高石垣上に置かれ、石落しをもつなど構造的には櫓として建築され戦時を想定したものであった。すなわち、軍事的な櫓建築群と政務や儀礼、居住の場となる御殿の建築群とが廊下や合の間で連結・接続などして一体的な建築群として機能するように設計されていたようである。細川氏時代に中・奥の殿舎の一部改変はあったものの、基本的な配置が改変された様子はないので、こうした構成は本丸御殿が建築された加藤時代の慶長15年頃には成立していたとみられる。

また、本丸御殿の大きな特徴は、本丸を南北に分断して東西に通した闇り通路の上に大広間や大台所といった表の大型建物が建造され、普段は外光が差しこまない通路途中に大広間への玄関が設けてあったことである。その理由としては、元々通路で二分した本丸曲輪のうち、南曲輪に表の殿舎、北曲輪に中・奥の殿舎を建築する計画であったが、南曲輪では十分な空間が確保できずに空間の有効利用のため闇り通路を跨いだ構造に変更した可能性が考えられる[1)]が、防御上の観点から意図的に暗闇の空間を通路に取り入れたことも想定しておきたい。それは以下の理由による。

第２章でふれたように、天守へのルートには複数あった[2)]が、いずれも御天守廊下の入口にある「御札之間」を経由するように設定されており、天守への入場が制限され監視されていたと推定できる[3)]。また、天守への正式ルートは、耕作櫓御門西側の御弓蔵一階にあった小規模な門と推定される「御天守方出入口多門」を潜り抜け一旦中庭に出て、ここから石階段を昇り「御天守方口ノ間」に入ってようやく連続する櫓内の暗闇や階段の通路を進むという手順となっていた。この「御天守方出入口多門」利用のルートは、複雑かつ余人には判り難いルートであり、本丸や天守への部外者侵入を防御する一連の発想の元に設定されていたと推測できる[4)]。すなわち、大広間や大台所の床下での闇り通路の導入や玄関設置は、こうした防衛思想から設定されていたと考えておきたい。

なお、「九曜之間」下の地下通路に採用されている石垣は、方形に成形された角石や割石を築石とした布積みの石垣となっていて、闇り通路に採用された加藤時代の石垣技術とは明らかな相違がある。細川時代の初期に中・奥の居館建築が改修されていることを勘案すると、この部分の地下通路は加藤時代の設計思想を踏襲する形で細川忠利によって普請が追加された可能性も考えられる。

以上のように、御殿建築も石落しや外縁に沿った建物内には武者走りを設けて櫓同等建築として曲輪周縁の完全武装を図る一方、詰丸となる天守への複雑なルート設定や床下の闇り通路を基線とする御殿への進入方法など、戦時を第一に想定した軍事色が濃厚な実戦的構造であったことは特筆されよう。

御殿復元に先立って行なった発掘調査の成果としては、①検出された礎石や礎石列、礎石抜取痕から想定される建築が『御城内御絵図』の平面に略一致すること、②検出遺構から推定できる基準となった柱間寸法が６尺５寸であったこと、③慶長年間の新城創建時の朝鮮系文様瓦から幕末までの補修瓦に至る豊富な瓦が出土しているほか、銅製・真鍮製・鉄製などの建築金物が出土しており、御殿の壮麗さを演出する多様な装飾具の様子が確認できたことが挙げられる[5)]。このほか、④御小姓部屋下の埋め殺された石垣の検出から築城初期の本丸曲輪普請（造成）が変更を重ねたものであること、⑤細川忠利の入国初期の御殿の中と奥の改修において通路の改造も併せて実施していた可能性があること、⑥本丸数寄屋石垣根元では石垣の孕み対策の幅木石の基礎部を確認し、その工法の一端を知ることができたこと[6)]。⑦西南戦争開戦直前の２月19日における本丸炎上により、鎮台本営とされていた御殿の室内にあった多様な軍事用品が出

土していて、本営運営の一端に触れることが可能となったこと、⑧さらに出土品の被熱度によって本丸炎上の火元が小広間周辺に絞られたことである[7]。明治９年の９月前後の作成に推定できる「城郭之図」[8]（国立国会図書館所蔵『熊本城郭及び市街之図』）では、本丸の建築のほとんどは存在していて、本営はこれらの建物を利用していた。ただし、鎮臺本営がどの建物（部屋）をどう使用していたのか、十分な史料がなく多くは不明だった。しかし、今回、小広間周辺からは「熊本鎮臺本営之印」や時計、将校用ピストルといった貴重品が出土したこと、市街地を見晴らす本丸突端に位置することから、鎮臺司令官の執務室などの鎮臺でも枢要部であったことは確実で、鎮台砲兵隊中尉や会計官が火元として挙げた応接所や文庫が附属していた可能性は高い。また、大広間での数万単位での釦やスプリングホックなどの出土や小姓部屋・大台所での帽日章の大量出土は、いくつかの部屋を被服庫に使用していたことを示唆し、「武庫」銘の文鎮や銃関係物品や刀剣類が出土した長局櫓は武庫としての使用が推定できた。なお、西南戦争「両軍配備図」によれば、戦闘にあたり本丸北東部は東側の坪井方面を攻撃する砲台として一時的に利用されており、使用済み摩擦管の出土はこれを裏付けることになった。さらに、四斤砲弾や20ドイム臼砲弾の弾片の出土は、熊本城最深部となる本丸といえども薩軍の射程内にあって、砲弾が容赦なく飛び交った近代戦の戦場を想像させるに十分な資料となった。

〔註〕

1）北野隆氏は、慶長15年に東西道で二分されていた本丸を一体化する工夫で跨って殿舎を建てたとする（北野隆・鈴木喬・富田紘一『熊本城』歴史群像シリーズ２　学研　1994）。

2）『藻塩草』（熊本県立図書館所蔵）所収の「熊本城登城の節の順道及び天守・座敷絵師・地形・本丸座敷・奉行所間畳数等覚書」による。

3）竹の丸から飯田丸への多折する通路の途中にある「元札櫓御門」や「札櫓御門」の場合、特に「札櫓」という名称を附していることから、本丸への平素の出入口としてチェック機能をもたされていた門の可能性がある。通路入口にあたる「元札櫓御門」は当初の規制線であり、後に上方の「札櫓御門」に機能が移転したのではなかろうか。

4）「御天守方出入口多門」は「御天守方口之間」の北側にあった「御弓蔵」の一階に設けられた門であるが、城内の各建造物の立面を描いた『御城図』によれば内外壁面ともに窓はなく、天守側通路に一つ入口が描かれているだけで、部外者が天守への出入口と想像することは困難であったと想像される。なお、門としての「多門」は一般的建築用語にはなく、熊本城特有の用語とみられる。『御城内御絵図』には、この「御天守方出入口多門」のほか、「九曜之間」床下の闇り通路北から南北の「露地」に上る二つの「多門」や「御小姓部屋」の下の「一番目多門」、「御小姓部屋から「御祈祷所」に通じる廊下床下にあった「二番目多門」がある。これらは本丸御殿床下の闇り通路の「四辻」の北側から「中」の露地や「奥」の露地、そして「御奥御台所」に通じるルート上にある。広間や廊下の床下に設けられていたように天井高の低い通路に設けられた門であり、潜り戸のような小規模な施設に推定される。

5）このことはすでに『特別史跡　熊本城跡　本丸御殿復元整備事業報告書』（熊本市　2009）で簡単に触れられている。

6）熊本城では石垣の変位の対策に石垣根元に新しく石垣を設けて石垣を押えているハバキ（幅木）石垣が源之進櫓北側石垣裾に二箇所、西竹の丸五階櫓台南裾の三箇所に存在する。一方、成立年不詳の『御城図』では源之進櫓北側の二箇所と本丸数寄屋下に土盛りのように見える補強が確認できる。本丸数寄屋下の東西石垣下部には現在でも孕みが確認でき、その直下には列石の頭部が露出しており、発掘調査で検出した石垣裾の置石はちょうどその延長部にあたり、絵図の土盛り状の一部に相

当している。すなわち、今回本丸数寄屋下で検出した石垣裾の置石は、石垣の孕み対策として絵図で土盛り状に描かれた施設の基礎部分であることが判明する。

7）第2章で既述したように、本丸炎上については失火・自火・放火の各節があり決着しておらず、火元についても史料には「天守と書院の渡り廊下」「本台（鎮臺本営）応接所」「本台文庫」といった錯綜した情報があって長く決着をみていないが、最近、個々の史料にある証言の信用性や風向きなどを検証した富田紘一氏によって鎮台司令長官や参謀長らの周到な計画による自焼であった、と詳細に考証されている（「熊本城炎上の謎を探る」『熊本城』復刊第百号記念号　熊本城顕彰会　2015）。

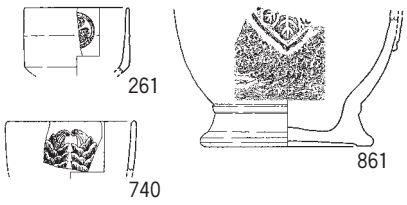
8）鶴嶋俊彦「新史料「熊本城郭及市街之圖」」『熊本城調査研究センター年報』1　熊本市熊本城調査研究センター　2015.

2．遺物

a．陶磁器類

①．時期の概要（第417図）

本丸御殿は、創建以降、江戸時代を通して式典などの儀礼空間であったが、慶応３年（1867）12月～明治３年（1870）７月においては藩庁として、明治４年（1871）８月以降は熊本鎮台本営として利用される。本調査区において陶磁器は多量に出土しており、主体は19世紀代前半から後葉の型式である。そのなかで、第５章２で詳述したように、葵紋や銀杏紋が施文され、藩主室の婚礼調度品であった可能性が高い染付碗（報告№261・740）や細川家家紋の五七桐（足利将軍家からの拝領紋）が施文された瓦質壷（報告№861）などの優品は御殿としての使用期に伴う可能性が高い。しかし、殆どは雑器といえる大量生産品であり、セットで購入されたとみられる同一形態品も多く認められることから、多くの人が常態的に集まることによる使用、すなわち藩庁・鎮台本営期に使用されたものと考えられる。



第417図　御殿使用期の陶磁器類

②．近代初期における陶磁器絵付けの様相（第418図，第32表）

本調査区資料のなかで特筆されることは、明治10年（1877）２月19日の本丸御殿（鎮台本営）焼失に伴う焼土等を多量に含む焼失時の埋没土、あるいは焼失から間も無い時期の整地土と判断されるⅢ層からの出土品、焼失時に埋没した遺構からの出土品、加えて焼失による二次焼成品など、絶対年代が担保される資料が多量に認められることである。

本項では、上記資料のうち釉下彩陶磁器の顔料・施文方法に注目する（第32表）。顔料は、呉須資料が最も多く、化学コバルト資料がこれに次ぐ。化学コバルトに酸化クロム・小円子を付加した多彩資料は４点のみである。注目されるのは、線描きは呉須で塗りは化学コバルト、外面は化学コバルトで内面は呉須、といった両者を併用する資料が20点認められることである。これらは、近代初期の化学コバルト普及期における過渡的な様相を示すものと評価される。施文方法は手描きが圧倒的に多く、明治４年（1871）導入とされる型紙摺りや、明治８年（1875）頃の導入とされる盛絵技法の資料は極僅かである。

線描き・濃みともに呉須

線描きは呉須・濃みは化学コバルト

第418図　同形態品における顔料の差異

以上は明治10年当時における絵付け技術の変化過程の様相を示すものといえるが、器形については、特に端反碗において顕著であるように、江戸時代以来の在来的なものであることが注目される。すなわち、装飾技法は新来の技術を導入しながら、器形は在来の形態を継承しているのである。これは、渡辺芳郎氏が指摘するように、陶磁器生産において「新来の技術と在来のそれとが混在しつつ、近代化が進行した」ことを示している[1)]。ちなみに筆者は、熊本城下などにおいて銅版摺り施文の蛇の目凹形高台皿を実見している[2)]。江戸期以来の器形・焼成技法がその後も踏襲されていくことが判る資料といえる。

第32表　釉下彩陶磁器の絵付け顔料・技法別集計表

焼成	器種		呉須	化学コバルト				化学コバルト?	呉須・化学コバルト併用
			手描き	手描き	型成形＋塗り	型紙摺り	盛り絵＋塗り	手描き	手描き
磁器染付	碗	小広東碗	1						
		筒形碗	1						
		端反碗	28	15				1	20
		端反碗蓋	6	6					
		丸碗	1						
		平形碗		2					
		碗	2						
	碗蓋	広東碗蓋	1						
		碗蓋	2						
	湯呑碗	小丸碗	17	1					
		湯呑碗	3	6					
	小坏	小坏	1						
	皿	小皿	1						
		玉縁皿	2	9					
		ソーサー	1						
		中皿	1						
	急須	急須					1		
	酒器	徳利	7						
	蓋物	蓋付鉢	1	4					
		段重	1	3					
		鉢・段重蓋		3		1			
	合子	合子蓋	5	3					
		薬盒蓋	6	6					
	瓶類	小瓶	1						
	喫煙具	火入	1						
		煙管		1					
	文房具	水滴			5				
多彩磁器	蓋物	蓋付鉢		2					
		段重		2					
陶胎染付	碗	平形碗		1					
	土瓶	汽車土瓶		1					
合計			90	65	5	1	1	1	20

※鉄絵類は集計から除いている。

③. 陶磁器の産地同定と型式

在地産陶磁器の同定（第419・420図，第33・34表）

本報告陶磁器には、熊本県内産の19世紀代前半～後葉に位置付けられる製品が多くみられる。それらのうち網田焼・松尾焼については量的に卓越するものの、具体資料に基づく報告例が殆ど無いことから、本項にて同定根拠を示しておく[3)]。

網田焼　網田焼は、熊本県宇土市において生産された県内最大の肥前系磁器窯である。寛政5年（1793）に創業され、昭和初期まで存続した。初期においては藩の保護・育成政策により藩窯として大いに繁栄したが、文化３年（1806）以降、段階的に藩の保護・育成政策が打ち切られ、文政10年（1829）には藩窯から完全に脱して民間経営の窯となっている[4)]。

今回の報告に際し、宇土市教育委員会が所蔵する19世紀第２・３四半期に位置付けられる網田焼資料を実見した[5)]。量産品を焼成した窯跡出土資料で、様相からみて、民窯となった文政10年以降の産品と考えられるものである。この窯跡資料と本丸御殿出土資料を比較し、特徴が共通するものを抽出することとした。網田焼と他の肥前系磁器製品とを分かつ最大の特徴、すなわち網田焼特有とみられる属性は、主に皿

の高台部・内底部に認められる釉の爛れであり、爛れた部分には透明な短い針状の付着物が認められる場合が多いことである。また、内底の蛇の目釉剥ぎが雑で、釉が薄く剥ぎ残っていたり、施釉部分と剥いだ部分との境が不明瞭であったりするものが多いことも特徴である。これらの点を重視し、加えて器形・文様などが窯跡資料と共通するものを網田焼と判断した。以下、本報告資料のなかで網田焼の可能性を指摘し得るものを列記する（第419図，第33表）。

第419図　網田焼における釉の爛れ

a：白磁広東碗　広東碗とするには体部が張り、底部器壁が厚い器形である。崩れてはいるものの、広東碗の系譜上にある型式と考えられる。釉色は灰緑色味を帯びる。内面は、広く粗く蛇の目釉剥ぎを施している。窯跡資料では未確認であるが、本報告資料№40において、釉が薄く剥ぎ残った蛇の目釉剥ぎ部に環状の釉の爛れが認められる。すなわち、上に重ね焼いた個体の高台部と接する部分が爛れているわけである。

b：磁器染付端反碗１　腰が張る器形である。化学コバルトにより外面草花文、内面圏線を描き、内底蛇の目釉剥ぎ後、アルミナを塗布している。窯跡資料・本報告資料ともに釉の爛れは認められない。

c：磁器染付小丸碗１　小丸碗としても小ぶりな形態である。化学コバルトにより菖蒲と蝶２頭を描く。窯資料・本報告資料ともに釉の爛れは認められない。

d：磁器染付玉縁口縁皿１　暗緑色の呉須により内側面・内底中央に格子文を描く。内底の蛇の目釉剥ぎは雑である。この部分にアルミナを塗布するものも稀に認められる。窯跡資料には、高台部側面に釉の爛れが認められるものが多く、これが釉が薄く剥ぎ残った蛇の目釉剥ぎ部や高台見込みに認められるものもある。なお、窯跡資料では認められなかったが、本報告資料には化学コバルトによる施文で釉の爛れが認められるものがある。

e：磁器染付玉縁口縁皿２　暗緑色の呉須により内面に略化した草花文を描く。内底は蛇の目釉剥ぎを施す。窯跡資料では破片のため未確認であるが、本報告資料は高台部に釉の爛れが認められる。

f：磁器染付玉縁口縁皿３　化学コバルトにより内側面に略化した松・遠山文を、内底中央に略化した草花文（？）を描く。内底の蛇の目釉剥ぎは雑である。この部分にアルミナを塗布するものも認められる。アルミナを塗布しないものについては高台部に釉の爛れが認められる。

g：磁器染付玉縁口縁皿４　化学コバルトにより内面に略化した草花文を描く。窯跡資料では釉の爛れは認められない。ただし、本報告資料№396は、高台部に釉の爛れを認めること、蛇の目釉剥ぎが雑であることから、網田焼の可能性が高いと考えている。

h：磁器染付玉縁口縁皿５　本報告資料にのみ認められるもので、器形は窯資料に普遍的な玉縁口縁であるが、文様が共通するものは認められない。ただし、高台部に釉の爛れを認めること、蛇の目釉剥ぎが雑であることから網田焼の可能性を指摘できる。

これらの他、当該期の肥前系製品において普遍的な器形・文様ではあるものの、窯跡資料と本報告資料に共通し、かつ、その特徴について看過しきれないものがある。以下、２例を挙げる。

i：磁器染付端反碗２　暗緑色の呉須により外面に格子文、内側面に圏線、内底中央に格子文を描く。外面の格子文は体部下位までで収束し、腰部は無文帯となる。内底は蛇の目釉剥ぎを施す。窯跡資料については高台部に釉の爛れを認める。

j：磁器染付小丸碗２　暗緑色の呉須により外面に丸文（丸内に薄）を描く。胎土が淡灰色を呈する点が

第33表　本報告資料と網田焼窯跡資料との属性比較表

分類		産地	本報告資料№	釉爛れ	器形	絵付け		釉剥ぎ	アルミナ塗布	備　考
						顔料	文様			
a	白磁広東碗	網田	40	○	○	—	—	○	—	釉調が合致。
		網田？	360	—	○	—	—	○	—	
b	染付端反碗１	網田？	564～566・653	—	○	○	○	○	—	
c	染付小丸碗１	網田？	18・139・380・578～592・606・620～623・628・633・660～666・747	—	○	○	○	—	—	本報告資料には線描は呉須？（塗りは化学コバルト）もあり。
d	染付玉縁口縁皿１	網田	65・344・467・709・850	○	○	○	○	○	—	
		網田？	710・711	×	○	○	○	○	—	
		網田？	752	○	○	×	○	○	—	本報告資料は化学コバルト。
		肥前系	66・753	×	○	×	○	○	—	本報告資料は化学コバルト。
e	染付玉縁口縁皿２	網田	676	○	○	○	○	○	—	
f	染付玉縁口縁皿３	網田	59・390～393・530	○	○	○	○	○	—	
		網田？	53～58・60・148～151・264・265	×	○	○	○	○	○	
		網田？	389・751	○	×	×	○	○	—	本報告資料は素口縁、呉須描き。
g	染付玉縁口縁皿４	網田？	396	○	○	○	△	○	—	文様ほぼ共通（△）。
		網田？	61～64・152・153・394	—	○	○	△	○	○	
		肥前系	395	×	○	○	△	○	—	
h	染付玉縁口縁皿５	網田？	397	○	○	—	—	○	—	本報告資料は化学コバルト。
i	磁器染付端反碗２	肥前系	954	×	○	○	○	○	—	
j	磁器染付小丸碗２	肥前系	464・657・743・764・765・907	—	○	○	○	—	—	胎土は淡灰色。

第34表　熊本県内産陶磁器類一覧表

産　地	器　種	点　数		報　告　№
網田焼 網田焼？	広東碗	2	78	40・360
	端反碗	4		564～566・653
	小丸碗	33		18・139・380・578～592・606・620～623・628・633・660～666・747
	玉縁口縁皿	37		53～66・148～153・264・265・344・390～394・396・397・467・530・676・709～711・752・850
	皿	2		389・751
松尾焼	端反碗	3	20	257・285・548
	火入	5		107・197・198・513・514
	灰落し	12		507～512・729・803～807
小代焼 小代焼？	火入	2	9	242・927
	水指	2		515・759
	碗	5		123・226・649・739・867
八代焼 八代焼？	小坏	1	5	724
	急須蓋	1		726
	急須	1		727
	茶入	2		444・445
	灰落し	1		808
一勝地焼 球磨郡産？	碗	3	7	321・636・841
	端反碗	2		631・371
	浅碗	2		308・840

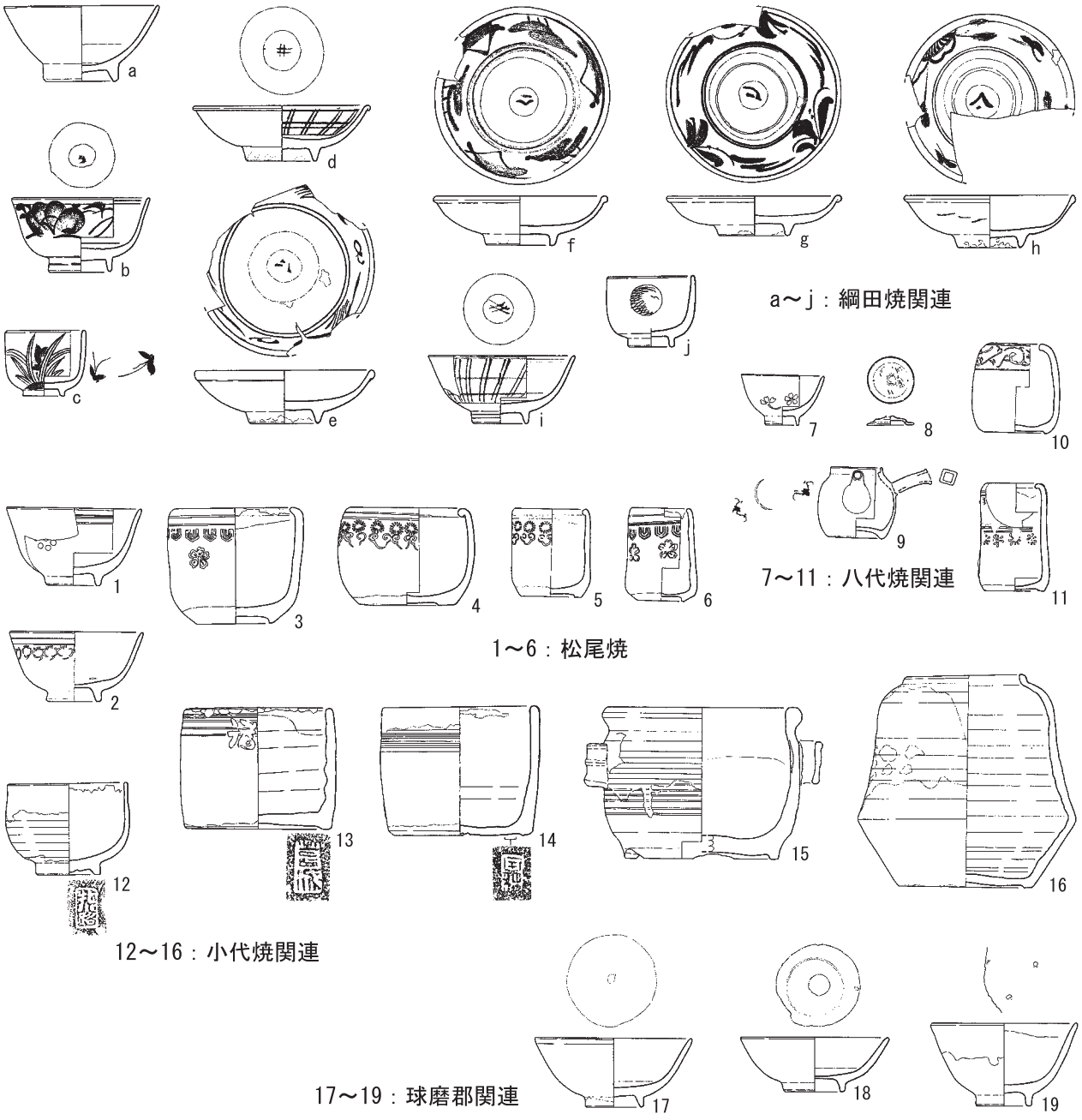
注目され、窯跡資料・本報告資料の両者において目立つ。

以上ａ～ｊについて、本報告資料と窯跡資料との属性を比較し、同定結果を記したものが第33表である。表中で、○は共通する、×は共通しない、－は比較の際に該当しない項目という意味である。同定は、前述のように高台部等に認められる釉の爛れを最も重視しており、これに加えて器形・文様などが共通するものを「網田」とし、これに準じるものを段階的に「網田？」・「肥前系」とした。

ここで、釉の爛れが何に起因するのかについて予察を述べておきたい。爛れが認められる状況は以下の通りである。

①重ね焼きするものに認められ、小丸碗など重ね焼きしない器種には認められない。②蛇の目釉剥ぎ後、アルミナを塗布したもので認められるのは極少ない。③部位は高台側面が主で、釉が薄く剥ぎ残った蛇の目釉剥ぎ部や高台見込みに認められるものもある。すなわち、重ね焼きの際に上下の個体に接する部位に認められる。④釉が薄く剥ぎ残った蛇の目釉剥ぎ部における爛れは、通常、環状（上に重ねた個体の高台部の形状）で、面的に認められる場合もある。⑤爛れが認められるものは、蛇の目釉剥ぎが雑である。

以上から、爛れは、重ね焼きをする際の剥離材が融着し、これに接する部分の釉が変質したものと考えられる。蛇の目釉剥ぎが雑な理由も、そうした溶着防止のための措置を講じていたためと考えられる。剥離材の材質は不明であるが、焼成時に溶解して釉に融着すること、透明な短い針状の付着物が認められることははは参考となろう。ただし、剥離材としての効果は高くはなかったようで、流通品である本報告資料を



※綱田焼関連 a～j は本文（356 頁），第33表に対応

第420図　本調査区出土の熊本県内産陶磁器

みても、蛇の目釉剥ぎ部に上に重ねた個体の高台端部片が割れて貼り付いたものが見受けられる。

松尾焼　熊本県熊本市所在の陶器窯である。安永７年（1778）に創業し、明治初期まで存続した。江戸時代を通して藩の保護を受け、御用品の上納を行なっている[6]。窯跡の調査事例は無く、陶工の御子孫の方に伺っても資料は散逸しているとのことで、製品の実態は不明である。そのため、熊本市立熊本博物館・八代市立博物館に所蔵する伝松尾焼資料を実見した。これによれば、本報告資料と全く一致するものは認められなかったものの、以下の属性に一致する本報告資料を松尾焼と同定した[7]。

胎土：やや粗く硬質である。色調は暗灰色～赤褐色で、暗灰色が主体となる。

施釉：釉の発色は暗緑色～褐色で、暗緑色が主体となる。碗・小皿については畳付以外総釉である。

文様：印花による白土象嵌文を主文とし、複数種の小形の印花を組み合わせて文様を構成するものが多く、特に目立つのは桜花文である。小碗には九曜文を単独で施すものもある。象嵌文の多用は、初代陶工丹次が八代焼上野家出身であることに起因すると考えられる。ただし、八代焼とは異なり、白土を丁寧に埋め込まなかったためであろう、象嵌文の表面が窪むものが多く、また、黒象嵌文はみられない。

「烏犀圓」銘の薬盒蓋（第421・422図，第35表）

上面に手書きで「肥後」（横書き）、「渡辺」・「烏犀圓（または円）」・「一廻入（または半廻入）」（縦書き）と記された肥前系磁器染付の合子蓋が多く出土している。当該資料については主に小川　望氏の先行研究がある[8]。これによれば、江戸遺跡のほか主に九州に分布しており、16遺跡19点の出土が確認されている[9]。年代は19世紀代前半～後葉に位置付けられる。烏犀円は万能薬として広く知られ、全国各地で製造販売されており、そのうち磁器容器を用いたのは肥後烏犀円と肥前烏犀円である。「渡辺」は、熊本城下塩旭町の徳光屋の姓である、などの成果が挙げられている。

本報告では、上記のことから「薬盒蓋」と、用途を限定した呼称を用いている。出土数は46点で、うち28点を報告しており、他に近似資料「肥後」・「烏犀圓」・「清田製」銘の薬盒蓋１点がみられる。本項では、報告資料について、既往成果の手法に倣って銘の字体による分類を行ない、これに染付顔料や成形技法の観察を踏まえながら型式を検討することとする。

字銘の分類は特徴が判り易い「圓（または円）」・「渡」に着目した。

「圓」：１類…楷書。丁寧に書かれているが、不慣れで金釘文字である。「清田製」薬盒蓋にのみ認められる。２類…楷書で丁寧だが、「員」の貝が「口」となる。３類…筆致に勢いがあって「員」が「負」に似た字体となる。４類…筆致に勢いがあり、「員」は３類よりもさらに略され「久」に似た字体となる。５類…筆致に勢いがあり、「員」は足が省略され「互」に似た字体となる。６類…国構えはほぼ略され、全体が「原」に似た字体となる。７類…略字「円」となる。

「渡」：ａ類…さんずいが略されず「シ」字形（楷書体）である。ｂ類…さんずいが「し」字状（行・草書体）となる。ｃ類…さんずいがほぼ１本の縦線となる。ｄ類…さんずいがほぼ1本の縦線で、旁の略化も著しく、さらに偏とくっつくため、全体が「及」に似た字体となる。

上記の分類は、それぞれ１類から７類へ、ａ類からｄ類へと順次略化するものである。これらと染付顔料や成形技法等との関係を示したのが第35表である。これによれば、染付顔料（呉須・化学コバルト）の差異が字体の略化と相関していることが明らかである。成形技法については内面見込みの形状に着目し、平滑なものと渦状の凸凹が認められるものの二者に分けている。蓋内側の窪みは、円板を刳り込んで成形しており、見込みが平滑なものは丁寧に刳った、あるいはナデ調整を施したもの、見込みが渦状に凸凹するものは雑に刳ってヘラの当りが残ったものと理解される。この二者の差異についても、染付顔料の違いや字体の略化との相関性が明らかである。染付顔料の違いは、呉須から化学コバルトへ移行していく時間差を反映した可能性が高いことから、これと相関する字体の略化、内面見込み形状にみる成形技法の粗雑化も時間経過を示すと考えられる。以上を補完するものとして、薬盒蓋と組み合う白磁合子身に偶然付着し

第35表　烏犀圓薬盒蓋属性観察表

烏犀円薬盒蓋

渡辺									
	呉須				化学コバルト				合計
	点数	内訳（字形）			点数	内訳（字形）			
		「圓」	「渡」	実測No.		「圓」	「渡」	実測No.	
内面平滑	5	2類	c類	271	1	5類	d類	786	7
		4類	a類	782					
		4類	b類	90・783					
		不明		478					
内面凸凹	5	3類	b類	404	17	3類	c類	406・407	22
		4類	b類	167・785		5類	b類	168・787	
		5類	c類	405・784		5類	c類	408	
						6類	d類	409・410・411・725・788	
						7類	c類	413・414・477・682	
						7類	d類	412・415	
						不明	c類	416	
合計点数	10				18				28

※下線No.はⅢ層出土あるいは二次焼成が明らかなもの。

清田製				
	呉須			合計
	点数	内訳（字形）		
		分類	実測No.	
内面平滑	1	1類	476	1
合計	1			1

合子蓋

顔料	呉須	呉須？	化学コバルト	合計点数
内面平滑	7	1	6	14
内面凸凹	1		7	8
合計点数	8	1	13	22

白磁合子身

	化学コバルト小斑		合計
	無し	あり	
内面平滑	24	11	35
内面凸凹	5	7	12
合計点数	29	18	47

「渡辺」銘

呉須・内面平滑

2c類　4a類　4b類

化学コバルト・内面平滑

5d類

呉須・内面凸凹

3b類　4b類　5c類

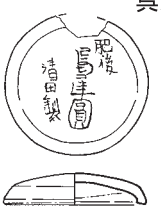
化学コバルト・内面凸凹

3c類　5b類　5c類

6d類　7c類　7d類

「清田製」銘

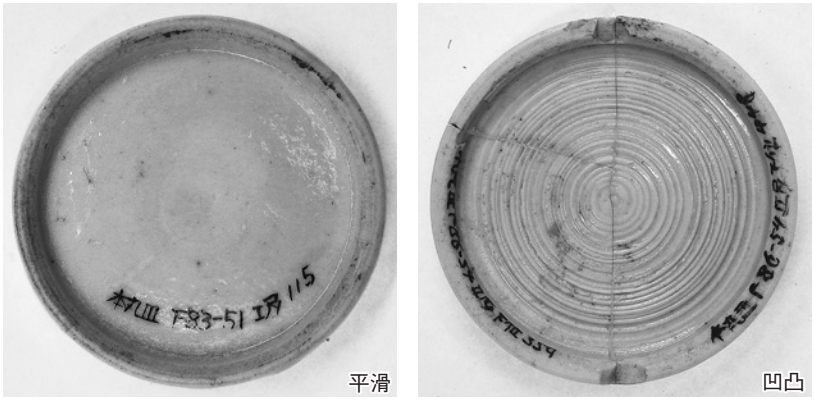
呉須・内面平滑



1類

第421図　「烏犀圓」薬盒分類図

た酸化コバルトの飛沫とみられる小斑の有無、薬盒蓋と同器形で山水文などを施す磁器染付合子蓋に用いられる染付顔料の違いに着目する。これらについても内面見込み形状（平滑・凸凹）との関係をみてみると、薬盒蓋と同様の相関性を認めることができるのである。



第422図 「烏犀圓」薬盒の内面見込み形状における二者

次に「烏犀圓」薬盒蓋の実年代を検討する。薬の容器という用途や出土量を勘案すれば、多くの人が常態的に集まる時期、すなわち藩庁・鎮台本営期に伴う可能性が高い。さらには出土属性や被熱状況から明治10年（1877）２月19日の焼失時、あるいはその後間もない時期に埋没したと捉えられるものが少なからず存在することから、これらは主に明治10年以前の数年間の所産とみられる。すなわち、前述した型式的な変化は極短期間に進行したものと考えることができる。これは烏犀円の需要拡大に伴う容器の量産化、陶磁器生産の近代化に起因するものであろう。需要拡大をもたらした最大の理由は不明であるが、熊本鎮台の設置とそれに伴う城下の近代化を挙げることはあながち的外れではあるまい。なお、新しい型式と考えられる字銘７ｃ・７ｄ類については、出土属性や被熱状況から明治10年以降に生産された可能性も高く、本調査区出土の「烏犀圓」銘薬盒蓋は、概ね明治10年を前後する時期の所産と捉えることができる。

生産地は肥前系とはいえるものの詳細は不明である。「肥後」銘の販売元であること、既往成果における同事例の出土分布状況（九州地方に偏在）から、さほど遠くない生産地が想定される。ここで注目したいのは、当該期の熊本県における唯一の磁器窯である網田焼である。窯跡資料に同一品は認められないが、宇土市網田焼資料館の展示品のなかに、本調査区資料よりも大振りで形状もやや異なるもので、蓋上面に呉須書きで「烏犀円」とのみ記された磁器染付の薬盒が存在することを参考事例として挙げておく。

なお、既往研究において烏犀円の需要拡大の理由として、コレラの流行の可能性が指摘されている。コレラは幕末の安政期に猛威を振ったが、明治初期には小康状態となり、再び流行するのは西南戦争後の明治10～12年（1877～1879）である[10]。本調査区出土の「烏犀圓」薬盒蓋については、その実年代の位置付けからコレラ流行との関連性は低いのではないかとみられる。

近代初期の磁器釉下彩（第423図）

本報告では、近代初期に位置付けられる釉下彩の多彩磁器（以下、釉下彩）を8点報告している[11]。蓋付鉢：報告№162・227・470（162・470はⅢ層出土） 段重：報告№165・228・471（165・471はⅢ層出土） 鉢・段重蓋：報告№402・598

いずれも手描きで、主に化学コバルトを用い、これに酸化クロム（緑色）・小円子（淡赤色）を付加するものである。文様は草花・梅などの植物文で、勢いのある筆致で描かれている。草花文については、同文様形態例に有田町泉山の深海平左衛門窯産「喜三製」銘の釉下彩大皿の優品があり、鈴田由紀夫氏により明治３～11年頃に位置付けられている[12]。本報告資料においては、出土属性（Ⅲ層出土）から明治10年（1877）２月19日の焼失時、あるいはその後間もない時期に埋没したと捉えられるものが４点あり、これらは明治８年（1875）の導入とされる酸化クロムを用いていることから、製作年代を明治８～10年に絞り込むことができる。

産地は肥前としている。胎土の特徴に加え、当該期に釉下彩という最新の絵付け技法を獲得し得たという状況から、肥前以外の肥前系諸窯ではないであろうと考えたものである。

蓋付鉢（No.470）

鉢・段重蓋（No.402）

第423図　磁器釉下彩写真

器種は、蓋付鉢、段重、鉢・段重蓋の３種に限られる。近代初期において一般的には流通していなかった釉下彩について、特定の用途を意図して購入した可能性を考えることもできる。

ヨーロッパ産陶磁器（第424図、第36表）

ヨーロッパ産陶磁器の出土は熊本城跡の歴史的特性を示すものである。第36表に示したように、本調査区からは、硬質陶器大皿・塩釉炻器瓶・塩釉炻器インク瓶・硬質陶器ローゼット・陶器ドアノブなど特殊な器種が出土している。硬質陶器大縁皿を除いた上記資料は、いずれも同形態品が複数点認められ、これらについて同時期性を評価することが可能である。

硬質陶器大皿は、銅版転写によるプリントウェアである。オランダのマーストリヒト陶器ペトゥルス・レグゥー窯の製品、1855～70年製とみられる。文様パターンはHoncで、楼閣を描いた東洋的な風景図であり、東洋人向けに案出されたデザインとされるものである[13]。当時の日本におけるエキゾティシズム（西洋趣味）が反映されたものと評価され、調度具として使用された可能性も考慮される嗜好品である。

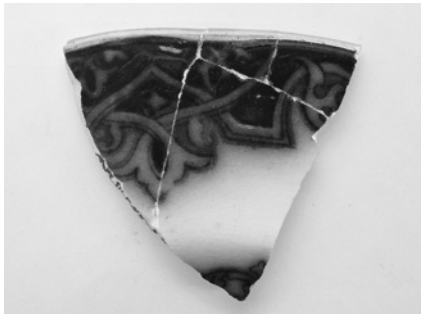
塩釉炻器は、いずれも胎土が灰色で肌理細かくネットリとしており、内外面に褐色の薄い釉が施されるものである。成形技法は器面に挽き上げ痕が認められるなど粗雑であり、これは商品容器であったためと考えられ、塩釉炻器瓶についてはジャム・マスタードなどの容器とみられる。塩釉炻器インク瓶は卓上用とみられる小形品である。同事例が汐留遺跡にあり、用途・産地の同定はその報告に従っている[14]。

硬質陶器ローゼットは型成形品である。第５章２で詳述したように、残存状態の良好な報告№20において認められる刻印（登録商標）がイギリス産、1869年10月27日製を示すものであることから、他の同形態品も同じ産地と考えている。ちなみに1969年は、日本における電信業務の開始期である。

陶器ドアノブは、いずれも異なる発色の土を揉み込んだ所謂練り上げ手で鉄釉を施すものである。考古資料に類例を求めることはできなかったが、西洋アンティーク店Country Cottageのご教示からイギリス産の可能性が高いと考えている。

第36表　ヨーロッパ産陶磁器一覧表

器種	産地	出土総数	報告点数	報告№	備考
硬質陶器大縁皿	オランダ	１点	１点	385	
塩釉炻器瓶	ヨーロッパ	３点	１点	800	Ⅲ層出土
塩釉炻器インク瓶	イギリス	36点	20点	810～829	二次焼成20点
硬質陶器ローゼット	イギリス	11点	７点	20・116～119・206・760	二次焼成２点
陶器ドアノブ	イギリス？	12点	９点	120・207・208・320・703・833・863・864・929	二次焼成６点


硬質陶器大縁皿（No.385）

塩釉炻器インク瓶（No.813）

塩釉炻器インク瓶（No.810）

塩釉炻器瓶（No.800）

硬質陶器ローゼット（No.20）

硬質陶器ローゼット（No.20）

煉り上げ陶器ドアノブ（No.864）

煉り上げ陶器ドアノブ（No.863）

煉り上げ陶器ドアノブ（No.320）

第424図　ヨーロッパ産陶磁器写真

嗜好品である硬質陶器大皿を除いた上記資料は、いずれも生活様式の西洋化を示しており、鎮台設置期（明治４年）以降に持ち込まれた可能性が高い。下限期は、出土属性（Ⅲ層出土）や被熱状況から明治10年（1877）２月19日の焼失時、あるいはその後間もない時期と捉えられる。

硬質陶器ローゼットについて特記する。ローゼットは電線を室内に引き込む際の装飾具であり、熊本における電信の開通に伴うとみられることから、明治５・６年（1872・1873）頃以降に持ち込まれた可能性が高い[15]。報告No.20に刻された登録商標の製造年（1869年）と数年の時間差があるのは、これをイギリスから直接輸入したのではなく、明治２年（1869）の電信業務の国内開始に伴って輸入し、恐らくは東京でストックされていたものを入手したためと想定される。当然のことながら、鎮台における電信の開通は国家事業の一環であり、中央政府の意向と連携のもとで実施されたことを示すものと捉えたい。

④．陶磁器購入のあり方

産地と器種の相関性（第34・37表）

前項における同定を踏まえ、18世紀末～19世紀代後葉に位置付けられる陶磁器類について、産地と器種の関係性を示したのが第34・37表である。特に注目すべきは在地産陶磁器における相関性である。碗・皿などの供膳具は網田焼・球磨郡産、火入・灰落しなどの喫煙具は松尾焼、水指・茶入・急須類などの茶器は小代焼・八代焼といったように、器種によって産地が異なる傾向が明瞭である。これは用途ごとに各産地の特性を生かした製品を選択して購入した結果と考えられる。また、塩釉炻器瓶（ジャム・マスタード

第37表　陶磁器類　器種・産地相関集計表ー報告分ー(1)

形態	大分類	碗								碗蓋				湯呑碗			小坏	小皿			四・五寸皿						中大皿		小水注（醤油指し）
	小分類	小広東碗	広東碗	端反碗	端反小碗	丸碗	浅碗	平形碗	碗	広東碗蓋	端反碗蓋	平形碗蓋	碗蓋	筒形碗	小丸碗	湯呑碗		小皿	脚付小皿	耳皿（箸置き）	玉縁口縁皿	輪花皿	菊花皿	角皿	深皿	皿	中皿	縁皿（大皿）	
熊本	網田		2	4											33			1			37					2			
	松尾			3																									
	八代																1												
	小代								5																				
	小代or福岡								1																				
	球磨郡			3			2		3																				
	在地？																			1									
九州	肥前	1												2			1	1					1						
	波佐見								2																	1			
	志田																	2											
	内野山																									2			
	肥前系			144	4	9		4	3	1	14	1	2	1	37	24	5	6	1		15	1		1	2	3	2		
	肥前or福岡																												
	上野																												
	薩摩																												
	龍門司																												
	九州																												
国内	瀬戸美濃				1						1		2				4	5											
	関西																												
	関西系								2																				1
	信楽																												
	萩																1												
	不明				1			1																					
外国	ヨーロッパ																											1	
小分類合計点数		1	2	154	6	9	2	5	16	1	15	1	4	3	70	24	12	15	1	1	52	1	1	1	2	8	2	1	1
大分類合計点数		195								21				97				17			65						3		

第37表　陶磁器類　器種・産地相関集計表ー報告分ー(2)

形態	大分類	土瓶			急須		茶器			蓋物						合子			調理・厨房具類							酒器		瓶類	
	小分類	土瓶	汽車土瓶	土瓶蓋	急須	急須蓋	茶入	小壷（茶入?）	水指	蓋付鉢	段重	鉢・段重蓋	釉下彩蓋付鉢	釉下彩段重	釉下彩鉢・段重蓋	合子蓋	薬盒蓋	合子身	鉢	大鉢	片口鉢	擂鉢	行平蓋	焜炉	火消し壷	徳利	壷（燗付け）	瓶	小瓶
熊本	網田																												
	松尾																												
	八代				1	1	2																						
	小代								2																				
	小代or福岡			9		1													1	1									
	球磨郡																												
	在地？																							3					
九州	肥前	29		49						1			3	3	2				2		1	2				6			6
	波佐見																												
	志田																												
	内野山																										2		
	肥前系				1					14	16	14				24	29	48								2			
	肥前or福岡																												
	上野																												
	薩摩			8																									
	龍門司																												
	九州			13																									
国内	瀬戸美濃																				1								
	関西				1			1																					
	関西系	1	3	2																			1			1			
	信楽																												
	萩																												
	不明				2											1			2						1			1	
外国	ヨーロッパ																											1	
小分類合計点数		30	3	81	5	2	2	1	2	15	16	14	3	3	2	25	29	48	5	1	2	2	1	3	1	8	1	4	6
大分類合計点数		114			7		5			53						102			15							9		10	

第37表　陶磁器類　器種・産地相関集計表ー報告分ー(3)

形態	大分類	壷・甕類				不明壷	灯火具類		暖房具		喫煙具			文房具			土師坏	尿瓶	便槽甕	植木鉢	飴壷	玩具		建物具			轆轤口	不明土製品（焼塩壷蓋？）	窯道具？
	小分類	壷	半胴甕	壷類蓋	小壷類蓋		灯盞	土師坏（油煙付着）	火鉢	手焙り	火入	灰落し	煙管雁首	水滴	インク瓶	パレット？						人形	泥面子	ローゼット	ドアノブ	戸車			
熊本	網田																												
	松尾										5	12																	
	八代											1																	
	小代										2																		
	小代or福岡										1							1											
	球磨郡																												
	在地？					7		1	10								8		4			1	2						
九州	肥前																												
	波佐見																												
	志田																												
	内野山																												
	肥前系									1	13			20		4										4			
	肥前or福岡		1																										
	上野																				1								
	薩摩																												
	龍門司										2																		
	九州			1																									1
国内	瀬戸美濃										1																		
	関西						1																						
	関西系				1		1				1		1									1							
	信楽	1																											
	萩																												
	不明	2																		1					1		2	5	
外国	ヨーロッパ														20									7	9				
小分類合計点数		3	1	1	1	7	2	1	10	1	25	13	1	20	20	4	8	1	4	1	1	2	2	7	10	4	2	5	1
大分類合計点数		6					3		11		39			44								4		21					

瓶の可能性）・塩釉炻器インク瓶などの商品容器、硬質陶器ローゼット・陶器ドアノブなどの建物具がヨーロッパ産陶器であるのは、これらが当時において国産化されていなかったために輸入品に頼らざるを得なかった状況を示すと考えられる。

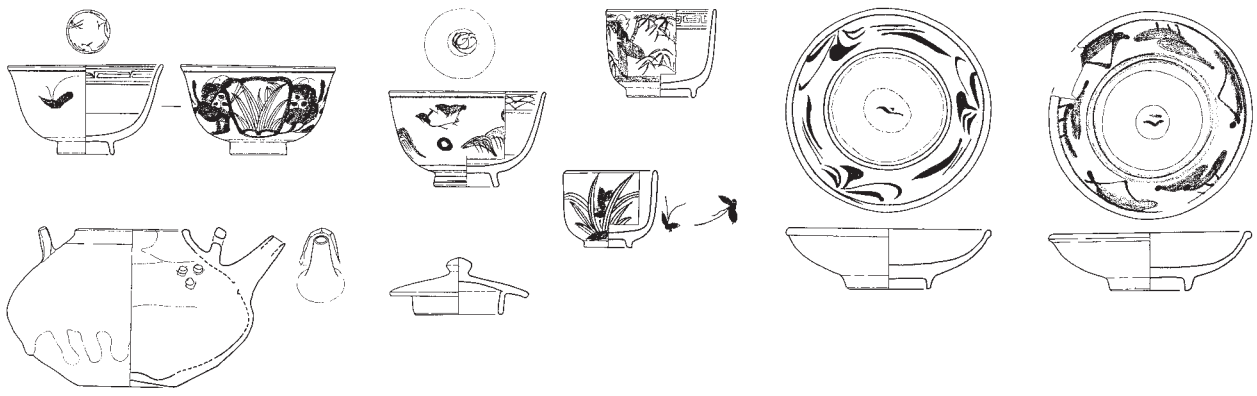
一括購入資料（第425図、第38表）

器形・法量・釉調・文様などが共通する同一形態品が複数点出土することが多いのは、熊本城内における出土陶磁器の様相の特徴である。本調査区においても19世紀代前半～後葉の型式の雑器に同一形態品の複数出土例が多く、これらは藩庁・鎮台期に大量・一括購入されたものと考えられる。

本調査区資料のなかで、特に量化が顕著な同一形態品について区画ごとに出土全点を集計したのが第38表である。染付端反碗（菖蒲・蝶文）は長局御櫓において量化が認められ、これはF68-45グリッドにおいて重ねられた状態で出土するなど、１グリッドから67点が集中していたことが反映している。染付小丸碗（菖蒲・蝶文）は露地において量化が認められ、SKⅢ098など西南戦争後の廃棄土坑群からの出土が多い。なお、出土分布から特別な使用形態が想定されるものはなかった。

第38表　同一形態陶磁器（一括購入資料）集計表

区画（調査位置）	菖蒲・蝶文端反碗	浜千鳥文端反碗	端反碗全体	竹林七賢図湯呑碗	筒状の碗全体	菖蒲・蝶文小丸碗	小丸碗全体	花文四・五寸皿	松・遠山文四・五寸皿	四・五寸皿全体	銅緑釉土瓶	土瓶全体	銅緑釉土瓶蓋	土瓶蓋全体
大広間	4	12	340	82	122	23	145	30	35	663	304	659	24	82
大御台所	4	1	179	6	14	6	47	2		193	184	2209	25	174
大広間と大台所の境		1	7				1	7	5	37	1	1		
御小姓部屋		1	103	9	17	4	25		1	43	19	128	2	7
長之間		6	169	1	15	13	79	27	33	789	287	564	54	99
露地	1	22	349	12	40	93	252		2	209	138	516	7	61
西廊下			26	4	5	8	10			5	34	62	8	9
小広間	35	2	298	35	58	13	180	2	3	157	187	315	25	47
長局御櫓	79	1	206	7	44	5	27			40	66	175	12	23
御天守廊下トレンチ		1	3			1	1							
二様石垣下トレンチ			3			1	1			1	2	17		
月見櫓台所トレンチ			7		1		2			1	15	53		3
その他のトレンチ			8		1					2		1		
合計点数	123	47	1698	156	317	167	770	68	79	2140	1237	4700	157	505



第425図　同一形態陶磁器（一括購入資料）

⑤. 陶磁器の器種組成

器種組成からみた空間利用形態（第426図、第39・40表）

本報告の主体である18世紀末～19世紀代後葉に位置付けられる陶磁器類について、区画ごとに出土全点を対象に定量分析を行なったものが第426図・第40表である。これによれば、他の区画と明らかに器種組成が異なるのが大御台所である。土瓶・火鉢が卓越しており、このことを考慮すると本区画における火鉢は暖房具としてよりも五徳を併用して湯茶などの過熱を行なう調理具としての利用が主であったと考えられる。他の大区画においては供膳具が主体であるが、長之間においては皿、長局御櫓においては碗の卓越が目立つ。長局御櫓については、前項で指摘したようにF68-45グリッドから同形態の肥前系染付端反碗がまとまって出土したことが反映している。一括購入され、保管されていたとみられる事例である。こうした保管資料の事例として、他に長之間における肥前産銅緑釉土瓶の出土が挙げられる。報告資料11点を含む295点がF85-54グリッドに集中しており、これらはいずれも煤の付着が認められないなど未使用品の可能性が高く、大量購入したものを備蓄していた状況が考えられる。

少量の資料でも、空間利用の特異性が表出しているのが小広間におけるインク瓶の出土であり、全36点のうち33点が小広間から出土している。うち、F90-59グリッドにおいて報告点数15点を含む19点が集中していることは、これらが一箇所に保管されていた可能性を示している。

本調査区全体の組成の特徴について、熊本城下における調査事例[16]（第39表）と比較しながら述べる。まず、目に付くのは調理具の比率の低さである。大御台所においては、他の区画に比べれば擂鉢・鉢（練り鉢）の出土が多い傾向は認められるが、ここで常態的に調理が行なわれていた可能性は低いとみられる。一方で土瓶・火鉢は卓越しており、個別に湯茶を使うことが多かったことが窺える。供膳具では、碗蓋が少ないことが挙げられる。飲食に際しては、原則、碗蓋を伴わない食事の形態を採っていなかったのであろう。同様に食事の形態を示すとみられるのが皿の法量である。殆どは四・五寸皿であるが、それに比べて中・大皿（会食用）や小皿（手塩）の比率が極端に低い。以上の他、火入・灰落し（喫煙具）、水滴（文房具）の比率が高い、植木鉢・餌入れ・玩具類などの生活を潤す用具が無い、あるいは極端に少ない。紅皿などの化粧具が無い、といった特徴が挙げられる。灯火具が極少ないことも注視されるが、これはラ

第39表　城下町における陶磁器類の器種組成

大分類	点数	小分類	点数
碗	83	碗	57
		小碗	26
碗蓋	22	碗蓋	22
小坏	14	小坏	14
皿	50	小皿	15
		四・五寸皿	29
		中皿	5
		大皿	1
散蓮華	1	散蓮華	1
土瓶	33	土瓶	17
		土瓶蓋	16
急須	7	急須	1
		急須蓋	6
鉢・蓋物	19	鉢	9
		蓋付鉢	5
		段重	2
		鉢・段重蓋	3

大分類	点数	小分類	点数
酒器	1	徳利	1
調理・厨房具	14	擂鉢	5
		土鍋	1
		行平蓋	1
		焙烙	3
		焜炉	2
		火消し壷	1
		火消し壷蓋	1
灯火具	7	灯火具	3
		ひょうそく	3
		カンテラ	1
瓶類	7	瓶	5
		小瓶	1
		花瓶	1
壷・甕類	5	壷	2
		小壷蓋	1
		半胴甕	2

大分類	点数	小分類	点数
合子	2	合子	2
暖房具	1	火鉢	1
喫煙具	2	火入	1
		灰落し	1
文房具	1	水滴	1
玩具類	7	ミニチュア	7
仏具	2	仏飯	1
		香炉	1
その他	6	紅皿	1
		植木鉢	3
		小形植木鉢	1
		鳥の餌入れ	1

総点数284

※古町遺跡第１次調査報告分のうち、18世紀末～19世紀後葉資料を集計。

第40表　陶磁器類　出土位置別集計表（1）

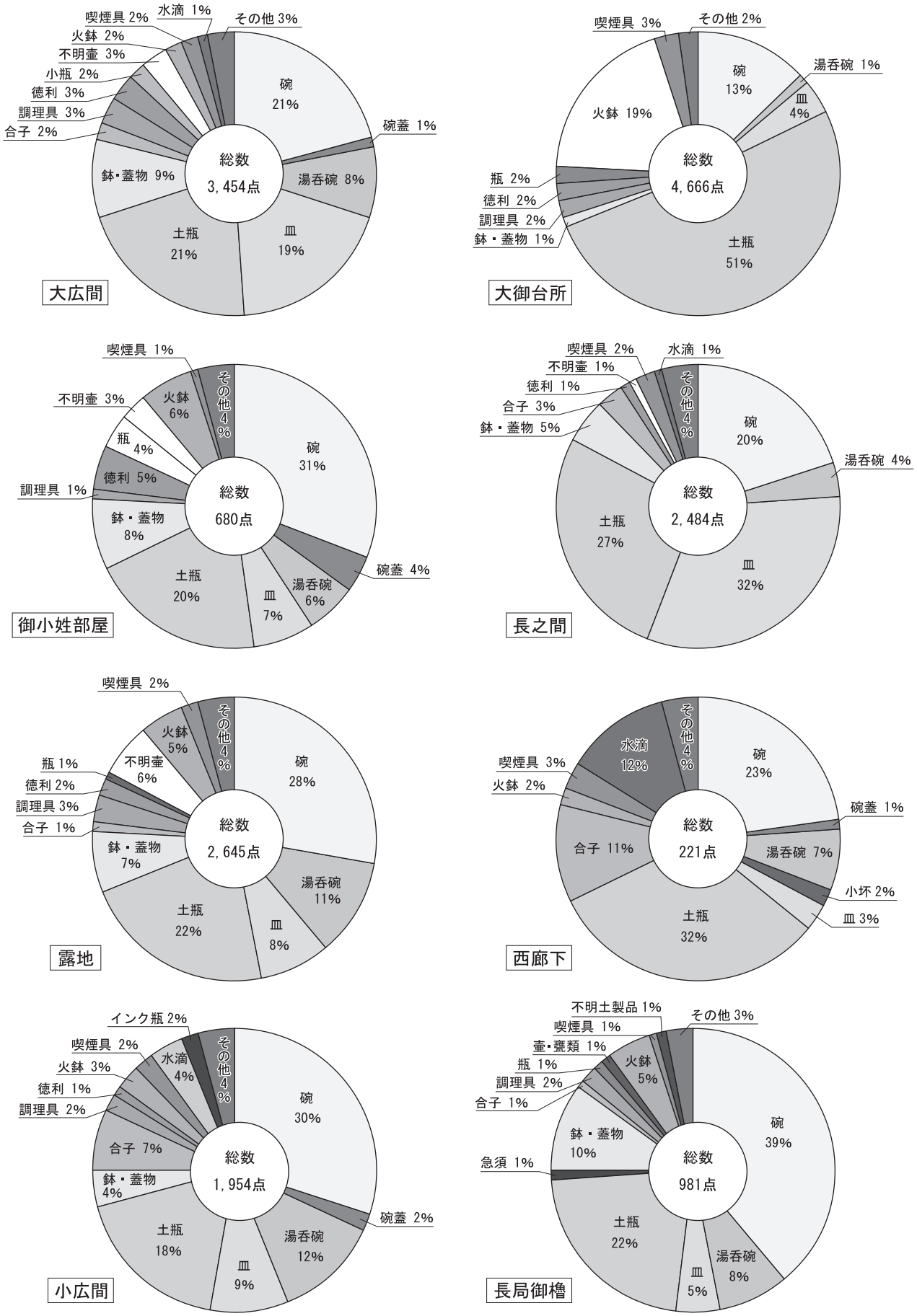
形態（大分類）	碗						碗蓋			湯呑碗		小坏	皿						散蓮華	小水注	焼塩壺	土瓶		急須		茶器		
形態（小分類）	広東碗	端反碗	端反小碗	碗（平形碗含む）	小碗	大碗	広東碗蓋	端反碗蓋	碗蓋	筒形・湯呑碗	小丸碗		皿（四・五寸皿）	小皿・耳皿	脚付小皿	中皿	大皿	硬質陶器大皿				土瓶	土瓶蓋	急須	急須蓋	茶入	水指	風炉
大広間①　※②・③以外	3	250	1	300	2			20	9	82	108	9	640	2		1			1	2		587	72	1				
大広間（九曜乃間・吉野之間）②	1	75		63				4	2	40	36	5	23									67	7	3				
大広間（猿牽之間・数奇屋）③	1	15	1	11				1			1											5	3					
大広間全体	5	340	2	374	2			25	11	122	145	14	663	2		1			1	2		659	82	4				
大御台所	1	179	2	423				13	2	14	47	6	193	2							9	2209	174	2				2
大広間と大御台所の境		7									1		37									1						
御小姓部屋①　※②以外	4	79		80	2			23	2	16	14	4	23	2								107	5	2				
御小姓部屋（膳立之間・台所）②		24		23	1					1	11	1	20	1								21	2					
御小姓部屋全体	4	103		103	3			23	2	17	25	5	43	3								128	7	2				
長之間		169		325				7	4	15	79	7	789	1				1				564	99	12	1	3	1	
露地	6	349		388				16	7	40	252	9	209	6	1							516	61	11				1
西廊下	1	26		23					3	5	10	5	5			1						62	9	1	2			
小広間①　※②以外	2	298		279		1		20	8	55	180	12	157	5		10	1					292	44	6	2		1	
小広間（三階櫓）②				3				4		3												23	3	1				
小広間全体	2	298		282		1		24	8	58	180	12	157	5		10	1					315	47	7	2		1	
長局御櫓	6	206		137	1		1	4		44	27	1	40	1								175	23	7	3			
御天守廊下トレンチ		3		3							1																	
二様石垣下トレンチ	2	3		14							1	1	1									17						
月見櫓台所（トレンチ）		7		35	2					1	2		1									53	3					
その他のトレンチ		8		1						1		1	2									1						
小分類合計	27	1698	4	2108	8	1		112	37	317	770	61	2140	20	1	12	1	1	1	2	9	4700	505	46	8	3	2	3
大分類合計	3846						149			1087			2175									5205		54		8		

第40表　陶磁器類　出土位置別集計表 (2)

形態（大分類）	鉢・蓋物						合子			調理具								酒器		瓶類			壷・甕類				灯明具	
形態（小分類）	鉢	角鉢	蓋付鉢	鉢蓋	段重	鉢・段重蓋	合子蓋	薬盒蓋（烏犀円）	合子身	擂鉢	中・大鉢	片口鉢	土鍋	土鍋蓋	焙烙	焜炉	焜炉目皿	徳利	壷（燗付け）	瓶	塩釉炻器瓶	小瓶	壷・甕	壷	小壷	壷蓋	灯盞	ひょうそく（瓶形）
大広間①　※②・③以外	7	2	70		140	51	13	8	26	18	15	2	28	2	5	18		94	1	4		50	19	1	2	1	3	
大広間（九曜乃間・吉野之間）②			19		19	7	2		5	12	1		1	4		6		6		4		2	1					
大広間（猿牽之間・数奇屋）③							1				1							5				1	1					
大広間全体	7	2	89		159	58	16		31	30	17	2	29	6	5	24		105	1	8		53	21	1	2	1	3	
大御台所	10		8		31	13	4	1	9	18	20		15			13		78		95		5	26		1		1	
大広間と大御台所の境	1		1			1	1																					
御小姓部屋①　※②以外			5		27	10	2		3	9								24		24	1	2	2					
御小姓部屋（膳立之間・台所）②			3		7	5	1							1				11										
御小姓部屋全体			8		34	15	3		3	9				1				35		24	1	2	2					
長之間	4	2	33		50	34	20	18	41	9	6		3	3	1			34		7			4				4	
露地		2	42		95	54	12		15	14	21		19	1	5	7		48		31			19	1	1			
西廊下					1	3	2	3	20														1					
小広間①　※②以外	6		17	1	28	17	26	12	69	8	2		5	9		7	2	22		4	2	5	6		2			
小広間（三階櫓）②					1		9	5	26									2		2		1						
小広間全体	6		17	1	29	17	35	17	95	8	2		5	9		7	2	24		6	2	6	6		2			
長局御櫓	5	1	26		40	13	6		5	8	1					4		7		13			11			1		1
御天守廊下トレンチ						1																						
二様石垣下トレンチ					1	2	1											1		2								
月見櫓台所（トレンチ）		1			1				3	6	2		2					4		1			4					
その他のトレンチ		3			1	1			1	2										1								
小分類合計	33	11	224	1	442	212	100	47	223	104	69	2	73	20	11	55	2	336	1	188	3	66	94	2	6	2	8	1
大分類合計						923			370								336		337			257				104		9

第40表　陶磁器類　出土位置別集計表 (3)

形態（大分類）	不明壷	暖房具				喫煙具			文房具			仏飯	尿瓶	便槽甕	植木鉢		玩具		建物具			不明土製品（焼塩壷蓋？）	鞴羽口	陶器蓋	陶器把手	窯道具？	合計点数
形態（小分類）		火鉢（角）	火鉢（丸）	火鉢（角・丸不明）	手焙り	火入	灰落し	煙管	水滴	インク瓶	パレット？				植木鉢	小植木鉢	人形	泥面子	ローゼット	ドアノブ	戸車						
大広間①　※②・③以外	37	28	29			63	8		36		1		11		1		2		8		3		2	1			2900
大広間（九曜乃間・吉野之間）②	60	5				5	1		9							1				5	2						503
大広間（猿牽之間・数奇屋）③						2	2																				51
大広間全体	97	33	29			70	11		45		1		11		1	1	2		8	5	5		2	1			3454
大御台所	2	26	801	64	1	120			7	1			10	2				1		1			2		1	1	4666
大広間と大御台所の境						1							2														53
御小姓部屋①　※②以外	4	5	11			4			4									1		2			1				504
御小姓部屋（膳立之間・台所）②	17	21	1			3	1																				176
御小姓部屋全体	21	26	12			7	1		4									1		2			1				680
長之間	20	11	10			42	9		39				3														2484
露地	171	25	94			54	1		11	2			22							1	2		1	2			2645
西廊下		2	3			2	4		27																		221
小広間①　※②以外	16	39	18			28	15	2	66	32			1	2					3					1			1846
小広間（三階櫓）②							1		19	1	3																107
小広間全体	16	39	18			28	16	2	85	33	3		1	2					3	1				1			1954
長局御櫓	1	23	17			9	4		4				2				1			3	1	9					892
御天守廊下トレンチ																											8
二様石垣下トレンチ		1	1			2																					50
月見櫓台所（トレンチ）			29			15																		1			173
その他のトレンチ			1		1	3			1			1					1										31
小分類合計	328	186	1015	64	2	353	46	2	223	36	4	1	51	4	2	1	4	2	11	13	8	9	6	5	1	1	17311
大分類合計					1267			401			263					3		6			32						

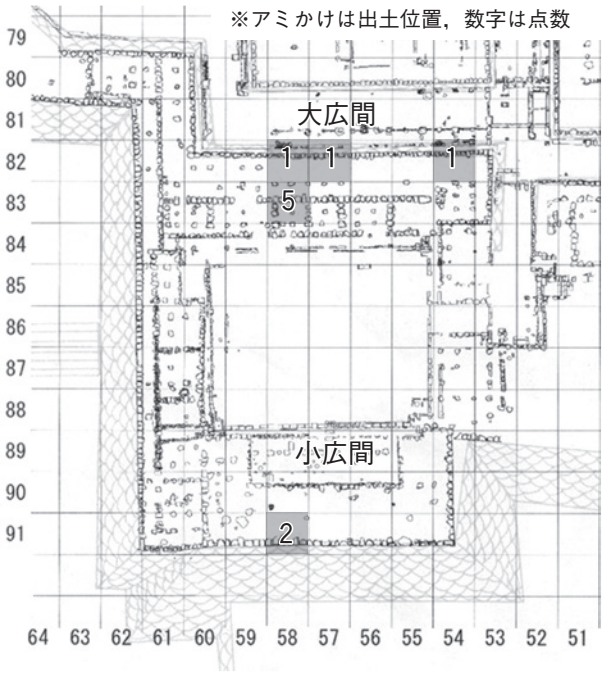


第426図　陶磁器類の大区画別組成

第41表　陶磁器建具一覧表

形態	大区画	出土位置	破片総数	報告№
ローゼット	大広間	SXⅠ004（F82-57）	1	№20
		F82-54	1	№19
		F82-58	1	№206
		F83-58	5	№116～118
	小広間	SXⅡ003（F91-58）	1	
		F91-58	2	№760
ドアノブ	大広間	F77-54	3	№120・207
		F79-53	2	№208
	御小姓部屋	SXⅢ058（F76・77-50）	2	№320
	露地	F87-55	1	№703
	小広間	F89-56	1	№833
	長局御櫓	F70-47	2	№864・929
		F71-47	1	№863

※報告№に下線を引いたものは明らかな二次焼成資料。



第427図　ローゼット出土分布図（縮尺任意）

ンプの普及による可能性がある。以上、陶磁器の定量分析からみた本丸御殿（鎮台本営）の空間利用形態は、日常生活の場ではなく、男性による職場空間であったことが顕著に表れたものといえる。

陶磁器からみた御殿の改変（第427図、第41表）

洋風建築に伴う硬質陶器ローゼット・陶器ドアノブは、鎮台期における御殿の室内改変に関わる資料とみられる。これらは、大量に購入して備蓄しておく類いではなく、必要に応じて入手するものと考えられることから、改変された、あるいは改変が予定されていた可能性を示す資料といえる。鎮台という近代部隊に相応しい装置化が図られたのであろう。

第427図に示したローゼットの出土分布をみると明らかな偏在性が認められ、このことから大広間－小広間を繋ぐ58グリッドライン付近に配線があって、F83-58・F91-58グリッド付近にそれぞれ通信機が設置されていたという可能性を指摘できる。ドアノブは出土分布から取り付けられた位置を想定することは難しい。報告資料についてみるとF89-56グリッド資料（報告№833）を除いては金属軸を装着した痕跡が認められない未使用品である。これらのことから、ドアの取り付けは意図されていたものの、未だ実施には至らなかった、あるいは工事途中で中断されたという可能性が指摘できる。想像を逞しくすれば、ドアの取り付け工事を意図していたものの、薩軍の進攻によりそれどころではなくなり、工事が完成しないうちに明治10年（1877）２月19日の焼失を迎えてしまったという状況を考えることもできよう。

⑥.「白川町とうふや」銘の焼継（第428図）

大広間出土、化学コバルト・型紙摺り施文の磁器染付鉢（報告№22）は、本調査区における数少ない焼継資料である。注目すべきは焼継印で、筆書きにて淡い発色で「白川町口ヵ」改行「とうふや□」（□は「一」ヵ）と記されている。白川町は、現在は使用されていない町名で、熊本城からみて白川の対岸（南岸）沿いに位置し、現在の新屋敷１丁目、明午橋付近にあたる。

第428図　焼継銘「白川町とうふや」

何故、豆腐屋が所持し、修理を発注した焼継銘の陶磁器が存在するのか。その理由を窺わせるのが西南戦争の様子を記録した『熊本籠城談』[17]である。これによれば、籠城

によって食料が枯渇し病人も増えてきた。そのため、「何ら珍しいものを製造さして病人を養はうではないかと云う話が始まり、段々調べて見ると流石に軍隊は廣いから其中豆腐屋の倅が居た、先づ其れには城下の町家から道具を持って來て豆腐を挽かせる…」などの対処をしたという。本資料の出土は、この記述に沿うものであり、籠城戦の一端を窺わせる資料と評価できよう。

ｂ．ガラス製品

ガラス容器の様相

ガラス製品は57点を報告している。多くは19世紀末以降の産品とみられ、出土属性（Ⅲ層出土）や被熱状況・型式等から西南戦争以前と判断できるものは23点である。これには薬瓶・薬瓶共栓・インク瓶・ワイン瓶・洋酒瓶・脚付坏（グラス）がみられる。脚付坏を除いては商品容器であり、恐らくは明治10年（1877）をさほど遡らない時期、すなわち鎮台期の使用品と考えられ、鎮台における必需品（薬品・文房具）、嗜好品（洋酒類）の容器との位置付けができる。西洋輸入品が多く、このことは、当時国産化していなかった製品については、輸入品に頼らざるを得なかった状況を示すと考えられる。

窓ガラスの出土分布からみた御殿の改変

本調査区からは窓ガラス片が多量に出土している。御殿焼失に伴う焼土を多量に含むⅢ層から多量に出土する、被熱したものが多い、建物の縁辺に沿って多く出土する、ガラス窓と炭化した桟がほぼ原形の状態で検出された事例があるなどのことから、焼失以前の鎮台期において本丸御殿は改装され、ガラス窓が取り付けられていたと考えられる。第５章８において詳述したように、以下の場所が想定される。

大広間：西辺（Ｆ81-62～Ｆ84-62グリッド）、座敷「松之間・桐之間・櫻之間」と縁側廊下「椽ヶ輪」の境の仕切り（Ｆ83-60～Ｆ83-57グリッド）。

西廊下：西辺（Ｆ86-62～Ｆ89-62）、東辺（Ｆ85-60～Ｆ88-60）。

小広間：北辺（Ｆ88-55・56・58～60）、南辺（Ｆ91-55・56・59）。なお、小広間の南西側は三階御櫓が存在するが、この箇所においては取り付けていなかった可能性が高い。

ｃ．石製品（第42表）

石製品の出土総数は502点であり、特に石硯（218点）・石筆（223点）の点数が卓越する。出土属性（Ⅲ層出土）や被熱状況から西南戦争以前と判断できる資料も多く、これらのことは、本丸御殿が藩庁・鎮台期において執務空間として利用されていたことを反映するものである。

石硯の卓越性は、当時、公文書が毛筆書きであったことによるものとみられ、大広間・小広間・長之間に多く、これらの場所が主要な事務空間であったと想定される。石硯とセットで使用される磁器製水滴の出土分布についても、石硯の点数と明確に比例するものではないが、同様の傾向を示している（第40表）。

第42表　石製品集計表（1）

	石硯	石硯のうち赤間関銘	石硯？	石筆	石版	印鑑	朱肉入れ（身・蓋）	砥石	砥石（手持ち）	砥石（大・U字）
大広間	103	15	1	9	6	1	2	4		
大御台所	13	3						3		
御小姓部屋	4			2						
長之間	23			9				1		
露地	18	5		1	1			8	1	1
西廊下	11	3		1		1				
小広間	38	8	2	201	2	1		1		
長局御櫓	7	5			1			4	5	
表採	1	1								
合計	218	40	3	223	10	3	2	21	6	1

第42表　石製品集計表 ⑵

	砥石？	碁石（黒）	鋳型	石錘（縄文？）	建築部材（壁材？）	数珠？	不明（滑石）	板状品（滑石）	立方形品（石灰岩）	合計
大広間	1	1			1					129
大御台所			1					1	2	20
御小姓部屋							1			7
長之間										33
露地					1					31
西廊下										13
小広間				1		3	1		1	251
長局御櫓										17
表採										1
合計	1	1	1	1	2	3	2	1	3	502

なお、赤色頁岩製の所謂赤間硯が多く出土しており、これらの刻書銘は全て「赤間関」である。このことは、本調査区出土の赤間硯が一括購入された可能性を、さらには、発注者（恐らくは鎮台であろう）がブランド製品を一括購入する財力を有していたことを示すものといえよう。

石筆は石版とセットで使用され、今日的にいえばメモ書きの用品である。小広間からの出土が圧倒的に多い。特にF90-59グリッドにおいて139点と集中しており、それらの先端部は細く尖った未使用品とみられるものが多い。備蓄資料と捉えられ、主な使用場所の近くに保管されていたものと考えられる。

印章「熊本鎭臺本營之印」（報告№68）は小広間F89-60グリッドⅢ層から出土している。このことから、小広間が鎮台期における上級官の執務室として利用されていた可能性が高いといえる。

ｄ．銭貨（第429図）

報告点数は704点（固着して重なっているために報告№が無いもの27点を含む）で、うち、西南戦争以前の鋳造とみられるものは679点である。内訳は中国銭15点（模鋳銭含む）・寛永通宝（当一文銭）404点・寛永通宝（波銭）３点・慶長通宝３点・仙台通宝３点・天保通宝165点・文久永宝４点・近代銅貨（半銭・一銭・二銭）51点・不明穴銭31点である。

以上のうち、652点（＝679－27）中374点が本丸御殿（鎮台本営）焼失時のものとみられる被熱資料である。このことは、半数以上の銭貨が焼失時に建物内に存在していた可能性が高いことを示している。同時に、当該期において寛永通宝・天保通宝などの江戸期の穴銭が通貨として流通していた状況を反映するものといえる。銭貨がどのような状態で存在していたのか、このことを窺わせるのが以下の事例である。

御小姓部屋SJⅢ025：一括資料である。本丸御殿焼失時に便槽甕内に落ち込んだと考えられる寛永通宝34点が出土しており、うち５点に固着痕が認められる。

大広間F83-54グリッド：15枚が重なって固着した塊りが２個出土している（計30点）。銭種の判るものは寛永通宝である。

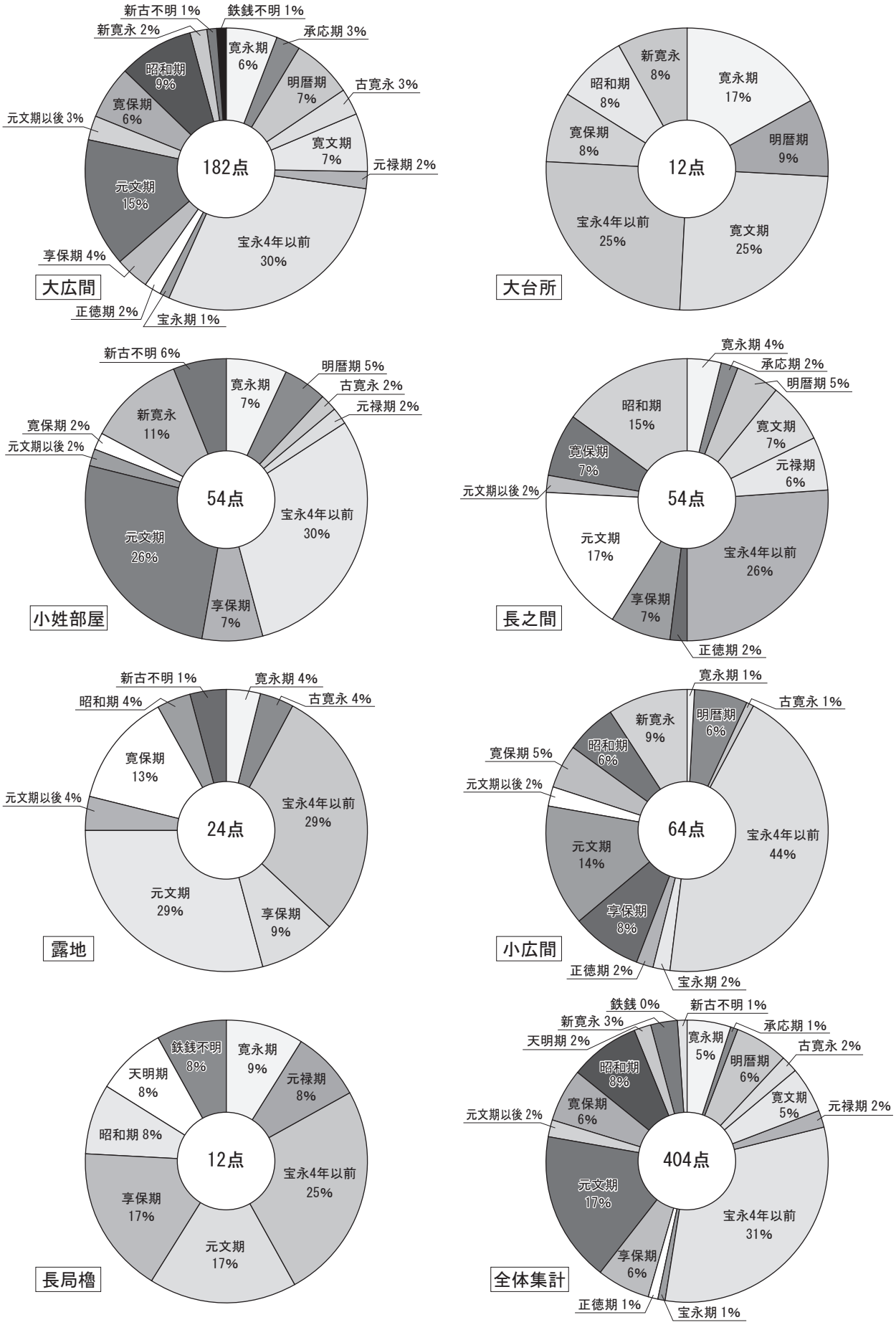
大広間F81-58グリッド：寛永通宝47点が出土しており、うち11点に固着痕が認められる。

長之間F85-54グリッド：寛永通宝46点のほか16点が出土しており、うち18点に固着痕が認められる。

小広間F89-56グリッド：天保通宝53点ほか22点が出土しており，うち26点に固着痕が認められる。

これら一括資料や同グリッドから多量に出土した事例をみると、固着したもの、表面に固着痕が認められるものが注目される。これらは、銭貨が緡で保管されていた可能性を示すものである。

寛永通宝（当一文銭）は404点を報告している。これらの鋳造期別の出土傾向を示したのが第429図である。宝永４年以前（主に元禄期と想定される）～元文期の鋳造銭が最も多く、半数以上を占めている。出土位置（大区画）による明確な偏在性は認められない。これらのことから、鋳造期と本丸御殿（鎮台本営）



第429図　寛永通宝（一文銭）の大区画別時期組成

に持ち込まれた時期の間に時間差があった可能性が高く、さらには持ち込まれた当時の寛永通宝の流通実態が反映されていると考えたい。

天保通宝は、出土総数165点のうち97点が小広間からの出土であり、明確な偏在性が認められる。前述のように、F89-56グリッドに集中して出土しており、近接するグリッドからの出土量も多い。当百文の貨幣価値である天保通宝については、主に小広間において集約的な保管管理が行なわれていた可能性を指摘することができる。

ｆ．近代武器・軍用品

最も注目されるのは、拳銃Smith&Wesson№２（報告№60）・正剣用鐺（報告№63）・時計（報告№82）などの特殊品が小広間から出土していることである。いずれも出土属性から本丸御殿（鎮台本営）焼失以前の資料と判断される。拳銃は将校にのみ所持が認められたものであり、正剣用鐺も明治８年布告により将校以上用とされた形式である。前述した石製印章「熊本鎮臺本營之印」の出土や、当時としては稀少品であったインクの容器（イギリス産塩釉炻器瓶）、当百文価値の天保通宝の偏在・集中などを勘案すれば、小広間は鎮台司令部など管理機能をもった部署空間として利用されていたと考えられる。

軍服関係の部品では、釦・スプリングホックが大広間において偏在する傾向が明らかである。同一グリッドから膨大な点数がまとまって出土した事例もあり、このことは大広間において軍服関係の部品が備蓄保管されていた状況を示している。

他、注目資料として長局御櫓から出土した「武庫」銘を刻む銅製文鎮（報告№80）が挙げられ、これも出土属性から本丸御殿（鎮台本営）焼失以前の資料と判断される。「武庫」の名称は『熊本鎮臺戰闘日記』[18]に記載があり、そのなかの「武庫日記」は武器を管理する部署の日誌、「武庫主管」はその役職名を表すと考えられる。長局御櫓御は、鎮台期において「武庫」という部署が管理する空間であったとみられ、このことは、刀剣類がまとまって出土した事例や小銃部品や銃剣部品が偏在することからも証左される。

ｇ．出土品からみた本丸御殿の焼失（第43表）

明治10年（1877）２月19日、本丸御殿（鎮台本営）は焼失する。出火原因は不明で、発掘調査時に検出された建築材の被熱状況を熊本市消防局職員に実地検分していただいたが、原因究明の手掛かりとなる火元の特定はできなかった。本項において、報告資料（19世紀後葉以前）の被熱状況から火元の特定を試みることとする。第43表は、焼失による被熱資料点数とその比率を大区画ごとに集計したものである。これによれば小広間において被熱資料が多く、また、塩釉炻炻器インク瓶・天保通宝における溶融物の顕著な付着などにみられるように被熱の影響が著しいものが目立つ。小広間が火元である可能性が極めて高い。

出火原因については、従来、失火・薩軍による放火・鎮台による自焼の三説があった。富田紘一氏の最新の成果によれば、自焼の可能性が最も高いという[19]。氏は、児玉源太郎参謀による口述書記など、焼失当時の状況を記した史料に事実と異なる多くの疑義があることを指摘し、これが出火原因を隠蔽する意図

第43表　比熱資料集計表

	陶磁器			石製品			ガラス製品			銭　貨		
大区画	総点数	被熱点数	率（%）	総点数	被熱点数	率（%）	総点数	被熱点数	率（%）	総点数	被熱点数	率（%）
大広間	221	33	14.9	21	7	33.3	8	6	75.0	258	150	58.1
大御台所	73	3	0.04	4	2	50.0				14	8	57.1
御小姓部屋	60	11	18.3	2	0	0.0				58	38	65.5
長之間	151	29	19.2	4	3	75.0	1	1	100.0	72	27	37.5
露地	179	9	0.05	6	0	0.0	2	2	100.0	33	5	15.2
西廊下	26	8	30.8	2	1	50.0				16	4	25.0
小広間	103	67	65.0	29	22	75.9	3	3	100.0	187	137	73.2
長局御櫓	98	20	20.4	8	5	62.5	9	9	100.0	14	5	35.7
合計／率（%）	911	180	19.6	76	40	52.6	23	21	91.3	652	374	57.4

によるものと考察している。自焼の理由は、籠城戦に際して薩軍からの砲撃目標を除くことにあり、その作戦の立案は、谷干城司令長官・樺山資紀参謀長らが中心となり、作戦の現地指揮は児玉源太郎参謀によるものであったろうと想定している。

出土品の様相から小広間を火元とする見解は、富田氏の論を補強するものといえる。本節ｃ・ｆ項にて前述のように小広間は鎮台司令部が置かれた空間であったと考えられる。児玉源太郎参謀が、恐らくは隠密裏に作戦を指揮するのに格好の場所といえよう。一方、陶磁器類の器種組成にみられるように特に火を使用する場、すなわち失火の可能性が高い場ではなかったこと、さらには、薩軍が放火をするにしても、鎮台本営のなかで最も奥まった小広間まで侵入するのは困難であり、また、その必要も無かったのではないかと考えられることも傍証として指摘しておく。

〔註〕

1）渡辺芳郎「鹿児島における窯業の近代化－その考古学的アプローチのための素描－」『鹿児島考古第44号』鹿児島県考古学会　2014

2）熊本城下、横手において実施された熊本県による工事立会調査出土資料を実見させていただいた。

3）網田焼については藩窯期における優品の紹介はあるものの、本報告資料のような量産品については断片的な報告に留まっている。

4）福原　透「肥後磁器史概説」『平成18年度秋季特別展覧会　八代の野歴史と文化16　肥後の磁器－その歴史と系譜－』八代市立博物館未来の森ミュージアム　2006

5）宇土市教育委員会のご厚意により実見の機会を得た。

6）本田秀人「肥後細川藩における御用窯について－松尾焼を中心に－」『熊本史学　第53号』熊本史学会　1979

7）松尾焼の同定に際しては福原　透氏のご教示を得た。

8）小川　望「『烏犀圓』の銘をもつ合子蓋と商標・薬名」『江戸遺跡研究会編　江戸時代の名産品と商標』吉川弘文館　2011ほか

9）渡辺芳郎氏のご教示によれば、他に鹿児島市内遺跡において未発表事例１点があるという。

10）前田信孝「近代公衆衛生行政の出発」『新熊本市史　通史編第五巻　近代Ⅰ』熊本市　2001

11）同定については佐賀県立九州陶磁文化館よりご教示をいただいた。

12）鈴田由紀夫「明治陶芸の美　釉下彩の世界　シリーズ２肥前編」『小さな蕾　2007　8月号』創樹社美術出版　2007

13）岡　泰正「出島・食卓の情景－平成9・10年度の発掘におけるヨーロッパ陶器・ガラス器をめぐって－」『国指定史跡　出島和蘭商館跡』長崎市教育委員会　2002ほか

14）東京都埋蔵文化財センター『東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集　汐留遺跡Ⅲ－旧汐留貨物駅跡地内の調査－　第6分冊』2003
報告者の石崎俊哉氏のご教示によれば、当該資料には銘はなかったものの、胎土・釉調が一致する他の瓶類の商標がイギリス製を示すものであったことを重視し、産地を同定したとのことである。

15）下記文献を参照し、熊本における電信開通時期を想定している。
大塚虎之助「熊本城と電信（一）」『熊本城　第五十四号』熊本城顕彰会　2004

16）美濃口雅朗「熊本市古町遺跡出土の陶磁器組成について」『江戸後期における庶民向け陶磁器の生産と流通』九州近世陶磁学会　2006

17）児玉源太郎口述『熊本城籠城談』1900

18）日本史籍協会『熊本鎮臺戦闘日記』東京大学出版会　1977

19）富田紘一「熊本城炎上の謎を探る」『熊本城　復刊第百号　記念号』熊本城顕彰会　2015

3．本丸御殿の建築史的評価

熊本城の本丸御殿は、慶長15年（1610）に清正が大広間の工事完了について指示しており、完成に近づいていたとみられている。その御殿も、明治10年（1877）に天守などとともに焼失した。幸い、石垣による区画の遺構と江戸時代の詳細な指図「御城内御絵図」、史料､焼失前に撮られた写真が残り、建築形態の概要が知られてきた。発掘調査によってもたらされた成果を合わせてその形態について述べる。

予め、熊本城本丸における本丸御殿の位置づけを見ておきたい。本丸御殿は、藩主の住居部分であって対面・接客がここで行われる。熊本城の場合、慶長17年（1612）以降に加えたとされる小天守にも床・付書院を設けた座敷があって、同様の機能を果たしうる構成になっている。天守にも座敷を設けるのは先行する岡山城天守にも見られ、古式とされる。降って寛永年間に細川氏は、藩主の居住空間を不便な本丸御殿から清正が築いていた花畑屋敷に移し、本丸御殿は儀式的使用に留めたとみられ、藩主の日常的居住空間としての役割は終えている。

まず、指図の内容と発掘で判明した礎石の配置との整合から、本丸御殿の諸建物の配置構成に触れる。本丸御殿は、大広間棟を中心に麒麟之間・長之間、小広間、三階御櫓、西廊下の建物を石垣に沿って回らし、中を露地とする建物群の平面的な配置構成、高石垣の上に載る立面構成に特徴がある。そして、東には大御台所・御膳立之間などを連続させている。なお、大広間棟の北背後には吉野之間・松之間・御居間などを配したが、多くは対象地ではないので発掘の資料は得られていない。

中心となる大広間は東西に長い平面で、階下の式台から上がると式台之間で、西に鶴之間、そして梅之間・桜之間・桐之間・若松之間と１列に並び、矩に上段である昭君之間を配し、２列目は昭君之間の脇に帳台之御間・御家老間・雪之間、さらに昭君之間の背後に団扇間・蘇鉄之間を配置している。昭君之間まで鉤の手に諸室が並ぶ平面構成は、慶長13年の奥書を持つ木割書『匠明』が示す「当世主殿」の平面と同様で、最も主要な部分である。また、慶長19年には完成していた名古屋城本丸御殿の表書院（広間）も奥の上段之間に至るまでの平面構成は同じ形式である。ただ、熊本城の大広間の場合、式台から対面のための諸室、内向きの部屋までが、機能ごとの建物に分化せず、一つの建物に収めて長い建物になっている。この点にも特徴がある。

立体的な構成では、本丸御殿地下に東西桁行方向に途中折れ曲がる闇り通路を通していることが、独自である。調査では、ここに焼け落ちた部材があり、梁など建築部材を見いだしている。上階に当たる大広間の雪之間・御家老間・帳台之御間・団扇間の部材も焼け落ちたであろう。この通路に平行して式台を設けて大広間への入口とし、階段を上がって上の式台之間に至る縦の構成は類例がない。

各建物の基準柱間寸法としては、大広間、大御台所、麒麟之間・長之間における礎石の配置から６尺５寸が導かれた。『匠明』の当世主殿、慶長19年の名古屋城本丸御殿表書院の場合でも柱間は異なるが、基準柱間寸法としては同じ６尺５寸を用いている。さらに、木割の基準になる柱の太さが、長之間の礎石に柱のあたりがあって７寸５分と検出されたことも、具体性を高めている。

熊本城本丸御殿は、発掘調査によって熊本城の指図である「御城内御絵図」に示された平面と整合し、改めて実体として確かめられた。建築群の構成では、寛永年間には江戸城・大坂城などの本丸御殿は広い郭内に大広間・白書院の２棟を基に機能を分化した殿舎群の構成を整えたが、熊本城本丸御殿では大広間に式台から対面まで建物ごとに分けずに留め、従前の状態を継承している。高い石垣の上に載り、露地を囲んだ建築群で、地下に闇り通路を通し、そこから昇るなど立体的な特徴ある形態は、清正による独自なもので、守備的な傾向を色濃く留めている。武家住宅は、寛永年間に装飾化されるが、それ以前慶長年間の遺構は、わずかに名古屋城本丸御殿表書院が第2次大戦で焼失するまで残っていただけであった。調査によって具体像が確かになってきた熊本城本丸御殿の姿は、大広間建築後しばらくして大台所が加えられた可能性があるが、慶長年間における城郭の本丸御殿の様相を残し、独自な点を併せて貴重と言える。

熊本城調査研究センター報告書　第2集

熊本城跡発掘調査報告書2

－本丸御殿の調査－

第2分冊

2016年3月

発行　熊本市熊本城調査研究センター
〒860－0007　熊本市中央区古京町1－1
TEL（096）355－2327
印刷　コロニー印刷
〒860－0051　熊本市西区二本木3丁目12-37
TEL（096）353－1293